

一般国道409号(木更津工区) 埋蔵文化財調査報告書

—木更津市菅生遺跡・祝崎古墳群—

平成10年3月

千葉県土木部

財団法人 千葉県文化財センター

一般国道409号(木更津工区) 埋蔵文化財調査報告書

きさらづ すごう いわいぎき
—木更津市菅生遺跡・祝崎古墳群—



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第337集として、千葉県土木部の国道409号建設事業に伴って実施した木更津市菅生遺跡・同市祝崎古墳群の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、弥生時代から中世に至る水田跡や弥生時代の集落、古墳及び近世の塚等が出土するなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また文化財保護やその普及のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係諸機関、また、発掘調査から整理作業にいたるまで御労苦をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成10年3月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 中村好成

凡 例

- 1 本書は、千葉県土木部による一般国道409号国道道路改築工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書には、以下の遺跡を収録した。
菅生遺跡 千葉県木更津市菅生字長町510-7ほか（遺跡コード 206-009）
祝崎古墳群 千葉県木更津市菅生字咲美472ほか（遺跡コード 206-013）
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受けた財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 現地での発掘調査は、菅生遺跡が平成4年度から平成7年度、祝崎古墳群が平成8年度、整理作業は菅生遺跡が平成7年度～平成8年度、祝崎古墳群は平成9年度に実施した。担当者及び調査期間は本文に記載した。
- 5 本書の執筆は、研究員土屋治雄が第3章、第4章第2節、技師城田義友が第1章、第2章、第4章第1節を担当した。
- 6 中世の陶磁器の鑑定に当たっては、国立歴史民俗博物館助教授小野正敏氏から御指導、御教示を得た。また、土壌の自然科学分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
- 7 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県君津幹線道路建設事務所、木更津市教育委員会、國學院大學日本文化研究所教授 相山林繼氏、立命館大学教授 高橋学氏、千葉県立上総博物館学芸員 小高春雄氏の御指導・御協力を得た。
- 8 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第2図 国土地理院発行 1/25,000地形図「木更津」(N1-54-25-4-2)
第3図 木更津市役所発行 1/2,500 都市計画図 (IX-LE23-1、IX-LE-23-3)
- 9 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 10 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 11 遺物の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』を使用し、その用例に従った。
- 12 スクリーントーン及び記号の用例は、それぞれに明示してある。

本文目次

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

- 1 調査に至る経緯 1
- 2 調査の経過 1

第2節 遺跡の位置と環境

- 1 遺跡の位置と地理的環境 2
- 2 周辺の遺跡と歴史的環境 2

第2章 営生遺跡

第1節 調査の方法 7

第2節 確認調査とその成果

1 確認調査の視点と方法

- (1) 確認調査の視点 7
- (2) 確認調査の方法 7

2 確認調査の成果

(1) 「上層」確認調査の成果

- ① 北西トレンチ 10
- ② 北東トレンチ 15
- ③ 南西トレンチ 16
- ④ 南東トレンチ 18

(2) 「下層」確認調査の成果

- ① 土層の堆積状況 20
- ② 遺物 21

第3節 検出した遺構と遺物

1 弥生時代後期～古墳時代前期の遺構と遺物

(1) 遺構

- ① 水田跡 22
- ② 水路 29

(2) 遺物

- ① 弥生土器 29

2 奈良・平安時代～古墳時代中期の遺構と遺物

(1) 遺構

- ① 土坑 33
- ② ピット群 36
- ③ 水田跡 37

(2) 遺物	
① 遺構出土遺物	49
② 土師器	51
③ 須恵器・灰釉陶器	68
④ 瓦	95
3 中世の遺構と遺物	
(1) 遺構	
① 溝状遺構	97
② 水田跡	97
(2) 遺物	
① 輸入陶磁器	107
② 国産陶器	113
③ 土師質土器	125
④ 銭貨	131
⑤ 砥石	137
第3章 祝崎古墳群	
第1節 調査の方法	141
第2節 調査の成果	
1 調査成果の概要	141
2 検出された遺構と遺物	
(1) 祝崎4号墳	141
(2) 竪穴住居跡	147
(3) 塚	150
(4) 遺構外出土遺物	154
第4章 まとめ	
第1節 菅生遺跡	
1 弥生時代後期～古墳時代前期	156
2 古墳時代中期～古代	156
3 中世	157
第2節 祝崎古墳群	
1 弥生時代の竪穴住居跡について	157
2 祝崎4号墳について	158
付章 菅生遺跡の古環境変遷と稲作の消長（パリノ・サーヴェイ株式会社）	159
計測表凡例	193
報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 菅生遺跡・祝崎古墳群と周辺の遺跡 …… 3	第36図 出土遺物実測図(7)土師器(甕類)① … 62
第2図 菅生遺跡・祝崎古墳群の周辺の地形 …… 6	第37図 出土遺物実測図(8)土師器(甕類)② … 65
第3図 調査区割図、グリッド設定図 …… 8	第38図 出土遺物分布図(3)土師器(甕類) …… 67
第4図 上層確認トレンチ配置図 …… 9	第39図 出土遺物実測図(9)須恵器(杯類)① … 69
第5図 北西トレンチ検出状況 …… 12	第40図 出土遺物実測図(10)須恵器(杯類)② … 73
第6図 北西トレンチ土層断面図 …… 13	第41図 出土遺物実測図(11)須恵器(杯類)③ … 79
第7図 北東トレンチ検出状況 …… 14	第42図 出土遺物分布図(4)須恵器(杯類) …… 81
第8図 北東トレンチ土層断面図 …… 14	第43図 出土遺物実測図(12)須恵器(甕・瓶子)① … 84
第9図 南西トレンチ検出状況 …… 17	第44図 出土遺物実測図(13)須恵器(甕・瓶子)② … 89
第10図 南西トレンチ土層断面図① …… 17	第45図 出土遺物実測図(14)須恵器(甕・瓶子)③ … 91
第11図 南西トレンチ土層断面図② …… 18	第46図 出土遺物実測図(15)須恵器(甕・瓶子)④ … 92
第12図 南東トレンチ検出状況 …… 19	第47図 出土遺物分布図(5)須恵器(甕・瓶子) …… 94
第13図 南東トレンチ土層断面図 …… 19	第48図 出土遺物実測図(16)瓦 …… 96
第14図 下層確認グリッド配置図 …… 20	第49図 A西区中世溝状遺構群 …… 98
第15図 下層確認グリッド土層柱状図 …… 21	第50図 第5水田面全体図 …… 100
第16図 第7・第8水田面全体図 …… 23	第51図 第5水田面平面図(A区・B区) …… 101
第17図 第7・第8水田面拡大図① …… 25	第52図 第5水田面平面図(C区・E区) …… 103
第18図 第7・第8水田面拡大図② …… 26	第53図 A区・B区鋤痕跡平面図 …… 105
第19図 第7水田面拡大図③ …… 27	第54図 B区ウシ足跡平面図 …… 106
第20図 第7水田面拡大図④ …… 28	第55図 出土遺物実測図(17)輸入陶磁器① …… 108
第21図 出土遺物実測図(1)弥生土器 …… 30	第56図 出土遺物実測図(18)輸入陶磁器② …… 110
第22図 A区6層上面検出土坑群位置図 …… 33	第57図 出土遺物分布図(6)輸入陶磁器 …… 112
第23図 A区土坑群平面図・断面図 …… 35	第58図 出土遺物実測図(19)国産陶器① …… 115
第24図 E区ピット群平面図・断面図 …… 36	第59図 出土遺物実測図(20)国産陶器② …… 118
第25図 第6水田面全体図 …… 38	第60図 出土遺物実測図(21)国産陶器③ …… 120
第26図 第6水田面平面図(A区・B区) …… 40	第61図 出土遺物実測図(22)国産陶器④ …… 122
第27図 第6水田面平面図(C区) …… 42	第62図 出土遺物実測図(23)土師質土器 …… 127
第28図 第6水田面平面図(D区～G区) …… 48	第63図 出土遺物分布図(7)土師質土器 …… 129
第29図 出土遺物実測図(2)遺構出土遺物 …… 50	第64図 出土遺物拓影(1)銭貨① …… 133
第30図 出土遺物実測図(3)土師器(杯類)① … 52	第65図 出土遺物拓影(2)銭貨② …… 134
第31図 出土遺物実測図(4)土師器(杯類)② … 54	第66図 出土遺物拓影(3)銭貨③ …… 135
第32図 出土遺物分布図(1)土師器(杯類)① … 56	第67図 出土遺物分布図(8)銭貨 …… 136
第33図 出土遺物実測図(5)土師器(杯類)③ … 58	第68図 出土遺物実測図(24)砥石① …… 139
第34図 出土遺物分布図(2)土師器(杯類)② … 59	第69図 出土遺物実測図(25)砥石② …… 140
第35図 出土遺物実測図(6)土師器(高杯) …… 61	第70図 祝崎古墳群遺構配置図 …… 142

第71図 祝崎4号墳墳丘測量図(調査前) ……	143	第80図 出土遺物拓影(5)2号塚 ……	153
第72図 祝崎4号墳墳丘測量図(調査後) ……	144	第81図 3号塚平面図・土層断面図 ……	154
第73図 出土遺物実測図(26)祝崎4号墳 ……	144	第82図 出土遺物実測図(28) ……	155
第74図 祝崎4号墳墳丘断面図 ……	145	第83図 分析試料採取層位 ……	160
第75図 1号竪穴住居跡平面図・断面図 ……	148	第84図 第1地点の珪藻化石層位分布図 ……	163
第76図 出土遺物実測図(27)1号竪穴住居跡 ……	149	第85図 第2地点の珪藻化石層位分布図 ……	167
第77図 1号塚実測図 ……	151	第86図 第1地点の植物珪酸体層位分布図 ……	173
第78図 出土遺物拓影(4)1号塚 ……	151	第87図 第2地点の植物珪酸体層位分布図 ……	174
第79図 2号塚実測図 ……	153		

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧 ……	4	第12表 水田区画計測表(第5水田面) ……	192
第2表 上層確認トレンチ層厚一覧 ……	11	第13表 遺物計測表(1)土師器(杯類) ……	194
第3表 珪藻化石の生態性 ……	161	第14表 遺物計測表(2)土師器(甕類) ……	200
第4表 珪藻化石分析結果(第1地点) ……	164	第15表 遺物計測表(3)須恵器(杯類) ……	202
第5表 珪藻化石分析結果(第2地点) ……	168	第16表 遺物計測表(4)須恵器(甕・瓶子) ……	208
第6表 花粉分析結果(第1地点) ……	171	第17表 遺物計測表(5)輸入陶磁器 ……	214
第7表 花粉分析結果(第2地点) ……	172	第18表 遺物計測表(6)国産陶器(皿・碗) ……	216
第8表 植物珪酸体分析結果(第1地点) ……	175	第19表 遺物計測表(7)国産陶器(甕・瓶子) ……	218
第9表 植物珪酸体分析結果(第2地点) ……	176	第20表 遺物計測表(8)国産陶器(鉢類) ……	220
第10表 水田区画計測表(第7水田面) ……	179	第21表 遺物計測表(9)土師質土器 ……	222
第11表 水田区画計測表(第6水田面) ……	188	第22表 遺物計測表(10)銭貨 ……	224

図版目次

図版1 周辺地形航空写真(昭和42年撮影)	図版9 B区ウシ足跡、G区鋤の痕跡、B区ヒト足跡
図版2 調査前遠景、調査区全景	
図版3 調査前遠景	図版10 E区古代ピット群、A西区中世溝状遺構
図版4 A区第8水田面全景・B区第7水田面全景	図版11 菅生遺跡出土遺物1(弥生土器)
図版5 B区弥生時代～古墳時代前期水田面全景	図版12 菅生遺跡出土遺物2(土師器:杯類)①
図版6 A区第7水田面	図版13 菅生遺跡出土遺物3(土師器:杯類)②
図版7 土坑群(1号・2号・5号・9号・10号)	図版14 菅生遺跡出土遺物4(土師器:杯類)③
図版8 古代～古墳時代中期水田面(第6水田面)	図版15 菅生遺跡出土遺物5(土師器:甕類)①

- 図版16 菅生遺跡出土遺物6 (土師器：甕類) ②
 図版17 菅生遺跡出土遺物7 (須恵器：杯類) ①
 図版18 菅生遺跡出土遺物8 (須恵器：杯類) ②
 図版19 菅生遺跡出土遺物9 (須恵器：杯類) ③
 図版20 菅生遺跡出土遺物10 (須恵器：甕・瓶子) ①
 図版21 菅生遺跡出土遺物11 (須恵器：甕・瓶子) ②
 図版22 菅生遺跡出土遺物12 (須恵器：甕・瓶子) ③
 図版23 菅生遺跡出土遺物13 (須恵器：甕・瓶子) ④
 図版24 菅生遺跡出土遺物14 (瓦、遺構出土遺物)
 図版25 菅生遺跡出土遺物15 (輸入陶磁器)
 図版26 菅生遺跡出土遺物16 (国産陶器) ①
 図版27 菅生遺跡出土遺物17 (国産陶器) ②
 図版28 菅生遺跡出土遺物18 (国産陶器) ③
 図版29 菅生遺跡出土遺物19 (土師器質土器)
 図版30 菅生遺跡出土遺物20 (錢貨)
 図版31 菅生遺跡出土遺物21 (砥石)
 図版32 祝崎古墳群遠景
 図版33 調査前空中写真、調査後空中写真、4号墳調査前全景
 図版34 4号墳調査前全景、4号墳調査後全景、4号墳調査後空中写真
 図版35 4号墳南側周溝断面、4号墳東側覆土断面、4号墳北側覆土断面
 図版36 4号墳西側覆土断面、4号墳刀子出土状況、4号墳盛土除去後全景
 図版37 1号竪穴住居跡全景、塚調査前全景、1号塚調査前全景
 図版38 1号塚調査後全景、1号塚南北断面、1号塚石検出状況
 図版39 2号塚調査前全景、2号塚調査後全景、2号塚南北断面
 図版40 3号塚調査前全景、3号塚調査後全景、3号塚東西断面
 図版41 出土遺物
 図版42 1号竪穴住居跡出土遺物
 図版43・図版44 珪藻化石
 図版45・図版46 花粉化石
 図版47 植物珪酸体

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1. 調査に至る経緯

千葉県半島性解消のために計画された東京湾横断道（一般国道409号木更津工区）の建設に伴って千葉県土木部より千葉県教育委員会に対し、計画対象地内の埋蔵文化財所在の有無について照会がなされた。現地踏査の結果、対象地内に埋蔵文化財の所在が確認されたため、その取扱いについて協議が重ねられた結果、記録保存の措置を講ずることとなった。発掘調査は千葉県教育委員会の委託を受けた財団法人千葉県文化財センターが実施することになり、菅生遺跡については平成4年4月、祝崎古墳群については平成8年4月に千葉県土木部との間に発掘調査委託契約が締結された。

2. 調査の経過

菅生遺跡の発掘調査は、平成4年6月より対象面積20,200㎡のうち上層2,020㎡の確認調査から行なった。その結果、対象地内のほぼ全域にわたって遺構と遺物を検出したため、そのうちの20,200㎡について本調査を実施することになった。下層については遺構・遺物ともに出土しなかったため、本調査は実施せず地形成立要因の把握につとめた。確認調査の終了は平成4年9月である。当初本調査は確認調査が終了した後、平成5年度末に終了する予定であったが、工事の施工工程の関係で、本調査範囲をA区からG区に分割し（第1図）、平成7年8月まで断続的に実施された。

祝崎古墳群の調査対象は古墳1基、塚3基である。調査区の現況は山林であり、土砂採取等により西側と南側の斜面が絶壁になっていたため調査区への進入が困難な状況であった。このため事前に単管パイプによる仮設階段の設置および樹木の伐採、併せて調査区の現状の地形測量を行い、平成8年7月より本調査を開始、同9月に現地での調査を完了した。

菅生遺跡の整理作業は平成7年度と平成8年度に実施し、祝崎古墳群の整理作業と、本報告書の刊行を平成9年度に行なった。発掘調査および整理作業に関わる各年度の組織、担当職員及び作業内容は以下のとおりである。

- | | | |
|-------|----|-------------------------------------|
| 平成4年度 | 組織 | 調査部長 天野努、部長補佐 深澤克友 |
| | 期間 | 平成4年6月1日～平成5年3月29日（菅生遺跡、確認・本調査A・B区） |
| | 担当 | 主任技師 加藤正信・笹生衛・福田誠、技師 高梨俊夫・神野信・四柳隆 |
| 平成5年度 | 組織 | 調査研究部長 高木博彦、市原調査事務所長 石田廣美 |
| | 期間 | 平成6年2月1日～平成6年3月28日 |
| | 担当 | 技師 高梨俊夫（菅生遺跡、本調査C・D区） |
| 平成6年度 | 組織 | 調査研究部長 西山太郎、市原調査事務所長 石田廣美 |
| | 期間 | 平成6年4月1日～平成6年4月28日 |
| | 担当 | 技師 高梨俊夫（菅生遺跡、本調査E区） |
| | 期間 | 平成7年1月9日～平成7年3月28日 |
| | 担当 | 主任技師 森本和男（菅生遺跡、本調査F区、道路南側確認） |
| 平成7年度 | 組織 | 調査研究部長 西山太郎、市原調査事務所長 森尚登 |

	期間	平成7年7月3日～平成7年8月17日
	担当	技師 城田義友（菅生遺跡、本調査G区）
	担当	技師 半澤幹雄・城田義友・永塚俊司（菅生遺跡、水洗～実測の一部まで）
平成8年度	組織	調査部長 西山太郎、南部調査事務所長 高田博
	担当	研究員 土屋治雄（祝崎古墳群、本調査）
	担当	技師 城田義友（菅生遺跡、実測から原稿執筆まで）
平成9年度	組織	調査部長 西山太郎、南部調査事務所長 高田博
	担当	研究員 土屋治雄（祝崎古墳群、水洗～刊行・菅生遺跡、刊行）

第2節 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置と地理的環境（第2図）

菅生遺跡と祝崎古墳群は、君津市南部に水源を発し東京湾に注ぐ2級河川、小櫃川の下流域左岸に位置する。現在の海岸線からの直線距離は約4kmである。小櫃川の下流域に広がる沖積平野には、現海岸線から大きく分けて3条の海岸砂堆列があり、それぞれ現海岸から第3砂堆列～第1砂堆列と呼称される。それぞれ成立時期は第3砂堆列が古代後半～中世、第2砂堆列が古墳時代、第1砂堆列が縄文時代晩期～弥生時代初頭であると考えられている¹⁾。菅生遺跡はこのうちの第1砂堆列南部およびその前後の後背湿地に立地しており、かつて菅生遺跡調査会が調査を実施した地点および菅生第2遺跡として調査された部分は第1砂堆列上に位置し、今回の調査区域はその前面、標高は7m～9mの湿地帯にあたる。その南側の台地の痩せ尾根上に祝崎古墳群は立地し、標高は40m前後、菅生遺跡との比高差は35m程度である。

2. 周辺の遺跡と歴史的環境

この地域には、菅生遺跡・祝崎古墳群とほぼ同時期と考えられるいくつかの遺跡の所在が確認されている。まず弥生時代では菅生遺跡調査会が調査した地点（1-2・2、文献1・2）のほか、高千穂古墳群(7)、後場遺跡(10)、住吉遺跡(16)、清水谷遺跡(18)があるが、調査例があるのは高千穂古墳群および清水谷遺跡である。高千穂古墳群は昭和56年度、59年度、60年度に財団法人君津郡市文化財センターが、清水谷遺跡は清水谷遺跡発掘調査団が昭和49年度、50年度にそれぞれ調査しているが、前者では後期前葉～後期中葉の集落を、後者では中期後半の住居跡を検出している。なお第1図には掲載できなかったが、菅生遺跡の東1.5kmの小櫃川右岸沖積平野上には県内で初めて弥生時代の水田跡を検出した芝野遺跡（昭和62年度当センター調査・未報告）が、本遺跡の北4kmの小櫃川対岸の台地上には弥生時代中期後半～後期中葉にかけての大集落ならびに方形周溝墓群を検出した通称根形台（下新田）遺跡群と呼ばれる西ノ窪遺跡、境遺跡、境No.2遺跡²⁾などの遺跡が所在する。

古墳時代は西ノ内遺跡(4)、祝崎古墳群、高千穂古墳群、北観遺跡(8)、後場遺跡、井尻遺跡(11)、宿遺跡(13)、台遺跡(15)、清水谷古墳(17)が挙げられる。このうち調査例があるのは高千穂古墳群清水谷古墳である。高千穂古墳群は円墳9基、前方後円墳2基で構成される群集墳で、このうち円墳6基、前方後円墳1基について調査報告がある。出土遺物には土師器・須恵器のほか、直刀・刀子・鏃・鋤先・馬具・弓飾鋌などの鉄製品、錫製耳環、勾玉、多量のガラス小玉などがある。時期はおよそ4世紀～6世紀であると考えられる。また、その西方1.5kmには清水谷古墳がある。出土遺物が非常に少なくはっきりしないが、およそ5世紀前半という時期が与えられている。以上のとおり調査されている古墳時代の遺跡はすべて古墳群であり、



第1図 菅生遺跡・祝崎古墳群と周辺の遺跡

国土地理院発行 1:25,000
地形図木更津を使用

この周辺で集落跡を調査した例はない。

古代の遺跡は、大寺廃寺推定地(3)、峯遺跡(6)、井尻遺跡で、過去に発掘調査が実施されたものはない。なお大寺廃寺推定地は現在熊野神社の境内になっており、調査こそ実施されていないが、神社境内には石製の露盤が遺存しており、本遺跡でも出土した格子目瓦が出土している。

中世では北観塚群(9)、有吉館跡(12)、宿塚群(13)、中尾城跡(14)などが挙げられる。有吉館跡では、昭和初期に道路を敷設する際、宝篋印塔3基、五輪塔1基が出土している。この塔の特徴から築城の上限年代は室町時代で、戦国時代から安土桃山時代にかけての在地豪族の拠点であったと考えられている。この館は南側に湿地帯、北側および南西側に勝沼という沼を背負った低平地に立地しており、この時期の城館としてはめずらしいものであるといえよう。主ははっきりしないが、真里谷武田氏に列なる者であろうと推測されている。中尾城跡は真里谷信興によって明応年間(1492~1501)に築かれたといわれる。ただし、いずれも発掘調査は実施されていないので詳細は不明である。

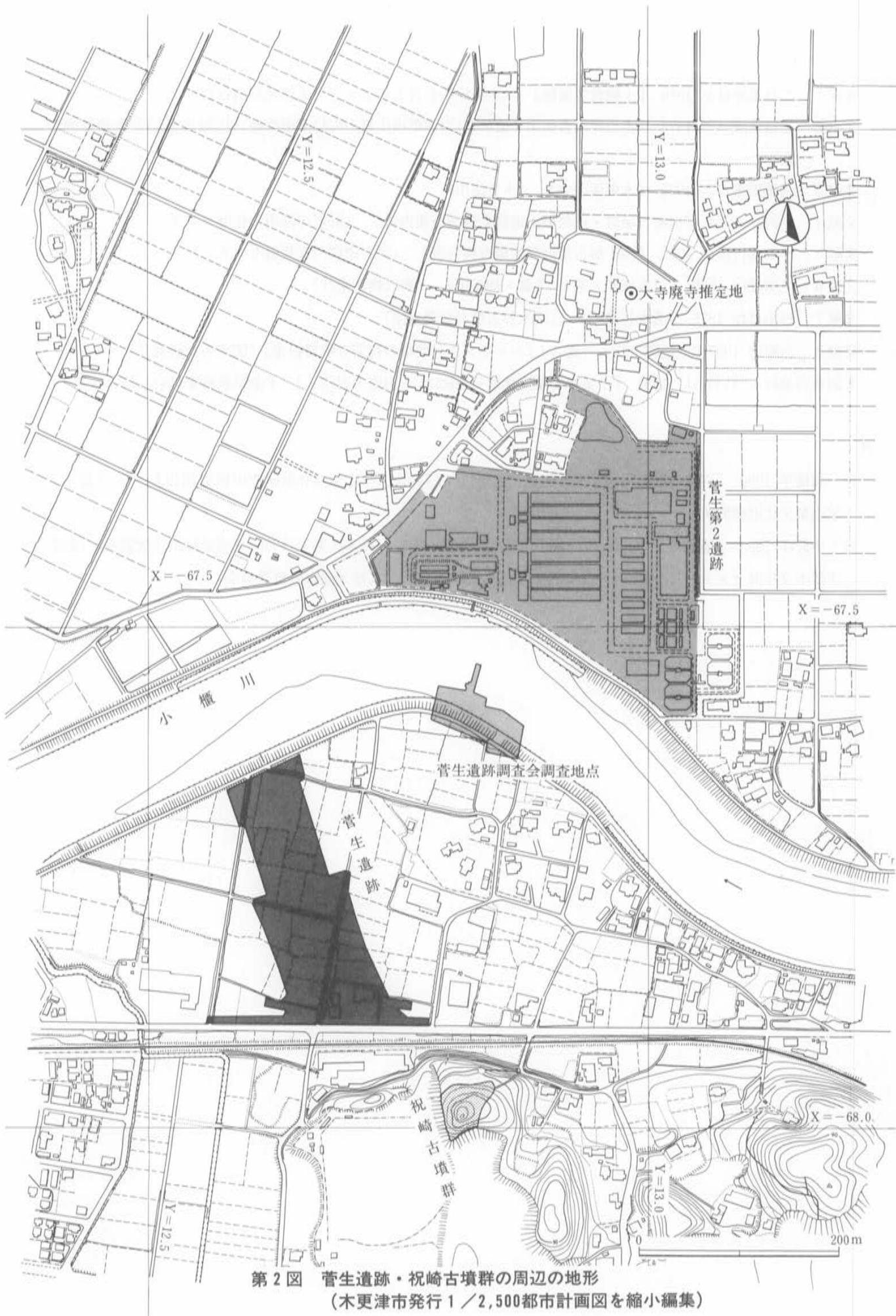
番号	遺跡名	主な時代	種別	地形	現況	調査年度	文献
1-1	菅生遺跡	弥生~中世	包蔵地	低地	水田	今回調査範囲	
1-2	菅生遺跡	弥生~中世	包蔵地	低地	水田	昭和12・13・23・47・48年度	1
2	菅生第2遺跡	弥生~中世	包蔵地	低地	水田	昭和52年度	2
3	祝崎古墳群	縄文~古墳	古墳・集落	台地上	山林	昭和58・平成8年度	4
4	大寺廃寺推定地	奈良	寺院跡	砂堆上	寺院境内	未調査	3・8
5	西ノ内遺跡	古墳	包蔵地	低地	畑	未調査	
6	峯遺跡	古代	包蔵地	自然堤防	畑	未調査	
7	高千穂古墳群	弥生~古墳	古墳・集落	台地	山林	昭和56・59・60年度	5
8	北観遺跡	古墳	包蔵地	微高地	畑	未調査	
9	北観塚群	中近世	塚	微高地	寺院境内	未調査	
10	後場遺跡	弥生~古墳	包蔵地	微高地	畑	未調査	
11	井尻遺跡	縄文~古代	包蔵地	微高地	畑・山林	未調査	
12	有吉館跡	中近世	館跡	低地	畑・荒地	未調査	3・6
13	宿遺跡・宿塚群	古墳・中近世	包蔵地・塚	低地	畑・墓地	未調査・2号塚は半壊	
14	中尾城跡	中近世	城跡	台地	山林	未調査	6
15	台遺跡	古墳	包蔵地	低地	畑	未調査	
16	住吉遺跡	弥生	包蔵地	低地	水田	未調査	3
17	清水谷古墳	古墳	古墳	丘陵	山林	昭和49・50年度	7
18	清水谷遺跡	縄文・弥生・古代	集落	微高地	宅地	昭和49・50年度	7

第1表 周辺遺跡一覧

- 文献1 乙益重隆ほか 1980 『上総菅生遺跡』（木更津市教育委員会・菅生遺跡発掘調査会）
- 文献2 乙益重隆ほか 1978 『木更津市菅生第2遺跡』（君津郡市広域市町村圏事務組合広域水道局菅生遺跡調査会）
- 文献3 高崎繁雄ほか 1972 『木更津市史』（木更津市）
- 文献4 小沢洋 1984 『祝崎古墳群・戸崎城山遺跡発掘調査報告書』（助君津郡市文化財センター）
- 文献5 戸倉茂行ほか 1985 『高千穂古墳群発掘調査報告書』（助君津郡市文化財センター）
- 文献6 牛房茂行 1980 『日本城郭大系6 千葉・神奈川』（新人物往来社）
- 文献7 杉山晋作 1975 『清水谷遺跡』（清水谷古墳発掘調査団）
- 文献8 糸原清 1997 「上総国上総大寺廃寺」『シンポジウム関東の初期寺院資料集』（関東古瓦研究会）
- 未調査の遺跡については、1987 『千葉県埋蔵文化財分布図(3) -市原・君津-』（千葉県教育委員会）によった。

註

- 1) 高橋学 1996 「古代の地形環境と土地開発・土地利用」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』7 （帝京大学山梨文化財研究所）
- 2) 小沢洋 1985 『境遺跡』、能條秀喜 1986 『境遺跡第2次調査』、鈴木久美子 1995 『境遺跡第3次調査』（助君津郡市文化財センター）、井口崇・蓑島正弘 1982 『西ノ窪遺跡』（袖ヶ浦町教育委員会）



第2図 菅生遺跡・祝崎古墳群の周辺の地形
 (木更津市発行1/2,500都市計画図を縮小編集)

第2章 営生遺跡

第1節 調査の方法

本調査は、調査対象範囲を公共座標に応じて地区割りし、大グリッドを20m、その大グリッド内に2mの小グリッドを設定し、南北・東西ともに10グリッドの計100グリッド分割とした(第1図-2)。大グリッドはそれぞれ、東西方向に西から東に向かって大文字アルファベットでAから順にLまで、南北方向は北から南に1から順に16までを付け、たとえば2B、15Dのように数字とアルファベットの組み合わせで大グリッドを呼称することにした。小グリッドについてはそれぞれの大グリッド内で北西の隅を00とし、そこから東に向かって01から順に09まで、00から南に向かって10から90までつけた。すなわち第2段は10、11、12から19、最下段は90、91、92から99となり、小グリッドはすべて00から99までの2桁の数字で表すことができる。これを先の大グリッドとあわせて、たとえば4C-11、16H-55というように全体の中で小グリッドを呼称できるようにした。

土坑、溝状遺構、ピットについては可能な限り土層観察用のベルトを残して掘削し、遺物は遺構ごと一括して取り上げた。また水田跡については平面での把握に重点を置き、適宜土層観察用のベルトを設定して掘削、出土遺物は可能な限り各層位毎に小グリッドで一括して取り上げた。

第2節 確認調査とその成果

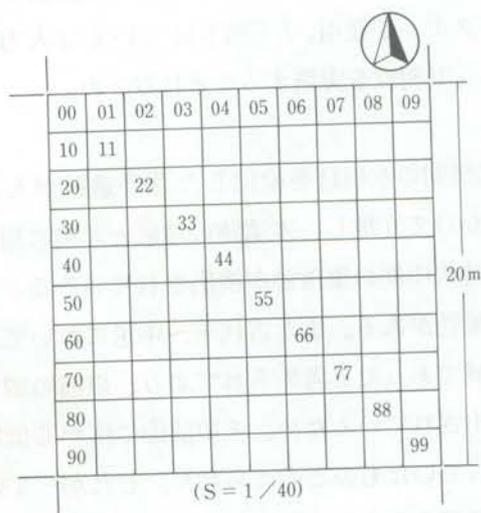
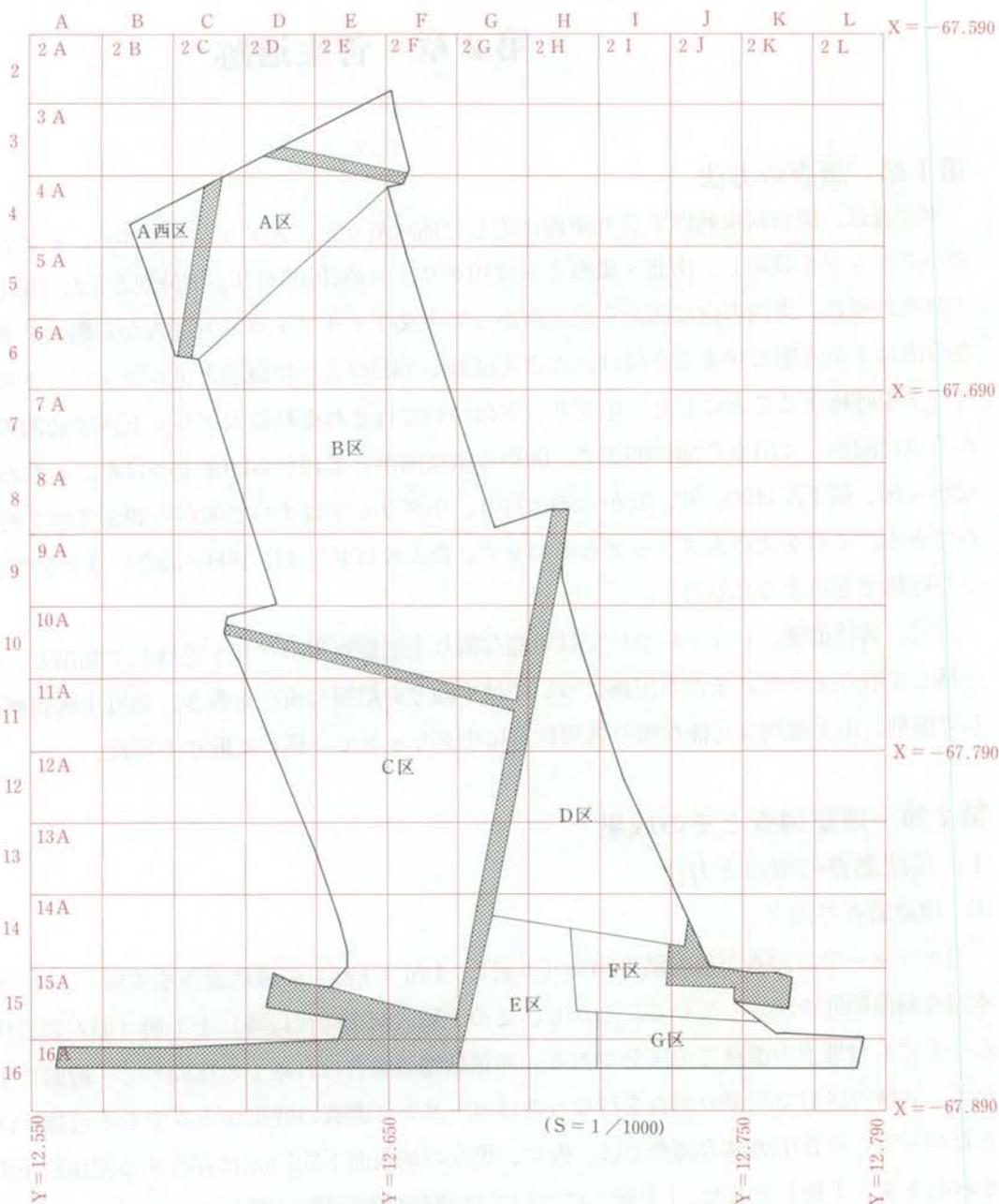
1. 確認調査の視点と方法

(1) 確認調査の視点

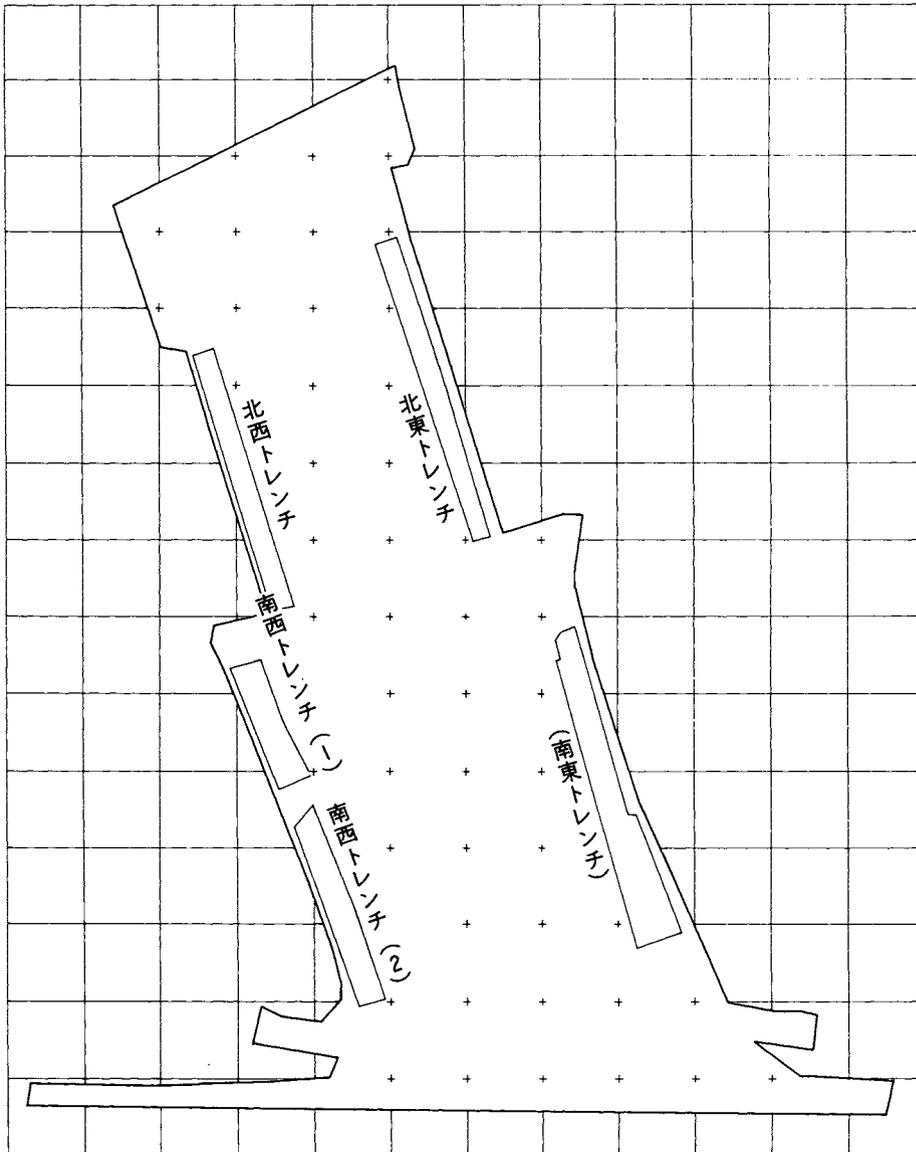
当センターでは調査対象面積の10%(上層)、4%(下層)の確認調査を実施し、その結果に基づいて本調査対象範囲を決定している。しかし、この上層(縄文時代以降)と下層(旧石器時代)という区分は、あくまでも台地上の遺跡での区分である。沖積低地の場合は台地上と比較して一般的に土層の堆積が厚いため、同様の区分で同率の調査を行なうのはボーリング調査の成果からみても不可能といわざるを得ない。したがってこの営生遺跡の調査では、仮に、現在の地表面下約1.5mに存在する泥炭層上面までを「上層」、それ以下を「下層」とした。「上層」については調査対象面積の10%について人力により掘削するが、作業の省力化を図るため現在の水田耕作土の掘削にはバックホウを使用、「下層」については人力で掘削するのは非常に危険を伴うため、クラムシェルによるグリッド調査を実施することになった。

(2) 確認調査の方法

本遺跡の上流約1.5kmの地点に、県内で初めて弥生時代後期の水田跡を検出した芝野遺跡がある。芝野遺跡は小櫃川下流域右岸の自然堤防上とその後背湿地にかけて立地し、本遺跡の地形と非常に類似していること、また過去の調査において本遺跡の砂堆上で弥生時代中期の集落跡が検出されていることなどから本遺跡においてもその集落に伴う水田跡が検出される可能性がある。また古代末～中世において、本遺跡周辺が『吾妻鏡』にその名が表れる「営生荘」の中心地域であったと考えられており、以前の調査で豪族あるいは名主層の居館の一部と考えられる中世の溝が検出されているため、その前面に広がる低地である今回の調査区は、遅くともその時代には確実に耕地化されていたものと考えられた。したがって確認調査では、土層の把握、各時代ごとの遺跡の性格と広がり把握するという目的のほか、水田遺構の検出に主



第3図 調査区割図、グリッド設定図



第4図 上層確認トレンチ配置図 (S = 1 / 2,000)

眼を置いた。これを10%の面積で把握するために、以下のことを考慮して調査方法を決定した。

水田遺構の第一の特徴は、たとえば集落遺跡のように遺構が点的に群集あるいは散在して分布するのではなく、面的な連続性（広がり）を見せることである。その検出には土壌の観察もさることながら、畦畔の検出に重点が置かれる。畦畔を検出するためには幅1m～2mという狭い範囲の調査では到底不可能であるため、確認調査といえども、ある程度のまとまった範囲の調査が必要である。また各地の事例を見る限り、水田面はただ1面のみが存在するという場合はむしろ少なく、通常は各時代の水田面が1か所に重複して検出される。このため平面的な観察のみならず、土層の詳細な観察によって各時代の水田面を階層的に捉えることも必要である。畦畔を検出して水田遺構の広がりを把握し、かつ重層的に各時代の水田遺構を把握するためにはトレンチ調査が最適であると考えられる。今回の調査地点は低地であるため、掘削

時の湧水の処理が重要となる。排水のためトレンチの周囲に排水溝をめぐるのだが、その分の幅も含めて遺構を面的に捉えるためには、できるだけ幅の広く長いトレンチを設定する必要があるだろう。また排水溝はその時に精査している面よりかなり深く掘られていなくては完全に湧水を絶つことはできない。つまり排水溝の分だけ深くなったトレンチの壁面を観察することによって、現精査面下の水田面の遺存状況を把握することができるのである。今回はこのようなトレンチを南北に長い調査対象範囲の東西両側に設定した(第4図)。この方法には、調査範囲の中心部分を虫食い状態にせず、まとまった状態で保護できるという点、いざ中心部分が本調査範囲として決定された場合、このトレンチを本調査の際の排水溝として利用できる、という2つの長所が考えられる。「下層」確認調査については、泥炭層以下の土層堆積状況の把握と遺物包含層の有無を調査し、あわせて土壌分析用の試料採取をすることにある。したがって「上層」確認調査のような幅の広いトレンチを設定する必要はない。今回は確認トレンチの内部に数箇所のグリッドを設定し(第14図)、「上層」確認調査の終了後、即座に掘削を開始することにした。

2. 確認調査の成果

(1) 「上層」確認調査の成果

前述の方法でトレンチを精査しつつ掘り下げた結果、弥生時代以降現在の水田面を含めて合計7面の水田面を検出し、それらのおおよその広がりをつかむことができた。また人力掘削の目標とした泥炭層の形成時期が、最も新しい場合でも縄文時代晩期以前にさかのぼるであろうということが予測しえた。以下それぞれのトレンチの状況について報告する。

① 北西トレンチ(第5図・第6図)

調査対象範囲の中央部北西隅に位置するトレンチで、6C・7C・7D・8C・8D・9Dの各大グリッドにまたがっている。この範囲では、土層の観察により、現在の水田面(第1水田面)、近代～現代(第2水田面)、近世(第3水田面)、中世末～近世(第4水田面)、中世(第5水田面)、古代(第6水田面)、弥生時代～古墳時代(第7水田面)の合計7層の水田層が検出された。このうち、平面的に畦畔などの水田関連施設が確認されたのは中世(第5水田面)、古代(第6水田面)、弥生時代～古墳時代(第7水田面)の合計3面である。まず土層を見てみると、トレンチ北端(2m付近)では現在の耕作土である1層、第2水田面の耕作土であり現在の水田面の鋤床でもある2b層、第3水田面の耕作土であり第2水田面の鋤床でもある3a層、第4水田面の耕作土であり第3水田面の鋤床でもある3b層、第5水田面の耕作土であり第4水田面の鋤床でもある3d～3e層、第6水田面の耕作土であり、第5水田面の鋤床でもある4層、古代以前に発生した小櫃川の氾濫による洪水堆積層であり第6水田面の耕作土および鋤床でもありと考えられる6層、第7水田面の耕作土ならびに鋤床である7層、人為の改変の痕跡が認められない8層という各時代の土層が堆積している。6層・7層を除いて層厚が比較的薄いこと、各水田層共に土層断面で畦畔などの水田関連施設を見出すことができなかつたことなどの点から、本来あつたはずの前段階の畦畔がその後の耕作によって攪乱され不明瞭となつたと考えられる。これはすなわち特に古代以降、この地が比較的安定した土地であつたことを示している。かえつてトレンチ南端をみてみると、北端部とのもっとも大きな相違点として、3d層が失われ3c層と3e層が比較的厚く堆積していること、6層と7層が欠けていることの2点が挙げられる。特に後者について、この付近には古代以前の小櫃川の氾濫の影響がなかつたか軽微であつたため、北端では6層にパックされた状態で保存されていた第7水田面がその後の耕作によって失われてしまつた、あるいは当初よりこの時代の水田面はこの付近には存在しなかつた、という2つの

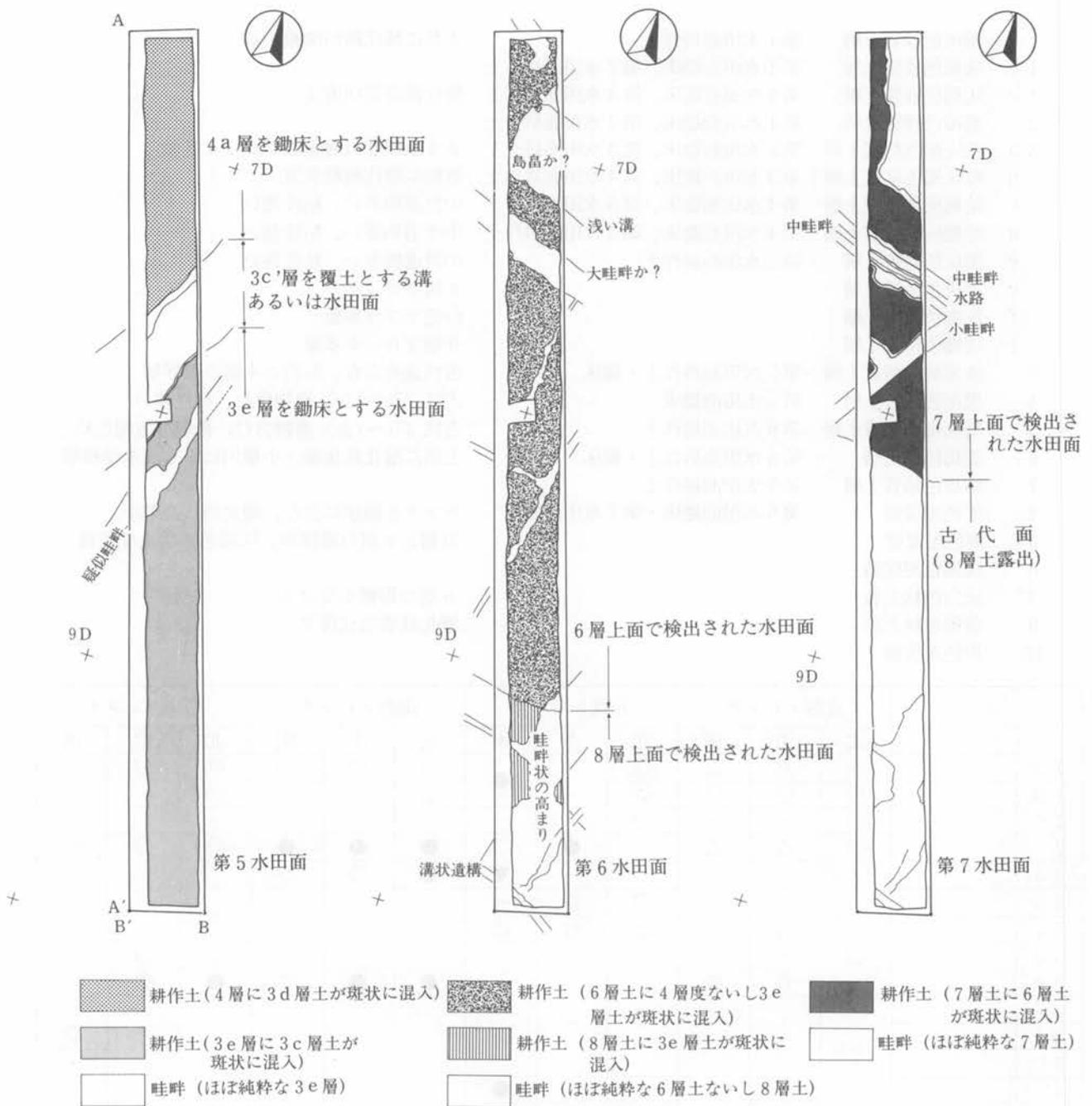
上層確認トレンチ土層説明

1 a	暗灰色砂質土層	第1 水田面耕作土	下部に酸化鉄が沈澱する
1 b	灰褐色砂質土層	第1 水田面鋤床、第2 水田面耕作土	
1 c	灰褐色砂質土層	第2 水田面鋤床、第3 水田面耕作土	酸化鉄雲管状斑文
2	暗褐色砂質土層	第1 水田面鋤床、第2 水田面耕作土	
3 a	明灰褐色粘質土層	第2 水田面鋤床、第3 水田面耕作土	φ 5 mm程度の酸化鉄ブロック多量
b	暗灰褐色粘質土層	第3 水田面鋤床、第4 水田面耕作土	微細な酸化鉄粒多量
c	暗褐色粘質土層	第4 水田面鋤床、第5 水田面耕作土	中世遺物多い、粘性強い
d	暗褐色粘質土層	第4 水田面鋤床、第5 水田面耕作土	中世遺物多い、粘性強い
e	黒灰色粘質土層	第5 水田面耕作土	中世遺物多い、粘性強い
e'	黒灰色粘質土層		8層ブロック
f	灰褐色粘質土層		白色テフラ多量
f'	灰褐色粘質土層		9層ブロック多量
4'	淡黒褐色粘質土層	第5 水田面耕作土・鋤床	古代遺物含む、3e層と4層の遷移層
4	黒褐色粘質土層	第5 水田面鋤床	古代(7c~12c)遺物含む、粘性強い
5	暗灰褐色粘質土層	第6 水田面耕作土	古代(7c~12c)遺物含む、微細な黄褐色粘土
6	黄褐色粘土層	第6 水田面耕作土・鋤床	上面に酸化鉄沈澱、小櫃川による洪水堆積層
7	暗褐色粘質土層	第7 水田面耕作土	
8	黒色泥炭層	第6 水田面鋤床・第7 水田面鋤床	テフラを縞状に含む、縄文時代晩期か?
8''	黒色泥炭層		3f層と8層の遷移層、灰褐色テフラを多量
8'	淡黒色泥炭層		
9'	灰白色粘土層		8層の影響を受ける
9	黄褐色粘土層		酸化鉄雲管状斑文
10	黒色泥炭層		

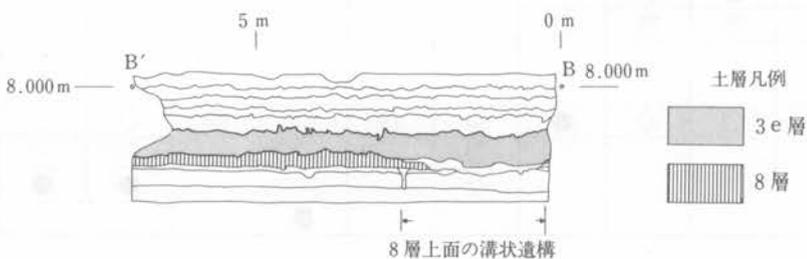
	北西トレンチ			北東トレンチ			南西トレンチ			南東トレンチ		
	北	中	南	北	中	南	北	中	南	北	中	南
1 a	△	△	△	◎		●	○	○	○	◎	○	○
1 b	○	○	○	◎	-	●	△	-	-	○	-	-
1 c	○	-	-	○		-	-	-	-	-	-	-
2	○	△	△	-	●	○	●	●	●	◎	○	○
3 a	-	-	-	-	-	▼	●	◎	◎	-	-	-
3 b	-	-	-	○	◎	-	-	-	-	-	-	-
3 c	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	○	-	-
3 d	○	-	-							◎	◎	-
3 e	-	◎	◎				●	●	◎	●	◎	
3 e'				-	-	-						
3 f					-	-						◎
3 f'												・
4'				△		●						
4	○	○	-	◎	●		-	-	-	-	-	-
5				○	-							
6	●	◎	-	●	◎							
7	●	◎	-	◎	◎	◎						
8'												・
8''												・
8	●	●	◎	○	◎	●	◎	◎	◎	◎	○	△
9'							○		-		-	-
9							◎		-		●	●
10									●			

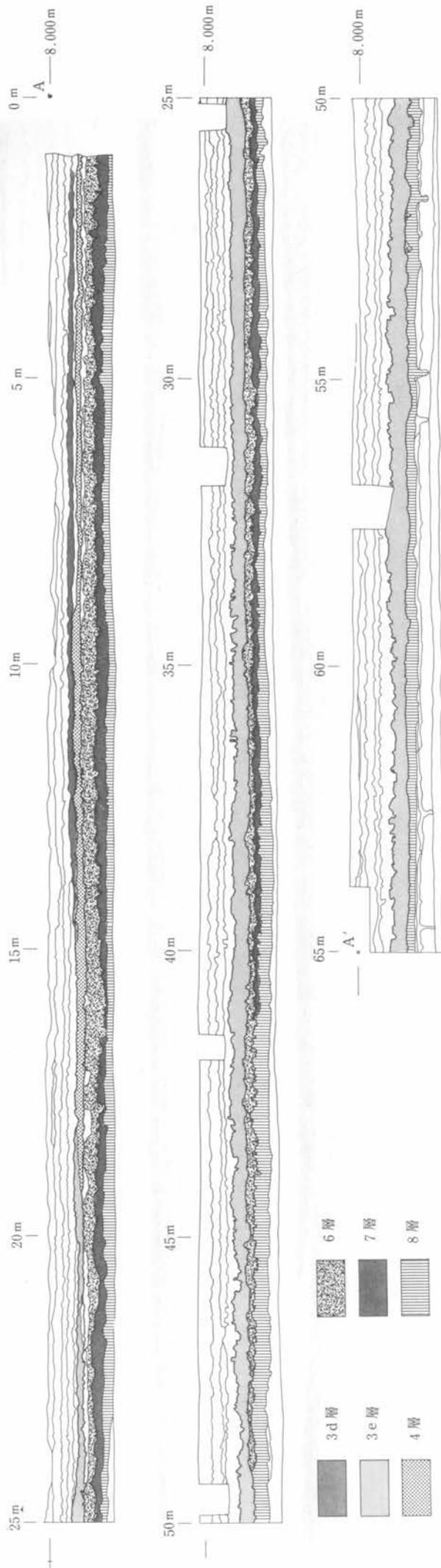
● (20cm以上堆積)、◎ (10cm~20cm)、○ (5cm~10cm)、△ (5cm以下)、・ (疎らに堆積)、- (なし)、[] (不明)

第2表 上層確認トレンチ層厚一覧



第5図 北西トレンチ検出状況 (1/500)

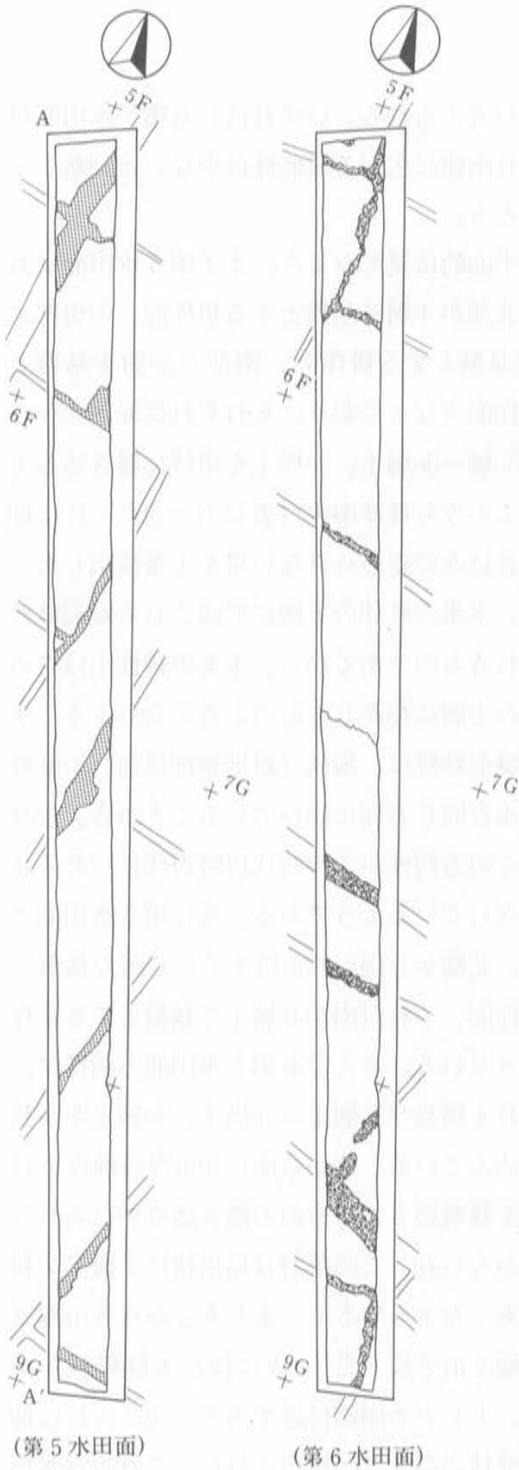




第6図 北西トレンチ土層断面図(1/100)

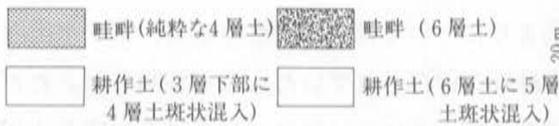
可能性が考えられる。いずれにしる第7水田面がここより南側に広がる可能性は少ないと判断してよいだろう。

次に平面的に見てみよう。まず第5水田面であるが、北部が4層を基盤とする耕作面、中央部が3e層を基盤とする耕作面、南部が3e層を基盤とする耕作面となっており、それぞれに3e層土~4層土、3c層~3e層土、3c層土を斑状に鋤き込んでいる。このうちほぼ中央付近にN-30°-Eに伸びる鋤き込みの認められない帯を1条検出した。これは、本来の畦畔の下層に形成される疑似畦畔と呼ばれるものであるから、本来の耕作土はこの検出面の上層に存在したものと考えられよう。またこの疑似畦畔は、現代(耕地整理以前)の畦畔とほとんど同じ方向に伸びていることから、少なくともこの方向性がこの時代以降現代にいたるまで踏襲されているようである。次に第6水田面であるが、北端から南に40m位までは6層を基盤とする耕作面、それ以南が8層土を基盤とする耕作面となっている。ここでも第5水田面と同様に、それぞれ4層及び5層土~3e層土、3e層土を斑状に鋤き込んでいる。北から南に10m程の地点には6層土を基盤層とするものの鋤き込みが見られない区画がみられ、この部分は島畠状に1段高い耕作面であったようである。またそこから5m程度南側で幅2mでN-90°-Wに伸びる畦畔状の高まりが、トレンチ南端付近でもN-30°-Eに伸びる畦畔状の高まりが検出された。これらは水田面に伴う大畦畔ないし中畦畔と思われたが、北半の高まりについては土層観察の結果、第7水田面の中畦畔が保存されていたものと判明した。ただし南端の高まりについては、この付近に第7水田面は遺存していないため、第6水田面に伴う畦畔と考えてよいだろう。このほかにはトレンチ中央付近でN-10°-Eに伸びる細い疑似畦畔が2条検出されている。そして第7水田面であるが、トレンチ南半部では遺存状況が悪く、北からおよそ



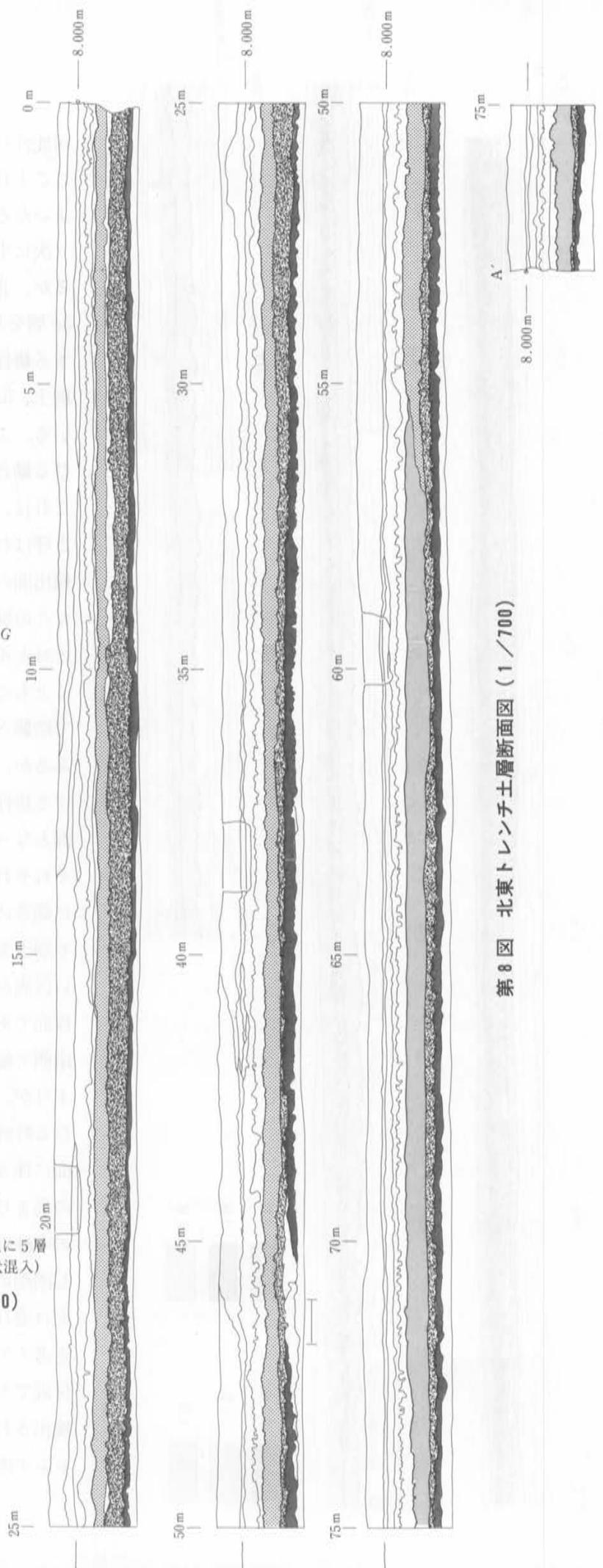
(第5水田面)

(第6水田面)



第7図 北東トレンチ検出状況 (1/500)

土層凡例



第8図 北東トレンチ土層断面図 (1/700)

30m地点以南では水田面を検出できなかった。ただし土層断面では北から40m～50m地点付近までは断続的ながら7層土が存在するので、本調査の際には注意が必要であろう。北半部では7層を基盤層として6層土の鋤き込みおよび8層土の巻き上がりが認められる耕作面が検出されており、第6水田面の精査中に検出された高まりが、中央に水路を伴う中畦畔であったことを確認した。

② 北東トレンチ (第7図・第8図)

調査対象範囲の中央部北東隅に位置するトレンチで、5E・5F・6F・7F・8F・8Gの各大グリッドにまたがる。この範囲では土層の観察により、現在の水田面、近代～現代、近世、中世末～近世、中世、古代、弥生時代～古墳時代の合計7層の水田層が検出された。このうち、平面的に畦畔などの水田関連施設が確認されたのは中世および古代の合計2面である。なお弥生時代～古墳時代の水田面についてはすでに北西トレンチでその存在が確認されていたため、ここではあえて平面的には掘削せず、本調査のために保存することにした。

まず土層の堆積状況をみてみよう。北端では、1a層、1b層、1c層、2a層、3b層、3c層、4'層、4層、5層、6層、7層、8層の各土層が堆積している。1層～1c層、4層、6層が比較的厚く、その他はやや薄い。水田面は北西トレンチと同様に第1水田面から第7水田面まで遺存しているが、北西トレンチと異なるのはそれぞれの基盤とする土層である。第2水田面は1b層上面、第3水田面は1c層上面、第4水田面は3c層上面となっている。なお、第1水田面及び第5水田面から第7水田面までは北西トレンチと同様の層位であった。中央付近では、1層～1c層、5層を欠き、新たに2b層が加わるが、2b層は徐々に薄くなってやがて失われる。それ以下の層位は同じである。ただ「地山」と考えられる8層上面のレベルは若干高くなっている。水田面は本トレンチの北端部と同様に第1水田面から第7水田面が遺存する。この付近は北西トレンチ北端部より若干南側の地点にあたるため、小櫃川からの距離が遠く、それぞれの基盤とする土層は、本トレンチの北端部より北西トレンチの北端部の組成に近い。なおこの付近の8層上面のレベルは北西トレンチの北端部とほぼ同様である。また、45m付近では6層下に溝状遺構と考えられる落ち込みやその南側に7層と8層混土層の盛り上がりが見られた。南端では6層と4層が不明瞭となり、再び1a層、1b層が加わる。また不明瞭となった4層との遷移層という形で3e層が新たに見られるようになる。水田面は第6水田面を除いてこれまでと同様に認められる。それぞれの基盤とする層は第1水田面～第4水田面までは本トレンチ北端と同じだが、第5水田面は3e層と4層の遷移層上面に変わる。また8層上面のレベルも更に高くなっている。

次に平面的にみてみよう。第5水田面は土層断面で確認されたとおり、中央以北では4層、中央以南では3e層と4層の遷移層を基盤層として、それぞれに3c層が斑状に鋤込まれている。基盤層土と鋤込み土の比率は4：6程度であるから、この層は第5水田面の耕作土ではなく鋤床に相当するものであると考えられる。本来の耕作土はかつてはこの上に存在したのであろうが、土層断面を見る限り後世の耕作によってすでに失われてしまったものと考えられる。この面では鋤込みのみられない北東方向に伸びる帯を5条、北西方向に伸びる帯は不完全なものを含めて4条検出した。これらの帯は水田面の状況からみて本来の畦畔ではなく疑似畦畔である。特に前者は方向を同一にしてほぼ等間隔に走っており、条里区画による畦畔と考えてよいだろう。第6水田面は全体的に6層を基盤層とし、これに北部では5層土、中央では4層土、南部では3e層と4層の遷移層土が鋤込まれている。鋤込みは斑状で、基盤層土と鋤込み土の比率は3：7程度であるから、この面は第6水田面の耕作土ではなく鋤床であると考えられる。この面では鋤込みのみ

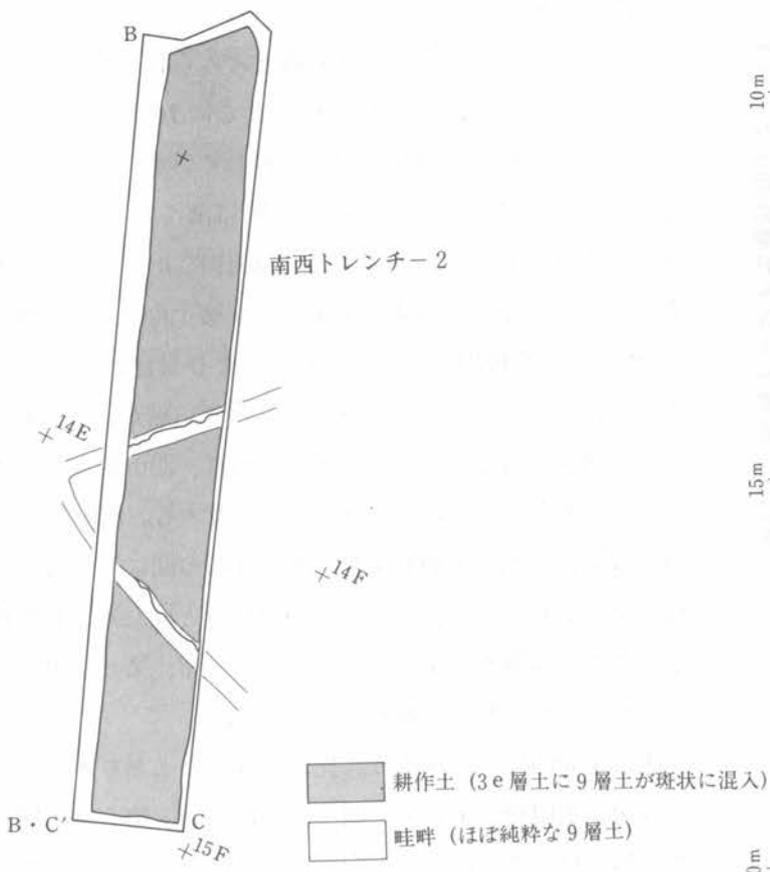
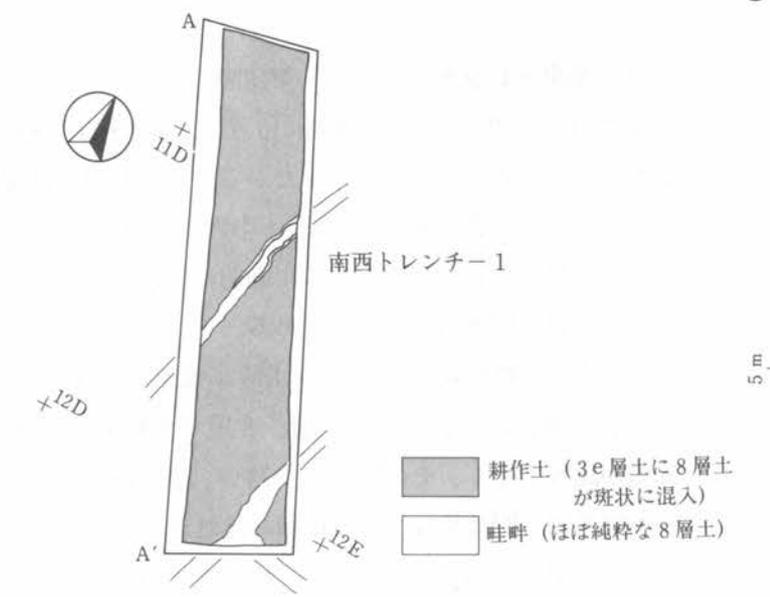
られない帯を北東方向に3条、北西方向に7条検出した。これらの帯は水田面の状況からみて本来の畦畔ではなく疑似畦畔である。北東方向3条のうち1条には畦畔が途切れた部分が認められるが、これは水田の水回しの際の水口であると考えられた。以上本トレンチ各水田面における土層の状況は北西トレンチとほとんど同じであり、北西トレンチと本トレンチの間にこの時期の水田面が平面的に遺存している可能性が高いことを示している。また45m地点付近で認められた落ち込みとその南側の盛り上がりは北西トレンチの北部で見られた水路及び中畦畔に非常に類似することから、第7水田面に伴う水路及び中畦畔と考えてよいだろう。このことから第7水田面についても同様のことがいえるものと思われる。ちなみに水路部分の床面レベルは北西トレンチより本トレンチのほうが高いので、水は東から西へ流れていたものと考えられる。

③ 南西トレンチ（第9図～第11図）

調査対象範囲の中央部南西に位置する。調査の際の通路を確保するため、10D・11D・12Dの各大グリッドにまたがるトレンチ（南西トレンチー1）と12D・12E・13D・13E・14Eの各大グリッドにまたがるトレンチ（南西トレンチー2）の2本に分けて設定した。この範囲では土層の観察によって、現在の水田面、近代～現代、近世（第3水田面）、中世、古代の合計5層の水田層が検出された。このうち平面的に水田関連施設が確認されたのは中世の1面である。

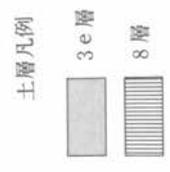
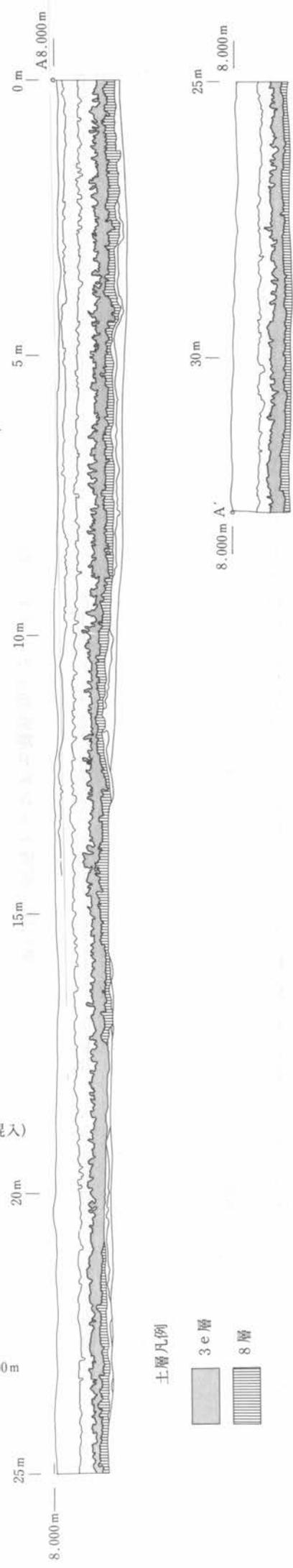
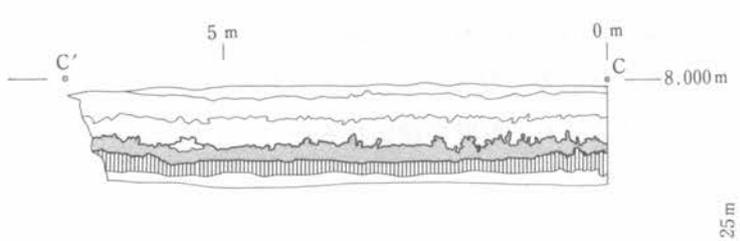
まず土層の堆積状況を見てみよう。北端（南西トレンチー1の0m～2m付近）では、1層、2層、3a層、3e層、8層、9層、9層が堆積している。1層は、1a層と1b層に分割されるがともに薄く、ついで3e層、8層、3a層、2層の順である。なお2層は2a層、2b層に分けられる。各層ともほぼ水平に堆積しているが、2層～3a層、3a層～3e層の間は耕作による著しい堆積の乱れがみられる。ここでは第1水田層～第3水田層（1層～3a層）、第5水田層（3e層）、第6水田層（8層）が検出された。中央付近（南西トレンチー2の0m～2m付近）では各層とも堆積が薄くなる。1層～2層が不明瞭となり8層が失われる。検出された水田層は本トレンチ北端部分と同様だが、第6水田層は9層上面に見出された。南端部分ではそれぞれの層厚が本トレンチ中央付近より若干厚くなる。1層と2層の境界がやや明瞭となり8層が再び見られるようになるが、3e層が失われる。検出された水田層はこれまでと同様だが、第5水田層は8層上面に、第6水田層は9層上面に見られるようになる。なお南西トレンチー2では土層観察により、13m付近と20m付近の2個所で8層上面の畦畔を検出したが、盛り上がりなどはまったく認められなかった。

平面的にみてみよう。先にも述べたとおり本トレンチで平面的に検出されたのは第5水田面だが、本水田面は3e層上面でかろうじて検出された。南西トレンチー1では土層断面で見られたように3e層に3a層が鋤込まれている。鋤込みの度合いは北西トレンチや北東トレンチと比較して著しく、はっきりとした斑痕が認められた。また南西トレンチー1で北東方向に伸びる疑似畦畔が2条、南西トレンチー2で北東方向および北西方向に伸びる疑似畦畔が各1条検出されたが、これは北西トレンチや北東トレンチと異なり不明瞭なもので、これ以降の水田耕作による若干の鋤込みが見られる。これは北西、北東両トレンチと比較してこれ以上の土層の堆積が薄いことによるものと考えられる。

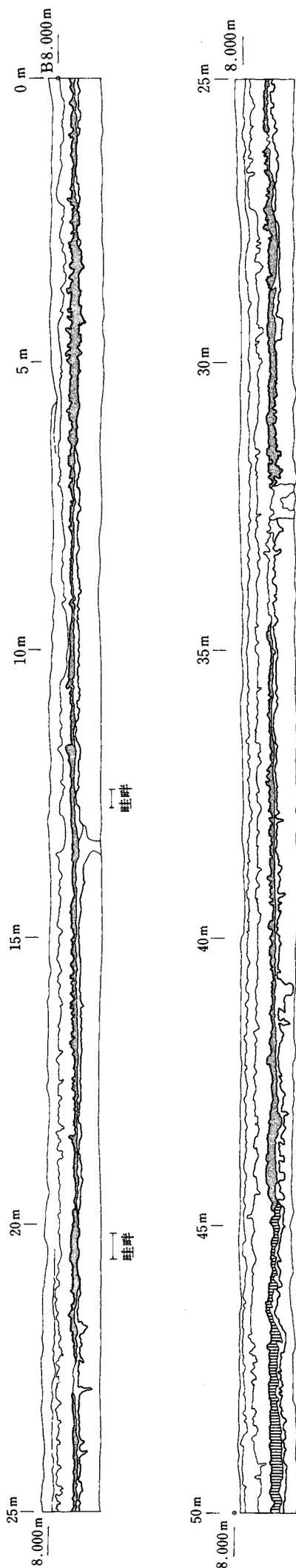


(第6水田面)

第9図 南西トレンチ検出状況 (1/500)



第10図 南西トレンチ土層断面図① (1/100)



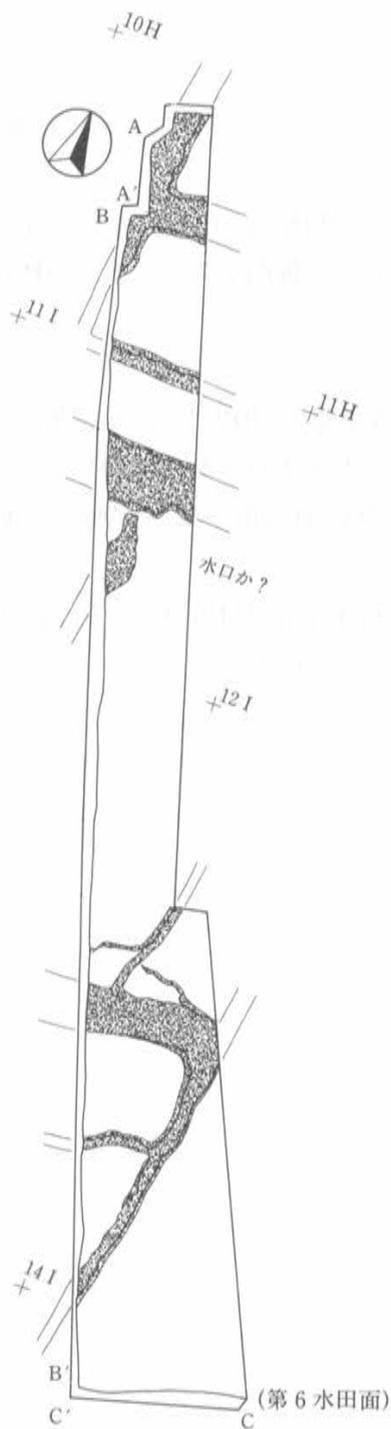
第11図 南西トレンチ土層断面図② (1/100)

④ 南東トレンチ (第12図・第13図)

調査対象範囲の中央部北東隅に位置し、10G・11G・12G・12H・13Hの各大グリッドにまたがる。この範囲では現在の水田面以下、近世(第3水田面)、中世、古代の合計4層の水田層が検出された。このうち平面的に水田関連施設が確認されたのは古代水田面の1面である。

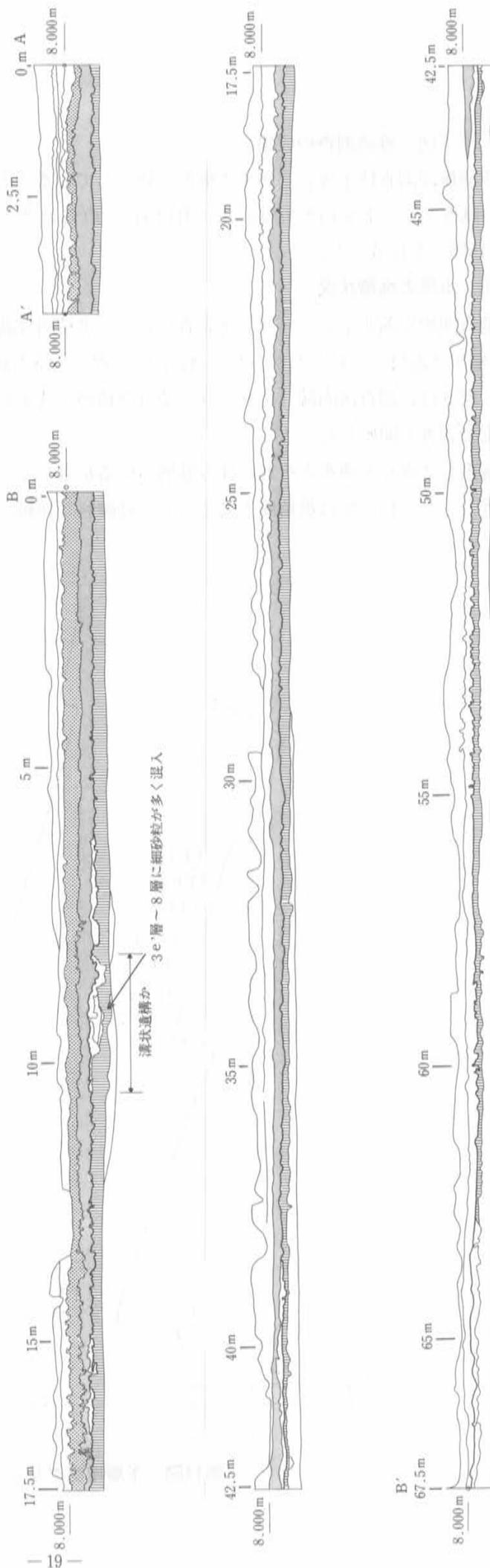
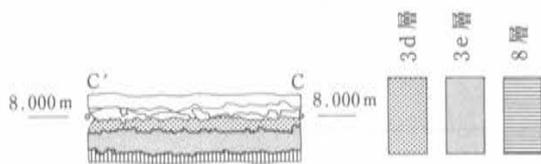
まず土層の堆積状況を見てみよう。北端部分では1層、2a層、2b層、3a層、3d層、3e層、8層が堆積する。1層と3e層が比較的厚く、その他はやや薄い。2b層～3a層、3a層～3e層各層の間は耕作による堆積の乱れが見られる。ここでは第2水田層(2a層上面)、第3水田層(3d層上面)、第5水田層(3e層上面)、第6水田層(8層上面)の各水田層を見出したが畦畔の高まりは認められなかった。また、8m地点～10m地点で8層下に溝状遺構と考えられる落ち込みを検出した。ここから中央付近に至るまでに1層、2b層、3a層が失われる。層厚は北端部分と比較していずれも薄くなるが、2a層、3d層がやや厚く、3e層、8層は薄くなる。また2a層～3d層および3d層～3e層の間には耕作による堆積の乱れが顕著である。ここでは第3水田層(3e層上面)、第6水田層(8層上面)を検出したが、畦畔の高まりは認められない。さらに南にゆくに従い、35m地点付近で3d層が、45m地点付近で3e層、63m地点付近で8層が失われ、30m地点付近で9層、38m地点付近で新たに3f層、が出現する。層厚はさらに薄くなり、2a層～3f層および3f層～8層の間に耕作による堆積の乱れが見られる。ここでは中央付近と同じ水田層が検出されたが、基盤層は第3水田層が3f層上面、第6水田層が9層上面にそれぞれ置き換わっている。

次に平面的にみてみよう。先にも述べたとおり本トレンチでは第2水田層、第3水田層、第5水田層、第6水田層の各水田層が見出されたが、平面的に確認しえたのは第6水田面の1面である。畦畔はすべて疑似畦畔で、南北方向が不明瞭なものを含め4条、東西方向が5条である。軸は基本的に南西トレンチと同一で、土層断面で観察されたとおり、畦畔が鋤き込みの見られないほぼ純粋な8層土、耕作部分が3e層土を斑状に多く混入する8層土である。また北半部分では水口と考えられる畦畔の途切れる部分が1か所検出されている。



第12図 南東トレンチ検出状況 (1/500)

-  畦畔 (ほぼ純粋な8層土)
-  耕作面 (8層土に3e層土を斑状に多く混入する)



第13図 南東トレンチ土層断面図 (1/100)

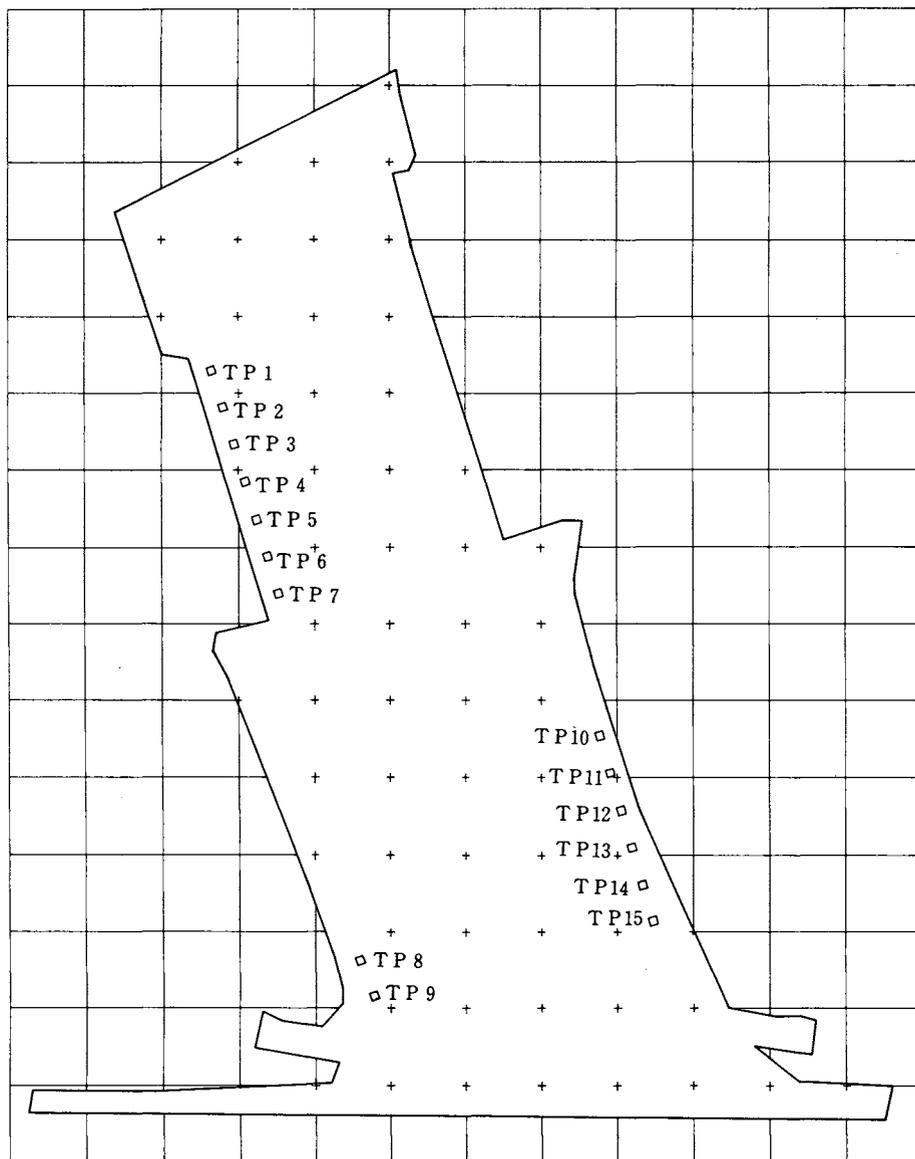
(2) 「下層」確認調査の成果

上層確認調査終了後、7層まで掘削の終了している「上層」確認トレンチ内に、10m間隔で1.6m×1.8mの試掘グリッドを15か所設定し（第14図）、直ちにクラムシェルによって掘削を開始、土層の柱状図（第15図）を作成した。

① 土層の堆積状況

調査開始以前すでにボーリング調査によって洪積層は調査範囲の南端で現在の地表下約5m、北にゆく（小櫃川に近づく）にしたがって10m、20mと徐々に落ち込んで行くことが大まかながら判明していたため、深さは、調査区南端（TP-9）では洪積層に達するまで、北部では可能な限り深く掘削するという前提で調査を開始した。

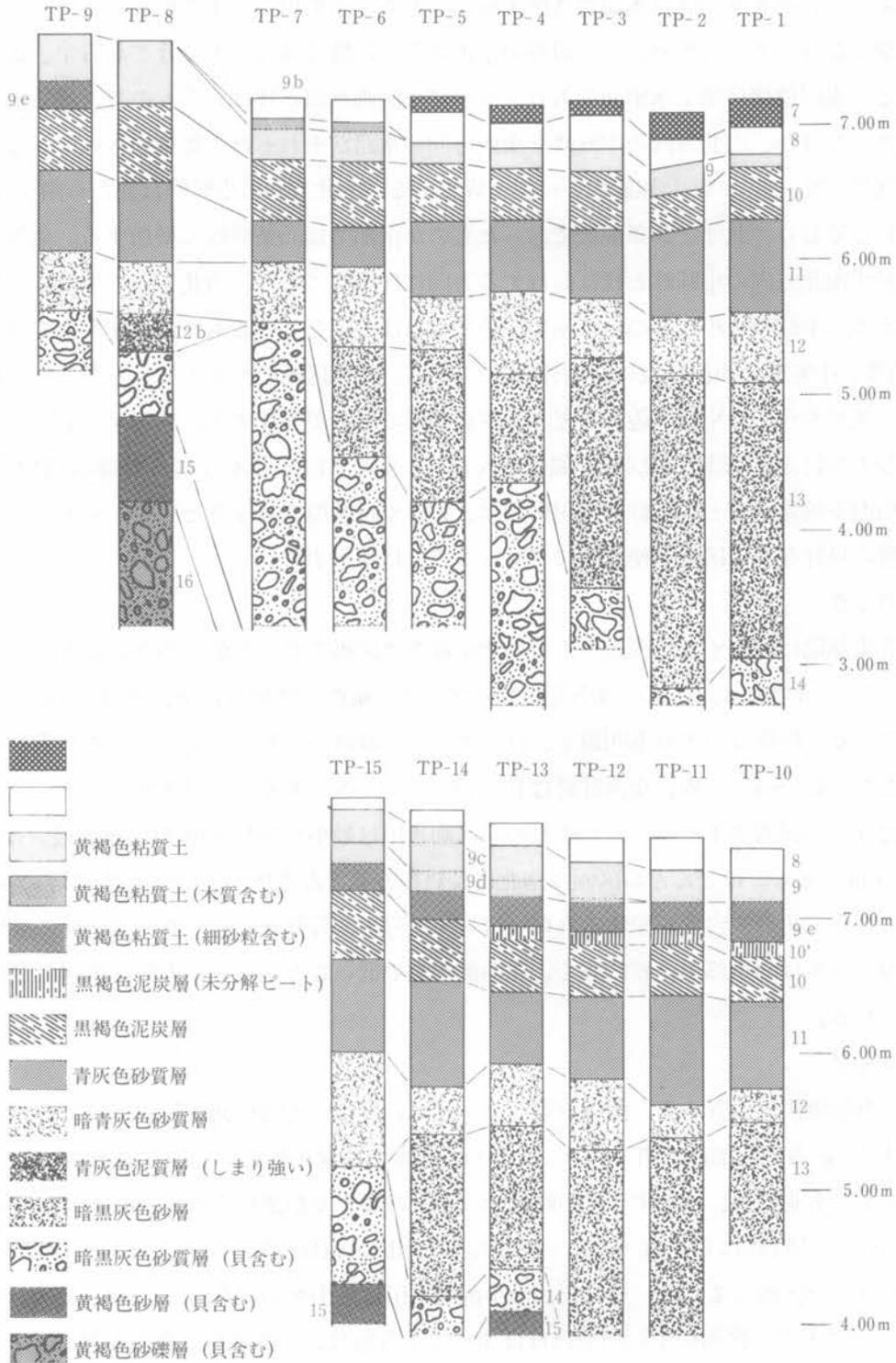
掘削してみると湧水とそれに伴う砂層の崩落が激しく、実際には3.6m～4mが限界であったが、南端付近（TP-15）では洪積層と考えられる砂礫層（16層）にまで達することができた。



第14図 下層確認グリッド配置図（1/2000）

② 遺物

今回調査を実施した範囲では下層から遺物は出土しなかった。仮に遺物が発見された場合、別途協議する予定であったが、「下層」については確認調査のみですべて終了した。



第15図 下層確認グリッド土層柱状図

第3節 検出した遺構と遺物

1. 弥生時代後期～古墳時代前期の遺構と遺物

(1) 遺構

① 水田跡（第18図～第20図、第10表、図版4～図版6）

確認調査時の第7水田面および第8水田面がこの時代に比定される。第7水田面は本調査A区およびB区中央部以北、第8水田面は本調査A区で検出された。小櫃川の洪水堆積層と考えられる6層にパックされた状態で遺存していたため、これ以降の水田耕作の影響をほとんど受けておらず、遺存状態は比較的良好である。水田遺構は第7水田面であり、すべて小区画水田と呼ばれるもので、推定を含めて500区画程度検出されたほか、南北方向の中畦畔と東西方向の水路がそれぞれ1条検出されている。中畦畔の方向はおよそ北部で $N-30^{\circ}-W$ 、南部で $N-10^{\circ}-W$ である。南北方向の小畦畔は北から南へゆくにしたがって枝分かれしており、北部で20条前後であったものが南部では35条前後に増加する。東西方向の小畦畔は枝分かれせず南北方向の小畦畔とほぼ直行する方向に作られており、南北方向の小畦畔の規制を受けているかに見える。中畦畔と小畦畔の軸は南半部分ではほぼ一致しているものの、北半部では中畦畔の東側が西に 10° 前後、中畦畔の西側が東に 10° 前後ずれている。水田区画の平面形態は方形ないし長方形を主体とするが、三角形や台形、平行四辺形などさまざまな形のものが混在する。方形の小区画の面積は平均 3.3m^2 だが、最大が 11.8m^2 、最小は 0.4m^2 と偏差が大きい。また水口と考えられる畦畔の開口部が所々に見られる。水田面を俯瞰すると小畦畔の水田区画は、大きく11個のブロックとしてとらえることができる。以下遺存状態の良好な水田区画を便宜的にブロックごとに報告する。

第1ブロック

B区北東部隅に位置する。西端が1号南北中畦畔で区画され、東側が調査範囲外に広がっている。総可耕面積は 164.6m^2 である。内部には南北小畦畔が10条、東西小畦畔が10条、南北方向には枝畦畔が2条確認されている。畦畔はいずれも明瞭で、ほぼすべての畦畔から若干の高まりが認められた。畦畔の軸方向は南北が $N-40^{\circ}\sim 47^{\circ}-W$ 、東西畦畔は $E-45^{\circ}\sim 55^{\circ}-N$ である。水田区画は1号～64号までのほか、遺存するだけで79区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が18号水田で 0.5m^2 、最大は28号水田で 5.2m^2 、平均は 2.6m^2 である。ほとんどの区画は南北に長い長方形であるが、1号南北中畦畔に接するものの中には南北に長い三角形や台形を呈するもの（11号・26号・50号など）もある。水田面の基盤層は8層である。水田面のレベルは南東部が比較的高く、北西部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。

第2ブロック

B区中央部東側に位置する。西端が第3ブロックに接し、東側が調査範囲外に広がっている。総可耕面積は 26.4m^2 である。内部には第1ブロックからつながる南北小畦畔が7条、東西小畦畔が4条確認された。畦畔はいずれも明瞭で、ほぼすべての畦畔から若干の高まりが認められた。畦畔の軸方向は南北が $N-30^{\circ}\sim 35^{\circ}-W$ 、東西畦畔は $E-30^{\circ}\sim 40^{\circ}-N$ である。水田区画は67号～71号・75号～79号・83号のほか、遺存するだけで18区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が69号水田で 1.9m^2 、最大は79号水田で 3.0m^2 、平均は 2.4m^2 である。区画の平面形態はほぼすべて正方形ないしわずかに南北が長い方形である。水田面の基盤層は8層である。水田面のレベルはあまり差はないが、第1ブロックと同様に南東部が比較的高く、北西部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。



第16図 第7・第8水田面全体図

第3ブロック

B区中央部東側に位置する。西側が第1南北中畦畔、南側が東西大畦畔（水路）で区画され、東側が調査範囲外に広がっている。総可耕面積は96.5㎡である。内部には第1ブロックからつながるものをふくめ南北小畦畔が3条、東西小畦畔が11条確認された。畦畔はいずれも明瞭で、ほぼすべての畦畔から若干の高まりが認められた。畦畔の軸方向は南北が $N-12^{\circ}\sim 22^{\circ}-W$ 、東西畦畔は $E-8^{\circ}\sim 17^{\circ}-N$ である。水田区画は65号・66号・72号～74号・80号～82号・84号～105号のほか、遺存するだけで40区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が65号水田で1.4㎡、最大は89号水田で8.0㎡と偏差が大きく、平均は3.6㎡である。区画の平面形態は南北に長い長方形もしくは正方形、あるいは不整な方形である。水田面の基盤層はすべて8層である。水田面のレベルは南部が比較的高く、北部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。

第4ブロック

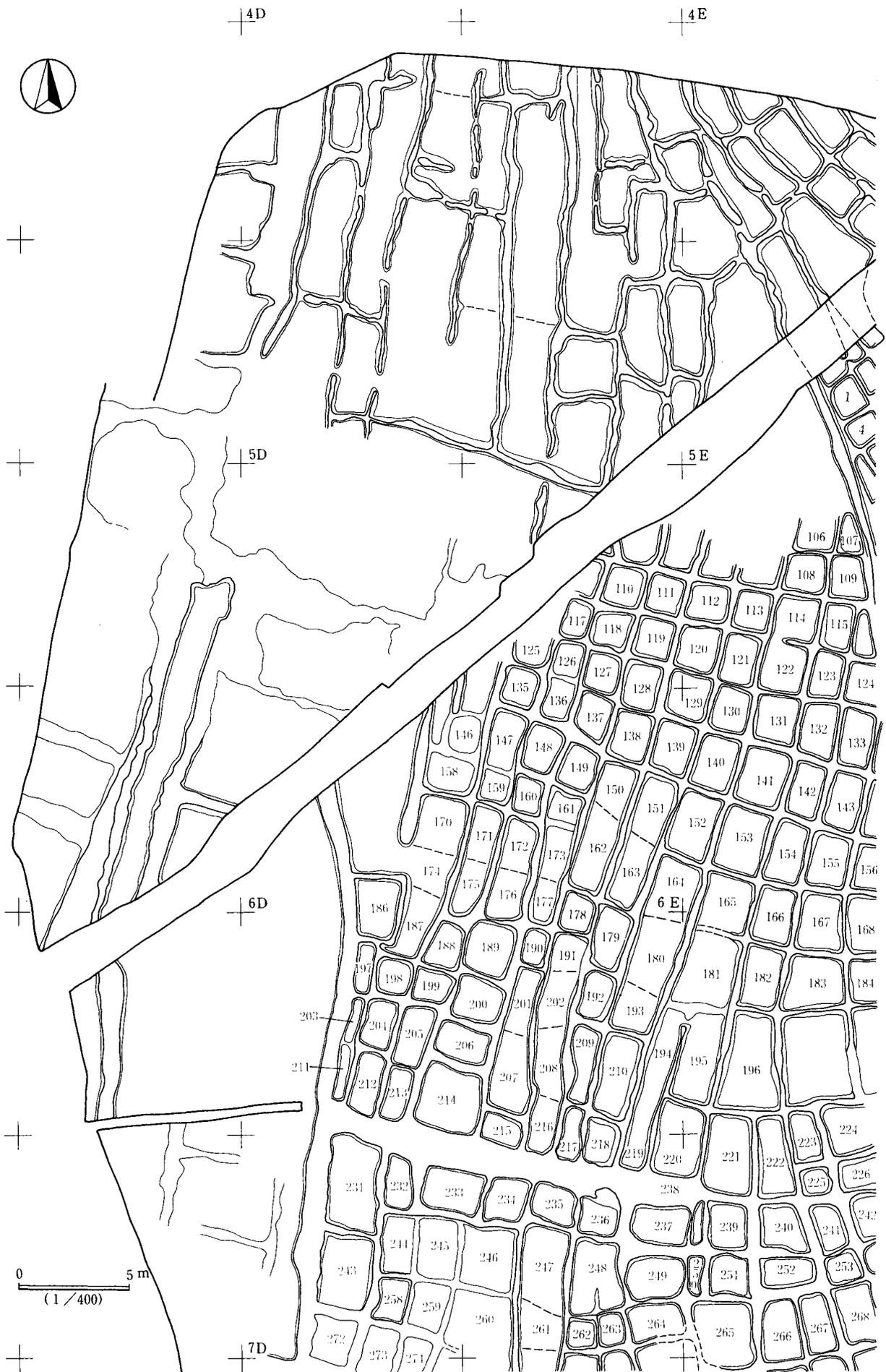
B区北部中央に位置する。東側が第1南北中畦畔、南側が第5ブロックと第6ブロックに接する。総可耕面積は166.4㎡である。内部には南北小畦畔が12条、東西小畦畔が8条確認された。枝畦畔は東西方向に1条見出されている。畦畔はいずれも明瞭で、ほぼすべての畦畔から若干の高まりが認められた。畦畔の軸方向は南北が $N-15^{\circ}\sim 22^{\circ}-E$ 、東西畦畔は $E-12^{\circ}\sim 16^{\circ}-S$ である。水田区画は106号～157号のほか遺存するだけで60区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が107号水田で1.4㎡、最大は153号水田で6.0㎡、平均は3.4㎡である。区画の平面形態は正方形もしくは南北にわずかに長い方形がほとんどだが、第1南北中畦畔に接するものに三角形もしくは南北に長い台形状のもの（116号・124号・134号・145号）がある。水田面の基盤層はすべて8層である。水田面のレベルは南東部が比較的高く、北西部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。

第5ブロック

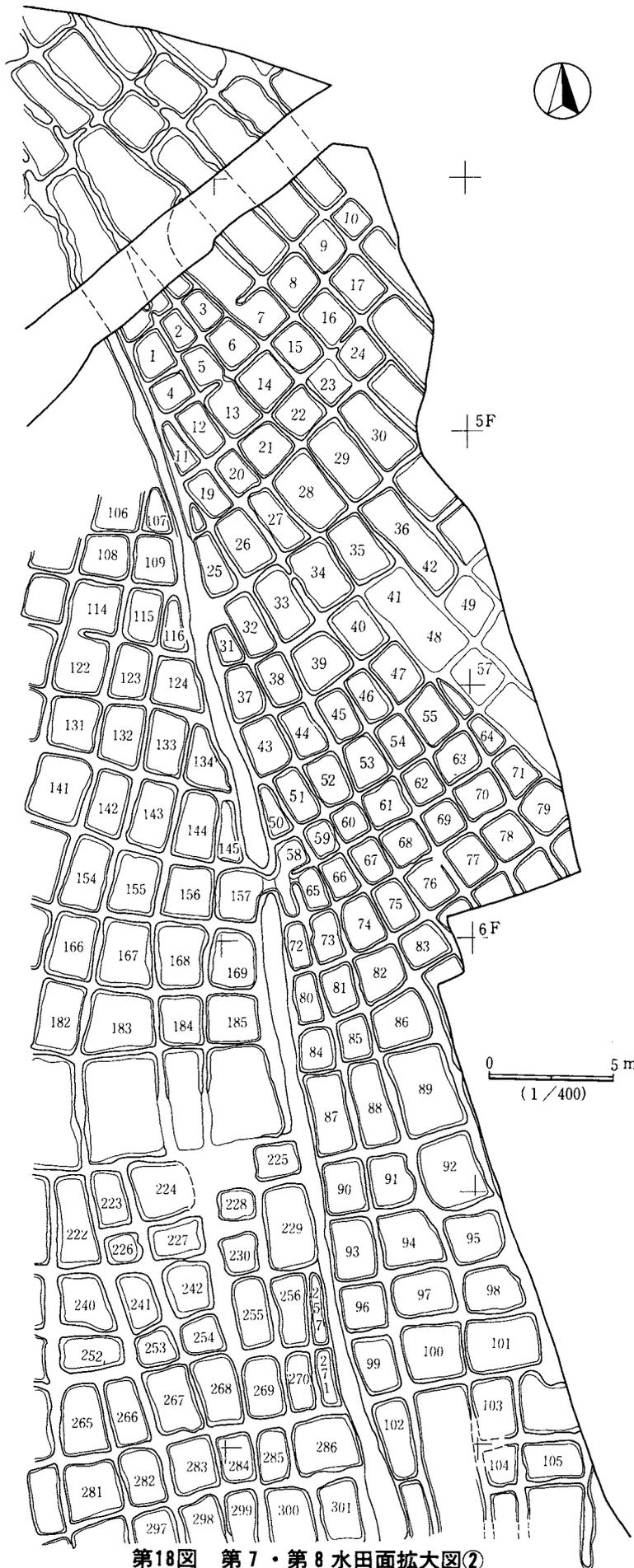
B区北部中央に位置する。西側が2号南北中畦畔、南側が1号東西中畦畔でそれぞれ区画され、東側が第6ブロックに接する。総可耕面積は130.4㎡である。内部には第4ブロックからつながる南北小畦畔が10条、東西小畦畔が7条確認された。畦畔はいずれも明瞭で、畦畔の高まりは見出されたがあまりはっきりしない。畦畔の軸方向は南北が $N-10^{\circ}\sim 15^{\circ}-E$ 、東西畦畔は $E-12^{\circ}\sim 18^{\circ}-S$ である。水田区画は158号～165号・174号～180号・186号～195号・197号～220号のほか遺存するだけで53区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が203号水田で1.0㎡、最大は196号水田で10.2㎡と偏差が非常に大きく、平均は3.9㎡である。区画の平面形態は正方形もしくは南北にわずかに長い方形がほとんどである。水田面の基盤層はすべて8層である。水田面のレベルは南東部が比較的高く、北西部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。

第6ブロック

B区ほぼ中央に位置する。東側が1号南北中畦畔で区画され、南側が大8ブロックに接する。総可耕面積は20.61㎡である。内部には第4ブロックからつながる南北小畦畔が3条、第5ブロックからつながる東西小畦畔が3条確認された。畦畔はいずれも明瞭で、畦畔の高まりは見出されたがあまりはっきりしない。畦畔の軸方向は南北が $N-5^{\circ}\sim 10^{\circ}-E$ 、東西畦畔は $E-1^{\circ}\sim 5^{\circ}-N$ である。水田区画は166号～169号・182号～185号のほか遺存するだけで12区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が184号水田で3.2㎡、最大は183号水田で7.5㎡、平均は5.2㎡である。区画の平面形態は正方形もしくは南北が長い長方



第17図 第7・第8水田面拡大図①



第18図 第7・第8水田面拡大図②

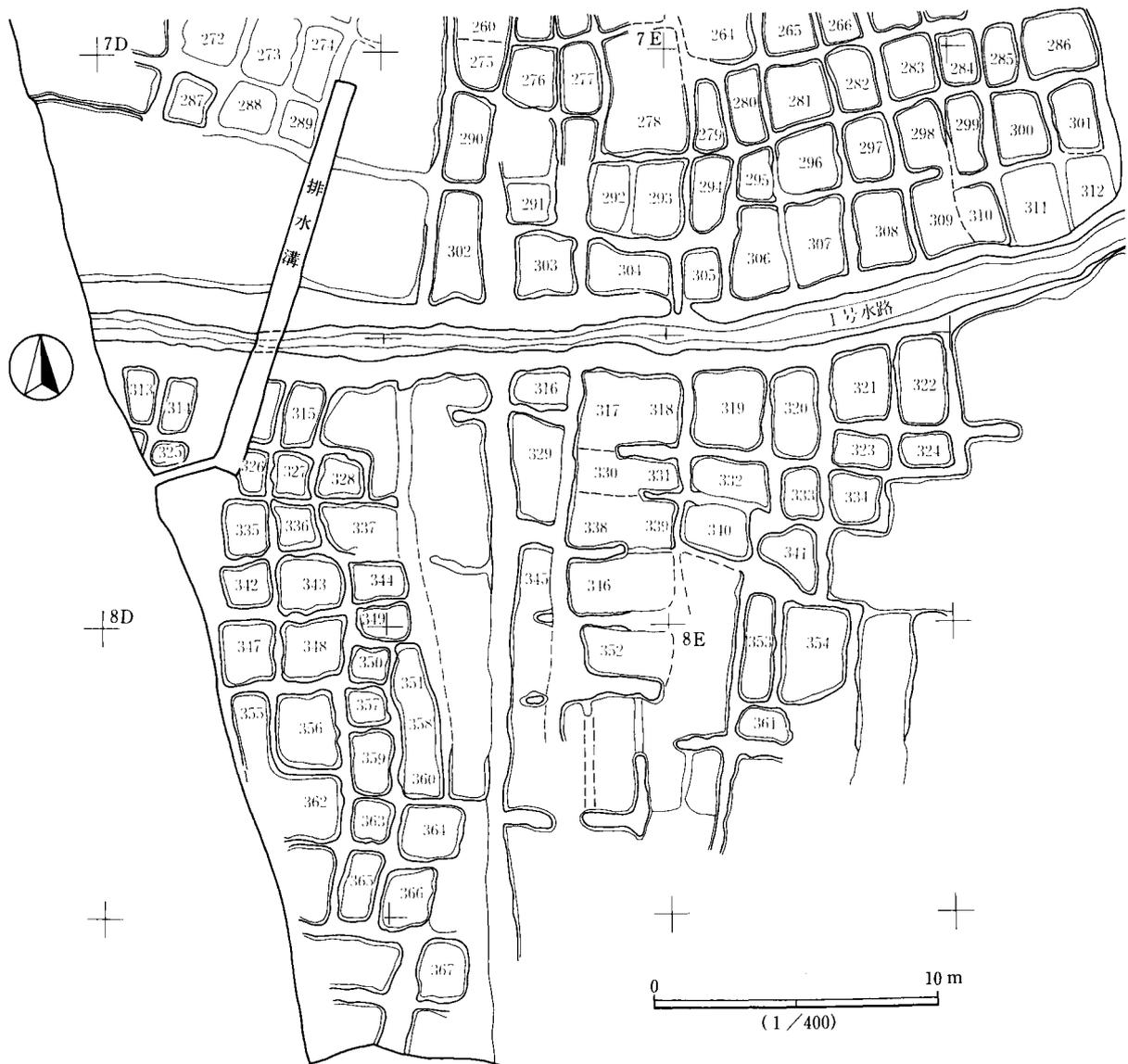
形ないし東西がわずかに長い方形である。水田面の基盤層はすべて8層である。水田面のレベルはほとんど差がないが、南部が比較的高く、北部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。

第7ブロック

B区中央部西側に位置する。西側が2号南北中畦畔、南側が東西大畦畔（水路）で区画され、東側が第8ブロックに接する。総可耕面積は194.8㎡である。内部には第5ブロックからつながる南北小畦畔が8条、東西小畦畔が6条、このほか南北方向の枝畦畔が2条、東西方向の枝畦畔が2条確認された。畦畔ははっきりしないものもあるが、概して比較的明瞭で、畦畔の高まりは見出されたがあまりはっきりしない。畦畔の軸方向は南北が $N-2^{\circ}\sim 7^{\circ}-E$ 、東西畦畔は $E-1^{\circ}\sim 5^{\circ}-S$ である。水田区画は231号～239号・243号～251号・258号～265号・272号～280号・287号～295号・302号～306号のほか遺存するだけで53区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が238号水田で0.7㎡、最大は278号水田で11.8㎡、平均は4.1㎡である。区画の平面形態は正方形もしくは南北が長い長方形ないし東西がわずかに長い方形だが、不整な方形のものも多い。水田面の基盤層はすべて8層である。水田面のレベルはほとんど差がないが、南東部が比較的高く、北西部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。

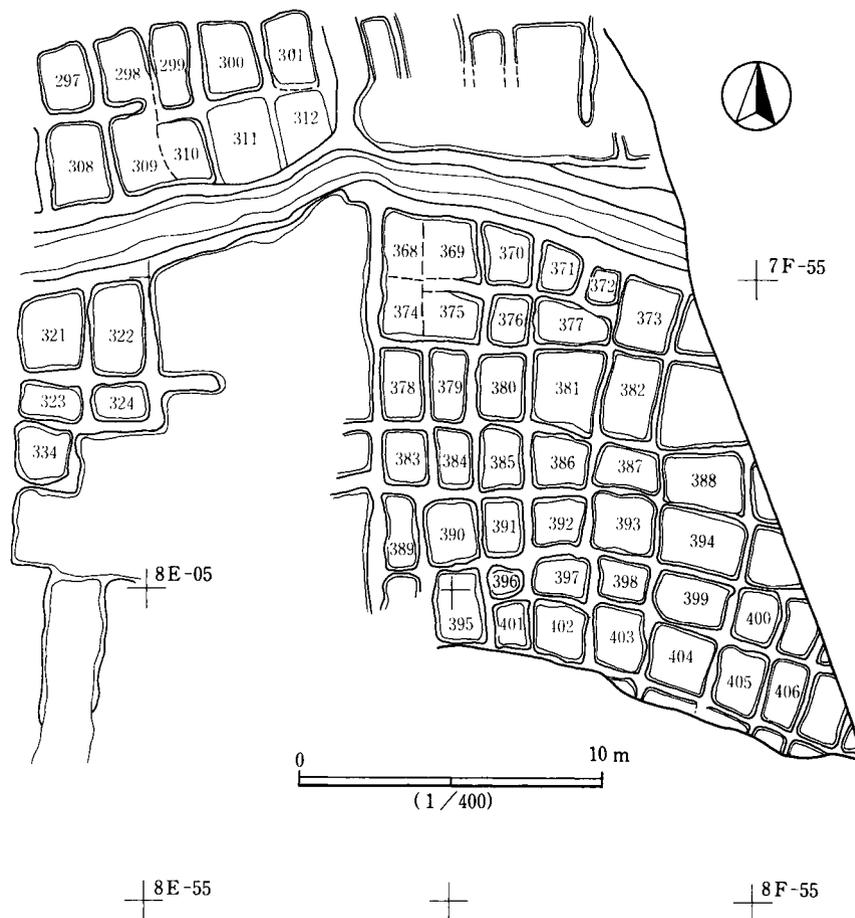
第8ブロック

B区中央部西側に位置する。東側が1号南北中畦畔、南側が東西大畦畔（水路）で区画される。総可耕面積は144.1㎡で



第19図 第7水田面拡大図③

ある。内部には第6ブロックからつながるものを含め南北小畦畔が4条、第7ブロックからつながる東西小畦畔が6条、このほか南北方向の枝畦畔が2条、東西方向の枝畦畔が2条確認された。畦畔は比較的明瞭で、ほぼすべての畦畔から若干の高まりが見出された。畦畔の軸方向は南北が $N-10^{\circ}\sim 22^{\circ}-W$ 、東西畦畔は $E-1^{\circ}\sim 5^{\circ}-N$ である。水田区画は222号～230号・240号～242号・252号～257号・265号～271号・281号～286号・296号～301号・307号～312号のほか遺存するだけで43区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が228号水田で 0.4m^2 、最大は229号水田で 6.0m^2 、平均は 3.4m^2 である。区画の平面形態は正方形もしくは南北が長い長方形がほとんどだが、不整な方形や台形を呈するものも多い。水田面の基盤層はすべて8層である。水田面のレベルはほとんど差がないが、南東部が比較的高く、北西部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。



第20図 第7水田面拡大図④

第9ブロック

B区南部西側に位置する。東側が3号南北中畦畔、北側が東西大畦畔（水路）で区画され、西側が調査区域外に広がる。総可耕面積は61.6㎡である。内部には南北小畦畔が7条、東西小畦畔が10条、このほか東西方向の枝畦畔が2条確認された。畦畔は比較的明瞭だがはっきりしないものもあり、若干の高まりが見出されたものもある。畦畔の軸方向は南北が $N-1^{\circ}\sim 5^{\circ}-W$ 、東西畦畔は $E-2^{\circ}-N\sim E-2^{\circ}-W$ である。水田区画は313号～315号・325号～328号・335号～337号・342号～344号・347号～351号・355号～360号・362号～367号のほか遺存するだけで40区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が325号水田で0.7㎡、最大は362号水田で3.7㎡、平均は2.1㎡である。区画の平面形態は正方形もしくは南北が長い長方形がほとんどだが、不整な方形や台形を呈するものも多い。水田面の基盤層はすべて8層である。水田面のレベルはほとんど差がないが、東部が比較的高く、西部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。

第10ブロック

B区南部中央に位置する。西側が3号南北中畦畔、北側が東西大畦畔（水路）で区画され、東側が11号調査区域外に広がる。総可耕面積は79.5㎡である。内部には南北小畦畔が7条、東西小畦畔が10条、このほか東西方向の枝畦畔が2条確認された。畦畔は比較的明瞭だがはっきりしないものもあり、若干の高まりが見出されたものもある。畦畔の軸方向は南北が $N-1^{\circ}\sim 5^{\circ}-W$ 、東西畦畔は $E-2^{\circ}-N\sim E-2^{\circ}-S$ である。水田区画は316号～324号・329号～334号・338号～341号・345号・346号・352号～354号・361号のほか遺存するだけで40区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が316号水田で1.4㎡、最大は354号水田で6.1㎡、平均は3.2㎡である。区画の平面形態は正方形もしくは南北が長い長方形がほとんどだが、不整な方形や台形を呈するものも多い。水田面の基盤層はすべて8層である。水田面のレベルはほとんど差がないが、東部が比較的高く、西部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。

第11ブロック

B区南部中央に位置する。西側が3号南北中畦畔、北側が東西大畦畔（水路）で区画され、東側が11号調査区域外に広がる。総可耕面積は90.9㎡である。内部には南北小畦畔が7条、東西小畦畔が10条、このほか東西方向の枝畦畔が2条確認された。畦畔は比較的明瞭だがはっきりしないものもあり、若干の高まりが見出されたものもある。畦畔の軸方向は南北が $N-2^{\circ}\sim 15^{\circ}-W$ 、東西畦畔は $E-2^{\circ}-N\sim E-2^{\circ}-S$ である。水田区画は368号～406号のほか遺存するだけで53区画含まれる。それぞれの小区画水田は最小が396号水田で0.6㎡、最大は381号水田で4.4㎡、平均は2.4㎡である。区画の平面形態は正方形もしくは南北が長い長方形がほとんどだが、不整な方形や台形を呈するものも多い。水田面の基盤層はすべて8層である。水田面のレベルはほとんど差がないが、東部が比較的高く、西部がやや低いことからこの方向に水回しが行われていたものと考えられる。

② 水路（第19図・第20図）

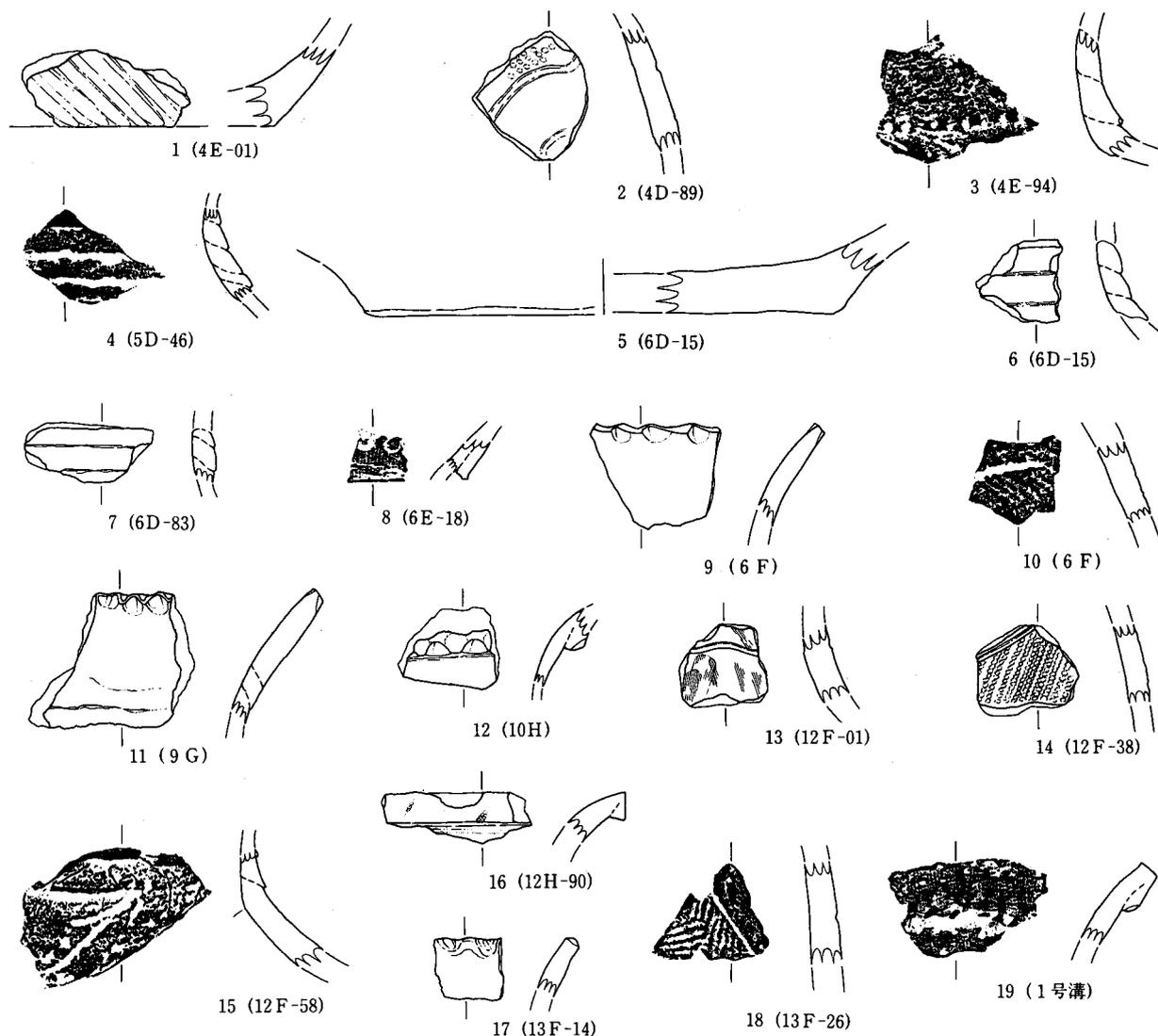
本調査B区南寄り7Dグリッドから7Fグリッドにかけて、調査範囲と直交するように検出された。主軸方位は東半部が $E-15^{\circ}-S$ 、西半部が $E-8^{\circ}-N$ で、ほぼ東西方向を向いている。検出部分での総延長は12.2mだが、東西両端が調査区域外に伸びているため、本来の長さは不明である。幅は最大2.0m、最小1.3m、深さは最大0.2m、最小0.4mである。底面は東端より西端が低いことから、水は東から西に流れていたものと考えられる。本水路の両脇にはやや幅の広い畦畔が作られており、両脇の水田への水口が切られている。覆土は暗褐色ないし黒褐色の粘質土で単層である。

(2) 遺物

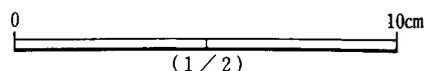
① 弥生土器（第21図、図版11）

本遺跡では30点あまりの弥生土器が出土しているが、いずれも小破片で、図示しうるものは以下に記す19点である。また器形を復元しうる資料は出土しなかった。

1は壺の底部破片である。外面には斜め方向のヘラミガキ痕、内面には横方向のヘラナデ調整が施されているがいずれも摩耗が著しい。色調は外面がにぶい黄橙色、内面はにぶい橙色を呈する。胎土は内面とほぼ同色で、やや粒の大きい石英粒、灰色砂粒、白色微粒子を中量、雲母様微粒子を少量混入する。破片重量は17.9g、中期末～後期に比定されるが詳細な時期ははっきりしない。2は壺の胴部破片である。外面にはやや粒の大きい斜縄文が太い沈線で区画され、磨り消されているように見えるが、摩耗が著しくはっ



第21図 出土遺物実測図(1) 弥生土器



きりしない。色調は外面がにぶい黄褐色、内面はにぶい黄橙色を呈する。胎土は内面と同色で、大きい石英粒が多量に含まれ非常に目立つ。他には黒色砂粒、雲母様の微粒子を中量混入するやや粗いものである。焼成は比較的良好である。破片重量は7.8g、中期後半に比定される。3は甕の頸部破片である。輪積痕を1段残すタイプで、下端には棒状工具による刻みを施す。内面は摩耗が著しく、調整技法は不明である。色調は外面がにぶい黄褐色、内面は橙色ないしにぶい黄褐色を呈する。胎土は橙色で、白色粒子、灰色粒子、黒色砂粒など雑多な砂粒を中量、粒の大きい石英粒、雲母様微粒子、赤褐色の破碎土器粒を少量混入する。焼成は普通で、やや脆くなっている。破片重量は13.5g、後期中葉～後期後半に比定される。4は甕の頸部破片である。複数の輪積痕を残すタイプで、遺存部分で4段を残している。色調は内面外面共に明褐色、胎土も同色で、赤褐色の破碎土器粒を多量、黒色砂粒、石英粒を中量含む。焼成は普通だがやや脆くなっている。破片重量は6.53g、後期前葉～後期中葉に比定される。5は底部破片で、底径は12.8cm、中型の壺であろうと考えられる。内面外面共に摩耗が著しく、調整技法ははっきりしない。色調は内面外面共ににぶい黄橙色を呈する。胎土はにぶい黄橙色ないし灰色で、白色粘土粒、黒色砂粒、灰色砂粒を多

量、石英粒、赤褐色破碎土器粒を中量、雲母様微粒子を少量混入し、比較的緻密である。焼成は普通だが、若干脆くなっている。破片重量45.7g、後期に比定されるが詳細な時期は不明である。6は甕の頸部破片である。頸部に複数の輪積痕を残すタイプで、遺存部分では3段だが、破片の上下ともに輪積部分から割れているので、本来は4段以上の輪積痕を残していたものと考えられる。色調は内面外面共に赤褐色で、胎土も同色、粒の大きい石英粒を中量、黒色砂粒を少量混入する。焼成は普通であるが、若干脆くなっている。破片重量は4.73g、後期前葉～後期中葉に比定される。7は甕の頸部破片である。頸部に複数の輪積痕を残すタイプである。遺存部分では3段だが、傾きから見て、更に上下1段ずつ程度はありそうである。色調は内面が暗褐色、外面は褐色を呈する。胎土はにぶい黄褐色で、粒の大きい黒色砂粒、石英粒、白色砂粒など雑多な砂粒を中量混入する。焼成は普通である。破片重量は4.7g、後期前葉～後期中葉に比定される。8は壺の口縁部破片である。口縁は折返し口縁で、内面外面共に丁寧にナデられており、外面には竹管文が施される。色調は内面外面共に淡黄色を呈する。胎土も同色で、褐色砂粒、石英粒を少量混入するかなり緻密なものである。焼成は良好であるが、若干脆くなっている。破片重量2.6g、後期に比定されるが、施文方法や胎土の相違から搬入品であると考えられるが、小破片であるため残念ながらはっきりしない。9は甕の口縁部破片である。口唇部の刻みは外面がへら状工具、内面は指で施文する。口縁部はゆるやかに外反し、少なくとも遺存部分には輪積痕は見られない。色調は内面外面共に淡黄色で、胎土も同色、石英粒、黒色砂粒、白色砂粒、褐色の破碎土器粒を中量混入する。焼成は普通だが若干脆くなっている。破片重量7.6g、後期前葉～中葉に比定される。10は壺の胴部破片である。外面には全面に撚糸文が施されるが、摩耗しているため文様の詳細は不明である。色調は内面外面共に橙色を呈する。胎土も同色で、黒色砂粒、石英粒を少量混入するほか、灰白色破碎土器粒を多量に含んでおり非常に目立つ。焼成は普通だが若干脆くなっている。破片重量5.3g、後期に比定されるが詳細な時期ははっきりしない。11は甕の口縁部破片である。口唇部の刻みは外面が棒状工具、内面は指で施文する。内面は比較的丁寧にナデられており、外面下部（頸部上半）にはやや不明瞭な輪積痕を1段残す。色調は内面がにぶい黄橙色ないし黒褐色、外面はにぶい黄橙色を呈する。胎土は黄灰色で、石英粒灰色砂粒、白色砂粒を中量、黒色の雲母様微粒子を少量混入する。焼成は良好で、比較的しまっているが表面はざらつく。破片重量14.4g、後期前葉～後期中葉に比定される。12は壺の口縁部破片である。口径は不明だが、そのすばまり具合から小型の壺であろうと考えられる。口縁部は折返し口縁で、やや強く外反する。口唇部下端にはへら状工具による刻みが施される。色調は内面外面共に浅黄橙色でを呈する。胎土は灰白色で、やや粒の大きな石英粒を多量に含んでおりこれが非常に目だっているほか、黒色砂粒、灰色砂粒、赤色破碎土器粒を中量混入する。焼成は普通だがかなり脆い。破片重量4.9g、後期後葉に比定される。13は壺の頸部～胴部の破片である。外面には若干のハケ目が残り、頸部と胴部の境界付近に波状沈線が1条めぐる。色調は内面外面共ににぶい黄橙色を呈する。胎土は明褐色で、石英粒、灰色砂粒、赤色破碎土器粒を中量含むやや粗いものである。焼成は普通だがかなり脆くなっている。破片重量は5.2g、中期後半に比定される。14は壺の胴部破片である。外面には粒の小さい撚糸文が施され、斜方向の沈線で区画される。色調は内面がにぶい黄橙色、外面は明赤褐色を呈する。胎土は明赤褐色ないしにぶい黄橙色で、石英粒、灰色砂粒、黒色砂粒を中量混入する比較的緻密なものである。焼成は普通だが、かなり脆くなっている。破片重量4.8g、後期前葉～後期中葉に比定される。15は甕の頸部～胴部の破片である。頸部には複数の輪積痕を残すタイプで、遺存部分では2段残している。色調は内面外面共に灰黄色を呈する。胎土は灰色で、石英粒、灰色砂

粒、赤色破碎土器粒を少量混入する。焼成は普通だが、かなり脆い。破片重量16.9 g、後期中葉～後期後半に比定される。16は壺の口縁部破片である。口縁は折返して断面は三角形、縁部には摩耗してはつきりしないが、捺糸文の痕跡が残っている。色調は内面外面共に淡黄色を呈する。胎土はにぶい褐色で、白色砂粒、灰色砂粒、黒色砂粒、褐色破碎土器粒を少量混入する比較的緻密なものである。焼成は比較的良好であるが、かなり脆くなっている。破片重量は6.3 g、後期前葉～後期中葉に比定される。17は甕の口縁部破片である。口唇部には棒状工具の押捺による刻みが施される。色調は内面外面共に橙色を呈する。胎土はにぶい褐色で、白色砂粒、灰色砂粒、黒色砂粒、赤色破碎土器粒を少量混入する比較的緻密なものである。焼成はやや悪く、かなり脆くなっている。破片重量は2.4 g、後期中葉～後期後葉に比定される。18は壺の胴部破片である。外面には粒の細かい捺糸文が施され山形沈線により区画される。色調は内面ににぶい黄橙色、外面はにぶい橙色を呈する。胎土は内面と同色で、石英粒、黒色砂粒、白色砂粒、雲母様微粒子を少量、赤褐色破碎土器粒を微量混入する緻密なものである。焼成は比較的良好だが、やや脆くなっている。破片重量7.8 g、後期中葉～後期後半に比定される。19は壺の口縁部破片である。強く外反する口縁部は折返して、口唇部下端にはヘラ状工具による刻みが施される。色調は内面外面共に淡黄色を呈する。胎土は灰黄色で、やや粒の大きい石英粒、灰色砂粒を中量混入するやや緻密なものである。焼成は良好である。破片重量9.0 g、後期前葉～後期中葉に比定される。

2. 奈良・平安時代～古墳時代中期の遺構と遺物

(1) 遺構

古墳時代中期～奈良・平安時代に比定される遺構は、本調査範囲全面で検出された。内訳は土坑11基、ピット群、水田遺構1面などである。土坑群は本調査A区北半部、ピット群は本調査E区中央付近に所在する。水田遺構は本調査区域のほぼ全面で検出されており、さらに東西調査区域外に広がる様相を呈している。なおピット群については正確な時期を推測することができないが、古代面調査時において確認されたことから一応この時期に含めた。

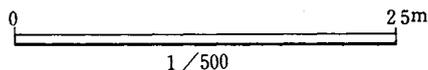
① 土坑 (第22図・第23図)

1号土坑 (第23図1、図版7)

3D-96・3D-97グリッドに所在し、6層上面から掘り込まれる。排水溝で半裁されているため全体の様相は不明だが、おそらく長軸2.0m前後、短軸1.0m前後の東西に長い楕円形の土坑であろう。遺存部分での深さは0.1mで、断面は浅い皿形を呈するものと考えられる。床面は中央付近がやや深くなっているが、硬化部分などは特にみられなかった。覆土は5層土および4層土の混土層であり、覆土中から若干の土師器破片が出土した(第29図1)。



第22図 A区6層上面検出土坑群位置図



2号土坑（第23図2、図版7）

3D-95グリッドに所在し、6層上面から掘り込まれている。排水溝で半裁されているため全容は不明であるが、おそらく長軸1.5m前後、短軸0.8m前後の南北に長い楕円形の土坑であろう。遺存部分の深さは0.4mで、断面は逆釣鐘形を呈するものと考えられる。覆土は5層土及び4層土の混土層で、覆土中から若干の土師器破片が出土したが図示できるものはなかった。

3号土坑（第23図3）

3D-93グリッドに所在し、6層上面から掘り込まれている。長軸1.2m、短軸0.6mで南東-北西方向に主軸を持つ瓢箪形の土坑である。深さは0.3mで、断面は船底形を呈する。覆土は5層土及び4層土の混土層で、覆土中から土師器甕と土師器碗の破片が出土した。（第29図2～4）

4号土坑（第23図4）

4D-03・4D-04グリッドに所在し、6層上面から掘り込まれている。長軸0.8m、短軸0.6mで南東-北西方向に主軸を持つ隅丸長方形の土坑である。深さは0.4mで、断面は逆台形を呈する。覆土は5層土及び4層土の混土層で、覆土からは完型に復元できる土師器杯のほか土師器甕の破片が数点出土した（第29図5～7）。

5号土坑（第23図5、図版7）

4D-02グリッドに所在し、6層上面から掘り込まれている。長軸1.0m、短軸0.7mで南西-北東方向に主軸を持つ長円形の土坑である。深さは0.7mで、短軸断面は逆台形を呈する。覆土は5層土及び4層土の混土層である。遺物は出土しなかった。

6号土坑（第23図6）

4D-14グリッドに所在する。長軸0.6m、短軸0.5mで南北方向に主軸を持つ長円形の土坑である。深さは0.1m以下、断面ははっきりしないが遺存部分では浅い皿形を呈している。覆土は4層土である。掘り込みが非常に浅いことから本来の層位は6層上面ではなく、更に上層であった可能性も考えられる。遺物は出土しなかった。

7号土坑（第23図7）

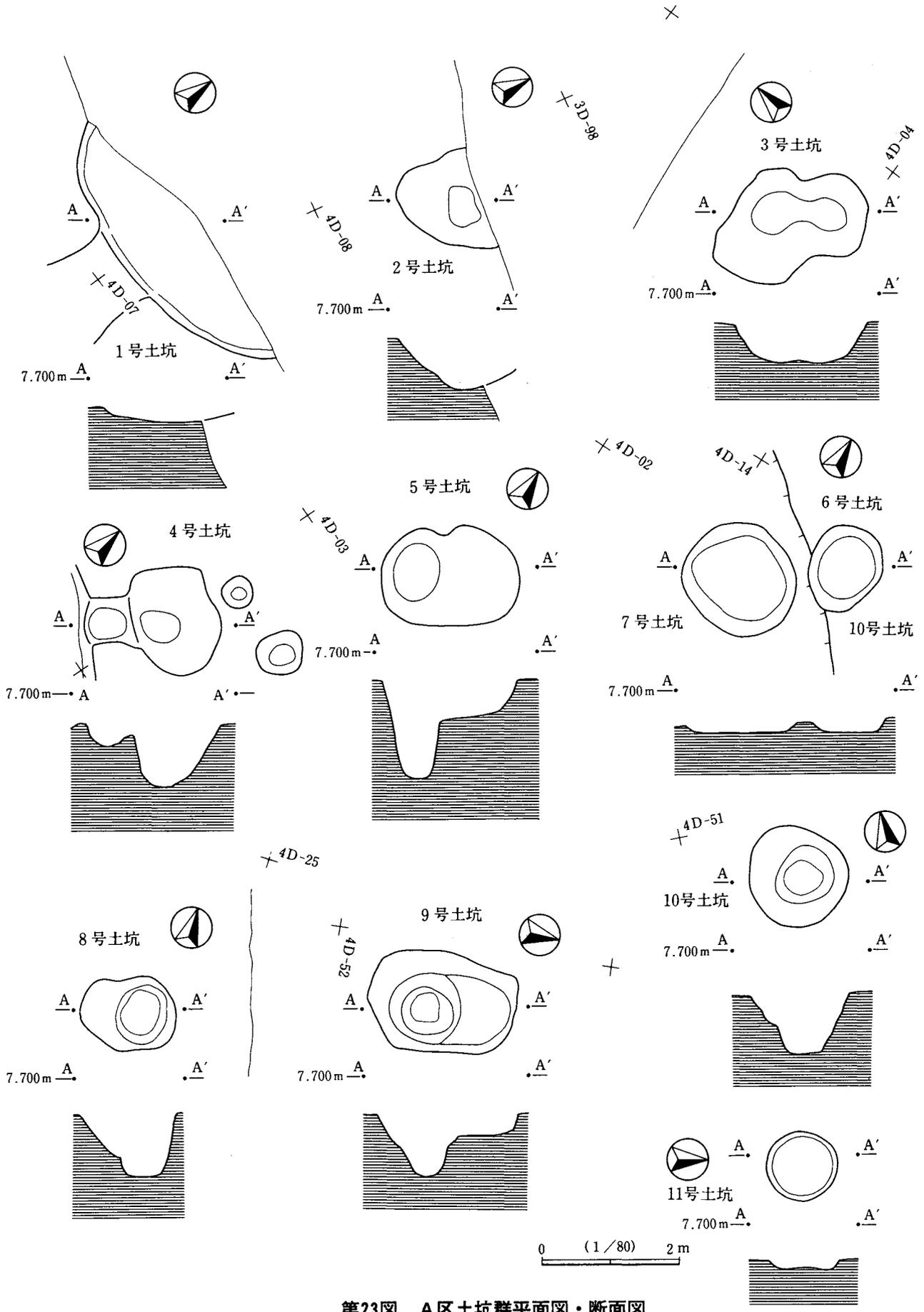
4D-14グリッドに所在し、6層上面から掘り込まれている。長軸0.8m、短軸0.7mで南東-北西方向に主軸を持つ隅丸方形の土坑である。深さは0.1m以下と非常に浅く、断面ははっきりしないが遺存部分では浅い皿形を呈している。覆土は5層土及び4層土の混土層である。ほぼ床面直上から土師器破片が出土している（第29図8）。

8号土坑（第23図8）

4D-24グリッドに所在し、6層上面より掘り込まれている。長軸0.7m、短軸0.5mで、東西方向に主軸を持つ楕円形の土坑である。深さは0.4m前後、断面は漏斗形を呈しており、柱穴の可能性も考えられるが硬化部分などは特に認められなかった。覆土は5層土及び4層土の混土層である。遺物は出土しなかった。

9号土坑（第23図9、図版7）

4D-42グリッドに所在し、6層上面より掘り込まれている。長軸0.9m、短軸0.7mで、南北方向に主軸を持つ長円形の土坑である。深さは0.4m程で、断面は南に偏った漏斗形を呈している。柱穴の可能性も考えられるが、硬化部分などは特に認められなかった。覆土は5層土及び4層土の混土層で、覆土中から



第23图 A区土坑群平面图·断面图

土師器甕の胴部破片が出土した（第29図9）。

10号土坑（第23図10、図版7）

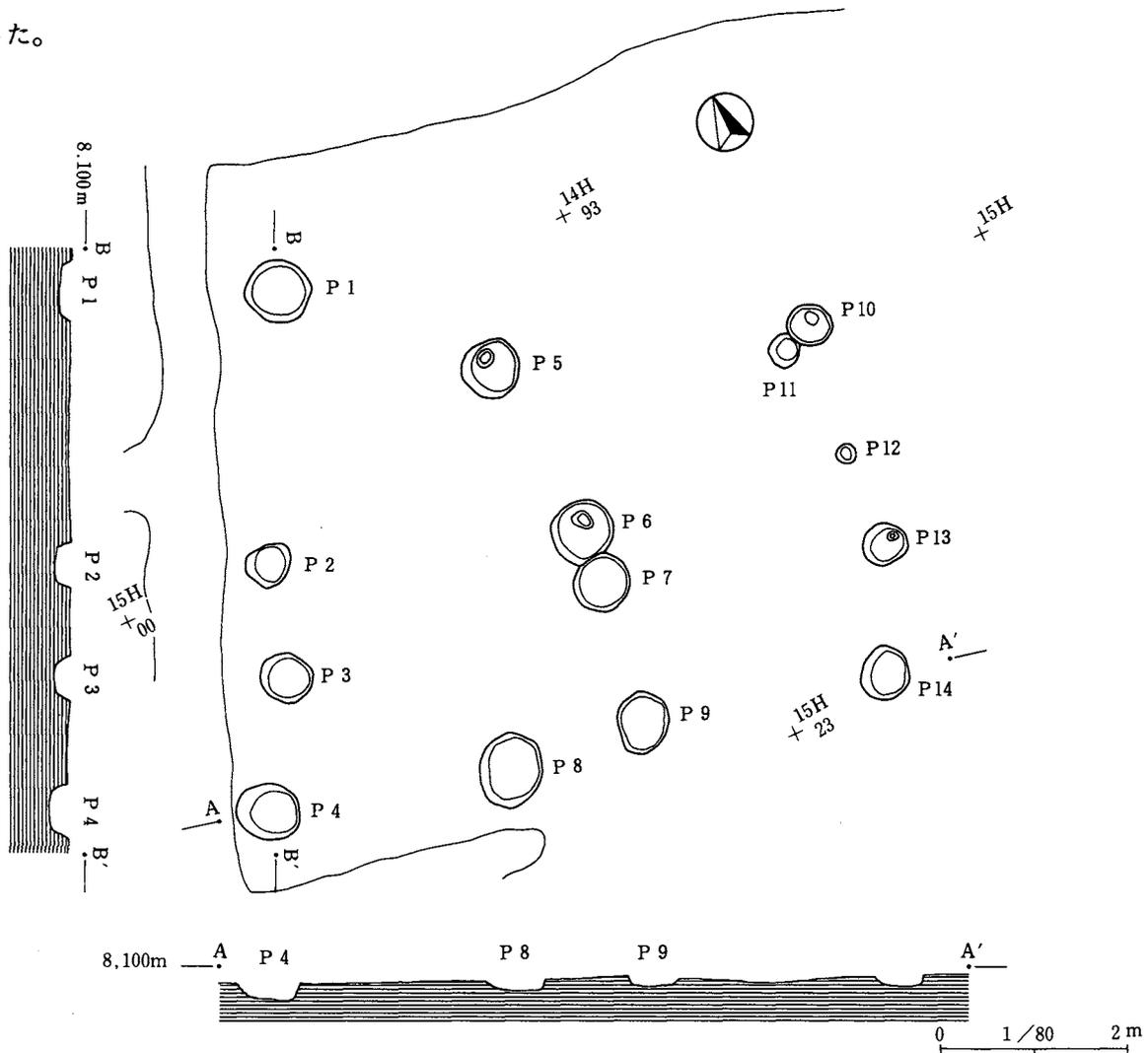
4D-51グリッドに所在し、6層上面より掘り込まれている。直径ほぼ0.8mの円形の土坑である。深さは0.4m前後で、断面がやや深い漏斗形を呈する。形態から柱穴と考えられるが、柱痕や硬化部分は認められなかった。覆土は5層土及び4層土の混土層である。遺物は出土しなかった。

11号土坑（第23図11）

4D-40グリッドに所在する。直径ほぼ0.5mの円形の土坑である。深さはわずか0.1m足らずであり断面形態は不明、さらに上層より掘り込まれていた可能性がある。規模からみて柱穴と考えられるが、柱痕や硬化部分などは検出できなかった。覆土は4層土を主とする。遺物は出土しなかった。

② ピット群（第24図、図版7）

本調査E区中央付近に所在し、9層上面で検出された合計14基からなるピット群である。それぞれ直径0.3m~0.7mと大きさはあまりそろっておらず、並び方も不揃いであるため、即座に掘立柱建物跡と断定するのに躊躇するが、柱痕跡の残っているもの（P-5、P-6）があること、漏斗状の堀形を呈するもの（P-10、P-13）があること、覆土が黒色粘質土（5層土ないし6層土）ですべて共通していることなどから、何らかの柱を伴う施設であった可能性は捨て切れない。なおこれらのピット群から遺物は出土しなかった。



第24図 E区ピット群平面図・断面図

③ 水田跡（第25図～第28図、第11表、図版8・図版10）

確認調査における第6水田面が、この時期にあたるものと考えられる。第6水田面は、A区北端部及びF区西側、H区を除く本調査区域のほぼ全面で検出された。畦畔は確認調査時のものを含めて東西22条、南北21条にわたるがすべて小畦畔であり、その中に正方形を基本形とした水田区画が確実なもので173区画、推定されるものを含めると200区画以上遺存していた。このほかに口分田区画と考えられる畦畔がいくつか見つかっている。調査区北端部では「本来の畦畔」の高まりが検出できた部分もあるが、6層上面検出の畦畔で調査区中央付近のものは「本来の畦畔」の最下部、8層上面検出の畦畔はいわゆる「疑似畦畔B」であり、遺存状態はあまり芳しいものではなかった。このうち比較的状态が良好であったものについて報告する。

5号水田

A区西端で検出された。西側畦畔が確認されなかったため規模ははっきりしないが、西側が現道であることから南北12m、東西7m程度、可耕面積82㎡前後のやや南北に長い長方形と考えられる。畦畔は比較的明瞭であるが、高まりははっきりしなかった。主軸方向はN-4°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口は確認されなかったが、本水田区画を更に南北に2:1で二分する口分田畦畔が検出されている。

6号水田

A区西端で検出された。南北10m、東西7m～8m、可耕面積93㎡のやや南北に長い長方形である。畦畔は比較的是っきりしており、南側畦畔で高まりも見出されたが、北側畦畔がやや不明瞭であった。主軸方向はN-4°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡は検出されなかったが、東側畦畔の中央やや北寄りに7号水田につながる水口が見出された。

11号水田

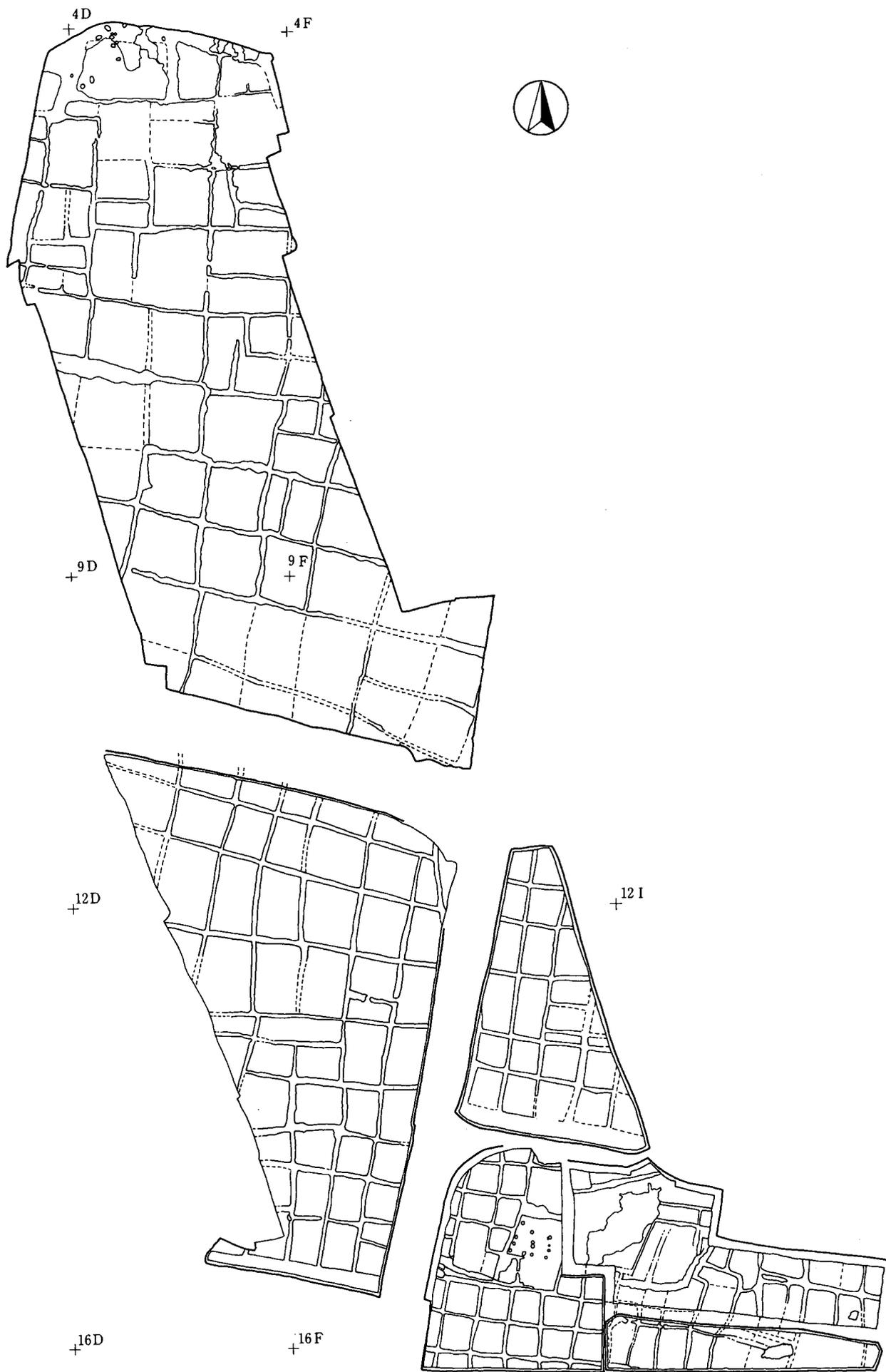
A区南端及びB区北端で検出された。南北10m、東西9m、可耕面積96㎡の、やや台形気味で南北に長い長方形を呈する。畦畔は明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-7°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡は検出されなかったが、西側畦畔の北端に10号水田とつながる水口が確認された。なおこのほかに本水田区画を東西にほぼ二分する口分田畦畔がみついている。

12号水田

A区南端及びB区北端で検出された。北側畦畔が確認されなかったため規模ははっきりしないが、南北11m～12m、東西9m、可耕面積114㎡のやや南北に長い長方形を呈する。見つかった畦畔は明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はほぼ真北である。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口は検出されなかったが、本水田区画を南北にほぼ二分する口分田畦畔がみついている。

14号水田

B区北部で検出された。東側畦畔が確認されなかったため規模ははっきりしないが、南北10m前後、東西14m程度、可耕面積156㎡以上の東西に長い長方形を呈する。見つかった畦畔は明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-3°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口は検出されなかったが、本水田区画を東西に2:1で区画し、



第25図 第6水田面全体図

さらにその東側を南北に1:2で区画する“ト”字形の口分田畦畔がみついている。

16号水田

B区北端で検出された。南北7m~8m、東西10~11m、可耕面積89㎡の、やや東西に長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-4°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡は検出されなかったが、南側畦畔の西端に21号水田とつながる水口が確認された。なおこのほかに本水田区画を南北にほぼ二分し、さらにその南側を東西にほぼ二分する口分田畦畔がみついている。

17号水田

B区北端で検出された。南北12m、東西7m、可耕面積94㎡の、南北に長い長方形を呈する。畦畔は明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-4°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や口分田畦畔は検出されなかったが、東側畦畔の南端に18号水田とつながる水口が確認された。

19号水田

B区北半部で検出された。南北15m、東西14m、可耕面積220㎡の、南北にわずかに長い方形を呈する。畦畔は明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-2°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡は検出されなかったが、本水田区画を南北にほぼ二分する口分田畦畔がみついている。また西側畦畔の中央付近に18号水田とつながる水口が口分田畦畔を挟んで南北に1ヶ所ずつ確認された。

24号水田

B区中央部で検出された。南北・東西共に13m~14m、可耕面積198㎡のほぼ正方形を呈する。畦畔は明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-6°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡は検出されなかったが、本水田区画を東西にほぼ二分し、さらに東側を南北にほぼ二分する口分田畦畔がみついている。また南側畦畔の西端には29号水田とつながる水口が確認された。

30号水田

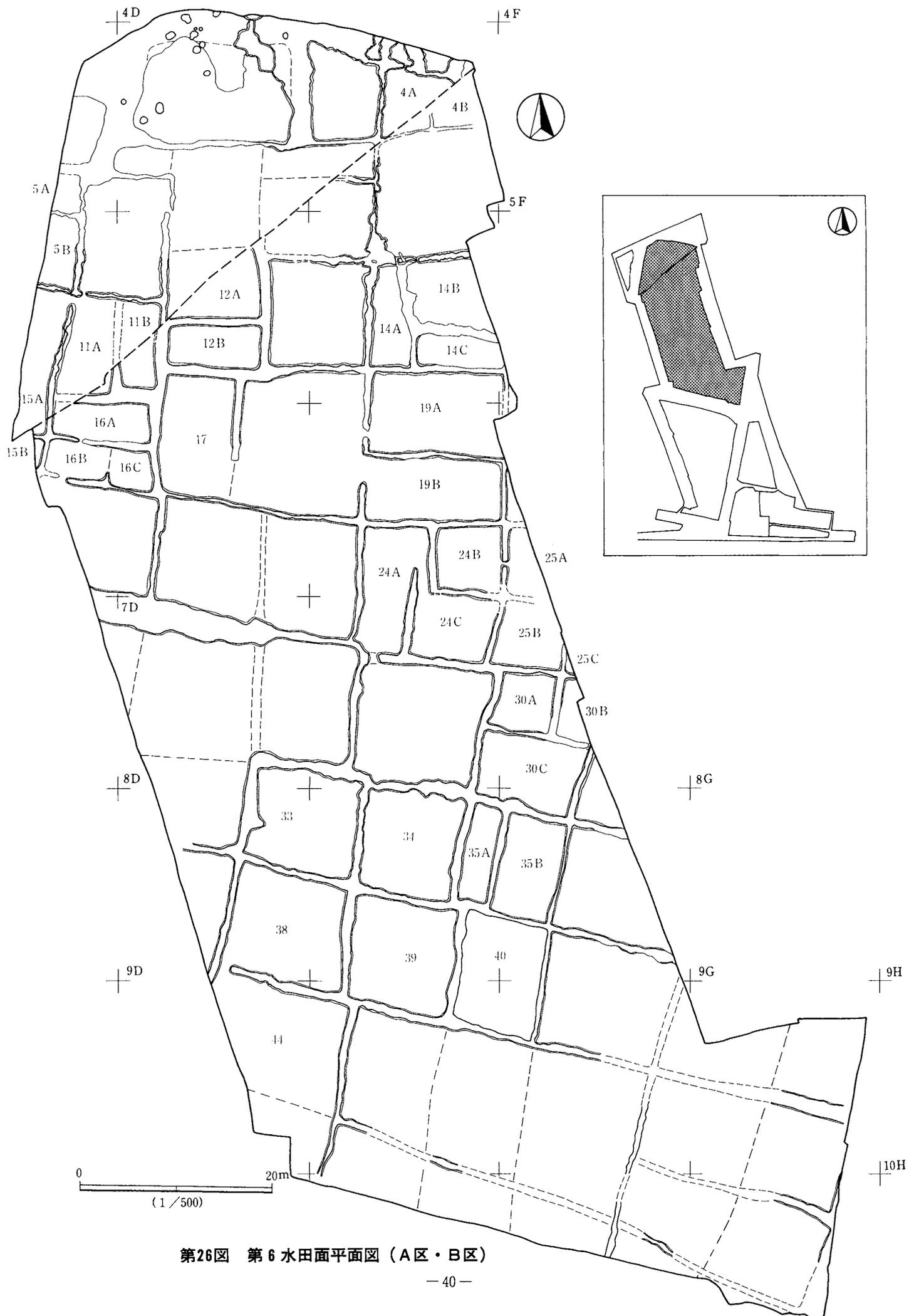
B区中央部で検出された。南北13m~14m、東西10~11m、可耕面積143㎡の、やや南北に長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-15°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口は検出されなかったが、本水田区画を南北にほぼ二分し、さらにその北側を東西にほぼ二分する口分田畦畔がみついている。

33号水田

B区中央部で検出された。南北9m~10m、東西11~12m、可耕面積113㎡の、東西にわずかに長い方形を呈する。畦畔は明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-10°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

34号水田

B区中央部で検出された。南北10m、東西11m、可耕面積108㎡の、東西にわずかに長い方形を呈する。



第26图 第6水田面平面图 (A区・B区)

畦畔は明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-9°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔などは検出されなかった。

35号水田

B区中央部で検出された。南北、東西共に10m、可耕面積106㎡の、ほぼ正方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-11°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土ないし3e層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口は検出されなかったが、本水田区画を東西に2:1で二分する口分田畦畔がみついている。

38号水田

B区南側で検出された。南北11m前後、東西11m~13m、可耕面積133㎡の、東西にわずかに長い方形を呈する。畦畔は明瞭で、すべての畦畔からわずかに高まりが見出された。主軸方向はN-11°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土ないし3e層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や口分田畦畔は検出されなかったが、南側畦畔西端に44号水田につながる水口を確認した。

39号水田

B区南部で検出された。南北11m、東西10m~11m、可耕面積121㎡の、ほぼ正方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、すべての畦畔から若干の高まりが見出された。主軸方向はN-7°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土ないし3e層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

40号水田

B区南部で検出された。南北11m前後、東西8m、可耕面積100㎡の、南北に長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、畦畔の高まりははっきりしなかった。主軸方向はN-9°-Eである。水田面の基盤層は6層で、これに4層土ないし3e層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

59号水田

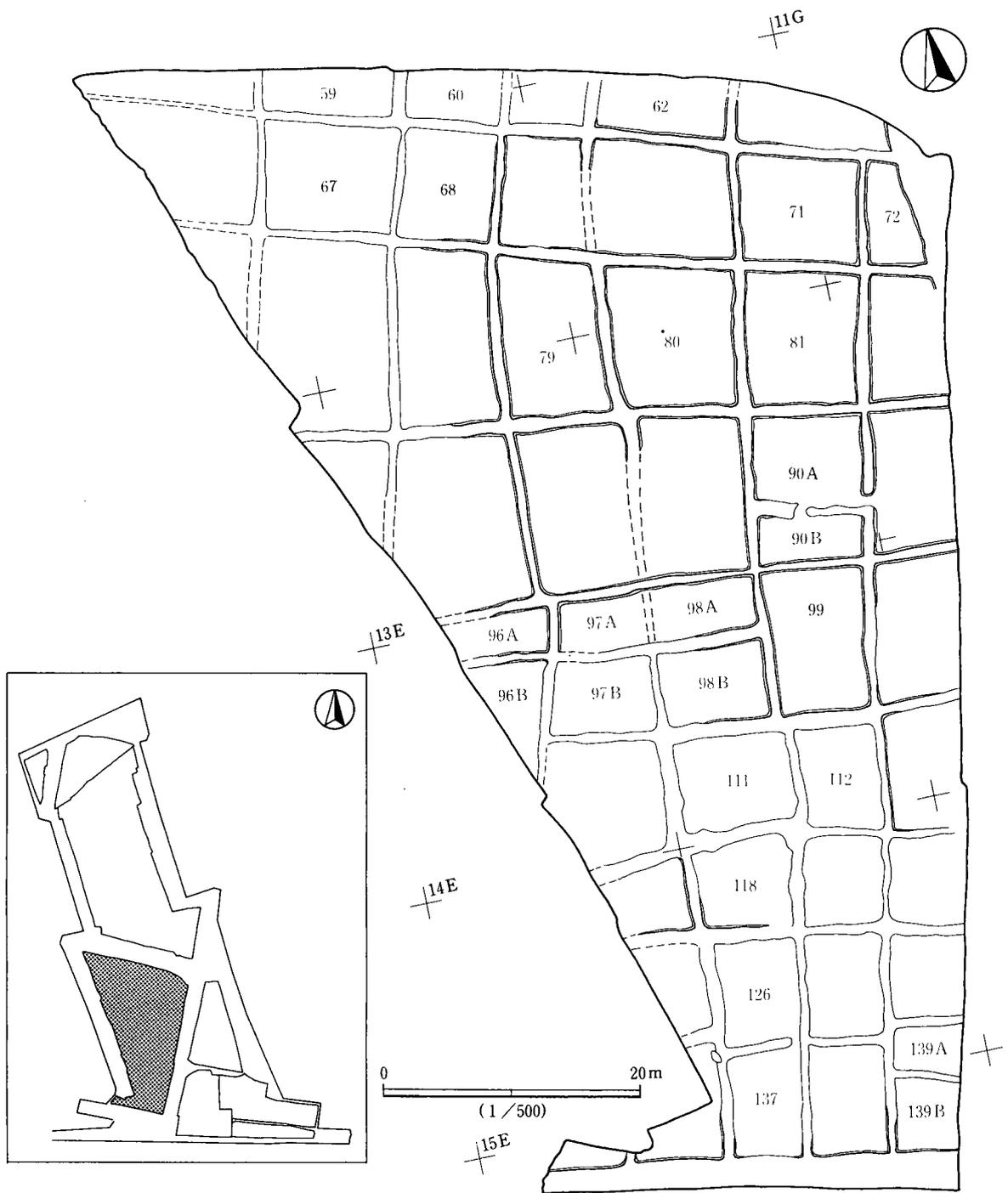
C区北端で検出された。北側畦畔が検出されていないので規模ははっきりしないが、北側が現道であることから南北、東西共に10m程度、可耕面積100㎡前後の、ほぼ正方形を呈するものと考えられる。畦畔は明瞭だが疑似畦畔Bであるため、高まりは確認されなかった。主軸方向はN-11°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

60号水田

C区北端で検出された。北側畦畔が検出されていないので規模ははっきりしないが、北側が現道であることから南北10m前後、東西7m程度、可耕面積80㎡前後の、南北に長い長方形を呈するものと考えられる。畦畔は明瞭だが疑似畦畔Bであるため、高まりは確認されなかった。主軸方向はN-16°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

62号水田

C区北端で検出された。北側畦畔が検出されていないので規模ははっきりしないが、北側が現道である



第27図 第6水田面平面図（C区）

ことから南北、東西共に10m前後、可耕面積100㎡前後の、ほぼ正方形を呈するものと考えられる。畦畔は明瞭だが疑似畦畔Bであるため、高まりは確認されなかった。主軸方向はN-17°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

67号水田

C区北部で検出された。南北9m、東西10m、可耕面積86㎡の、わずかに東西が長い方形を呈する。畦

畔は明瞭だが疑似畦畔Bであるため、高まりは見出せなかった。主軸方向は $N-11^{\circ}-E$ である。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や口分田畦畔は確認されなかった。水口も検出されていないが、東側畦畔の北端部に極端に幅の狭いところがあることからあるいはここが68号水田につながる水口であった可能性がある。

68号水田

C区北部で検出された。南北8 m～9 m、東西7 m、可耕面積62㎡の、南北に長い長方形を呈する。畦畔は明瞭で、高まりが南側畦畔と東側畦畔で確認された。主軸方向は $N-17^{\circ}-E$ である。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

71号水田

C区北部で検出された。南北8 m、東西9 m、可耕面積77㎡の、東西にわずかに長い方形を呈する。畦畔は明瞭だが、疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向は $N-11^{\circ}-E$ である。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

72号水田

C区北東隅で検出された。南北8 m、東西2 m～4 m、可耕面積30㎡の、南北に長い不整な方形を呈する。畦畔は明瞭だが、疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。ただ東側畦畔は非常に幅が広く調査区域外にまで広がっているため大畦畔もしくは中畦畔の可能性がある。主軸方向は $N-2^{\circ}-E$ である。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

74号水田

D区北部で検出された。南北6 m、東西5 m～6 m、可耕面積41㎡の南北がわずかに長い方形を呈する。畦畔は明瞭だが、疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向は $N-9^{\circ}-E$ である。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

79号水田

C区中央部で検出された。南北12 m～13 m、東西7 m～8 m、可耕面積91㎡の南北が長い長方形を呈する。畦畔は明瞭で、すべての畦畔からわずかに高まりが確認された。主軸方向は $N-3^{\circ}-E$ である。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

80号水田

C区中央部で検出された。南北10 m～11 m、東西8 m～10 m、可耕面積100㎡の南北がやや長い方形を呈する。畦畔は明瞭で、すべての畦畔からわずかに高まりが確認された。主軸方向は $N-5^{\circ}-E$ である。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

81号水田

C区中央部で検出された。南北11 m、東西9 m～11 m、可耕面積88㎡の南北がやや長い方形を呈する。畦畔は明瞭で、すべての畦畔からわずかに高まりが確認された。主軸方向は $N-11^{\circ}-E$ である。水田面

の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

84号水田

D区中央部で検出された。南北8m～9m、東西5m、可耕面積48㎡の南北が長い長方形を呈する。畦畔は明瞭だが、すべての畦畔が疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-9°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は検出されなかった。

90号水田

C区中央部で検出された。南北11m、東西8m、可耕面積93㎡の南北が長い長方形を呈する。畦畔は明瞭で、すべての畦畔からわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-9°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡は確認されなかったが、本水田区画を南北に1:2で二分する口分田畦畔があり、この区分で畦畔中央及び東側畦畔の中央付近に91号水田につながる水口が見出された。

94号水田

D区中央部で検出された。南北11m～12m、東西7m、可耕面積83㎡の南北が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべての畦畔が疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-9°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口は確認されなかったが、本水田区画を南北にほぼ三分する口分田畦畔を検出した。

96号水田

C区中央部で検出された。西側畦畔と南側畦畔が見出されなかったため規模ははっきりしないが、南北12m程度、東西6mの南北が長い長方形を呈するものと考えられる。畦畔は比較的明瞭で、北側畦畔からわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-12°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口は確認されなかったが、本水田区画を南北に1:2で程度で二分する口分田畦畔が見出された。

97号水田

C区中央部で検出された。南北10m～11m、東西8m、可耕面積78㎡の南北が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、北側畦畔からわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-13°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口は確認されなかったが、本水田区画を南北に1:2で程度で二分する口分田畦畔が見出された。

98号水田

C区中央部で検出された。南北11m、東西8m、可耕面積90㎡の南北が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、北側畦畔からわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-6°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口は確認されなかったが、本水田区画を南北に1:2で程度で二分する口分田畦畔が見出された。

99号水田

C区中央部で検出された。南北11m前後、東西7m～8m、可耕面積80㎡の南北が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、北側畦畔からわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-6°-Eである。水田

面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は見出されなかった。

101号水田

D区南部から検出された。南北5 m～6 m、東西5 m前後、可耕面積30㎡の南北がわずかに長い方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべてが疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-10°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は見出されなかった。

102号水田

D区南部から検出された。南北、東西共に6 m前後、可耕面積30㎡の南北がわずかに長い方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべてが疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-9°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は見出されなかった。

103号水田

D区南部から検出された。南北、東西共に6 m前後、可耕面積30㎡の南北がわずかに長い方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべてが疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-9°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は見出されなかった。

111号水田

C区中央部で検出された。南北7 m、東西8 m～9 m、可耕面積61㎡の東西が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべてが疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-4°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

112号水田

C区中央部で検出された。南北8 m前後、東西6 m前後、可耕面積46㎡の南北が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべてが疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-7°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

118号水田

C区南部で検出された。南北6 m～7 m、東西7 m前後、可耕面積47㎡の東西が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、西側畦畔及び南側畦畔からわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-6°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

122号水田

E区北端で検出された。南北5 m、東西5 m～6 m、可耕面積27㎡の東西がわずかに長い方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべてが疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-12°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

123号水田

E区北端で検出された。南北5 m、東西4 m～5 m、可耕面積25㎡の南北が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべて疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-9°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

126号水田

C区南部で検出された。南北8 m前後、東西6 m前後、可耕面積55㎡の東西が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべて疑似畦畔であるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-7°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や口分田畦畔は確認されなかったが、南側畦畔東端に137号水田につながる水口が見出された。

130号水田

E区中央部で検出された。南北5 m、東西6 m、可耕面積29㎡の東西が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべて疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-12°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

131号水田

E区中央部で検出された。南北5 m前後、東西4 m前後、可耕面積21㎡の南北が長い長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべて疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-16°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

134号水田

E区中央部で検出された。南北4 m前後、東西3 m～4 m、可耕面積12㎡の南北が長い逆台形気味の長方形を呈する。畦畔は比較的明瞭だが、すべて疑似畦畔Bであるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-17°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

139号水田

C区南端で検出された。東側畦畔が確認されていないため規模ははっきりしないが、東側が現道であることから南北10 m前後、東西8 m前後、可耕面積77㎡程度の南北が長い長方形を呈するものと考えられる。畦畔は比較的明瞭だが、すべて疑似畦畔であるため高まりは確認されなかった。主軸方向はN-10°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口は確認されなかったが、本水田区画を南北に2：1で二分する口分田畦畔が見出された。

147号水田

E区中央部で検出された。南北、東西共に5 m～6 m、可耕面積32㎡のほぼ正方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、すべての畦畔からごくわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-10°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

148号水田

E区中央部で検出された。南北5 m～6 m、東西5 m前後、可耕面積28㎡のほぼ正方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、すべての畦畔からごくわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-9°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

149号水田

E区南部で検出された。南北5 m～6 m、東西5 m前後、可耕面積29㎡のわずかに南北が長い方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、南側畦畔からはごくわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-5°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

150号水田

E区南部で検出された。南北5 m前後、東西6 m前後、可耕面積33㎡のわずかに東西が長い方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、東側畦畔及び南側畦畔からはごくわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-8°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

153号水田

E区南部で検出された。南北、東西共に5 m～6 m、可耕面積33㎡のほぼ正方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、すべての畦畔からごくわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-11°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

154号水田

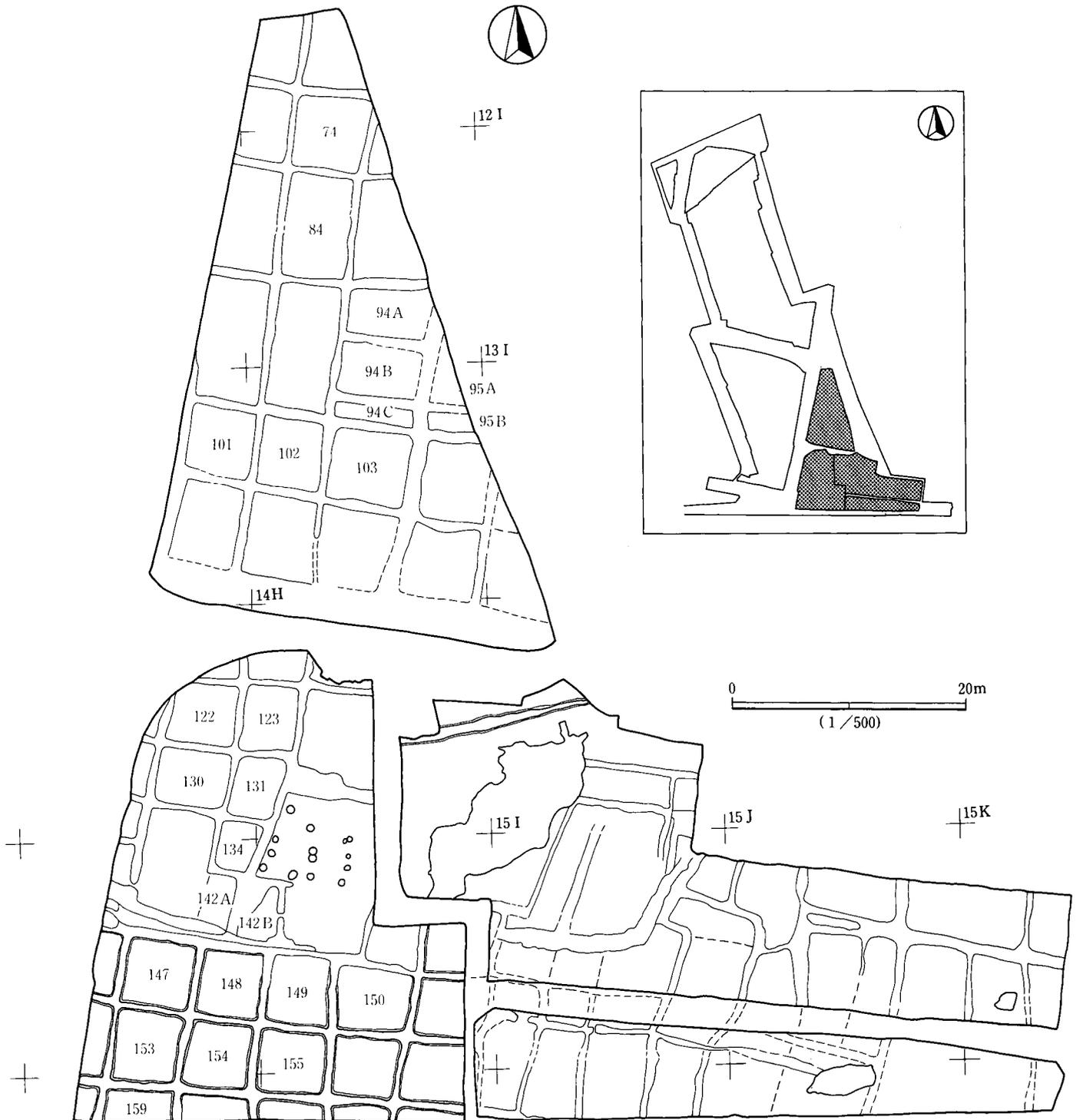
E区南部で検出された。南北6 m、東西5 m～6 m、可耕面積28㎡のほぼ正方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、すべての畦畔からごくわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-10°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

155号水田

E区南部で検出された。南北、東西共に5 m前後、可耕面積29㎡のほぼ正方形を呈する。畦畔は比較的明瞭で、すべての畦畔からごくわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-7°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。

159号水田

E区南端で検出された。南側畦畔が確認されていないので規模ははっきりしないが南側が現道であることから南北、東西共に6 m程度、可耕面積35㎡程度のほぼ正方形を呈するものと考えられる。畦畔は比較的明瞭で、すべての畦畔からごくわずかに高まりが確認された。主軸方向はN-9°-Eである。水田面の基盤層は8層で、これに3e層土が中量斑状に混入する。鋤の痕跡や水口、口分田畦畔は確認されなかった。



第28图 第6水田面平面图 (D区~G区)

(2) 遺物

この時期に比定される遺物は本遺跡出土遺物の過半を占めている。出土量としては古墳時代後期から奈良・平安時代の土師器が最も多く、ついで須恵器、古墳時代中期の土師器、灰釉陶器、瓦、その他遺物の順である。遺構から出土したものを除き、完型まで復元しうる遺物はほとんど皆無に近い状態で、大半は器形どころか器種すら判別するのが困難なほどの小破片であるため、以下に述べる遺物はそのごく一部でしかない。また特に土師器については概して磨耗が著しく、ほとんど接合しなかった。出土層位は北部が1層～6層上面、南部が1層～9層上面にまたがっているが、北部では3層～4層、南部では3e層～8層に集中する傾向が見られるようである。平面的には、北部に比較的古い段階（古墳時代中期～後期）の遺物が多く、南部に比較的新しい段階（奈良・平安時代）の遺物が多い。

① 遺構出土遺物（第29図、第13表・第14表、図版24）

11基からなるA区土坑群のうち、1号～4号、7号、9号の各土坑から遺物が出土した。いずれも古墳時代中期～後期に比定される土師器であるが、小破片が多く、図示しうるものは以下に記す土師器碗2個体、土師器甕3個体、土師器杯1個体である。なおE区ピット群からはわずかながら土師器破片が出土したが、いずれも小破片であり図示しうるものではない。

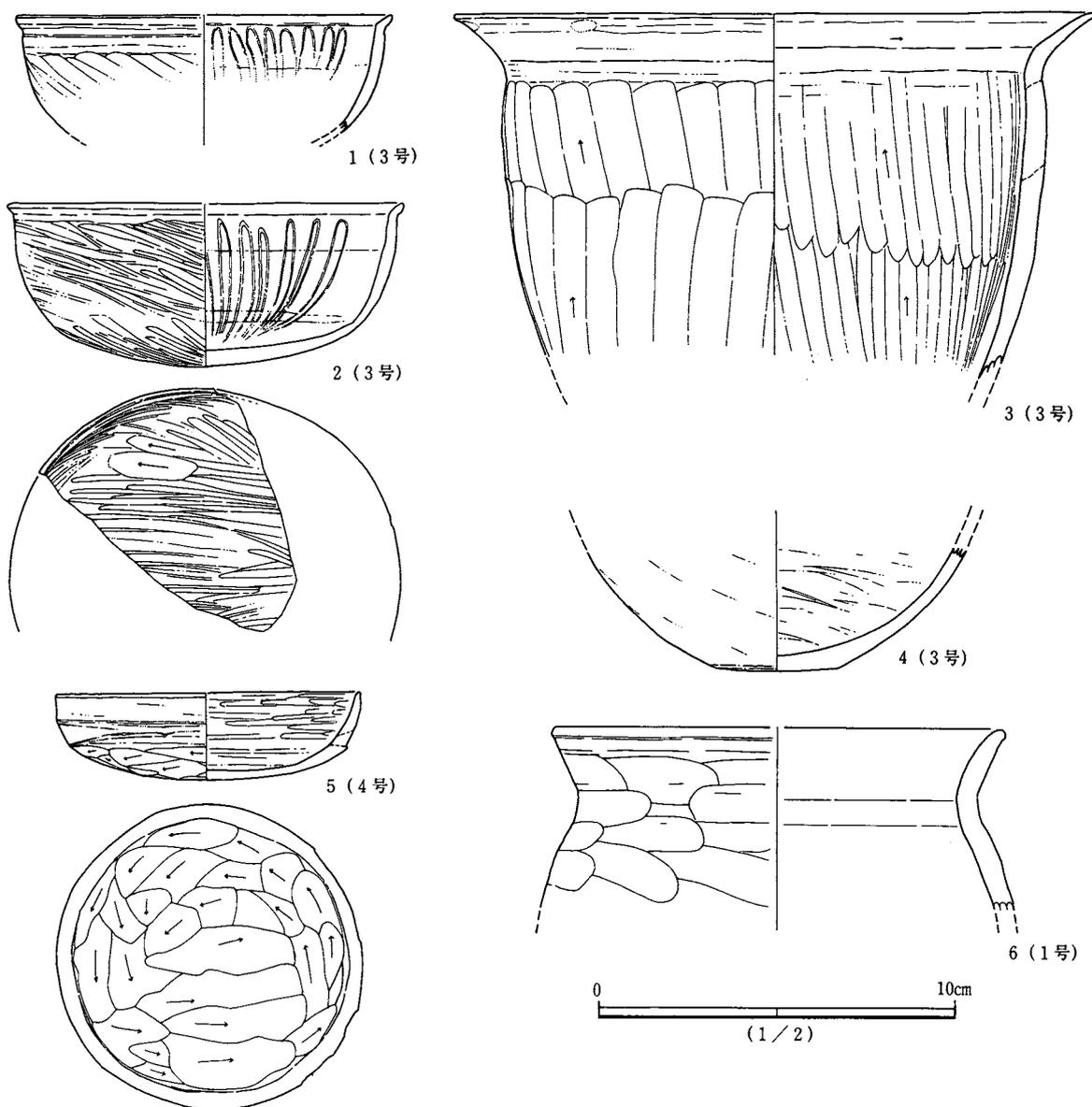
1は土師器碗の口縁部破片で、3号土坑覆土下層から出土した。復元口径15.6cm、遺存部分の器高は5.0cmである。体部は如意形に立ち上がり、口唇部のみ外反するタイプである。外面は体部が斜め方向の手持ちヘラケズリ、口縁部及び内面が横ナデで調整され、内面には不明瞭ながら放射状のヘラ暗文が施される。色調は外面が淡黄色ないし浅黄色、内面はにぶい黄橙色を呈する。胎土は淡黄色で、雲母様微粒子を多量、石英粒を中量、黒色粒子を少量含みやや緻密である。焼成は比較的良好だが若干脆くなっている。

2は土師器碗の復元可能な破片で、3号土坑覆土下層から出土した。復元口径16.3cm、復元底径11.8cm、器高6.9cmである。体部は如意形に立ち上がり、口唇部のみやや外反する。体部外面は斜め方向のヘラミガキ、口唇部および内面は横ナデで調整され、内面には不明瞭ながら放射状ヘラ暗文が施される。色調は外面が浅黄橙色ないし橙色、内面は淡黄色を呈する。胎土は内面とほぼ同色で、石英粒・白色粒子・雲母様微粒子をそれぞれ中量含み、比較的緻密である。焼成は比較的良好で、よくしまっているが若干脆くなっている。

3は土師器甕の口縁部から体部の破片で、3号土坑覆土下層から出土した。復元口径26.4cm、遺存部分での器高15.5cm、頸部径20.9cm、胴部最大径は22.8cmで胴部上半にある。体部はあまり膨らまずに立ち上がり、頸部はすぼまらず強く外反する。口縁部は肥厚せず直線的に広がる。体部外面は縦方向の規格的なヘラケズリ、体部内面は縦方向の規格的なヘラミガキ、頸部から口縁部は内面外面共に横ナデで調整される。色調は外面が浅黄色ないし黒色、内面がにぶい黄橙色を呈する。胎土は淡黄色で、破碎土器粒が目立つほか、石英微粒子を中量、白色粒子などを少量含み、比較的緻密である。焼成は普通だがよくしまっている。

4は土師器甕の底部破片で、3号土坑覆土下層から出土した。底径5.1cm、遺存部分の器高は5.1cmである。底面は若干丸みを帯びており安定しない。磨耗しているためはっきりしないが、外面が斜め方向のヘラケズリ、内面はヘラミガキが施されているようである。色調は外面が橙色ないし淡黄色で黒斑部分のみ黒色、内面は灰色を呈する。胎土は内面と同色で、破碎土器粒が目立つほか、白色粒子と黒色砂粒を中量、雲母様微粒子を少量、石英粒を微量含み、緻密である。焼成は比較的良好で、しまっているが若干脆くなっている。

5はほぼ完型に復元しうる杯蓋模倣の土師器杯で、4号土坑覆土下層から出土した。口径12.6cm、底径11.6cm、器高3.7cm、内面底径は7.4cmである。内面は全面に横方向のヘラミガキ、



第29図 出土遺物実測図(2) 遺構出土遺物

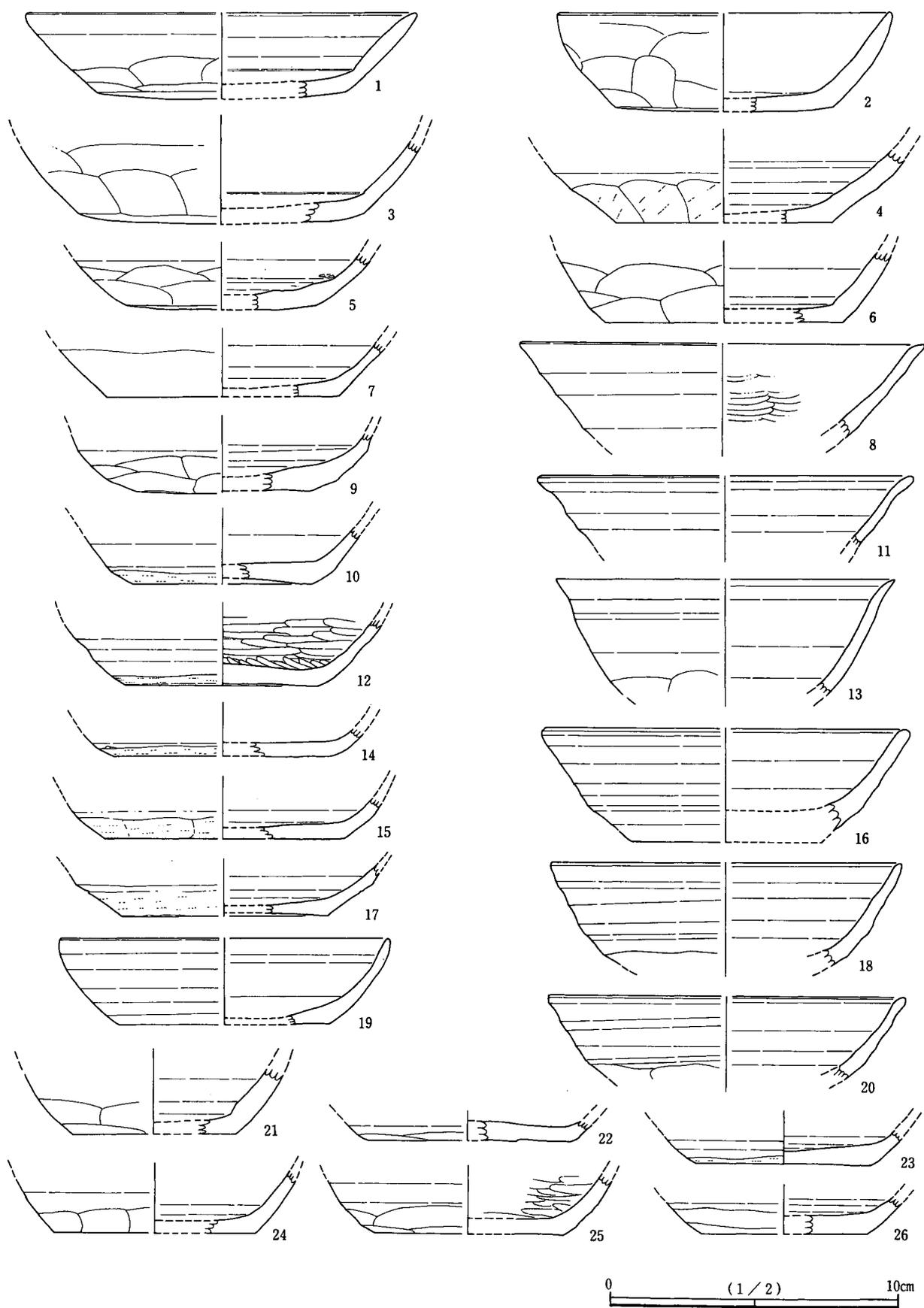
外面は口縁付近が横ナデ、体部及び底部は手持ちヘラケズリが施され、体部にはわずかに輪積痕が残る。色調は内面外面共に淡黄色ないし灰白色を呈する。胎土は淡黄色で、雲母様微粒子を多量、石英粒、黒色砂粒、破碎土器粒をそれぞれ少量含み、緻密である。焼成は比較的良好で、しまっているが若干脆くなっている。6は土師器甕の口縁部～体部破片で、1号土坑覆土下層から出土した。復元口径12.8cm、遺存部分での器高5.1cm、頸部径10.2cmである。体部はあまり膨らまずに立ちあがり、頸部はあまりすぼまらず、“く”字形に折れ曲がる。口縁部はわずかに肥厚し、ほぼ直線的に広がる。体部は外面が斜め方向のヘラケズリ、内面は丁寧な横ヘラナデ、頸部～口縁部は内面外面共に横ヘラナデを施す。色調は内面外面共に赤褐色、胎土も同色でやや粗く、白色粒子や砂粒、雲母様微粒子などを中量含む。焼成は比較的良好で、しまっているがやや磨耗している。

② 土師器 (第30図～第48図、第18表・第19表、図版12～図版16)

ア. 杯類 (第30図～第34図、第13表、図版12～図版14)

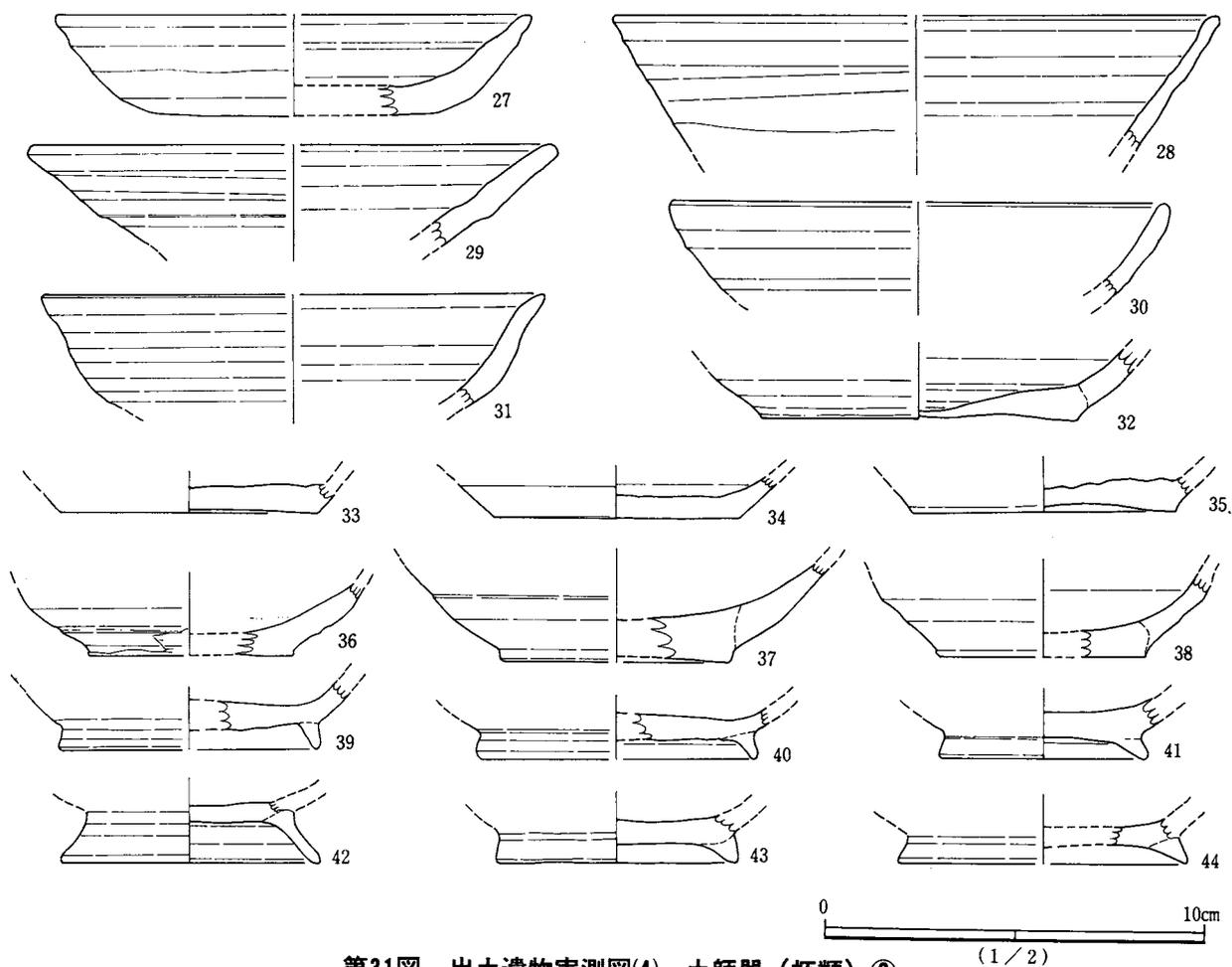
1～3はいわゆる非ロクロ土師器杯の破片である。1は復元口径13.6cm、復元底径8.6cm、器高3.1cmで、外面は底部および体部下半を手持ちヘラケズリで調整し、底部はやや丸みを帯びる。それ以外の部分は横ナデの痕跡を残すが、磨耗しているためはっきりしない。底部内面と体部は明確に区別される。色調はにぶい橙色、胎土は黄灰色を呈し、白色粒子と灰色粒子を少量、破碎土器粒と雲母様微粒子を微量含み、緻密である。焼成はやや悪い。2は復元口径11.4cm、復元底径7.6cm、器高3.6cmで、底部と体部外面を手持ちヘラケズリ調整し、底部はやや丸みを帯びる。内面は磨耗しておりよくわからないが、底部内面と体部は明確に区別される。色調は橙色ないし淡黄色、褐灰色、胎土は橙色ないし褐灰色を呈し、雲母様微粒子を多量、破碎土器粒を中量、黒色粒子を少量含み、緻密である。焼成は普通で、しまっではいるが若干脆くなっている。3は復元底径10.0cmで、外面は底部と外面下半を手持ちヘラケズリ調整し、底部はやや丸みを帯びる。内面は磨耗しており不明だが、底部内面と体部は浅い沈線で明瞭に区分される。色調は橙色ないし浅黄橙色を呈する。胎土もほぼ同色で、灰色砂粒と白色粒子を中量、雲母様微粒子と破碎土器粒を少量含み、緻密である。焼成は普通であるがやや脆くなっている。

4～35はいわゆるロクロ土師器の破片である。4は復元底径7.6cmの杯形で、底部は回転ヘラ切り、体部下半は手持ちヘラケズリで調整し、それ以外の部分には弱いロクロ目を残す。底部は平坦である。色調はにぶい橙色ないし橙色を呈する。胎土も同色で、白色粒子と雲母様微粒子を中量、黒色砂粒と破碎土器粒を少量含み、やや粗い。焼成は良好で、よくしまっている。5は復元底径6.5cmの杯形で、底部と体部下半を手持ちヘラケズリで調整し、それ以外の部分に弱いロクロ目を残す。底部はやや丸みを帯びる。色調は浅黄橙色ないし橙色、胎土は橙色を呈し、雲母様微粒子を少量含む。非常に緻密である。焼成はやや悪く脆くなっている。6は復元底径8.2cmの杯形で、底部は回転ヘラ切り、体部下半は手持ちヘラケズリを施し、それ以外の部分にはロクロ目を残すが、磨耗しているためはっきりしない。底部は平坦である。色調は橙色、胎土も同色で、白色粒子を少量、破碎土器粒や雲母様微粒子を微量含み、緻密である。焼成はやや良好で、よくしまっているが脆くなっている。7は復元底径8.1cmの杯形で、底部及び体部下半を回転ヘラケズリ調整し、それ以外の部分に弱いロクロ目を残す。底部は平坦であるが、底部最大厚は外周にある。色調は内面が灰黄色ないし黒褐色、外面は褐灰色、胎土は明黄褐色を呈し、白色粒子と石英粒子を中量、灰色粒子と破碎土器粒を少量のほか、白色針状物質(海綿状骨針)を少量含む。比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。8は復元口径14.0cmの杯形で、内面は丁寧なヘラミガキを施し、黒色処理している。外面にはやや明瞭なロクロ目を残す。薄手のつくりで、口唇部はやや外側につまみ出されている。色調は内面が黒色、外面は淡黄橙色ないし浅黄橙色を呈する。胎土は外面と同色で、雲母様微粒子を中量、白色粒子を少量のほか、白色針状物質を少量含む。比較的緻密である。焼成は普通だがよくしまっている。9は体部下半と底部を手持ちヘラケズリで調整し、それ以外の部分には弱いロクロ目を残す杯形である。調整が大雑把であるため底径ははっきりしないが、推定で6.0cm程度になるものと考えられる。色調は灰黄褐色ないし橙色を呈する。胎土も同色で、白色粒子と石英粒子を少量、雲母様微粒子を微量含むほか、黄色の破碎土器粒を多量に含む。比較的緻密である。焼成は普通でやや脆くなっている。10は復元底径6.1cmの杯形で、底部と体部下半に回転ヘラケズリを施し、それ以外は弱いロクロ目を残すが磨耗しておりはっきりしない。底部最大径厚は外周にある。色調は灰黄色ないし橙色を呈する。



第30图 出土遺物実測図(3) 土師器(杯類)①

胎土は浅黄橙色で、白色粒子と破碎土器粒、雲母様微粒子を中量、黑色砂粒と石英粒を少量含み、やや粗い。焼成は普通で、しまっではいるが若干脆くなっている。11は復元口径12.8cmの杯形で、内面外面共に強いロクロ目を残す。薄手のつくりで、口唇部が若干外反する。色調は浅黄橙色を呈する。胎土も同色で、灰色粒子を中量、白色粒子と白色針状物質を少量、雲母様微粒子を若干量含む。やや緻密である。焼成は良好で、よくしまっではいるが若干脆くなっている。12は復元底径6.5cmの杯形で、内面は丁寧な横方向のヘラミガキ、底部と体部下端は回転ヘラケズリで調整し、体部外面にやや強いロクロ目を残す。底部最大厚は中央付近にある。色調は浅黄色ないし淡黄色、胎土は淡黄色を呈し、白色粒子を中量、破碎土器粒を少量、雲母様微粒子と灰色石粒を若干量含む。比較的緻密であるがダマが多い。焼成は良好でよくしまっではいる。13は復元口径11.8cm、やや薄手のつくりの碗形で、口唇部は断面が尖り外反する。磨耗しているためはっきりしないが、体部下半を手持ちヘラケズリ、それ以外には弱いロクロ目を残しているようである。色調は橙色を呈する。胎土も同色で、白色粒子を中量、石英粒と灰色粒子、雲母様微粒子をそれぞれ少量含む。緻密である。焼成は良好で、よくしまっではいるが脆くなっている。14は復元底径7.6cmの杯形で、底部回転糸切りの後、底部外周と体部下端に回転ヘラケズリ調整を施し、それ以外の部分は弱いロクロ目を残す。色調は浅黄橙色を呈する。胎土も同色で、白色粒子と雲母様微粒子、破碎土器粒などをそれぞれ少量含む。比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっではいる。15は復元底径8.2cmの杯形で、底部と体部下半に回転ヘラケズリを施し、それ以外の部分には弱いロクロ目を残す。内面は底部と体部が明瞭に区別される。色調は浅黄橙色を呈する。胎土も同色で、白色粒子がやや目立つほか、黑色粒子と石英粒、破碎土器粒などをそれぞれ少量含む。比較的粗い。焼成は比較的良好でよくしまっではいる。16は復元口径12.5cm、やや厚手のつくりの杯形で、内面には弱いロクロ目、外面には比較的強いロクロ目を残す。色調は浅黄橙色ないし淡橙色、胎土は淡橙色で、白色粒子、灰色砂粒を少量、雲母様微粒子を微量含み、やや粗い。焼成は良好で、よくしまっではいるが若干脆くなっている。17は復元底径7.2cmの杯形で、底部と体部下半に回転ヘラケズリを施し、それ以外の部分に弱いロクロ目を残す。底部最大厚は外周にあり、内面の底部と体部は明瞭に区別されない。色調は橙色、胎土も同色で、白色粒子と雲母様微粒子を中量、黑色砂粒と破碎土器粒を少量含む。焼成は良好で、よくしまっではいるが若干脆くなっている。18は復元口径12.2cmの碗形である。体部下半を回転ヘラケズリ調整し、それ以外の部分には強いロクロ目を残す。色調はにぶい橙色ないし浅黄橙色、胎土は橙色を呈し、灰白色粒子を多量、灰色粒子を中量、雲母様微粒子を少量、石英粒を若干量含み、比較的緻密である。焼成は比較的良好で、よくしまっではいるが若干脆くなっている。19は復元口径11.4cmの杯形で、底部と体部下端は回転ヘラケズリと考えられるが、磨耗しておりはっきりしない。それ以外の部分には弱いロクロ目を残す。内面の底部と体部は明瞭に区別されない。色調はにぶい橙色ないし橙色、胎土は灰黄褐色ないし橙色を呈し、白色粒子を中量、灰色粒子と雲母様微粒子をわずかに含む。緻密である。焼成はやや悪く脆くなっている。20は復元口径12.0cmの杯形で、体部下半に回転ヘラケズリを施し、それ以外にはやや強いロクロ目を残す。色調はにぶい橙色を呈する。胎土も同色で、灰白色粒子がやや目立つほか、灰色砂粒と雲母様微粒子を少量含み、やや粗い。焼成は良好でよくしまっではいる。21は復元底径5.6cmの碗形で、底部は回転ヘラ切り、体部下半には手持ちヘラケズリを施し、内面にはロクロナデの痕跡を残す。底部内面と体部は明瞭に区別される。色調は橙色ないし淡黄色、胎土も同色で、白色粒子を中量、雲母様微粒子、黑色粒子、白色針状物質をそれぞれ少量含む。比較的緻密である。焼成は比較的良好で、しまっではいるが若干脆くなっている。22は復元底径7.1cmの杯形で、



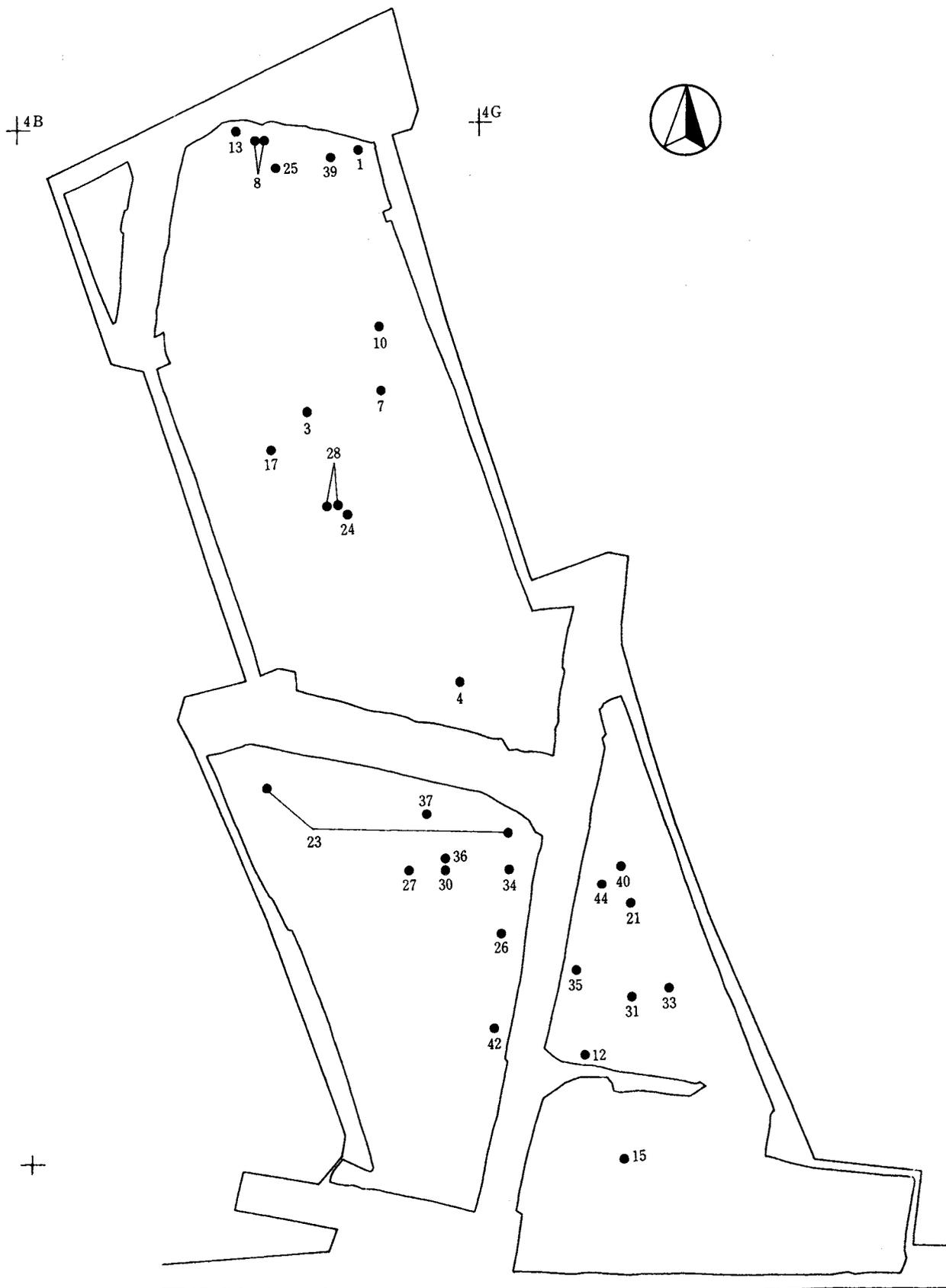
第31図 出土遺物実測図(4) 土師器(杯類)②

底部と体部下半に回転ヘラケズリを施し、底部内面にはロクロナデの痕跡を残す。色調はにぶい橙色ないし淡橙色、胎土はにぶい橙色を呈し白色粒子を多量、雲母様微粒子を中量、灰色砂粒と破碎土器粒を少量含む。比較的緻密である。焼成は普通だがしまっている。23は復元底径6.0の杯形で、底部が静止ヘラ切り無調整、体部下端に回転ヘラケズリを施し、それ以外の部分には弱いロクロナデの痕跡を残す。底部内面と体部は明瞭に区別されず、底部最大厚は外周にある。色調は浅黄橙色ないし橙色、胎土も同色で、白色砂粒、石英粒、黒色砂粒、破碎土器粒をそれぞれ少量含み、緻密である。焼成は普通だがかなり脆くなっている。24は復元底径7.0cmの杯形で、底部は回転糸切り無調整、体部下半に回転ヘラケズリを施し、それ以外の部分には弱いロクロナデの痕跡を残す。色調は淡い橙色、胎土も同色で、石英粒を中量、白色粒子、灰色砂粒、雲母様微粒子をそれぞれ少量含む。比較的緻密である。焼成は良好で、よくしまっているが若干脆くなっている。25は復元底径6.6cmの杯形で、内面は横方向のヘラミガキ、底部は回転糸切り無調整、体部下半に手持ちヘラケズリを施し、体部外面にはロクロナデの痕跡を残す。色調はにぶい黄橙色、胎土も同色で、雲母様微粒子と白色粒子を多量に含む。比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。26は復元底径5.8cmの杯形で、底部および体部下半に回転ヘラケズリを施し、それ以外の部分にはロクロナデの痕跡を残す。色調はにぶい橙色、胎土も同色で、白色粒子、灰色粒子、白色針状物質をそれぞれ少量、雲母様微粒子を微量含む。比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。27は復元口径12.0cm、復元底径7.6cm、器高2.7cmの小皿形である。底部と体部下半に回転ヘラケズリを施し、それ以外の部分には強いロクロ目を残す。色調は橙色、胎土も同色で、白色粒子と黄灰色粒子がやや目立つほか、

雲母様微粒子を中量、灰色砂粒と破碎土器粒を少量含み、やや粗い。焼成は良好でよくしまっている。28は復元口径15.2cm、体部が直線的に立ち上がるタイプの杯形である。体部下端に回転ヘラケズリを施し、それ以外の部分にはやや強いロクロ目を残す。色調はにぶい橙色ないし橙色、胎土は橙色で、白色粒子を中量、雲母様微粒子と灰色粒子を焦慮含み、やや粗い。焼成は良好でよくしまっている。29は復元口径13.6cmの厚手の皿形で、全面に強いロクロ目を残す。色調は淡黄色、胎土も同色で、白色粒子と雲母様微粒子を少量、灰色微粒子を微量含む。比較的緻密である。焼成は普通で、しまっはいるが若干脆くなっている。30は復元口径13.2cmの杯形で、体部外面には強いロクロ目を残し、内面は黒色処理を施しており、おそらくヘラミガキかと考えられるが、磨耗しているためははっきりしない。色調は内面が黒色、外面が淡黄色を呈する。胎土は外面と同色で、白色粒子、灰色砂粒、雲母片、白色針状物質をそれぞれ少量含む。比較的緻密である。焼成は比較的良好で、しまっているが脆くなっている。31は復元口径13.0cm、やや厚手の杯形で、全面に強いロクロ目を残す。体部は緩くS字状に立ち上がる。色調はにぶい黄褐色、胎土は橙色で、白色粒子と灰色砂粒を少量、雲母様微粒子をわずかに含む。比較的緻密である。焼成は良好であるがややしまりが無い。32は復元底径8.3cmの杯形で、全体に弱いロクロ目を残す。底部は磨耗しており不明である。色調はにぶい橙色ないしにぶい黄褐色、胎土もほぼ同色で、雲母様微粒子を中量、白色粒子と黒色粒子を少量含む。緻密である。焼成はやや悪く脆くなっている。33は復元底径6.7cmの杯形で、底部と体部下端には回転ヘラケズリを施し、底部内面にはやや強いロクロ目を残す。色調は外面がにぶい橙色ないし褐色、内面がにぶい黄褐色を呈する。胎土は外面と同色で、破碎土器粒がやや目立つほか、白色粒子を中量、雲母様微粒子を少量含み、やや粗い。焼成は良好でよくしまっている。34は復元底径6.6cmの杯形で、底部および体部下端に回転ヘラケズリを施し、それ以外の部分には弱いロクロナデの痕跡を残す。色調はにぶい黄褐色ないし浅黄褐色、胎土もほぼ同色で、白色粒子、黒色砂粒、雲母様微粒子をそれぞれを少量含む。非常に緻密である。焼成は良好で、よくしまっているが若干脆くなっている。35は復元底径7.0cmの杯形で、底部および体部下端には回転ヘラケズリを施し、底部内面には強いロクロ目を残す。底部外面がやや窪んでおり、最大厚は外周にある。色調はにぶい橙色ないし橙色、胎土もほぼ同色で、雲母様微粒子を中量、白色粒子と石英粒を少量含み、やや粗い。焼成は悪くかなり脆くなっている。

36～38はいわゆる土師質土器である。36は復元底径5.4cmの碗形である。底部は円柱技法で回転ヘラ切り無調整、体部外面はロクロナデの痕跡を残す。内面は黒色処理が施されている。色調は内面が黒色、外面はにぶい黄褐色を呈する。胎土は外面と同色で粗く、白書粒子、黒色砂粒、雲母様微粒子をそれぞれ多量に含む。焼成は良好だが若干脆い。37は復元底径6.0cmの碗形である。底部は円柱技法で、回転ヘラケズリかと思われるが磨耗しておりはっきりしない。体部にはロクロナデの痕跡を残す。色調は内面が橙色、外面は褐灰色ないし浅黄褐色を呈する。胎土もほぼ同色で、雲母様微粒子と破碎土器粒が目立つほか、白色粒子と黒色粒子を少量含み、比較的緻密である。焼成は普通だがしまっている。38は復元底径5.4cmの杯形である。底部は円柱技法で回転糸切り無調整、体部にはロクロ目を残す。底部内面と体部は明瞭に区別されず、最大厚は外周にある。色調はにぶい黄褐色ないし黄灰色、胎土もほぼ同色で、白色粒子と雲母様微粒子を少量、砂粒をわずかに含む。緻密である。焼成は極めて良好でよくしまっている。

39～44は高台付ロクロ土師器である。39は復元高台径6.6cmの高台付碗である。内面はヘラミガキされ、黒色処理が施されている。外面と底部にはロクロナデの痕跡が残る。高台は貼り付け、やや外側に開く輪高台で、高台高は0.7cmである。色調は内面が黒色、外面は浅黄褐色ないし淡橙色を呈する。胎土は外面

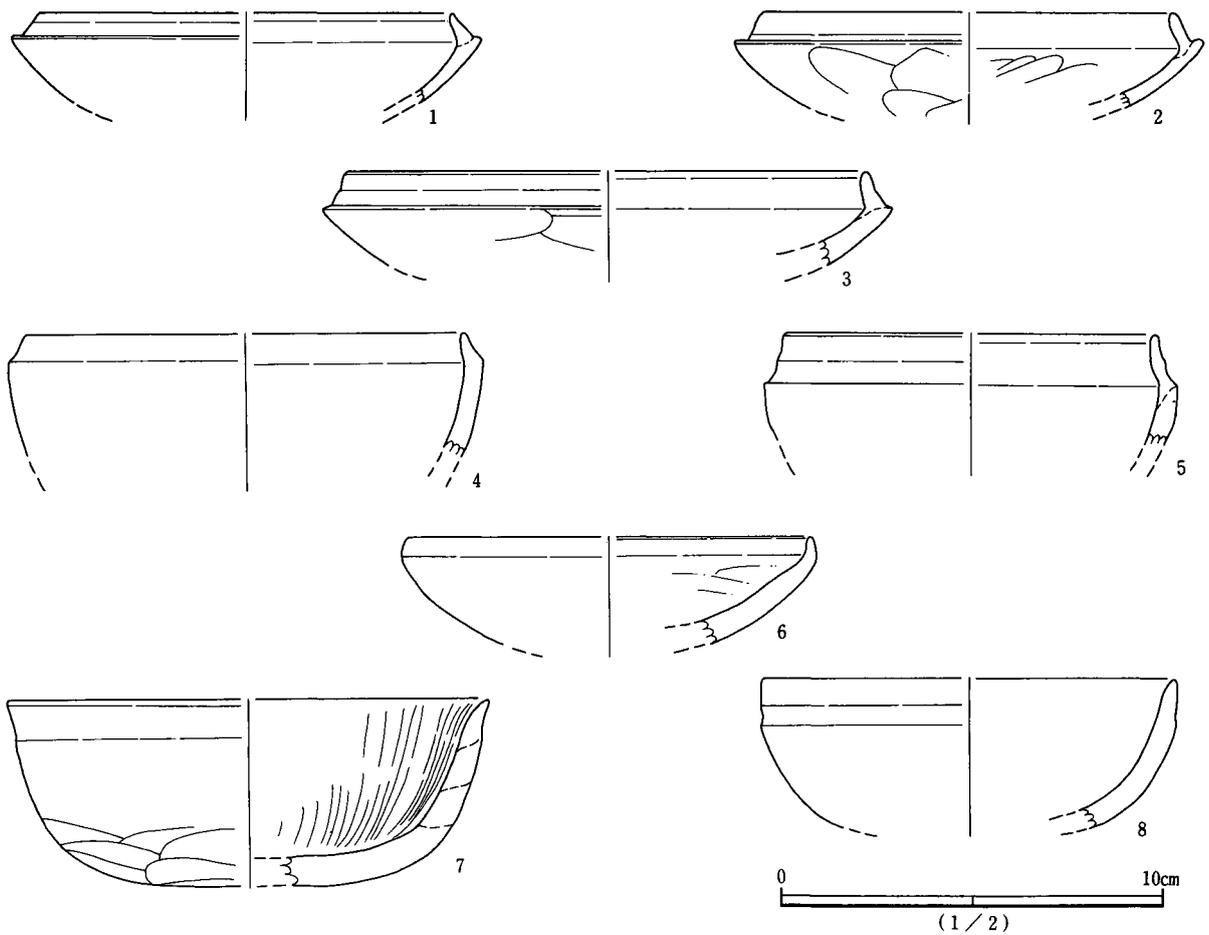


第32図 出土遺物分布図(1) 土師器(杯類) ①

と同色で、白色粒子を中量、白色針状物質を少量、雲母様微粒子をわずかに含み、やや粗い。焼成は普通だがしまっている。40は復元高台径7.4cmの高台付碗である。内面はヘラミガキされ、黒色処理が施されている。外面と底部にはロクロナデの痕跡を残す。高台は貼り付け、不明瞭な三日月状を呈する輪高台で、高台高は0.7cmである。色調は内面が黒色、外面は淡黄色、胎土は外面と同色で、白色粒子を多量、雲母様微粒子を中量、白色針状物質と石英粒を少量含み、やや粗い。焼成は普通だがしまっている。41は復元高台径5.6cmの高台付碗で、内面はヘラミガキ、外面と底部はうっすらとロクロナデの痕跡を残す。高台は貼り付けで八字状に開き、高台高は0.5cmである。色調はにぶい黄橙色ないし灰黄色、胎土は橙色で、雲母様微粒子を中量、白色粒子、黒色砂粒、灰色砂粒、白色針状物質などをそれぞれ少量含んでおり、やや粗い。焼成は普通だがあまりしまっていない。42は復元高台径6.8cmのいわゆる足高高台杯で、全面にやや強いロクロ目を残す。高台は貼り付けで八字状に開き、高台高は1.3cmである。色調は淡黄色、胎土も同色で、白色粒子を中量、石英粒、雲母片、灰色砂粒をそれぞれ少量含み、やや粗い。焼成は非常に良好でよくしまっている。43は復元高台径6.4cmの高台付碗で、内面はヘラミガキが施され、外面と底部にはうっすらとロクロナデの痕跡を残す。高台は貼り付けで八字状に開き断面三角形、高台高は0.7cmである。色調はにぶい黄橙色ないし灰黄色を呈する。胎土は灰黄色で、白色粒子を中量、雲母様微粒子、白色針状物質、破碎土器粒をそれぞれ少量含み、やや粗い。焼成は普通だがしまっている。44は復元高台径7.6cmの高台付碗である。内面はヘラミガキされ、黒色処理が施されている。外面と底部にはロクロナデの痕跡が残る。高台は貼り付け、八字状に開き断面三角形で、高台高は0.7cmである。色調は内面が黒色、外面は浅黄橙色を呈する。胎土は外面と同色で、雲母様微粒子を中量、白色粒子、白色針状物質、黒色砂粒、灰色砂粒などをそれぞれ少量含みやや粗い。焼成は良好でよくしまっている。

45～47はいわゆる杯蓋模倣杯である。45は口径10.8cm、最大径12.4cm、かえり高2.4cm、遺存部分の器高は2.4cmである。薄手のつくりで杯部は浅い皿形で、かえり部は肥厚せず強く内向する。杯部は磨耗が著しく調整技法は不明だが、かえり部は内面外面共に横ナデを施す。色調は内面がにぶい黄橙色、外面は淡黄色を呈する。胎土は内面と同色で、白色粒子や灰色微粒子を少量、破碎土器粒を中量含み、緻密である。焼成は良好でしまっている。46は口径10.6cm、最大径12.3cm、かえり高0.7cm、遺存部分の器高は2.6cmである。薄手のつくりで杯部は浅い皿形、かえり部は肥厚せずやや強く内向する。杯部は外面が横ヘラケズリ、内面が横ヘラナデ、かえり部には内面外面共に横ナデを施す。色調は内面外面共に浅黄橙色ないし橙色、胎土は橙色ないしにぶい黄橙色で、白色粒子や破碎土器粒を少量、白色針状物質を微量含み、比較的緻密である。焼成は普通でやや脆くなっている。47は口径13.6cm、最大径15.0cm、かえり高1.0cm、遺存部分の器高は2.6cmである。厚手のつくりで杯部は浅い皿形、かえり部は肥厚せずやや強く内向する。杯部は外面が横ヘラケズリ、内面は横ヘラナデ、かえり部は内面外面共に横ナデを施す。色調は内面外面共に黒色、胎土は淡黄色で、白色粒子を少量、灰色粒子を微量含み、比較的緻密である。焼成は普通で、やや脆くなっており、内面外面共に黒色処理を施す。

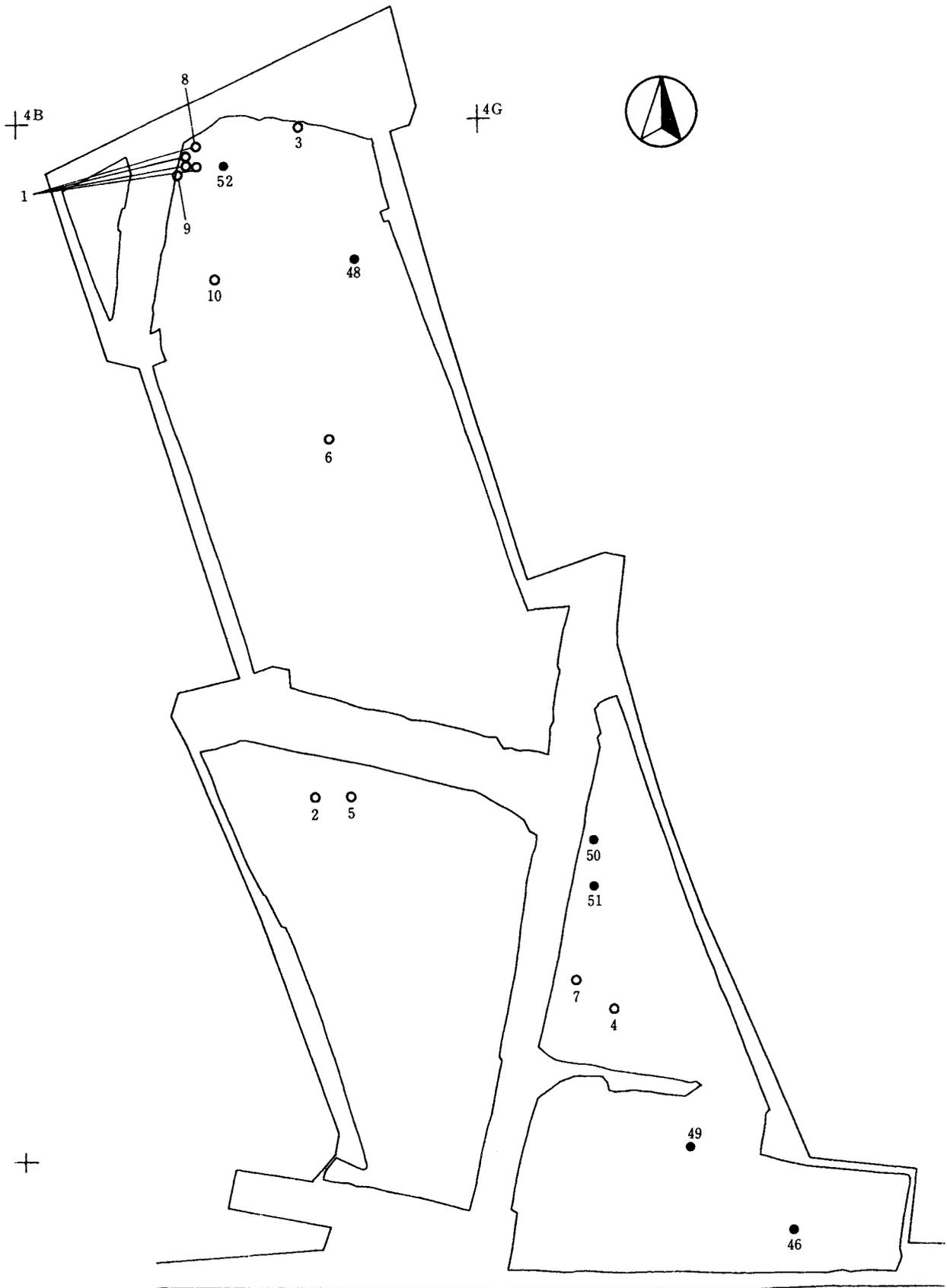
48・49は碗である。48は口径11.2cm、最大径12.4cm、遺存部分の器高は3.2cmで、最大径は口縁部直下にある。体部は急角度で立ち上がり、口縁部はわずかに内向する。磨耗が著しいため調整技法は不明である。色調は内面が淡黄色、外面がにぶい黄橙色ないしにぶい橙色、胎土は灰白色でやや粗く、砂粒を多量、石英粒や白色粒子を少量含む。焼成は普通でしまっている。49は口径9.6cm、最大径10.8cm、遺存部分の器高2.8cmで最大径は口縁部直下の稜にある。体部は急角度で立ち上がり、比較的明瞭な稜をもつ。口縁部



第33図 出土遺物実測図(5) 土師器 (杯類)

は長くわずかに内向する。体部は外面が剥落によりはっきりしないが内面は横ヘラナデ、口縁部は内面外面共に横ナデを施す。色調は内面にぶい黄色ないし明褐色、外面がぶい黄色、胎土は明褐色でやや粗く、白色粒子を中量、石英粒や砂粒を少量含む。焼成は普通で、やや脆くなっている。

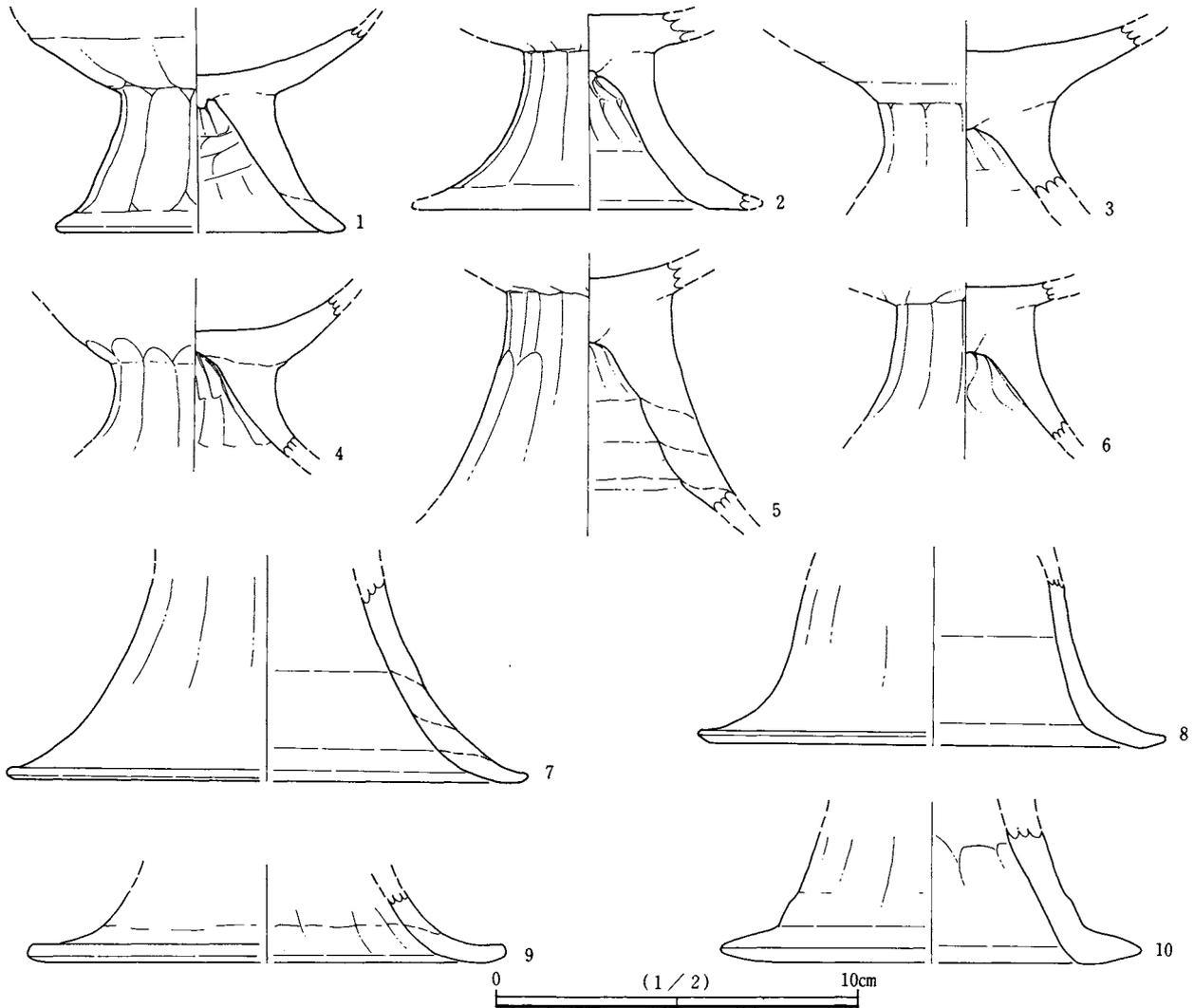
50~52は杯である。50は口径10.6cm、最大径11.0cm、遺存部分の器高は2.8cmで、最大径は口縁部直下にある。やや厚手のつくりで体部は浅い皿形、口唇部はほぼ直立し、口縁部直下に不明瞭な稜をもつ。磨耗が著しく成形技法は不明であるが内面は赤彩されている。色調は内面が淡黄色、赤彩部分は赤色、外面は淡黄色ないし灰黄色を呈する。胎土は淡黄色ないし灰色で、石英粒や砂粒を少量、破碎土器粒を微量含み非常に緻密である。51は口径12.6cm、器高は4.9cmである。厚手のつくりで、体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部でほぼ直立するが口唇部のみわずかに外反する。底部は平底気味だが不安定である。内面には放射状のヘラ暗文が描かれ、外面は口縁部が横ナデ、体部から底部には横ヘラケズリを施す。色調は内面外面共に橙色、胎土はぶい黄橙色ないし橙色を呈し、白色粒子や砂粒を少量、白色針状物質を微量含んでおり比較的緻密である。52は口径10.8cm、遺存部分の器高は3.9cmである。比較的厚手のつくりで体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部がほぼ直立する。口縁部は内面外面共に横ナデを施すが、体部は磨耗が著しく調整技法は不明である。色調は内面が暗灰黄色、外面は橙色で、胎土は暗灰黄色ないし橙色を呈し、破碎土器粒を中量、砂粒を少量、白色粒子を微量含み比較的緻密である。焼成は普通だがかなり脆くなっている。



第34図 出土遺物分布図(2) 土師器(杯類)②

イ. 高杯 (第34図・第35図、第18表、図版22)

1 は脚柱部が背の低い円柱状で裾部はあまり開かず、杯部が浅い皿形を呈する。接合部径は4.2cm、脚部高は3.8cm、裾径は8.0cm、遺存部分の器高は5.8cmである。外面は杯部が縦ヘラナデ、脚柱部が縦ヘラケズリ、裾部は横ヘラナデ、内面は杯部が横ナデ、脚部がヘラアテを施す。色調は淡黄色ないし浅黄橙色、胎土も同色で白色粒子、石英粒を少量、雲母様微粒子を中量含み、緻密である。焼成は普通だが比較的しまっている。2 は脚柱部が背の低い円錐状で、裾部はやや開くが脚柱部との境ははっきりしない。接合部径は3.6cm、脚部高は4.4cm、裾径は9.6cm、遺存部分の器高は5.5cmである。外面は脚柱部が縦ヘラケズリ、裾部は横ヘラナデ、内面は脚柱部がヘラアテ、裾部は横ヘラナデを施す。色調は浅黄橙色ないし橙色、胎土は橙色ないし暗灰黄色で白色粒子、砂粒を中量、石英粒を少量、白色針状物質を微量含み、やや粗い。焼成は普通だが磨耗が著しい。3 は脚柱部が背の低い円柱形で、裾部がやや強く開き、杯部が浅い皿形となるタイプと考えられ、接合部径は5.0cm、器高は遺存部分で4.8cmである。外面は脚柱部が縦ヘラケズリ、杯部が横ヘラナデ、内面は脚柱部がヘラアテ、杯部は横ナデを施す。色調は淡黄色、胎土も同色で石英粒、砂粒、白色粒子、雲母片などをそれぞれ中量含み、やや粗い。焼成は良好で、しまっている。4 は脚部がラッパ状にやや強く開き、杯部がやや深い杯形を呈するものと考えられる。接合部径は4.6cm、遺存部分の器高は4.5cmである。外面は杯部が丁寧な横ヘラナデ、脚部が縦ヘラケズリで、内面は杯部が丁寧なナデ、脚柱部にはヘラアテを施す。色調は浅黄橙色ないし淡赤橙色、胎土は淡赤橙色でやや粗く、石英粒、砂粒、白色粒子、雲母、破碎土器粒などをいずれも中量含む。焼成は良好でしまっているが磨耗が著しい。5 は脚部が背の高い円錐形でラッパ状に開き、杯部が浅い皿形を呈するものと考えられる。接合部径は4.6cm、遺存部分の器高は6.7cmである。脚部は外面が縦ヘラケズリ、内面にはヘラアテを施し巻上げ痕を残す。色調は内面が灰色ないし橙色、外面はにぶい黄橙色ないし橙色を呈する。胎土は灰色でやや粗く、白色粒子と砂粒を多量、破碎土器粒を中量、雲母粒子を少量、白色針状物質をわずかに含む。焼成は比較的良好でよくしまっているが磨耗が著しい。6 は器形は5とよく似ているがやや小ぶりである。接合部径は3.8cm、遺存部分の器高は4.3cmである。脚部は外面が縦ヘラケズリ、内面はヘラアテを施す。色調は内面が明黄褐色、外面は淡黄色を呈する。胎土は黒色ないし淡黄色でやや粗く、白色粒子を多量、雲母微粒子と砂粒を中量、白色針状物質をわずかに含む。焼成はやや不良で脆くなっている。7 は脚部がラッパ状に強く開き、裾部と脚柱部の境が不明瞭なタイプである。非常に薄手のつくりで、裾径は14.3cm、遺存部分の器高は5.5cmである。内面は磨耗が著しく調整技法は不明だが、外面にはわずかに縦ヘラケズリもしくはヘラナデの痕跡が残る。色調は内面外面共に淡黄色を呈する。胎土は灰色ないし橙色で、破碎土器粒を多量、白色粒子を中量含み、比較的緻密である。焼成は普通だが脆くなっている。8 は裾部がラッパ状に強く開き、脚柱部が背の高い円錐形を呈するタイプで、裾部と脚柱部の境はやや不明瞭である。非常に薄手のつくりで裾径は12.8cm、遺存部分の器高は4.6cmである。内面は磨耗が著しいため調整技法は不明だが、外面にはうすすらと縦ヘラケズリもしくはヘラナデの痕跡が残る。色調は内面が淡橙色、外面は浅黄橙色を呈する。胎土は赤橙色ないし浅黄橙色でやや粗く、白色粒子、砂粒、石英粒、破碎土器粒をそれぞれ中量、雲母粒子を微量含む。焼成は良好だが、脆くなっている。9 は裾部が非常に強く開き、裾端部が若干反り返っている。裾径は13.2cm、遺存部分の器高は2.0cmである。外面は横ヘラナデ、内面には縦ヘラナデを施す。色調は内面が灰白色ないし灰色、外面は浅黄橙色を呈する。胎土は灰色ないし浅黄橙色で、破碎土器粒が目立つほか、白色粒子を中量、砂粒と雲母粒子を少量含んでおり、やや緻密である。焼成は

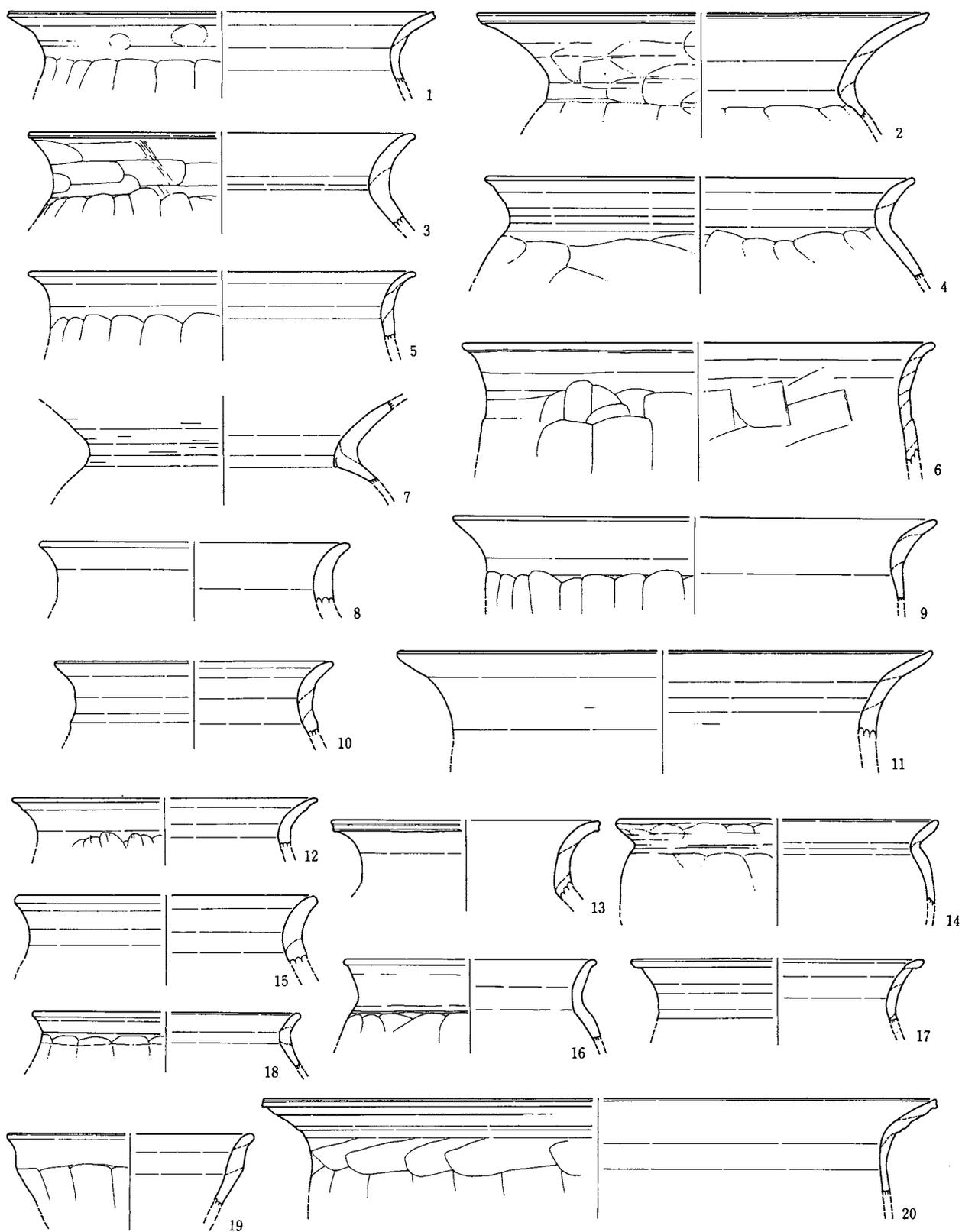


第35図 出土遺物実測図(6) 土師器 (高杯)

良好でよくしまっているが、若干磨耗している。10は脚柱部直線的に開き、裾部のみ“く”字形に折れ曲がり反り返っている。比較的厚手のつくりで、脚柱部は内面が縦ヘラナデ、外面が縦ヘラケズリ、裾部は内面外面共に横ヘラナデを施す。色調は内面が淡橙色、外面は浅黄橙色を呈する。胎土は赤橙色ないし浅黄橙色で、白色粒子と砂粒を少量、白色針状物質をわずかに含んでおり、比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。

ウ. 甕類 (第36図～第38図、第14表、図版15・図版16)

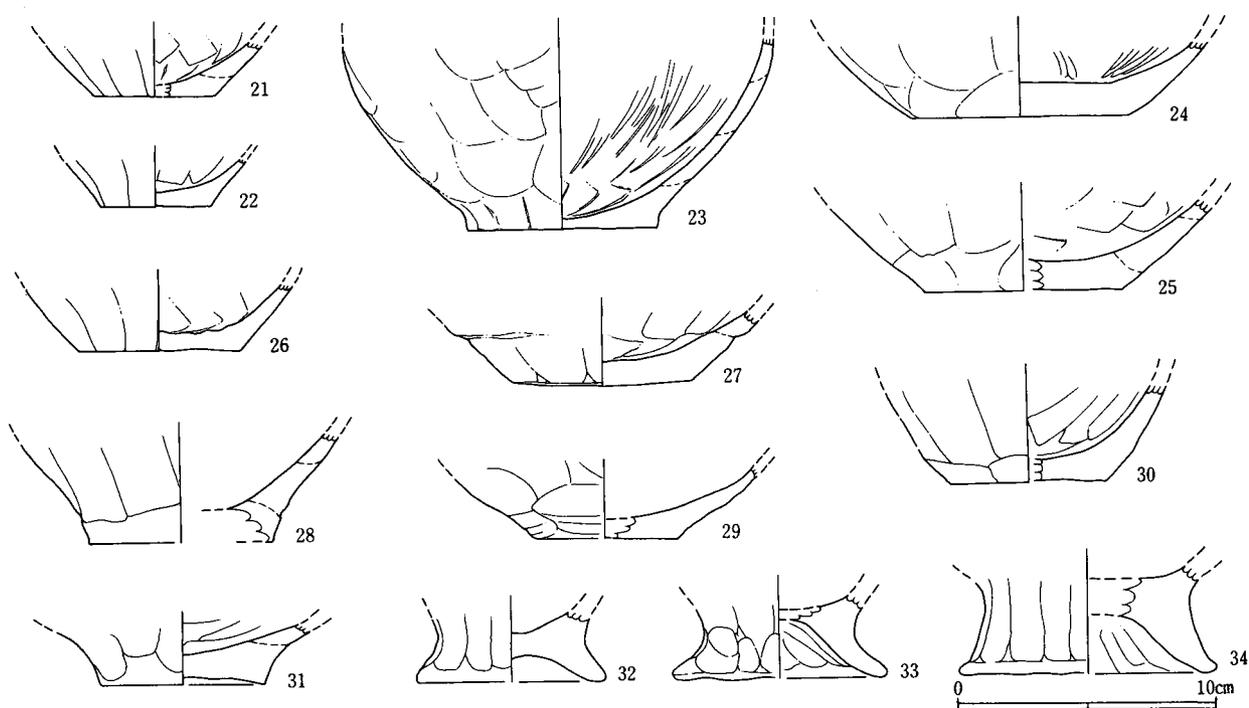
1～20は土師器甕の口縁部破片である。1は復元口径21.8cm、頸部内径16.2cmである。口縁部がゆるやかに外反するタイプで口唇部には幅0.3cm程度の端面をつくりだす。口縁部は内面外面共に横ナデ、体部外面は縦方向の規格的なヘラケズリが施される。色調は内面がにぶい橙色ないし明赤褐色、外面はにぶい黄橙色ないし黒色を呈する。胎土は内面と同色で、白色粒子、灰色砂粒、石英粒、破碎土器粒などをそれぞれ中量、雲母様微粒子を少量、白色針状物質をわずかに含んでおり粗い。焼成は普通で、しまっているがやや脆くなっている。2は復元口径23.0cm、頸部内径14.0cmである。口縁部は大きく、やや強く外反するタイプで、口唇部には幅0.6cmの端面をつくりだす。口縁部は内面が横ナデ、外面は横ヘラナデで、体



第36图 出土遺物実測図(7) 土師器 (甕類) ①

部は内面外面共に縦方向の規格的なヘラケズリが施される。色調は内面が浅黄橙色、外面は灰黄色ないし灰色を呈する。胎土は灰黄色ないし浅黄橙色で、白色粒子と黒色砂粒を中量、石英粒、雲母様微粒子、破碎土器粒をそれぞれ少量含んでおり緻密である。焼成は比較的良好でしまっている。3は復元口径19.8cm、頸部内径15.0cmである。頸部は肉厚、口縁部はゆるやかに外反するタイプで、口唇部には端面を形成しない。口縁部は外面は横方向のヘラナデ、内面が丁寧な横ナデで、体部は規格的な縦方向のヘラケズリを施す。色調は内面外面共ににぶい黄橙色だが、外面には黒褐色の黒斑がみられる。胎土は黒色ないし橙色で、白色粒子を多量、石英粒と灰色砂粒を中量、破碎土器粒と雲母様微粒子を少量混入しており比較的緻密である。焼成は普通だがよくしまっている。4は復元口径22.0cm、頸部内径18.0cmである。頸部が肉厚、口縁部はやや強く外反するタイプで、口唇部には端面を形成しない。口縁部は内面外面共に丁寧な横ナデで調整され、体部には斜め方向のヘラケズリが施される。色調は内面外面共に淡黄色を呈する。胎土は灰色で、石英粒、白色粒子、灰色砂粒などをそれぞれ少量含んでおり、比較的緻密である。焼成はやや良好でしまっている。5は復元口径19.4cm、頸部内径16.4cmである。口縁部がわずかに外反するタイプで、口唇部には端面を形成しない。口縁部は内面外面共に横ナデ、体部外面には規格的な縦方向のヘラケズリを施す。色調は内面が淡黄橙色、外面は淡黄色を呈する。胎土は灰色で、白色粒子、石英粒、破碎土器粒、灰色砂粒などをそれぞれ少量含んでおりやや粗い。焼成は普通で、しまっているが脆く磨耗が著しい。6は復元口径24.0cm、頸部内径20.6cmである。口縁部がわずかに外反するタイプで、口唇部には端面を形成しない。口縁部は内面外面共に横ナデ、体部は外面が縦方向のヘラケズリ、内面は横方向のヘラケズリを施す。色調は内面が暗褐色ないし橙色、外面は淡黄色を呈する。胎土は橙色で、白色粒子と石英粒を中量、雲母様微粒子と黒色砂粒を少量、白色針状物質をわずかに含み、やや粗い。焼成は普通で、しまっているが若干脆くなっている。7は頸部内径11.2cmである。頸部がすぼまり、口縁部がく字状に強く外反するタイプである。口縁部は内面外面共に丁寧な横ナデが施される。色調は内面がにぶい橙色ないし淡黄色、外面はにぶい黄橙色を呈する。胎土は内面と同色で、白色粒子と雲母様微粒子を中量、石英粒、黒色砂粒、白色針状物質をそれぞれ少量含んでおり、比較的緻密である。焼成は普通で、しまっているが若干脆くなっている。8は復元口径15.6cm、頸部内径12.1cmである。頸部が肉厚、口縁部は如意形に緩く外反するタイプで、口唇部には端面を形成しない。口縁部は内面外面共に横ナデで調整される。色調は内面外面共ににぶい黄橙色を呈する。胎土も同色で、白色粒子、黒色砂粒、石英粒、雲母様微粒子、白色針状物質などをそれぞれ少量含んでおりやや粗い。焼成は普通で、しまっているが若干脆くなっている。9は復元口径24.6cm、頸部内径20.2cmである。口縁部がやや肉厚で、ゆるやかに外反するタイプである。口唇部には端面を形成しない。口縁部は内面外面共に横ナデ、体部外面には規格的な縦方向のヘラケズリを施す。色調は内面が淡黄色、外面は灰黄色を呈する。胎土は橙色で、白色粒子と黒色砂粒を中量、石英粒と白色針状物質を少量含んでおり比較的緻密である。焼成は良好、よくしまっているが若干脆くなっている。10は復元口径14.0cm、頸部内径10.5cmである。口縁部はやや肉厚で、ゆるやかに外反するタイプである。口唇部には端面を形成しない。口縁部は内面外面共に丁寧な横ナデで調整される。色調は内面外面共に淡黄橙色ないしにぶい黄橙色を呈する。胎土はにぶい黄橙色ないし灰色で、石英粒、白色粒子、灰色砂粒、雲母様微粒子、白色針状物質などをそれぞれ少量含んでおり比較的緻密である。焼成はやや悪い。11は復元口径27.0cm、頸部内径19.8cmである。口縁部が強く外反するタイプで、口唇部には短面を形成しない。口縁部は内面外面共に横ナデで調整される。色調は内面外面共に淡黄色ないし黄灰色を呈する。胎土は灰色な

いし淡黄色で、白色粒子を中量、石英粒、灰色砂粒、雲母様微粒子それぞれ少量、白色針状物質をわずかに含み、比較的緻密である。焼成は良好でしまっている。12は復元口径15.6cm、頸部内径11.6cmである。口縁部が強く外反するタイプで、口唇部には端面を形成しない。口縁部は内面外面共に丁寧な横ナデ、体部外面は縦方向のヘラケズリが施される。色調は内面が浅黄色、外面は灰オリーブ色を呈する。胎土は灰色で、白色粒子、黒色砂粒、雲母様微粒子、白色針状物質などをそれぞれ少量含んでおり比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。13は復元口径13.8cm、頸部内径9.2cmである。口縁部はゆるやかに強く外反し、口唇部に幅0.6cmの端面を形成する。口縁部は内面外面共に丁寧な横ナデで調整される。色調は内面外面共に明褐色を呈する。胎土も同色で、白色粒子、黒色砂粒、白色針状物質をそれぞれ少量、雲母様微粒子をわずかに含んでおり緻密である。焼成は良好でよくしまっている。14は復元口径16.2cm、頸部内径13.6cmである。体部はあまり膨らまず、最大径は胴部中位にあるものと考えられる。頸部はあまりすぼまらずに“く”字形に折れ曲がる。口縁部は肥厚せずやや強く外反するが、口唇部には端面を形成しない。口縁部は内面外面共に横ヘラナデ、頸部外面には指頭押捺痕を残し、体部は外面が縦ヘラケズリ、内面は横ヘラナデを施す。色調は内面外面共ににぶい褐色ないし黒色を呈する。胎土は褐色で粗く、雲母様微粒子を多量、石英粒や白色粒子を中量、砂粒を少量含む。焼成は普通だがしまっている。15は復元口径15.0cm、頸部径11.8cmである。厚手のつくりで、体部はやや膨らむがラグビーボール形を呈するものと考えられる。頸部はややすぼまり、緩やかに外反する。口縁部は短く、口唇部には端面を形成しない。口縁部は内面外面共に横ナデを施す。色調は内面がにぶい黄橙色ないし黒褐色、外面はオリーブ黒色である。胎土は橙色で粗く、白色粒子を中量、石英粒や砂粒、雲母様微粒子を少量、白色針状物質を微量含む。焼成は普通でかなりもろくなっているが、比較的表面はしっかりしている。16は復元口径12.8cm、頸部径は10.6cmである。体部はやや膨らむが縦長のラグビーボール形を呈するものと考えられる。頸部はやや狭くすぼまり、緩やかに“コ”字形に折れ曲がる。口縁部は比較的長く、口唇部がわずかに外側につまみ出される。口縁部は内面外面共に横ヘラナデ、体部は外面が縦ヘラケズリ、内面は磨耗しているが横ヘラナデと考えられる。色調は内面が灰黄褐色ないし浅黄橙色、外面は橙色を呈する。胎土は黒褐色でやや粗く、石英粒と白色粒子を中量、砂粒と雲母様微粒子を少量含む。焼成は普通で、ややもろくなっている。17は復元口径14.4cm、頸部径11.2cmである。体部の形状は不明だが、頸部はやや狭くすぼまり、緩やかに外反する。口縁部は比較的長く、口唇部が肥厚しわずかに外につまみ出されるが、端面は形成しない。口縁部は内面外面共に横ナデを施す。色調は内面外面共に淡黄色を呈する。胎土は灰色で、白色針状物質を少量、白色粒子や破碎土器粒、砂粒を微量含むが総じて混入物は少ない。よく精製されており非常に緻密である。焼成は普通だが比較的しまっている。18は復元口径13.4cm、頸部径11.6cmである。体部はやや膨らむが縦長のラグビーボール形を呈するものと考えられる。頸部は狭くすぼまり、“く”字形に折れ曲がる。口縁部は短く、やや強く外反する。口縁部は内面外面共に横ヘラナデ、体部は外面が規格的な横ヘラケズリ、内面は横ヘラナデを施す。色調は内面外面共に橙色である。胎土も同色で、白色粒子や砂粒、白色針状物質などをそれぞれ少量含み、比較的緻密である。焼成は普通だがしまっている。19は復元口径12.2cm、頸部径10.4cmである。体部がほぼ直線的に立ち上がり、頸部がわずかにくびれたあと口縁部が緩やかに外反するタイプの台付甕もしくは台付鉢と考えられる。口縁部は内面外面共に横ナデ、体部は外面が縦ヘラケズリ、内面は横ヘラナデを施す。色調は内面外面共に灰色ないし橙色である。胎土も同色で粗く、白色粒子と砂粒を中量、石英粒を少量含む。焼成は普通だがしまっている。20は復元口径34.0cm、頸部径28.6cm

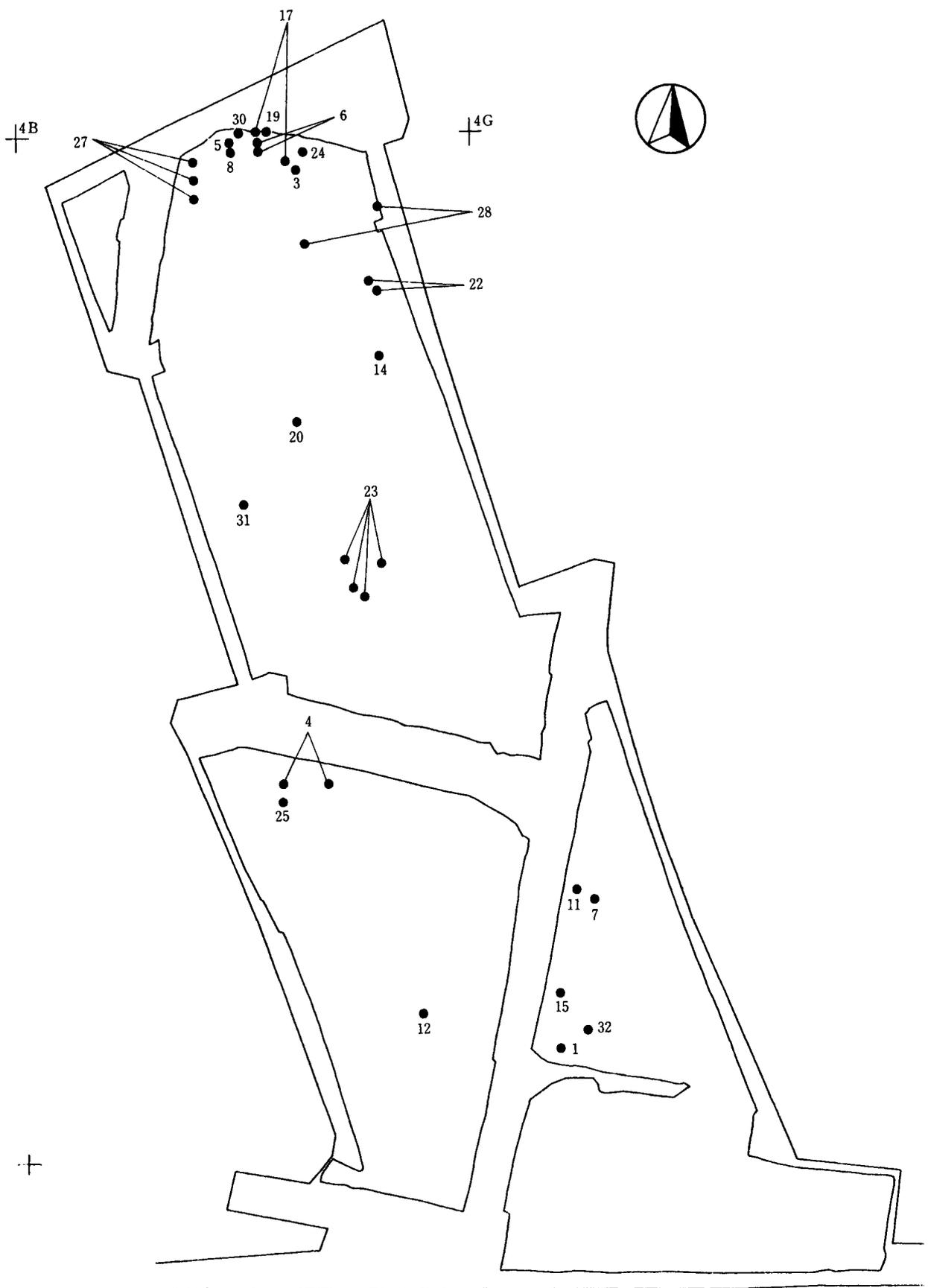


第37図 出土遺物実測図(8) 土師器(甕類)②

である。体部は膨らまず、頸部もほとんどすぼまらない。口縁部は短く、緩やかに外反する。口唇部は肥厚し、幅0.4cmの端面を形成する。内面は横ヘラナデ、外面は口縁部が横ナデ、頸部が斜めヘラケズリ、体部が規格的な縦ヘラケズリを施す。色調は内面外面共ににぶい橙色を呈する。胎土も同色で、砂粒を中量、白色粒子や石英粒、雲母粒子、白色針状物質を少量み比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。21は小型甕で、底径4.8cm、遺存部分の器高は2.2cmである。体部はやや急角度で立ち上がり、胴部がやや強く張るタイプと考えられる。外面は規格的な横ヘラケズリ、内面には斜ヘラナデを施す。色調は内面がにぶい黄橙色、外面は浅黄橙色ないし褐灰色を呈する。胎土は内面と同色で、石英粒や白色粒子、砂粒を少量、白色針状物質と雲母様微粒子を微量含み比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。22は小型甕で、底径4.2cm、遺存部分の器高は1.8cmである。体部はやや急角度で立ち上がり、胴部がやや強く張るタイプと考えられる。体部は外面が規格的な縦ヘラケズリ、内面が縦ヘラナデ、底部外面はヘラケズリを施す。色調は内面がにぶい褐色、外面は灰褐色ないしにぶい褐色を呈する。胎土はにぶい橙色ないし灰褐色で粗く、石英粒や白色粒子、砂粒、雲母様微粒子などをそれぞれ少量含む。焼成は良好でよくしまっている。23は底径7.4cm、最大径16.8cm、遺存部分の器高7.4cmである。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、胴部は強く張り球胴型を呈する。胴部最大径は中位にあり、底部はやや強く突出する。体部は外面が斜めヘラケズリ、内面は縦ヘラナデ後粗い縦ヘラミガキ、底部側面は横ヘラアテを施す。色調は内面が褐灰色ないし黒褐色、外面は明赤褐色ないし黒色を呈する。胎土はにぶい黄橙色で粗く、石英粒や白色粒子、砂粒などをそれぞれ多量に含む。焼成は普通でややもろくなっている。なお外面には所々にスガが付着する。24は底径8.4cm、遺存部分の器高は2.9cmである。体部は内湾しながらやや急角度で立ち

上がり、ラグビーボール形を呈するものと考えられる。底部は突出せず、平坦で安定している。体部は外面が斜めヘラケズリ、内面はヘラナデ後、粗い縦ヘラミガキを施す。色調は内面外面共に淡黄色ないし灰白色を呈する。胎土はオリブ黒色で、石英粒や白色粒子、雲母様微粒子などをそれぞれ少量含み、緻密である。焼成は良好でしまっている。25は底径7.6cm、遺存部分の器高は3.5cmである。体部は緩い角度でわずかに内湾しながら立ち上がり、底部は突出しない。胴部がやや強く張るタイプと考えられる。体部は外面が斜めヘラケズリ、内面は横ヘラナデを施す。色調は内面がにぶい黄橙色ないし黒褐色、外面は褐灰色ないし橙色を呈する。胎土はにぶい橙色ないし橙色でやや粗く、白色粒子を中量、石英粒や砂粒、雲母様微粒子などをそれぞれを少量含む。焼成は良好でしまっている。26は底径6.2cm、遺存部分の器高は2.6cmである。体部はやや急角度で立ち上がるが、胴部がやや強く張るタイプと考えられる。底部は突出しない。体部は外面が縦ヘラケズリ、内面は斜めヘラナデを施す。色調は内面が浅黄橙色、外面は灰白色ないし黒褐色を呈する。胎土は橙色でやや粗く、白色粒子を中量、石英粒や砂粒を少量含む。焼成は良好でよくしまっている。27は底径6.8cm、遺存部分の器高は2.9cmである。体部は強く張るタイプと考えられる。底部は突出しないがやや丸みを帯びており、不安定である。体部は外面が縦ヘラケズリ後縦ヘラナデ、内面は横ヘラナデを施す。色調は内面が橙色、外面はにぶい橙色ないし黒色を呈する。胎土は内面と同色で、石英粒を少量、白色粒子や砂粒、雲母様微粒子を微量含み、比較的緻密である。焼成は良好でしまっているが、磨耗が著しい。28は底径7.2cm、遺存部分の器高4.1cmである。体部はやや急角度で立ち上がり、胴部がラグビーボール形を呈するものと考えられる。底部はやや強く突出する。体部は外面が縦ヘラケズリ、内面はヘラナデを施すものと考えられるが磨耗しておりはっきりしない。色調は内面が橙色、外面はにぶい橙色ないし橙色を呈する。胎土は橙色ないし浅黄橙色で、雲母様微粒子を中量、白色粒子や石英粒を少量含み比較的緻密である。焼成は良好でしまっている。29は底径5.6cm、遺存部分の器高は2.8cmである。体部は強く張り、球胴型を呈するものと考えられる。底部はごくわずかに突出する。体部は外面が縦ヘラケズリ、内面はヘラナデ、体部下端外面のみ横ヘラケズリを施す。色調は内面がにぶい黄橙色、外面は黒褐色ないし橙色を呈する。胎土は内面と同色で、石英粒を少量、白色粒子や砂粒、雲母様微粒子を微量に含み、比較的緻密である。焼成は良好でしまっているが、磨耗が著しい。30は底径6.0cm、遺存部分の器高は3.7cmである。体部は外面が縦ヘラケズリ、内面は斜めヘラナデ、体部外面下端は横ヘラケズリを施す。色調は内面が黒色、外面は橙色ないし褐灰色を呈する。胎土は橙色で、白色粒子を中量、石英粒や砂粒を少量、白色針状物質を微量含み比較的緻密である。焼成は良好でしまっている。31は底径6.4cm、遺存部分の器高は2.4cmである。体部は強く張り球胴型を呈するものと考えられる。底部はやや強く突出する。体部は外面が縦ヘラケズリ、内面が横ヘラナデを施す。色調は内面がにぶい褐色、外面は橙色である。胎土は暗褐色で粗く、石英粒や砂粒を中量、白色粒子と雲母粒子を少量含む。焼成は普通でしまっている。

32～34は台付甕である。32は裾径7.0cm、底径5.7cm、脚台高1.0cmである。体部は比較的急角度で立ち上がり、縦長のラグビーボール形を呈するものと考えられる。脚台部は低く、“ハ”字形に強く広がる。体部は外面が規格的な縦ヘラケズリ、内面がヘラナデ、脚台部は外面が縦ヘラケズリ、内面は周回方向のヘラケズリを施す。色調は内面が灰黄褐色ないし褐灰色、外面はにぶい黄橙色ないしにぶい褐色を呈する。胎土は暗赤褐色で粗く、白色粒を多量、砂粒や石英粒、雲母微粒子を中量含む。焼成は普通でもろくなっている。33は裾径8.2cm、底径5.8cm、脚台高2.2cmである。体部は急角度に立ち上がり、あまり膨らまないタイプと考えられる。脚台部はやや高く、“ハ”字形に強く広がる。体部は外面が規格的な縦ヘラケズリ、



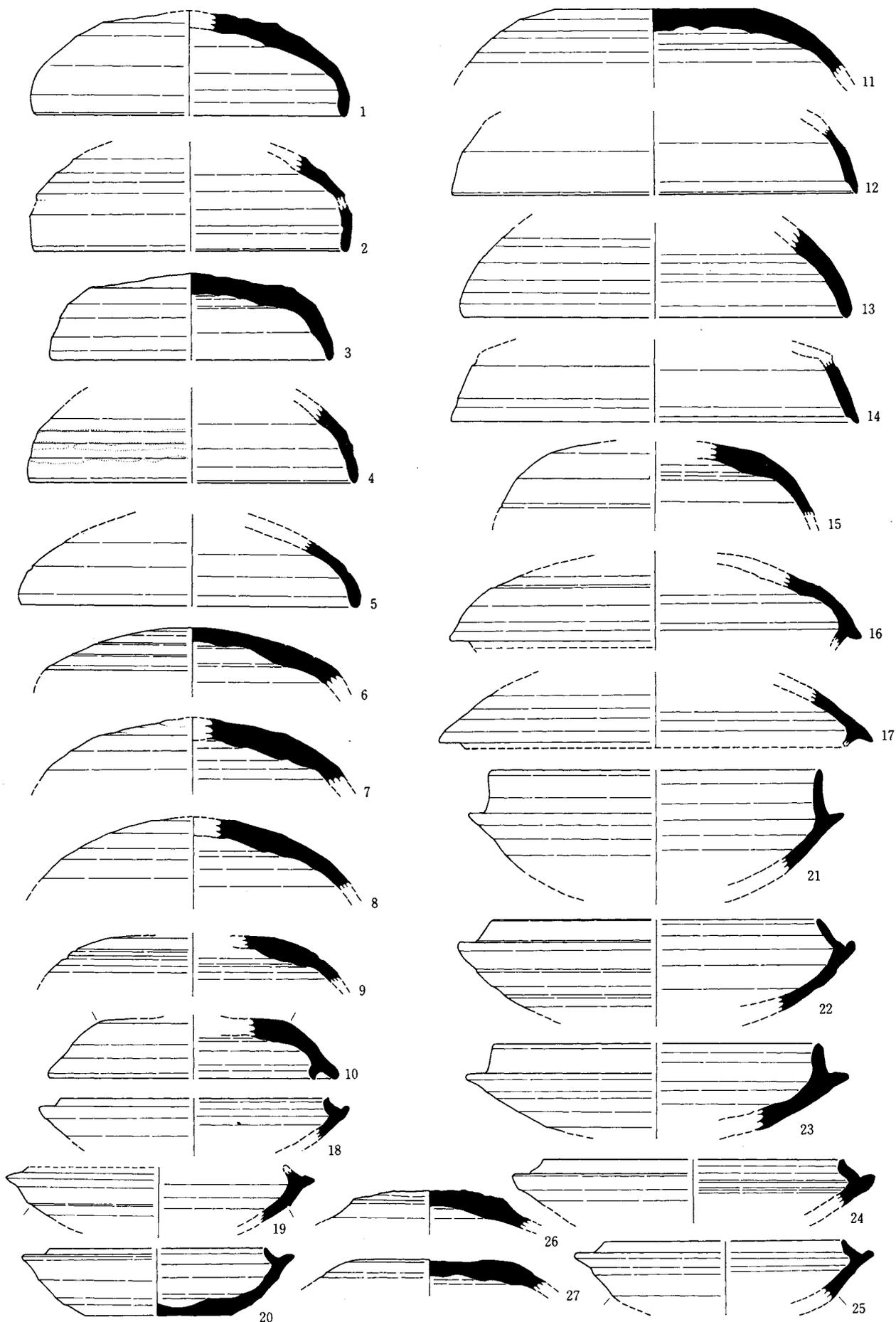
第38図 出土遺物分布図(3) 土師器 (甕類)

内面はヘラナデ、脚台部は外面に指頭押捺痕を明瞭に残し、内面には縦ヘラナデを施す。色調は内面外面共ににぶい橙色ないし褐色を呈する。胎土は赤褐色で粗く、石英粒や砂粒を中量、白色粒子と雲母を少量含む。焼成は比較的良好でしまっている。34は裾径9.4cm、底径8.2cm、脚台高3.0cmである。体部がやや膨らむタイプと考えられる。脚台部は高く、円筒状を呈し開きは弱い。体部は遺存しないため調整技法は不明だが、脚台部は外面が規格的な縦ヘラケズリ、内面は縦ヘラナデを施す。色調は内面ににぶい橙色ないし橙色、外面が橙色を呈する。胎土は赤灰色で粗く、石英粒が目立つほか、白色粒子を中量、砂粒や雲母様微粒子を少量含む。焼成は普通でしまっている。

③ 須恵器・灰釉陶器（第39図～第47図、第20表・第21表、図版17～図版23）

ア. 杯・杯蓋（第39図～第42図、第15表、図版17～図版19）

1～17・26・27はつまみを有しないタイプの須恵器杯蓋である。1は口径11.4cm、天井部径5.6cm、遺存部分の器高は3.9cmである。天井部は丸みを帯び、口縁部は強く内湾し、口縁端部はやや内向する。天井部は外面が回転ヘラ切り無調整、内面は回転ヘラナデ、口縁部は内面外面共にやや間隔の広いロクロ目を比較的明瞭に残す。内面外面共にややザラついている。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土は灰白色ないし明紫灰色で、黒色粒子が目立つほか、石英粒や砂粒を少量含み緻密である。焼成は非常に良好でよくしまっている。2は口径11.2cm、最大径11.8cm、遺存部分の器高は3.6cmである。天井部の形状は不明だが、口縁部は強く内湾し、口縁端部は内向する。稜は比較的明瞭で、口縁部中位やや下寄りにある。口縁部は内面外面共に間隔が比較的狭く明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土はにぶい黄橙色で、石英粒を微量含むが混入物は総じて少なく、緻密である。焼成は普通だがよくしまっている。3は口径10.1cm、天井部径7.6cm、器高は3.2cmである。天井部は非常に浅い円錐状で、口縁部は強く内湾し、口縁端部は若干外向する。天井部は外面が回転ヘラ切り無調整、内面には間隔の狭いロクロ目を残し、口縁部は内面外面共にやや間隔の広いロクロ目を明瞭に残す。内面は比較的滑らかだが外面はザラついている。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、石英粒が目立つほか、白色粒子を中量、砂粒や黒色粒子を少量含み、比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。4は口径11.9cm、遺存部分の器高は2.8cmである。天井部の形状は不明だが、口縁部は緩く内湾し、口縁端部は若干外向する。口縁部は内面外面共に間隔が比較的狭く、やや弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土は灰白色ないし灰黄褐色で、白色粒子と石英粒を微量含むが混入物は総じて少ない。非常に緻密である。焼成は比較的良好でよくしまっている。なお外面には部分的に自然釉がかかっており、褐灰色でにぶい光沢を持つ。5は口径12.0cm、遺存部分の器高は2.4cmである。天井部の形状は不明だが、口縁部は緩く内湾し、口縁端部がほぼ直立する。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土は灰色で、黒色砂粒と灰色粒子を微量含むが総じて混入物は少なく、緻密である。焼成は普通でしまりはやや弱い。6は天井部径4.8cm、遺存部分の器高は2.3cmである。天井部はドーム型で、口縁部は緩やかに内湾する。内面外面共に滑らかである。天井部は外面が回転ヘラケズリ、内面はロクロナデ後横ナデ、口縁部は内面外面共にロクロ目を残す。色調は内面が明オリーブ灰色、外面は灰色を呈する。胎土は外面と同色で、石英粒を中量、黒色粒子を少量含み非常に緻密である。焼成は非常に良好でよくしまっている。7は天井部径7.0cm、遺存部分の器高は2.4cmである。天井部は浅いドーム型を呈し、口縁部はやや強く内湾する。内面外面共に比較的滑らかである。天井部は外面が回転ヘラ切り無調整、内面はロクロナデ後横ナデ、口縁部は内面外面共に間隔がやや広く、比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面が灰色、外面は灰白色を呈する。



第39圖 出土遺物実測図(9) 須恵器 (杯類) ①

胎土は内面と同色で、石英粒が目立つほか白色粒子を中量含むが、総じて混入物は少なく、緻密である。焼成は非常に良好でよくしまっている。8は天井部径6.4cm、遺存部分の器高は2.7cmである。天井部はドーム型で、口縁部は緩やかに内湾する。天井部は外面が回転ヘラケズリ、内面はロクロナデ後ヘラナデ、口縁部は内面外面共に間隔がやや狭く弱いロクロ目を残す。色調は内面が灰黄褐色、外面は黄灰色ないし灰色を呈する。胎土はにぶい褐色ないし灰色で、石英粒が目立つほか、白色粒子を多量に含み、緻密である。焼成はやや不良だがしまっている。9は天井部径7.6cm、遺存部分の器高は2.7cmである。天井部はドーム型を呈するが比較的平坦で、口縁部は強く内湾する。内面外面共に比較的滑らかである。天井部は外面が回転ヘラケズリ、内面は間隔の狭いロクロ目を残し、口縁部は内面外面共に間隔が広く弱くロクロ目を残す。色調は内面が灰白色、外面は灰白色ないし灰色を呈する。胎土は灰色で、石英粒や白色粒子、黒色粒子を少量含み、緻密である。焼成は良好でよくしまっている。10は口径10.4cm、最大径10.7cm、かえり内径8.8cm、天井部径7.0cm、かえり高0.3cm、遺存部分の器高は2.2cm、想定される杯身の口径は9.4cmである。天井部は比較的平坦で、口縁部はわずかに内湾し、かえりは低く内向する。天井部は外面が回転ヘラケズリ、内面は間隔が狭くやや弱いロクロ目を残し、口縁部およびかえり部は内面外面共に間隔がやや狭く弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土もほぼ同色で、石英粒が目立つほか、白色粒子と砂粒を少量含み、比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。11は天井部径7.4cm、遺存部分の器高は2.6cmである。天井部は平坦で、口縁部は緩やかに内湾する。外面は天井部および口縁部上端が回転ヘラケズリ、口縁部は間隔がやや広く弱いロクロ目を残す。内面は間隔が狭く比較的強いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土もほぼ同色で、黒色粒子がやや目立つほか、石英粒や白色粒子を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。12は口径15.0cm、遺存部分の器高は2.5cm、想定される杯身の口径は13.8cmである。遺存しないため天井部の形状は不明だが、杯部は緩やかに内湾し、口縁端部は若干外向し、内面に比較的明瞭な段を持つ。口縁部には内面外面共に間隔が非常に広く弱いロクロ目を残す。色調は内面が灰白色、外面は黒色を呈する。胎土は灰白色ないし灰色で、黒色粒子が目立つほか、石英粒を少量含むが、混入物は総じて少なく、比較的緻密である。焼成は普通だが比較的しまっている。13は口径17.4cm、遺存部分の器高は3.3cmである。遺存しないため天井部の形状は不明だが、杯部は緩やかに内湾し、口縁端部はほぼ直立する。口縁部は内面外面共に間隔がやや狭く、比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土もほぼ同色で、石英粒や砂粒を少量含み、比較的緻密である。焼成は普通でややもろくなっている。14は口径16.8cm、遺存部分の器高は2.3cm、想定される杯身の口径は16.4cmである。遺存しないため天井部の形状は不明だが、口縁部はほぼ直線的である。口縁端部はそのまま外向し、内面に比較的明瞭な段を持つ。口縁部は内面外面共に間隔が広く弱いロクロ目を残す。色調は内面が灰色、外面は黒褐色ないし灰白色を呈する。胎土は灰色でやや粗く、石英粒がやや目立つほか、白色粒子を中量、気泡などを多く含む。焼成は良好でよくしまっている。15は天井部径5.8cm、遺存部分の器高は1.7cmである。天井部は平坦で、口縁部はやや強く内湾する。天井部は外面が回転ヘラケズリ、内面がロクロナデ後横ナデ、口縁部は内面外面共に間隔が密で非常に強いロクロ目を残す。色調は内面が灰色ないしオリーブ色系の灰色、外面は灰色を呈する。胎土は内面と同色で、石英粒がやや目立つほか、黒色粒子を少量含むが総じて混入物は少なく、非常に緻密である。焼成は非常に良好でよくしまっている。16は口径17.9cm、遺存部分の器高は2.7cm、想定される杯身口径は17.0cmである。遺存しないため天井部の形状は不明だが、体部はやや強く内湾し、口縁端部がわずかに外反する。か

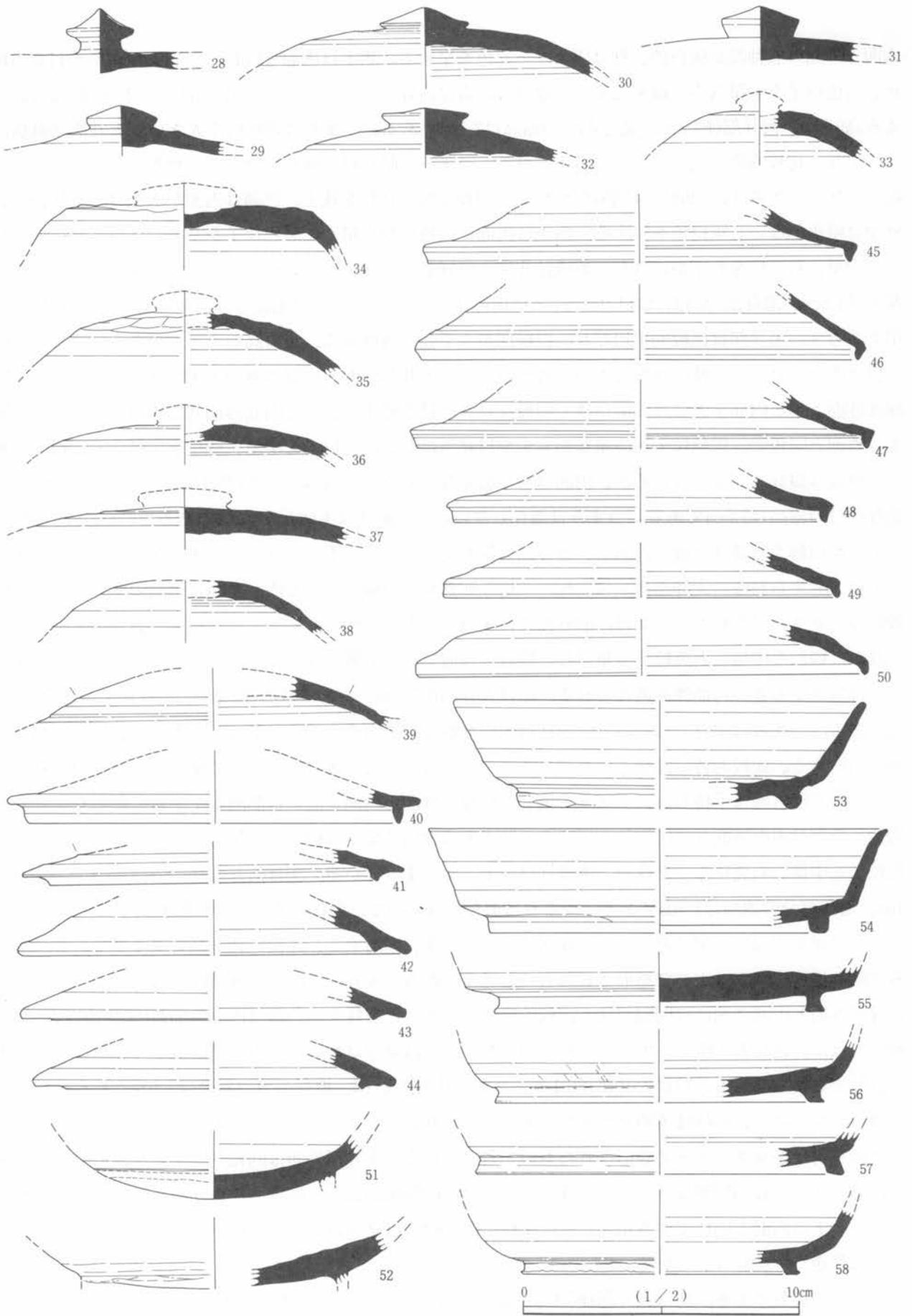
えりはやや高いものと考えられ、直線的に内向する。内面外面共に間隔が狭くやや強いロクロ目を残す。色調は内面が青灰色、外面は褐灰色ないし暗灰色を呈する。胎土はにぶい赤褐色ないし褐灰色で、白色粒子や石英粒が目立つほか、砂粒をわずかに含み、緻密である。17は口径16.9cm、遺存する部分の器高は2.0cm、想定される杯身の口径は16.0cmである。遺存しないので天井部の形状は不明だが、背は低く、口縁部が緩やかに内湾し、口縁端部は外向する。内面外面共に間隔が狭くやや弱いロクロ目を残す。色調は内面が灰白色、外面は暗オリーブ灰色ないし灰色を呈する。胎土は灰色で、石英粒や褐色粒子を少量、砂粒をわずかに含み比較的緻密である。焼成は普通だがしまっている。26は天井部径5.6cm、遺存部分の器高は1.4cmである。天井部は比較的平坦だが、口縁部は遺存しないため不明である。天井部は外面が回転ヘラ切り無調整、内面はロクロナデ後横ナデ、口縁部は間隔が広く弱いロクロ目を残す。色調は内面が外面共に灰色を呈する。胎土もほぼ同色でやや粗く、石英粒がやや目立つほか、黒色粒子を少量含む。焼成は良好でよくしまっている。27は天井部径6.2cm、遺存部分の器高は1.1cmである。天井部は平坦だが、口縁部は遺存しないため不明である。天井部外面が回転ヘラ切り無調整、天井部内面と口縁部内面外面共に間隔がやや狭く比較的強いロクロ目を残す。色調は内面が灰白色、外面は灰色を呈する。胎土は内面と同色でやや粗く、石英粒を中量、黒色粒子と灰色粒子を少量含む。焼成は良好でよくしまっている。

18～25は立ち上がりを有するタイプの杯身である。18は口径11.2cm、最大径11.4cm、立ち上がり径9.8cm、立ち上がり高0.6cm、遺存部分の器高は2.3cmである。体部はやや深い皿形でわずかに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。立ち上がり部は低く、反り返っているがほぼ直立する。底部は回転ヘラケズリ、口縁部と立ち上がり部は内面外面共に間隔がやや広く弱いロクロ目を残す。色調は内面が灰色、外面が黒色を呈する。胎土は内面と同色で、石英粒を少量、白色粒子をわずかに含み、緻密である。焼成は非常に良好で極めてよくしまっている。19は口径10.2cm、遺存部分の器高1.9cmである。遺存しないため底部の形状は不明だが、体部は浅い皿形でわずかに内湾しながら立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。立ち上がりは低く内向する。内面外面共に間隔がやや狭く、明瞭なロクロ目を残す。色調は内面が灰色ないし暗青灰色、外面は灰色ないし青灰色を呈する。胎土は暗青灰色で、石英粒が目立つほか、白色粒子と砂粒を少量含み、緻密である。焼成は極めて良好で、非常によくしまっている。20は口径9.6cm、底径5.4cm、最大径10.0cm、立ち上がり径7.9cm、立ち上がり高0.6cm、器高は2.5cmである。底部は平底で、体部はやや深い皿形で内湾しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。立ち上がり部はやや低く、ごくわずかに反り返るが内向する。底部は外面が回転ヘラケズリ、内面がナデ、体部と立ち上がり部は内面外面共に間隔が広く、明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰色、胎土もほぼ同色で、石英粒がやや目立つほか、白色粒子を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好でよくしまっている。21は口径16.2cm、立ち上がり径14.4cm、立ち上がり高1.9cm、遺存部分での器高は3.8cmである。遺存しないため底部の形状は不明だが、体部は浅い椀型でゆるやかに内湾しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。立ち上がりは高く、ほぼ直立する。内面外面共に間隔がやや狭く、比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面が灰白色ないし灰色、外面は灰白色を呈する。胎土は内面と同色で、黒色粒子が目立つほか、白色粒子と石英粒を少量含み、比較的緻密である。焼成は比較的良好だがしまりは弱い。22は口径14.4cm、最大径14.8cm、立ち上がり径12.0cm、立ち上がり高1.1cm、遺存部分の器高は3.4cmである。底部は丸底と考えられる。体部はやや深い皿形で、内湾しながら立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。立ち上がり部は高く、ほぼ直線的に内向する。口縁部と立ち上がり部は内面外面共に間隔がやや狭く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調

は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、白色粒子を少量、砂粒と石英微粒子をわずかに含み、緻密である。焼成は普通で、若干脆くなっている。23は口径11.0cm、底径6.2cm、最大径12.0cm、立ち上がり径9.9cm、立ち上がり高1.1cm、遺存部分の器高は3.2cmである。底部は平底に近いものと考えられる。体部は浅い皿形で若干内湾しながら立ち上がり、口縁部はごくわずかに外反する。立ち上がりは高く、ほぼ直立する。底部は回転ヘラケズリ、体部と立ち上がり部は内面外面共に間隔が狭くやや弱いロクロ目を残す。色調は内面が灰色、外面はにぶい光沢をもつ灰色を呈する。胎土は暗灰色で、石英粒を中量、白色粒子を少量含み、非常に緻密である。焼成は極めて良好でよくしまっている。24は口径13.0cm、最大径13.4cm、立ち上がり径11.2cm、立ち上がり高0.8cm、遺存部分の器高は1.7cmである。体部はやや深い皿形でわずかに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。立ち上がり部はやや低く、わずかに反り返るが端部はほぼ直立する。体部と立ち上がり部は内面外面共に間隔が狭く、比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰を呈する。胎土も同色で、白色粒子を中量、石英粒を少量含み、比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。25は口径11.0cm、最大径11.4cm、立ち上がり径9.2cm、立ち上がり高0.7cm、遺存部分の器高は2.3cmである。体部は深い皿形で内湾しながら立ち上がるが、口縁部のみわずかに外反する。立ち上がり部はやや高くほぼ直線的に内向する。底部は回転ヘラケズリ、体部と立ち上がり部は内面外面共に間隔が比較的広く、やや弱いロクロ目を残す。色調は内面が明青灰色、外面は灰白色を呈する。胎土は外面と同色で、石英粒が目立つほか、砂粒と白色粒子を少量含み、緻密である。焼成は良好でしまっている。

28は宝珠つまみを有する杯蓋で、つまみ径2.4cm、つまみ高1.6cm、遺存部分の器高は2.4cmである。つまみは断面菱形で、頂部はやや背の高い円錐形でやや大きく、天井部は平坦で、口縁部は直線的に開くものと考えられるが、遺存しないので口縁部以下の形状は不明である。つまみは貼り付け後ロクロナデにより整形され、天井部は外面が回転ヘラケズリ、内面には指頭押捺痕を残す。外面全面にオリーブ灰色で透明ガラス質の釉がかかる。色調は内面が灰白色、つまみ部と外面は黄色系の灰白色を呈する。胎土は内面と同色で、黒色微粒子と灰色微粒子をごくわずかに含むが混入物は総じて少なく、非常に緻密である。焼成は極めて良好でよくしまっている。

29～37は擬宝珠つまみを有する杯蓋である。29はつまみ径2.6cm、つまみ高0.8cm、遺存部分の器高は1.8cmである。つまみは背が高く、比較的大きい。天井部は背の低い笠形で、ほぼ直線的に開くものと考えられる。つまみは貼り付けでロクロナデにより整形され、天井部は外面が回転ヘラケズリ、内面には弱いロクロ目を残す。色調は内面が明青灰色、外面は青灰色ないし灰色である。胎土は内面と同色で、黒色粒子を中量、白色粒子を少量、石英粒をわずかに含み、非常に緻密である。焼成は極めて良好で、よくしまっている。30はつまみ径3.2cm、つまみ高0.8cm、天井部径8.2cm、遺存部分の器高は2.8cmである。つまみは背が低く、大きい。天井部は比較的平坦だが、口縁部はゆるやかに内湾する。つまみは貼り付け後ロクロナデで整形され、天井部と口縁部は内面外面共に間隔が狭く、比較的強いロクロ目を残す。なお外面には半透明ガラス質の釉がほぼ全面にかかる。色調は内面および外面の無釉部が灰白色、釉は灰オリーブ色を呈する。胎土は内面と同色で、砂粒を中量、黒色粒子を少量、白色粒子をわずかに含み緻密である。焼成は良好でしまっている。31はつまみ径2.4cm、つまみ高1.2cm、遺存部分の器高は2.1cmである。つまみは背が高く、やや小さい。天井部はほぼ平坦である。つまみは貼り付け後ロクロナデで整形され、天井部は外面が回転ヘラケズリ、内面はロクロナデを施す。外面のほぼ全面に半透明ガラス質の釉がかかる。色調は



第40図 出土遺物実測図(10) 須恵器(杯類)②

内面と外面の無釉部が灰白色、釉は灰オリーブ色を呈する。胎土は内面と同色で、石英粒がやや目立つほか、白色粒子を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好でよくしまっている。32はつまみ径3.2cm、つまみ高0.8cm、天井部径8.3cm、遺存部分の器高は2.1cmである。つまみは背が低く大きい。天井部は直線的に広がり、比較的背の高いタイプと考えられる。つまみは貼り付け後ロクロナデで整形され、天井部は外面が回転ヘラケズリ、内面には間隔がやや広く明瞭なロクロ目を残す。色調は内面が灰色ないし灰白色、外面は暗灰色ないし灰白色を呈する。胎土は内面と同色でやや粗く、黒色粒子がやや目立つほか、白色粒子を少量、石英粒をわずかに含む。焼成は非常に良好でよくしまっている。33は天井部径3.9cm、つまみ基部径1.5cm、遺存部分の器高は1.9cmで、やや小ぶりである。つまみは遺存しないので形状は不明だが小型であろう。天井部は比較的平坦だが、口縁部がやや強く内湾する、背の高いタイプである。つまみは貼り付け後ロクロナデで整形されたものと考えられる。天井部外面と口縁部外面上半が回転ヘラケズリ、口縁部外面下半と内面全面には間隔が狭く明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土は外面と同色で、黒色粒子が少量ながらやや目立つほか、白色粒子を中量、砂粒を少量含み、緻密である。焼成は良好でしまっているが、内面はやや脆くなっている。34は天井部径9.1cm、つまみ基部径3.6cm、遺存部分の器高は1.8cmである。つまみは遺存しないので、形状は不明だが大型であろう。天井部は平坦であるが口縁部は非常に強く内湾し、背の高い箱型を呈する。つまみは貼り付け後ロクロナデで整形されたものと考えられる。天井部外面は回転ヘラ切り無調整、口縁部外面と内面全面には間隔がやや狭く、比較的弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色である。胎土も同色でやや粗く、雲母が非常に目立つほか、砂粒を中量、石英粒を少量含む。焼成は普通で、やや脆くなっている。なお形状から、無頸壺もしくは短頸壺の蓋の可能性も考えられる。35は天井部径7.6cm、つまみ基部径2.2cm、遺存部分の器高は2.3cmである。つまみは遺存しないので、形状は不明だが大型であろう。天井部は丸みを帯び、口縁部がやや強く内湾する、比較的背の高いタイプである。つまみは貼り付け後ロクロナデで整形されたものと考えられる。天井部外面は手持ちヘラケズリを施し、口縁部外面と内面全面には間隔がやや狭く弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土もほぼ同色でやや粗く、黒色粒子がよく目立つほか、白色粒子を中量、石英粒を少量含む。焼成は良好でよくしまっている。36は天井部径8.8cm、つまみ基部径2.2cm、遺存部分の器高は1.3cmである。つまみは遺存しないので、形状は不明だが比較的大型であろう。天井部と口縁部内周は平坦に近いが、口縁部外周がやや強く内湾する、比較的背の高いタイプである。つまみは貼り付け後ロクロナデで整形されたものと考えられる。天井部外面と口縁部内周は回転ヘラケズリ、口縁部外周と内面全面には間隔が狭く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土もほぼ同色で若干粗く、黒色粒子が少量ながらやや目立つほか、石英粒と白色粒子を少量含む。焼成は良好でしまっている。37は天井部径6.1cm、つまみ基部径3.2cm、遺存部分の器高は1.4cmである。つまみは遺存しないので、形状は不明だが大型であろう。天井部は全体的に平坦で背の低いタイプである。つまみは貼り付け後ロクロナデで整形されたものと考えられる。天井部外面は回転ヘラケズリ、その他の部分は間隔が狭く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面が灰白色、外面はややクリーム色系の灰白色を呈する。胎土は内面と同色でやや粗く、雲母微粒子が比較的目立つほか、白色粒子を中量、砂粒を少量含む。焼成は普通だが脆くなっている。

38～50は杯蓋である。38は天井部径5.1cm、遺存部分の器高は1.9cmである。天井部はやや丸みを帯びるが、口縁部はほとんど内湾せず直線的に広がる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部外面と内面全面に

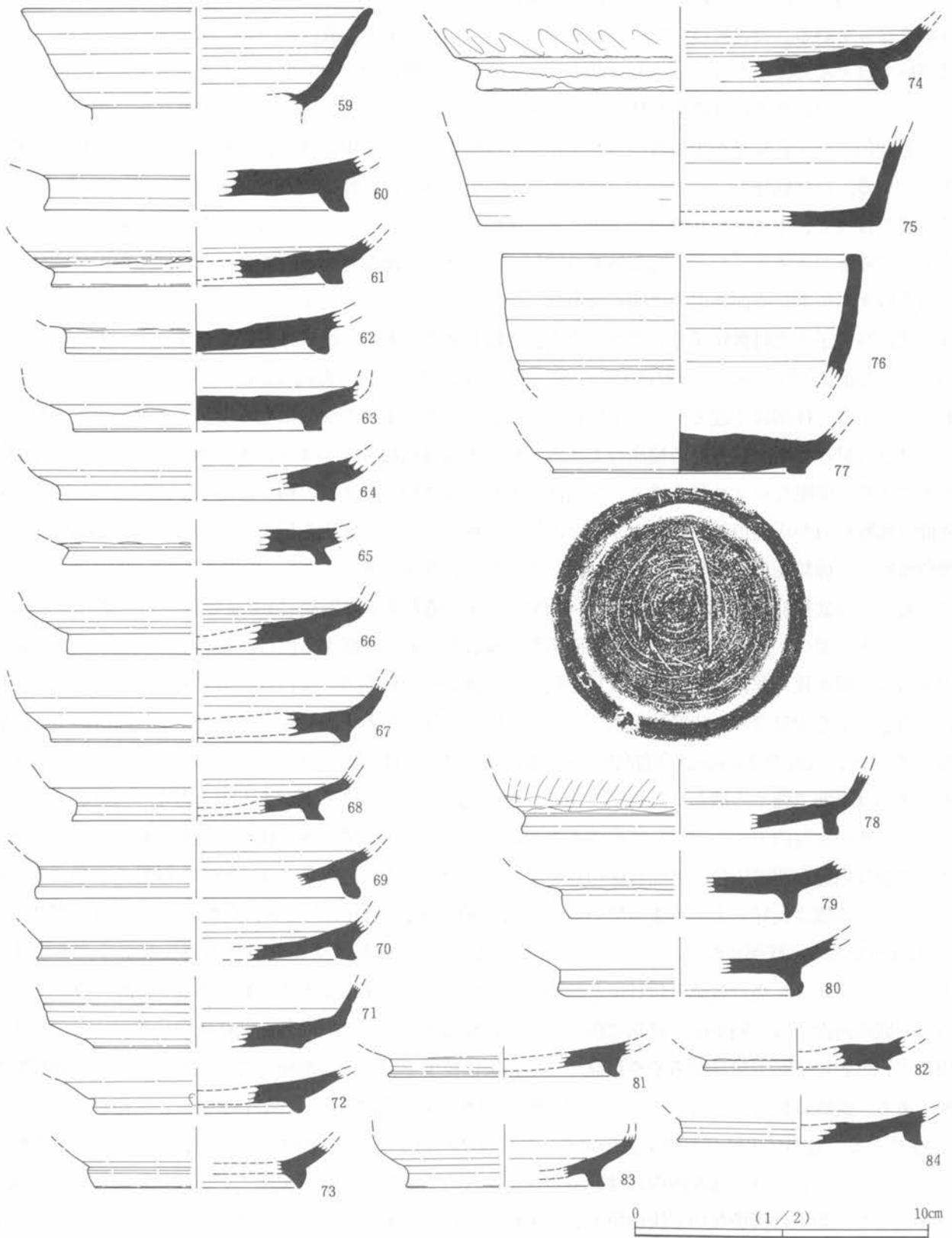
は間隔がやや狭く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面がオリーブ灰色、外面は灰色を呈する。胎土は内面と同色で、石英粒を少量、黒色砂粒を少量含み、緻密である。焼成は良好でしまっている。39は天井部径10.0cm、遺存部分の器高は1.8cmである。天井部はやや丸みを帯びるが、口縁部はほとんど内湾せず直線的に広がる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部外面と内面全面には間隔が狭く明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、石英粒を少量、白色粒子と黒色粒子をわずかに含み、比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。40は最大径15.0cm、かえり径13.4cm、かえり高0.6cm、想定される杯身口径13.8cm、遺存部分の器高は1.0cmである。天井部は遺存しないので形状は不明だが、つまみを有し、背の低い笠形を呈するものと考えられる。口縁部は外反し、ほぼ真横に広がる。かえりはやや高く直立する。遺存部分はすべてロクロナデで整形される。色調は内面外面共に灰白色である。胎土も同色で、白色粒子と石英粒がやや目立つが、他には混入物は見られず、比較的緻密である。焼成は普通だがしている。41は最大径13.8cm、かえり径11.8cm、かえり高0.4cm、想定される杯身の口径は12.6cm、遺存部分の器高は1.2cmである。遺存しないので天井部の形状は不明だが、つまみを有し、背の低い笠形を呈するものと考えられる。かえりは低く、断面爪形である。遺存部分はすべてロクロナデで整形される。色調は内面外面共に灰である。胎土も同色でやや粗く、灰色砂粒を多量、石英粒と白色粒子を中量含む。焼成は普通だが、しまりは比較的弱い。42は最大径14.1cm、かえり径11.4cm、かえり高0.3cm、想定される杯身の口径は12.6cm、遺存部分の器高は1.8cmである。遺存しないので天井部の形状は不明だが、つまみを有し、比較的背の高い笠形を呈するものと考えられる。かえりは非常に低く、断面三角形を呈する。遺存部分はすべてロクロナデで整形される。色調は内面外面共に灰白色である。胎土もほぼ同色でやや粗く、石英粒と砂砂を中量含む。焼成は普通で、しまりは比較的弱い。43は最大径14.0cm、かえり径10.9cm、かえり高0.4cm、想定される杯身の口径13.0cm、遺存部分の器高は1.2cmである。天井部は遺存しないので形状は不明だが、つまみを有し、やや背の高い笠形を呈するものと考えられる。かえりは非常に低く、断面三角形を呈する。遺存部分はすべてロクロナデで整形される。色調は内面外面共に灰白色である。胎土は灰白色ないし淡黄色で、黒色砂粒を中量、石英粒と白色粒子を少量含み、比較的緻密である。焼成はやや不良で、しまりは弱い。44は最大径13.2cm、かえり径10.8cm、かえり高0.4cm、想定される杯身の口径は12.3cm、遺存部分の器高は2.0cmである。遺存しないので天井部の形状は不明だが、つまみを有し、やや背の高い笠形を呈するものと考えられる。かえりは低くつぶれた爪形である。遺存部分はすべてロクロナデで整形される。なお外面全面半透明ガラス質の釉がかかる。色調は内面が明紫灰色ないし灰白色、外面はオリーブ黒色を呈する。胎土は灰白色でやや粗く、灰色砂粒を多量、石英粒を少量含む。焼成は良好でよくしまっている。45は口径15.4cm、最大径15.8cm、かえり高0.7cm、遺存部分の器高は2.0cmである。天井部内周が遺存しないため形状ははっきりしないが、つまみを有し、やや背の高い笠形を呈するものと考えられ、天井部外周はゆるやかに外反する。かえり部は断面三角形でほぼ直立する。遺存部分はすべてロクロナデで整形される。色調は内面外面共にややクリーム系の灰白色、胎土も同色で、石英粒や黒色粒子、灰色粒子などをいずれも少量含み、緻密である。焼成は良好でよくしまっている。46は口径16.0cm、最大径16.4cm、かえり高0.4cm、遺存部分の器高は2.5cmである。天井部内周は遺存しないため形状ははっきりしないが、かえり部は断面爪形で、わずかに内向する。遺存部分はすべてロクロナデで整形される。色調は内面が灰色ないし灰白色、外面は灰白色ないし明紫灰色である。胎土はにぶい橙色ないし灰色で、石英粒と黒色粒子を少量含み、非常に緻密である。焼成は極めて良好でよくしまっている。47

は口径16.4cm、最大径17.0cm、かえり高0.7cm、遺存部分の器高は2.0cmである。天井部内周は遺存しないので形状ははっきりしないが、つまみを有し、やや背の高い笠形を呈するものと考えられる。天井部外周はやや外反し、端部はほぼ真横に広がる。かえり部は断面三角形で、わずかに内向気味だがほぼ直立する。遺存部分はすべてロクロナデで整形される。色調は内面が灰白色、外面は灰色ないし灰白色である。胎土は外面と同色で、黒色粒子を少量、白色粒子をわずかに含み、緻密である。焼成は良好だが、若干脆くなっている。48は口径13.6cm、最大径14.0cm、かえり高0.6cm、遺存部分の器高は1.6cmである。天井部内周は遺存しないので形状ははっきりしないが、つまみを有し、やや背の高い笠形を呈するものと考えられる。天井部外周はゆるやかに外反し、端部はほぼ真横に広がる。かえり部は断面爪形で、わずかに内向気味だがほぼ直立する。遺存部分はすべてロクロナデで整形される。色調は内面が灰色ないし灰白色、外面もほぼ同色である。胎土は灰白色で、黒色粒子や白色粒子などを少量含むがほとんど目立たず、緻密である。焼成は良好でよくしまっている。49は口径14.2cm、最大径14.4cm、かえり高0.4cm、遺存部分の器高は1.7cmである。天井部内周は遺存しないので形状は不明だが、つまみを有し、やや背の高い笠形を呈するものと考えられる。天井部外周はほぼ直線的に広がる。かえり部は断面三角形で直立する。遺存部分はすべてロクロナデで成形される。色調は内面が灰色ないし灰白色、外面もほぼ同色である。胎土は灰白色で、白色粒子や黒色粒子、灰色粒子などをいずれも少量含み、緻密である。焼成は普通でしまっている。50は口径16.2cm、最大径16.6cm、かえり高0.6cm、遺存部分の器高は1.8cmである。天井部内周は遺存しないので形状は不明だが、つまみを有し、やや背の高い円盤型を呈するものと考えられる。天井部外周はわずかに内湾し、端部はほぼ真横に広がる。かえり部は断面爪形で直立する。遺存部分はすべてロクロナデで整形される。色調は内面が灰白色、外面は灰色ないし灰白色である。胎土は内面と同色で、黒色粒子を中量、白色粒子を少量含み、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。

51～70・72・77・79～84は高台付の杯である。51は高台内径7.8cm、遺存部分の器高は2.4cmである。底部は丸底でドーム状に突出し、体部は内湾しながら立ち上がる。高台は貼り付けだが剥離してしまっており、形状は不明である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が広く不明瞭なロクロ目を残す。色調は内面が灰白色、外面は灰色である。胎土は内面と同色で、白色粒子と雲母様微粒子をごくわずかに含み、緻密である。焼成は普通だが若干脆くなっている。52は高台内径8.0cm、遺存部分の器高は1.9cmである。底部は丸底でドーム状に突出し、体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がる。高台は貼り付けだが剥離しており、形状ははっきりしない。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が広く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰色である。胎土は灰白色で、雲母がやや目立つほか、石英粒を中量、黒色粒子を少量含み、緻密である。焼成は普通でしまっている。53は口径14.6cm、底径9.8cm、内底径10.8cm、高台内径8.4cm、高台高0.7cm、器高は3.9cmである。底部はやや丸底気味に突出し、体部はほぼ直線的にやや急角度で立ち上がる。高台は貼り付けで、低い“ハ”字形である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が狭く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、灰色微粒子と黒色微粒子を中量含み、比較的緻密である。焼成は普通でしまっている。54は口径16.2cm、底径12.2cm、内面底径13.4cm、高台内径10.6cm、高台高0.6cm、器高は3.8cmである。底部はやや突出するが平底で、体部はやや急角度で直線的に立ち上がるが、口縁部がわずかに外反する。高台は貼り付けで、背の低い輪高台である。底部外面と体部外面下端には回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が密で比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を

呈する。胎土も同色で粗く、黒色粒子がやや目立つほか、白色粒子を少量、砂粒を多く含む。焼成は良好でしまっている。55は底径12.0cm、内面底径15.2cm、高台内径10.6cm、高台高0.7cm、遺存部分の器高は1.7cmである。底部は平底だがわずかに突出する。体部は下端で“く”字形に折れ曲がり、そのまま急角度で直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで、断面台形の輪高台である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が狭くやや弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土は灰色で、黒色粒子が目立つほか、石英粒や雲母微粒子を中量含み、緻密である。焼成は普通だがしまっている。56は底径12.0cm、底部内径12.6cm、高台内径10.0cm、高台高0.6cm、遺存部分の器高は2.3cmである。高台は平底だがわずかに突出する。体部は下部で“く”字形に折れ曲がり、そのまま直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで断面平行四辺形の“ハ”字形である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔がやや狭く弱いロクロ目を残す。色調は内面が灰色、外面は青灰色を呈する。胎土はにぶい赤褐色ないし灰色で、白色微粒子や灰色微粒子を多量、砂粒を少量含み、比較的緻密である。焼成は良好でよくしまっている。57は底径13.4cm、内面底径12.6cm、高台内径11.4cm、高台高0.6cm、遺存部分の器高は1.5cmである。底部は平底だが突出する。体部は下端で“く”字形に折れ曲がり、そのまま直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで断面平行四辺形の“ハ”字形である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が狭く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に青灰色ないし明黄褐色を呈する。胎土も同色で、砂粒をわずかに含むが混入物は総じて少なく緻密である。焼成は極めて良好でよくしまっている。58は底径10.0cm、内面底径11.0cm、高台内径8.4cm、高台高0.5cm、遺存部分の器高は2.4cmである。底部は平底でほとんど突出しない。体部は下部で強く内湾し、そのままほぼゆるやかに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで、断面平行四辺形の“ハ”字形である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔がやや狭く弱いロクロ目を残す。色調は内面が灰白色、外面は灰色を呈する。胎土は内面と同色で、黒色粒子が少量ながらやや目立つほか、白色粒子や雲母微粒子を少量含み、緻密である。焼成は良好でよくしまっている。59は口径11.8cm、内面底径7.2cm、遺存部分の器高は2.5cmである。体部は下部がゆるやかに内湾しながら立ち上がり、口縁部はごくわずかに外反する。高台の形状は不明だが、貼り付けによるものと考えられる。内面外面共に間隔が狭く明瞭なロクロ目を全面に残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、白色微粒子と灰色微粒子を少量、雲母微粒子をわずかに含み、比較的緻密である。焼成は普通だがしまっている。60は底径10.4cm、高台内径8.2cm、高台高1.0cm、遺存部分の器高は1.8cmである。底部は平底でほとんど突出しない。高台は貼り付けで、断面平行四辺形を呈する輪高台である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が広く弱いロクロ目を残す。色調は内面が灰白色、外面は灰白色ないし灰色を呈する。胎土は外面と同色で、白色粒子と雲母微粒子を多量に含むが、比較的緻密である。焼成はやや不良で、しまりは弱い。61は底径10.0cm、内面底径10.8cm、高台内径8.4cm、高台高0.5cm、遺存部分の器高は1.6cmである。底部はわずかに突出するが平底で、体部は下部で強く内湾し、そのまま直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで断面が低い平行四辺形の“ハ”字形高台である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が狭くやや弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色でやや粗く、黒色粒子や砂粒、石英粒などをそれぞれ中量含む。焼成は比較的良好でしまっている。62は底径9.0cm、高台内径7.4cm、高台高0.8cm、遺存部分の器高は1.5cmである。底部は平底だが若干突出する。高台は貼り付けで、断面逆三角形の輪高台

である。底部は回転ヘラ切り無調整、体部外面と内面全面には間隔が比較的広く弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土も同色で、石英粒と白色粒子を少量含み、緻密である。焼成は良好でしまっている。63は底径8.4cm、内面底径10.8cm、高台内径6.8cm、高台高0.6cm、遺存部分の器高は1.5cmである。底部は平底でほとんど突出しない。体部は下端で“く”字形に折れ曲がり、そのまま直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで断面逆台形の輪高台である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が広く弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色でやや粗く、黒色粒子が目立つほか、雲母微粒子を多量、白色粒子を少量含む。焼成はやや不良で若干脆くなっている。64は底径9.4cm、高台内径7.6cm、高台高0.6cm、遺存部分の器高は1.5cmである。底部は平底だがわずかに突出し、体部はやや急角度で直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで、断面長方形の低い輪高台である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔がやや広く弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土も同色で、石英粒がやや目立つほか、黒色微粒子をわずかに含み、緻密である。焼成は普通だがしまっている。65は底径9.2cm、高台内径7.6cm、高台高0.6cm、遺存部分の器高は1.2cmである。底部は平底でほとんど突出しない。高台は貼り付けで断面平行四辺形の“ハ”字形である。底部外面は回転ヘラケズリ、その他の部分はすべてロクロナデで整形される。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土もほぼ同色で、砂粒を中量、黒色粒子を少量、雲母微粒子をわずかに含み、比較的緻密である。焼成は普通でしまっている。66は底径8.8cm、内面底径7.4cm、高台高0.7cm、遺存部分の器高は1.9cmである。底部は丸底気味でやや突出する。体部は急角度で直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで、断面三角形の輪高台である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が密で比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土も同色で、白色粒子と黒色砂粒を少量含み、緻密である。焼成は普通だがしまっている。67は底径10.0cm、内面底径10.4cm、高台内径9.0cm、高台高0.5cm、遺存部分の器高は2.0cmである。底部はわずかに突出するが平底で、体部は下部で“く”字形に折れ曲がり、そのまま直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで断面逆三角形である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が狭く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で黒色粒子が目立つほか、砂粒や白色粒子を中量含み、比較的緻密である。焼成は良好でしまっている。68は底径8.6cm、内面底径10.0cm、高台内径7.0cm、高台高0.6cm、遺存部分の器高は1.6cmである。底部は丸底でやや突出する。体部は下部で“く”字形に折れ曲がり、そのまま直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は断面平行四辺形の“ハ”字形である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が密で比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面が黄灰色、外面は灰色を呈する。胎土は明緑灰色ないし灰白色で、石英粒と黒色砂粒を中量混入し、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。69は底径11.0cm、内面底径9.4cm、高台高1.1cm、遺存部分の器高は1.7cmである。底部は丸底気味で突出し、体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が密で明瞭なロクロ目を残す。色調は内面が灰白色、外面は灰色ないし灰白色を呈する。胎土は内面と同色で、黒色微粒子と白色微粒子を少量、雲母粒子をわずかに含み、比較的緻密である。焼成は普通だがやや脆くなっている。70は底径11.0cm、底部内径10.8cm、高台内径9.2cm、高台高0.7cm、遺存部分の器高は1.5cmである。底部はやや丸底気味で強く突出する。体部は下端で強く内湾し、そのままゆるやかに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで、断面平行四辺形の“ハ”字形である。底部外面は回転ヘラケ



第41図 出土遺物実測図(11) 須恵器(杯類)③

ズリ、体部外面と内面全面には間隔がやや狭く、比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に白色を呈する。胎土も同色で、砂粒を中量、雲母微粒子を少量含み、緻密である。焼成は普通だが風化しており脆くなっている。72は底径7.0cm、高台内径6.0cm、高台高0.6cm、遺存部分の器高は1.4cmである。底部は平底でほとんど突出しない。高台は貼り付けで断面逆三角形の“ハ”字形である。底部外面は回転ヘラケズリ、高台と底部内面は間隔が狭く非常に弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、灰色粒子が少量ながらやや目立つほか黑色粒子を中量含み、緻密である。焼成は良好でしまっている。77は底径8.6cm、内面底径9.6cm、高台内径7.4cm、高台高0.4cm、遺存部分の器高は1.5cmである。底部は厚く、平底だがわずかに突出する。体部は下部で“く”字形に折れ曲がり、そのまま直線的に立ち上がるものと考えられる。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が密で弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に明青灰色ないし灰白色を呈する。胎土は灰白色で、石英粒がやや目立つほか黑色微粒子と雲母微粒子をわずかに含み、比較的緻密である。焼成は良好でしまっている。78は底径10.8cm、内面底径11.2cm、高台内径9.8cm、高台高0.7cm、遺存部分の器高は2.1cmである。底部は平底だが若干突出する。体部は下端で“く”字形に折れ曲がり、そのまま直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで断面長方形の輪高台である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が密で比較的明瞭なロクロ目を残す。なお体部外面には透明ガラス質の釉がかかる。色調は内面が灰白色、外面は無釉部分が灰白色ないし暗オリーブ灰色で、釉はオリーブ灰色を呈する。胎土は内面とほぼ同色で、黑色微粒子と砂粒を少量含むが混入物は総じて少なく、非常に緻密である。焼成は極めて良好でよくしまっている。81は底径8.0cm、高台内径6.8cm、高台高0.7cm、遺存部分の器高は1.2cmである。底部は平底でほとんど突出しない。高台は貼り付けで断面爪形の輪高台である。底部外面は回転ヘラケズリ、高台と底部内面には間隔が狭く非常に弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、砂粒と白色粒子を少量含み、比較的緻密である。焼成は普通だが若干脆くなっている。82は底径6.8cm、底部内径6.4cm、高台内径5.4cm、高台高0.6cm、遺存部分の器高は1.8cmである。底部は平底だが若干突出する。体部は下部で強く内湾し、急角度でゆるやかに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで断面平行四辺形の“ハ”字形である。遺存部分にはすべて間隔が狭く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面が明青灰色、外面は灰白色を呈する。胎土は青灰色ないし灰白色で、砂粒を少量含み、緻密である。焼成は良好でよくしまっている。83は底径6.4cm、高台内径5.2cm、高台高0.2cm、遺存部分の器高は1.1cmである。底部は厚く、平底でほとんど突出しない。体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで、断面爪形の低い“ハ”字形である。底部外面は回転ヘラケズリ、高台と底部内面には間隔が広く非常に弱いロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、黑色粒子が少量ながらやや目立つほか、灰色粒子を少量含むが総じて混入物は少なく、比較的緻密である。焼成は良好でしまっている。84は底径8.4cm、高台内径7.0cm、高台高0.7cm、遺存部分の器高は1.3cmである。底部は平底だが強く突出する。高台は貼り付けで、断面爪形の輪高台である。底部外面は回転ヘラケズリ、高台と底部内面には間隔が狭く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土は灰色ないし灰白色で、石英粒と砂粒を中量含み、比較的緻密である。焼成は普通だがしまっている。

73・79・80は灰釉陶器の高台付皿である。73は底径7.0cm、高台内径5.4cm、高台高0.7cm、底部は平底で、体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで、やや内湾する爪形を呈



第42図 出土遺物分布図(4) 須恵器 (杯類)

古代 (須恵器) 杯類

するいわゆる三日月高台である。遺存部分はすべて間隔が広く非常に弱いロクロ目を残し、体部内面には透明ガラス質の釉がかかる。色調は内面の無釉部分と外面が灰白色、釉は暗オリーブ色を呈する。胎土は無釉部分と同色で、白色砂粒がやや目立つほか、黒色微粒子を中量含み、緻密である。焼成は良好でよくしまっている。79は底径7.5cm、高台内径6.6cm、高台高1.0cm、遺存部分の器高は1.9cmである。底部は平坦で突出せず、体部はゆるやかに内湾しながら浅い角度で立ち上がる。高台は貼り付けで断面内湾する爪形のいわゆる三日月高台に類するものである。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面はロクロナデで整形されたものと考えられるが、その痕跡はほとんどみられない。体部内面には透明ガラス質の釉がかかる。色調は内面の無釉部と外面が灰白色、釉はオリーブ灰色を呈する。胎土は灰白色で、石英粒や砂粒を中量含み、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。80は底径7.8cm、高台内径6.2cm、高台高1.0cm、遺存部分の器高は2.1cmである。底部は平底で突出せず、体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで、断面爪形を呈するいわゆる三日月高台と呼ばれるものに類する。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面はロクロ整形と考えられるがほとんど痕跡は見られない。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、灰色微粒子をわずかに含み緻密である。焼成は良好でよくしまっている。

74は高台付の盤で、底径14.0cm、内面底径14.6cm、高台内径12.8cm、高台高1.0cm、遺存部分の器高は2.3cmである。底部は非常に薄く、平底だがやや強く突出する。体部は下端で“く”字形に折れ曲がり、そのまま直線的に立ち上がるものと考えられる。高台は貼り付けで、断面逆砲弾形の輪高台である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が密で明瞭なロクロ目を残す。なお体部外面と内面全面、および高台外面には透明ガラス質の釉がかかる。色調は内面外面共に無釉部が灰白色ないし灰色、釉は暗オリーブ灰色ないし灰白色を呈する。胎土は灰白色で、黒色粒子が目立つほか白色粒子を中量含み、非常に緻密である。焼成は極めて良好でよくしまっている。

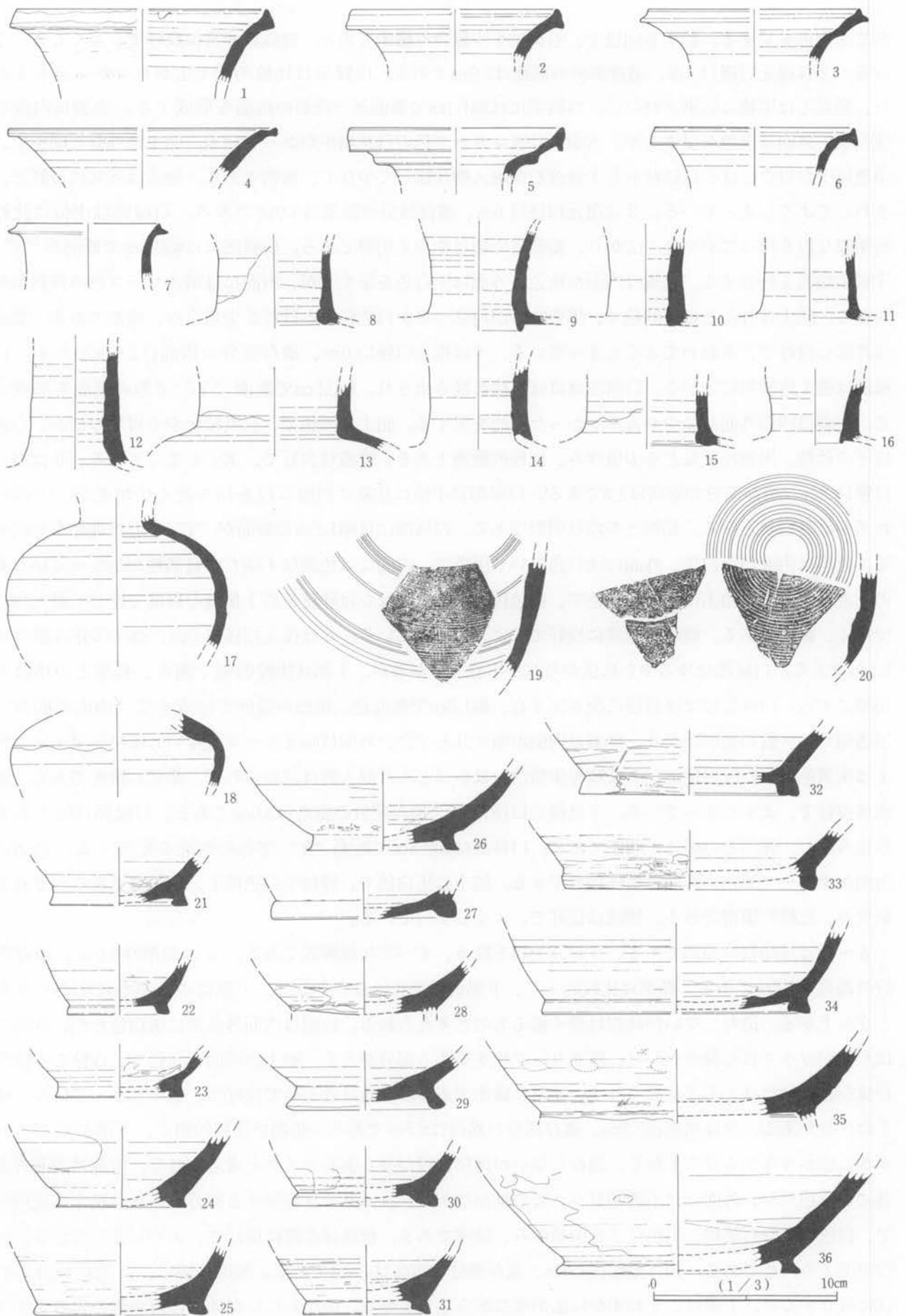
71・75・76は杯もしくは鉢である。71は鉢で、底径7.0cm、内面底径9.4cm、遺存部分の器高は2.1cmである。底部は突出する平底で安定している。体部は下部で“く”字形に折れ曲がり、急角度で直線的に立ち上がる。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔が密で弱いロクロ目を残す。色調は内面が灰色、外面は灰白色を呈する。胎土は外面とほぼ同色でやや粗く、白色粒子や石英粒、砂粒を少量含む。焼成は極めて良好でよくしまっている。75は底径13.6cm、内面底径12.6cm、遺存部分の器高は3.1cmである。底部は平坦で非常に安定している。体部は急角度で直線的に立ち上がる。底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面と内面全面には間隔がやや狭く比較的明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色でやや粗く、白色粒子と灰色粒子、砂粒を少量含む。焼成は比較的良好でしまっている。76は鉢もしくは椀で口径11.2cm、遺存部分の器高は4.3cmである。体部はゆるやかに内湾しながら急角度で立ち上がる。内面外面共に間隔が広く明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、白色粒子と砂粒を中量含み、緻密である。焼成は良好でよくしまっている。

イ. 甕・瓶子（第43図～第47図、第16表、図版20～図版23）

1～7は長頸瓶の口縁部で、1・6は灰釉陶器である。1は復元口径13.6cm、遺存部分の器高は4.1cmである。口縁部はゆるやかに広がりながら立ち上がり、頸部とは明瞭に区別されない。口唇部には幅1.1cmで断面逆三角形の端面を形成する。全面にオリーブ灰色ないし暗オリーブ色の不透明ガラス質の釉がかかるが、二次的に被熱しているため飴状に発泡したり剥がれてしまっている部分がある。色調は内面外面

共に灰白色を呈する。胎土も同色で、石英粒を少量含み緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。2は復元口径11.4cm、遺存部分の器高は2.9cmである。口縁部は比較的強く広がりながら立ち上がり、頸部とは明瞭に区別されない。口唇部には幅1.1cmで断面逆三角形の端面を形成する。色調は内面が灰白色、外面は灰色を呈するが、内面には灰オリーブ色の自然釉がかかっている。胎土は外面と同色で、黒色粒子が目立つほかは砂粒を若干量含むが混入物は総じて少なく、緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。3は復元口径11.6cm、遺存部分の器高は3.0cmである。口縁部は中位に比較的明瞭な段を持ってやや強く広がり、頸部との境はやや不明瞭である。口唇部には幅0.9cmで断面が“Y”字形の端面を形成する。色調は内面が灰色、外面は灰白色を呈するが、内面には暗オリーブ色の自然釉がかかる。胎土は外面とほぼ同色で、黒色粒子が目立つほか白色粒子と砂粒を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。4は復元口径13.0cm、遺存部分の器高は2.6cmである。口縁部は強く直線的に広がる。口唇部はほぼ真横に挽き出され、幅0.5cmで断面“Y”字形の端面を形成する。色調は内面外面共にやや青みがかった灰色を呈する。胎土も同色で、石英粒がやや目立つほか、白色粒子や砂粒、黒色粒子などを少量含み、比較的緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。5は復元口径11.8cm、遺存部分の器高は2.8である。口縁部は中位に非常に明瞭な段を持ち強く広がるが、上部はわずかに受口状となる。頸部との境は明瞭である。口唇部には幅1.3cmで断面が“T”字形の端面を形成する。色調は内面が灰白色、外面は灰白色ないし灰色で、内面には色調は不明だが自然釉がかかっていたものと考えられる。胎土は内面と同色で、白色粒子が目立つほかは砂粒を若干量含む程度で総じて混入物は少なく、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。6は復元口径11.0cm、遺存部分の器高は2.5cmである。口縁部はゆるやかに広がりながら立ち上がるが、上部は比較的強く開き、頸部との境は不明瞭である。口唇部はほぼ真横に挽き出され、幅1.0cmで断面逆三角形の端面を形成する。内面外面共に不透明ガラス質の釉がかかり、色調は内面が暗オリーブ色、外面は暗オリーブ色ないし灰色を呈する。胎土は灰黄色ないし灰白色で、石英粒を少量含むほかほとんど混入物は認められず、非常に緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。7は復元口径7.8cm、遺存部分の器高は3.0cmである。口縁部は短くわずかに外反し、頸部との境は不明瞭である。口唇部は幅0.8cmで断面“Y”字形の端面を形成する。色調は内面がオリーブ黒色、外面は黄灰色を呈する。胎土は灰白色で、砂粒や白色粒子、黒色粒子をそれぞれ少量含み、比較的緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。

8～15は長頸瓶の頸部である。なお12・14を除き、すべて灰釉陶器である。8は頸部径6.0cm、遺存部分の器高は4.2cmである。頸部は比較的太く、下部が円筒状に直立するが、上部はゆるやかに広がりながら立ち上がる。遺存しないが体部は強く張るものと考えられる。色調は内面外面共に灰白色だが、外面には半透明ガラス質の釉がかかり、灰オリーブ色を呈する部分がある。胎土は内面と同色で、砂粒を少量含むほか混入物はほとんど認められず、非常に緻密である。焼成はきわめて良好で、よくしまっている。薄手の作りである。9は頸部径5.2cm、遺存部分の器高は5.5cmである。頸部は比較的細く、下部からごくわずかに広がりながら立ち上がる。遺存しないが体部は肩が強く張るタイプと考えられる。色調は内面外面共に黄灰色だが、外面には不透明ガラス質の釉がかかり、灰オリーブを呈する部分がある。胎土は灰白色で、白色粒子や石英粒、黒色粒子を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。比較的薄手の作りである。10は頸部径4.0cm、遺存部分の器高は4.5cmである。頸部は細く、下部がほぼ円筒状に直立するが、上部はごくわずかに広がりながら立ち上がる。遺存しないが体部は肩が強く張るタイプ



第43图 出土遺物実測図(12) 須恵器(甕・瓶子)①

と考えられる。色調は内面が黒色、外面には全面に半透明ガラス質の釉がかかり、灰オリーブ色を呈する。胎土は灰色で、白色粒子や石英粒、黒色粒子などを少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。やや厚手の作りである。11は頸部径5.0cm、遺存部分の器高は3.7cmである。頸部はやや細く、下部がごくわずかに内側に傾くが円筒状で、遺存しないが体部は肩が強く張るタイプと考えられる。色調は内面が灰色、外面には全面に半透明ガラス質の釉がかかり、灰オリーブ色を呈する。胎土はにぶい黄橙色で、砂粒をわずかに含むほかに混入物は認められず、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。非常に薄手の作りである。12は頸部径4.4cm、遺存部分の器高は6.3cmである。頸部は細く、円筒状でほとんど広がらずに立ち上がる。遺存しないが体部は胴部中位が強く張る球胴型と考えられる。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土もほぼ同色で、白色粒子や石英粒、砂粒、黒色粒子などをそれぞれ少量含み、若干粗い。焼成は良好で、よくしまっている。厚手の作りである。13は頸部径7.4cm、遺存部分の器高は6.3cmである。頸部は太く、ごくわずかに広がりながら立ち上がる。遺存しないが体部は胴部中位が強く張る球胴型を呈するものと考えられる。色調は内面外面共に白色に近い灰白色だが、外面には透明ガラス質の釉がかかり、オリーブ灰色を呈する部分がある。胎土もほぼ同色で、黒色粒子が目立つほか、白色粒子や石英粒を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。比較的薄手の作りである。14は頸部径5.4cm、遺存部分の器高は3.0cmである。頸部はやや細く、ごくわずかに広がりながら立ち上がる。遺存しないが体部は胴部中位が強く張る球胴型と考えられる。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土も同色で、白色粒子や砂粒を少量含み、比較的緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。厚手の作りである。15は頸部径6.8cm、遺存部分の器高は3.0cmである。頸部は太く、円筒状で直立する。遺存しないが体部は肩が強く張るタイプと考えられる。色調は灰白色、外面は灰色だが、外面には透明ガラス質の釉がかかり、オリーブ灰色を呈する部分がある。胎土は外面と同色で白色粒子や黒色粒子を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。比較的薄手の作りである。

16は提瓶の頸部である。頸部はやや広がりながら立ち上がるが、上部でわずかに内湾する。色調は内面が暗灰黄色、外面は黄灰色を呈し、外面には自然釉がかかる部分があるが、ほとんど色は変わらない。胎土は灰白色で、白色粒子や石英粒を少量、黒色粒子をわずかに含み、緻密である。焼成は良好でよくしまっている。比較的厚手の作りである。

17・18は瓶子の体部である。17は頸部径4.0cm、胴部最大径12.0cm、遺存部分の器高は7.2cm、胴部最大径は中位にある。体部は胴部中位が強く張る球胴型で、頸部は狭くすぼまっている。色調は内面外面共にやや青みを帯びた灰白色を呈する。胎土も同色で石英粒が少量ながら目立つほか、白色粒子や砂粒を中量含み、やや粗い。焼成は良好で、よくしまっている。比較的厚手の作りである。18は胴部最大径11.6cm、遺存部分の器高は4.0cm、胴部最大径は肩部にある。体部は肩が強く張るが、明瞭な稜は認められない。色調は内面外面共に白色に近い灰白色だが、外面には自然釉がかかり、オリーブ黒色を呈する部分がある。胎土も同色で、黒色粒子が目立つほか、白色粒子や石英粒を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。比較的厚手の作りである。

19・20は提瓶の被蓋部もしくは体部である。19は遺存部分の器高6.3cmである。外面には明瞭な回転カキ目調整、内面には回転ヘラナデを施す。色調は内面外面共にやや青みがかった灰色を呈する。胎土は灰赤色ないし灰色で、白色粒子や砂粒を中量含み、緻密である。焼成は良好で、きわめてよくしまっている。20は遺存部分の器高5.3cmである。外面には非常に明瞭な回転カキ目を施し、内面は体部が指頭押捺後回

転ナデ、被蓋部には指頭圧痕を残す。色調は内面が灰色、外面はにぶい赤褐色ないし灰色を呈する。胎土は灰褐色ないし灰色で、やや大きい石英粒が目立つほか、白色微粒子を多量、灰色粒子を少量含み、やや粗い。焼成は普通だが、よくしまっている。

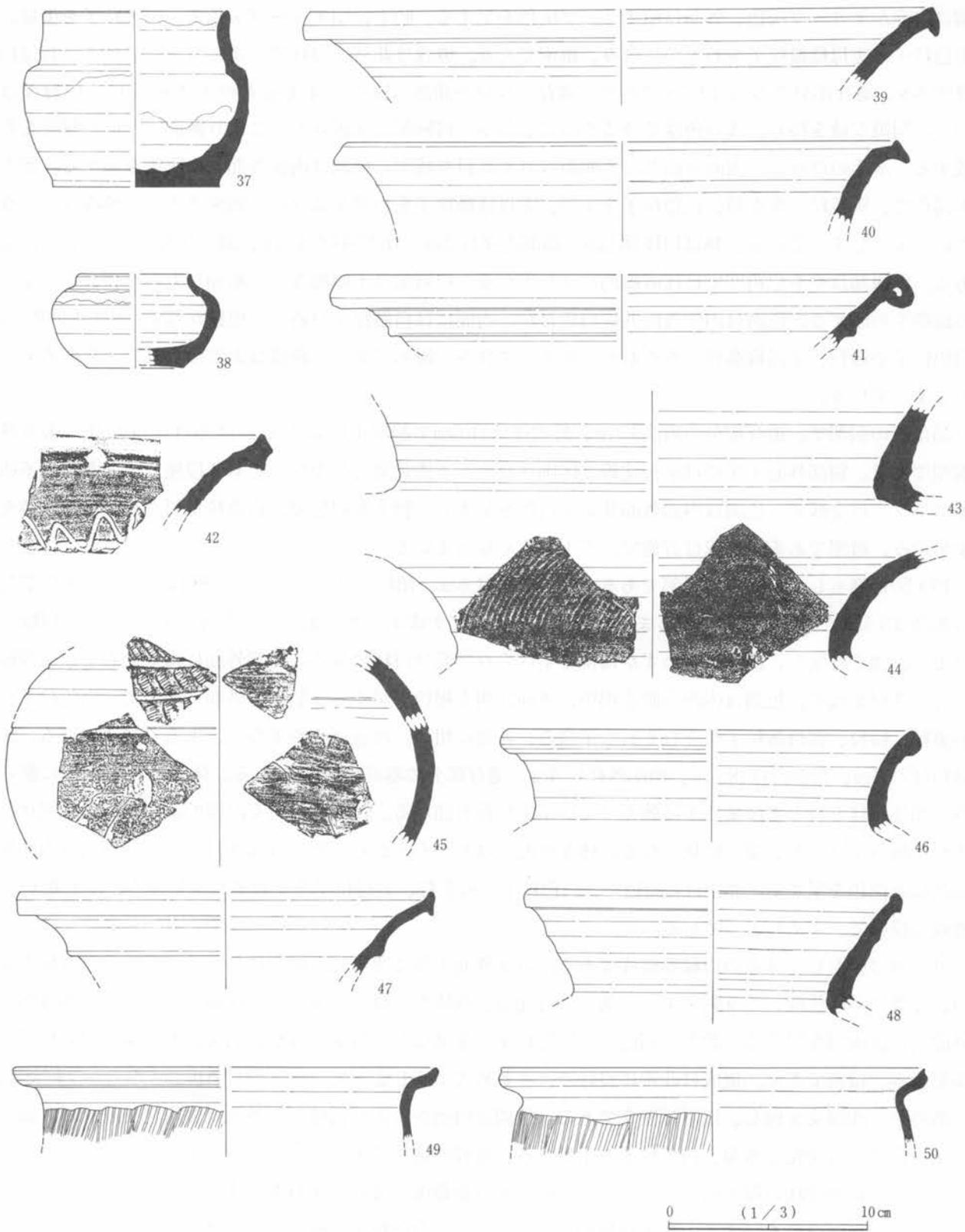
21～36は瓶子の底部である。なお32・36は灰釉陶器である。21は底径7.4cm、高台外径7.6cm、遺存部分の器高は2.7cmである。底部は若干突出し、体部はわずかに内湾しながらやや急角度で立ち上がる。底部外面は回転ヘラケズリ調整を施す。高台は貼付けでやや高く、断面が台形である。色調は内面が灰白色、外面は明青灰色ないし灰白色だが、内面底部には自然釉が付着しておりオリーブ黒色を呈する。胎土は灰白色で、石英粒と砂粒を少量含むほか混入物は認められず、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。22は底径5.4cm、高台外径5.5cm、遺存部分の器高は3.0cmである。底部は比較的平坦で、体部はわずかに内湾しながら急角度で立ち上がる。底部外面は回転ヘラケズリを施す。高台は貼付けで低く、断面はハ字形である。色調は内面が灰色、外面は青灰色だが、底部内面には自然釉が付着しており緑灰色を呈する。胎土は灰白色で、石英粒と灰色粒子をそれぞれ少量含むほか特に混入物は認められず、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。23は底径6.6cm、高台外径7.0cm、遺存部分の器高は2.5cmである。底部は平坦で、体部はやや急角度でわずかに内湾しながら立ち上がる。底部外面には回転ヘラケズリを施すものと考えられる。高台は貼付けでやや高く、断面が台形である。色調は内面外面共に灰色だが、底部内面には自然釉が付着しておりオリーブ灰色を呈する。胎土も同色で、石英粒を少量含むほか特に混入物は認められず、緻密である。焼成は良好で、しまっている。24は底径7.0cm、高台外径も7.0cm、遺存部分の器高は4.8cmである。底部は丸底気味に突出し、体部はわずかに内湾しながら比較的急角度で立ち上がる。底部は回転ヘラケズリを施し薄手だが、体部は厚い。高台は貼付けで低く、断面はハ字形である。色調は内面が灰白色、外面は明青灰色ないし灰色だが、内面には自然釉がかかり、暗オリーブ色を呈する。胎土は内面と同色で、石英粒と雲母様微粒子を少量含み、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。25は底径9.0cm、高台外径9.4cm、遺存部分の器高は3.8cmである。底部はわずかに突出し、体部は急角度で比較的直線的に立ち上がる。底部外面は回転ヘラケズリを施す。高台は貼付けで低く、断面ハ字形である。色調は内面外面共に灰白色だが、底部内面と高台外面には自然釉が付着し、灰オリーブ色を呈する。胎土もほぼ同色で、石英粒を少量、雲母様微粒子をわずかに含み、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。26は底径8.8cm、高台外径8.4cm、遺存部分の器高は4.5cmである。底部は丸底気味で、体部は浅い角度でわずかに内湾しながら立ち上がる。底部と体部の境は明瞭でない。底部外面には回転ヘラケズリを施す。高台は貼付けでやや高く、断面ハ字形である。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、雲母様微粒子を少量、石英粒をわずかに含み、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。27は底径10.0cm、高台外径10.4cm、遺存部分の器高は1.6cmである。底部は丸底気味で、遺存しないが体部は比較的浅い角度で立ち上がるものと考えられる。底部外面には丁寧な回転ヘラケズリを施す。高台は貼付けで低く、断面がハ字形である。色調は内面外面共に灰白色ないし灰色を呈する。胎土は灰白色で、雲母様微粒子をわずかに含むほか混入物は認められず、非常に緻密である。焼成はやや不良だが、しまっている。28は底径8.0cm、遺存部分の器高は2.9cmである。底部は丸底で、体部は浅い角度で内湾しながら立ち上がる。底部外面は回転ヘラケズリを施し、底部と体部との境は意識されていない。高台は貼付けだが、すべて脱落してしまっているため形状などははっきりしない。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土は灰白色で、砂粒と石英粒を少量含み、比較的緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。29は底径7.8cm、高台外

径8.8cm、遺存部分の器高は3.0cmである。底部は丸底で、体部は浅い角度でわずかに内湾しながら立ち上がる。底部外面には回転ヘラケズリを施す。底部と体部との境は意識されていない。高台は貼付けで高く、断面がハ字形である。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土もほぼ同色で、雲母様微粒子を少量、石英粒をわずかに含み、やや粗い。焼成は良好で、よくしまっている。30は底径7.4cm、高台外径8.0cm、遺存部分の器高は3.6cmである。底部は比較的平坦で、体部はやや急角度で直線的に立ち上がる。底部外面と体部外面下端には回転ヘラケズリを施す。高台は貼付けで低く、断面は崩れたハ字形である。色調は内面外面共に灰白色だが、底部内面には自然釉が付着し、灰オリーブ色を呈する。胎土も同色で、石英粒が目立つほか、雲母様微粒子を中量含み、比較的緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。31は底径6.6cm、高台外径7.0cm、遺存部分の器高は3.0cmである。底部は平坦で、体部はやや急角度でわずかに内湾しながら立ち上がる。底部外面と体部外面下端には回転ヘラケズリを施す。高台は貼付けでやや低く、断面はハ字形を呈する。色調は内面が灰白色、外面は灰黄褐色だが、底部内面と高台外面には自然釉が付着し、灰オリーブ色を呈する部分がある。胎土は内面とほぼ同色で、石英粒と雲母様微粒子をそれぞれ少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。32は底径11.6cm、高台外径12.0cm、遺存部分の器高は3.6cmである。底部は平坦で、体部はやや急角度で直線的に立ち上がる。底部外面は回転ヘラケズリを施す。高台は貼付けで比較的高く、断面はハ字形を呈する。色調は内面が灰色、外面は黄灰色だが、外面には透明ガラス質の釉が薄くかかり、灰オリーブ色ないしオリーブ黒色を呈する部分がある。胎土は黄灰色ないし灰白色で、石英粒と砂粒、雲母様微粒子をそれぞれ少量含み、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。33は底径13.6cm、高台外径も13.6cm、遺存部分の器高は3.3cmである。底部は遺存しないので不明だが、体部は比較的急角度で直線的に立ち上がる。体部外面下端には回転ヘラケズリを施す。高台は貼付けでやや低く、断面は丸みを帯びたハ字形である。色調は内面が灰色、外面は灰色ないしオリーブ灰色を呈する。胎土はオリーブ灰色ないし褐灰色で、白色粒子を中量、石英粒と雲母様微粒子を少量含み、比較的緻密である。焼成はやや不良で、あまりしまっておらず、瓦質に近くなっている。34は底径14.4cm、高台以外系14.6cm、遺存部分の器高は4.5cmである。底部は若干丸みを帯び、体部は比較的急角度でわずかに内湾しながら立ち上がる。底部外面には回転ヘラケズリを施す。高台は貼付けで低く、断面は台形である。色調は内面が灰色、外面は暗灰黄色ないし灰白色を呈する。胎土は灰白色ないし灰色で、石英粒をわずかに含むほかは特に混入物は認められず、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。35は底径15.0cm、遺存部分の器高は4.2cmである。底部は平坦で、体部はやや急角度でわずかに内湾しながら立ち上がる。底部外面と体部外面下端には回転ヘラケズリを施す。高台は貼付けだがほとんど脱落してしまっているため、形状ははっきりしない。色調は内面が灰色、外面は灰色ないし暗灰色を呈する。胎土は内面と同色で、白色粒子や石英粒、砂粒および雲母様微粒子をそれぞれ中量含み、やや粗い。焼成は普通だが、あまりしまっておらず、瓦質に近くなっている。36は底径12.6cm、高台外径13.4cm、遺存部分の器高は5.5cmである。底部はやや丸みを帯び、体部は比較的浅い角度でごくわずかに内湾しながら立ち上がる。底部と体部との境はあまりはっきりしない。高台は貼付けで低く、断面は台形である。色調は内面が灰白色、外面はにぶい橙色ないし灰褐色だが、外面には透明ガラス質の釉が薄くかかっており、灰黄色ないし黒色を呈する部分がある。胎土は内面と同色で、石英粒を少量、砂粒をわずかに含み緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。

37・38は小壺である。37は口径6.2cm、底径7.6cm、器高6.1cm、最大径は7.6cmで肩部にある。底部は平

坦で、体部は急角度でわずかに内湾しながら立ち上がり、頸部はあまりすばまらない。口縁部はやや高く、わずかに内傾するがほぼ直立し、口唇部には端面を形成しない。底部にはゆるい回転糸切りもしくは静止糸切り痕を残す。色調は内面が灰白色ないし灰色、外面は灰色だが、口縁部外面から肩部外面と口縁部内面および底部内面には自然釉が薄く付着し、オリーブ黒色ないしオリーブ灰色を呈する。胎土は内面とほぼ同色で、砂粒と灰色粒子をわずかに含むほか特に混入物は認められず、非常に緻密である。焼成は極めて良好で、よくしまっている。38は口径3.8cm、底径3.2cm、器高3.2cm、最大径は5.8cmで肩部にある。底部はわずかに窪み、体部は強く内湾しながら立ち上がる。頸部は短くあまりすばまらずにそのまま口縁部にいたる。口縁部と頸部はあまり明瞭に区別されておらず、小型の短頸壺というべき器形である。底部外面には回転糸切り痕を残す。内面に煤状の付着物が見られるほか、口縁部外面から肩部外面にかけて無色透明な自然釉が薄くかかっている。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土は灰白色で、灰色粒子を少量、石英微粒子をわずかに含むほか特に混入物は認められず、非常に緻密である。焼成は極めて良好で、よくしまっている。

39~44・46~48は甕の口縁部ないし頸部である。39は口径31.6cm、遺存部分の器高は4.0cmである。口縁部は浅い角度でゆるやかにラップ状に広がる。口唇部は下にL字形に折り返され幅1.5cmの縁帯を形成する。比較的厚手の作りで、内面外面共に明瞭なロクロ目を残す。色調は内面が黄灰色、外面は黄色味の強い黒色を呈し、内面には薄く自然釉がかかる。胎土は灰白色で、黒色粒子を中量、白色粒子や砂粒を少量含み、やや粗い。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。40は口径27.8cm、遺存部分の器高は4.2cmである。口縁部はやや急角度でゆるやかにラップ状に広がる。口唇部は真横に挽き出され、幅1.4cmで断面T字形の縁帯を形成する。全面に自然釉が薄くかかっており、色調は内面が黄灰色、外面は灰白色を呈する。胎土は外面とほぼ同色で、白色粒子や黒色粒子、雲母様微粒子をそれぞれわずかに含み、比較的緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。41は口径28.0cm、遺存部分の器高は3.8cmである。口縁部は浅い角度で直線的に広がる。口唇部は外側に巻き込まれ、幅1.4cmで管状の縁帯を形成する。内面全面に自然釉がかかっており、色調は内面が黄灰色、外面は灰白色を呈する。胎土は外面と同色で、黒色粒子を中量、白色粒子と雲母様微粒子を少量、石英粒をわずかに含み緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。42は遺存部分の器高4.0cmである。口縁部は浅い角度でゆるやかにラップ状に広がる。口唇部は折り返しにより断面菱形の縁帯を形成する。口縁部外面には1条の波状沈線文が描かれる。全面に自然釉が薄くかかっており、色調は内面外面共に灰色ないし黄灰色を呈する。胎土は灰色で、白色粒子や石英粒、雲母様微粒子をそれぞれわずかに含み、緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。43は頸部内径22.2cm、頸部外径25.6cm、遺存部分の器高は5.4cmである。頸部はやや狭くすぼまり、“く”字形に折れ曲がる。口縁部は急角度でゆるやかに外反しながら立ち上がる。厚手の作りで、全面に細かく明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土もほぼ同色で、白色粒子や石英粒、砂粒をそれぞれ少量含み、比較的緻密である。焼成は良好、よくしまっている。44は頸部内径17.6cm、頸部外径20.0cm、遺存部分の器高は5.6cmである。頸部は比較的狭くすぼまり、“く”字形に折れ曲がる。口縁部は強く外反しながら立ち上がる。内面には比較的明瞭なロクロ目、外面には斜方向の平行叩き目を残す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土もほぼ同色で、白色粒子と石英粒を少量含み、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。46は口径20.2cm、頸部内径16.2cm、頸部外径21.8cm、遺存部分の器高は5.2cmである。頸部はやや狭くすぼまり“く”字形に折れ曲がる。口縁部は急



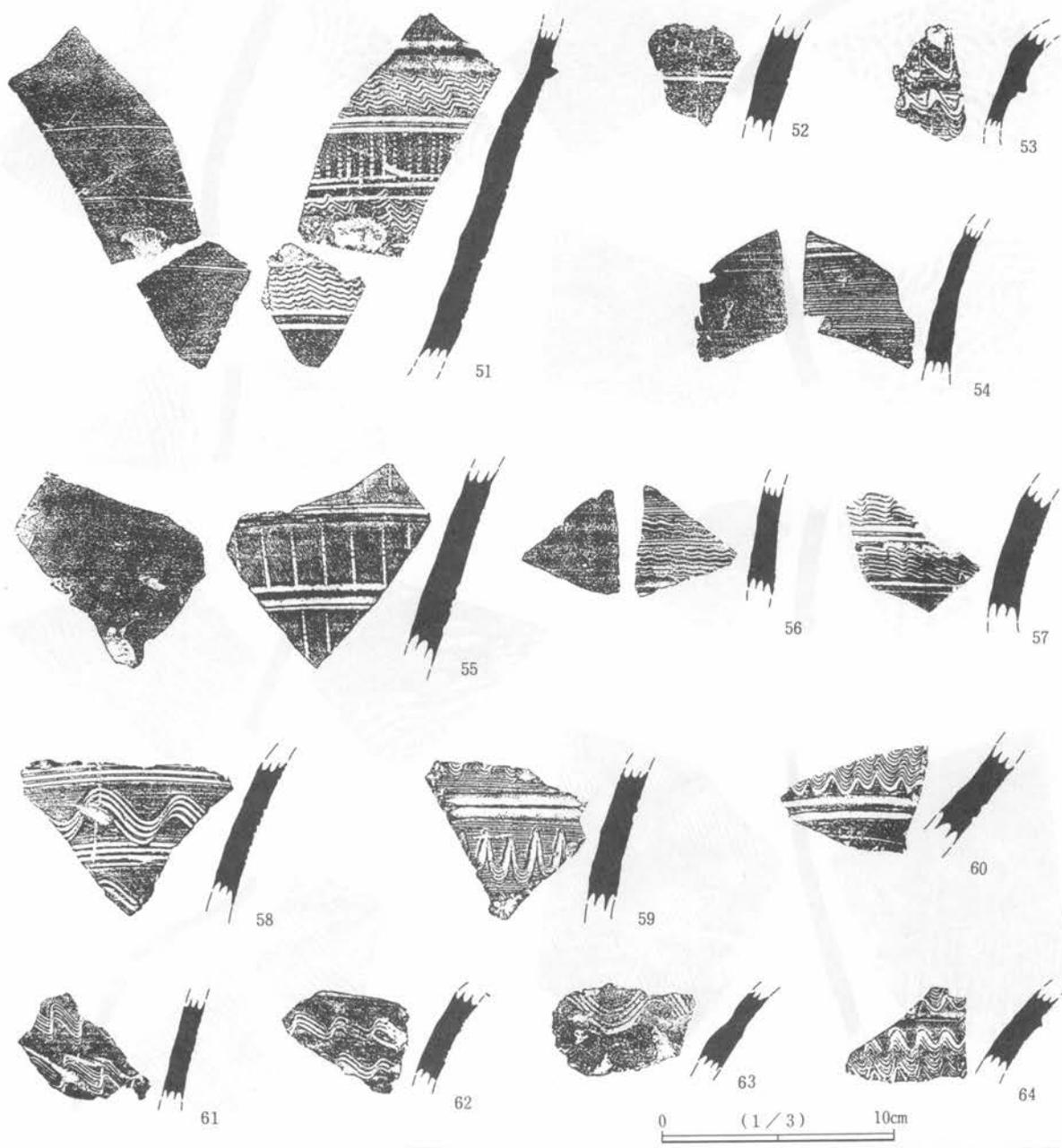
第44図 出土遺物実測図(13) 須恵器(甕・瓶子) ②

角度で外反しながら立ち上がり、口唇部には折り返しにより、丸みを帯びた幅の狭い縁帯を形成する。色調は内面がオリーブ灰色、外面は暗オリーブ灰色を呈する。胎土は明オリーブ灰色で、白色粒子を少量、黒色粒子と雲母様微粒子をわずかに含み、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。47は口径20.8cm、遺存部分の器高は4.2cmである。遺存しないが頸部は狭くすぼまるものと考えられ、口縁部は中位に明瞭な稜を持ち、浅い角度でゆるやかに広がる。口唇部には折り返しにより断面T字形の縁帯を形成する。薄手の作りで、内面外面共に不明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土も同色で、灰色粒子を中量、白色粒子を少量、雲母様微粒子をわずかに含み、緻密である。焼成はふつうだが、よくしまっている。48は口径18.2cm、頸部内径11.2cm、頸部外径14.0cm、遺存部分の器高は6.3cmである。口縁部はやや急角度でほぼ直線的に立ち上がる。口唇部は不明瞭ながら断面が丸みを帯びるT字形の縁帯を形成する。色調は内面外面共灰白色だが、内面には自然釉が付着した痕跡が残る。胎土も同色で、白色粒子や砂粒、雲母様微粒子をそれぞれわずかに含み、緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。

45は壺の胴部で、遺存部分の器高9.7cm、最大径は21.6cmで胴部中位にある。体部は中位が強く張る球胴型である。胴部外面上半には平行沈線で区画されたヘラ描刺突文を少なくとも3段施し、内面には不明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、石英粒が目立つほか、砂粒を少量含み、緻密である。焼成は普通で、若干もろくなっている。

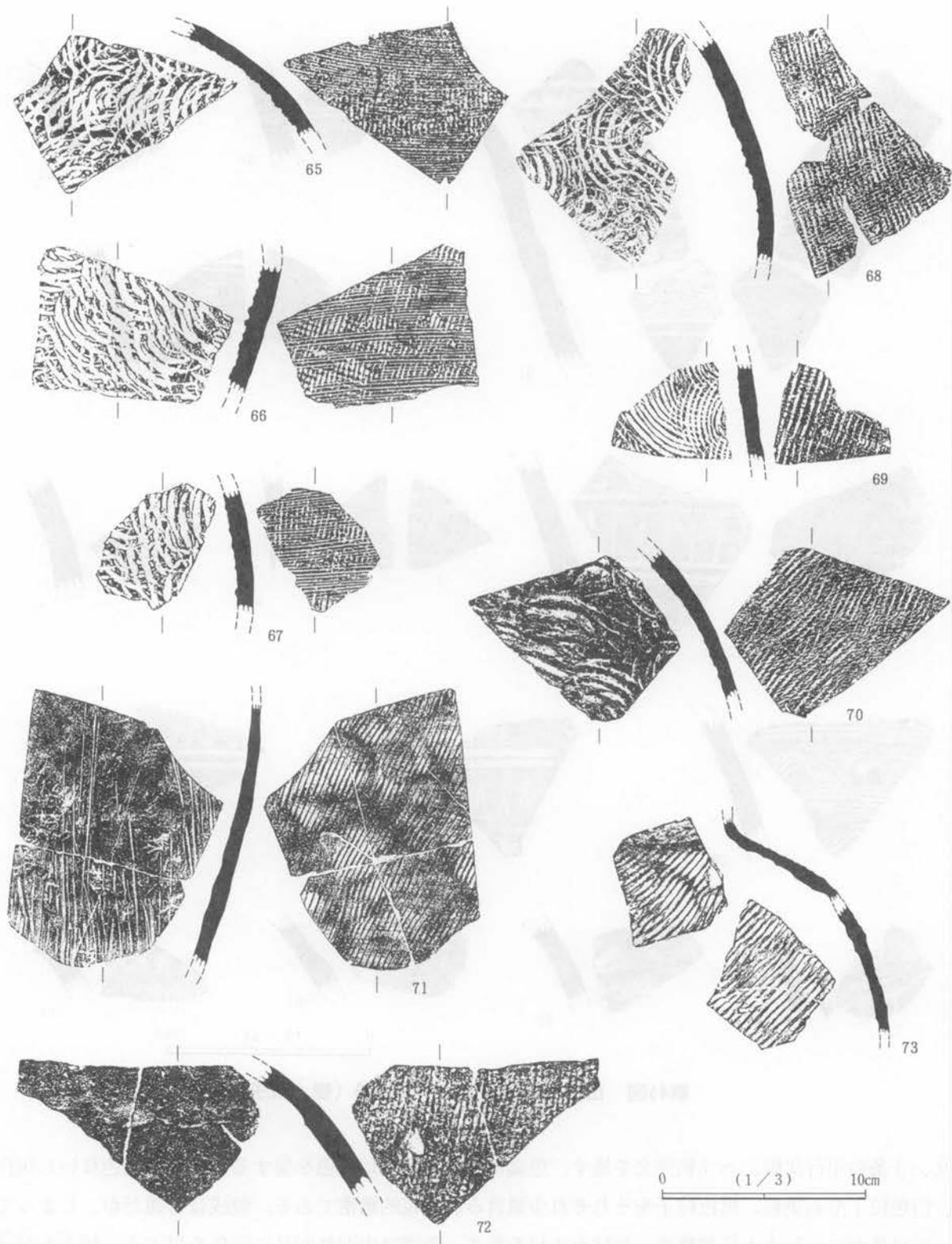
49・50は甕もしくは甔の口縁部である。49は口径21.6cm、頸部内径17.6cm、頸部外径18.6cm、遺存部分の器高は3.6cmである。体部は膨らまず、頸部はほとんどすぼまらずに弱く“く”字形に折れる。口縁部は短く、強く外反し、口唇部がわずかに摘み上げられて受け口状になる。体部外面にはやや右上がりの縦平行叩き目を残す。色調は内面が暗赤褐色、外面は明赤褐色を呈する。胎土は外面と同色で、白色粒子や石英粒、砂粒、雲母微粒子をそれぞれ少量含み、非常に粗い。焼成はやや不良で、もろくなっている。50は口径21.6cm、頸部内径18.6cm、頸部外径19.4cm、遺存部分の器高は3.7cmである。体部はわずかに膨らみ、頸部はほとんどすぼまらずに強く“く”字形に折れ曲がる。口縁部は短く直線的に開き、口唇部はわずかに摘み上げられ、受け口状になる。体部外面にはやや右上がりの縦平行叩き目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、白色粒子と石英粒、雲母粒子をそれぞれ少量含み、やや粗い。焼成は良好で、よくしまっている。

51～64は甕もしくは壺の口縁部破片である。51は外面上部に突帯状の稜を持ち、そこから下に波状カキ目、2条の平行沈線、ヘラ刺突文、3条の平行沈線、波状カキ目、2条の平行沈線文を施す。色調は内面外面共に黄灰色を呈する。胎土も同色で、黒色粒子が少量ながら目立つほか、石英粒を中量、白色粒子を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。52は外面に上からヘラ刺突文、2条の平行沈線文を施し、以下は無文である。色調は内面がにぶい黄橙色、外面は黄灰色を呈する。胎土は灰白色で、石英粒を多量、白色粒子を中量含み、比較的緻密である。焼成は比較的良好で、よくしまっている。53は突帯状の稜を持ち、その上下に横カキ目調整後、波状カキ目を施す。色調は内面が灰オリーブ色、外面が灰白色を呈する。胎土は外面とほぼ同色で、白色粒子や砂粒、雲母微粒子をそれぞれわずかに含み、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。54は外面に上から2条の平行沈線文、平行カキ目調整を施す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土は灰白色で、白色粒子と石英粒を少量含み、比較的緻密である。焼成は良好で、しまっている。55は外面に上からヘラ刺突文、3条の平行沈線、ヘラ刺



第45図 出土遺物実測図(14) 須恵器(甕・瓶子)③

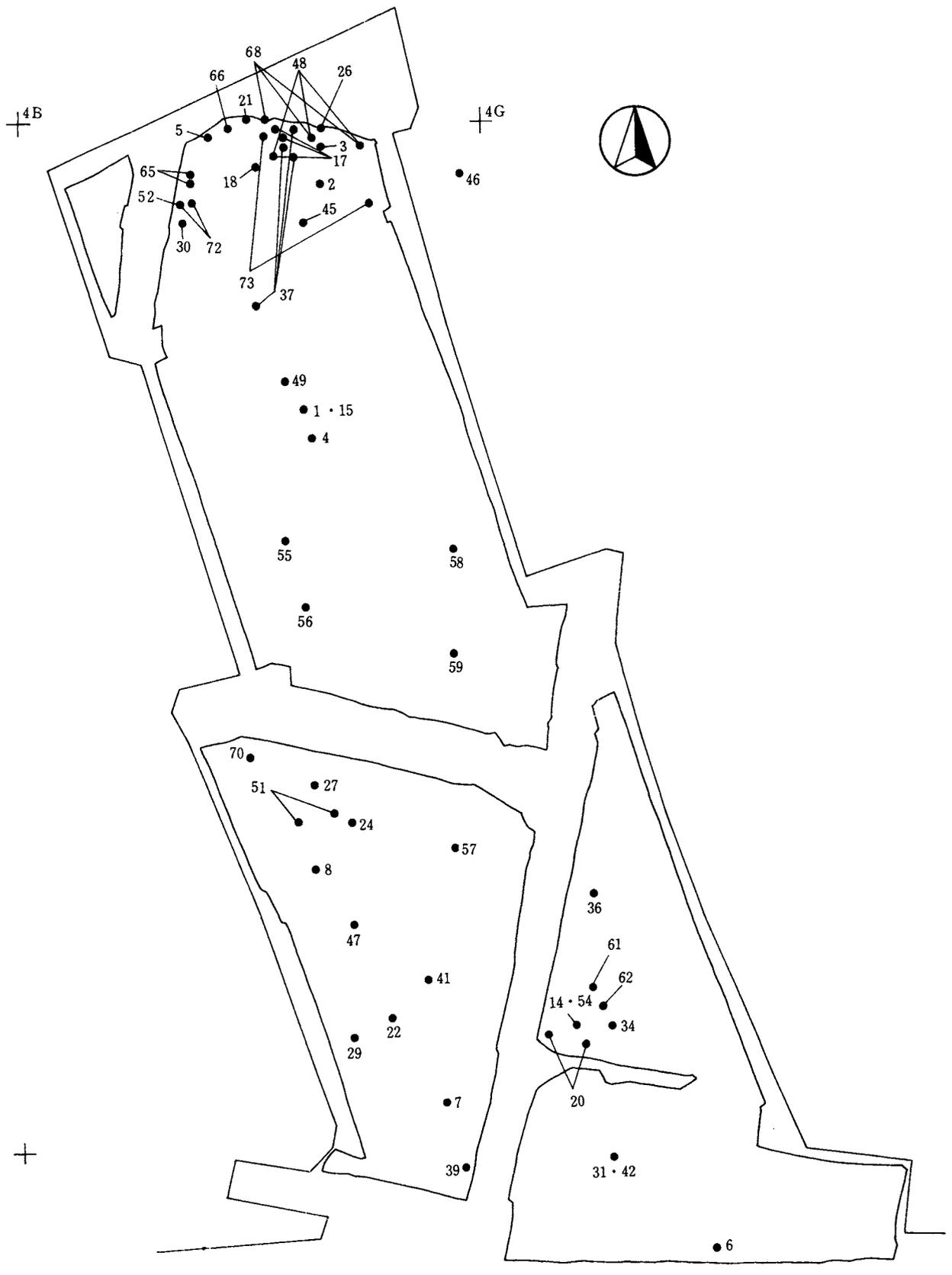
突文、3条の平行沈線、ヘラ刺突文を施す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土は灰色ないし灰白色で、白色粒子や石英粒、黒色粒子をそれぞれ少量含み、比較的緻密である。焼成は普通だが、しまっている。56は外面に平行カキ目調整後、波状カキ目を施す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土もほぼ同色で、黒色粒子が目立つほか、石英粒を少量含み、比較的緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。57は外面に上から波状カキ目、2条の平行沈線、波状カキ目、2条の平行沈線を施した後、ヘラナデを施しているため、文様がややつぶれている。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土もほぼ同色で、白色粒子と石英粒を少量、黒色粒子をわずかに含み、緻密である。焼成は非常に良好で、きわ



第46図 出土遺物実測図(15) 須恵器(甕・瓶子)④

めてよくしまっている。58は外面に上から3条以上の平行沈線、波状カキ目、4条の平行沈線波状カキ目を施す。色調は内面外面共にやや赤味を帯びた灰色を呈する。胎土は雲母が非常に目立つほか、黒色粒子を中量、白色粒子や石英粒を少量含み、やや粗い。焼成は普通で、もろくなっている。59は外面に平行カキ目調整の後、波状カキ目、2条の太い平行沈線、波状カキ目を施す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土も同色で、白色粒子と石英粒を少量含み、やや粗い。焼成は非常に良好で、よくしまっている。60は外面に波状カキ目、2条の平行沈線を施し、それ以下は無文である。色調は内面が黒くないし黄灰色、外面は黒色を呈する。ほぼ全面に不透明な自然釉がかかっており、にぶい光沢を持つ。胎土は灰白色で、石英粒を少量、黒色粒子と雲母微粒子をわずかに含み、緻密である。焼成は良好で、よくしまっている。61は外面に2段の波状カキ目を施す。色調は内面外面共ににぶい黄橙色ないし灰白色を呈する。胎土もほぼ同色で、雲母が目立つほか、白色粒子や黒色粒子、赤色粒子をそれぞれ少量含み、やや粗い。焼成は比較的悪く、しまりは弱い。62は外面に2段の波状カキ目を施す。色調は内面外面共に褐灰色を呈する。胎土は灰白色で、砂粒を少量、石英粒と雲母様微粒子をわずかに含み、やや粗い。焼成は普通だが、あまりしまっていない。63は外面に波状カキ目を施し、内面には指頭押捺痕を残す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土は灰白色で、石英粒がやや目立つほか、雲母粒子を中量含み、やや粗い。焼成は普通だが、若干もろくなっている。64は外面に比較的明瞭な突帯状の稜を持ち、その上下に波状カキ目を施す。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土は黒くないし灰色で、石英粒や砂粒を少量含むほか特に混入物は認められず、緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。

65～73は甕の胴部破片である。65～67は同一個体と考えられ、65が肩部、66が胴部中位、67が胴部下位である。いずれも内面には同心円状の当て具痕を非常に明瞭に残し、外面には右上がりの縦平行叩き後横カキ目調整を施す。色調は内面が明青灰色、外面は灰色だが、65には外面に自然釉が膠着しており灰白色を呈する部分がある。胎土は紫灰色で、やや大きな石英粒と黒色粒子が少量ながら目立つほか、砂粒や白色粒子を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、堅緻である。68は内面に同心円状の当て具痕を明瞭に残し、外面には縦平行叩き後平行カキ目調整を施す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、黒色粒子が目立つほか、石英粒と砂粒を少量含み、緻密である。焼成は極めて良好で、堅緻である。69は内面に大きな同心円状の当て具痕を残し、外面には格子目叩きを施す。色調は内面が灰色、外面は黒色を呈し、外面にはにぶい光沢がある。胎土は内面と同色で、砂粒と黒色粒子を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、きわめてよくしまっている。70は内面に同心円状の当て具痕を残し、外面には斜交叩きを施す。色調は内面が褐灰色、外面は黄灰色を呈する。胎土は内面と同色で、白色粒子や砂粒、黒色粒子を少量含み、緻密である。焼成は非常に良好で、よくしまっている。71は内面には薄い同心円状の当て具痕を縦ヘラケズリで消し、外面には右上がりの縦平行叩き目を残す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土もほぼ同色で、砂粒と雲母微粒子を少量含み、緻密である。焼成は比較的良好で、しまっている。72は内面に無文の当て具痕を残し、外面には右上がりの縦平行叩きを施す。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土もほぼ同色で、雲母が目立つほか、白色粒子や石英粒、砂粒などをそれぞれ少量含み、非常に粗い。焼成は悪く、かなりもろくなっている。73は内面に無文の当て具痕を残し、外面には右上がりの縦平行叩きを施す。頸部は横ナデで整形される。色調は内面が褐色、外面は黄灰色を呈する。胎土は褐色ないし黄灰色で、白色粒子や砂粒、雲母様微粒子をそれぞれ少量含み、比較的緻密である。焼成は普通で、しまっている。



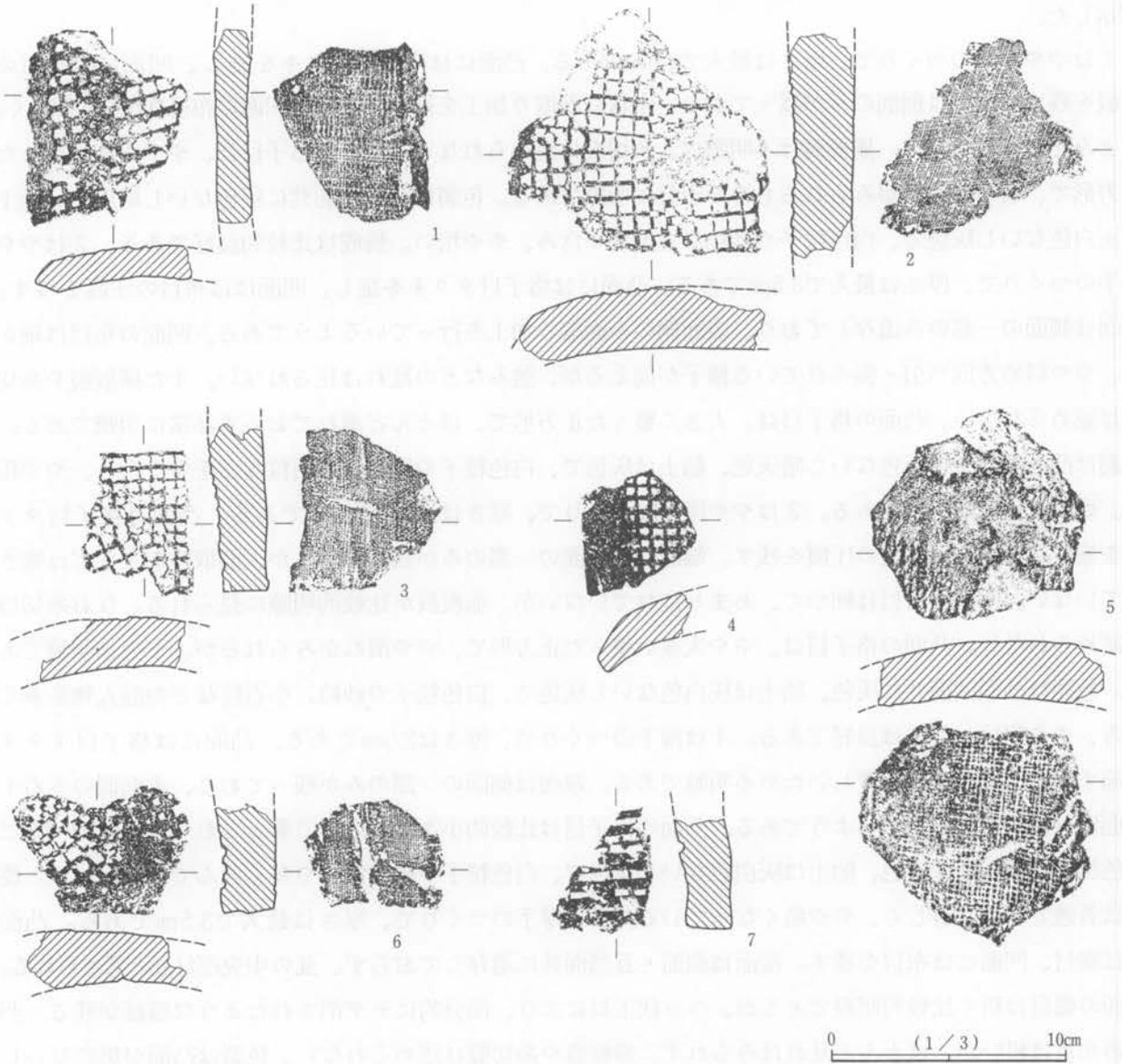
第47図 出土遺物分布図(5) 須恵器 (甕・瓶子)

④ 瓦（第48図、図版24）

今回の調査では、20点余の瓦が出土している。すべて平瓦であり、丸瓦や軒瓦などは見出されなかった。またいずれも小破片であるため全容を推定しうるものはないが、そのうち比較的状况が良好なもの7点を図示した。

1はやや薄手のつくりで、厚さは最大で2.0cmである。凸面には格子目タタキを施し、凹面には布目の圧痕を残す。端面は側面のみが残っており、山状に面取り加工を行っている。凹面の布目は比較的細かく、ほとんど乱れていない。揃板痕は不明瞭で、糸切痕は認められない。凸面の格子目は、やや大きい整った正方形で、若干の潰れがみられるものの十分に明瞭である。色調は凸面凹面共に灰色ないし暗灰色、胎土は灰白色ないし灰色で、白色粒子や砂粒などを多く含み、やや粗い。焼成は比較的良好である。2はやや厚手のつくりで、厚さは最大で3.5cmである。凸面には格子目タタキを施し、凹面には布目の圧痕を残す。端面は側面の一部のみ遺存しており、表面側のみ面取り加工を行っているようである。凹面の布目は細かく、やや斜め方向へ引っ張られている様子が伺えるが、弛みなどの乱れは見られない。また揃板痕や糸切痕は認められない。凸面の格子目は、大きく整った正方形で、ほとんど潰れておらず非常に明瞭である。色調は凸面凹面共に灰色ないし暗灰色、胎土は灰色で、白色粒子や砂粒、小石粒などを多く含み、やや粗い。焼成は比較的良好である。3はやや厚手のつくりで、厚さは最大で3.0cmである。凸面は格子目タタキを施し、凹面には布目の圧痕を残す。端面は瓦当面の一部のみが残っているが、面取り加工などは施されていない。凹面の布目は細かく、あまり乱れていないが、揃板痕が比較的明瞭に見られる。なお糸切痕は認められない。凸面の格子目は、やや大きい整った正方形で、やや潰れがみられるが、十分に明瞭である。色調は凸面凹面共に灰色、胎土は灰白色ないし灰色で、白色粒子や砂粒、小石粒などの混入物を多く含み、やや粗い。焼成は良好である。4は薄手のつくりで、厚さは2.0cmである。凸面には格子目タタキを施すが、凹面は磨耗が著しいため不明瞭である。端面は側面の一部のみが残っており、表面側のみ若干の面取り加工を行っているようである。凸面の格子目は比較的小さい正方形で整っており、比較的明瞭だが色調は凸面凹面に灰色、胎土は灰白色ないし灰色で、白色粒子や砂粒をやや多く含んでおり、粗い。焼成は普通で磨耗が著しく、やや脆くなっている。5は厚手のつくりで、厚さは最大で3.5cmである。凸面には縄目、凹面には布目を残す。端面は側面・瓦当面共に遺存しておらず、瓦の中央部付近と考えられる。凸面の縄目は粗く比較的明瞭であるが、ヘラ状工具により、部分的にナデ消されたような痕跡が残る。凹面の布目は粗いが、ほとんど乱れはみられず、揃板痕や糸切痕は認められない。色調は凸面が黒色ないし暗灰色、凹面は灰色、胎土は灰色はいし灰白色で、白色粒子や砂粒、小石粒などを比較的多く含み、やや粗い。焼成は普通で、やや脆くなっている。6はやや厚手のつくりで、厚さは最大で2.5cmである。凸面には格子目タタキを施し、凹面には布目の圧痕を残す。端面は瓦当面の一部のみ遺存しており、瓦の中央下端部分と考えられる。凸面の格子目はやや大きい正方形で整ってはいるが、若干のムラが認められる。凹面の布目は細かく、若干斜め方向に引っ張られているが弛みはみられない。また揃板痕や糸切痕は認められない。色調は凸面凹面共に灰色、胎土もほぼ同色で、砂粒や小石粒をやや多く含み、比較的緻密である。焼成は良好である。7はやや厚手のつくりで、厚さは最大で2.5cmである。凸面には格子目タタキ、凹面には布目の圧痕を残すが磨耗しているためはっきりしない。端面は瓦当面の一部が遺存しており、瓦の中央下端部分と考えられる。凸面の格子目は比較的小さな長方形で、明瞭である。色調は凸面凹面共に灰色ないし灰白色、胎土も同色で、砂粒や小石粒を多く含むが、比較的緻密である。焼成は普通で、やや

脆くなっている。



第48図 出土遺物実測図(16) 瓦

3. 中世の遺構と遺物

(1) 遺構

① 溝状遺構（第49図、図版9）

A西区で7条、H区で1条が確認された。前者は近傍の中世水田面と主軸方向をほぼ同一にしており、高さも中世水田面とほぼ同一であること、かつ掘込み面が3e層ないし4層であると考えられることから、この時期の水田に伴う何らかの施設であろうと推定される。特に2号溝、3号溝、4号溝、5号溝については、主軸方向、深さ、覆土、断面形態など共通点が多いため、それぞれ同時期に構築されたものと考えてよいだろう。7号溝を除き、いずれも調査区域外に伸びているため本来の長さは不明である。

1号溝（第49図）

A西区4B-59グリッドから5B-58グリッドにかけて伸びる溝状遺構である。幅0.5m~0.8m、深さ0.2m~0.3m、覆土は3層に分けられ、断面は略半円形を呈する。弥生土器破片（第69図・19）が出土したが、この溝に伴うものではない。時期を推定しうる遺物は出土しなかった。

2号溝（第49図）

A西区4B-59グリッドから5B-08グリッドにかけて伸びる溝状遺構である。幅0.2m~0.5m、深さ0.1m~0.2m、覆土は2層に分けられ、断面は略半円形を呈する。遺物は出土しなかった。

3号溝（第49図）

A西区4B-57グリッドから5B-07グリッドに伸びる溝状遺構である。幅0.2m~0.3m、深さ0.2m前後、覆土は2層に分けられ、断面略半円形を呈する。遺物は出土しなかった。

4号溝（第49図）

A西区4B-66グリッドから4B-95グリッドにかけて伸びる溝状遺構である。幅0.3m前後、深さ0.2m前後、覆土は単層で、断面略半円形を呈する。遺物は出土しなかった。

5号溝（第49図）

A西区4B-75グリッドに所在する溝状遺構である。調査区の隅で検出されたため全容ははっきりしないが、遺存部分では幅0.3m前後、深さ0.2m前後である。覆土は単層で、断面略半円形を呈する。遺物は出土しなかった。

6号溝（第49図）

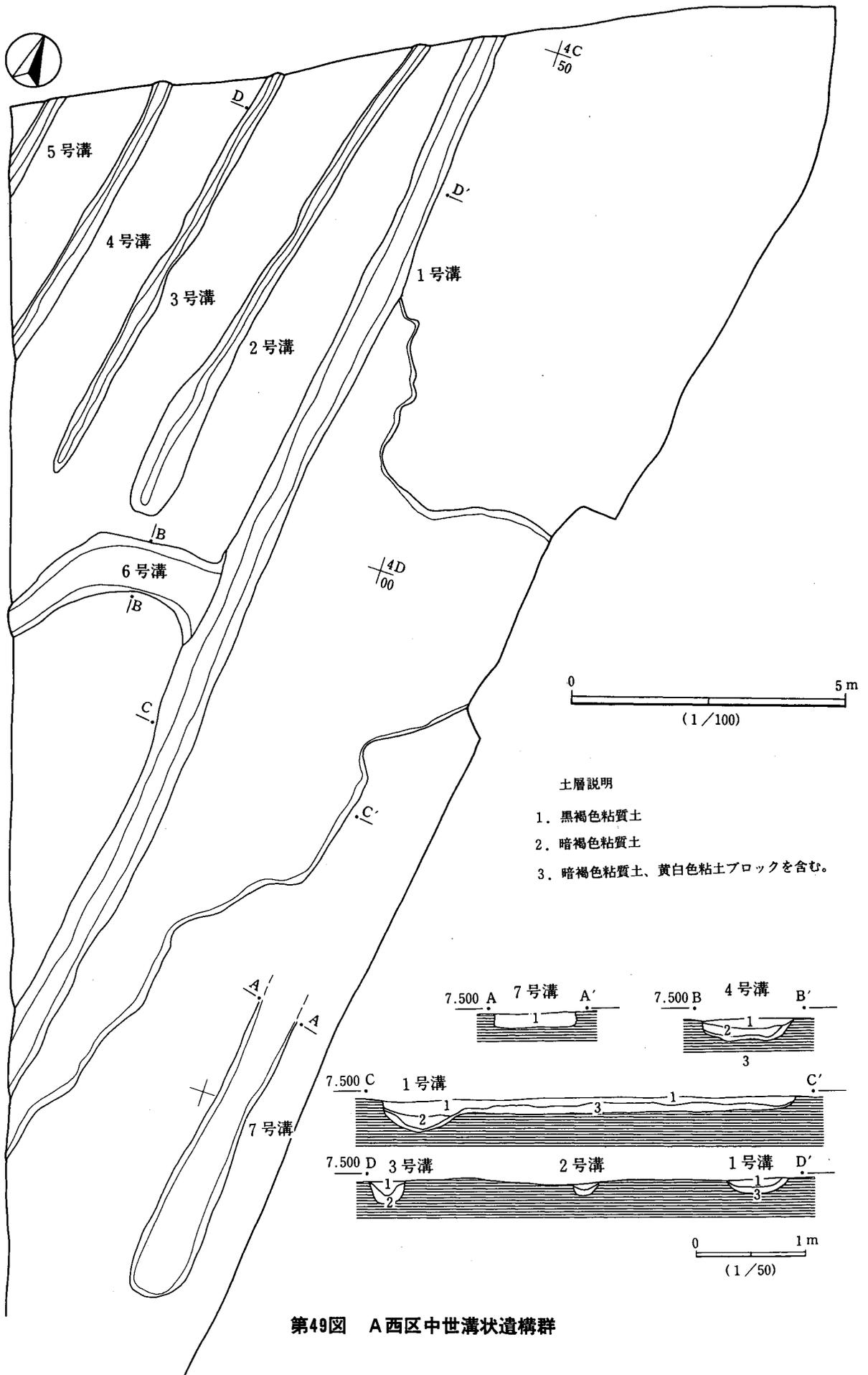
A西区5B-08グリッドおよび5B-17グリッドに所在し、1号溝中部から西に伸びたあと、南南西方向に向きを変える溝状遺構である。幅0.8m~1.0m、深さ0.2m~0.3m、覆土は3層に分けられ、断面は不整な逆台形を呈する。遺物は出土しなかった。

7号溝（第49図）

A西区5C-40グリッドおよび5C-50グリッドに所在する。幅0.8m~1.0m、深さ0.1m~0.2m、覆土は単層で、断面長方形を呈する箱型の溝状遺構である。遺物は出土しなかった。

② 水田跡（第50図~第54図、第12表）

確認調査において検出された第5水田面が、この時代の水田面に相当するものと考えられる。畦畔を含めた水田面は確認調査の成果に基づいて調査区北部では4層上面、南部では3e層上面で検出し、この水田面が本調査範囲のA区~C区、E区に広がっていることを確認した。ただしD区に関しては南東確認トレンチの土層観察で第5水田面に相当する層位を確認しているが、平面的には畦畔を確認することはでき



第49図 A西区中世溝状遺構群

なかった。F区及びG区については、4層～3e層がほとんど遺存していなかったため、後世の耕作によってすでに削平されてしまった可能性が高い。今回検出された畦畔は確認調査時のものも含めて東西に11条、南北に15条で、水田区画は40区画存在する。現水田面までの土壌の堆積がそれ以下と比較して薄いため、水田遺構の遺存状況はあまり芳しくなく、「本来の畦畔」を検出することはできなかった。基本的にすべて「疑似畦畔B」であり、「本来の畦畔」と耕作面が存在していたはずの本水田面の上部は、残念ながらこれ以降の耕作により削平されてしまったものと考えられる。以下遺存状態が比較的良好であるものについて報告する。

1号水田

A区西側及びB区北端から検出された。西側と北側の畦畔が検出されなかったため規模ははっきりしないが、北側及び西側が現道であるため南北50m程度、東西12m程度、可耕面積600㎡程度の南北に長い短冊形と推測される。主軸方位はN-11°-Eである。畦畔の遺存状況は比較的良好で、若干の高まりも見られる。水田面の基盤層は4層で、これに3層土が斑状に少量混入する。水田面には長軸畦畔と平行に長さ0.5m程度の鋤の痕跡が若干認められる（第53図）。

2号水田

A区西側及びB区北端から検出された。北側の畦畔が検出されなかったが、南北50m～53m程度、東西は13m、可耕面積700㎡程度の南北に長い短冊形と推測される。主軸方位はN-11°-Eである。畦畔の遺存状況は良好で、若干の高まりも見られる。水田の基盤層は4層で、これに3層土が斑状に少量混入する。水田面には1号水田と同様長軸畦畔と平行に長さ0.5m～1mの鋤の痕跡が多く残るが、南側畦畔脇と中央部やや北寄りにこれと直交する鋤の痕跡が認められた（第53図）。

3号水田

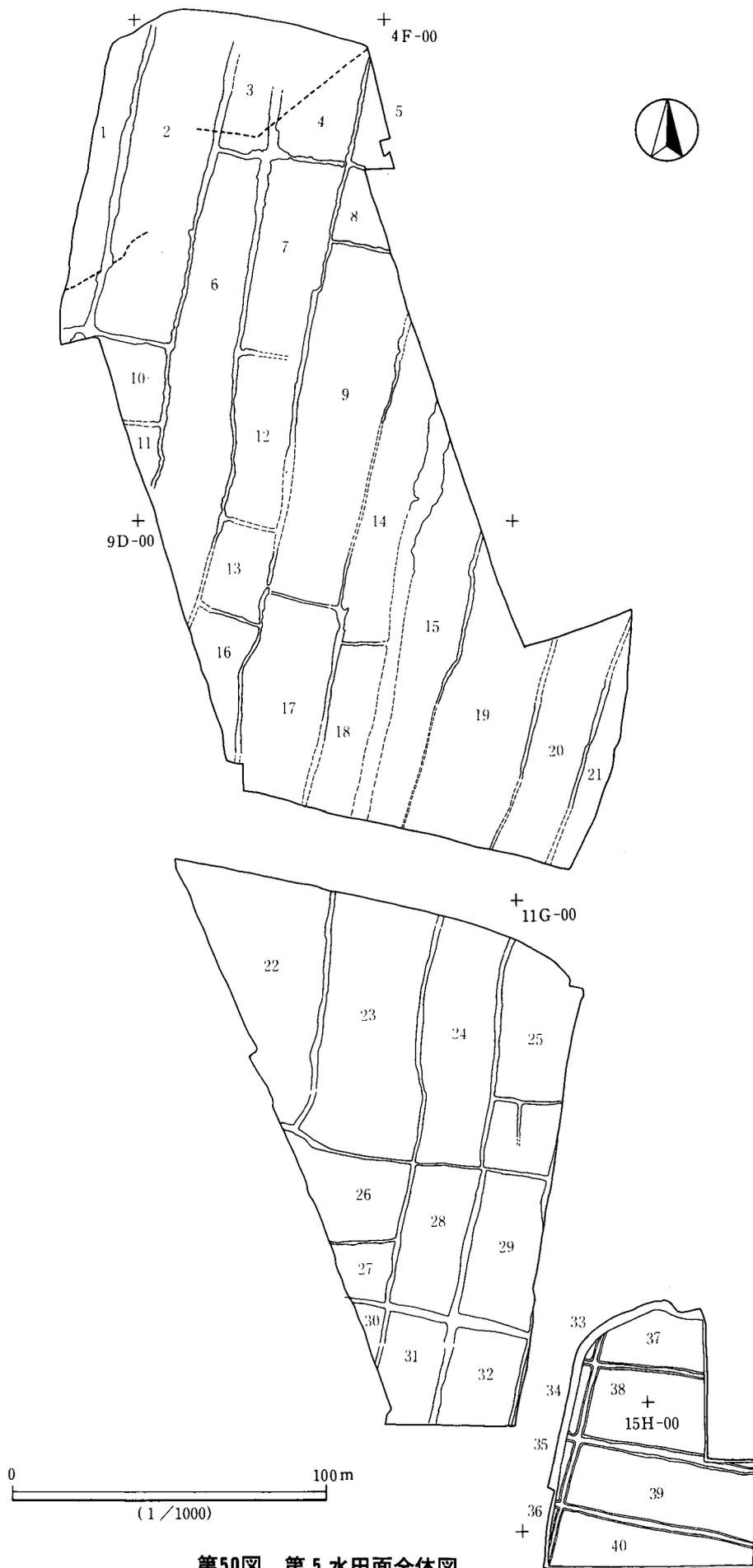
A区中央付近で検出された。北側の畦畔が検出されなかったが、南北22m前後、東西8m、可耕面積160㎡程度の南北に長い短冊形と推測される。主軸方位はN-9°-Eである。A区でははっきりしなかったがB区での畦畔の遺存状況は比較的良好で、南側畦畔と東側畦畔には若干の高まりがみられた。水田面の基盤層は4層で、これに3層土が斑状に少量混入する。水田面には長軸畦畔と平行に長さ0.5mの鋤の痕跡がわずかに残る。

4号水田

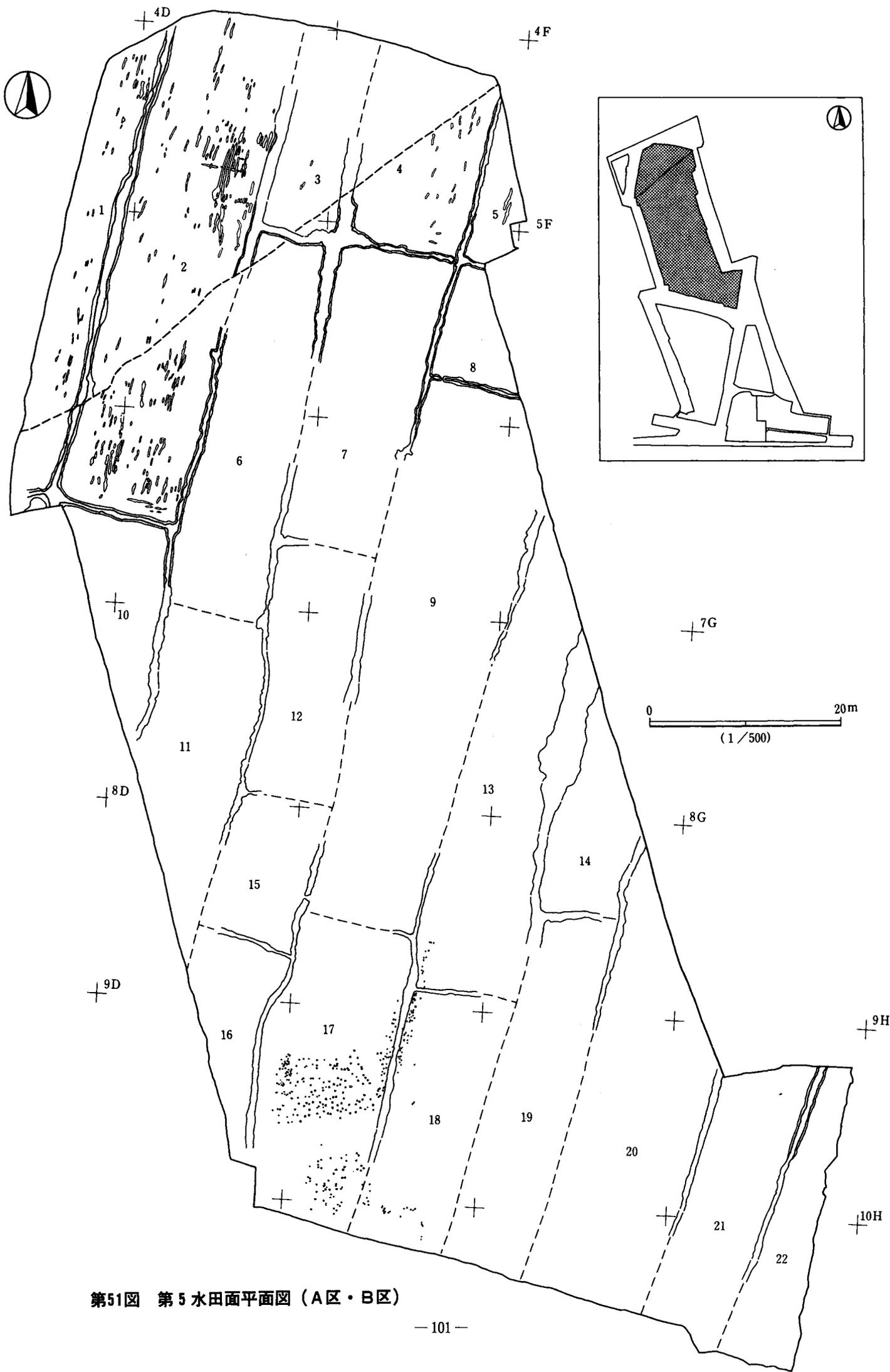
A区東側及びB区北端から検出された。北側畦畔が検出されなかったが、南北20m前後、東西12m程度、可耕面積250㎡程度の若干幅広の南北に長い短冊形と考えられる。主軸方位はN-9°-Eである。A区でははっきりしなかったが、B区での畦畔の遺存状況は良好で、すべての畦畔に若干の高まりが見られた。水田面の基盤層は4層で、これに3層土が斑状に少量混入する。A区では見られなかったがB区の区画には長軸畦畔と平行に長さ0.5mの鋤の痕跡が残る。

6号水田

B区北端で検出された。南側の畦畔ははっきりしなかったが、南北40m前後、東西8m～10m、可耕面積350㎡程度の南北に長い短冊形と考えられる。主軸方位はN-9°-Eである。西側の畦畔と北側の畦畔及び東側畦畔の北半部で若干の高まりが見られた。水田面の基盤層は4層で、これに3層土が斑状に少量混入する。本水田区画でも長軸畦畔と平行に若干の鋤の痕跡が見られた。



第50图 第5水田面全体图



第51图 第5水田面平面图 (A区·B区)

7号水田

B区北端で検出された。南北31m、東西10m～13m、可耕面積320㎡程度のやや逆台形気味の南北に長い短冊形である。北側畦畔及び東側畦畔と西側畦畔の北半部に若干の高まりが認められた。主軸方位はN-11°-Eである。水田面の基盤層は4層で、これに3層土が斑状に混入する。鋤の痕跡等は認められなかった。

9号水田

B区中央付近で検出された。南北55m～57m、東西12m～15m、可耕面積750㎡程度のやや逆台形気味の南北に長い短冊形である。北側畦畔及び西側畦畔の北端部では若干の高まりが認められた。主軸方位はN-12°-Eである。水田面の基盤層は4層で、これに3層土が斑状に混入する。鋤の痕跡等は認められなかった。

14号水田

B区中央付近で検出された。北側畦畔が調査区域外にあるため規模ははっきりしないが、南北40m程度、東西10m前後、可耕面積400㎡程度の南北に長い短冊形と推測される。畦畔の高まりは検出されなかったが、西側畦畔及び南側畦畔は非常に明瞭であった。主軸方位はN-12°-Eである。水田面の基盤層は北端部が4層、南半部が3e層で、これに3層土が少量斑状に混入する。鋤の痕跡などは検出されなかった。

17号水田

B区南端で検出された。南側畦畔が検出されていないためはっきりしないが、南側が現道であることから南北30m前後、東西12m、可耕面積380㎡程度の南北に長い短冊形と考えられる。畦畔の高まりは確認できなかったが、東側畦畔と西側畦畔は比較的明瞭であった。主軸方位はN-10°-Eである。水田面の基盤層は4層～3e層で、これに3層土が斑状に中量混入する。鋤の痕跡は見出せなかったが、中央部及び南部からウシのものと考えられる足跡が多数検出されている（第54図）。

18号水田

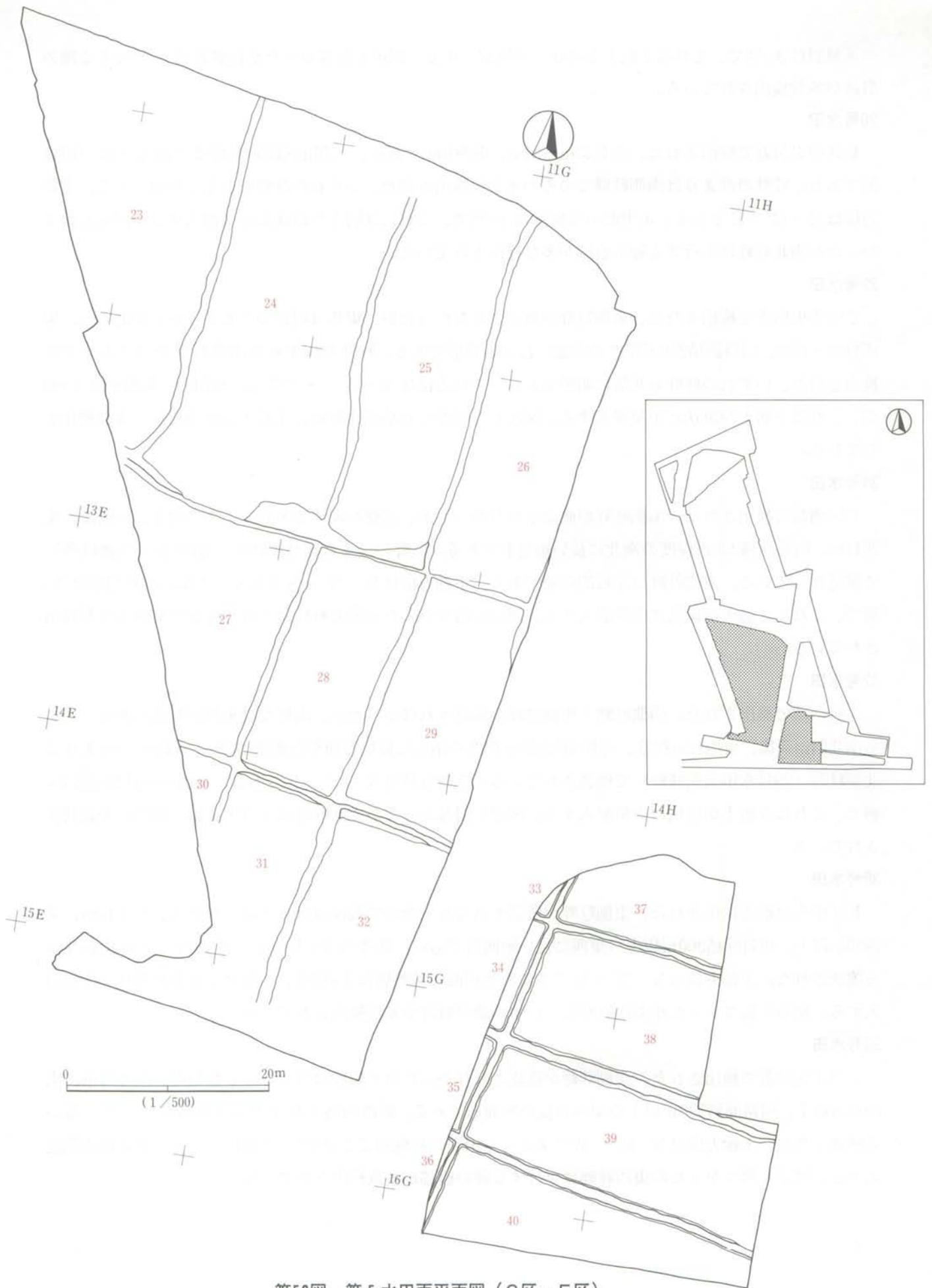
B区南端で検出された。南側畦畔及び東側畦畔が検出されていないので規模ははっきりしないが、南側が現道であることから南北27m前後、東西11m程度、可耕面積300㎡程度のやや不整な南北に長い短冊形と考えられる。畦畔の高まりは確認されず、畦畔そのものもあまり明瞭ではない。主軸方位はN-12°-Eである。水田面の基盤層は3e層で、これに3層土が斑状に中量混入する。鋤の痕跡は見出せなかったが、西端部および南半部からウシのものと考えられる足跡が多数検出されている（第54図）。

24号水田

C区北端で検出された。北側畦畔は検出されていないため規模ははっきりしないが、北側が現道であることから、南北40m前後、東西20m、可耕面積700㎡程度の南北に長い短冊形と推定される。畦畔の高まりは確認されなかったが、畦畔そのものは非常に明瞭であった。主軸方位はN-9°-Eである。水田面の基盤層は3e層で、これに3層土が斑状に中量混入する。図示し得なかったが長軸畦畔に平行する鋤の痕跡が多数検出されている。

25号水田

C区北端で検出された。北側畦畔は検出されていないため規模ははっきりしないが、北側が現道であることから、南北40m前後、東西11m、可耕面積400㎡程度の南北に長い短冊形と推定される。畦畔の高まりは確認されなかったが、畦畔そのものは非常に明瞭であった。主軸方位はN-8°-Eである。水田面



第52図 第5水田面平面図 (C区・E区)

の基盤層は3e層で、これに3層土が斑状に中量混入する。図示し得なかったが長軸畦畔に平行する鋤の痕跡が多数検出されている。

28号水田

C区中央付近で検出された。南北23m～24m、東西10m～11m、可耕面積230㎡程度の南北に長い短冊形である。畦畔の高まりは南側畦畔でのみわずかに検出された。いずれの畦畔も非常に明瞭である。主軸方位はN-12°-Eである。水田面の基盤層は3e層で、これに3層土が斑状に中量混入する。図示し得なかったが南北畦畔に平行する鋤の痕跡が多数検出されている。

29号水田

C区中央付近で検出された。東側畦畔が確認されなかったが、東側は現道であることから南北25m、東西11m～13m、可耕面積250㎡程度の南北に長い短冊形である。畦畔の高まりは南側畦畔でのみわずかに検出された。いずれの畦畔も非常に明瞭である。主軸方位はN-11°-Eである。水田面の基盤層は3e層で、これに3層土が斑状に中量混入する。図示し得なかったが南北畦畔に平行する鋤の痕跡が多数検出されている。

31号水田

C区南端で検出された。南側畦畔が確認されなかったが、南側が現道であることから南北25m前後、東西11m、可耕面積220㎡程度の南北に長い短冊形である。畦畔の高まりは北側畦畔（28号水田南側畦畔）で確認されている。東側畦畔は比較的明瞭である。主軸方位はN-11°-Eである。水田面の基盤層は3e層で、これに3層土が斑状に中量混入する。図示し得なかったが南北畦畔に平行する鋤の痕跡が多数検出されている。

32号水田

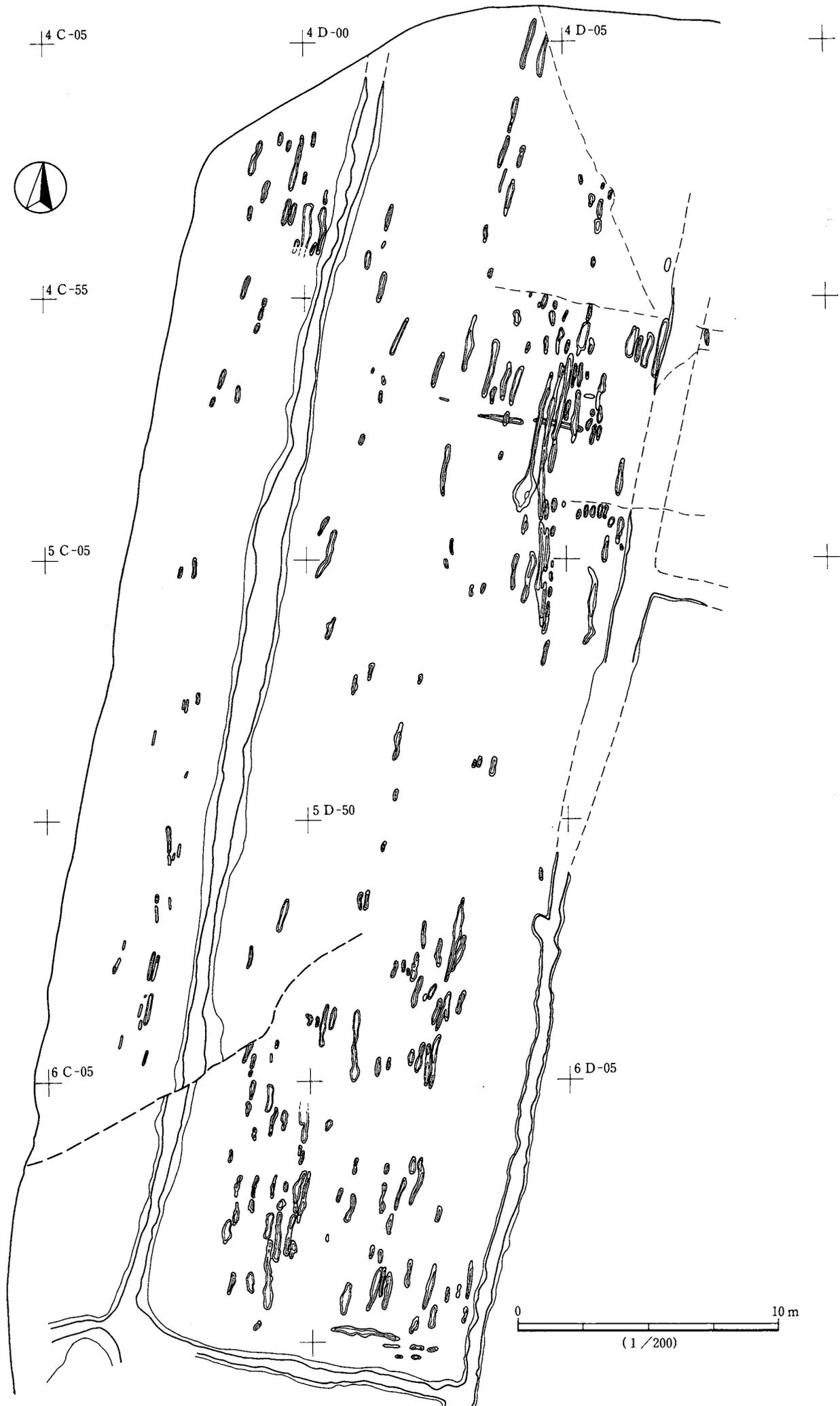
C区南端で検出された。南側畦畔と東側畦畔が確認されなかったが、南側及び東側が現道であることから南北24m前後、東西13m程度、可耕面積200㎡程度の南北に長い短冊形と推測される。畦畔の高まりは北側畦畔（29号水田南側畦畔）で確認されている。主軸方位はN-11°-Eである。水田面の基盤層は3e層で、これに3層土が斑状に中量混入する。図示し得なかったが南北畦畔に平行する鋤の痕跡が多数検出されている。

38号水田

E区中央付近で検出された。東側畦畔が確認されなかったので規模ははっきりしないが、南北12m、東西30m以上、可耕面積300㎡以上の東西に長い短冊形である。畦畔の高まりはすべての畦畔でわずかながら確認された。主軸方位はN-81°-Wである。水田面の基盤層は3e層で、これに3層土が斑状に中量混入する。図示し得なかったが東西畦畔に平行する鋤の痕跡が多数検出されている。

39号水田

E区中央付近で検出された。東側畦畔が確認されなかったので規模ははっきりしないが、南北11m、東西30m以上、可耕面積330㎡以上の東西に長い短冊形である。畦畔の高まりはすべての畦畔でわずかながら確認された。主軸方位はN-83°-Wである。水田面の基盤層は3e層で、これに3層土が斑状に中量混入する。図示し得なかったが東西畦畔に平行する鋤の痕跡が多数検出されている。



第53图 A区・B区鋤痕跡平面図

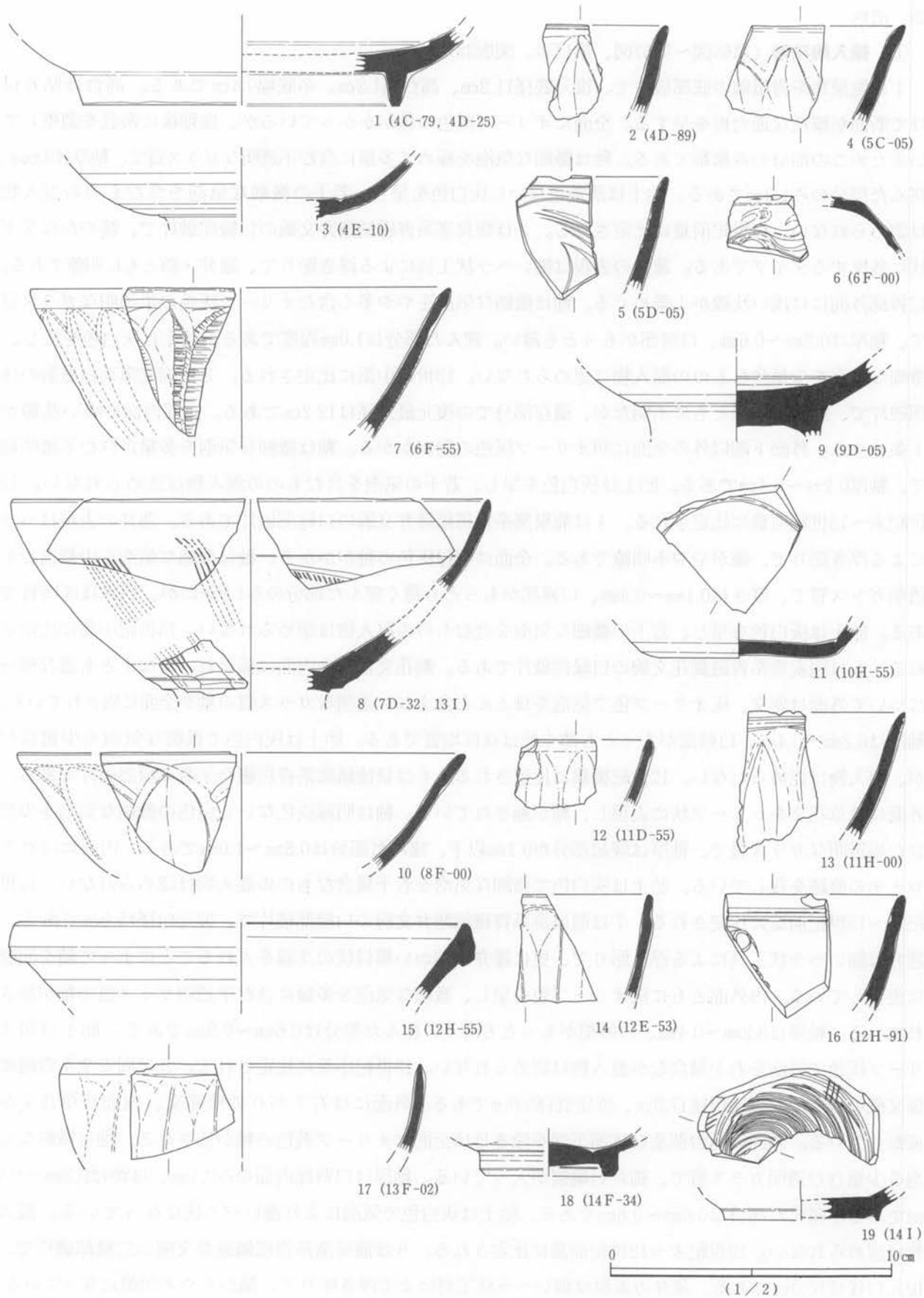


第54図 B区ウシ足跡平面図

(2) 遺物

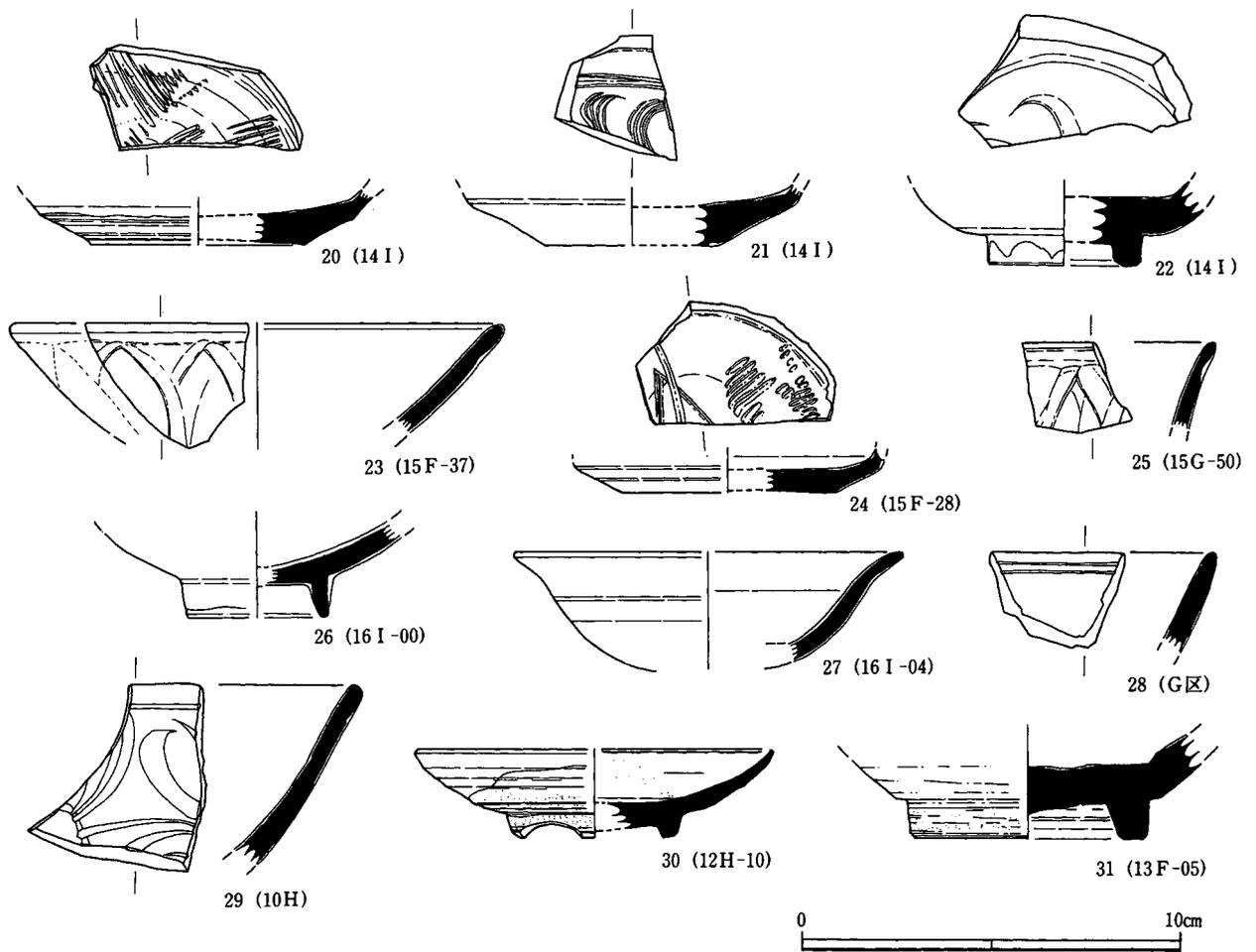
① 輸入陶磁器 (第55図～第57図、第17表、図版25)

1は龍泉窯系青磁碗の底部破片で、復元底径11.2cm、高台高1.2cm、糸底幅0.4cmである。高台は貼り付けで断面が縦長な逆台形を呈する。全面にオリブ灰色の釉がかかっているが、施釉後に糸底を調整しているためこの部分のみ無釉である。釉は微細な気泡を極めて多量に含む不透明なガラス質で、釉厚は0.6mm、窪んだ部分のみ1.0mmである。胎土は淡黄色ないし灰白色を呈し、若干の微細な気泡を含むものの混入物は認められない。14世紀前葉に比定される。2は龍泉窯系青磁鎚蓮弁文碗の口縁部破片で、緩やかなS字状に外反するタイプである。蓮弁の表現は細いへら状工具による浮き彫りで、蓮弁・鎚ともに明瞭である。口唇部外面には浅い沈線が1条めぐり、釉は微細な気泡をやや多く含むオリブ灰色の半透明なガラス質で、釉厚は0.2mm～0.6mm、口唇部がもっとも薄い。窪んだ部分は1.0mm程度である。胎土は灰白色を呈し、微細な気泡を少量含むものの混入物は認められない。13世紀中葉に比定される。3は同安窯系白磁碗の体部破片で、底径・口径ともに不明だが、遺存部分での復元最大径は12.2cmである。底部内面に浅い沈線が1条めぐり、外面下端以外の全面に明オリブ灰色の釉がかかる。釉は微細な気泡を多量に含む不透明釉で、釉厚0.2mm～0.4mmである。胎土は灰白色を呈し、若干の気泡を含むものの混入物は認められない。12世紀末～13世紀前葉に比定される。4は龍泉窯系青磁鎚蓮弁文碗の口縁部破片である。蓮弁の表現はへらによる浮き彫りで、鎚がやや不明瞭である。全面に明緑灰色の釉がかかる。釉は微細な気泡を少量含む半透明ガラス質で、厚さは0.1mm～0.4mm、口唇部がもっとも薄く窪んだ部分のみ1.0mmだが、他はほぼ均質である。胎土は灰白色を呈し、若干の微細な気泡を含むものの混入物は認められない。13世紀中葉に比定される。5は同安窯系青磁劃花文碗の口縁部破片である。劃花文は器の内面に描かれ、少なくとも遺存部分について外面は無文、灰オリブ色で気泡をほとんど含まない透明なガラス質の釉が全面に施されている。釉厚は0.2mm～0.4mm、口唇部がもっとも薄く他はほぼ均質である。胎土は灰白色で微細な気泡を少量含むが、混入物は認められない。12世紀後葉に比定される。6は景德鎮窯系青白磁合子蓋の肩部破片である。外面には草花文をレリーフ状に表現し、釉が施されている。釉は明緑灰色ないし白色の微細な気泡を少量含む半透明なガラス質で、釉厚は隆起部分が0.1mm以下、窪んだ部分は0.8mm～1.0mmである。内面にはロクロナデの痕跡を残している。胎土は灰白色で微細な気泡を若干量含むものの混入物は認められない。12世紀末～13世紀前葉に比定される。7は龍泉窯系青磁鎚蓮弁文碗の口縁部破片で、復元口径15.0cmである。蓮弁は細いへら状工具による浮き彫りで、更に蓮弁に細かい櫛目状の沈線を入れることによって鎚を明瞭に表現している。内外面ともに灰オリブ色を呈し、微細な気泡を多量に含む半透明ガラス質の釉が施されている。釉厚は0.2mm～0.4mm、口唇部がもっとも薄く、窪んだ部分は0.6mm～0.8mmである。胎土は明オリブ灰色で気泡を若干量含むが混入物は認められない。13世紀中葉に比定される。8は同安窯系青磁櫛描文碗の破片で、復元口径17.0cm、推定底径5.0cmである。外面には右下がりの櫛描文、内面は草花文が描かれている。外面の高台部及び体部下端を除きほぼ全面にオリブ黄色の釉が施される。釉は微細な気泡を少量含む透明ガラス質で、細かい亀裂が入っている。釉厚は口唇部内面のみ0.1mm、ほかは0.2mm～0.4mmであるが窪んだ部分は0.6mm～0.8mmである。胎土は灰白色で気泡により薄いパイ状になっている。混入物は認められない。12世紀末～13世紀前葉に比定される。9は龍泉窯系青磁鎚蓮弁文碗の口縁部破片で、復元口径は16.0cmである。蓮弁の表現は細いへら状工具による浮き彫りで、鎚がやや不明瞭になっている。微細な気泡を多量に含む半透明ガラス質の釉が全面に施され、オリブ灰色を呈する。釉厚は0.3mm～0.4mm



第55図 出土遺物実測図(17) 輸入陶磁器①

だが、口唇部は0.1mm、窪んだ部分は0.6mm程度である。胎土は灰色で微細な気泡を少量含むものの混入物は認められない。13世紀中葉に比定される。10は同安窯系白磁碗の底部破片で、推定底径6.4cmである。微細な気泡をきわめて多量に含む不透明な乳剤状の釉が内面のみに施され、灰白色を呈している。外面は無釉で淡黄灰色、体部はロクロナデ、高台部外面にはロクロヘラ削りの痕跡を残す。ロクロの回転方向は時計回りである。高台は削り出しであると考えられるが、打ち欠かれているため遺存しない。胎土は灰白色で微細な気泡を少量含むが混入物は認められない。12世紀に比定される。11は白磁稜花小皿の底部破片で、底径7.1cmである。底部は中央部が若干上底状になっており、内面底部の周囲には印刻による沈線がめぐり、稜花文様は不明瞭であるため判然とししない。微細な気泡を多量に含む不透明な乳剤状の釉が全面に施されており、明オリーブ灰色を呈している。釉厚は0.2mm程度、印刻部分のみ0.8mmである。胎土は灰白色ないし白色で混入物は認められない。14世紀前葉に比定される。12は龍泉窯系青磁蓮弁文碗の口縁部破片である。微細な気泡を極めて多量に含む不透明なガラス質釉が全面に施されており、明緑灰色を呈する。釉厚は口唇部のみ0.3mm～0.4mm、他は0.6mmでほぼ均質である。胎土は灰白色で、混入物は認められない。14世紀前葉に比定される。13は龍泉窯系青磁蓮弁文碗の口縁部破片である。蓮弁の表現は細いヘラ状工具による浮き彫りで、その上部、口唇部外面に浅い沈線が2条めぐり、微細な気泡を多量に含む半透明ガラス質の釉が全面に施されており、緑灰色を呈している。釉厚は0.2mm～0.5mm、口縁部は薄く下方がやや厚い。口唇部は剥げている状態で、窪んだ部分は0.8mm程度である。胎土は灰白色で微細な気泡を若干量含むが混入物は認められない。13世紀中葉に比定される。14は同安窯系青磁蓮弁文碗の口縁部破片である。微細な気泡を極めて多量に含む不透明なガラス質の釉が全面に施されており、明緑灰色を呈するがやや黄色味が強い。釉厚は0.6mm～0.8mmだが、口唇部は0.1mm、窪んだ部分は1.0mmである。胎土は灰白色で混入物は認められない。14世紀前葉に比定される。15は同安窯系白磁玉縁碗の口縁部破片で、復元口径15.6cm、復元最大径16.8cmである。玉縁は折り返し整形であると考えられ、下部には棒状工具による浅い沈線がめぐり、外面にはロクロナデの痕跡が残る。微細な気泡を極めて多量に含む不透明な乳状の釉を全面に施し、灰白色を呈する。釉厚は0.1mmで、窪んだ部分のみ0.3mmである。12世紀に比定される。16は龍泉窯系青磁劃花文碗の口縁部破片である。文様は内面に印刻されているが、断片的であるため全容は判然とししない。また口縁部内面には印刻の沈線が2条めぐり、気泡をほとんど含まない透明なガラス質の釉が全体に施されており、灰オリーブ色を呈する。胎土は灰白色で微細な気泡を少量含むが混入物は認められない。12世紀後葉に比定される。17は同安窯系青磁蓮弁文碗の口縁部破片で、復元口径12.6cmである。口縁部は内湾しつつ立ち上がり口唇部ではほぼ直立する。口唇端部はつまみ上げられているようである。微細な気泡を極めて多量に含む不透明なガラス質の釉が全面に施され、明緑灰色を呈するがやや黄色味が強い。釉厚は口唇部が0.1mm、内面は0.7mm、外面が0.8mmで、窪んだ部分は1.0mm程度である。胎土は灰白色で混入物は認められないが、緻密であり断面にはにぶい光沢がある。14世紀前葉に比定される。18は同安窯系白磁皿の底部破片で、復元底径4.6cmである。底部内面は凸レンズ状に膨らみ、仕切りの浅い沈線が1条めぐり、高台部は端部を面取りした断面やや縦長の長方形で、底部を回転ヘラ切りした後に貼り付けたものと考えられる。気泡を極めて多量に含む不透明な乳剤状の釉が内面および体部下半以上にかけており、それ以外の底部・高台部は無釉である。色調は施釉部が灰白色、無釉部もほぼ同色である。釉厚は0.3mm～0.5mmで、窪み部分は0.8mmである。胎土は灰白色で混入物は認められない。

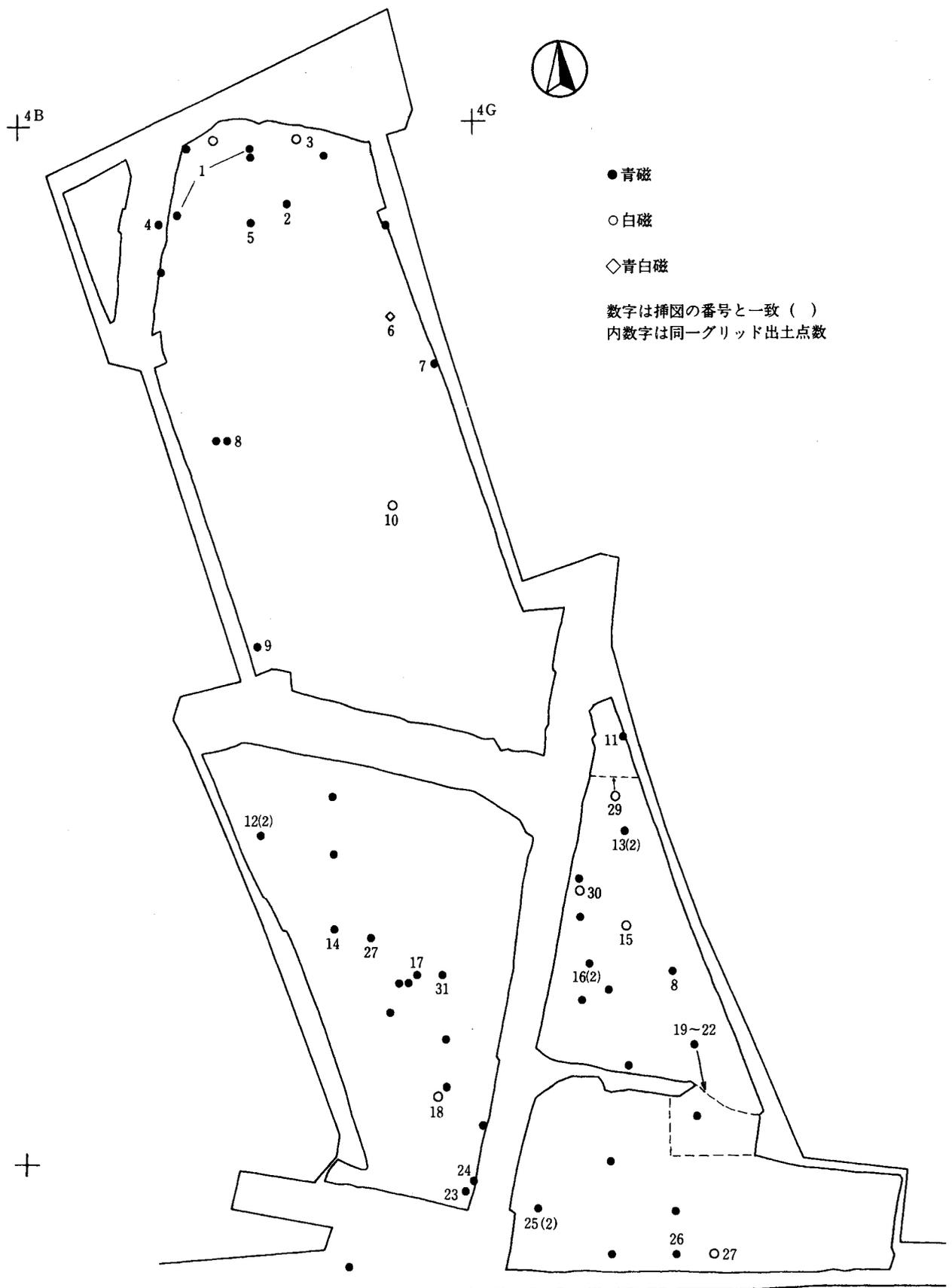


第56図 出土遺物実測図(18) 輸入陶磁器②

(1/2)

12世紀末から13世紀前葉に比定される。19は龍泉窯系青磁櫛描文皿の底部破片で、底径5.6cm、高台高0.4cm、糸底幅0.2cmである。高台断面がほぼ逆三角形で、底部と高台を区画するように断面三角形の沈線がめぐっていることから、ヘラ状工具による削り出し整形であろう。底部内面に偏心円状の櫛描文、体部内面には放射状の櫛描文が描かれ、体部と底部を区画するように浅い沈線がまわっている。きわめて微細な気泡を少量含んだ透明なガラス質の釉は、底部と糸底を除く全面に施されており明緑灰色を呈する。ただし無釉部分も点的に釉が付着していることから、全体の施釉後にこの部分の釉を剥がしたものと考えられる。釉厚は0.1mm、窪んだ部分で0.2mm~0.3mmである。胎土は灰白色で、若干の微細な気泡を含むものの混入物は認められない。12世紀末から13世紀初頭に比定される。20は龍泉窯系青磁櫛描文皿の底部破片で、復元底径5.6cmである。体部に明瞭な稜を2段もち、下から2段目の稜が内面底部からの立ち上がりに対応する。底部は回転ヘラ切りである。極めて微細な気泡を少量含む半透明なガラス質の釉を、内面及び体部外面に施す。色調は施釉部が灰色、無釉部が灰黄色を呈する。釉厚は0.1mm~0.2mm、窪んだ部分で0.6mm~0.8mmである。胎土は灰白色で微細な気泡を少量含むものの、混入物は認められない。12世紀末~13世紀前葉に比定される。21は龍泉窯系青磁劃花文皿の底部破片で、復元底径4.0cmである。外面底部外周には体部との区画沈線が1条めぐり、文様は底部内面に施されるが、断片的であるため全容は判然としない。気泡をほとんど含まない透明なガラス質の釉は底部外面を除く全面に施されるが、底部にも釉が付着している部分があることから全体を施釉した後に剥いだものと考えられる。色調は緑灰色である。釉厚は0.3mm

～0.5mm、窪んだ部分のみ1.0mmである。胎土は灰白色で、微細な気泡を少量含むが混入物は認められない。12世紀後葉に比定される。22は龍泉窯系青磁劃花文碗の底部破片で、復元底径4.0cmである。高台は底部回転ヘラ切り後の貼り付け整形で、断面は面取りを施した長方形を呈する。高台厚0.7cm、糸底幅0.4cmである。文様は底部内面に描かれ、その外周には区画沈線がまわる。微細な気泡を多く含む透明なガラス質の釉が底部外面および高台を除く全面に施され、高台外面には波状に流れている。色調は灰オリーブ色で、厚さは0.3mm～0.4mm、印刻部分のみ0.6mmである。胎土は明オリーブ灰色ないし灰白色で微細な気泡を若干含むが混入物は認められない。破片重量33.2g、12世紀後葉に比定される。23は龍泉窯系青磁鑄蓮弁文碗の口縁部破片で、復元口径13.0cmである。蓮弁の表現は細いヘラ状工具による浮き彫りで、鑄はやや不明瞭になっている。微細な気泡を多量に含む半透明なガラス質の釉が全面に施されており、外面は明緑灰色、内面は緑灰色を呈する。釉厚は0.2mm～0.4mmで、口唇部がもっとも薄く、窪んだ部分では0.8mmである。胎土は灰白色で気泡をやや多めに含むものの混入物は認められない。13世紀中葉に比定される。24は同安窯系青磁櫛描文小皿の底部破片で、復元底径5.6cmである。底部は回転ヘラ切りで中央部がもっとも薄くなっている。底部内面は短い櫛描文と印刻によって施文されているが、断片的であるため全容が判然としない。気泡をほとんど含まない透明なガラス質の釉が底部外面以外の全面に施されており、灰白色を呈する。また無釉部分もほぼ同色である。釉厚は0.2mmで、印刻部分のみ0.6mm～1.0mmである。胎土は灰白色で若干の気泡を含むものの混入物は見られず、非常に緻密でにぶい光沢がある。12世紀～13世紀前葉に比定される。25は龍泉窯系青磁蓮弁文碗の口縁部破片である。蓮弁の表現は細いヘラ状工具による浮き彫りで、鑄は不明瞭である。微細な気泡を多量に含む半透明なガラス質の釉が全面に施されており、明緑灰色を呈する。釉厚は0.2mm～0.4mmで、窪んだ部分が0.8mm程度、口唇部はほとんど剥がれている。胎土は灰白色で、混入物は認められない。13世紀中葉に比定される。26は龍泉窯系青磁碗の底部破片で、復元底径3.6cm、高台高1.2cmである。高台は貼り付け高台で、断面やや縦長の逆釣鐘形で、高台の厚さ0.4cm、糸底幅0.1cmである。微細な気泡を極めて多量に含む不透明なガラス質の釉を糸底部分を除く全面に施してあり、明緑灰色を呈する。釉厚は0.4mm～0.6mm、高台の付け根付近では1.0mm～1.3mmである。胎土は灰白色で、微細な気泡を若干量含むものの混入物は認められない。12世紀末～13世紀初頭に比定される。27は同安窯系白磁口禿皿の口縁部破片で、復元口径10.4cmである。体部はゆるやかにS字状に立ち上がる、浅い碗のような形状である。微細な気泡を多量に含む不透明な乳剤状の釉を全面に施し、明オリーブ灰色を呈する。釉厚は0.2mm～0.3mmで、口縁部は釉が剥がれている。胎土は灰白色で、若干の気泡を含むものの混入物は認められない。14世紀前葉に比定される。28は龍泉窯系青磁碗の口縁部破片である。内面口縁部に2条の沈線がまわる。微細な気泡破片を若干量含む透明なガラス質釉を全面に施しており、明緑灰色を呈する。釉厚は0.2mm～0.4mm、沈線部分のみ0.6mmである。胎土は微細な気泡を若干量含むものの、混入物は認められない。12世紀後葉に比定される。29は、龍泉窯系青磁劃花文碗の口縁部破片である。微細な気泡を若干量含む半透明ガラス質の釉が全面に施されており、オリーブ灰色を呈する。釉厚は0.2mm～0.4mmで窪んだ部分のみ0.5mmである。胎土は灰白色で微細な気泡を若干量含むものの混入物は認められない。破片重量14.1g、12世紀後葉に比定される。30は、同安窯系白磁小皿の破片である。復元口径9.3cm、復元底径4.2cm、器高2.3cm、高台高は0.6cm、糸底幅は0.3cm、広大の幅は0.7cm、底部最大厚は底部中央付近にあるものと考えられる。体部外面には明瞭なロクロ目を残し、底部は回転ヘラケズリ、高台はいわゆる「割高台」と呼ばれるもので、貼り付け整形である。断面はやや内湾する。糸底には釉が付着するが、抉り部分は無釉である。



第57図 出土遺物分布図(6) 輸入陶磁器

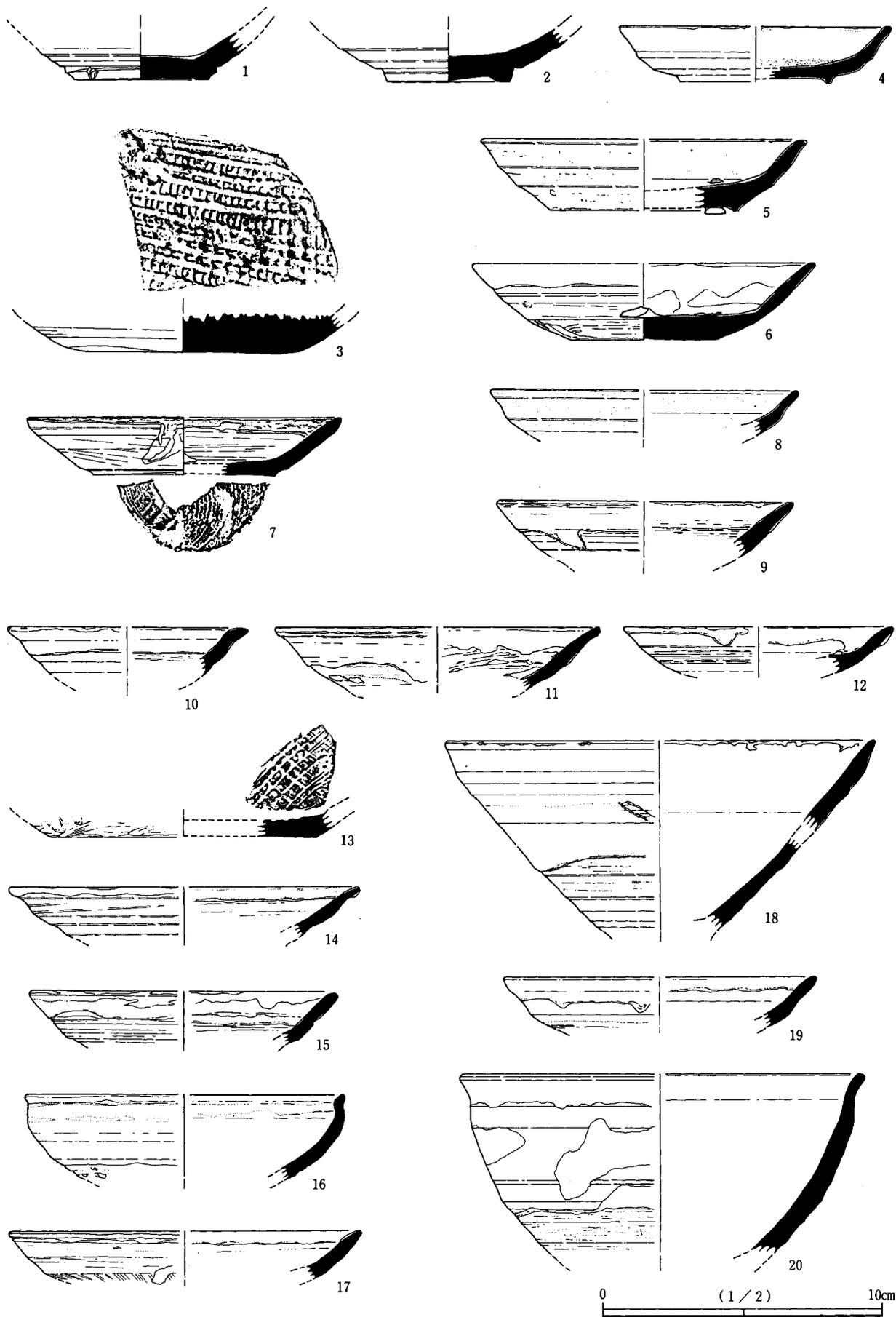
色調は外面が灰白色ないし白色、内面および外面の口縁付近は微細な気泡を若干含む半透明乳質の釉がかけられており灰白色を呈する。胎土もほぼ同色で、微細な気泡を若干含むものの混入物は特に認められない。15世紀前半に比定される。31は、龍泉窯系青磁碗の底部破片である。復元底径6.0cm、内面底径6.4cm、高台高1.0cm、糸底幅0.5cm、高台幅1.1cm、底部最大厚は底部中央にあり1.1cmである。体部外面、高台内面および高台外面はロクロヘラケズリ、体部内面はロクロナデ、底部は回転ヘラケズリ調整を施す。高台は貼付けで、断面隅丸の逆台形を呈する。色調は底部、高台内面が灰色、外面、内面底部外周および高台外面が灰白色で、その他の部分には微細な気泡を若干量含む半透明ガラス質釉がかけられておりオリブ黄色を呈する。胎土は灰白色で、気泡を少量含むものの混入物は認められない。焼成は良好で、断面にはにぶい光沢があるが、パイ状になっている部分がある。14世紀代に比定される。

② 国産陶器

ア. 皿・碗 (第58図・第59図、第18表、図版26)

1は瀬戸系灰釉碗の底部破片である。底径4.8cm、内面底径4.0cm、高台高0.5cm、糸底の幅は0.5cm、底部最大厚は中央付近にあり0.8cmである。体部外面にはロクロ目を明瞭に残し、底部は回転ヘラケズリ調整を施す。高台は削出しで、外側を面取り調整している。色調は外面が灰白色で、内面は微細な気泡を多量に含む半透明ガラス質の釉が全面に施されており、オリブ黄色ないし灰オリブ色を呈する。胎土は外面と同色で、灰色砂粒、石英粒を少量混入しておりやや粗い。焼成は良好である。15世紀中葉に比定される。2は瀬戸系灰釉碗の底部破片である。底径4.5cm、内面底径4.2cm、高台高0.5cm、糸底の幅0.5cm、底部最大厚は中央付近にあり0.9cmである。体部外面には明瞭なロクロ目を残し、底部は回転ヘラケズリ調整が施される。高台は削出しで、やや内側に傾斜するタイプである。色調は外面が灰白色、現状ではほとんど禿げてしまっているが半透明ガラス質の釉が内面全面に施されていたものと考えられ、遺存部分はオリブ黄色を呈する。胎土は外面と同色で、黒色砂粒、白色砂粒、雲母様微粒子を中量、大きめの石英粒を少量混入する比較的緻密なものであるが、やや粉状である。15世紀中葉に比定される。3は瀬戸系灰釉卸皿の底部破片で、底径6.8cm、底部最大厚は底部外周にあり1.4cmである。底部は回転糸切り無調整で、体部外面には丁寧なロクロナデの痕跡を残す。また内面には焼成の際の砂目が付着する。色調は内面が灰白色、外面はにぶい橙色ないし浅黄色を呈する。なお内面には微細な気泡を若干含むオリブ黄色の透明ガラス質釉がかかる。胎土は灰白色で、黒色微粒子、雲母様微粒を中量、大きめの石英粒を少量含むが比較的緻密で、焼成も良好である。15世紀代に比定される。4は瀬戸系の灰釉小皿である。復元口径9.6cm、復元底径5.4cm、器高2.0cm、内面底径6.8cm、高台高0.2cm、糸底の幅は0.2cm、底部最大厚は底部外周にあるものと思われ、0.6cmである。体部外面には比較的明瞭なロクロ目を残し、底部は回転ヘラケズリ調整を施しているようである。高台はロクロによるつまみ出しで、断面がやや丸みを帯びた逆三角形である。内面外面共に微細な気泡を極めて多量に含む不透明ガラス質釉が全面に施されており、オリブ黄色ないしオリブ色を呈する。胎土は灰白色で、混入物は認められない。焼成はやや悪くパイ状になっている。なお糸底には釉禿および釉付着が見られることから、焼成の際に重ね焼きを行ったものと考えられる。15世紀代に比定される。5は瀬戸系灰釉皿の破片である。復元口径11.4cm、復元底径6.8cm、器高2.6cm、内面底径8.0cm、糸底の幅0.2cm、底部最大厚は底部外周にあり0.9cmである。体部外面にはロクロ目が明瞭に残り、高台断面はやや丸みを帯びた逆直角三角形で不明瞭であるが、おそらく削出しによるものと考えられる。色調は、内面外面共に微細な気泡を少量含む底部ほぼ無色の半透明ガラス質釉がかけられており、

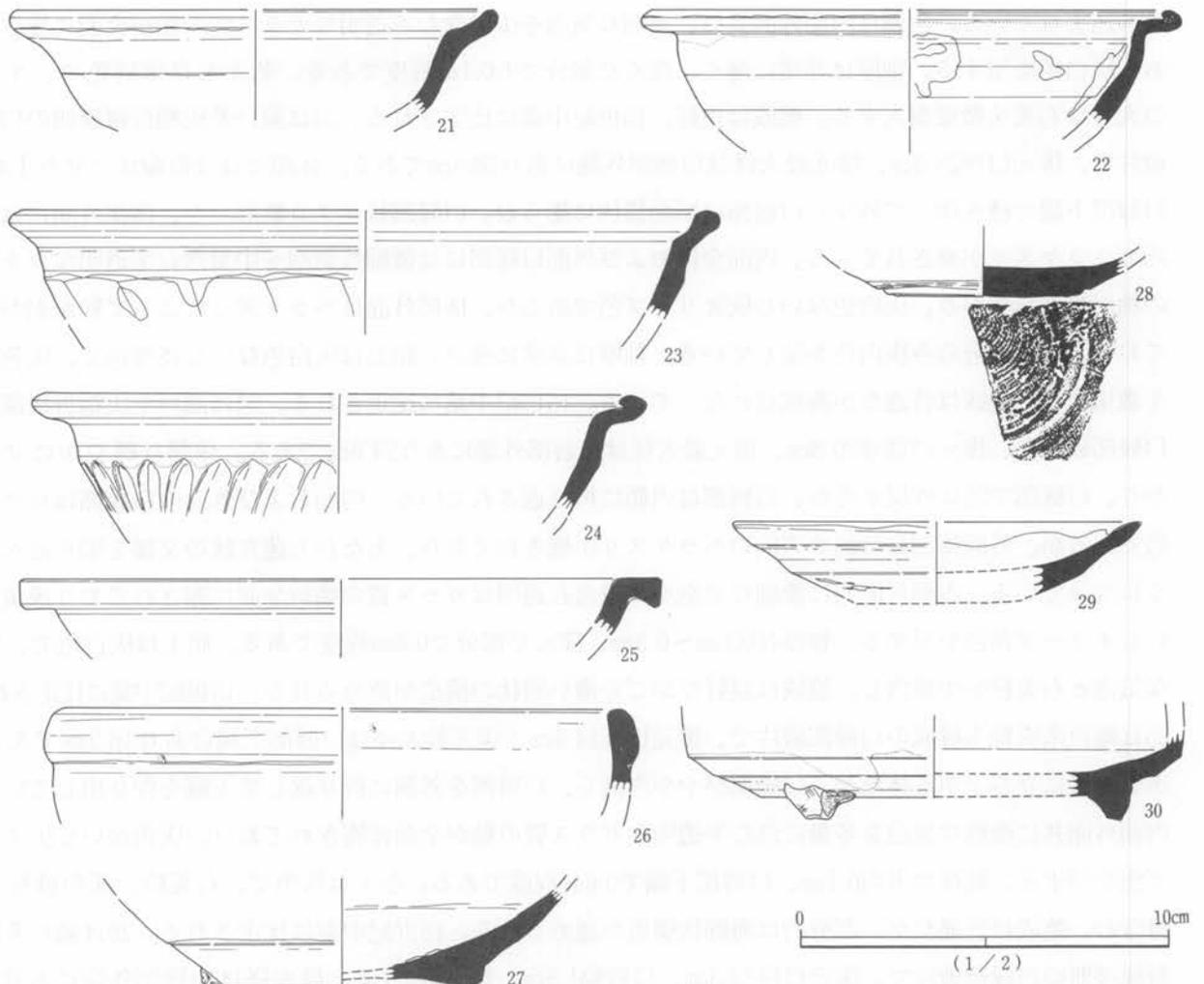
灰白色を呈している。胎土もほぼ同色で、黒色粒子、石英粒および気泡を少量含む。また底部、内面底部には胎土目が付着し、糸底の釉が剥けていることから重ね焼きによる焼成であろう。焼成は良好である。15世紀代に比定される。6は瀬戸系灰釉皿の破片である。復元口径12.2cm、復元底径5.2cm、器高2.7cm、内面底径8.0cm、底部最大径は底部外周にあり0.9cmである。体部外面には丁寧なロクロナデの痕跡が明瞭に残り、底部は回転糸切り無調整である。色調は外面が灰白色で、内面全面および口縁部の外面には気泡を中量含む透明なガラス質の釉が施されており、灰オリーブ色ないし灰白色を呈している。胎土は外面とほぼ同色で、黒色微粒子、灰色微粒子を多量、気泡を少量含む。内面底部中央およびその外周には胎土目が付着し、底部には若干釉が付着することから重ね焼きによる焼成であると考えられる。焼成は良好である。15世紀中葉に比定される。7は東海系志戸呂窯産の瀬戸系緑釉皿模倣品の破片である。復元口径11.0cm、復元底径6.4cm、器高2.1cm、内面底径6.9cm、底部最大厚は底部外周にあり、0.6cmである。体部外面にはロクロナデの痕跡を非常に明瞭に、内面には丁寧なロクロナデの痕跡を若干残し、底部は回転糸切り無調整である。色調は内面外面共ににぶい橙色ないし褐灰色を呈し、口縁部内面外面ににぶい黄色ないし白色の不透明釉が施される。胎土は灰色砂粒、黒色砂粒のやや粒の大きなもの中量、雲母様微粒子を少量含む。焼成は良好である。15世紀代に比定される。8は瀬戸系灰釉皿の口縁部破片で、復元口径は10.8cmである。体部外面には明瞭なロクロ痕跡を残し、口縁部はゆるくS字状に湾曲するタイプである。色調は内面外面共に、微細な気泡を多量に含むほぼ無色の半透明釉が全面にかけられており、灰白色を呈する。胎土も同色で、石英微粒子、灰色微粒子および気泡を少量混入する。焼成は普通で若干パイ状になっている。15世紀中葉に比定される。9は瀬戸系緑釉皿の口縁部破片で、復元口径10.4cmである。外面にはロクロナデの痕跡を明瞭に残し、器肉はやや厚い。色調は内面外面共に灰白色で、口縁付近には微細な気泡を多量濡含む半透明ガラス質の釉がかかっており、灰オリーブ色ないしオリーブ褐色を呈する。胎土は浅黄色で、黒色微粒子、白色微粒子を中量混入する。焼成は普通で、若干パイ状になっている。15世紀中葉に比定される。10は瀬戸系緑釉小皿の口縁部破片で、復元口径7.6cm、復元最大径は口唇部外端にあって8.6cmである。内面外面共に丁寧なロクロナデの痕跡を残し、口縁は口唇部が水平に広がるタイプである。色調は内面外面共に灰白色で、口縁付近には微細な気泡を少量含む透明なガラス質の釉がかけられており、黄褐色ないしオリーブ色を呈している。胎土は灰白色で、黒色砂粒、灰色粒子を多量、やや大きめの石英粒を少量混入する。焼成は普通である。15世紀代に比定される。11は瀬戸系緑釉皿の口縁部破片で、復元口径11.6cmである。体部内面外面共に丁寧なロクロナデの痕跡を残し、体部中央付近がもっとも肉厚となる。色調は内面が浅黄色、外面は灰白色で、口縁付近は微細な気泡を若干量含む透明なガラス質釉がかかっており灰オリーブ色、外面には釉変により橙色を呈する部分がある。胎土は灰白色で、黒色砂粒、灰色粒子を微量含む。15世紀中葉に比定される。12は瀬戸系緑釉小皿の口縁部破片で、復元口径9.4cmである。内面は丁寧なロクロナデ、外面には明瞭なロクロ目を残す。色調は内面外面共に灰色で、口縁付近には微細な気泡を少量含む透明なガラス質釉がかかっており灰オリーブ色を呈する。胎土は灰白色で、雲母様微粒子、黒色粒子および気泡を少量混入する。焼成は普通だがややパイ状になっている。15世紀中葉に比定される。13は瀬戸系緑釉皿の底部破片で、底径は9.4cm、内面底径は10.0cmである。底部は回転糸切り無調整、卸目はヘラ描き、体部外面にはロクロナデ調整を施す。色調は内面外面共ににぶい黄橙色で、体部外面に微細な気泡を多量に含む半透明ガラス質の釉が垂れている部分があり、ここだけ暗オリーブ色を呈する。胎土は灰色ないし淡黄色で、やや大きめの黒色粒子を中量、石英粒を少量混入するが比較的緻密



第58图 出土遺物実測図(19) 国産陶器①

である。焼成は良好である。15世紀中葉に比定される。14は瀬戸系縁釉皿の口縁部破片で、復元口径12.4cmである。体部外面には明瞭なロクロ目を残し、内面は丁寧なロクロナデを施す。破片には焼接ぎの痕跡があり、二次焼成を受けている。色調は内面外面共に灰白色で、口縁付近には微細な気泡を少量含む透明なガラス質の釉がかかっており灰オリーブ色を呈する。胎土は灰白色で、黒色微粒子、灰色微粒子を中量混入する。焼成は良好である。15世紀中葉に比定される。15は瀬戸系縁釉皿の口縁部破片で、復元口径は10.8cmである。外面には細かいロクロ目が明瞭に残り、口唇部に端面をつくり出すタイプである。色調は内面外面共に灰色、口縁付近には気泡を少量含む透明なガラス質の釉がかかっており灰オリーブ色を呈する。胎土も体部と同色で微細な気泡を少量含むが、特に混入物は認められない。焼成は極めて良好である。15世紀中葉に比定される。16は瀬戸系錆釉天目碗の口縁部破片で、本遺跡ではこの1点のみ出土した。復元口径は11.2cmである。体部がやや内湾しつつ立ち上がり、ほぼ直立する口縁から口唇部のみ外反するタイプである。体部外面にはロクロ目が残る。色調は無釉部分が淡黄色、釉は不透明な錆釉で体部外面下半を除く全面にかけられており、黒色ないし褐色、口唇部のみ褐色を呈し、金属光沢を持つ。胎土は灰白色で、白色粒子、雲母様微粒子を微量含む。焼成は良好である。15世紀代に比定される。17は瀬戸系縁釉皿の口縁部破片で、復元口径12.4cmである。体部外面下半は斜め方向のヘラケズリ、それ以上はロクロナデ、口唇部下端に1条の沈線がめぐり、色調は無釉部分が淡黄色ないし灰黄色、内面外面共に口縁付近には黒褐色ないし褐色の不透明な錆釉がかけられ、金属光沢を持つ。胎土は淡黄色を呈し、灰色砂粒を中量混入しており若干粗い。焼成は普通でパイ状を呈している。15世紀代に比定される。18は瀬戸系灰釉碗の口縁部および体部の破片で、復元口径15.2cmである。体部外面は幅の狭いロクロナデ、内面には丁寧なロクロナデが施される。体部下半から口縁までほとんど角度を変えずに立ち上がるタイプである。色調は外面下半が淡黄色、外面上半および内面全面には微細な気泡を少量含む半透明ガラス質の釉がかけられ、オリーブ黄色を呈している。胎土は灰白色で、石英粒、灰色砂粒を中量混入しやや粗い。焼成は普通で若干パイ状になっている。15世紀中葉に比定される。19は瀬戸系灰釉碗の口縁部破片で、復元口径14.3cmである。体部外面はロクロ目を残し、内面は丁寧なロクロナデが施される。体部から口縁にかけてやや角度を増しながら立ち上がり、口唇部が若干外反するタイプである。色調は外面下半がにぶい黄橙色ないし灰白色、それ以外の部分には微細な気泡を若干量含む透明なガラス質の釉が全面にかけられておりオリーブ黄色を呈する。ただし外面の大部分は剥げてしまっており、灰白色になっている。胎土は灰白色で、灰色粒子、石英粒を少量、赤褐色微粒子を微量に含みやや粗い。焼成は普通であるがパイ状になっている。15世紀中葉に比定される。20は瀬戸系縁釉皿の口縁部破片で、復元口径11.0cmである。体部外面にはロクロ目を明瞭に残し、内面には丁寧なロクロナデを施す。口縁部がゆるくS字状に広がるタイプである。色調は外面下部の無釉部分が灰白色、口縁には微細な気泡を中量含む半透明ガラス質の釉がかかり、暗オリーブ色を呈する。内面下半と外面中央付近は釉を剥がしており、灰オリーブ色である。胎土は灰白色で、黒色微粒子、灰色微粒子を少量混入する緻密なものである。焼成は良好である。15世紀中葉に比定される。21は瀬戸系灰釉折縁皿の口縁部破片で、復元口径12.8cmである。内面外面共に微細な気泡を若干量含む透明なガラス質の釉が施され、淡黄色ないしオリーブ色を呈している。釉厚は平均0.1mm程度、窪んだ部分では0.5mm程度である。胎土は灰白色で緻密、石英粒と気泡を少量含む。焼成は良好、15世紀中葉に比定される。22は瀬戸系灰釉折縁深皿の口縁部破片で、復元口径18.3cm、復元最大径は口唇部外端にあり21.8cmである。体部はやや角度を増しながらボウル状に立ち上がり、口縁部が真横に引き出されたあと、口唇部は内側に

巻き込まれている。色調は内面外面共に、微細な気泡を少量含む不透明なガラス質の釉が全面に施されており灰白色を呈する。釉厚は非常に薄く、窪んだ部分でも0.1mm程度である。胎土もほぼ同色で、やや粒の大きな石英を微量混入する。焼成は良好、15世紀中葉に比定される。23は瀬戸系灰釉折縁深皿の口縁部破片で、復元口径25.0cm、復元最大径は口唇部外端にあり28.8cmである。体部はほぼ直線状に立ち上がり、口縁部下端で稜を伴って外反し口唇部は断面袋状に膨らむ。口縁部はロクロ整形だが、体部外面には縦方向のヘラケズリが施されている。内面全体および外面口縁部には微細な気泡を中量含む半透明なガラス質の釉が施されており、灰白色ないし灰オリーブ色であるが、体部外面はヘラケズリによって釉が剥がされており、この部分のみ灰白色を呈している。釉厚は非常に薄い。胎土は灰白色ないし淡黄色で、灰色砂粒を微量含む。焼成は普通だが海綿状になっている。15世紀中葉に比定される。24は瀬戸系灰釉折縁深皿の口縁部破片で、復元口径は20.8cm、復元最大径は口唇部外端にあり24.8cmである。体部は緩やかに立ち上がり、口縁部で急に外反するが、口唇部は内側に折り返されている。内面および外面の口縁部はロクロ整形であるが、外面体部には斜め方向のヘラケズリが施されており、あたかも蓮弁状の文様を彫り込んだようになっている。内面外面共に微細な気泡を中量含む透明なガラス質の釉が全面に施されており浅黄色ないしオリーブ黄色を呈する。釉厚は0.1mm～0.3mm、窪んだ部分で0.8mm程度である。胎土は灰白色で、微細な気泡と石英粒を少量含む。焼成は良好だがごく薄い層状の構造が認められる。15世紀中葉に比定される。25は瀬戸系灰釉玉縁碗の口縁部破片で、復元口径14.4cm、復元最大径は口唇部下端にあり16.2cmである。ボール状に立ち上がる体部から口縁部がやや内湾し、口唇部を外側に折り返して玉縁を作り出している。内面外面共に微細な気泡を多量に含む半透明なガラス質の釉が全面に施されており、灰色ないし灰オリーブ色を呈する。釉厚は平均0.1mm、口唇部下端で0.6mm程度である。胎土は灰色で、石英粒、灰色砂粒を少量含む。焼成は普通だが、部分的に海綿状構造が認められる。15世紀中葉に比定される。26は瀬戸系灰釉折縁深皿の口縁部破片で、復元口径22.3cm、口唇幅1.8cm、縁帯幅0.9cm、最大径は口唇部外端にあり26.0cmである。体部は緩やかに立ち上がり、口縁を真横に引き出している。口唇部は楔状に膨らむ。内面外面共に、微細な気泡を中量含む透明ほぼ無色なガラス質の釉が全面に施されており、灰白色を呈する。釉厚は0.2mm～0.4mm、窪んだ部分で0.6mm～0.8mmである。胎土もほぼ同色で、やや粒の大きい石英を少量含む。焼成は普通で、薄い層状の構造が認められる。15世紀中葉に比定される。27は瀬戸系錆釉碗の底部破片で、復元底径6.4cmである。かなり丁寧なロクロ整形で、底部はロクロナデ若干上底状になる。なお体部下端には粘土小玉が貼り付けられており、これが脚となる可能性がある。内面と外面の上半部は気泡を少量含む透明なガラス質の錆釉が施され、にぶい赤褐色を呈する。なお外面の無釉部分は灰色ないしにぶい褐色である。釉厚は非常に薄い。胎土は灰黄褐色で、白色粒子、雲母様微粒子を少量含む非常に緻密である。焼成は非常に良好、15世紀中葉に比定される。28は瀬戸系縁釉皿の底部破片で、復元底径5.2cm、復元内底径6.2cm、底部最大厚は0.8cmである。内面は丁寧なナデ、外面にはロクロヘラケズリの痕跡が明瞭に残り、底部は回転糸切り無調整である。色調は内面外面共に灰白色を呈する。故意に釉をかけた部分はないが、内面には数か所釉が垂れている。釉は微細な気泡を多量に含む半透明なガラス質の釉で、灰オリーブ色である。胎土は灰白色で特に混入物は認められない。焼成は普通、15世紀代に比定される。29は瀬戸系縁釉皿の口縁部破片で、復元口径11.0cmである。内面は丁寧なロクロナデ、外面にはやや強いロクロ目が明瞭に残る。色調は内面外面共に無釉部が灰白色、口唇部両面には微細な気泡を中量含む透明なガラス質の釉が施されており浅黄色を呈する。釉厚は外面が0.1mm、内面は0.6mmである。胎土も灰白色で、石英粒



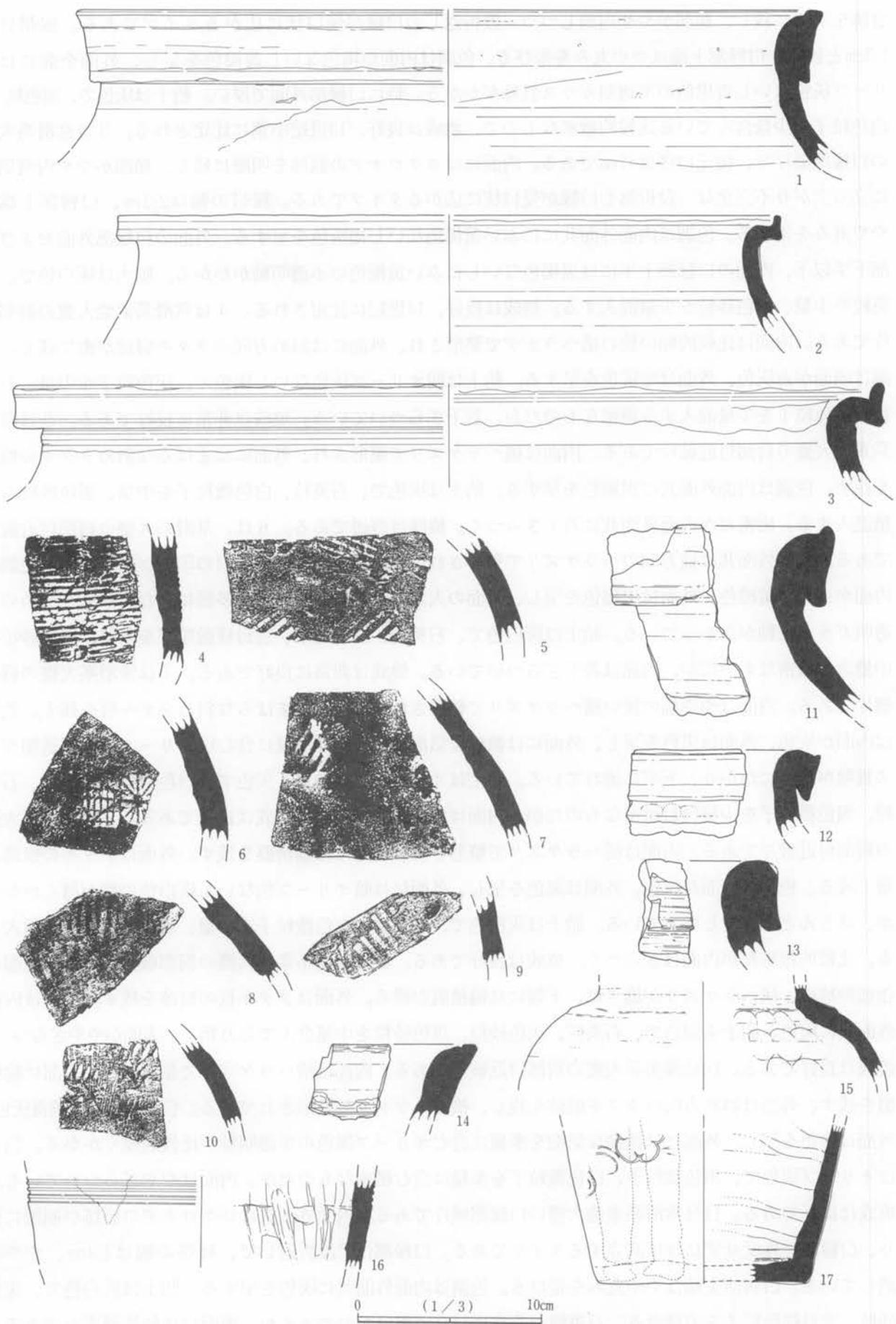
第59図 出土遺物実測図(20) 国産陶器②

を少量含み非常に緻密である。焼成は良好、15世紀代に比定される。30は瀬戸系灰釉袴腰形香炉の底部破片と考えられ、復元底径9.4cm、復元内底径12.4cm、脚高1.0cm、遺存部分の最大径は体部にあり13.6cmである。内面はロクロナデ、外面体部にはロクロ目が残り、底部はロクロヘラケズリ、脚は粘土塊の貼付けで側面に指文が残る。色調は外面の無釉部分が灰白色、内面および外面体部には不透明な乳状の釉が施されており、褐色ないし明青灰色を呈する。胎土は灰白色で、混入物は特に認められず非常に緻密である。焼成は普通で海綿状の構造が見られる。15世紀中葉に比定される。

イ. 甕・瓶子 (第60図、第19表、図版27)

1は常滑系大甕の口縁部破片で、復元口径は40.4cmである。胴部からゆるやかに立ち上がり、頸部から口縁部がほとんど直立するタイプである。内面はロクロヘラケズリ、外面はロクロナデの痕跡が残る。口縁部は二段の折返して、縁帯の幅は4.2cm、中央付近がやや膨らんでいる。色調は内面が暗赤褐色、外面が灰色を呈し、内面上部には暗オリーブ色ないし暗褐色、外面には灰白色ないし青黒色の釉がかかる。胎土は灰色で、石英粒、白色砂粒、黒色砂粒、灰色砂粒などを中量含んでおりやや粗い。焼成は良好、15世紀後半に比定される。2は常滑系大甕の口縁部破片で、復元口径は36.0cmである。内面にはロクロナデの

痕跡を明瞭に残し、頸部がやや内湾しつつ一段折返しの口縁が受口状に広がるタイプである。縁帯は幅1.3cmと狭く、口唇部上端はやや丸みを帯びる。色調は内面が褐色ないし黄褐色を呈し、外面全面にはオリーブ灰色ないし青黒色の半透明ガラス質釉がかかる。特に口縁部外面で厚い。胎土は灰色で、黒色粒子、白色粒子を少量含んでいる比較的緻密なもので、焼成は良好、13世紀中葉に比定される。3は常滑系大甕の口縁部破片で、復元口径は47cmである。内面にはロクロナデの痕跡を明瞭に残し、頸部がやや内湾気味に立ち上がり不完全な二段折返し口縁が受口状に広がるタイプである。縁帯の幅は2.3cm、口唇部上端はやや丸みを帯びる。色調は内面外面共ににぶい黄褐色ないし褐灰色を呈する。外面の口縁部外面および頸部下半以下、内面の口縁部上半には黒褐色ないしにぶい黄褐色の不透明釉がかかる。胎土は灰白色で、石英粒を中量、黒色砂粒を少量混入する。焼成は良好、14世紀に比定される。4は常滑系素焼大甕の胴部破片である。内面は比較的幅の狭い横ヘラナデで整形され、外面には斜め方向のタタキ痕跡が密に残る。色調は内面が青灰色、外面は暗灰色を呈する。胎土は明オリーブ灰色ないし灰色で、灰色粒子を中量、石英粒、黒色粒子を少量混入する緻密なものだが、若干ざらついている。焼成は非常に良好である。5は常滑系素焼大甕の肩部付近破片である。内面は横ヘラケズリで整形され、外面にはまばらな斜めタタキの痕跡を残す。色調は内面外面共に黒褐色を呈する。胎土は灰色で、石英粒、白色微粒子を中量、黒色砂粒を少量混入する。緻密だが内面外面共に若干ざらつく。焼成は普通である。6は、常滑系大甕の肩部付近破片である。内面外面共に横方向のヘラケズリで整形され、外面には菊花と格子目の印刻が施される。色調は内面がにぶい黄橙色、外面は黒褐色を呈し、外面の大部分には微細な気泡を多量に含むオリーブ灰色の半透明ガラス質釉がかかっている。胎土は灰白色で、石英粒、白色粒子、雲母様微粒子を多量、黒色砂粒を中量含む緻密なものだが、内面は若干ざらついている。焼成は非常に良好である。7は常滑系大甕の肩部破片である。内面はやや幅の狭い横ヘラケズリで整形され、外面にはまばらな斜めタタキ痕を残す。色調は内面が灰色、外面は黒色を呈し、外面には微細な気泡をきわめて多量に含む灰オリーブ色の不透明ガラス質釉が上半にかかり、下半に流れている。胎土はオリーブ灰色ないし灰色で、白色微粒子を多量、石英粒、黒色微粒子を少量含む緻密なものだが、内面はざらついている。焼成は良好である。8は渥美系大甕の肩部付近破片である。内面は横ヘラケズリで整形され、下部には輪積痕を残す。外面はタタキの痕跡が薄く残る。色調は内面が灰色、外面は黒色を呈し、外面には暗オリーブ色ないし灰白色の釉が薄くかかるが、ほとんど剥げてしまっている。胎土は灰白色で、石英粒、白色微粒子を中量、黒色粒子を少量混入する。比較的緻密だが内面はざらつく。焼成は良好である。9は常滑系素焼大甕の胴部破片である。内面は指頭押捺後、横ヘラケズリが施され、下端には輪積痕が残る。外面はタタキ板の痕跡を残す。色調は内面外面共に灰色、胎土も同色で、石英粒、灰色砂粒、黒色砂粒を中量含んでおり粗く、表面がややざらつく。焼成は良好である。10は渥美系大甕の肩部付近破片である。内面は横ヘラケズリで整形され、上部に輪積痕を残す。外面は斜め方向のタタキ痕跡を残し、横ヘラケズリで整形されている。色調は内面が暗青灰色、外面は灰色を呈し、外面には微細な気泡を多量に含むオリーブ黒色の半透明釉が比較的厚くかかる。胎土はオリーブ灰色で、黒色微粒子、白色微粒子を多量に含む緻密なものだが、内面はややざらついている。焼成は良好である。11は常滑系素焼大甕の口縁部破片である。内面外面共にロクロナデの痕跡が明瞭に残り、口縁部が外反せずにはほぼ直立するタイプである。口縁部は二段折返しで、縁帯の幅は4.3cm、やや内湾している。口唇部上端はやや丸みを帯びる。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土は灰白色で、黒色砂粒、雲母様微粒子を少量含み、石英粒が非常に目立つ粗いものであるが、表面は比較的滑らかである。



第60図 出土遺物実測図(21) 国産陶器③

焼成は良好、15世紀前半～中葉に比定される。12は常滑系素焼大甕の口縁部破片である。内面外面共にロクロナデの痕跡が明瞭で、外面口縁部下端には指頭押捺痕が薄く残り、頸部から口縁部まで外反せずにはほぼ直立するタイプである。口縁部は二段折返しで、縁帯の幅は2.4cm、ほぼ平坦であり、口唇部上端はやや尖り気味である。色調は内面が黒色、外面はオリーブ黒色を呈する。胎土は灰色で、白色砂粒、灰色砂粒を中量含み石英粒が目立つやや粗いものであるが、表面は比較的滑らかである。焼成は良好、15世紀前半～中葉に比定される。13は常滑系素焼大甕の口縁部破片である。内面外面共にロクロナデの痕跡を明瞭に残し、頸部から口縁がやや内湾しつつ立ち上がるタイプである。口縁部は二段折返しで、その痕跡が断面ではっきり確認できる。縁帯の幅は3.5cmでやや狭い。色調は内面外面共に灰色を呈する。胎土は灰白色で、白色砂粒、黒色砂粒を中量、石英粒、ガラス質微粒子を多量に含むがあまり目立たない。焼成は良好、15世紀前半から中葉に比定される。14は常滑系大甕の口縁部破片である。破片資料であるためはっきりしないが、口径は40cm程度になるものと推定される。内面外面共にロクロナデの痕跡が顕著で、口縁部がやや外反するタイプである。口縁は二段折返しで、その痕跡が断面にはっきりと残る。縁帯はほぼ平坦であるが若干内湾し、幅4.7cmとやや広い。色調は内面がオリーブ黒色、外面が黒色を呈し、外面にはオリーブ黒色ないし灰オリーブ色の不透明ガラス質釉がかかる。胎土は灰色で白色砂粒、黒色砂粒、灰色砂粒を中量含みやや粗い。内面は滑らかで、焼成は良好g、14世紀中葉に比定される。15は瀬戸系灰釉瓶子あるいは壺の肩部破片で遺存部分の頸部径は11.2cmである。内面は指頭押捺後ロクロナデ、外面にはロクロ整形の痕跡が明瞭に残る。色調は内面がにぶい黄色、外面には全面に微細な気泡を中量含む透明なガラス質の釉がかけられており暗オリーブ色を呈する。胎土は灰色、比較的緻密で黒色砂粒、雲母様微粒子を中量含む。焼成は良好、13世紀中葉～14世紀前半に比定される。16は瀬戸系灰釉瓶子の体部破片で、遺存部分での最大径は18.8cmである。内面は縦方向、下から上のヘラケズリ、外面には4条単位の横方向の沈線がめぐり、色調は内面が灰白色、外面には釉がかけられているが、二次的に焼成を受けているため不透明な胎状で発泡しており、黒色ないし暗オリーブ褐色を呈する。胎土は灰白色で石英粒を少量含む緻密なものである。焼成は良好、13世紀中葉～14世紀前半に比定される。17は瀬戸系灰釉瓶子、いわゆる梅瓶の底部破片で、復元底径は11.4cm、復元内底径は9.4cmである。内面は横方向のヘラケズリ、底部と体部は貼付け整形で、底部内面にはその痕跡が明瞭に残る。色調は内面が灰白色で、外面全面には微細な気泡を少量含む透明なガラス質の釉がかけられており灰オリーブ色を呈する。胎土は内面と同色で、気泡を少量含むが特に混入物は認められない。かなり緻密である。焼成は極めて良好であるが、気泡によるパイ状の構造が見られる。13世紀中葉～14世紀前半に比定される。

ウ. 捏鉢・播鉢 (第61図、第20表、図版28)

1は常滑系片口鉢あるいは捏鉢の口縁部破片である。内外面ともに丁寧なロクロナデが施されておりなめらかである。ただし外面下部に縦方向のヘラケズリ痕跡を残す。口縁部は内湾しながら立ち上がる。口唇部は幅が広く浅い沈線が1条めぐり、幅は0.3cm、内面とのなす角はほぼ直角である。色調は外面が橙色、内面は灰褐色を呈する。胎土は橙色でやや粗く、石英や長石、黒色砂粒、白色砂粒を中量混入する。焼成は良好、15世紀中葉に比定される。2は常滑系片口鉢の口縁部破片で、復元口径32.2cm、復元最大径33.2cmである。内面は丁寧な斜方向のロクロヘラナデ、外面は下部が縦方向のヘラケズリ、上部はロクロナデを施し、口縁部はやや外反する。口唇部は幅の広い沈線状に内湾し、幅0.7cm、内面とのなす角は直角に近い鋭角である。色調は外面が褐灰色ないしにぶい橙色、内面は全体的にオリーブ灰色ないし灰白色



第61图 出土遺物実測図(22) 国産陶器④

の自然釉がかかっている。胎土は外半が灰色、内半が灰白色でやや粗く、石英や長石、白色砂粒が中量混入する。焼成は良好、14世紀中葉に比定される。3は常滑系捏鉢の口唇部破片である。内面および口唇部は丁寧なロクロナデ、外面下部は指頭圧痕を残す粗いロクロナデ、口唇下部にはやや強いヘラナデが施されており、幅の広い沈線状に削れている。口唇部は平坦で、幅0.8cm、内面とのなす角は直角である。色調は外面が橙色、内面および口唇部は明赤褐色ないし灰褐色を呈する。胎土は灰黄褐色ないし橙色で粗く、やや粒の大きな石英や長石、黒色砂などを多量に含む。焼成は良好、15世紀中葉に比定される。4は常滑系捏鉢の口縁部破片である。内面外面共に丁寧なロクロナデが施されており滑らかである。口唇部はヘラ状工具ないし拇指先によるやや浅い沈線が1条めぐり、幅0.5cm、内面とのなす角は直角に近い鈍角である。色調は内外面共ににぶい橙色ないし褐灰色を呈し、口唇部のみ灰白色の自然釉が斑状にかかる。胎土は褐灰色ないしにぶい橙色でやや粗く、灰色砂粒や白色砂粒を中量混入する。焼成は良好、14世紀中葉に比定される。5は常滑系片口鉢の口縁部破片である。内面は丁寧なロクロナデ、外面は指頭押捺痕跡を残すロクロナデを施す。口唇部は幅が広くごく浅い沈線状のロクロナデ痕跡が2条めぐり、断面W字状に広がる。幅1.0cm、内面とのなす角は直角に近い鋭角である。小破片であるため全容は知り得ないが、色調は外面が褐灰色、内面は灰褐色を呈する。胎土は橙色で比較的緻密、石英や長石、灰色砂の微粒子を中量混入する。焼成も良好、15世紀中葉に比定される。6は常滑系片口鉢ないし捏鉢の復元可能な個体で、復元口径26.8cm、復元最大径28.8cm、復元底径12.8cm、復元内面底径10.4cm、器高12.5cmである。内面は下部に環状の圧痕を残した丁寧なロクロナデ、外面は口唇下部が横方向のヘラナデ、それ以下は斜方向の粗いヘラナデののち下部のみ横方向のヘラナデを施す。口唇部は平坦で両端を面取りしている。幅0.4cm、内面とのなす角はほぼ直角である。色調は外面が赤灰色ないしにぶい橙色、内面は灰色ないしにぶい橙色を呈し、内面に暗褐色あるいは淡黄色の自然釉が斑状にかかる。胎土は灰色ににぶい橙色の粘土がマーブル状に中量、灰色砂粒を少量混入する。胎土は比較的緻密、焼成も良好である。14世紀中葉に比定される。7は備前系播鉢の口縁部破片である。内面、口唇部、外面共に丁寧なロクロナデが施されており、滑らかである。内面には4条単位の縦沈線が走るが、全体で何単位になるのかは不明である。口唇部は平坦で、幅0.9cm、内面とのなす角はほぼ直角である。色調は外面が暗紫灰色、内面は暗赤灰色で内面には所々に灰白色の自然釉がかかっている。胎土は紫灰色ないし青灰色で非常に緻密であり、白色砂粒、灰色砂粒を少量混入する。焼成は非常に良好、14世紀前葉に比定される。8は常滑系捏鉢の口縁部破片で、復元口径28.8cm、復元最大径30.8cmである。内外面共に指頭圧痕を残すが、内面はやや丁寧なロクロナデ、外面は下部が斜方向のヘラナデ、口唇下部がロクロナデを施す。口唇部は細いヘラ状工具ないし拇指先によるやや深い沈線が1条めぐり、幅は0.4cm、内面とのなす角はほぼ直角である。色調は外面が暗褐色、内面は暗褐色に灰白色の自然釉が斑状にかかる。胎土は青灰色ないし紫灰色でやや粗く、黒色および白色砂粒を中量、若干の小礫を混入する。焼成は良好、14世紀中葉に比定される。9は常滑系捏鉢の口縁部破片である。内面および口唇部は丁寧なロクロナデ、外面下部は縦方向のヘラケズリ痕跡を残す縦方向の粗いヘラナデ、口唇下部は内外面共にやや強いロクロナデが施されており、幅の広い沈線状に削れている。口唇部は平坦で、幅0.6cm、内面とのなす角はやや鋭角気味である。色調は外面が橙色ないし黒色、内面は橙色ないし褐灰色を呈する。胎土は黄灰色でやや粗く、石英や長石、灰色砂粒、白色砂粒を中量混入する。焼成は良好、15世紀中葉に比定される。10は常滑系捏鉢ないし播鉢の口縁部破片である。内面は丁寧なロクロナデ、外面は下部に指頭圧痕を残す粗いロクロナデ、口唇下部には強いロクロナデにより幅が広く浅い

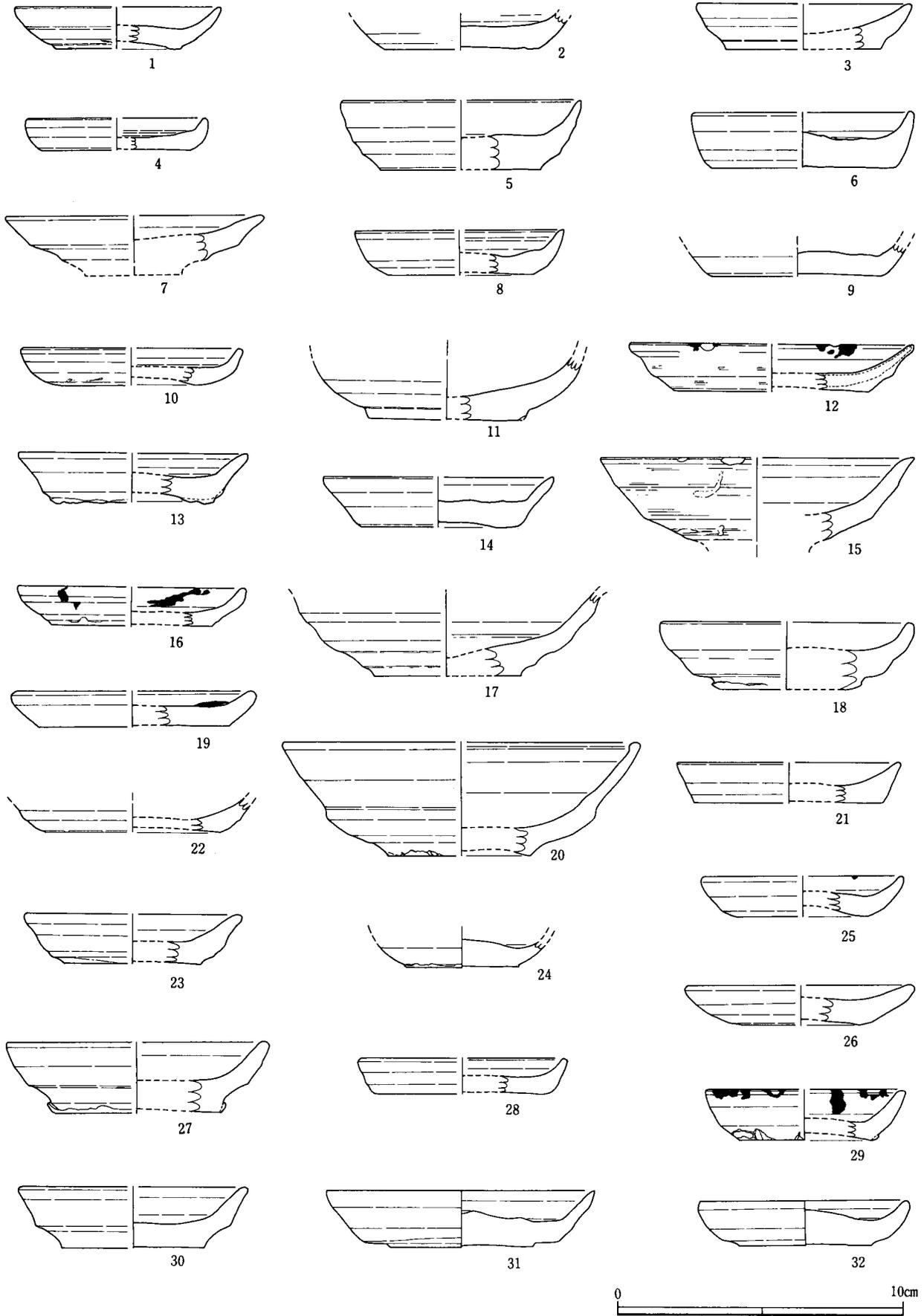
沈線がめぐる。口唇部はロクロナデにより若干内湾するがほぼ平坦で、幅0.9cm、内面とのなす角はほぼ直角である。色調は内外面共に褐灰色を呈する。胎土はにぶい橙色で粗く、石英や長石、灰色砂粒を多量に混入する。焼成は良好、15世紀中葉に比定される。11は常滑系片口鉢の口縁部破片である。復元口径23.2cm、復元最大径24.4cmで、最大径は口唇下部にある。内面外面共に指頭押捺の痕跡を残す、粗いロクロナデが施される。口唇部は面を形成しない。色調は外面が暗褐色ないし褐灰色で、内面は暗褐色を呈し、内面にはオリーブ黒色ないし灰白色の自然釉が斑状にかかっている。胎土は灰色でやや粗く、石英や長石、灰色砂粒を多量に混入する。焼成は非常に良好、14世紀中葉に比定される。12は常滑系捏鉢の口縁部破片である。内面および口唇部は丁寧なロクロナデ、外面下部は粗い縦方向のヘラケズリ、口唇下部はロクロヘラケズリにより幅の広い沈線状に削れている。口唇部はやや内湾し、T字状に広がる。幅は1.2cm、内面と口唇部のなす角はほぼ直角である。色調は外面および口唇部が暗赤褐色、内面が明赤褐色を呈する。胎土はにぶい赤褐色ないし橙色で粗く、石英や長石、黒色砂粒を中量混入する。焼成は良好、14世紀中葉に比定される。13は瀬戸系播鉢の口縁部破片で、口縁部は折り返し整形である。口唇部は内湾し、幅0.9cm、内面とのなす角は鋭角である。内面外面共に鉄釉がかかり、色調は茶褐色を呈する。胎土は灰黄色でやや粗く、混入物は特に認められない。焼成は良好で、よく締まっている。15世紀中葉に比定される。14は土師質捏鉢の口縁部破片である。内面および口唇部は丁寧なロクロナデ、外面は下部が斜方向のヘラナデ、口唇下部が内外面共に横方向のヘラナデである。口唇部はやや内湾し、幅0.7cm、内面口唇のなす角は鈍角である。色調は内外面共に浅黄橙色を呈する。胎土も同色で、石英や長石、黒色砂粒を中量混入する。焼成は比較的良好であるが、若干劣化しており脆くなっている。15世紀中葉に比定される。15は常滑系捏鉢の口縁部破片である。内面は右上がりの丁寧なナデ、口唇部はロクロナデ、外面下部はタタキの痕跡を残す粗いロクロナデ、外面上部はロクロヘラナデ、口唇下部は比較的丁寧なロクロナデを施す。口唇部はやや内湾し、幅0.7cm、内面とのなす角は鈍角である。色調は外面がと黒色中に橙色が斑状に混在、内面は黒褐色を呈する。胎土は橙色ないし黒褐色で粗く、長石や石英、灰色砂粒などを中量混入する。焼成は良好、15世紀中葉に比定される。16は常滑系播鉢の口縁部破片で、復元口径39.4cm、復元最大径42.0cmである。内面は下部が斜め方向のヘラナデ、上部はロクロナデで1条単位の浅い縦沈線が走るが、破片資料であるため全体で何単位になるのかは不明である。外面は下部が縦方向のヘラケズリ痕跡を残す粗いロクロナデ、口唇下部はロクロナデを施し、拇指爪によると考えられる細沈線が3条まわる。口唇部は浅く内湾し、幅1.0cm、内面とのなす角は直角に近い鈍角である。色調は外面が黒褐色ないし橙色、内面は黒褐色ないしにぶい赤褐色を呈する。胎土は灰色ないし橙色でやや粗く、長石や石英、灰色砂を中量混入、比較的粒の大きなものも含んでいる。焼成は良好、14世紀中葉に比定される。17は瀬戸系播鉢の底部破片である。内面は丁寧なロクロナデの後、6条単位の櫛目を施す。破片資料であるため全体での櫛目の間隔は不明である。外面には強いロクロ目が残り、非常にゆるやかに外反する器形である。内面外面共に鉄釉がかかり、色調はにぶい光沢を持つ茶褐色を呈する。胎土は淡黄色で若干粗く、やや粒の大きな黒色砂粒を少量混入する。焼成は良好で、よく締まっている。15世紀中頃に比定される。18は常滑系片口鉢ないし捏鉢の口縁部破片で、復元口径25.0cm、復元最大径27.6cmである。内面は丁寧なロクロナデ、外面は下部が斜方向のヘラナデ痕跡を残す粗いロクロナデ、それ以上はロクロヘナデを施す。口唇部は平坦で、幅1.0cm、内側に浅い沈線が1条めぐる。内面とのなす角は直角に近い鈍角である。色調は外面が淡黄色、内面および口唇部は灰黄色を呈する。胎土は灰白色で、石英や長石、灰色砂などを多量に、やや粒の大きなもの

のも混入する。焼成はやや不良で若干脆くなっている。15世紀中葉に比定される。19は瀬戸系播鉢の体部破片である。内面は丁寧なロクロナデの後、6条単位の櫛目が施される。破片資料であるため全体の櫛目の密度は不明であるが、間隔はやや広いようである。外面には強いロクロ目を残す。内面外面共に鉄釉が施され、色調は茶褐色を呈する。胎土は灰黄色でやや粗く、混入物は認められない。焼成は良好でよく締まっている。15世紀中葉に比定される。20および21は備前系播鉢の体部破片である。残念ながら接合はしなかったが、明らかに同一個体であると考えられる。内面は丁寧なロクロナデの後、6条単位の櫛目を施す。櫛目の間隔はやや狭い。外面には不規則なロクロ目を残す。内面外面共に鉄釉がかかり、色調はにぶい光沢を持つ銀色である。胎土は灰黄色を呈し非常に緻密、混入物は特に認められない。焼成は非常に良好で、たたくと甲高い音がする。15世紀中葉に比定される。22は常滑系捏鉢の口縁部破片で、復元口径22.0cm、復元最大径24.3cmである。内面および外面上部が丁寧なロクロナデ、外面下部にはヘラケズリの痕跡を残す粗いロクロナデを施す。口唇部は幅が広く浅い沈線状に内湾し、ややY字状に広がる。幅は0.8cm、内面とのなす角は直角に近い鈍角である。色調は外面が褐灰色ないし橙色、内面は黄灰色を呈する。胎土は灰色ないし橙色でやや粗く、石英や長石、灰色砂粒などを中量混入、やや粒の大きなものも含む。焼成は良好、15世紀中葉に比定される。

③ 土師質土器 (第62図・第63図、第21表、図版29)

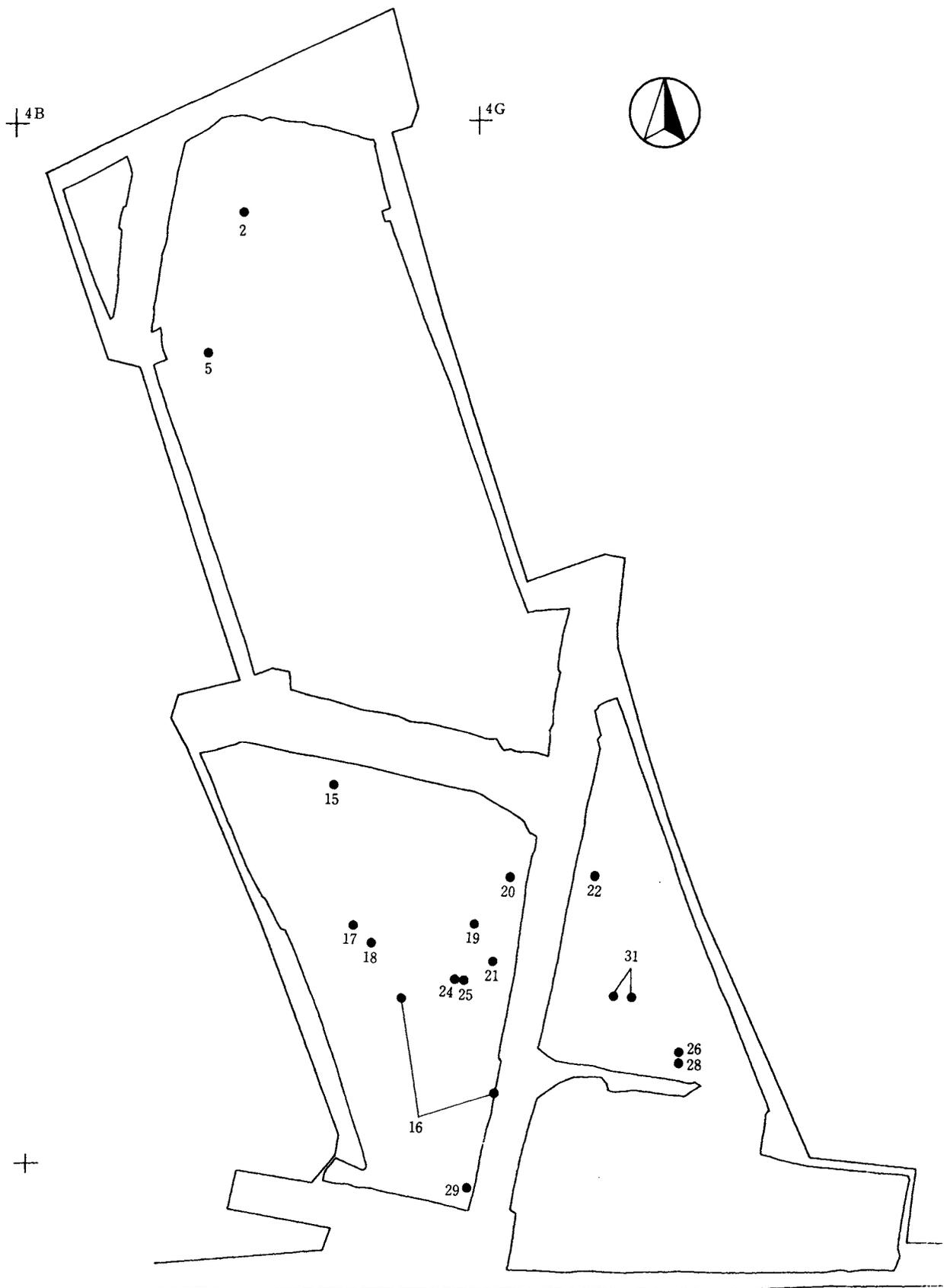
1は底部の1/3程度を遺存する小皿破片で、復元口径7.3cm、復元底径4.5cm、器高は1.5cm、口高指数(口縁部と器高の比率: 器高/口径×100で表される)は20.5である。口縁部が緩く内湾し、底部が上げ底状に盛り上がるタイプで、整形に要するロクロ回転数は少ない。色調は内面外面共ににぶい黄褐色を呈する。胎土も同色で、白色砂粒を微量混入する比較的なめらかなものである。焼成は普通だが、やや脆くなっている。体部の整形にはロクロを使用し、底部切離しは回転糸切りによると考えられるが、かなり摩耗してしまっているため、その痕跡ははっきりしない。2は底部の2/3程度を遺存する椀ないし杯破片で、復元底径5.4cmである。底部は厚さ1.0cmの肉厚平坦なもので、摩耗しているためはっきりしないが、わずかに回転糸切りの痕跡が残る。色調は内面外面共に淡黄色を呈する。胎土も同色で、灰色砂粒を微量混入する比較的なめらかなものである。焼成は普通だがやや脆くなっている。3は小皿の破片である。復元口径7.2cm、復元底径5.4cm、器高1.6cm、高台高0.5cmで、口高指数は22.2である。底部切離しは回転糸切り、形状は平坦であり、外周がもっとも肉厚で中心付近が最も薄い。口縁部外面は内湾するが内面はほとんど直線状で、整形に要するロクロ回転数は器高の割に多い。色調は内面外面共ににぶい褐色を呈する。胎土は浅黄橙色で、黒色砂粒や白色微粒子を少量混入する比較的なめらかなものである。焼成は良好で表面もあまり摩耗せずしっかりしている。破片重量は11.7gである。4は小皿の破片である。復元口径6.0cm、復元底径5.2cm、器高は1.1cmで、口高指数は18.3である。底部は摩耗しているため切離し技法は不明、形状は平坦であり、外周が最も厚く中心が最も薄い。内底面にはロクロ整形による渦巻き状の隆帯が残る。口縁部は比較的肉厚で強く内湾し、口唇付近でほとんど垂直に近くなるタイプである。整形に要するロクロ回転数は器高の割に多い。色調は内面外面共ににぶい黄橙色を呈する。胎土も同色、混入物がほとんど認められないなめらかなもので、焼成は普通である。5は小型杯の破片である。復元口径8.4cm、復元底径5.6cm、器高2.4cmで、口高指数は28.5である。底部の形状は平坦であるが、内底面は中程が厚さ1.4cmで最も厚い。底部を柱状に厚く切り残すタイプである。口縁部は内湾し、外面にかなり強いロクロ目を残す。整形に要するロクロ回転数は多い。色調は外面がにぶい黄橙色ないし灰黄色、内面は灰黄色ないし黒褐色を

呈する。胎土はにぶい黄橙色で白色砂粒や黒色砂粒を多量に混入する。焼成は普通だが、やや脆くなっている。底部の摩耗が著しいため切離し技法は不明だが、おそらく回転糸切りであろう。6は小皿の破片である。復元口径7.4cm、復元底径6.4cm、器高1.9cmで、口高指数は25.7である。底部の形状は平坦であるが、内底面は中心付近が1.2cmで最も厚い。底部の摩耗が著しいため切離し技法は不明だが、内底面にはロクロ整形による渦巻き状の隆帯がまわる。口縁部は緩やか内湾するがほとんど垂直に立ちあがる。外面のロクロ目は下部が密で上部が疎である。色調は内面外面共に橙色を呈する。胎土も同色で、黒色砂粒や白色微粒子が若干量混入する。焼成は普通であるが、やや脆くなっている。7は小皿の口縁部破片で、復元口径は9.0cmである。外面には稜とでもいうべき強いロクロ目が残る。底部は完全に欠けているので実際には不明だが、かなり浅い器形になりそうである。整形に要するロクロ回転数は少ない。色調は内面外面共ににぶい黄橙色を呈する。胎土も同色で、灰色微粒子や白色微粒子を中量混入するが、比較的滑らかである。焼成はやや良で、あまり摩耗しておらず、表面も比較的しっかりしている。8は底部の1/4程度を遺存する小皿の破片である。復元口径7.4cm、復元底径5.1cm、器高1.6cmで、口高指数は21.6である。口縁部外面は滑らかに立ち上がり、内面には大きな波状のロクロ目が残る。底部中央付近が最も盛り上がるタイプであろう。外面のロクロ目は下部が密で上部が疎である。色調は内面外面共ににぶい黄橙色を呈する。胎土も同色で、赤色の破碎土器粒や白色微粒子、雲母様微粒子を中量含む。焼成はあまり良くなく、全体的にかなり摩耗している。底部ははっきりしないがおそらく回転糸切無調整であろう。9は底部の1/3程度を遺存する杯の破片である。復元底径5.9cm、底部最大厚0.8cmである。口縁部のほとんどを欠くため形状は不明であるが、おそらく断面逆台形となるタイプであろう。色調は内面がにぶい橙色、外面はにぶい黄橙色を呈する。胎土はにぶい橙色で、白色微粒子や灰色砂粒を微量混入する。焼成は普通だが劣化しており脆くなっている。全体的に摩耗が著しく底部の切離し技法は不明である。10は全体の4割程度を遺存する小皿の破片である。復元口径7.4cm、復元底径4.6cm、器高1.3cmで、口高指数は17.6である。底部中央付近は遺存しないが、おそらく底部外周がもっとも厚いタイプであろう。その場合底部最大厚は0.6cmとなる。整形に要するロクロ回転数は器高の割に多い。色調は内面外面共ににぶい黄橙色を呈する。胎土は褐色で、白色砂粒、灰色微粒子や雲母様微粒子を多量に含む。焼成は良好で、底部は若干摩耗しているが明らかに回転糸切り無調整である。底部外周には粘土カスが付着する。11は杯の破片である。復元底径5.4cm、底部最大厚1.2cm、高台高0.4cmである。底部は平坦で厚く切り残され、体部は如意形に内湾しながら立ち上がる。口縁部を欠くためはっきりしないが、おそらく口縁部が外反するタイプであろう。整形に要するロクロ回転数は多い。色調は内面外面共に黄灰色を呈する。胎土は浅黄色で、白色砂粒、灰色砂粒、雲母様粒子を中量混入する。焼成は悪くないが、やや摩耗が著しい。底部は回転糸切り無調整である。12は小皿の破片である。復元口径9.8cm、復元底径6.8cm、器高1.7cmで、口高指数は17.3である。口唇部外面に1箇所指頭押捺が見られ、その周囲に油脂状の炭化物や煤が付着していることから、灯明具として使用されたものと推察される。外面のロクロ目ははっきりしているが、内面にはロクロ痕跡はほとんど見られない。整形に要するロクロ回転数は多い。色調は内面外面共に浅黄色ないし黄灰色で、二次焼成を受けた部分は橙色、煤付着部は黒褐色を呈する。胎土は黒色ないし浅黄色で、白色砂粒、灰色砂粒を多量に混入し、やや粒の大きなものも含んでいる。底部は回転糸切り無調整で痕跡ははっきり残る。13は小皿の破片である。復元口径7.9cm、復元底径5.7cm、復元内底径5.8cm、器高1.8cm、底部最大厚1.0cmで、口高指数は22.8である。体部が緩やかに外反しつつ立ち上がり、底部中央付近が盛り上がるタイプで、整形に要する



第62図 出土遺物実測図(23) 土師質土器

ロクロ回転数は少ない。色調はにぶい黄橙色を呈する。胎土も同色で、黒色砂粒や白色砂粒、雲母様粒子のほか破碎土器粒を多量に含み、やや粒の大きなものも混入する。焼成は普通だがやや脆くなっている。底部は摩耗しているためはっきりしないが、粘土カスが多量に付着していることからみて、回転糸切り無調整であろう。14は底部の5割程度を遺存する小皿の破片である。復元口径8.2cm、復元底径5.6cm、復元内底径6.0cm、器高1.8cm、底部最大厚は0.9cmで、口高指数は22.0である。形状は断面逆台形となるタイプである。整形に要するロクロ回転数は少ない。色調は内面外面共に橙色を呈する。胎土も同色で比較的緻密、混入物はほとんど認められない。焼成はやや不良で若干脆くなっている。底部は回転糸切りで外周のみ手持ちヘラケズリを施しているが、摩耗しているためはっきりしない。15は杯の口縁部破片である。復元口径は10.6cm、復元最大径は口縁部外周にあって11.0cmである。体部に稜とでもいうべき非常に強いロクロ目がある。ロクロ回転方向は反時計回りである。整形に要するロクロ回転数は多い。色調は浅黄色ないし橙色を呈する。胎土も同色で、黒色砂粒、白色砂粒を多量に含むほか破碎土器粒を少量混入する。焼成は良好で、外面は比較的しっかりしている。16は全体の4割程度を遺存する小皿の破片である。復元口径7.7cm、復元底径5.6cm、器高1.4cmで口高指数は18.2である。口縁の一部には油脂状炭化物が付着し、その周囲に煤が付着、またその付近が二次焼成を受けているなど、この器が灯明具として使用されたことを物語る。整形に要するロクロ回転数は多い。色調は内面外面共に橙色で、煤付着部は暗灰黄色を呈する。胎土は灰色ないし橙色で、灰色微粒子、黒色砂粒を微量混入する。焼成は普通であるが二次焼成を受けているためかなり脆くなっている。底部は回転糸切り無調整であるが、摩耗も著しい。17は杯の破片である。復元底径は5.2cmで、底部中央付近を欠くが、その形状から中央付近が最も薄くなるタイプであると考えられる。その場合底部最大厚は1.2cmとなる。体部外面には強い波状のロクロ目をもち、緩やかに内湾しながら立ち上がる。整形に要するロクロ回転数は非常に多い。口唇部の形状は不明である。色調は内面ににぶい黄橙色、外面は淡黄色を呈する。胎土はにぶい黄橙色で、黒色微粒子、灰色砂粒を少量混入する。焼成は普通だが、かなり脆い。底部は完全に摩耗してしまっており不明である。18は小皿の破片である。復元口径8.4cm、最大径は口唇部下端にあり9.0cm、復元底径4.6cm、器高2.4cm、高台高0.5cmで、口高指数は28.6である。底部を厚く切り残し、中央付近が最も厚くなるタイプであろう。体部には強い波状のロクロ目があるが、整形に要するロクロ回転数は少ない。色は内面が淡黄色ないし橙色で、外面は淡黄色を呈する。胎土は外面と同色で、黒色微粒子を少量含むほか、破碎土器粒を若干量混入する。焼成は普通だがやや脆い。底部は摩耗しており不明であるが、底部外周に粘土カスが付着していることから回転糸切り無調整であろうと考えられる。19は小皿の破片である。復元口径8.2cm、復元最大径は口唇部下端にあり8.6cm、復元底径6.7cm、復元内底径6.4cm、器高1.25cmで、口高指数は15.2である。底部内面に煤が非常に濃く付着している部分があることから、灯明具として使用された可能性がある。外面のロクロ目は薄く、整形に要するロクロ回転数も少ない。形状は断面逆台形となるタイプである。色調は内面外面共に浅黄橙色であるが内面の煤付着部分は黒色を呈する。胎土は黄橙色で、白色微粒子、灰色砂粒を中量混入する。焼成は比較的良好であるが摩耗が著しく、底部切離し技法は不明である。20は杯の破片である。復元口径12.1cm、復元底径4.8cm、器高は4.0cmで、口高指数は33.1である。体部には稜とでもいうべき非常に強いロクロ目があり、緩やかに内湾しながら立ち上がる。整形に要するロクロ回転数は多い。色調は内面外面共に橙色ないしにぶい黄橙色を呈する。胎土も同色で、白色砂粒、灰色微粒子、雲母様微粒子を中量混入する。焼成は良好で、内面外面共にロクロ整形の痕跡が明瞭に残っている。底部は回転糸切り無調整で、



第63図 出土遺物分布図(7) 土師質土器

底部外周には粘土カスが付着する。21は小皿の破片である。復元口径7.6cm、復元底径6.6cm、器高1.4cmで、口高指数は18.4である。体部は内湾も外反もせず立ち上がり、整形に要するロクロ回転数は少ない。断面逆台形となるタイプである。色調は内面はにぶい橙色、外面は橙色ないしにぶい赤褐色を呈する。胎土は内面と同色で、白色砂粒、灰色微粒子、雲母様微粒子を多量に含む。焼成は普通だが、やや脆くなっており、底部は摩耗が著しく切離し技法は不明である。22は小皿の底部破片である。復元底径は6.0cmで、若干上げ底になるタイプである。色調は内面外面共に灰白色を呈する。胎土も同色で、白色砂粒や灰色砂粒を多量に混入する。焼成はやや不良で、かなり脆い。底部は摩耗しているため不明だが、外周に粘土カスが若干付着していることから回転糸切り無調整であると考えられる。23は小皿の破片である。復元口径7.4cm、復元底径4.8cm、器高は1.8cmで、口高指数は24.3である。口縁部は非常に肉厚で、外面には強いロクロ目が残る。整形に要するロクロ回転数は少ない。色調は内面外面共に淡黄色ないし橙色を呈する。胎土は橙色で、白色微粒子や黒色砂粒、灰色砂粒のほか雲母様微粒子を多量に混入する。焼成は普通であるが、やや脆い。底部は静止糸切り無調整で、若干の粘土カスが外周に付着する。24は底部の8割を遺存する小皿破片である。復元底径4.0cm、底部最大厚は中央付近にあり0.9cmである。底部外面は平坦だが、内面は凸レンズ状に盛り上がる。色調は内面外面共に浅黄色を呈する。胎土も同色で、灰色微粒子や雲母様微粒子のほか破碎土器粒を中量混入する。焼成は普通だがやや脆くなっている。底部は回転糸切り無調整で多量の粘土カスが外周に付着するが、摩耗が著しい。25は小皿の破片である。復元口径7.0cm、復元底径4.5cm、器高1.4cm、底部最大厚は外周にあり0.7cmで、口高指数は20.0である。口唇の一部に油脂状炭化物が、その周囲には煤が付着しており、灯明具として使用されたものと考えられる。底部は上底状に隆起するタイプであり、整形に要するロクロ回転数は少ない。色調は内面外面共に暗灰黄色を呈する。胎土も同色で、黒色砂粒や灰色砂粒、雲母様微粒子を多量に混入する。焼成はやや不良で、二次焼成を受けているため脆い。全体的に摩耗しているため底部切離し技法は判然としない。26は小皿の破片である。復元口径7.6cm、復元底径4.0cm、器高は1.4cmで、口高指数は18.4である。肉厚の割に非常に浅い器で、整形に要するロクロ回転数は少ない。色調は内面外面共に橙色を呈する。胎土も同色で、白色砂粒や黒色砂粒、灰色砂粒を多量に混入する。焼成は普通であるが、やや脆くなっている。全体的に摩耗が著しく、底部切離し技法は判然としない。27は小皿の破片である。復元口径8.9cm、復元底径5.8cm、器高2.5cm、高台高0.5cmで、口高指数は28.1である。底部を厚く切り残し、体部外面に強いロクロ目を残すタイプであるが、整形に要するロクロ回転数は少ない。色調は内面外面共に淡黄色を呈する。胎土も同色で、黒色砂粒や灰色砂粒、雲母様微粒子を多量に含むほか、やや大きめな破碎土器粒を中量混入する。焼成は普通であるが、若干脆くなっている。底部は摩耗が著しく判然としないが、外周に粘土カスが多量に付着していることから、回転糸切り無調整であろうと考えられる。28は小皿の破片である。復元口径7.0cm、復元底径5.6cm、器高1.3cmで、口高指数は18.6である。器高の割に整形に要するロクロ回転数は多く、体部は内湾も外反もせず立ち上がる断面逆台形となるタイプである。色調は内面外面共に灰黄色を呈する。胎土も同色で、黒色砂粒や白色砂粒、灰色砂粒を多量に含むほか、破碎土器粒を中量混入する。焼成は普通であるが若干脆くなっている。全体的に摩耗が著しく底部切離し技法は判然としない。29は口縁部の4割程度を遺存する小皿破片である。復元口径6.8cm、復元底径4.6cm、器高1.7cmで、口高指数は25.0である。口唇部に油脂状炭化物や煤が多く付着しており、灯明皿として使用されたことは間違いないだろう。底部は上げ底状に隆起し、整形に要するロクロ回転数は少ない。色調は内面外面共に明赤褐色を呈する。胎土も同色で、白

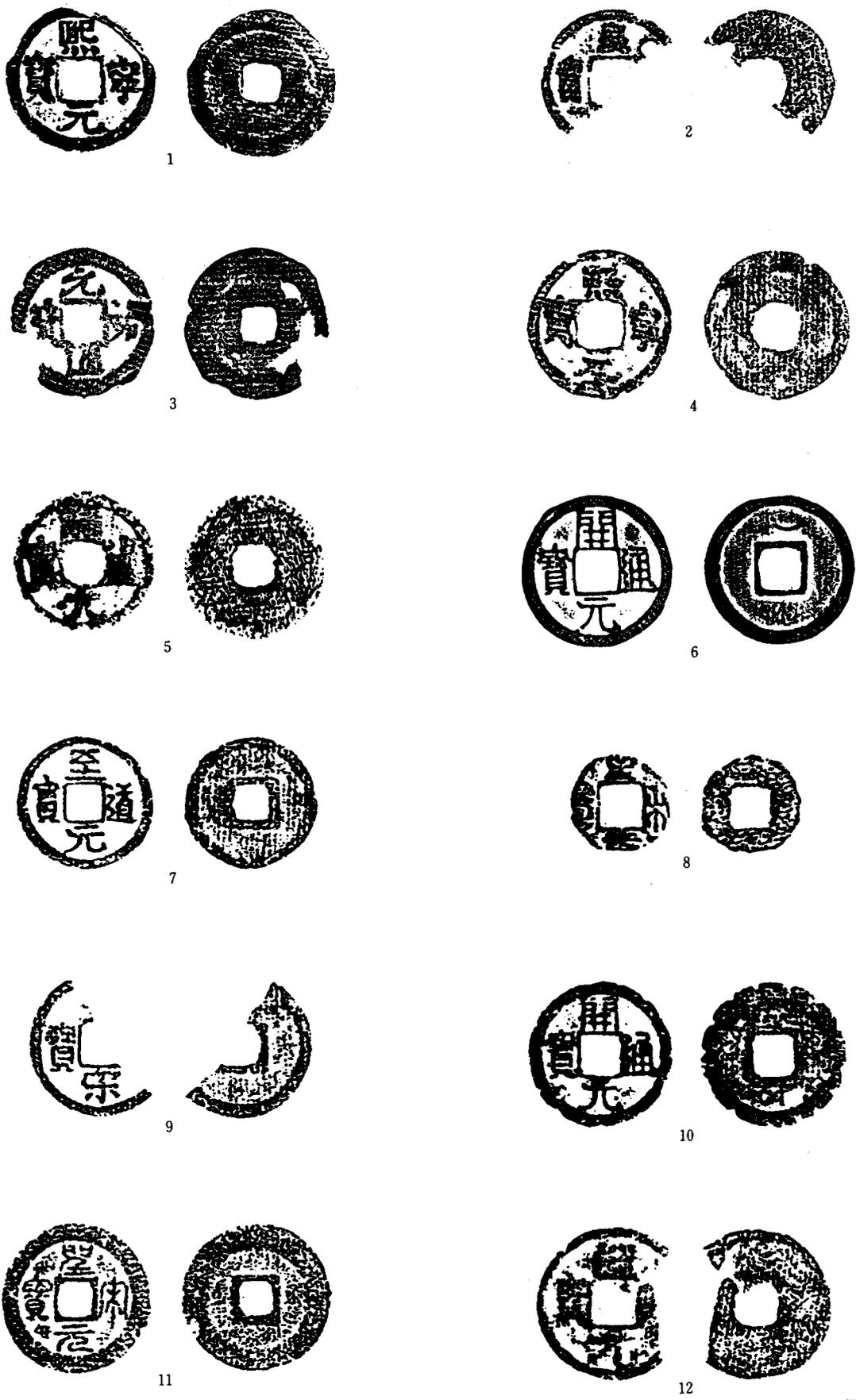
色砂粒や灰色微粒子を中量含むほか、雲母様微粒子を多量に混入する。焼成は普通だが全体的に二次焼成を受けており、かなり脆くなっている。全体的に摩耗が著しく底部切離し技法ははっきりしないが、外周に多量の粘土カスが付着していることから、回転糸切り無調整であると推察される。30は底部の4割程度を遺存する小皿破片である。復元口径7.6cm、復元底径5.0cm、器高2.2cm、底部最大厚0.9cmで、口高指数は28.9である。体部には稜とでもいうべき強いロクロ目を持ち、底部を厚く切り残すタイプで、底部外面は平坦であるが最大厚は中央付近にある。色調は内面外面共ににぶい黄橙色を呈する。胎土も同色で、白色砂粒や灰色微粒子を中量含むほか、雲母様粒子を多量に混入する。焼成は普通だがやや脆くなっており、底部には回転糸切りの痕跡がわずかに残る。

④ 銭貨（第64図～第67図、第22表、図版30）

本遺跡では、32枚の銭貨が出土している。比較的状态の良いものがある反面、かなり劣化したものや破損しているものが混在していた。劣化したものについては銭文のはっきりしないものもあったが、書体や銭容などから一応すべて判読することができた。その内訳を記すと、開元通寶(4)、熙寧元寶(3)、皇宋通寶(3)、聖宋元寶(3)、元祐通寶(2)、至道元寶(2)、紹聖元寶(2)、天禧通寶(2)、天聖元寶(2)、嘉祐通寶(2)、至和通寶(1)、太平通寶(1)、祥符通寶(1)、宣和通寶(1)、永樂通寶(1)、元豐通寶(1)、政和通寶(1)の17銭種となる。すべて銅銭である。最古銭は唐銭（621年初鑄）の開元通寶、最新銭は明銭（1408年初鑄）の永樂通寶である。ほとんどは北宋銭で、開元通寶と永樂通寶を除く15銭種27枚を占める。これは中世の遺跡で出土する銭貨の一般的な様相を示しているが、磨輪銭、打平め、文字が薄かったり内郭がずれているなど、民間鑄造銭の可能性のあるものの割合が高い。また明らかな正規銭であっても、著しく摩耗して非常に薄くなってしまっているものも多い。なお寛永通寶や文久永寶などの近世銭は出土していない。

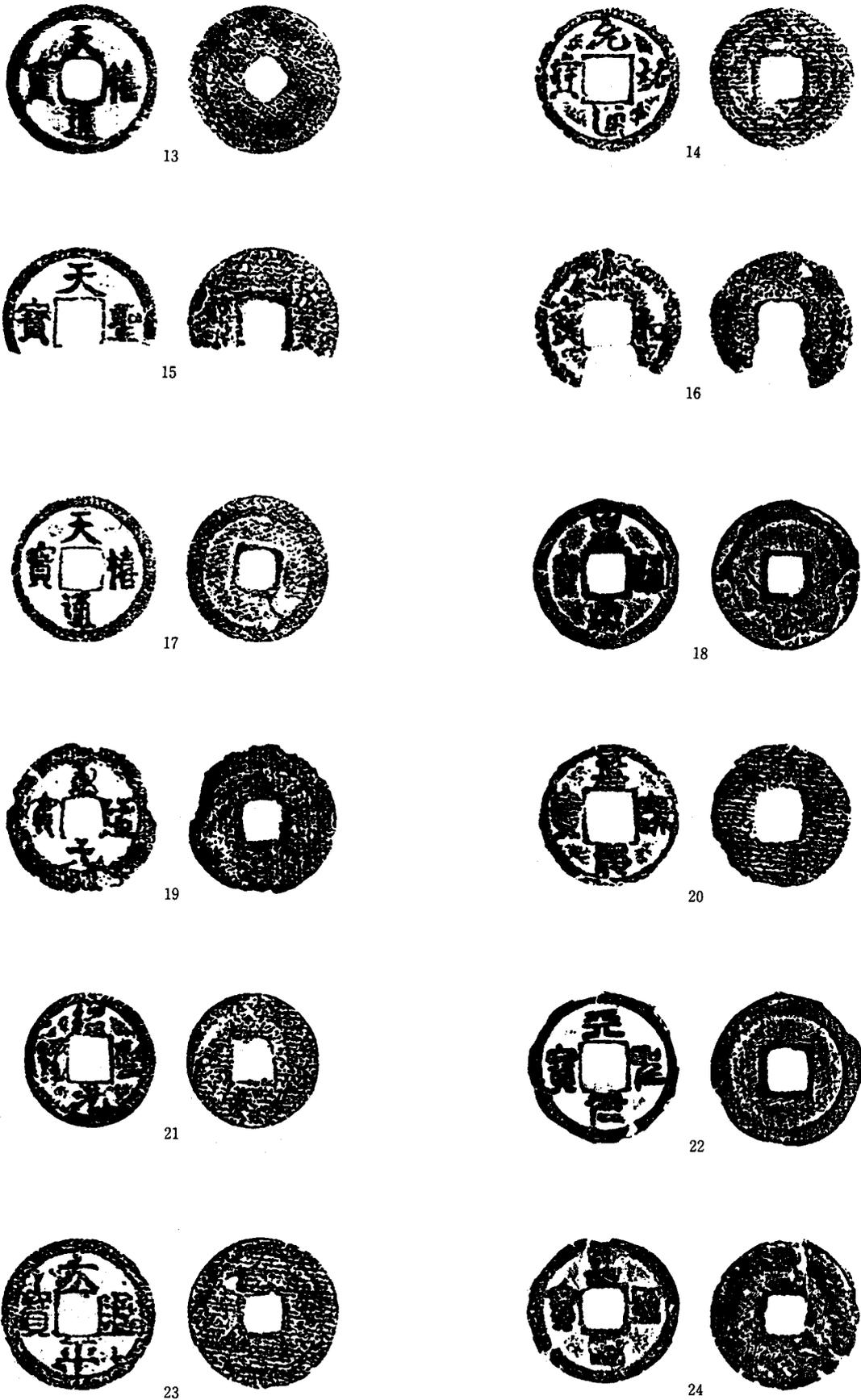
1は真書体の熙寧元寶である。腐食が進行しており、遺存状態はあまりよくない。外帯の一部を腐食により欠いている。表裏のずれもほとんどなく比較的整った銭形であり、銭文および背面の摩耗度の割に厚みがあることから正規銭としてよいだろう。2は右下半分を欠失するためはっきりしないが遺存部分の文字の書体から真書体の皇宋通寶と考えられる。非常に腐食が進んでおり、遺存状態は非常に悪い。表裏共にそれほど摩耗していないが、非常に肉薄で銭文が不明瞭であることから私鑄銭の可能性を考慮しておくべきである。3は行書体の元祐通寶である。腐食が著しく所々に穿孔が見られる。非常に肉薄であるが、銭文はきわめて明瞭であることから正規銭としてよいだろう。4は真書体の熙寧元寶である。腐食が著しく非常に脆い。かなり肉薄になっているが銭文は明瞭であることから正規銭と考えてよいだろう。政和通寶(32)と付着して出土した。5は真書体の開元通寶である。腐食によって外帯はほとんど剥落してしまっている。表裏共に摩耗が著しく銭文もなかば潰れてしまっているが、比較的肉厚であることから銭写による私鑄銭の可能性はある。6はいわゆる連点通背上月と呼ばれる真書体の開元通寶である。遺存状態は良好で肉厚、ほとんど摩耗しておらず、銭文も非常にはっきりしている。明らかな正規銭である。7は真書体の至道元寶である。外帯部分は若干腐食しているが、内部にはメタル部が遺存しており、遺存状態は良好である。銭文は非常に明瞭だが背面はやや摩耗している。正規銭であろう。8は篆書体の聖宋元寶である。外帯部分をすべて欠失するが、遺存状態は比較的良好で腐食もほとんど進んでいないことから、故意に外帯部分を削り取ったいわゆる「磨輪銭」と考えてよいだろう。9は右上半部分を欠失するが、下字が「宋」になるものは皇宋通寶のみであるため、同定し得た。表裏共に若干摩耗しているが比較的銭形が整っており、銭文も明瞭であることから正規銭と考えてよいだろう。10は真書体の開元通寶である。腐食が進んで

おり外帯外周が所々剥落している。表裏共摩耗が著しく非常に肉薄になっているが銭文は非常に明瞭である。正規銭であろう。11は篆書体の聖宋元寶である。整った銭形であるが、気泡を多く含むやや粗雑な作りで、肉厚の割に文字の浮き出しは弱い。ただし銭文は明瞭である。若干摩耗しているが流通によるものと考えられる。正規銭であろう。12は内郭より右側を欠失し、摩耗が著しいためはっきりしないが、銭文の輪郭からみて真書体の紹聖元寶であると考えられる。腐食が非常に進んでおり遺存状態は悪いが、それほど肉薄でもない。正規銭と考えてよいだろう。13は真書体の天禧通寶である。腐食により外帯外周部が脆くなっているが剥落等は認められない。著しく銭文もほとんど潰れかかっているが、文字面はそれほど肉薄でもないが、内郭が表裏で45°程度ずれていることから新規母銭による私鑄銭の可能性はある。14は行書体の元祐通寶である。外帯外周および文字面に若干の腐食穿孔箇所があるものの、遺存状態は比較的良好である。曲銭であるが埋没前か埋没後かは不明である。全体的にやや粗雑な作りで鑄ムラによる気泡が多く見られる。銭文は明瞭、比較的肉厚であり、正規銭と考えてよかろう。15は内郭より下を欠く真書体の天聖元寶である。腐食が進んでおり遺存状態は悪い。銭文は非常に明瞭だが背面は摩耗が著しく、外帯が失われている。銭形そのものは整っており、書体もしっかりしていることから正規銭と考えてよいだろう。16は真書体の至和通寶である。下字付近を欠き、腐食と摩耗が非常に進んでいるため銭文は潰れかかっている。特に背面は摩耗が著しく外帯、内郭共にほとんど判別できない。17は真書体の天禧通寶である。銭文は非常に明瞭で、背面の外帯、内郭もはっきりしている。表裏共にあまり摩耗していない割に肉薄で、表裏の内郭が30°程ずれていることから新規母銭による私鑄銭の可能性はある。18は篆書体の皇宋通寶である。背面の外帯部が腐食により剥落しているほかはほとんど腐食しておらず、遺存状態は比較的良好。銭文は摩耗しており潰れかかっている割に肉厚である。正規銭であろう。19は行書体の至道元寶である。腐食が進んでおり外帯外周が所々剥落している。摩耗も著しく銭文は潰れ気味であるが、それほど肉薄でもない。正規銭であろう。20は篆書体の嘉祐通寶である。銭文は腐食が進んでいるためかなり不明瞭になっている。表面はさほどでもないが、背面の摩耗が著しく外帯部は失われているが、比較的肉厚である。正規銭であろう。21は行書体の紹聖元寶である。ほとんど腐食しておらず、遺存状態は非常に良好である。銭文はかなり摩耗しているが判読は可能である。背面には金槌のような工具でたたいた跡が残る、いわゆる「打平め」であろう。鑄込みが悪く、方孔の形がいびつであることから銭写しによる私鑄銭と考えてよいだろう。22は篆書体の天聖元寶である。外帯外周が一部腐食により剥落している。銭文は明瞭で、背面の外帯、内郭も比較的良好はっきりしており、比較的肉厚である。正規銭であろう。23は真書体の太平通寶である。背面の外帯部が若干腐食により剥落している。表裏共に摩耗しているが、銭文、外帯、内郭は十分判別できる。文字面はやや薄くなっているが、外帯は肉厚である。正規銭であろう。24は篆書体の嘉祐通寶である。腐食が進んでいるため所々に亀裂入っており、非常に脆くなっている。また腐食のため銭文が若干不明瞭になっているが、判読は可能である。背面は若干摩耗している。25は真書体の祥符通寶で二つに割れている。腐食が進んでおり外帯の一部が剥落している。比較的整った銭形であるが、背面の外帯と内郭がずれており、内郭が重複していることから銭写しによる私鑄銭と考えてよいだろう。26は篆書体の聖宋元寶である。外帯が所々腐食により剥落している。銭文は明瞭である。正規銭と考えてよいだろう。27は篆書体の宣和通寶である。遺存状態は極めて良好で、欠損箇所や腐食箇所は皆無である。ただし若干摩耗しているため銭文は不明瞭になっている。外帯はさほどでもないが内区は比較的肉厚であることから正規銭と考えてよいだろう。28は篆書体の熙寧元寶である。腐食がかなり進んでおり外帯外周部が



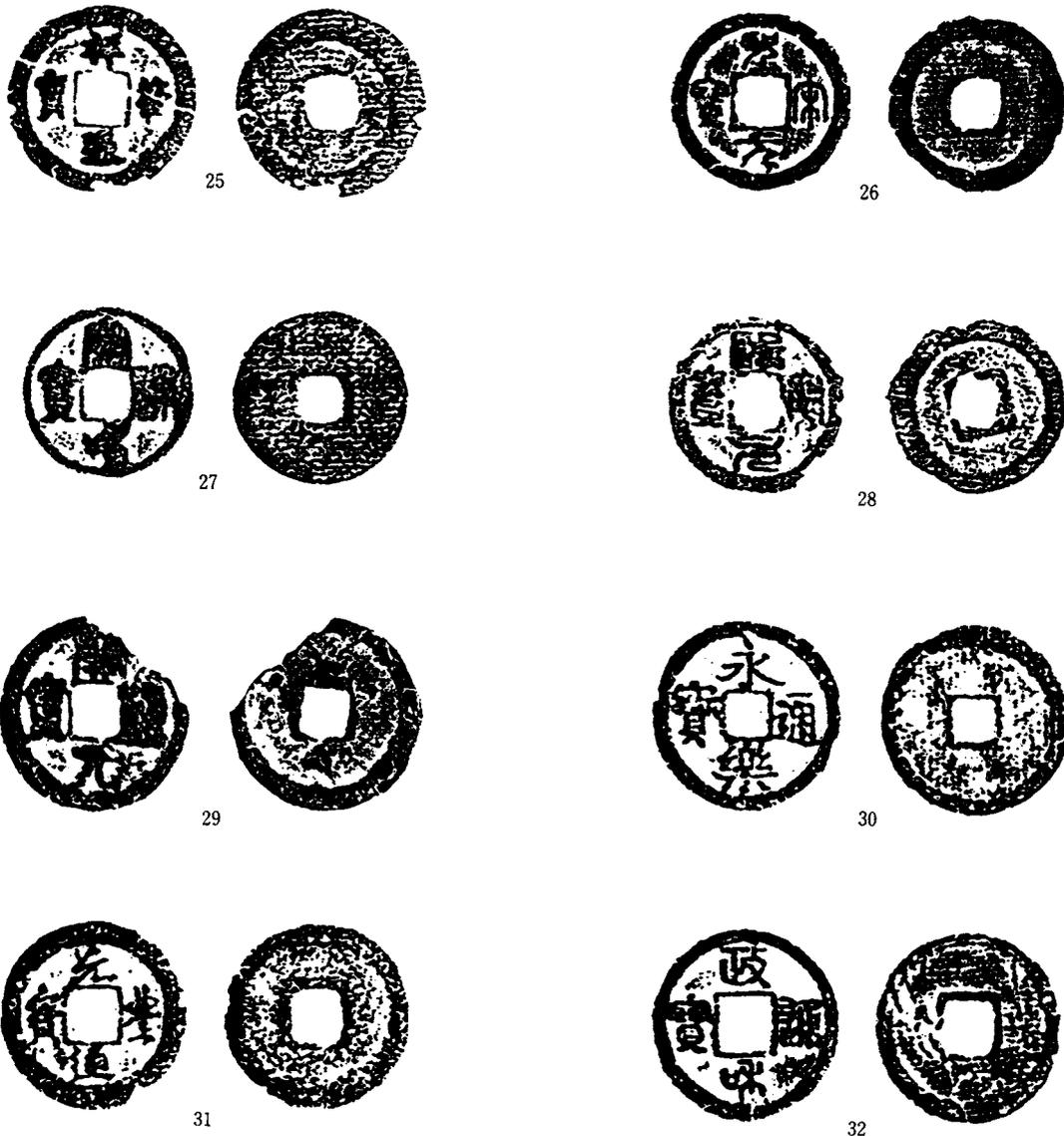
第64圖 出土遺物拓影(1) 錢貨①

<原寸>



<原寸>

第65図 出土遺物拓影(2) 銭貨②

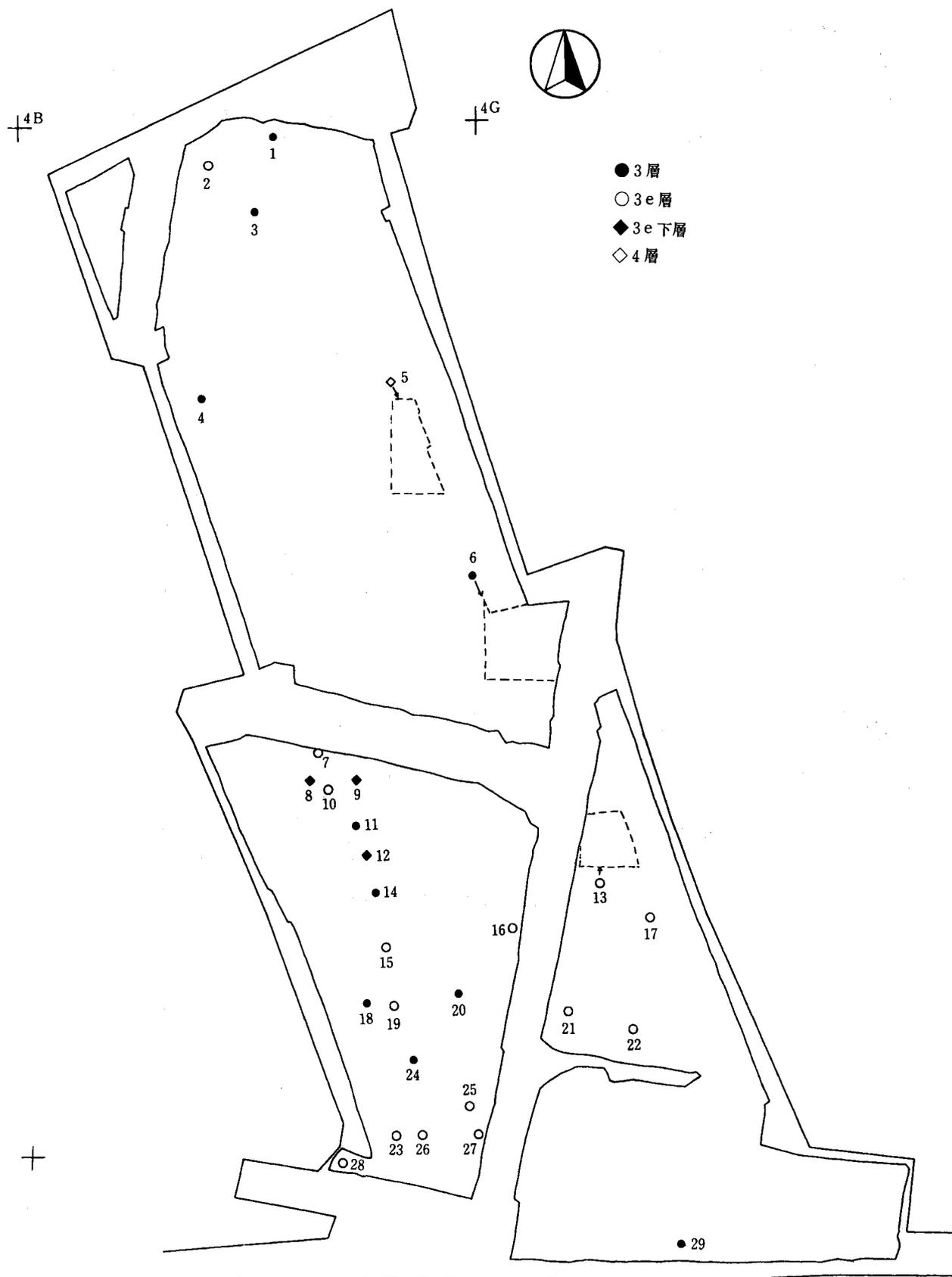


第66図 出土遺物拓影(3) 銭貨③

<原寸>

剥落している部分がある。かなりの肉厚の割に銭文が潰れ気味で、背面の方孔が30°程ずれており鑄込みもあまりよくないため、新規母銭による私鑄銭の可能性はある。29は真書体の開元通寶である。外帯の右上部を欠く。腐食が著しく銭文は潰れかかっているが判読は可能である。非常に肉厚ではあるが内郭が表裏で20°程ずれていることから、正規銭と考えるに躊躇する。

30は真書体の永樂通寶である。遺存状態は極めて良好である。外帯外周が若干摩耗しているが流通によるものと考えてよいだろう。銭文は極めて明瞭で肉厚な正規銭である。31は行書体の元豊通寶である。外帯が若干腐食しており所々剥落しているが、概して遺存状態は良好である。銭文は非常に明瞭であるが摩耗が著しく、かなり肉薄になっている。正規銭と考えるよいだろう。32は篆書体の政和通寶である。熙寧元寶(4)と付着して出土した。方孔から外帯下部にかけて亀裂が走るが、遺存状態は比較的良好である。銭文は明瞭で肉厚、背面の造作もはっきりしているが、背面が全体的に上にずれていることから新規母銭による私鑄銭と考えたほうがよいだろう。

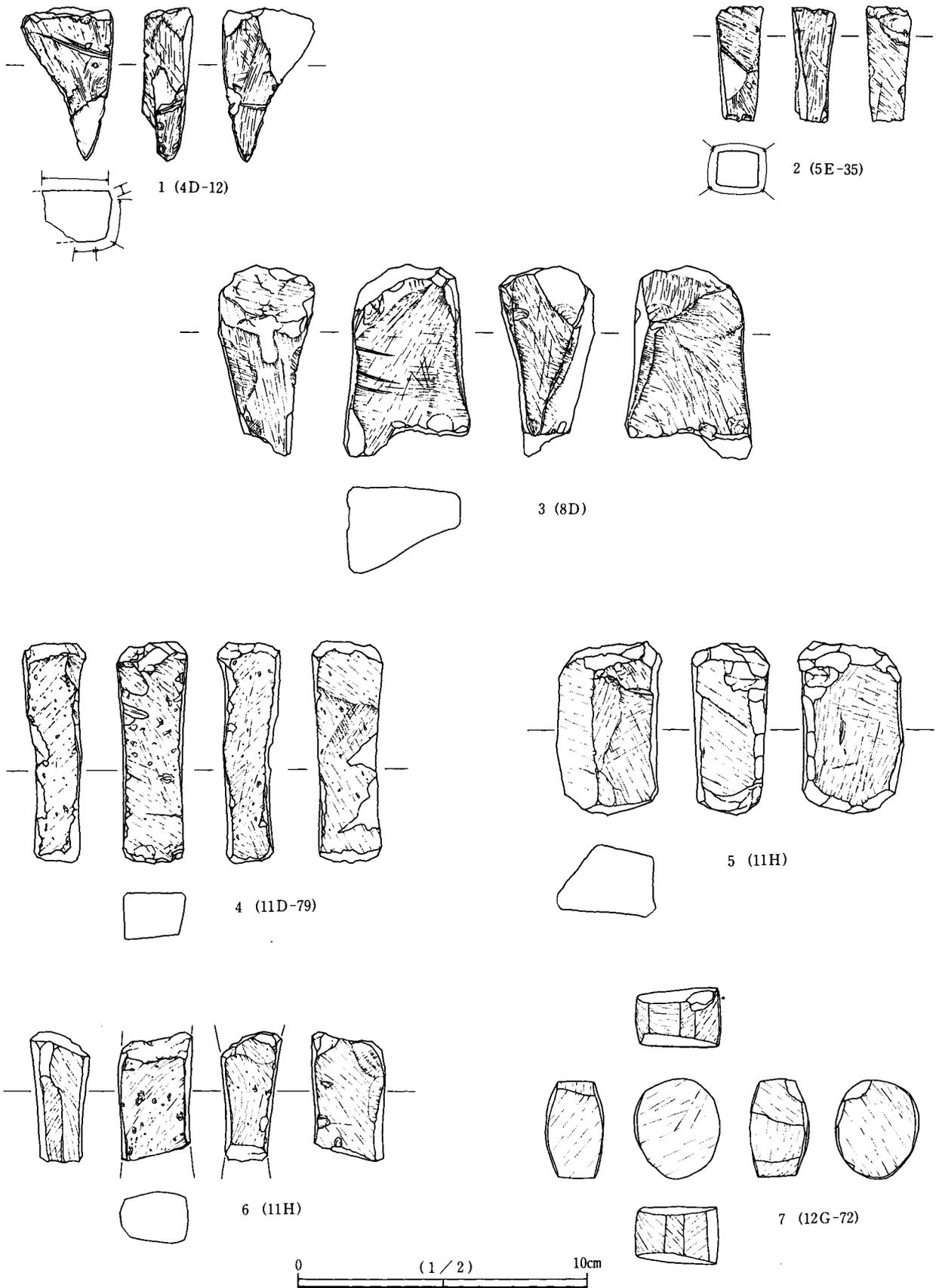


第66図 出土遺物分布図(8) 銭貨

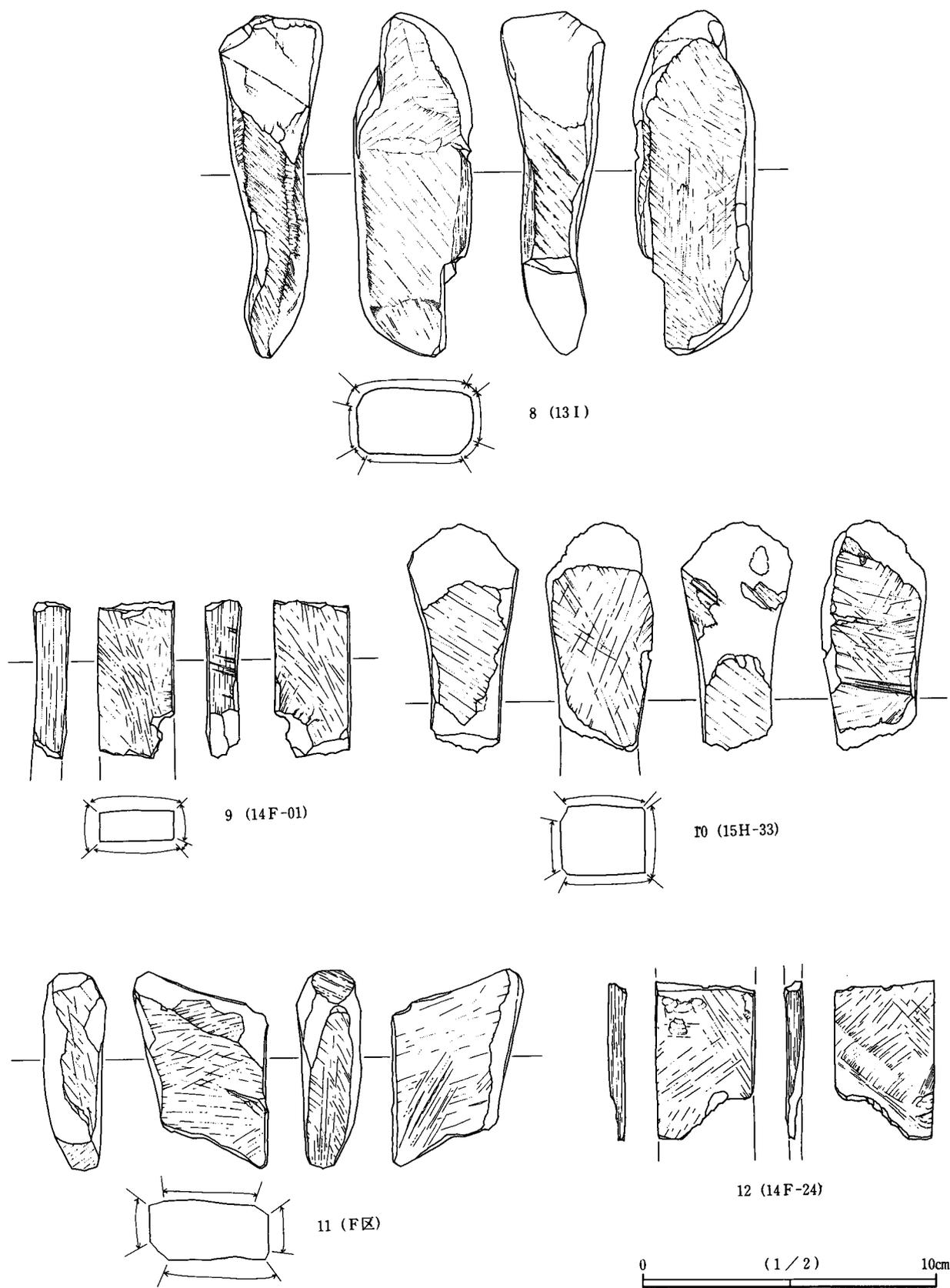
⑤ 砥石 (第68図・第69図、図版18)

1は凝灰岩製で、明緑灰色を呈する。遺存長5.4cm、遺存幅3.2cm、厚さ1.7cmで、重量は25.9g、比較的小型の砥石である。表面には斜方向と渦状、背面は単一の斜方向、側面は長軸方向と斜方向の擦痕が混在する。本来は断面長方形であったものと考えられるが、割れてしまっているため全体の形状は不明である。石質はやや硬く緻密で、粒子が細かいことから仕上げ用の手持ち砥石であろう。2は凝灰岩製で、全体的に明オリーブ灰色を呈する。遺存長4.1cm、幅1.1cm~1.6cm、厚さ1.1cm~1.5cm、重量は11.3g、比較的小型の砥石である。表面は横方向と斜方向と縦方向、裏面はほぼ単一の斜方向、側面には単一の縦方向擦痕が明瞭に残る。断面長方形の形の整ったものであるが、両端が折れてしまっているため、本来の長さ是不明である。石質は軟らかいが緻密で、粒子が比較的細かいことから仕上げ用の手持ち砥石であろうと考えられる。3は凝灰質砂岩製で、灰色ないし灰白色を呈する。長さ6.7cm、幅4.3cm、厚さ3.3cm、重量は79.8gである。断面形も平面形も整っておらず、自然礫をそのまま利用したのと考えられる。すべての面を使用しており、それぞれ縦方向、横方向、斜方向の擦痕が混在する。痕跡は細かいが比較的明瞭である。石質は硬く緻密で、粒子はやや粗い。4は凝灰岩製で、やや緑がかかった灰白色を呈する。長さ7.6cm、幅2.0cm~2.5cm、厚さ1.5cm~2.2cm、重量51.1gである。断面略長方形の形の整った比較的小型の砥石である。使用面は4面で、表面は横方向ないし複数の斜方向、背面は複数の斜方向、左側面は単一の斜方向、右側面は縦方向および複数の斜め方向の擦痕が明瞭に残る。石質がかなり軟質であるため脆くなっている。上下両端を欠くが、擦痕の状態からみて本来の長さあまり変わらないものと考えられる。石質はかなり軟らかく粗いが、粒子は細かい。仕上げ用の手持ち砥石であろう。5は凝灰質砂岩製で、灰白色を呈する。長さ5.9cm、幅3.5cm、厚さ2.2cm、重量は74.0gである。断面は楕形で、比較的形は整っているが、自然礫をそのままあるいは若干調整して使用したのでであろう。使用面は4面で、表面は横方向擦を有する面と、複数の斜方向擦痕を有する面があり、背面は縦方向と横方向、側面はほぼ単一の斜方向擦痕を明瞭に残す。両端は欠けているが、擦痕の状態から見て本来の長さほとんど変わらないものと考えられる。石質はやや硬く緻密であるが、粒子はやや粗い。6は凝灰岩製で、やや緑がかかった灰白色を呈する。遺存長4.0cm、幅2.5cm、厚さ2.8cm、重量28.8gである。断面は略長六角形で比較的整っている。使用面は4面で、表面は複数斜方向、背面は縁辺部が単一横方向、中心部が単一斜方向、右側面は複数斜方向擦痕、左側面には単一斜方向擦痕をもつ面が2面あり、それぞれ比較的明瞭に残る。両端が折れてしまっているため本来の長さは不明である。石質はやや軟らかいが緻密で、粒子は細かい。仕上げ用の手持ち砥石であろう。7は凝灰質頁岩製で、やや赤みがかかった灰白色を呈する。長径3.4cm、短径2.9cm、最大厚2.0cm、重量は30.3gである。断面は略長方形、平面は楕円形で比較的整っている。表面、背面、側面のすべてを使用しており、表面が複数斜方向、背面は単一斜方向、側面には単一斜方向、単一縦方向の擦痕を有する面がいくつか存在する。石質は比較的柔らかいがきわめて緻密で、粒子も細かいことから、仕上げ用の手持ち砥石であると考えられる。8は砂岩製で、灰白色を呈する。最大長11.2cm、最大幅4.1cm、厚さは1.5cm~3.5cm、重量は166.6gである。断面隅丸長方形、平面長紡錘形の比較的整ったものであるが、湾曲していることから自然礫をそのまま使用しているのだろう。使用面は4面で、表面は横方向、複数の斜方向、縦方向が、背面は複数の斜方向がそれぞれ場所によって使い分けられており、側面は単一斜方向の擦痕が明瞭に残る。石質はやや固めだが比較的粗く粒子がやや大きいことから、粗砥であろうと考えられる。9は凝灰岩製で、鉄分が付着しているため灰黄色を呈する。遺存長5.3cm、幅2.6cm、厚さ1.3cm、重量は27.4gである。断面長方形、

平面長方形の整った板状砥石だが、両端が折れてしまっているため、実際の長さは不明である。使用面は4面で、表面と背面は複数斜方向、両側面は縦方向の擦痕が明瞭に残るが、右側面のみ横方向のやや深い擦痕が残る。石質は比較的柔らかいが緻密で、粒子も細かいことから、仕上げ用の手持ち砥石であろう。ススが付着する部分や亀裂が所々に入っていることから全体的に被熱しているようである。10は凝灰岩製で、暗灰色を呈する。遺存長7.6cm、幅2.5cm～3.5cm、厚さ1.2cm～3.8cm、重量は117.2gである。断面は長方形で整っているが、両端を欠いているため平面形ははっきりしない。使用面は4面で、表面は複数斜方向、背面は複数斜方向と横方向、両側面は単一斜方向の擦痕が明瞭に残る。石質はやや固めで緻密、粒子も非常に細かく、表面と背面が長期の使用によるものか抉れていることから仕上げ用の置き砥石であろうと考えられる。11は凝灰岩製で、灰白色を呈する。長さ5.0cm、幅4.3cm、厚さ2.0cm、重量は68.6gである。断面は隅を落とした長方形で、平面は平行四辺形である。使用面は6面で、表面、背面は横方向と斜方向が混在、両側面は縦方向と斜め方向が混在、両端面は単一横方向の擦痕が比較的明瞭に残る。石質はやや柔らかいが緻密で、粒子が細かいことから仕上げ用の手持ち砥石であろうと考えられる。



第68图 出土遺物実測図(24) 砥石①



第69图 出土遺物実測図(25) 砥石②

第3章 祝崎古墳群

第1節 調査の方法

調査区は国土地理院国家座標を基準として20×20mの方眼の大区画を東西3区画、南北4区画設定し、西から東に向かって1、2、北から南にむかってA、B、Cとしそれぞれの区画を1A、2Bのように呼称した。さらに大グリッド内を2m方眼の小区画に分割し、西から東へ00区、01区・・・09区、北から南へ00区、10区、・・・90区とした。したがって、各々の小グリッドは、1A-00、2B-50、3C-55などと呼称した。はじめの2桁が大区画を、後の2桁で小区画を表し、調査区内での位置を表せるようにした。遺物の取上げについては、遺構に伴って出土したものは遺構内の通し番号で、その他については各遺構ごとに十字に設定したベルトを境にした4区画それぞれ一括して、遺構外から出土した遺物は2m×2mの小グリッドごとに取上げ、出土位置がわかるようにした。その後、各遺構ごとに土層観察のため十字ベルトを残して表土層を除去していった。また、周溝の有無や、古墳、塚の削りだし部分を確認するためベルト脇にサブトレンチを設定し、土層観察を行いながら掘り下げた。古墳、塚の周囲の埋土を除去し、築かれた当時の形状を確認した後再度、各遺構の地形測量図、土層断面図の作成を行い、近接写真撮影、ラジコンヘリによる空中からの写真撮影も行った。次に、古墳、塚の埋葬施設および下層の遺構を検出するため、盛土を築造時の整地した地表面（旧表土）まで慎重に掘り下げてゆくと、古墳の墳丘下から弥生時代の竪穴住居跡を1基検出し、これについても調査を実施した。

第2節 調査の成果

1. 調査成果の概要（第70図）

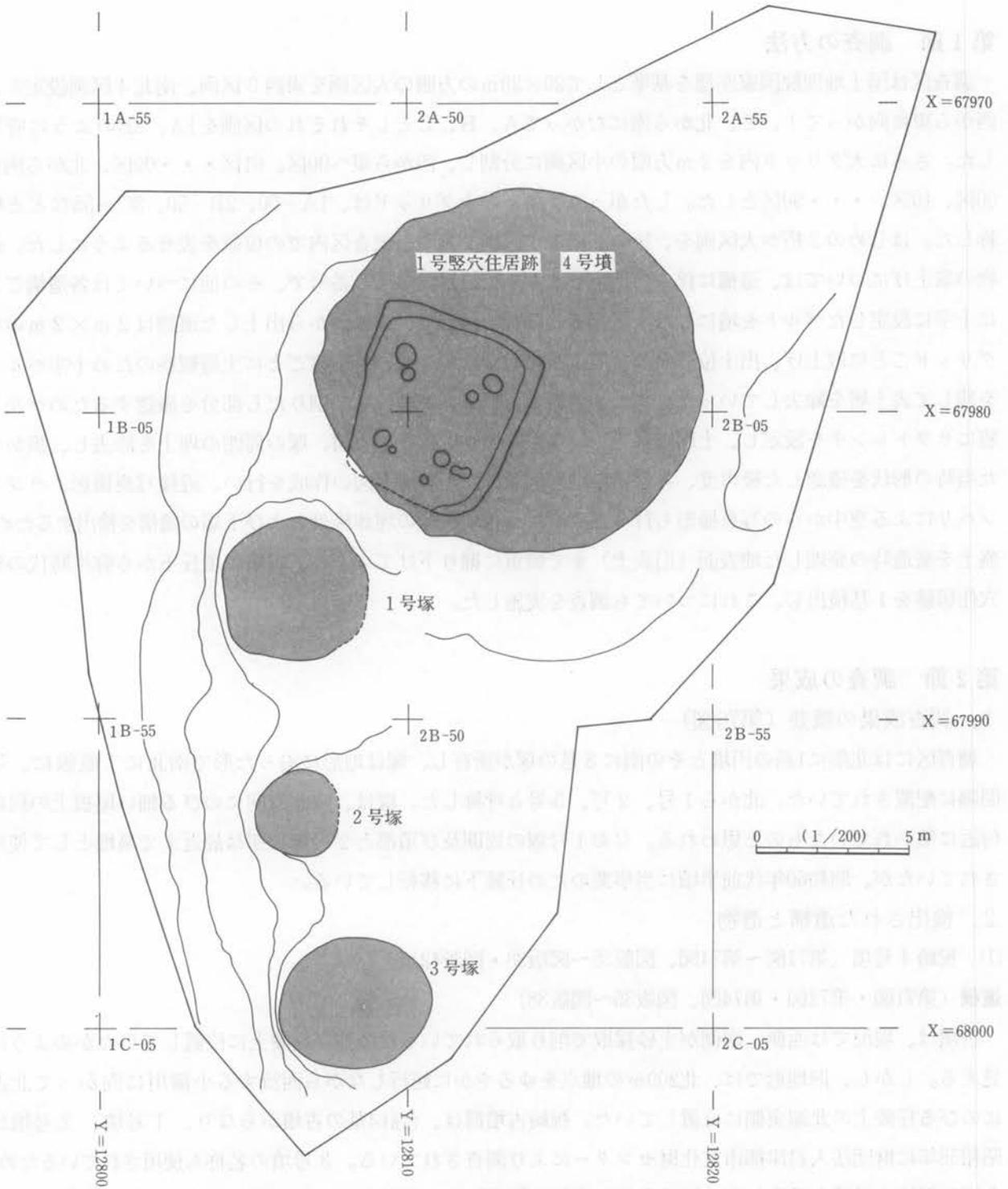
調査区には北部に1基の円墳とその南に3基の塚が所在し、塚は地形に沿った形で南北に1直線に、等間隔に配置されていた。北から1号、2号、3号と呼称した。塚は、南北方向にのびる細い尾根上の肩部付近に築かれていたものと思われる。なお1号塚の周囲及び頂部と2号塚頂部は最近まで墓地として使用されていたが、昭和60年代前半頃に当事業のため丘陵下に移転している。

2. 検出された遺構と遺物

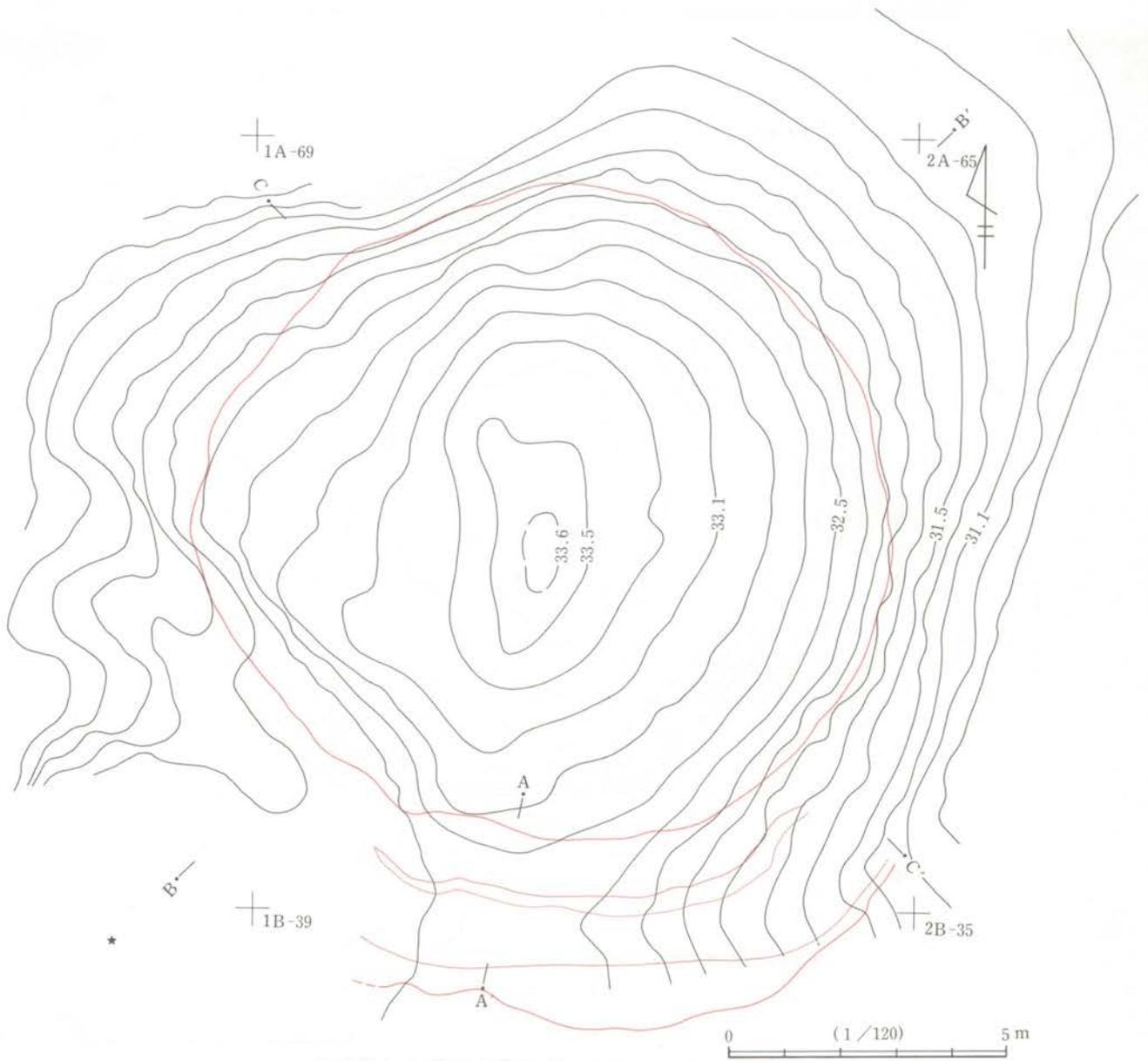
(1) 祝崎4号墳（第71図～第74図、図版35～図版38・図版42）

遺構（第71図・第72図・第74図、図版35～図版38）

古墳は、現況では西側、南側が土砂採取で削り取られているため独立丘陵上に位置していたかのように見える。しかし、旧地形では、北200mの地点をゆるやかに蛇行しながら西流する小櫃川に向かって北西にのびる丘陵上の北端東側に位置していた。祝崎古墳群は、合計4基の古墳からなり、1号墳、2号墳は昭和58年に財団法人君津都市文化財センターにより調査されている。3号墳の名称も使用されているため、今回は祝崎4号墳と呼称した。墳丘東側と南側は塚周辺にあった墓地への参道になっていたようである。墳丘外径は12.5m×12mで、ほぼ正円形で、墳頂部の標高は33.3mである。表土は10cm～15cmほどの厚さで墳丘全体で検出された。盛土は中央部分で厚さ約0.6m程度と薄く、2層に分層され、上層は黄白色泥岩粒や微粒を含む明褐色土、下層は黄褐色土であった。周溝は南側のみに認められ、長さ約9mに及ぶ。周溝の上端幅は2.8m～3.4mであり、確認面からの深さは約0.9mである。底面は平坦であるが、南部に深さ約15cm程の段差が見られる。



第70図 祝崎古墳群遺構配置図



第71図 祝崎4号墳墳丘測量図（調査前）

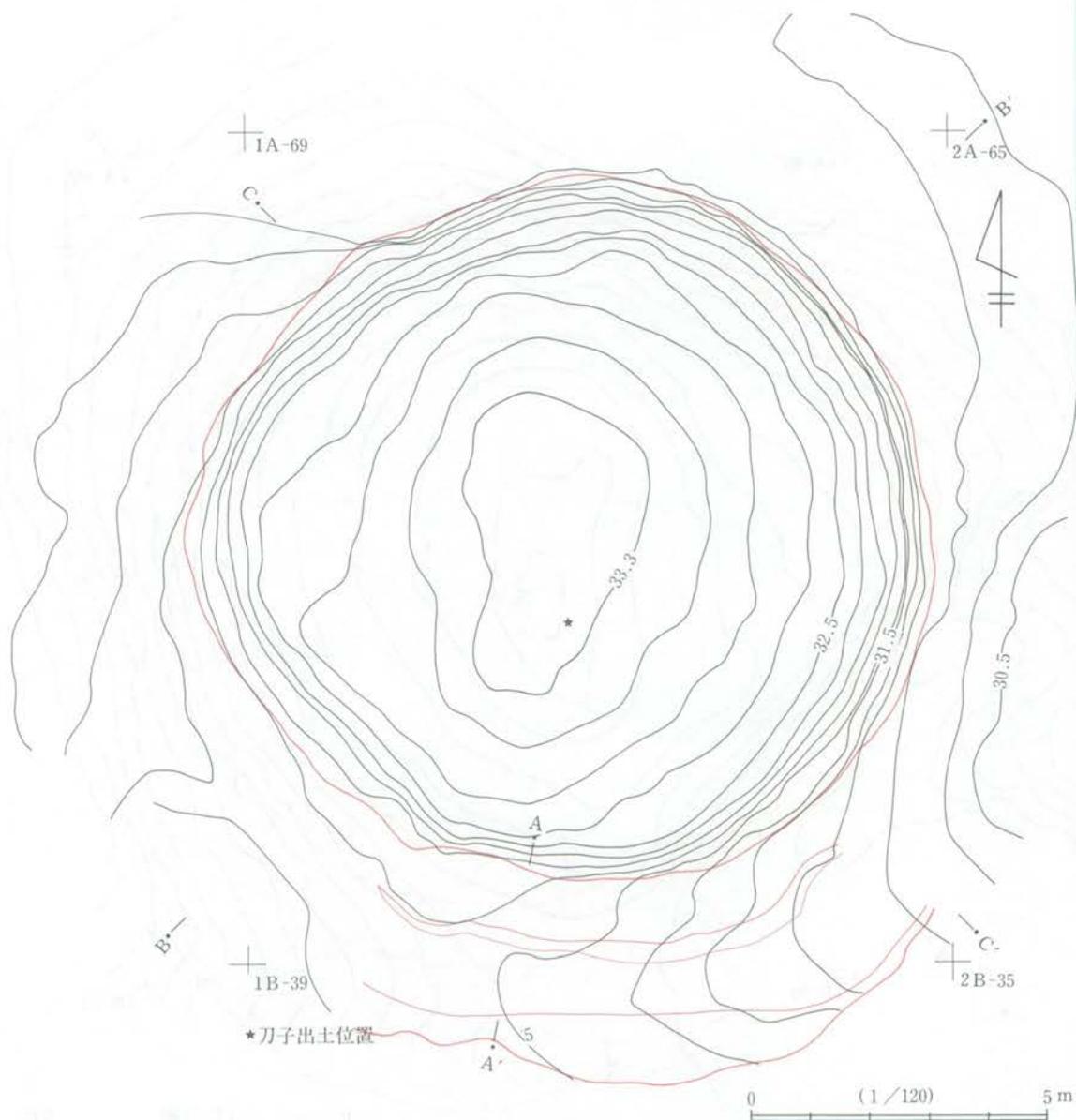
遺物（第73図、図版42）

出土遺物は少なく、土器の多くは旧表土下に検出された弥生時代の竪穴住居跡に伴うものであり、それが古墳築造時に墳丘内に混入したと思われる。

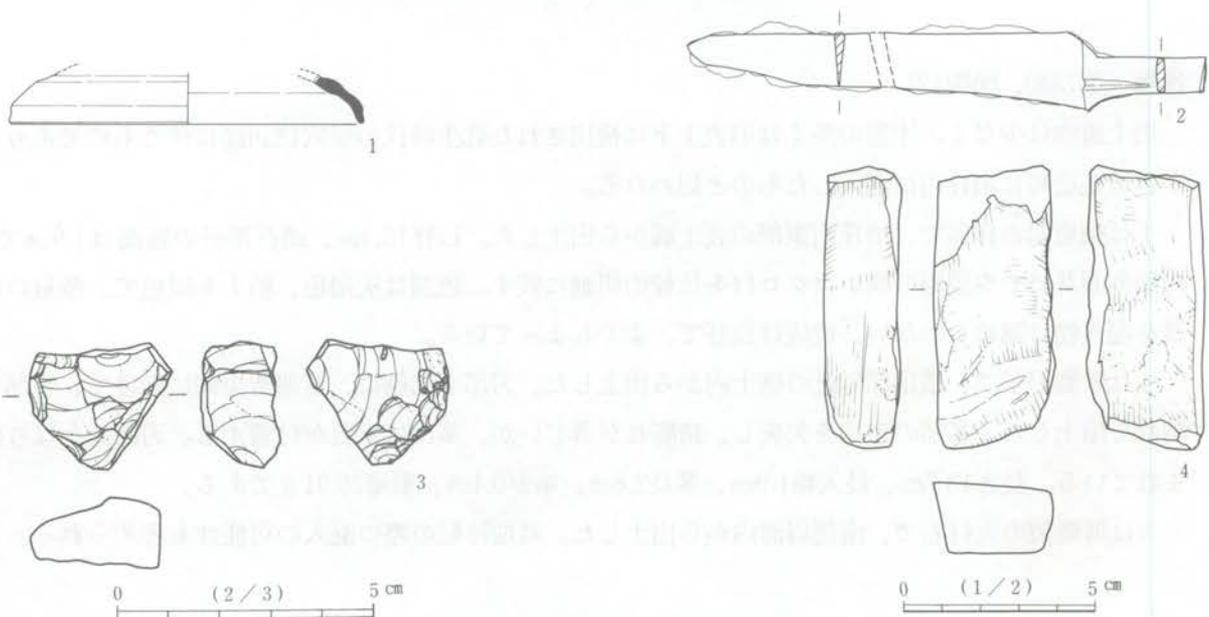
1は須恵器の杯蓋で、墳丘南東部の表土層から出土した。口径13.4cm、遺存部分の器高は1.9cmである。内面外面共にやや間隔の狭いロクロ目を比較的明瞭に残す。色調は灰褐色、胎土も同色で、微量の砂粒のほか混入物は認められない。焼成は良好で、よくしまっている。

2は鉄製刀子で、墳頂部付近の盛土内から出土した。刃部を北側に、茎部を東側に向けて、刃部中央で割れて出土した。茎部の先端を欠失し、錆膨れが著しいが、茎には木質が附着する。刃部はかなり使い込まれている。長さ13.7cm、最大幅1.9cm、茎長2.8cm、峰厚0.4cm、重量26.91gである。

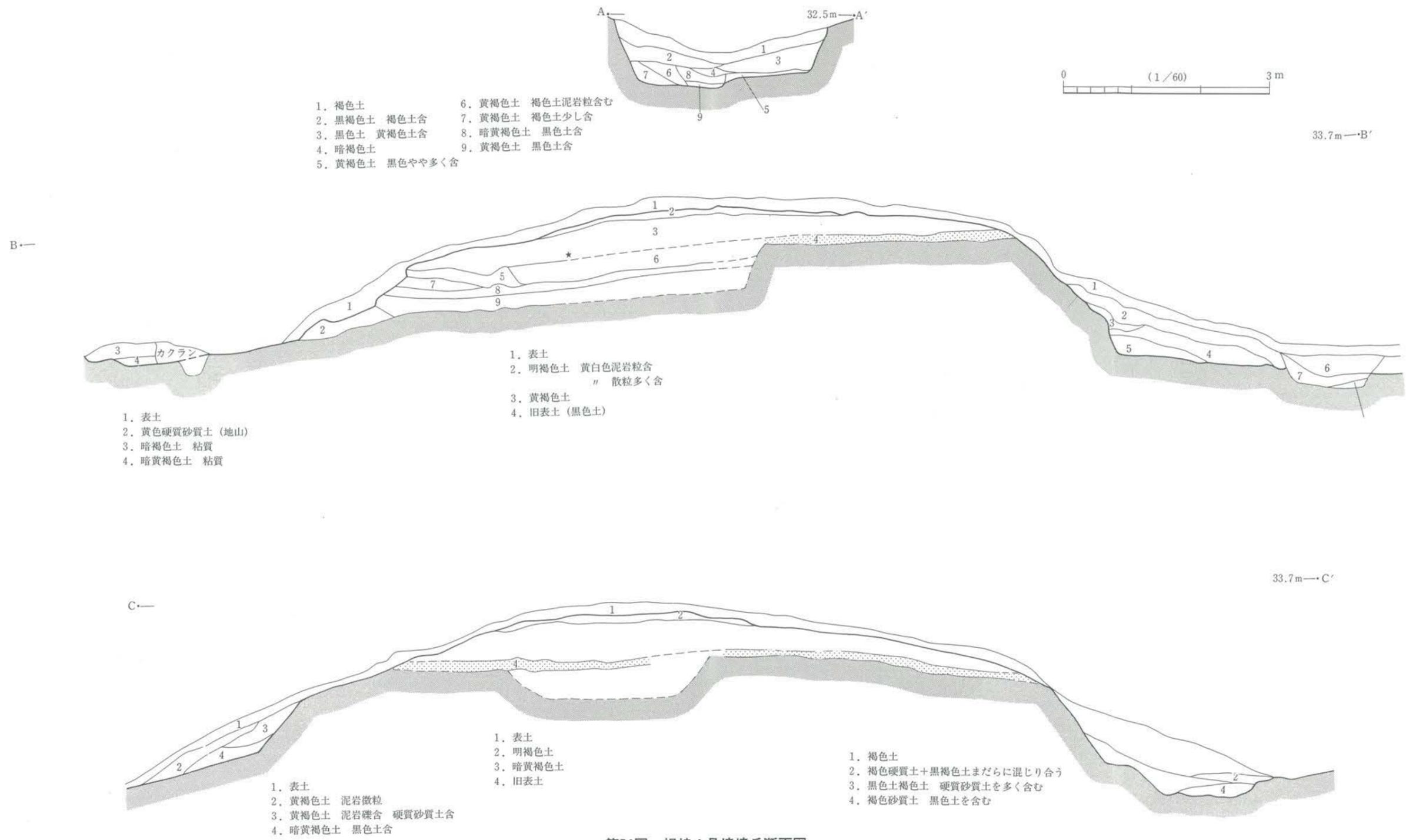
3は瑪瑙製の火打石で、南側周溝内から出土した。墓地移転の際の混入の可能性も考えられる。



第72図 祝崎4号墳墳丘測量図(調査後)



第73図 出土遺物実測図(26) 祝崎4号墳



第74図 祝崎4号墳墳丘断面図

4は砥石で、墳丘北東部から出土した。全体の形状は角柱状で、表面と両側面を長軸方向に使用している。上下を欠損しているが本来の寸法は現状とあまり変わらないものと考えられる。全長7.4cm、最大幅3.0cm、最大厚2.0cm、石質が比較的緻密であることから仕上げ用の手持ち砥石と考えられる。

(2) 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡(第75図・第76図、図版39・図版43)

遺構(第75図、図版39)

4号墳の墳丘下から検出された竪穴住居跡である。4号墳の墳丘除去後、旧表土中から小破片ながら土器片が出土したため、さらに掘り下げたところ、古墳の南西部分で旧表土を取り去った後も黒色土が厚く堆積しており、基盤層(黄褐色砂層)が検出されなかった。約40cmほどの黒色土を取り除くと床面が検出されたため、竪穴住居跡と判断した。住居の平面プランは、南北に長い隅丸長方形であり、主軸方向はN-20°-Eである。規模は南北6.2m、東西5.4m、掘り込みの深さは、壁が遺存していた北辺、東辺とも確認面から約40cmである。西壁の2/3と南壁は古墳を築く際に破壊されたものと思われる。住居の壁は垂直ではなく、ゆるやかに立ち上がっている。覆土は明確には分層しえなかったが、中央付近は黒色土、壁際の覆土は地山とよく似た黄褐色土である。柱穴は9か所に検出された。それぞれの規模は、P1が直径50cm、深さ57cm、P2が直径55cm、深さ47cm、P3が直径55cm、深さ35cm、P4が直径50cm、深さ55cm、P5が直径50cm、深さ45cm、P6が直径40cm、深さ51cm、P7が直径30cm、深さ34cm、P8が直径50cm、深さ51cm、P9が直径35cm、深さ23cmである。柱穴相互を結ぶ平面形は外側の柱穴4か所が方形、内側の4か所が台形をしており、P5~P8の外側にP1~P4が配されており、立て替えの可能性が考えられる。P9は住居南側の壁近くにあり、出入口施設に関連する柱穴であろう。床面の精査中に微量の焼土が検出されたが、炉は検出できなかった。床面は中央付近が窪んでおり、硬化面は認められず、壁溝や壁柱穴なども検出されなかった。

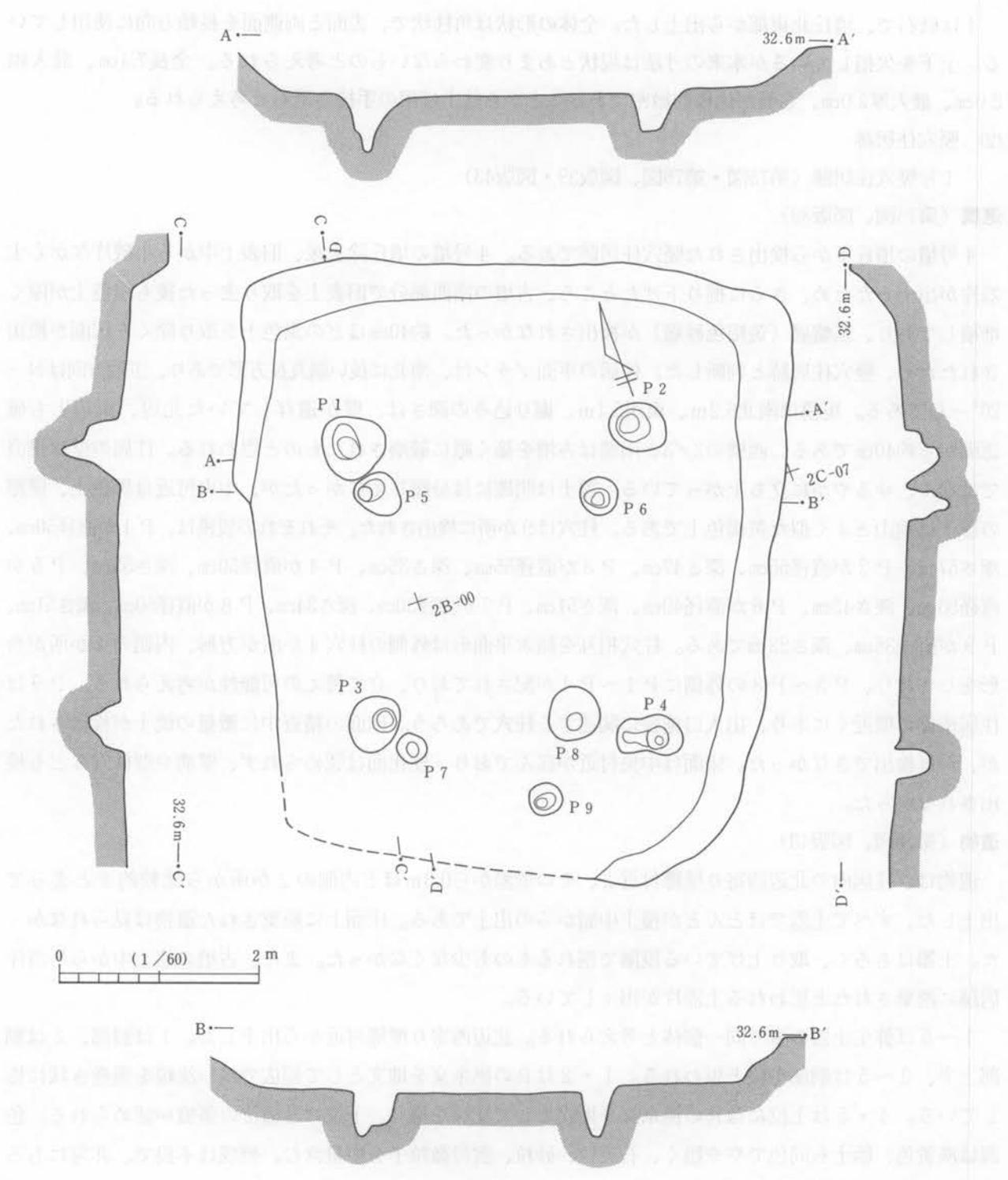
遺物(第76図、図版43)

遺物は、住居内の北辺西寄り壁際付近と、その壁際から0.3mほど内側の2か所から比較的まとまって出土した。すべて土器でほとんどが覆土中層からの出土である。床面上に廃棄された遺物は見られなかった。土器はもろく、取り上げている段階で割れるものも少なくなかった。また、古墳の盛土中からも当住居跡に廃棄されたと思われる土器片が出土している。

1~5は弥生土器の壺で同一個体と考えられる。北辺西寄り壁際付近から出土した。1は肩部、2は胴部上半、3~5は胴部中位と思われる。1・2はRの撚糸文を地文として幅広で浅い沈線を渦巻き状に施している。4・5は上位にはRの撚糸文を地文として沈線を施し、下位には横位の条痕が認められる。色調は淡黄色、胎土も同色でやや粗く、石英粒、砂粒、雲母微粒子を中量含む。焼成は不良で、非常にもろくなっており、器表面の磨耗が著しい。

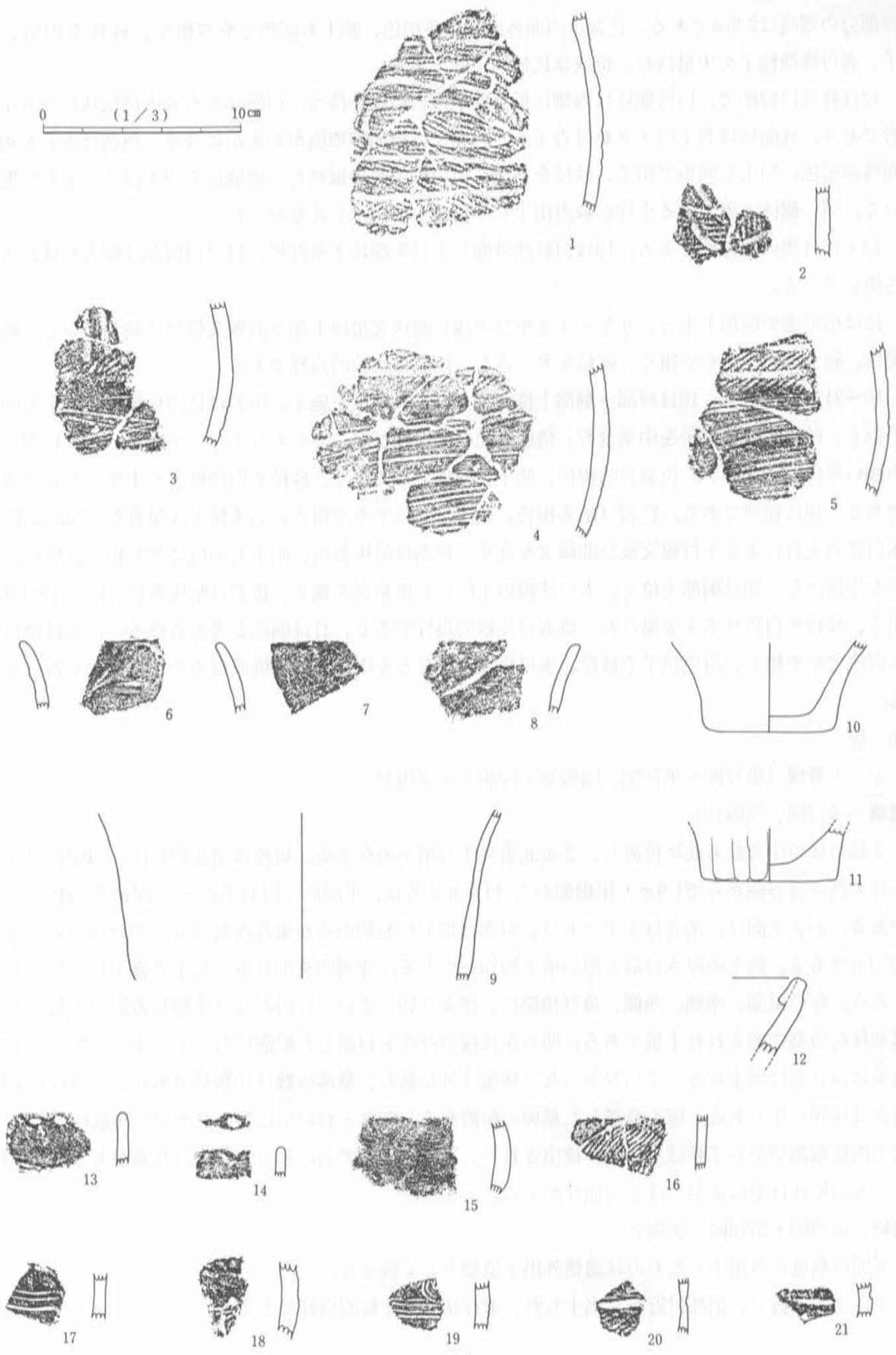
6~9は甕で、同一個体と考えられる。6~8は口縁部、9は頸部から胴部にかけての破片である。1~5が出土した壁から30cmほど内側で出土した。色調は赤褐色を呈し、胎土も同色で粗く、砂粒や石英微粒子、雲母などを比較的多く含む。焼成は不良で、かなりもろくなっている。

10・11は壺の底部であろう。10は4号墳墳丘内から出土したが、住居跡に廃棄された遺物と思われる。底径は7.0cm、遺存部分の器高は4.7cmである。色調は褐色、胎土も同色で砂粒、白色粒子、雲母を中量含んでおり、やや粗い。焼成は比較的良好である。11は4号墳南側周溝内から出土した。底径は6.8cm、遺



第75図 1号竪穴住居跡平面図・断面図

0 (1/3) 10cm



第76图 出土遗物实测图(27) 1号竖穴住居跡

存部分の器高は2.8cmである。色調は内面外面共に淡褐色、胎土も同色でやや粗く、砂粒を中量、白色粒子、雲母様微粒子を少量含む。焼成は比較的良好である。

12は鉢の口縁部で、口唇部には内側に折り返す複合口縁を持つ。口唇部がやや内湾気味に立ち上がる器形であり、外面には若干のスガが付着する。内面には指頭押捺痕がかすかに残る。色調は内面が褐色、外面は赤褐色、胎土も同色で粗く、砂粒を多量、白色粒子を少量含む。焼成はやや不良で、表面が磨耗している。同一個体と思われる小片が数点出土しているが、図示しえなかった。

13・14は甕の口縁部である。13は口唇部外面に工具先端による押捺、14は口唇部に縄文原体による押捺を施している。

15は小型壺の胴部上半で、3条～4条単位の浅い波状文帯の下部を直線文帯で区画している。色調は暗褐色、胎土も同色でやや粗く、砂粒を多く含む。焼成は比較的良好である。

16～21は壺である。16は肩部～胴部上位で、太いLの縄文を施す。色調はにぶい橙色、胎土も同色でやや粗く、砂粒や白色粒子を中量含む。焼成は比較的良好だが、ややもろくなっている。17は肩部で、3条の浅い平行線文を施す。色調は暗褐色、胎土も同色でやや粗く、砂粒や白色粒子を中量含む。焼成は良好である。18は頸部である。色調は暗赤褐色、胎土も同色でやや粗く、石英粒を少量含む。19は胴部上半で、木口状の工具による平行線文及び曲線文を施す。色調は暗灰黄色、胎土も同色でやや粗く、砂粒、白色粒子を少量含む。20は胴部上位で、太い沈線の下位にL撚糸文を施す。色調は暗灰黄色、胎土も同色でやや粗く、砂粒や白色粒子を少量含む。焼成は比較的良好である。21は胴部と考えられる。色調は橙色、胎土も同色でやや粗く、白色粒子や砂粒、雲母様微粒子などを中量含む。焼成はやや不良で、もろくなっている。

(3) 塚

① 1号塚（第77図～第79図、図版38・図版39・図版42）

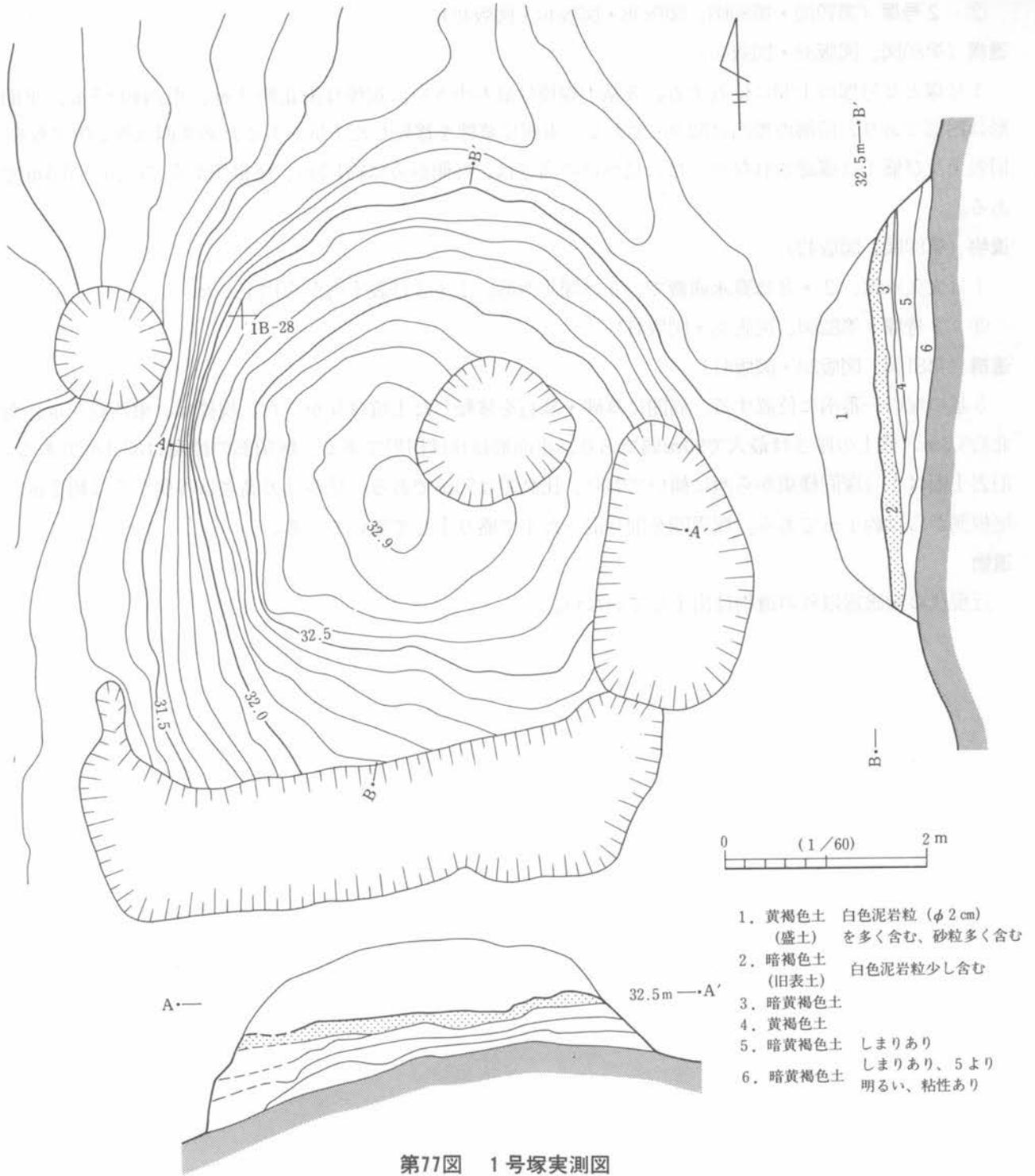
遺構（第77図、図版40）

3基の塚の中で最も北に位置し、2m北東に4号墳が所在する。規模は南北約4.4m 東西約4.5m、見かけの高さは谷側からで1.9m、尾根側からは1.2mであり、平面形は円形である。塚頂部の標高は32.9mである。旧表土面は、南北は水平であり、東西は地形の制約からか東高西低になっており、その比高差は約30mである。盛土の厚さは最も厚い所で約70cmである。塚周囲を削り取った土で盛土して築いたものであろう。塚の東側、南側、西側、及び頂部に、埋まり切っていない円形及び不整長方形の土坑があった。墓地移転の為に掘られた土坑である。明らかに塚の存在を意識した配置になっている。それらの土坑は調査前には完全に埋まりきっていなかった。移築された墓石、墓碑の数は10数基であり、一番古いものは慶安3（1650）年である。塚を意識した墓碑の配置から、塚はそれ以前に築かれていた可能性が高い。また、塚の西側裾部分から不整球形の石が検出された。墓碑を建てず石のみをおいていた墓があった可能性が高く、塚の年代は更にさかのぼる可能性がある。

遺物（第78図・第79図、図版42）

周囲の墓坑から出土したものは遺構外出土遺物として扱った。

1は文久永寶で、頂部付近から出土した。遺存状態は比較的良好である。



第77図 1号塚実測図



第78図 出土遺物拓影(4) 1号塚

② 2号塚（第79図・第80図、図版38・図版40・図版42）

遺構（第80図、図版38・図版40）

1号塚と2号塚の中間に位置する。3基中規模は最も小さい。規模は南北約3m、東西約2.5m、平面形は円形であり、頂部の標高は32.9mである。東側に墓碑を移転した土坑があるため東西は推定値である。旧表土及び盛土は確認されなかった。見かけの高さは、谷側からは約1.3m、尾根側からで0.2m～0.3mである。

遺物（第80図、図版42）

1は文久永宝、2・3は寛永通寶で、2は塚北西部、1・3は表土内から出土した。

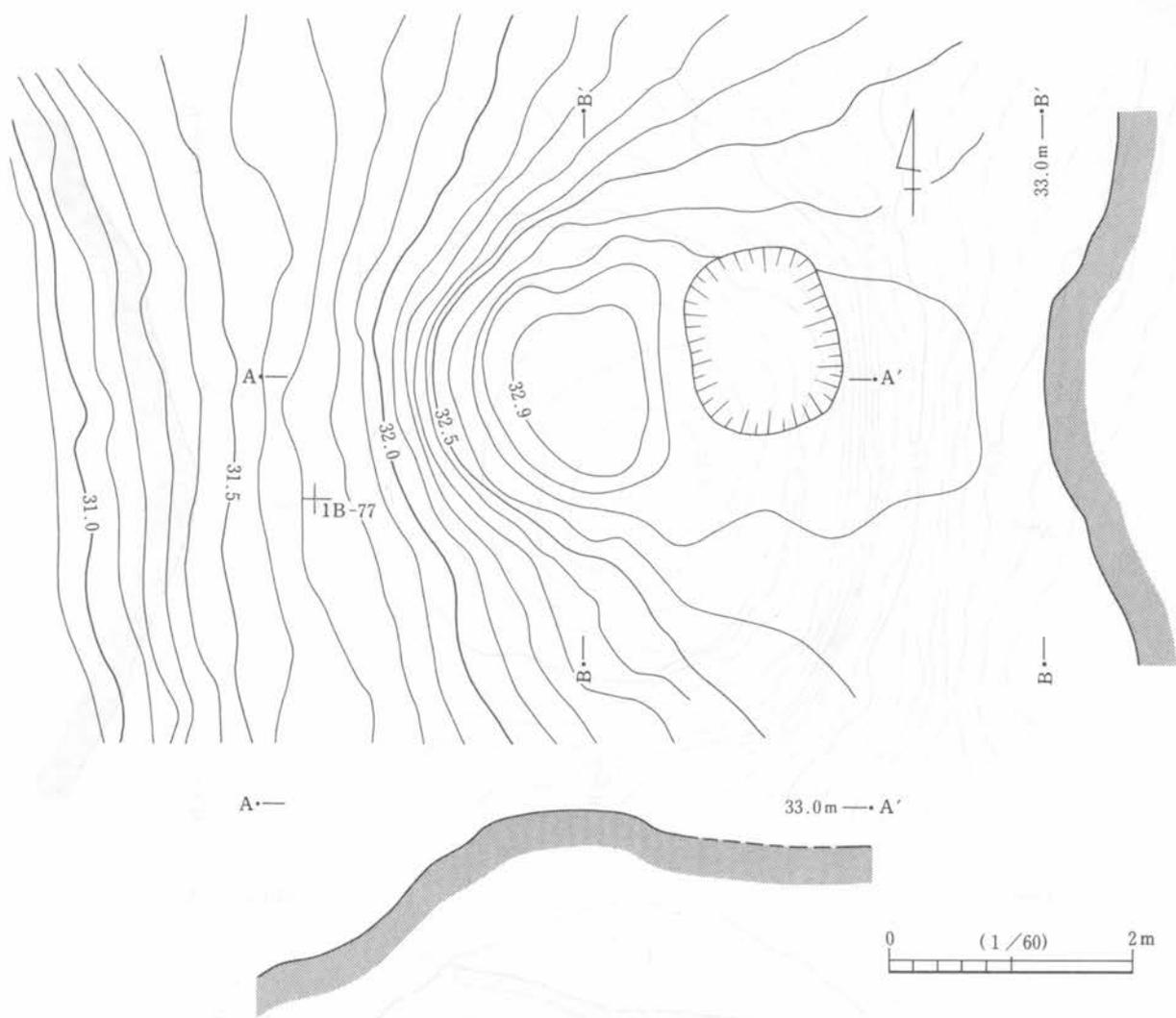
③ 3号塚（第82図、図版38・図版41）

遺構（第81図、図版38・図版41）

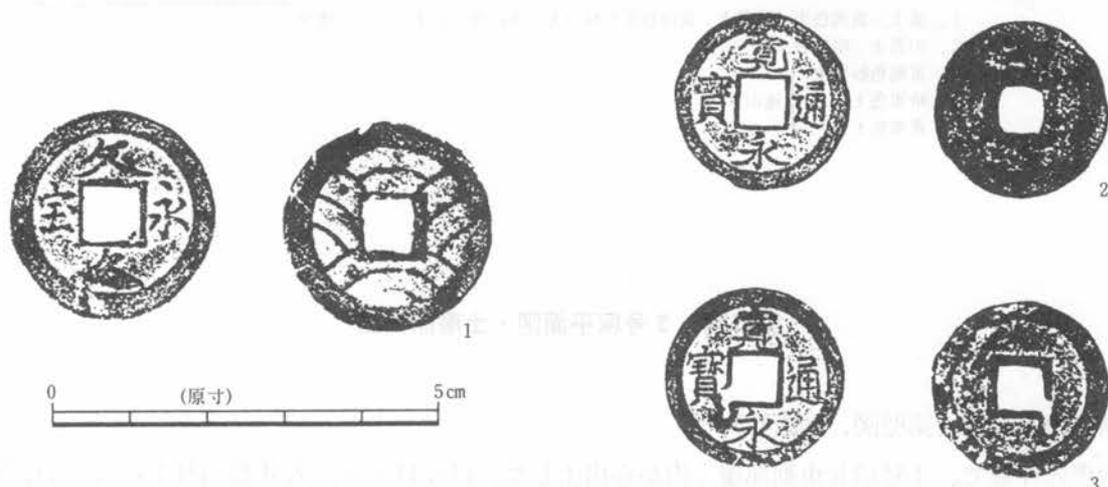
3基の塚の一番南に位置する。周囲に墓碑・墓石を移転した土坑はなかった。規模は、東西約5m、南北約3.8m、盛土の厚さは最大で90cm弱であり、平面形はほぼ円形である。塚頂部の標高は33.4mである。旧表土面は1号塚同様東から西に傾いており、比高差は50cmである。見かけの高さは谷側からは約2m、尾根側からは約1mである。塚周囲を削り取った土で盛り土して築いている。

遺物

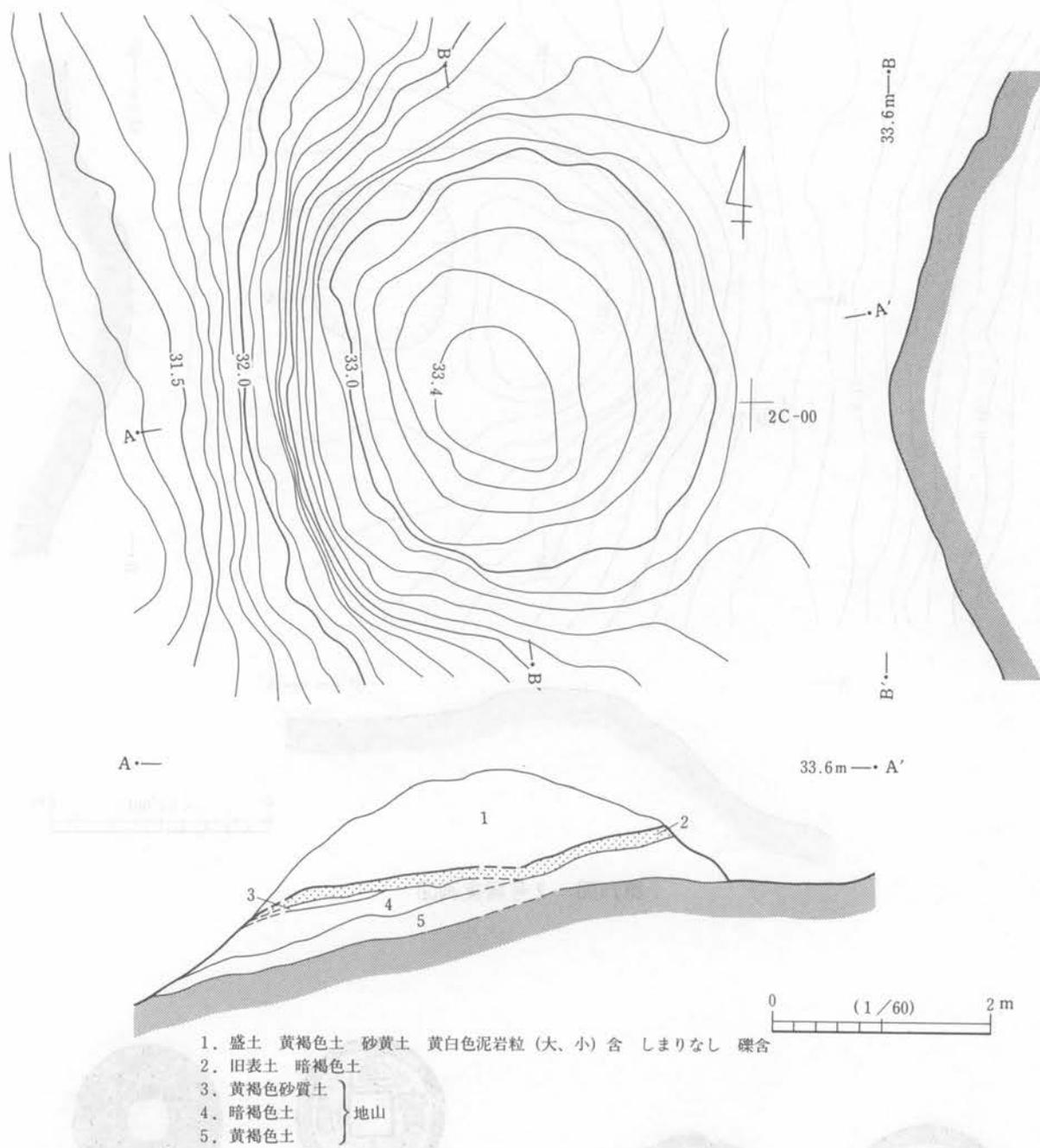
近現代の陶磁器以外の遺物は出土していない。



第79图 2号塚实测图



第80图 出土遗物拓影(5) 2号塚



第81図 3号塚平面図・土層断面図

(4) 遺構外出土遺物 (第82図、図版42)

1は須恵器杯蓋で、4号墳北東裾部覆土内から出土した。口径17.6cm、天井部内径4.4cm、遺存部分の器高は3.9cmである。かえりを持たず、天井部を欠損するが本来はつまみを有するタイプであろう。色調は灰色もしくは灰白色、胎土は灰白色で、黒色粒子と雲母様微粒子を少量含むほか混入物は認められず、

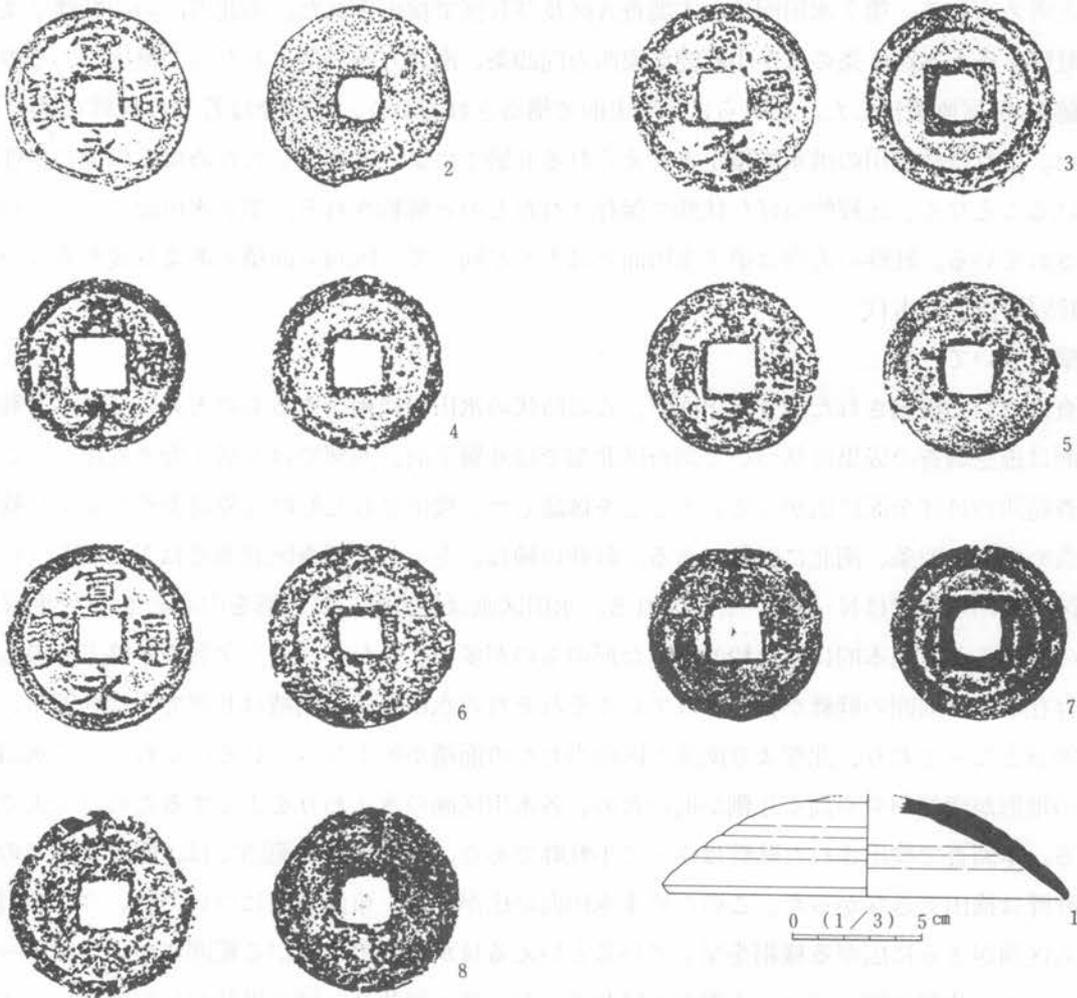
緻密である。焼成は良好でよくしまっている。

2～8は寛永通寶である。2～6は1号塚東側墓石移転土坑から、7・8は1号塚南側墓石移転土坑から出土した。いずれもやや腐食が著しく、銭文の不明瞭なものがある。遺存状態はあまり良くない。

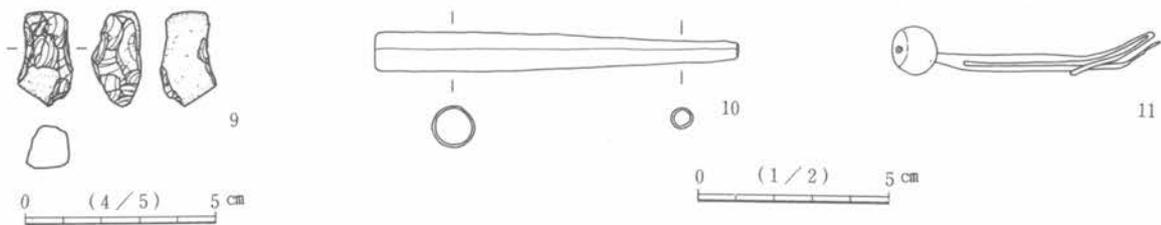
9は火打石で、1号塚東側墓石移転土坑から出土した。

10は銅製のキセルの吸口で、1号塚南側墓石移転土坑から出土した。

11は簪で、1号塚南側墓石移転土坑から出土した。



<原寸>



第82図 出土遺物実測図(28)

第4章 まとめ

第1節 菅生遺跡

1. 弥生時代後期～古墳時代前期

水田遺構について

確認調査において検出された第7水田面、及び本調査A区で検出された第8水田面が、この時代に相当するものと考えられる。第7水田面は、本調査A区及びB区で検出された。南北方向の中畦畔2条、東西方向の中畦畔1条と水路1条のほか小畦畔を東西方向29条、南北方向25条にわたって検出し、その中に小区画水田跡を406区画検出した。これらは7層上面で構築されており、北部では若干の畦畔の盛り上がりを確認した。これは小櫃川の洪水堆積土と考えられる6層土によって埋没したためにその後の耕作による攪乱を受けることなく、比較的良好な状態で保存されたものと解釈される。第8水田面についてはA区のみで見出されている。畦畔の方向は第7水田面とほとんど同一で、区画の面積もあまり変わらない。

2. 古墳時代中期～古代

水田遺構について

確認調査において検出された第6水田面が、この時代の水田面に相当するものと考えられる。畦畔を含めた水田面は確認調査の成果に基づいて調査区北部では6層上面、南部では8層上面で検出し、この水田面が本調査範囲のほぼ全面に広がっていることを確認した。検出された畦畔は確認調査ですでに検出されたものも含め東西に22条、南北に21条である。畦畔の軸は、主として調査区北部では $N-15^{\circ}-E$ であるが、調査区中央部以南では $N-5^{\circ}-E$ にふれる。水田区画は正方形、長方形を中心としやや平行四辺形気味のものもあるが、基本的には比較的整った形のものが多い。しかし「L」字形や不整形のものも少数ながら存在する。周囲の畦畔が検出されているそれぞれの水田区画の面積は北部で平均約90㎡、南部では平均約30㎡となっており、北部より南部が区画当たりの面積が狭くなっている。これはこの水田の立地する元来の地形が南側がやや高く北側が低いため、各水田区画の水まわりをよくするための工夫であると考えられる。本調査で検出された畦畔はすべて小畦畔であり、今回の調査範囲では、明瞭な形での大畦畔ないし中畦畔は検出できなかった。このため本水田面の広がり、東西方向については、今回の調査範囲ではこの大区画がさらに広がる様相を呈しているといえるほかは実際に広がる範囲についてはまったく不明である。ただし北側に関しては、本調査A区北半において6層及び5層の堆積が比較的厚いものにも関わらず畦畔を検出できなかった部分があること、さらにその部分に溜池状の窪みがいくつか見受けられることなどから、その付近がこの大区画の北端となる可能性がある。また南側に関しては本調査範囲ではこれを推定する手がかりを得られなかったが、現道（国道409号）のすぐ南側には丘陵地が存在することを考えると、少なくともこの部分よりは北側、場合によっては現道がこれにあたる可能性を考えてもよいかもしれない。

3. 中世

水田遺構について

確認調査において検出された第5水田面が、この時代の水田面に相当するものと考えられる。畦畔を含めた水田面は確認調査の成果に基づいて調査区北部では4層上面、南部では3e層上面で検出し、この水田面が本調査範囲のA区～C区、E区に広がっていることを確認した。ただしD区に関しては南東確認トレンチの土層観察で第5水田面に相当する層位を確認しているが、平面的には畦畔を確認することはできなかった。F区及びG区については、4層～3e層が遺存していなかったため、後世の耕作によってすでに削平されてしまった可能性が高い。今回検出された畦畔は確認調査時のものも含めて東西に12条、南北に10条である。現水田面までの土壌の堆積がそれ以下と比較して薄いため、水田遺構の遺存状況はあまり芳しくなく、「本来の畦畔」を検出することはできなかった。検出できた水田遺構は「疑似畦畔B」と鋤床であり、「本来の畦畔」と耕作面が存在していたはずの本水田面の上部は、残念ながらこれ以降の耕作により削平されてしまったものと考えられる。畦畔の軸はN-12°-Eで全体的にはほぼ同じ方向でそろっており、確認調査においても述べたとおり、この方向性は現在まで踏襲されているようである。水田区画はすべて長さの長短はあるものの長方形を基本とするいわゆる「短冊形」であるが、A区～C区では南北に長く、E区では東西に長い。周囲の畦畔が検出されているそれぞれの区画の面積は最大が343㎡、最小が132㎡で、平均では250㎡である。遺存状況が悪く、しかも調査面積に比して区画の面積が大きいため、この数値が実際に意味を持つのか否かいささか心許ないが、面積の偏差での傾向は特に認められない。今回の調査範囲では、明瞭な形での大畦畔ないし中畦畔は検出できなかった。このため本水田面の実際の広がりについては不明といわざるを得ない。ただ南端に関しては古代水田面と同様の可能性が考えられる。

第2節 祝崎古墳群

今回の調査は祝崎古墳群の一部を調査したにすぎない。しかし、古墳群及びその周辺の人々の歴史の空白部分を一部でも埋められた点で成果があった。

1. 弥生時代の竪穴住居跡について

祝崎古墳群の調査成果の一つは弥生時代中期中葉に比定される竪穴住居跡の発見があげられる。旧君津郡内（木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市）における当該時期の住居跡の検出例は極めて少ない。確認できた中では袖ヶ浦市筈田遺跡、及び昭和49年の木更津市清水谷遺跡の例が挙げられる。筈田遺跡は、祝崎古墳群の南東5kmに位置しており、弥生時代中期中頃とされる竪穴住居跡が2基検出されている。また、木更津市清水谷遺跡は西1.1kmに位置し、弥生時代中期中葉とされる竪穴住居跡が検出されている。3遺跡は市域こそ違いますが、いずれも小櫃川下流南岸の、北へ向かって伸びる丘陵上に位置しているという点で共通している。

本住居跡は古墳築造のため一部が破壊されていたものの、逆に古墳の盛土に守られた形で破壊を免れた点は大変幸運であった。出土遺物は、いずれも覆土中層からのものであり、床面に廃棄された遺物は出土しなかったため、時期的には若干遡るのであろうか。出土した土器の器種は、壺、甕、鉢であり、完型のものはなく器形全体は不明である。壺は須和田式的要素をもち、甕は宮ノ台式に似るという2要素の併存が考えられる。竪穴住居の時期は須和田式期の終末頃から宮ノ台式期への移行期という時期が想定される。内側に折返す複合口縁の鉢は、類例が極めて少ないと思われる。今後、当該時期の資料が増加することに

よってさらにその位置付けが明瞭となるであろう。

また、既調査の祝崎古墳群や高千穂古墳群の墳丘下からも竪穴住居跡や竪穴状遺構が検出されており、古墳時代に墓域として利用される以前には当丘陵が、弥生時代のかなり早い時期から活動の場となっていたことが明らかとなった。これも今回の調査成果として挙げておきたい。

2. 祝崎4号墳について

1号墳、2号墳は調査（昭和58年）前の木更津市域内遺跡分布調査図（昭和52年）には記載されていなかったが、現地踏査及び小規模の試掘調査の結果、2基が古墳であることが確認された。この時点では既に古墳群の西側半分は土砂採取のため削り取られていたようである。土砂採取以前の地形図によれば、祝崎古墳群の所在する丘陵は1号墳を中心として、4本の尾根が北、東、北北西及び南南西方向に延びている。東へ延びる丘陵には2号墳、3号墳が所在し、4号墳は北へのびる丘陵の北端に位置している。北北西、南南西へのびる尾根は前述のごとく未調査のまま土砂採取され、現在は平坦地となりアクアラインへ向かうアクア連絡道が開通している。報告書には「本古墳群の所在が確認されたのはごく最近のことで、当初現存数2基として把握されていたが、この度の発掘調査中に新たに1基が発見され、すでに削平された部分にも塚があったという地元住民の話からも、実際の総数は更にそれを上回るものであろう。」と記されているように北北西、南南西の尾根に古墳や塚が所在した可能性は非常に高いと思われる。立地条件から考えて見ると数基の古墳があった可能性が予想される。また、墳丘下には住居跡が存在した可能性も十分に考えられる。遺跡分布調査がまだ十分でなかった時期とはいえ大変残念なことであり、今後の教訓としなければならない。

付章 菅生遺跡の古環境変遷と稲作の消長

パリノ・サーヴェイ株式会社

第1節 はじめに

菅生遺跡（千葉県木更津市菅生所在）は、小櫃川の河口に近い沖積低地に立地する。これまでの発掘調査により、中世（4層上面）・古代（6層上面）・弥生時代（7層上面）の各水田面が検出されている。弥生時代の水田層の上面は、黄褐色の粘土層に覆われている。現地所見ではこの粘土層は洪水堆積物とされており、弥生時代の水田層を急速に覆ったため、当時の水田状況が比較的良く保存されていると考えられている。なお、この洪水層は近接する芝野遺跡でも同様にみられることから、当時小櫃川流域で大規模な洪水がおこったのではないかという見解も示されている。

今回自然科学分析調査を行うにあたり、財団法人千葉県文化財センターと協議の上、次のような目的を設定した。一点は、本遺跡周辺の古環境変遷を花粉化石・珪藻化石・植物珪酸体を用いて推定することにより、この地で水田が行われるようになった背景について検討する目的である。もう一点は、水田土壌についての微化石分析を行い、稲作の消長に関する検証を行うとともに、各時代の水田の様相について検討することを目的とした。なお、10層中にスコリア層が見られることから、これと示標テフラとの対比を試みた。分析点数は、テフラ分析2点、珪藻分析20点、花粉分析21点、植物珪酸体分析20点である。

第2節 試料

試料は、2つの地点（第1地点、第2地点）から採取したものをを用いた。第1地点は、中世・古代・弥生時代の各水田層が検出されており、本遺跡の標準的な土層断面が観察される。第2地点は上部の土層が欠けているが、9層および10層が厚く堆積しており、10層に散在するスコリアの保存も良好である。これら2つの地点から採取された試料は、当社にて詳細な記載を行った後、目的を考慮にいれて微化石用の試料を採取し、分析試料とした。各地点の柱状図および試料採取層位を図1に示す。またテフラ分析用試料は、柱状試料の記載の際に10層中から確認されたテフラ層と思われる砂分を第1地点・第2地点からそれぞれ1点ずつ採取し、分析試料とした。花粉分析では、これ以外に弥生時代の溝の覆土についても分析を行った。

第3節 分析方法

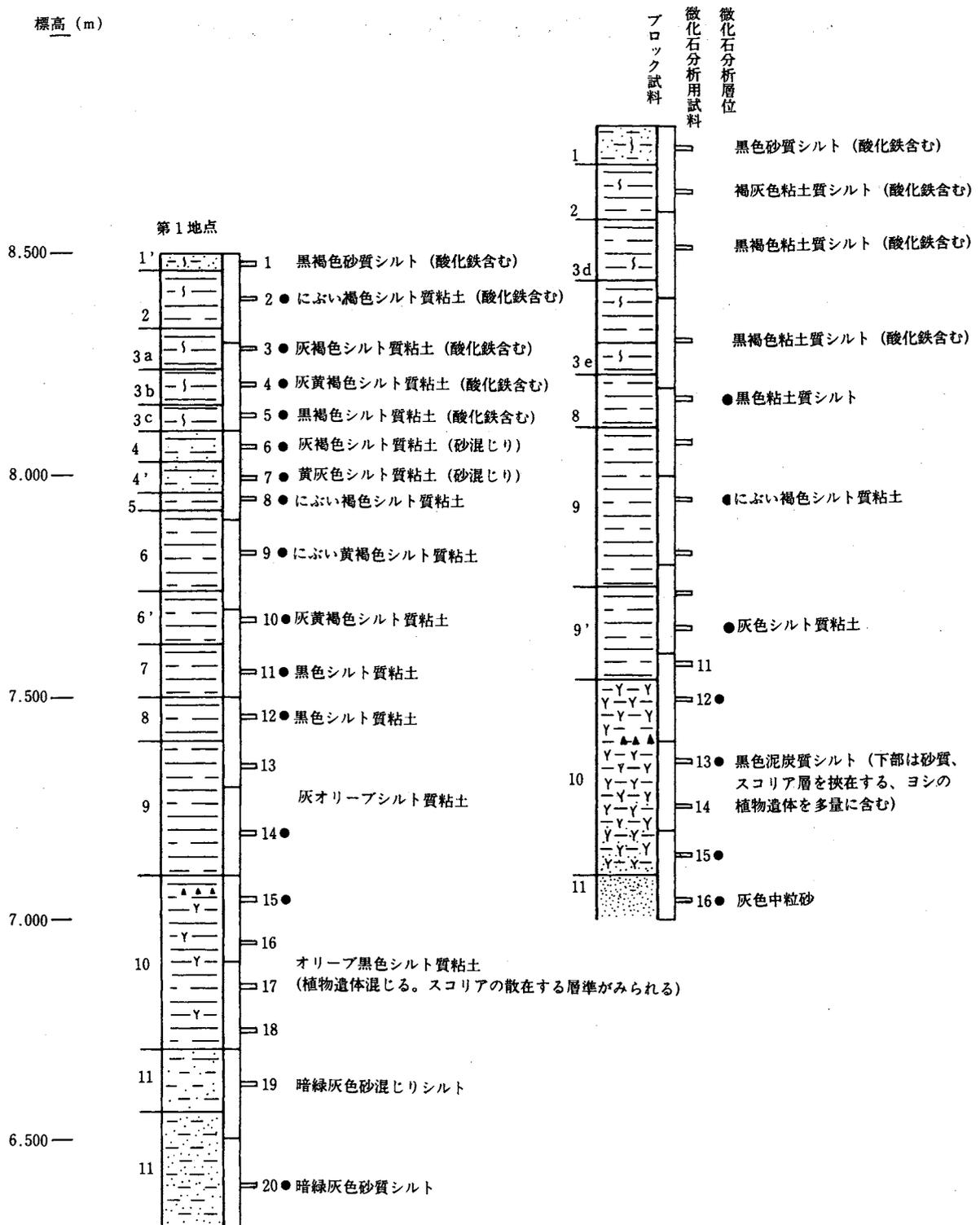
1. テフラ分析

試料は、小型超音波洗浄装置により分散し、適宜上澄みを流して泥分を除去する。残った砂分を実体顕微鏡下で観察し、テフラの指標となる軽石・スコリア・火山ガラスの産状とそれらの特徴を調べた。

2. 珪藻分析

試料数gについて、過酸化水素水・塩酸による試料漂白および有機物の分解、自然沈降法による粘土分の除去、傾斜法による砂分の除去、の順に珪藻化石を濃集した。分析残渣を適量に希釈し、カバーガラス上で乾燥させプレウラックスで封入した。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の側線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上

標高 (m)



第83図 分析試料採取層位

同定・計数する。種の同定は、K.Krammer & Lange-Bertalot (1986・1988・1991) などを用いた。なお、珪藻の生態性の解説を第3表に示した。堆積環境の推定にあたっては、安藤 (1990) の環境指標種群等を参考にした。

3. 花粉分析

試料数 g について、水酸化カリウム処理による泥化と腐植酸の溶解、0.25mmの篩を通し大型の植物遺体や碎屑物の除去、重液分離 (臭化亜鉛:比重2.2) による有機物の濃集、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理 (無水酢酸:濃硫酸=9:1) によるセルロースの分解、の順に行い、堆積物中から花粉化石を濃集した。

処理後の残渣の一部についてグリセリンで封入してプレパラートを作成し、その中に出現した全ての種

塩分濃度に対する区分		塩分に対する適応性	生育環境 (例)
海水生種	強塩生種 (Polyhalobous)	塩分濃度が40.0パーミル以上に出現するもの	低緯度熱帯海域、塩水湖など
	真塩生種 (Euhalobous)	海産生種、塩分濃度が40.0~30.0パーミルに出現するもの	一般海域 (ex.大陸棚及び大陸棚以深の海域)
汽水生種	中塩生種 (Mesohalobous)	汽水生種: 塩分濃度30.0~0.5パーミルに出現するもの	河口・内湾・沿岸・塩水湖・潟など
		強中塩生種 (α -Mesohalobous) 弱中塩生種 (β -Mesohalobous)	
淡水生種	貧塩生種 (Oligohalobous)	淡水生種: 塩分濃度0.5パーミル以下に出現するもの	一般陸水域 (ex.湖沼・池・河川・沼沢地・泉)
塩分・pH・流水に対する区分		塩分・pH・流水に対する適応性	
塩分に対する適応性	貧塩-好塩性種 (Halophilous)	少量の塩分があるほうがよく生育するもの	高塩類域 (塩水湖上域・温泉・耕作土壌)
	貧塩-不定性種 (Indifferent)	少量の塩分があってもこれに耐えることができるもの	一般陸水域 (故障・池・沼・河川・沼沢地など)
	貧塩-嫌塩性種 (Halophobous)	少量の塩分にも耐えることができないもの	湿原・湿地・沼沢地
	広域塩性種 (Eurhalinous)	低濃度から高濃度まで広範囲の塩分濃度に適応して出現するもの	一般淡水~汽水域
pHに対する適応性	真酸性種 (Acidobiontic)	pH7.0以下に出現、特にpH5.5以下の酸性水域で最もよく生育するもの	湿原・湿地・火口湖 (酸性水域)
	好酸性種 (Acidophilous)	pH7.0付近に出現、pH7.0以下の水域で最もよく生育するもの	湿原・湿地・沼沢地
	pH-不定性種 (Indifferent)	pH7.0付近の中性水域で最もよく生育するもの	一般陸水 (ex.湖沼・池沼・河川)
	好アルカリ性種 (Alkaliphilous)	pH7.0付近に出現、pH7.0以上の水域で最もよく生育するもの	
	真アルカリ性種 (Alkalibiontic)	pH8.5以上のアルカリ性水域で最もよく出現するもの	アルカリ性水域 (少ない)
流水に対する適応性	真止水性種 (Limnobiontic)	止水にのみ出現するもの	流入水のない湖沼・池沼
	好止水性種 (Limnophilous)	止水に特徴的であるが、流水にも出現するもの	湖沼・池沼・流れの穏やかな川
	流水不定性種 (Indifferent)	止水にも流水にも普通に出現するもの	河川・川・池沼・湖沼
	好流水性種 (Rheophilous)	流水に特徴的であるが、止水にも出現するもの	河川・川・小川・上流域
	真流水性種 (Pheobiontic)	流水域にのみ出現するもの	河川・川・流れの速い川・溪流・上流域
陸生珪藻	好気性種 (Aerophilous)	好気性環境 (Aerial habitats) 水域以外の常に大気に曝された特殊な環境に生育する珪藻の一群で、多少の湿り気と光さえあれば、土壌表層中やコケの表面に生育可能。特に土壌中に生育する陸生珪藻を土壌珪藻という	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌表層中や土壌に生えたコケに付着 ・木の根元や幹に生えたコケに付着 ・濡れた岩の表面やそれに生えたコケに付着 ・滝の飛沫で湿ったコケや石垣・岩上のコケに付着 ・洞窟入口や内部の照明の当たった所に生えたコケに付着

塩分に対する区分は、Lowe (1974)、pHと流水に対する区分は、Hustedt (1937-38) による。

第3表 珪藻化石の生態性

類 (Taxa) について同定・計数した。

4. 植物珪酸体分析

試料数 g について、過酸化水素水・塩酸による有機質の分解と試料の漂白、超音波処理による分散、沈定法による粘土分の除去、重液分離による軽鉱物の濃集の順に物理・化学処理を行って、植物珪酸体を分離・濃集する。分析残渣を適度に希釈し、カバーガラス上で乾燥させ、プリュウラックスで封入した。検鏡は、400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数を行った。

第4節 結果

1. テフラ分析

両地点の10層中の砂分計2試料の検鏡結果を以下に示す。

・第1地点

スコリアが少量含まれる。スコリアは、最大径約1.5mm程度、赤色で発泡のやや良好なものや黒色で発泡の不良なものとの混在する。また、灰色の安山岩片も少量認められる。スコリアの産状から、本試料がテフラ層である可能性は低い。したがって、本試料を地層の年代指標とすることはできない。

・第2地点

スコリアが多量含まれる。スコリアは、最大径約1.3mm、黒色、暗灰色、灰色、赤色のスコリアが混在し、アメ様光沢のある褐色のスコリアも微量混じる。スコリアの発泡は、どの色のものもやや不良であり、きめ細かな発泡をしているものが多い。これらの特徴は、市原条里制遺跡で認められたlh-3に類似する。スコリアの産状とその特徴から、本試料はlh-3に対比され、本試料の採取された層準は市原条里制遺跡でlh-3が堆積する各層準に対比される可能性が高い。

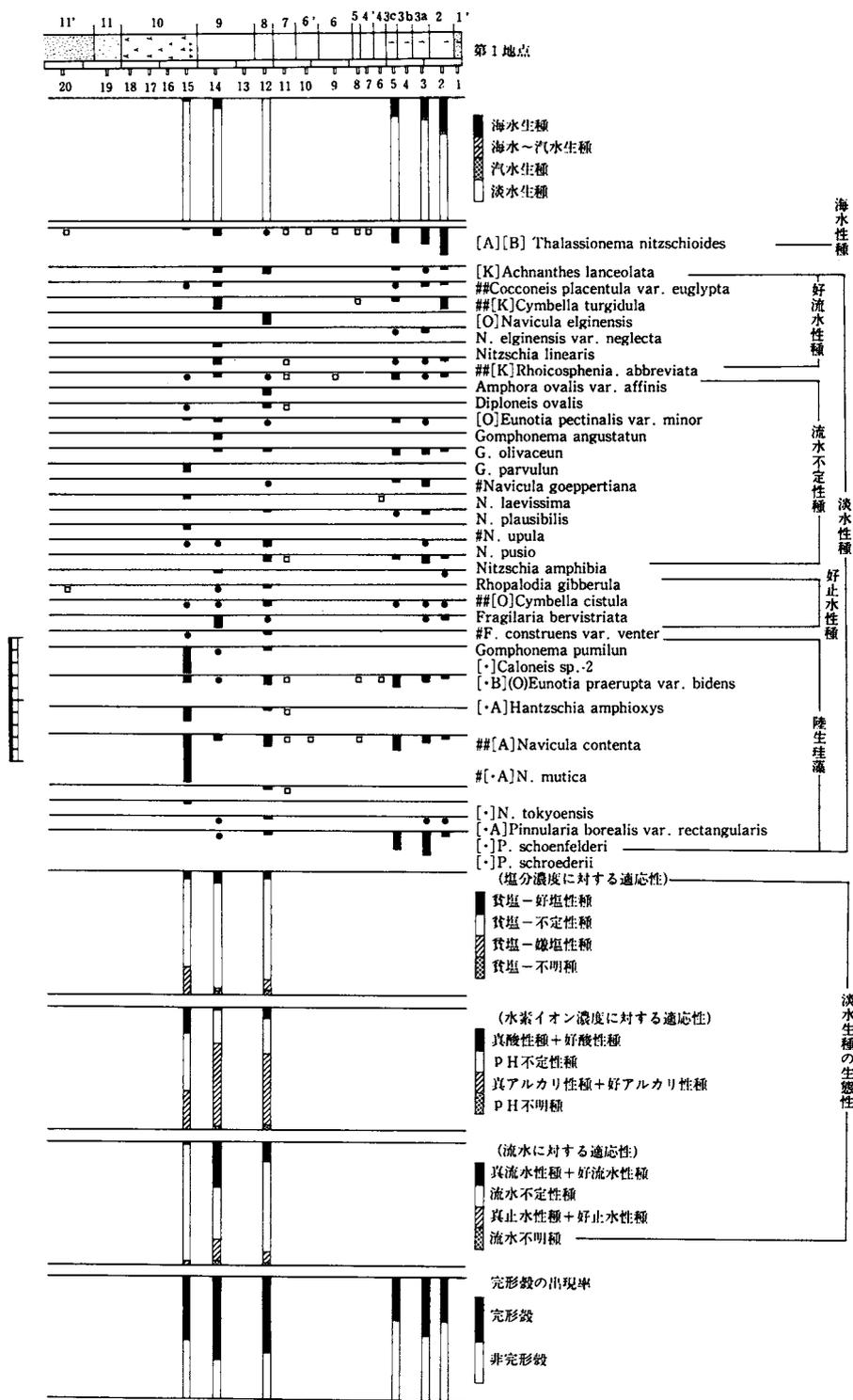
2. 珪藻化石

分析結果を各地点別に述べる。

・第1地点

分析結果を第4表・第85図に示す。珪藻化石の産状はあまり良くはなく、13試料のうち多く産出した試料は、6試料（試料番号2・3・5・12・14・15）に過ぎない。また、産出種は淡水生種が優占するが、陸生珪藻や海水生種も多く産出する。産出分類群数は、38属166分類群（145種・27変種・種不明8種類）である。完形殻の出現率は40%~70%である。淡水生種の生態性（塩分・水素イオン濃度・流水に対する適応性）の特徴は、塩分に対しては不定性種、pHに対しては、好アルカリ性種、水の流動に対しては流水生種と流水不定性種が多産する。以下に産出種の特徴を述べる。

10層（試料番号15）では、陸生珪藻の中でも特に耐乾性の強い陸生珪藻のA群（伊藤・堀内、1991）の *Navicula mutica* が優占し、同じく陸生珪藻のA群の *Navicula contenta*, *Eunotia praerupta* var. *bidens*, *Hantzschia amphioxys* を伴う。このうち、*Eunotia praerupta* var. *bidens* は、湿地などにも豊富に産出する種である。9層（試料番号14）では、陸生珪藻が減少し、好流水性で中~下流性河川指標種群（安藤、1990）の *Cymbella turgidula*, *Rhoicobphenia abbreviata*, *Achnanthes lanceolata* などが多産する。また、流水不定性の *Gomphonema parvulum*, *G. olivaceum* が多産する。なお、本試料が



第84図 第1地点の珪藻化石層位分布図

海水-汽水-淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体を基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示した。なお、●は1%未満の産出を示す。

環境指標種: [A]:外洋性指標種、[B]:内湾指標種、[K]:中～下流性河川指標種、[O]:沼沢湿地付着生種、#:好汚濁性種、##:好清水性種、[-]:陸生珪藻([-A]:A群、[-B]:B群)

Species Name	Ecology			2	3	5	6	7	8	9	10	11	12	14	15	20
	H.R.	pH	C.R.													
Actinocyclus in gens Rattray Ogh-ind	Euh			-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
[A] Actinocyclus senarius (Ehr.) Ehrenberg	Euh			-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Cocconeis vitrea Brun	Euh			-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Cocconeis spp.	Euh			-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
Denticulopsis hustedtii (Simonsen and Kanaya) Simonsen	Euh			-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	1
Denticulopsis lauta (Bail.) Simonsen	Euh			1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Denticulopsis spp.	Euh			2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[D] Dimogramma fulvum (Greg.) Ralfs	Euh			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Grammatophora nacilemta W.Smith	Euh			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
Grammatophora oceanica (Ehr.) Grunow	Euh			-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
Plagiogramma staurophorum (Greg.) Heiberg	Euh			-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[B] Paralia sulcata (Ehr.) Cleve	Euh			1	1	2	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-
[A] [B] Thalassionema nitzschioides Grunow	Euh			22	13	12	-	1	12	12	12	12	1	12	2	4
Thalassionema nitzschioides var.parva Heiden and Kolbe	Euh			-	-	-	-	-	2	-	1	2	-	1	1	-
Thalassionema spp.	Euh			1	-	-	1	-	-	2	1	-	-	-	-	1
Thalassiothrix longissima Cleve and Grunow	Euh			1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
[B] Cyclotella striata-C, stylorum *	Euh-Meh			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
Diploneis (Ehr.) Cleve	Euh-Meh			1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Rhaphoneis sp.	Euh-Meh			1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[E] Nitzschia granulata Grunow	Meh			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Nitzschia levidensis (W.Smith) Grunow	Meh			-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
## Achnanthes clevei Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
## Achnanthes convergens H.Kobayashi	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
## Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-hil	al-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Achnanthes inflata Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
[K] Achnanthes lanceolata (Breb.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	2	1	2	-	-	-	-	-	-	11	9	-	-
[K] Achnanthes lanceolata var. elliptica Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
## Achnanthes subhudsonis Hustedt	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
Achnanthes tropica Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
Amphora fontinalis Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
[* A] Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[* B] Amphora normanii Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.) V.Heurck	Ogh-ind	ai-bi	ind	3	1	5	-	-	-	1	-	3	2	6	1	-
Amphora pediculus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	1	-
Amphora veneta Kuetzing	Ogh-hil	al-bi	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[M] Auracoseira granulata (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Auracoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Caloneis bacillum (Grun.) Mereschkovsky	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-
Caloneis branderii (Hust.) Krammer	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[* B] Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	2	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
[*] Caloneis sp.-2	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
## Cocconeis pediculus Ehrenberg	Ogh-ind	al-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Cocconeis placentula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
## Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	2	3	1	-	-	-	-	-	-	-	7	1	-
## Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
## [O] Cymbella aspera (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
[*] Cymbella arakawana H.Kobayashi	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
## [O] Cymbella cistula (Hemp.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-
Cymbella helvetica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
## [K] Cymbella minuta Hilse ex Rabh	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
[O] Cymbella naviculliformis Auersvald	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
## Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
## [K] Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	al-il	r-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
## Cymbella tumida (Breb.) V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
## [K] Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	9	-	2	-	-	3	-	-	-	-	18	-	-
## Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzov	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
[* A] Diatomella balforiana (W.Smith) Grevil	Ogh-ind	ind	ind	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-
Diploneis parva Cleve	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
[*] Diploneis yatukaensis Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
Epithemia adnata (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
Epithemia sorex Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Epithemia turgida (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
[O] Eunotia incisa W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Eunotia lunaris (Ehr.) Grunow	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Eunotia lunaris var. subarcuata (Naeg.) Grunow	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
[O] Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	1	-	-
[* B] [O] Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	39	-
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	-	1
Fragilaria construens (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
## Fragilaria construens var. venter (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	1	1	1	-	-	-	-	-	-	8	1	1	-
## Fragilaria vaucheriae (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-

第4表-1 珪藻化石分析結果 (第1地点) ①

Species Name	Ecology			2	3	5	6	7	8	9	10	11	12	14	15	20
	H.R.	pH	C.R.													
<i>Fragilaria virescens</i> Ralfs	Ogh-ind	al-il	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
<i>Frustulla vulgaris</i> (Thwait.) De Toni	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	3	-	-	-	-	-	-	2	4	2	-
<i>Gomphonema augur</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
## <i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	1	1	1	-	-	1	-	-	-	-	4	-	-
[O] <i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-bi	l-ph	-	1	2	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-
<i>Gomphonema minutam</i> (Agardh) Agardh	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema olivaceum</i> (Lyngb.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-
<i>Gomphonema parvalum</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	2	4	5	-	-	-	-	-	-	4	4	-	-
<i>Gomphonema pumilum</i> (Grun.) Reichardt&Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	19	-
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gyrosigma acuminatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gyrosigma scalproides</i> (Rabh.) Cleve	Ogh-ind	al-bi	r-ph	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gyrosigma</i> spp.	Ogh-un	unk	unk	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[• A] <i>Hantzchia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	2	5	9	1	-	1	-	-	3	14	2	10	-
[• A] <i>Melosira roeseana</i> Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Navicula americana</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula cari</i> Eherenberg	Ogh-ind	al-il	r-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Navicula clementis</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
## [• A] <i>Navicula contenta</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	21	-
<i>Navicula cryptocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
## <i>Navicula cuspidata</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	ind	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
## <i>Navicula cuspidata</i> var. <i>ambigua</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-bi	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula digitulus</i> Hustedt	Ogh-un	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
[O] <i>Navicula elginensis</i> (Greg.) Ralfs	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>cuneata</i> H.Kobayashi	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
## <i>Navicula goeppertiana</i> (Eleich) H.L.Smith	Ogh-hil	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-
<i>Navicula goeppertianavar. peguana</i> (Grun.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
[• B] <i>Navicula ignota</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
[• B] <i>Navicula ignota</i> var. <i>plustris</i> (Hust.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
<i>Navicula kotschyi</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula laevissima</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	5	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
## [• A] <i>Navicula mutica</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	2	5	12	-	-	1	-	2	1	19	11	77	-
<i>Navicula plausibilis</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	-
<i>Navicula protracta</i> Grunow	Ogh-hil	ind	ind	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-
## <i>Navicula pupula</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	3	1	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
<i>Navicula pusio</i> Cleve	Ogh-ho	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Navicula radiosa</i> fo. <i>nipponica</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Navicula recens</i> Lange-Bertalot	Ogh-un	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
[•] <i>Navicula tokyoensis</i> H.Kobayashi	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-
<i>Navicula trivialis</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
[K] <i>Navicula viridula</i> var. <i>rostellata</i> (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-un	unk	unk	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-
[• A] <i>Nedium alpinum</i> Hustedt	Ogh-un	unk	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
<i>Nedium ampliata</i> (Ehe.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[•] <i>Nedium bisulcatum</i> (La gerst.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nedium hercynicum</i> A.Mayer	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Nitzschia amphibia</i> Gunow	Ogh-ind	al-bi	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	11	1	1	-
[• B] <i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-hil	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	3	3	-
[• A] <i>Nitzschia denticula</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia linearis</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-
<i>Nitzschia parstris</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
[•] <i>Nitzschia perminuta</i> (Grun.) Peragallo	Ogh-ind	ind	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
## <i>Nitzschia romana</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia sinuata</i> var. <i>delognei</i> (Grun.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[•] <i>Nitzschia terrestris</i> (Pet.) Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
[O] <i>pinnularia acrospheria</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
[• A] <i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
[• A] <i>pinnularia bonealis</i> var. <i>rectangularis</i> Carlson	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>linearis</i> Hustedt	Ogh-ho	ac-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia legumen</i> Ehrenberg	Ogh-ho	ind	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[• A] <i>Pinnularia obscura</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-ind	ind	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
[•] <i>Pinnularia schoenfelderi</i> (Hust.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	-
[•] <i>Pinnularia schroederii</i> (Hust.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind	3	18	14	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia streptoraphe</i> Cleve	Ogh-ho	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[• B] <i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
<i>Pinnularia ueno</i> Skvortzow	Ogh-ho	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
[O] <i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ho	ac-il	ind	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-un	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
## [K] <i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lange-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	2	1	1	-	-	-	-	-	1	-	11	-	-

第4表-2 珪藻化石分析結果 (第1地点) ②

Species Name	Ecology			2	3	5	6	7	8	9	10	11	12	14	15	20
	H.R.	pH	C.R.													
Rhoicosphenia gibba (Ehr.) O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Rhoicosphenia gibberula (Ehr.) O.Muller	Ogh-hil	al-bi	ind	2	6	3	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Stauroneis anceps Eherenberg	Ogh-ind	ind	ind	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Stauroneis anceps fo. linearis (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
[*] Stauroneis borrichii (Pet.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Stauroneis kriegeri Patrick	Ogh-ind	ind	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Stauroneis laenburgiana Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Stauroneis laenburgiana fo. angulata Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[*B] Stauroneis obtusa Lagerst	Ogh-ind	ind	ind	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O] Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O] Stauroneis phoenicenteron var. hattorii Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[*B] Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Surirella angusta Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Surirella ovata var. pinnata (W.Smith) Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Synedra parasitica (W.Smith) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Synedra ulna (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
Marine Water Species				28	16	15	1	1	16	15	18	15	1	17	3	26
Marine to Brackish Water Species				2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
Brackish Water Species				0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Fresh Water Species				71	83	87	2	1	12	1	2	26	207	189	193	1
Total Number of Diatoms				101	101	102	3	2	28	16	20	41	208	206	196	31

第4表-3 珪藻化石分析結果(第1地点)③

凡例

H.R.:塩分濃度に対する適応性 ph:水素イオンに対する適応性 C.R.:流水に対する適応性

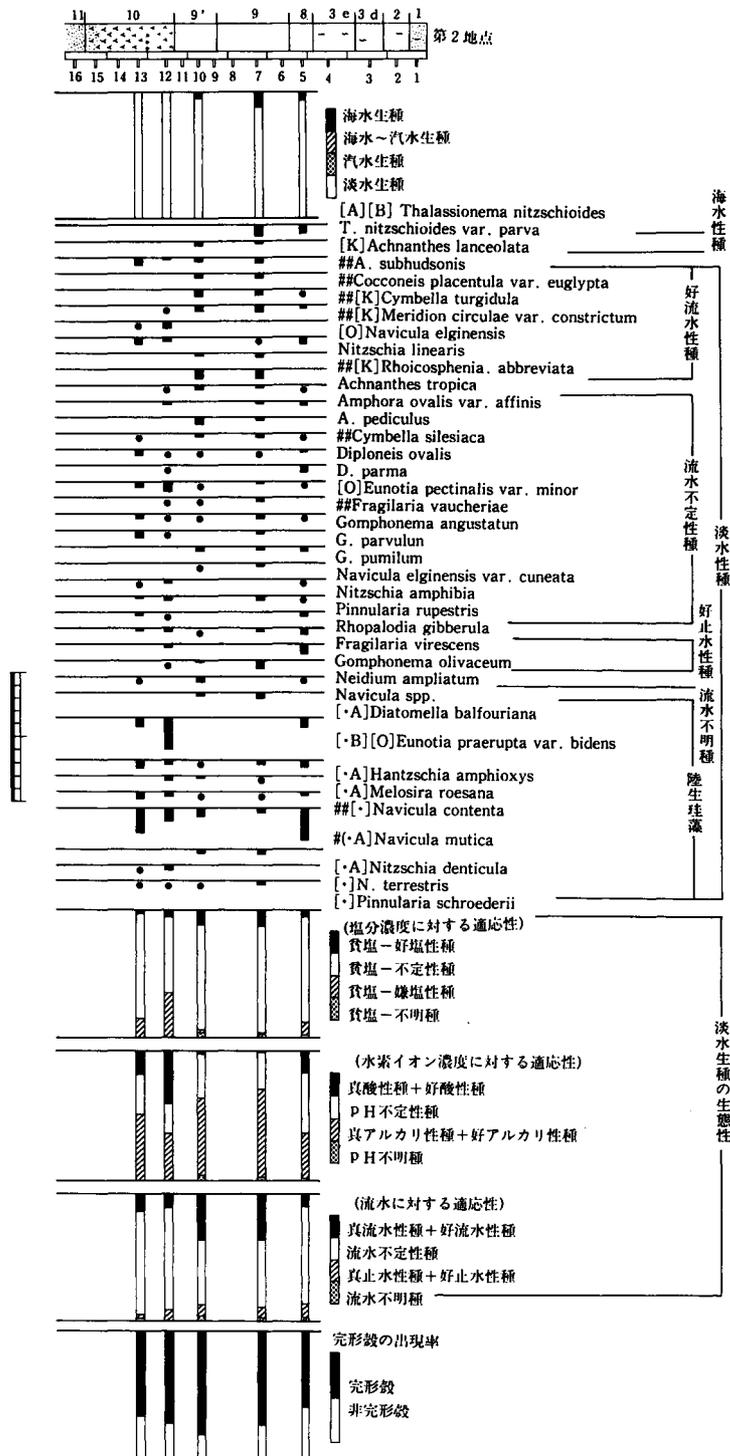
- | | | |
|-------------------|---------------|-------------|
| Euh :海水生種 | al-bi:真アルカリ性種 | l-bi:真止水性種 |
| Euh-Meh:海水生種-汽水生種 | al-il:好アルカリ性種 | l-ph:好止水性種 |
| Meh :汽水生種 | ind :ph不定性種 | ind :流水不定性種 |
| Ogh-hil:貧塩好塩性種 | ac-il:好酸性種 | r-ph:好流水性種 |
| Ogh-ind:貧塩不定性種 | ac-bi:真酸性種 | r-bi:真流水性種 |
| Ogh-hob:貧塩嫌塩性種 | unk :ph不明種 | unk :流水不明種 |
| Ogh-unk:貧塩不明種 | | |

環境指標種群

[A]:外洋指標種、[B]:内湾指標種、[D1]:海水砂質干潟指標種、[E1]:海水泥質干潟指標種、(以上は小杉1989)、[K]:中~下流性河川指標種、[M]:湖沼浮遊性種、[O]:沼沢湿地付着生種(以上は安藤1990) #:好汚濁性種、##:好清水性種、(以上は渡辺ほか1986)、[*]:陸生珪藻、([A]:A群、[B]:B群)(伊藤・堀内1991)

本試料から海水浮遊性のThalassionema nitzschioidesが産出するがその多くは破片である。8層(試料番号12)では、好流水性種が減少し沼沢や湿地に一般的な沼沢湿地付着生種群(安藤、1990)のNavicula elginensis, Eunotia pectinalis var.minor、好止水性のFragilaria brevistriata, F.construens var. venterを伴う。

4~7層(試料番号6~11)では珪藻化石の産出は極めて少ない。特に試料番号8~10からは、第三紀層の示準化石とされるActinocyclus ingens, Denticulopsis lauta, D.hustedtiiなどが産出する。3c・3a層(試料番号5・3)では、陸生珪藻のPinnularia schroederii、陸生珪藻のA群のNavicula mutica, Hantzschia amphioxysが多産する。また、海水浮遊性のThalassionema nitzschioidesも多産するが、その多くは破片である。2層(試料番号2)では、陸生珪藻が減少し、中~下流性河川指標種群の



第85図 第2地点の珪藻化石層位分布図

海水-汽水-淡水生産産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体を基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示した。なお、●は1%未満の産出を示す。

環境指標種: [A]:外洋性指標種、[B]:内湾指標種、[K]:中~下流性河川指標種、[O]:沼沢湿地付着生種、#:好汚濁性種、##:好清水性種、[・]:陸生珪藻 ([・A]:A群、[・B]:B群)

Species Name	Ecology			5	7	10	12	13	15	16
	H.R.	pH	C.R.							
[A] Actinocyclus senarius (Ehr.) Ehrenberg	Euh			-	1	-	-	-	-	-
Azpeitia nodulifer (Simonsen and Kanaya) Simonsen	Euh			-	-	1	-	-	-	-
Denticulopsis hustedtii (Simonsen and Kanaya) Simonsen	Euh			1	2	3	-	-	-	-
[B] Paralia sulcata (Ehr.) Cleve	Euh			-	1	-	-	-	-	-
[A] [B] Thalassionema nitzschioides Grunow	Euh			7	16	-	-	-	-	-
Thalassionema nitzschioides var. parva Heiden and Kolbe	Euh			-	2	7	-	-	-	-
Thalassionema spp.	Euh			-	-	1	-	-	-	-
[E2] Nitzschia sigma (Kuetz.) W. Smith	Euh-Meh			-	-	1	-	-	-	-
[D1] Achnanthes brebipes var. intermedia (Kuetz.) Cleve	Meh			-	1	-	-	-	-	-
Diploneis pseudovalis Hustedt	Meh			-	-	1	-	-	-	-
## Achnanthes clevei Grunow	Ogh - ind	al-il	l-ph	-	1	1	-	-	-	-
## Achnanthes convergens H. Kobayashi	Ogh - ind	ind	r-ph	-	-	2	-	-	-	-
## Achnanthes crenulata Grunow	Ogh - ind	al-il	ind	-	-	1	-	-	-	-
Achnanthes hungarica Grunow	Ogh - hil	al-il	ind	-	1	-	-	-	-	-
[K] Achnanthes lanceolata (Breb.) Grunow	Ogh - ind	al-il	r-ph	-	7	6	3	13	-	-
[K] Achnanthes lanceolata var. elliptica Hustedt	Ogh - ind	al-il	r-ph	-	-	1	-	-	-	-
## Achnanthes subhudsonis Hustedt	Ogh - ind	ind	r-ph	-	5	6	-	-	-	-
Achnanthes tropica Hustedt	Ogh - ind	ind	ind	1	4	6	1	-	-	-
Amphora inariensis Krammer	Ogh - unk	unk	unk	-	-	2	1	-	-	-
[* B] Amphora normanii Rabenhorst	Ogh - ind	al-il	ind	1	2	1	1	2	-	-
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.) V. Heurck	Ogh - ind	al-bi	ind	3	2	-	5	-	-	-
Amphora pediculus (Kuetz.) Grunow	Ogh - ind	al-bi	ind	-	4	11	-	-	-	-
Bacillaria paradoxa Grunow	Ogh - hil	al-bi	l-ph	-	-	1	2	-	-	-
Caloneis bacillum (Grun.) Mereschkowsky	Ogh - ind	al-il	r-ph	1	-	2	1	1	-	-
[* B] Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh - ind	ind	ind	2	-	-	2	3	-	-
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh - ind	al-il	ind	-	-	-	-	2	-	-
[*] Caloneis sp.-2	Ogh - unk	unk	unk	2	-	-	-	1	-	-
Cocconeis placentula (Ehr.) Cleve	Ogh - ind	al-il	ind	-	2	1	-	-	-	-
## Cocconeis placentula var. eu glypta (Her.) Cleve	Ogh - ind	al-il	r-ph	1	8	11	-	-	-	-
## Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.) Cleve	Ogh - ind	al-il	r-ph	-	-	1	-	-	-	-
[*] Cymbella arakawana H. Kobayashi	Ogh - ind	al-il	ind	-	-	3	-	-	-	-
## [O] Cymbella cistula (Hemp.) Grunow	Ogh - ind	al-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-
## Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh - ind	ind	ind	-	-	3	-	-	-	-
## [K] Cymbella minuta Hilse ex Rabh	Ogh - ind	ind	r-ph	-	1	-	-	-	-	-
[O] Cymbella naviculliformis Auerswald	Ogh - ind	ind	ind	-	1	-	-	-	-	-
## Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh - ind	ind	ind	1	5	5	-	1	-	-
## [K] Cymbella sinuata Gregory	Ogh - ind	al-il	r-ph	-	3	-	-	-	-	-
## [K] Cymbella turgidula Grunow	Ogh - ind	ind	r-ph	2	9	9	1	-	-	-
## Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh - ind	ind	r-ph	-	2	1	-	-	-	-
Diatoma elongatum Agardh	Ogh - hil	ind	ind	-	1	-	-	-	-	-
[* A] Diatomella balfouriana (W. Smith) Gravit	Ogh - ind	ind	ind	-	7	4	-	-	-	-
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh - ind	al-il	ind	2	1	2	2	9	-	-
Diploneis parva Cleve	Ogh - ind	ind	ind	6	-	-	1	-	-	-
[*] Diploneis yatukaensis Horikawa et Okuno	Ogh - ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-
Epithemia adnata (Kuetz.) Brebisson	Ogh - ind	al-bi	ind	-	1	-	-	-	-	-
Epithemia turgida (Ehr.) Kuetzing	Ogh - ind	al-zing	l-ph	-	1	-	-	-	-	-
[P] Eunotia exigua (Breb.) Grunow	Ogh - hob	ac-bi	ind	-	-	1	1	-	-	-
Eunotia turgida (Ehr.) Rabenhorst	Ogh - hob	ind	l-bi	1	-	-	1	-	-	-
Eunotia lunaris var. subarcuata (Naeg.) Grunow	Ogh - hob	ac-il	ind	-	-	-	4	-	-	-
[O] Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh - hob	ac-il	ind	1	2	1	15	8	-	-
[* B] [O] Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh - hob	ac-il	ind	-	-	-	-	1	-	-
[* B] [O] Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh - hob	ac-il	ind	8	-	-	51	15	-	-
## Fragilaria vaucheriae (Kuetz.) Petersen	Ogh - ind	al-il	ind	-	5	2	1	-	-	-
Fragilaria virescens Ralfs	Ogh - ind	al-il	l-ph	8	-	-	5	-	-	-
Frustula vulgaris (Thwait.) De Toni	Ogh - ind	ind	ind	-	-	4	-	1	-	-
[O] Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh - ind	al-bi	l-ph	-	-	-	1	-	-	-
Gomphonema angustum Agardh	Ogh - ind	al-il	ind	-	1	-	-	-	-	-
Gomphonema angustum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh - ind	al-il	ind	1	5	1	1	6	-	-
Gomphonema angustum var. linearis Hustedt	Ogh - ind	ac-il	unk	-	-	-	-	2	-	-
## Gomphonema clevei Fricke	Ogh - ind	al-bi	r-ph	-	3	1	-	-	-	-
[O] Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh - ind	al-bi	l-ph	-	-	2	3	1	-	-
Gomphonema olivaceum Cleve	Ogh - ind	al-il	l-ph	-	11	3	1	-	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh - ind	al-il	ind	-	4	-	1	11	-	-
Gomphonema pumilum (Grun.) Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh - ind	al-il	ind	-	3	4	7	-	-	-
Gyrosigma scalproides (Rabh.) Cleve	Ogh - ind	al-bi	r-ph	-	1	4	1	-	-	-
[* A] Hantzschia amphioxys (Her.) Grunow	Ogh -	al-il	ind	6	5	1	7	13	-	-
[* A] Melosira roeseana Rabenhorst	Ogh - ind	ind	ind	-	1	3	6	-	-	-
Melosira undulata (Ehr.) Kuetzing	Ogh - ind	ind	l-ph	-	-	1	-	-	-	-
## [K] Meridion circulae Agardh	Ogh - ind	al-il	r-bi	-	1	1	1	-	-	-
## [K] Meridion circulae var. constrictum (Ralfs) V. Heurck	Ogh - ind	al-il	r-bi	-	-	-	11	1	-	-
[*] Navicula bryophila Boye-Petersen	Ogh - ind	al-il	ind	-	-	-	-	1	-	-
Navicula cincta (Ehr.) Kuetzing	Ogh - hil	al-il	ind	-	-	1	2	1	-	-
Navicula clementis Grunow	Ogh - ind	al-il	ind	-	-	1	-	-	-	-
[*] Navicula cohnii (Hilse) Lange-Bertalot	Ogh - ind	al-bi	ind	-	-	2	-	-	-	-

第5表-1 珪藻化石分析結果(第2地点)①

Species Name	Ecology			5	7	10	12	13	15	16
	H.R.	pH	C.R.							
# # [• A] Navicula contenta Grunow	Ogh - ind	al-il	ind	2	1	1	7	10	-	-
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh - ind	al-il	ind	-	1	1	-	-	-	-
Navicula cryptotenella Lange-Bertalot	Ogh - ind	ind	ind	-	1	-	-	-	-	-
[K] Navicula decussis Oestrup	Ogh - ind	al-il	r-ph	-	-	1	-	-	-	-
Navicula digitulosa Hustedt	Ogh - unk	unk	unk	-	4	1	-	-	-	-
[O] Navicula elginensis (Greg.) Ralfs	Ogh - ind	al-il	r-ph	6	1	-	6	10	-	-
Navicula elginensis var. cuneata H.Kobayashi	Ogh - ind	al-il	ind	1	-	-	5	2	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.) Patrick	Ogh - ind	al-il	r-ph	-	-	1	-	2	-	-
# Navicula goeppertiana (Bleisch) H.L.Smith	Ogh - hil	al-il	ind	-	-	-	1	-	-	-
Navicula germainii Wallace	Ogh - hil	al-il	ind	-	2	2	-	-	-	-
Navicula kotschyi Grunow	Ogh - ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-
Navicula laevisissima Kuetzing	Ogh - ind	al-il	ind	-	-	-	1	-	-	-
# [• A] Navicula mutica Kuetzing	Ogh - ind	ind	ind	27	5	13	22	38	-	-
[•] Navicula placenta Ehrenberg	Ogh - ind	ind	ind	-	-	-	-	2	-	-
Navicula plausibilis Hustedt	Ogh - ind	ind	ind	-	-	-	-	1	-	-
Navicula protracta Grunow	Ogh - hil	ind	ind	-	3	1	-	-	-	-
Nitzschia palustris Hustedt	Ogh - ind	ind	unk	1	-	-	-	-	-	-
# Navicula pupula Kuetzing	Ogh - ind	al-il	ind	-	-	-	1	3	-	-
Navicula radiosa Kuetzing	Ogh - ind	ind	ind	-	1	-	4	-	-	-
Navicula recens Lange-Bertalot	Ogh - unk	unk	unk	-	-	4	1	-	-	-
Navicula rhychocephala Kuetzing	Ogh - ind	al-il	ind	-	-	-	1	2	1	-
[•] Navicula tokyoensis H.Kobayashi	Ogh - ind	ind	ind	-	-	-	-	3	-	-
[K] Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.) Cleve	Ogh - ind	al-il	r-ph	-	2	2	-	-	-	-
Navicula spp.	Ogh - unk	unk	unk	-	-	-	-	1	-	-
[• A] Nedium alpinum Hustedt	Ogh - unk	unk	ind	-	-	-	-	1	-	-
Nedium ampliata (Ehe.) Krammer	Ogh - ind	ind	l-ph	1	-	8	-	1	-	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh - ind	al-bi	ind	1	6	-	6	3	-	-
[• B] Nitzschia brevissima Grunow	Ogh - hil	al-il	ind	1	-	3	2	2	-	-
[• A] Nitzschia denticula (Kuetz.) Grunow	Ogh - ind	al-bi	ind	-	6	5	-	-	-	-
Nitzschia hantzschiana Rabenhorst	Ogh - ind	al-bi	ind	-	-	2	-	-	-	-
Nitzschia linearis W.Smith	Ogh - ind	al-il	r-ph	-	6	4	-	-	-	-
Nitzschia parstris Hustedt	Ogh - ind	ind	unk	-	-	-	1	-	-	-
Nitzschia sinuata var. delognei (Grun.) Lange-Bertalot	Ogh - ind	al-il	l-ph	-	1	-	-	-	-	-
[•] Nitzschia terrestris (Pet.) Hustedt	Ogh - ind	ind	ind	-	-	-	7	1	-	-
Pinnularia acuminata W.Smith	Ogh - hob	ac-il	ind	-	-	-	-	1	-	-
[O] pinnularia acrospheria W.Smith	Ogh - ind	al-il	l-ph	1	-	-	-	1	-	-
[• A] pinnularia bonealis var. rectangularis Carlson	Ogh - ind	ind	ind	-	-	-	-	1	-	-
Pinnularia brevicostata var. sumatrana Hustedt	Ogh - ind	ac-il	l-ph	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia divergentissima (Grun.) Cleve	Ogh - ind	ac-il	ind	-	-	-	-	1	-	-
[O] Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh - ind	ac-il	ind	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia gibba var. linearis Hustedt	Ogh - hob	ac-il	ind	-	-	1	1	-	-	-
Pinnularia major Kuetzing	Ogh - hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-
Pinnularia mesolepta (Ehr.) W.Smith	Ogh - hob	ac-il	ind	-	-	-	-	1	-	-
# Pinnularia microstauron (Ehr.) Cleve	Ogh - ind	ac-il	ind	-	-	-	-	2	-	-
[O] Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh - hob	ac-il	l-ph	-	-	-	2	-	-	-
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh - ind	ind	ind	3	-	-	1	4	-	-
[•] Pinnularia schroderii (Hust.) Krammer	Ogh - ind	ind	ind	-	4	1	1	1	-	-
[•] Pinnularia sinistra Krammer	Ogh - unk	unk	unk	-	-	1	-	-	-	-
Pinnularia stomatophora (Grun.) Cleve	Ogh - ind	ac-il	l-ph	-	-	-	2	2	-	-
[• B] Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh - ind	ind	ind	1	-	-	-	1	-	-
[O] Pinnularia viridis (Nitz.) Ehrenberg	Ogh - hob	ac-il	ind	-	-	-	2	2	-	-
# # [K] Rhoicosphenia abbreviata (Ag.) Lange-Bertalot	Ogh - hil	al-il	r-ph	-	13	14	-	-	-	-
Rhopalodia gibberula (Ehr.) O.Muller	Ogh - hil	al-bi	ind	5	3	1	5	3	-	-
Rhopalodia novae-zealandiae Hustedt	Ogh - ind	al-il	ind	-	1	-	-	-	-	-
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh - ind	ind	ind	-	-	-	1	-	-	-
Stauroneis anceps fo. linearis (Ehr.) Hustedt	Ogh - ind	ind	ind	-	-	-	-	1	-	-
Stauroneis lauenburgiana fo. angulata Hustedt	Ogh - ind	al-il	ind	-	-	-	-	1	-	-
[• B] Stauroneis tenera Hustedt	Ogh - ind	ind	ind	-	-	-	-	2	-	-
Suirella angusta Kuetzing	Ogh - ind	al-il	r-bi	-	-	-	-	1	-	-
Suirella ovata Kuetzing	Ogh - ind	al-il	r-bi	-	-	1	-	-	-	-
Suirella ovata var. pinnata (W.Smith) Hustedt	Ogh - ind	al-il	r-ph	-	1	-	-	-	-	-
Suirella spp.	Ogh - unk	unk	unk	-	-	1	-	-	-	-
Synedra parasitica (W.Smith) Hustedt	Ogh - ind	al-il	ind	-	-	-	-	3	-	-
Synedra rumpens var. fragilarioides Grunow	Ogh - ind	ind	ind	-	-	1	-	-	-	-
Synedra ulna (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh - ind	al-il	ind	-	1	2	2	-	-	-
Marine Water Species				8	22	12	0	0	0	0
Marine to Brackish Water Species				0	0	1	0	0	0	0
Brackish Water Species				0	1	1	0	0	0	0
Fresh Water Species				102	176	189	217	203	0	0
Total Number of Diatoms				110	199	203	217	203	0	0

第 5 表 - 2 珪藻化石分析結果 (第 2 地点) ②

Cymbella turgidula, *Rhoicosphenia abbreviata*, *Achnanthes lanceolata*などが多産する。また、海水浮遊性の*Thalassionema nitzschioides*も多産するが、その多くは破片である。

・第2地点

分析結果を第5表・第86図に示す。珪藻化石の産状は、下位の試料番号16・15で少なかった他は、豊富に産出する。産出種は淡水生種が優占するが、第1地点と同様に海水生種も多く産出する。また、陸生珪藻も多産する。産出分類群数は、34属140分類群(112種・22変種・2品種・種不明4種類)である。完形殻の出現率は、60%~80%と高かった。淡水生種の生態性の特徴は、塩分に対しては全般的に不定性種が優占するが、試料番号12では貧塩-嫌塩性種が多産する。pHに対しては、試料により異なり、試料番号12・10は好アルカリ性種、試料番号12は好酸性種、それ以外の試料は様々なpH値を示標する珪藻化石が混在する。水の流動に対しては、試料番号10・7から流水性の珪藻が多産するが、それ以外の試料では流水不定性種が優占する。以下に産出種の特徴を述べる。

10層(試料番号13・12)では、陸性珪藻のA群の*Navicula mutica*, *Eunotia praerupta* var. *bidens*が多産し、同じく陸性珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*, *Navicula contenta*を伴う。水性珪藻では沼沢湿地付着生種群の*Eunotia pectinalis* var. *minor*, *Navicula elginensis*, 中~下流性河川指標種群の*Achnanthes lanceolata*, *Meridion circularae* var. *constrictum*を伴う。9・9'層(試料番号10・7)では、好流水性で中~下流性河川指標種群の*Cymbella turgidula*, *Rhoicosphenia abbreviata*, *Achnanthes lanceolata*, 好流水性の*Achnanthes subhudsonis*, *Cocconeis placentula* var. *euglypta*, *Nitzschia linearis*などが多産する。また、海水浮遊性の*Thalassionema nitzschioides*も多産するが、その多くは破片からなる。8層(試料番号5)では、流水性の珪藻は減少し、陸生珪藻のA群の*Navicula mutica*が優占し、*Eunotia praerupta* var. *bidens*, *Hantzschia amphioxys*を伴う。また、流水不定性の*Diploneis palma*, *Fragilaria virescens*, *Rhopalodia gibberula*を伴う。

3. 花粉化石

結果を第6表・第7表に示す。第1地点・第2地点とも全般的に花粉化石の保存が悪く、ほとんど検出されない試料が多い。花粉化石が少数検出される試料(第1地点の試料番号5・6'第2地点の試料番号10・13)については、シダ類孢子や針葉樹類(マツ属・スギ属・モミ属・ツガ属)の割合が高い。

なお、弥生時代の水田層に伴う溝からは、比較的良好に検出される。木本花粉では、コナラ属アカガシ亜属が高率で、コナラ属コナラ亜属などが比較的多く検出され、草本類ではイネ科(栽培種であるイネ属を含む)が多く検出される。

4. 植物珪酸体

結果を第8表・第9表、第87図・第88図に示す。イネ科植物起源の植物珪酸体は、短細胞珪酸体・機動細胞珪酸体ともに保存状態が悪く、第1地点で検出が少ない層位が認められる。以下、各地点ごとに産状を述べる。

・第1地点

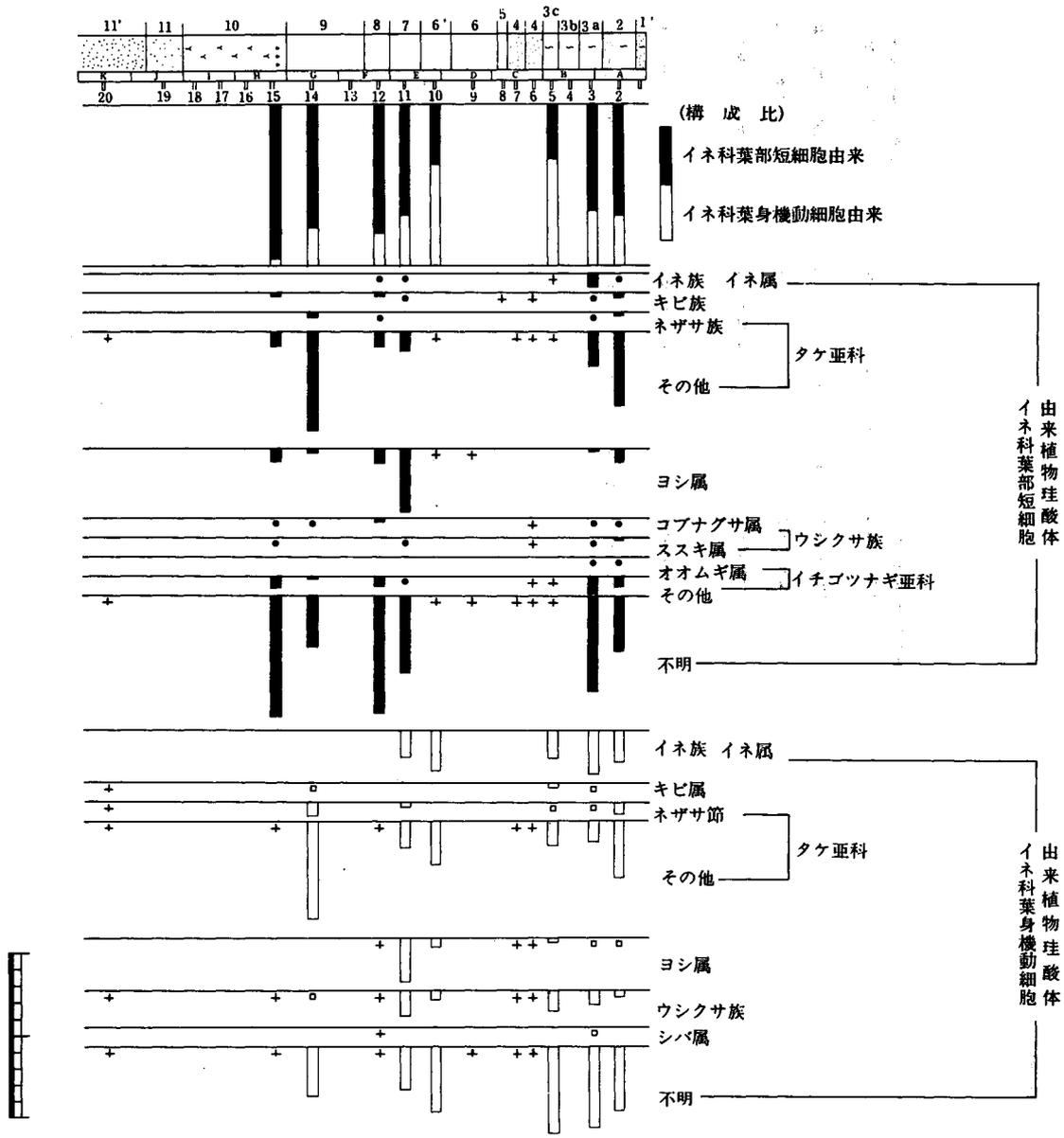
植物珪酸体は、保存状態が悪く11層(試料番号20)・6層(試料番号9)~3c層(試料番号5)で短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体の検出個数が少ない。植物珪酸体組成は、10層(試料番号15)は、短細胞珪酸体でタケ亜科・ヨシ属・イチゴツナギ亜科などがほぼ同率に検出される。9層(試料番号14)では、両珪酸体ともタケ亜科が多産する。8層(試料番号12)では、短細胞珪酸体が10層とほぼ同様である。

種 類 (Taxa)	試料番号	2	3	5	6	7	8	9	10	11	12	14	15	20
木本花粉														
モミ属		-	1	3	13	2	1	-	-	3	-	4	17	-
ツガ属		-	1	17	21	-	-	-	-	1	1	4	2	-
トウヒ属		-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-
マツ属		5	-	118	76	5	2	-	1	1	1	3	4	-
コウヤマキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
スギ属		-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	1	-	-
クルミ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
クマシデ属-アサダ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
ハンノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
コナラ属コナラ亜属		1	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-
コナラ属アカガシ亜属		-	-	-	5	-	-	-	-	4	2	-	1	-
クリ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
ニレ属-ケヤキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-
アカメガシワ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
ウコギ科		-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
草本花粉														
ガマ属		-	-	1	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-
イネ属		-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
他のイネ科		-	-	20	16	-	-	-	-	5	1	-	-	-
カヤツリグサ科		-	-	2	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節		-	-	-	3	-	-	-	-	2	1	1	1	-
アカザ科		-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ナデシコ科		-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属		-	-	-	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オナモミ属		-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のキク亜科		-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
不明花粉														
シダ類孢子														
シダ類孢子		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズワラビ属		-	-	2	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-
サンショウモ		-	1	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
オオアカウキクサ		-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のシダ類孢子		165	192	378	445	72	87	5	19	36	32	306	158	17
合 計														
木本花粉		6	2	140	122	7	3	0	1	13	6	16	28	0
草本花粉		0	2	28	65	0	0	0	0	11	3	1	2	0
不明花粉		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シダ類孢子		165	193	397	445	78	89	5	19	36	32	306	158	17
総花粉・孢子		171	197	565	632	85	92	5	20	60	41	323	188	17

第6表 花粉分析結果 (第1地点)

種類 (Taxa)	試料番号	5	7	10	12	13	15	16	水路
木本花粉									
マキ属		-	-	-	-	-	-	-	4
モミ属		-	-	30	1	-	1	-	15
ツガ属		-	-	10	-	-	-	-	10
トウヒ属		-	-	3	-	-	-	-	3
マツ属		2	-	3	-	7	-	-	20
コウヤマキ属		-	-	-	-	-	-	-	1
スギ属		-	-	-	1	25	-	-	12
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		-	-	-	-	5	-	-	-
クルミ属		-	-	-	-	-	-	-	3
クマシデ属-アサダ属		-	-	1	-	-	-	-	4
カバノキ属		-	-	-	-	-	-	-	2
ハンノキ属		-	-	-	1	7	-	-	11
ブナ属		-	-	-	-	-	-	-	3
コナラ属アカガシ亜属		-	-	1	1	6	-	-	30
クリ属		-	-	3	-	3	-	-	72
ニレ属-ケヤキ属		-	-	-	1	2	-	-	2
ツタ属		-	-	6	3	7	-	-	11
ウコギ科		-	-	1	-	-	-	-	-
アオキ属		-	-	-	-	-	-	-	1
ミズキ属		-	-	2	-	-	-	-	-
草本花粉									
ガマ属		-	-	-	-	-	-	-	1
イネ属		-	-	-	-	-	-	-	15
他のイネ科		1	-	1	-	-	-	-	157
カヤツリグサ科		-	-	-	6	1	-	-	31
サナエタデ節-ウナギツカミ節		-	-	-	2	-	-	-	7
ヨモギ属		-	-	-	1	-	-	-	1
他のキク亜科		1	-	-	2	-	-	-	-
タンポポ科		1	-	-	-	-	-	-	-
不明花粉									
		-	-	-	-	-	-	-	2
シダ類孢子									
ミズワラビ属		-	-	-	-	-	-	-	19
オオアカウキクサ		-	-	-	-	3	-	-	-
ミズニラ属		1	-	-	-	-	-	-	-
他のシダ類孢子		116	179	263	61	112	43	9	290
合計									
木本花粉		2	0	60	8	62	1	0	205
草本花粉		3	0	1	11	1	0	0	212
不明花粉		0	0	0	0	0	0	0	2
シダ類孢子		117	179	263	61	115	43	9	309
総花粉・孢子		122	179	324	80	178	44	9	728

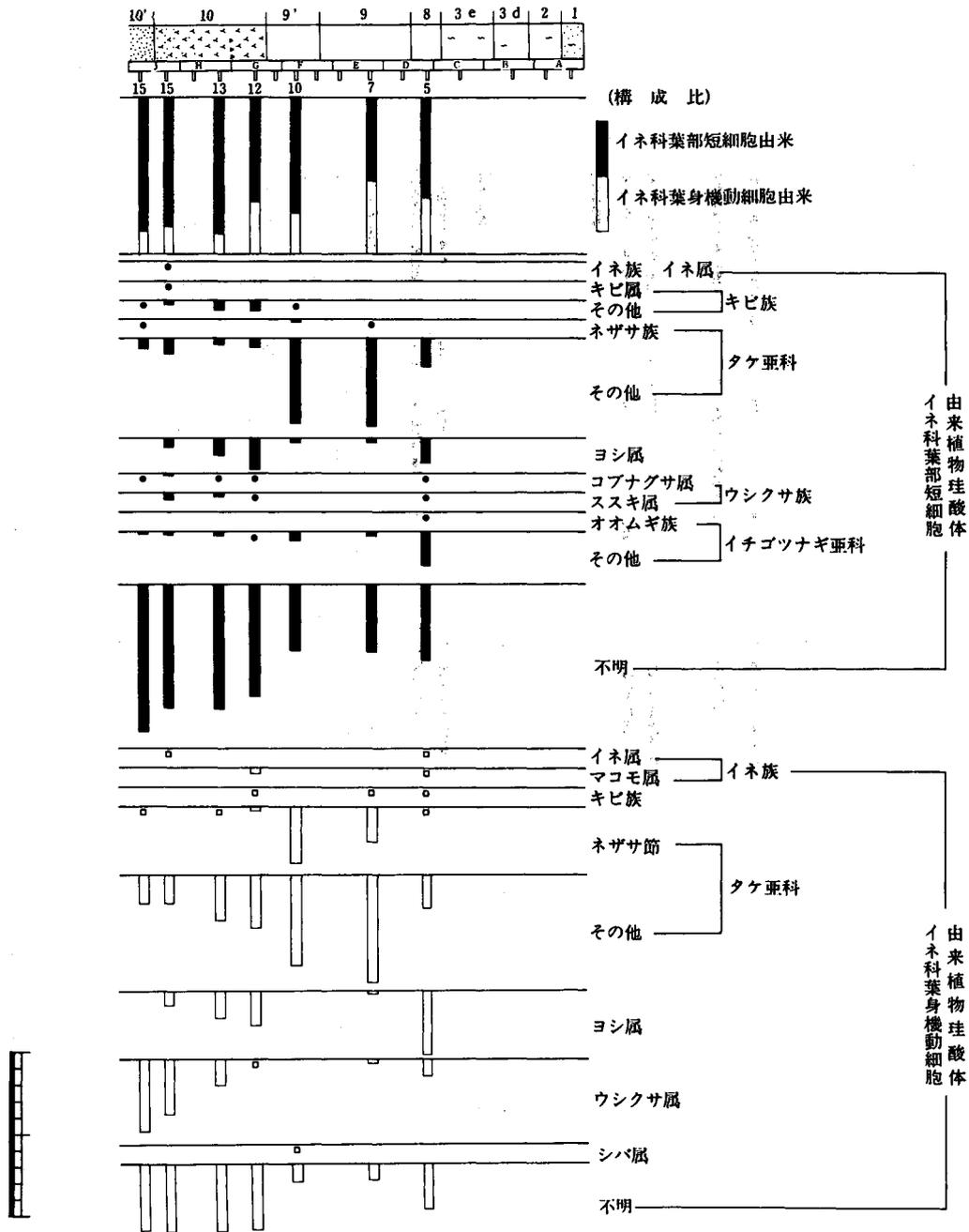
第7表 花粉分析結果 (第2地点)



第86図 第1地点の植物珪酸体層位分布図

検出個体は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体ともにそれぞれの総数を基数として百分率で算出した。なお、●□は1%未満の検出、+は、イネ科葉部短細胞珪酸体については200個体、イネ科葉身機動細胞珪酸体については100個体未満の試料において検出された種類を示す。

7層（試料番号11）では、両珪酸体ともヨシ属が多産し、タケ亜科・ウシクサ族を伴う。6'層～3c層では、植物珪酸体の検出が少なく組成が歪曲している可能性がある。3a層（試料番号3）は、タケ亜科が多産し、イチゴツナギ亜科などを伴う。1'層（試料番号2）は、タケ亜科が多産し、イチゴツナギ亜科・ヨシ属・キビ族を伴う。また、栽培種のイネ属は、8層・7層・6'層・3c層～11層で検出される。



第87図 第2地点の植物珪酸体層位分布図

検出個体は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体ともにそれぞれの総数を基数として百分率で算出した。なお、●□は1%未満の検出、+は、イネ科葉部短細胞珪酸体については200個体、イネ科葉身機動細胞珪酸体については100個体未満の試料において検出された種類を示す。

・第2地点

植物珪酸体組成に変化が認められる。11層（試料番号16）～10層（試料番号12）では、ウシクサ族が多産し、それ以後で減少傾向を示す。ヨシ属が10層（試料番号15）から上位で検出され、上層ほど増加する。9'層（試料番号10）～9層（試料番号7）ではヨシ属・ウシクサ族が減少し、タケ亜科が増加して多産する。8層（試料番号5）ではタケ亜科が減少し、イチゴツナギ亜科や再びヨシ属が増加する。この他、

種 類 (Taxa)	試料番号	2	3	5	6	7	8	9	10	11	12	14	15	20
イネ科葉部短細胞珪酸体														
イネ族イネ属		2	16	5	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-
キビ族		6	1	-	1	-	1	-	-	2	4	-	6	-
タケ亜科ネザサ節		3	1	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-
タケ亜科 (その他)		107	43	13	3	3	-	-	47	30	19	227	33	3
ヨシ属		19	3	-	-	-	-	1	1	98	18	9	30	-
ウシクサ族コブナグサ属		2	1	-	1	-	-	-	-	-	5	1	1	-
ウシクサ族ススキ属		3	1	-	3	-	-	-	-	1	-	-	1	-
イチゴツナギ亜科オオムギ族		1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イチゴツナギ亜科 (その他)		15	20	5	1	-	-	-	-	2	12	5	26	-
不明キビ型		47	43	17	8	6	-	-	9	10	57	22	159	2
不明ヒゲシバ型		43	44	10	1	-	-	-	7	64	61	29	74	1
不明ダンチク型		36	33	15	2	1	-	1	9	47	28	65	28	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体														
イネ族イネ属		19	28	20	-	-	-	-	28	19	-	-	-	-
キビ族		-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
タケ亜科ネザサ節		6	1	1	-	-	-	-	-	2	-	9	-	4
タケ亜科 (その他)		36	13	18	4	2	-	-	31	18	14	65	8	11
ヨシ属		1	1	3	1	1	-	-	6	30	14	-	-	-
ウシクサ族		3	9	16	4	4	-	-	6	17	5	1	3	1
シバ属		-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
不 明		41	54	69	19	8	-	1	47	30	19	32	2	8
合 計														
イネ科葉部短細胞珪酸体		284	207	65	20	10	1	2	73	255	207	370	358	6
イネ科葉身機動細胞珪酸体		109	108	129	28	15	0	1	118	116	53	108	13	25
検出個数		390	315	194	48	25	1	3	191	371	260	478	371	31
組 織 片														
イネ属短細胞列		-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ属機動細胞列		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明機動細胞列		-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第8表 植物珪酸体分析結果 (第1地点)

キビ族などを伴う。また、栽培植物のイネ属については、10層 (試料番号15) ・ 8層 (試料番号5) で僅かに検出される。

第5節 周辺の古環境変遷

分析の結果、第1地点・第2地点では花粉化石がほとんど検出されなかった。また、化石が少量検出された試料中でも針葉樹類やシダ類胞子の割合が高かった。一般に、針葉樹類の花粉やシダ類胞子は広葉樹類に比べ、分解に強いといわれている (徳永・山内、1971)。このことから、第1地点・第2地点の花粉化石の組成は当時の植生を的確に反映しているとはいえず、ここでは考察を差し控える。珪藻化石からみると、第1地点・第2地点ともに海生種・絶滅種など異地性の珪藻化石を多く含んでおり、本遺跡の堆積物は氾濫性の堆積物と考えられる。さらに、陸生珪藻が多い層準、流水性種が多い層準、珪藻化石がほとんど検出されない層準と層ごとに群集が極端に変化することからも、本地域の堆積環境は常に変化し、不安定な状況下にあったことが示唆される。各層毎の堆積環境は、11層では珪藻化石がほとんど検出されないことから、碎屑物の供給が多い氾濫性の堆積物であると考えられる。10層については、泥炭質で湿地性の堆積物と考えられるが、陸生珪藻が多産することから、乾燥することも多かったと考えられる。9層

種 類 (Taxa)	試料番号	5	7	10	12	13	15	16
イネ科葉部短細胞珪酸体								
イネ族イネ属		-	-	-	-	-	1	-
キビ族キビ属		-	-	-	-	-	1	-
キビ族 (その他)		-	-	1	12	36	9	4
タケ亜科ネザサ節		-	2	3	-	-	-	2
タケ亜科 (その他)		37	109	148	11	20	42	35
ヨシ属		33	4	6	40	68	26	-
ウシクサ族コブナグサ属		1	-	-	1	1	6	4
ウシクサ族ススキ属		1	-	-	1	14	21	-
イチゴツナギ亜科オオムギ族		1	-	-	-	-	-	-
イチゴツナギ亜科 (その他)		44	4	13	2	12	7	9
不明キビ型		29	13	11	39	282	147	195
不明ヒゲシバ型		32	28	52	61	131	126	245
不明ダンチク型		39	42	49	48	95	89	136
イネ科葉身機動細胞珪酸体								
イネ族イネ属		1	-	-	-	-	1	-
イネ族マコモ属		1	-	-	3	-	-	-
キビ族		1	1	-	1	-	-	-
タケ亜科ネザサ節		1	39	36	2	1	-	1
タケ亜科 (その他)		26	120	59	35	28	18	18
ヨシ属		50	2	-	23	16	8	-
ウシクサ族		13	3	-	1	15	34	46
シバ属		-	-	1	-	-	-	-
不 明		35	17	11	44	42	42	43
合 計								
イネ科葉部短細胞珪酸体		217	202	283	215	659	475	630
イネ科葉身機動細胞珪酸体		128	182	107	109	102	103	108
検 出 個 数		345	384	390	324	761	578	738

第9表 植物珪酸体分析結果 (第2地点)

では流水性種が多産することから、流水の影響をうけるような状況下におかれていたものと推測される。8層は、第1地点では9層と同様であるが、第2地点では陸生珪藻が多産し乾燥化したものと考えられる。7層～4層では、11層と同様に珪藻化石がほとんど検出されないことから、碎屑物の供給が多い氾濫性の堆積物と考えられる。なお、7層～4層には、弥生時代・古代・中世の各水田面があるが、これらは氾濫堆積物の上に構築されたものと推測され、その上面が洪水性堆積物によって急速に覆われたために水田面が良好に残存したものと考えられる。3c層～2層は、異地性の珪藻化石や陸生珪藻の割合が高く、流水生種を比較的多く伴うことから、広範囲の様々な時代の堆積物を取り込んで堆積した堆積物の可能性がある。

植物珪酸体組成から推定されるイネ科植物相について各層準ごとに述べる。11層が堆積した時代には、上流域や周辺でウシクサ族が多く生育していたと推定される。10層～9層が堆積した時代では、タケ亜科が多く生育していたと推定される。8層・7層では湿った場所を好むヨシ属が多いことから、遺跡周辺に湿地等が存在していたと考えられる。6'層～3c層が堆積するまでは、植物珪酸体の検出が少なくはっきりしたことは不明である。3a層～2層が堆積した時代には、再びタケ亜科が多産し、周辺の湿った場所でヨシ属が生育していた可能性がある。

今回の微化石分析結果は、各層ごとに微化石群集の様態が大きく異なり、推定される古環境も必ずしも層相と調和的であるとはいえない。その要因としては、菅生遺跡の堆積物の大部分が洪水等により広範囲

からもたらされたために、局地性を十分に反映していないことが考えられる。すなわち、本遺跡周辺は各時代とも小櫃川の氾濫の影響等により比較的不安定な堆積環境にあったものとみられ、水田耕作は洪水後、洪水によってもたらされた堆積物を利用して行われていたことが示唆される。各時代の水田層が残存しているのも、こうした水田層が洪水によって短時間のうちに埋没したためであると考えられる。

第6節 稲作の消長とその周辺環境

栽培種のイネ属は、10層・8層・7層・6'層・3c層～2層で検出された。また、弥生時代の稲作に伴うとされる溝からは、イネ属の花粉化石が検出されている。水田層における植物珪酸体分析結果の評価については、現水田耕作土層における植物珪酸体の出現率を算出した調査例が参考となる（近藤、1988）。これによれば、10ha当り500kgのイナワラを堆肥する作業を8年間続けた水田耕作土層では、イネ属機動細胞珪酸体の出現率が16%とされている。水田の様態の違いなどから単純には比較できないが、この値を参考にして稲作の消長に関する検討を行う。弥生時代水田層とされる7層では、イネ属の植物珪酸体の出現率が高く、また水田関連施設からイネ属の花粉化石が検出されたことから、稲作が行われていたものと推定された。しかし、6層や4層といった古代および中世の水田層からはイネ属の植物珪酸体が少なく、稲作が行われていたことを積極的に支持する証拠は得られなかった。このような氾濫性の堆積物の場合、堆積速度が早かったり耕作土が削剥されたりすることが考えられ、植物珪酸体が良好に遺存しなかったものと見られる。なお、6'層・3c層・3a層・2層からは、多くの植物珪酸体が検出される。数値のみで単純に比較すれば、弥生時代の水田層と同様に稲作が行われた可能性があるが、これらの層からは明確な水田遺構は検出されていない。これについては、洪水の影響による削剥などにより畦畔や耕作土の一部が消失した可能性や、他の地域から耕作土が流入した可能性があり速断はできない。今後、周辺の芝野遺跡の成果などを含め慎重な評価を行う必要がある。

第7節 まとめ

今回検出された10層中のテフラは、市原条里制遺跡で検出されたlh-3に対比されることが明らかとなった。lh-3は約2600年前に富士山から噴出したS-15（上杉、1990）に対比される可能性があり、今後周辺地域で広く検出されれば、縄文時代晩期の指標テフラとして有効となろう。

<引用文献>

- 安藤一男1990「淡水産珪藻による環境指標种群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42 ,p.73 - 88.
- Hustedt, F. 1937-1938 'Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen - Flora von Java', "Bali und Sumatra" I ~ III [Arch. Hydrobiol. Suppl., 15 p. 131-809, 16 p.1-155, 274-394.
- Hustedt, F. 1959 'Die Kieselalgen Deutschlands. 2. Teil' "Rabenhorst's Kryptogamen - Flora von Deutschland, Oesterreich und der Schweiz. Bd" 7, p.845.
- 近藤錬三・佐瀬隆 1986 「植物珪酸体分析、その特性と応用」『第四紀研究』25, p.3164.
- 近藤錬三 1988 「十二遺跡の植物珪酸体分析」『鑄師屋遺跡群十二遺跡 - 長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書』（御代田町教育委員会） p.377-383.
- Krammer, K., and H. Lange-Bertalot. 1986. 1988. 1991 "Bacillariophyceae, Suesswasser flora von Mitteleuropa"

2 (1-2,3) :p.1-876,p.1-585,p.1-576.

伊藤良永・堀内誠示 1991「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『Diatom』6,p.23-45.

Lowe,R.L. 1974 "Environmental requirements and pollution tolerance of fresh-water diatoms" .p. 1-334. In Environmental Monitoring Ser. EPA-670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.

徳永重元・山内輝子 1971「花粉・孢子」『化石の研究法』、共立出版 ,P.50-73

上杉 陽 1990「富士火山東方地域のテフラ標準柱状図-その1:S-25~Y-114-」『関東の四紀』p.3-28.

渡辺仁治・山田妥恵子・浅井一視 1988「珪藻群集による有機汚濁指数(DAIpo)の止水域への適用」『水質汚濁研究』11-12,p.765-773

番号	位置 (グリッド)		規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
			北辺	南辺	東辺	西辺			
1	4E-83	4E-84	1.2	1.5	1.6	1.5	2.13	N-27° -E	
2	4E-74	4E-84	0.9	1.1	1.5	1.3	1.40	N-34° -E	
3		4E-74	0.9	1.1	1.5	1.5	1.59	N-42° -E	
4	4E-94	4E-84	1.5	1.4	1.1	1.1	1.79	N-29° -E	
5		4E-84	1.0	1.3	1.6	1.5	1.85	N-32° -E	南辺東側 (13)
6	4E-84	4E-75	1.2	1.6	1.6	1.7	2.38	N-43° -E	
7	4E-75	4E-76	1.6	1.4	1.6	1.7	2.68	N-48° -E	
8	4E-66	4E-76	1.7	1.6	1.6	1.7	2.82	N-41° -E	
9	4E-66	4E-67	1.4	1.4	1.4	1.6	2.23	N-40° -E	
10	4E-57	4E-67	1.0	1.0	1.4	1.3	1.54	N-41° -E	
11	4E-94	5E-04	0.4	1.0	2.1	2.2	1.48	N-28° -E	
12	4E-94	5E-04	1.1	1.0	2.0	2.1	2.32	N-36° -E	
13	4E-94	4E-95	1.3	1.5	2.0	1.9	2.76	N-38° -E	北辺東側 (5)
14	4E-85	4E-96	1.8	1.8	1.8	1.7	3.16	N-43° -E	
15		4E-86	1.3	1.2	1.7	1.7	2.44	N-43° -E	
16	4E-76	4E-87	1.5	1.5	1.8	1.8	2.90	N-43° -E	南辺西側 (13)
17	4E-67	4E-78	1.4	1.5	1.0	1.8	2.94	N-45° -E	
18		5E-14	-	0.5	1.1	1.2	0.42	N-22° -E	
19	5E-04	5E-05	1.2	1.0	1.9	1.7	2.01	N-37° -E	
20	5E-05	5E-15	1.0	1.1	1.8	1.6	1.85	N-40° -E	
21	5E-05	5E-06	1.5	1.8	1.5	1.8	2.81	N-44° -E	
22		4E-96	1.7	1.7	1.5	1.6	2.60	N-47° -E	
23	4E-87	4E-97	1.3	1.2	1.4	1.4	1.75	N-46° -E	
24	4E-87	4E-88	1.6	1.3	1.5	1.5	2.43	N-41° -E	北辺西側 (16)
25	5E-24	5E-25	0.7	1.2	2.5	2.4	2.40	N-32° -E	
26	5E-15	5E-25	1.4	1.5	2.6	2.4	3.95	N-33° -E	
27	5E-15	5E-26	0.9	1.3	2.6	2.6	3.01	N-38° -E	
28	5E-06	5E-17	1.9	1.5	2.9	2.7	5.24	N-41° -E	
29	5E-07	5E-17	1.6	1.5	3.1	3.0	5.07	N-39° -E	
30	4E-97	5E-08	1.2	1.7	3.2	3.1	4.59	N-40° -E	
31	5E-35	5E-45	0.7	0.9	1.6	1.4	1.26	N-23° -E	
32	5E-34	5E-45	1.1	1.2	2.3	2.2	2.86	N-28° -E	
33		5E-36	1.4	1.6	2.7	2.7	4.16	N-31° -E	東辺中央 (34)
34	5E-26	5E-37	1.8	1.6	2.5	2.5	4.96	N-33° -E	西辺中央 (33)
35	5E-17	5E-28	1.6	1.7	2.6	2.5	4.31	N-35° -E	
36	5E-18	5E-28	1.6	1.5	2.4	2.7	3.93	N-40° -E	
37	5E-55	5E-46	1.0	1.3	1.9	2.0	2.47	N-18° -E	
38	5E-45	5E-56	1.2	1.1	2.0	2.0	2.33	N-24° -E	
39	5E-46	5E-47	1.6	2.3	1.8	1.9	3.96	N-31° -E	
40	5E-37	5E-47	1.6	1.4	2.0	2.0	3.24	N-38° -E	
41		5E-38	1.9	1.8	1.9	2.1	3.51	N-38° -E	
42		5E-29	1.6	1.4	1.8	2.0	2.67	N-33° -E	
43	5E-55	5E-66	1.4	1.4	2.1	2.2	2.32	N-24° -E	
44	5E-56	5E-66	1.2	1.4	1.9	1.9	2.41	N-28° -E	
45		5E-57	1.1	1.2	1.8	1.9	2.34	N-31° -E	

第10表 水田区画計測表 (第7水田面) ①

番号	位置 (グリッド)		規模(m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
			北辺	南辺	東辺	西辺			
46	5E-47	5E-58	1.0	1.2	2.1	2.0	2.22	N-35° -E	
47	5E-48	5E-58	1.5	1.5	1.8	2.0	2.93	N-39° -E	
48	5E-39	5E-49	1.8	1.7	2.1	2.1	3.82	N-42° -E	
49	5E-39	5E-30	1.5	1.6	1.7	1.9	2.80	N-44° -E	
50	5E-75	5E-76	0.3	0.9	2.0	2.1	1.30	N-21° -E	
51	5E-66	5E-76	1.0	1.0	2.0	2.0	2.24	N-31° -E	
52	5E-66	5E-77	1.4	1.2	1.9	1.9	2.59	N-26° -E	
53	5E-67	5E-68	1.2	1.6	1.8	1.9	2.59	N-27° -E	
54	5E-58	5E-68	1.2	1.3	1.8	1.8	2.47	N-33° -E	
55	5E-58	5E-59	1.5	1.5	2.2	1.8	3.09	N-35° -E	
56		5E-59		2.2	2.3	0.5	0.62	N-41° -E	
57	5E-49	5F-51	1.5	1.6	1.8	1.8	2.55	N-46° -E	
58		5E-86	1.0	1.0	1.1	1.2	1.27	N-15° -E	南西隅()
59	5E-76	5E-87	1.1	1.0	1.1	1.2	1.27	N-26° -E	
60		5E-77	1.1	1.1	1.3	1.2	1.48	N-24° -E	
61	5E-77	5E-78	1.6	1.6	1.6	1.4	2.31	N-24° -E	
62	5E-68	5E-79	1.2	1.3	1.6	1.4	1.93	N-25° -E	
63		5E-69	1.6	1.7	1.4	1.4	2.58	N-29° -E	
64	5E-50	5E-60	0.6	0.9	1.6	1.7	1.27	N-37° -E	
65	5E-86	5E-96	0.8	0.9	1.5	1.5	1.37	N-22° -E	
66		5E-87	0.9	1.1	1.5	1.6	1.74	N-30° -E	
67	5E-87	5E-88	1.1	1.0	1.6	1.6	1.92	N-33° -E	
68	5E-78	5E-88	1.6	1.5	1.4	1.5	2.38	N-31° -E	
69		5E-79	1.3	1.3	1.3	1.4	1.88	N-32° -E	
70	5E-79	5F-70	1.7	1.6	1.6	1.5	2.61	N-30° -E	
71	5F-60	5F-70	1.0	1.4	1.7	1.8	2.25	N-36° -E	
72	5E-96	6E-06	0.6	0.7	1.7	1.7	1.44	N-9.5° -E	
73	5E-96	6E-07	0.9	1.2	1.8	1.9	2.12	N-12° -E	
74		5E-97	1.1	1.6	1.9	1.9	2.74	N-20° -E	
75		5E-98	1.1	1.3	1.7	1.8	2.25	N-32° -E	
76	5E-88	5E-99	1.5	1.5	1.7	1.7	2.60	N-35° -E	
77		5E-97	1.4	1.5	1.7	1.8	2.60	N-35° -E	
78		5E-98	1.5	1.6	1.6	1.6	2.55	N-40° -E	
79	5E-88	5E-99	1.7	1.7	1.6	1.6	3.02	N-4.8° -E	
80	6E-06	6E-16	0.8	1.0	1.9	1.9	1.84	N-0.6° -E	
81	6E-07	6E-17	1.2	1.3	1.7	1.8	2.26	N-16° -E	
82	6E-07	6E-08	1.8	1.8	1.5	1.8	3.28	N-22° -E	
83	6E-08	6E-09	1.4	1.8	1.5	1.3	2.36	N-34° -E	
84	6E-16	6E-26	1.1	1.4	1.6	1.4	2.14	N-10° -E	
85	6E-17	6E-27	1.1	1.1	1.6	1.6	1.92	N-18° -E	
86		6E-18	1.9	2.2	2.2	1.5	4.23	N-20° -E	
87	6E-29	6E-37	1.4	1.5	3.1	3.2	4.64	N-11° -E	
88	6E-27	6E-38	1.1	1.4	3.3	3.2	4.51	N-14° -E	
89	6E-28	6E-39	2.3	2.4	3.4	3.3	8.00	N-18° -E	
90	6E-47	6E-57	1.5	1.7	2.1	2.0	3.30	N-8.6° -E	

第10表 水田区画計測表(第7水田面)②

番号	位置 (グリッド)		規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
			北辺	南辺	東辺	西辺			
91	6E-48	6E-58	1.4	1.5	1.8	2.0	3.24	N-12° -E	
92	6E-49	6E-59	2.2	2.4	2.7	2.4	6.60	N-20° -E	
93	6E-57	6E-67	1.5	1.6	2.2	2.4	3.94	N-8.9° -E	
94	6E-58	6E-58	1.6	2.4	2.3	2.1	4.72	N-18° -E	
95	6E-59	6F-60	(1.8)	1.8	(1.7)	1.9	(3.67)	N-21° -E	
96	6E-67	6E-77	1.7	1.7	1.7	1.7	3.09	N-11° -E	
97	6E-78	6E-89	2.2	2.3	1.6	1.5	4.00	N-2° -E	
98	6E-60	6E-70	1.6	2.2	1.8	1.6	3.69	N-18° -E	
99	6E-87	6E-88	1.4	1.3	2.1	2.2	3.26	N-15° -E	
100	6E-78	6E-89	2.4	2.1	2.1	2.1	5.09	N-7.4° -E	
101	6F-70	6F-80	2.7	2.8	1.9	2.1	6.09	N-0.9° -E	
102	6E-98	7E-08	1.3	0.9	3.0	3.1	3.86	N-13° -E	
103	6F-80	6F-90	1.6	(1.5)	2.3	(2.3)	(3.98)	N-7.2° -E	
104	7F-00		(1.5)	1.1	1.5	(1.4)	(1.84)	N-7.2° -E	
105	7F-01		2.2	2.4	1.3	1.4	3.32	N-7.1° -E	
106	5E-12	5E-13	(1.7)	1.7	1.7	(1.8)	(3.21)	N-13° -W	
107	5E-13		0.3	1.2	1.8	1.7	1.43	N-2.9° -E	
108	5E-22	5E-23	1.6	1.7	1.8	1.5	3.08	N-11° -W	
109	5E-23	5E-24	1.3	1.8	1.7	1.8	2.84	N-0.2° -E	
110	5D-29	5D-29	1.6	1.7	1.8	1.6	2.98	N-18° -W	
111	5D-29	5D-39	1.4	1.4	1.6	1.7	2.65	N-17° -W	
112	5E-20	5E-30	1.7	1.7	1.5	1.6	3.00	N-15° -W	
113	5E-31		1.6	1.5	1.7	1.6	2.82	N-13° -W	
114	5E-32		1.8	1.8	2.0	1.9	3.72	N-12° -W	南辺西隅(122)
115	5E-33		1.3	1.3	1.9	1.9	2.68	N-11° -W	
116	5E-34	5E-44	-	1.0	2.2	2.0	1.48	N-1.8° -	
117	5D-37		1.3	1.2	1.3	1.7	2.20	N-17° -W	
118	5D-38		1.6	1.5	1.7	1.3	2.64	N-16° -W	
119	5D-39	5D-49	1.6	1.6	1.7	1.7	3.05	N-17° -W	
120	5E-30	5E-40	1.7	1.8	2.1	1.9	3.77	N-15° -W	
121	5E-31	5E-41	1.6	1.5	2.1	2.1	3.54	N-13° -W	
122	5E-41	5E-42	1.8	1.9	2.1	2.3	4.46	N-14° -W	北辺西隅(114)
123	5E-43		1.3	1.4	1.9	2.1	2.90	N-12° -W	
124	5E-43	5E-44	1.4	2.1	2.0	1.8	3.33	N-0.9° -E	
125	5D-36	5D-46	1.5	1.3	1.5	1.4	2.48	N-19° -W	
126	5D-47		1.1	1.4	1.6	1.7	2.15	N-16° -W	
127	5D-47	5D-48	1.5	1.4	1.7	1.7	2.92	N-14° -W	
128	5D-48	5D-49	1.6	1.5	2.0	2.0	3.39	N-15° -W	
129	5D-49	5E-50	1.8	1.6	2.0	2.0	3.76	N-16° -W	
130	5E-50	5E-51	1.5	1.5	1.9	1.9	3.15	N-13° -W	
131	5E-51	5E-52	1.9	1.7	2.0	1.9	3.86	N-11° -W	
132	5E-52	5E-63	1.5	1.6	2.6	2.1	3.86	N-11° -W	
133	5E-53	5E-64	1.5	1.3	2.3	2.5	3.61	N-10° -W	
134	5E-64	5E-65	0.5	1.8	2.7	2.4	2.97	N-1.4° -E	
135	5D-46	5D-56	1.4	1.5	1.7	1.6	2.55	N-16° -W	

第10表 水田区画計測表(第7水田面)③

番号	位置 (グリッド)		規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
			北辺	南辺	東辺	西辺			
136	5D-47	5D-57	1.4	1.2	1.7	1.6	2.29	N-17° -W	
137	5D-57	5D-58	1.5	1.6	1.9	1.5	2.99	N-18° -W	
138	5D-58	5D-69	1.5	1.7	2.1	1.9	3.60	N-17° -W	
139	5D-59	5D-60	1.7	1.5	2.2	2.1	3.78	N-17° -W	
140	5E-60	5E-61	1.6	1.8	2.4	2.3	4.24	N-18° -W	
141	5E-61	5E-72	2.0	2.0	2.5	2.3	5.22	N-18° -W	
142	5E-72	5E-82	1.3	1.4	2.4	2.3	3.44	N-17° -W	
143		5E-73	1.4	1.5	2.5	2.4	3.84	N-15° -W	
144	5E-74	5E-84	0.0	1.7	2.4	2.5	3.89	N-9.4° -W	
145	5E-75	5E-85	0.4	1.2	2.4	2.2		N-2.5° -E	
146	5D-54	5D-65	1.2	1.4	1.4	1.3	2.15	N-12° -W	
147	5D-55	5D-66	1.5	1.5	2.4	2.4	3.70	N-15° -W	
148	5D-66	5D-67	1.5	1.2	1.7	2.0	3.05	N-22° -W	
149	5D-67	5D-77	1.6	1.5	1.9	1.8	3.05	N-22° -W	
150	5D-68	5D-88	1.6	1.7	3.0	3.0	5.38	N-20° -W	
151	5D-79	5D-89	1.4	1.6	2.9	3.0	4.87	N-20° -W	
152	5D-89	5E-70	1.8	1.7	2.9	2.8	5.36	N-18° -W	
153	5E-71	5E-81	2.0	2.1	2.8	2.7	6.01	N-18° -W	
154	5E-82	5E-92	1.4	1.5	2.5	2.7	4.34	N-16° -W	
155	5E-83	5E-93	1.7	1.7	2.3	2.3	4.14	N-14° -W	
156	5E-84	5E-94	1.6	2.0	2.0	2.0	3.78	N-10° -W	
157	5E-85	5E-95	1.4	1.5	2.1	1.9		N-0.7° -W	北西隅 (58)
158	5D-64	5D-75	2.2	2.3	1.4	1.4	3.71	N-11° -W	
159		5D-75	1.5	1.3	1.3	1.2	1.84	N-12° -W	
160		5D-76	1.4	1.3	1.4	1.6	2.01	N-12° -W	
161		5D-77	1.6	1.6	1.2	1.5	2.13	N-16° -W	
162	5D-87	5D-98	1.7	1.3	(2.6)	(2.6)	(4.25)	N-18° -W	
163	5D-88	5D-99	1.5	1.1	(2.8)	(2.6)	(3.83)	N-20° -W	
164	5D-74	5D-84	1.8	2.1	(2.0)	(2.0)	(4.42)	N-13° -W	
165	5D-75	5D-85	1.4	1.4	(2.0)	(2.0)	(2.08)	N-15° -W	
166		5D-86	1.2	1.6	(2.0)	(2.0)	(3.00)	N-13° -W	
167	5D-86	5D-87	1.5	1.2	(2.4)	(2.2)	(5.84)	N-14° -W	
168	5D-99	5E-90	1.9	2.1	(2.8)	(2.9)	(5.92)	N-18° -W	
169	5E-90	6E-01	2.1	2.1	2.3	2.5	5.29	N-16° -W	
170	5E-91	6E-02	1.5	1.6	2.4	2.4	4.30	N-12° -W	
171	5E-92	6E-03	1.8	2.1	2.5	2.6	5.10	N-4° -W	
172	5E-93	6E-04	1.9	1.7	2.3	2.5	4.72	N-3° -W	
173	5E-95	6E-05	1.3	1.9	2.1	2.1		N-2° -W	
174	5D-84	5D-94	2.1	2.1	(2.9)	(1.8)	(4.86)	N-12° -W	
175	5D-85	5D-95	1.4	1.0	(2.8)	(2.9)	(3.63)	N-15° -W	
176	5D-95	5D-96	1.6	1.6	(2.1)	(2.6)	(3.85)	N-12° -W	
177	5D-96	6D-06	1.2	1.0	(1.9)	(2.1)	(2.25)	N-12° -W	
178	5D-97	6D-07	1.4	1.4	1.3	1.6	2.39	N-16° -W	
179	6D-08	6D-18	1.5	1.4	2.6	2.5	4.14	N-17° -W	
180	6D-09	6D-19	2.1	(1.9)	(3.4)	(3.0)	(6.39)	N-18° -W	

第10表 水田区画計測表 (第7水田面) ④

番号	位置 (グリッド)		規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
			北辺	南辺	東辺	西辺			
181	6E-00	6E-10	2.3	2.7	2.9	3.3	8.40	N-16° -W	
182	6E-01	6E-11	1.7	1.5	2.7	2.6	4.63	N-12° -W	
183	6E-12	6E-13	2.3	2.9	2.0	2.7	7.46	N-3.3° -W	
184	6E-13	6E-14	1.7	1.6	1.8	1.9	3.24	N-3.3° -E	
185	6E-14	6E-15	1.9	2.1	1.8	1.9		N-4.0° -E	
186	5D-92	6D-03	2.1	1.4	2.6	2.5	4.69	N-4.9° -W	
187	6D-03	6D-04	1.8	1.7	(2.0)	(2.8)	(5.11)	N-21° -W	
188	6D-04	6D-14	1.0	1.1	1.8	2.0	2.89	N-21° -W	
189	6D-05	6D-15	1.7	2.0	2.3	2.1	4.87	N-15° -W	
190	6D-06	6D-16	0.9	1.1	1.5	1.4	1.63	N-13° -W	
191	6D-07	6D-17	1.5	1.5	(1.6)	(1.7)	(4.22)	N-17° -W	
192	6D-17	6D-28	1.3	0.2	2.1	1.9	3.12	N-14° -W	
193	6D-18	6D-29	1.9	1.7	(1.7)	(2.2)	(3.78)	N-18° -W	
194	6D-29	6D-39	1.0	(1.1)	(3.9)	(4.0)	(4.74)	N-17° -W	東辺北隅(195)
195	6E-20	6E-30	1.5	1.8	4.2	3.9	6.91	N-15° -W	西辺北隅(194)
196	6E-21	6E-41	1.7	3.0	4.2	4.5	10.15	N-4.9° -W	
197	6D-02	6D-12	0.7	0.5	2.2	2.2	1.59	N-14° -W	
198		6D-13	1.4	1.3	1.6	1.5	2.58	N-12° -W	
199		6D-14	1.8	1.5	1.3	1.5	2.46	N-17° -W	
200	6D-15	6D-25	2.2	2.0	1.5	1.8	4.04	N-18° -W	
201	6D-16	6D-26	1.1	1.2	2.8	2.7	3.08	N-13° -W	
202	6D-17	6D-27	1.5	1.5	(2.8)	(3.1)	(4.47)	N-11° -W	
203		6D-22	0.5	0.6	1.9	1.87	1.04	N-13° -W	
204	6D-22	6D-23	1.3	1.2	2.3	1.9	2.90	N-13° -W	
205	6D-23	6D-34	1.4	1.2	2.8	2.5	3.75	N-17° -W	
206	6D-24	6D-35	2.2	2.4	1.4	1.2	3.51	N-17° -W	
207	6D-35	6D-46	1.3	1.7	3.5	3.4	5.77	N-10° -W	
208	6D-36	6D-37	1.5	1.2	(3.2)	(2.7)	(3.85)	N-2.3° -W	
209	6D-27	6D-47	1.2	0.8	3.3	3.3	3.45	N-10° -W	
210	6D-28	6D-48	1.6	1.5	3.7	3.6	6.50	N-14° -W	
211		6D-32	0.7	0.5	2.3	2.5	1.35	N-12° -W	
212	6D-32	6D-43	1.3	1.2	2.6	2.5	3.38	N-15° -W	
213	6D-33	6D-43	1.0	0.9	2.3	2.3	2.53	N-17° -W	
214	6D-34	6D-45	2.3	2.7	2.7	2.7	7.86	N-14° -W	
215	6D-45	6D-56	1.6	1.7	1.2	1.2	2.15	N-12° -W	
216	6D-46	6D-56	1.2	0.9	(2.6)	(2.6)	(3.15)	N-14° -W	
217	6D-47	6D-57	0.8	0.8	2.3	2.2	2.10	N-13° -W	
218	6D-47	6D-58	1.4	1.3	1.8	1.9	2.98	N-12° -W	
219	6D-48	6D-59	1.1	1.0	(3.4)	(3.5)	(3.62)	N-14° -W	
220	6D-49	6E-50	1.9	2.0	2.8	3.3	6.69	N-17° -W	
221	6E-40	6E-61	1.7	2.1	3.4	3.2	7.02	N-9.2° -W	
222	6E-41	6E-62	1.2	1.7	3.5	3.4	5.11	N-6.4° -E	
223	6E-42	6E-52	1.1	1.2	2.1	2.3	2.77	N-14° -E	
224	6E-43	6E-54	2.2	2.1	1.8	2.1	4.78	N-14° -E	
225	6E-45	6E-46	1.5	1.8	1.2	1.4	2.30	N-8.8° -E	

第10表 水田区画計測表 (第7水田面) ⑤

番号	位置 (グリッド)		規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
			北辺	南辺	東辺	西辺			
226	6E-52	6E-63	1.2	1.1	1.0	1.1	1.14	N-11° -E	
227	6E-53	6E-64	2.1	2.0	1.5	1.3	2.94	N-7.7° -E	
228		6E-55	1.3	1.3	0.9	0.9	0.43	N-4.7° -E	
229	6E-55	6E-66	1.6	1.8	3.0	3.1	5.95	N-7.0° -E	
230	6E-55	6E-65	1.6	1.2	1.4	1.3	2.04	N-7.0° -E	
231	6D-52	6D-62	2.2	2.3	3.8	3.9	8.99	N-4.0° -W	
232	6D-53	6D-63	1.0	1.2	2.0	2.2	2.62	N-4.5° -W	
233	6D-54	6D-65	2.6	2.5	1.9	1.7	4.96	N-11° -W	
234	6D-65	6D-66	1.7	1.5	2.0	2.0	3.51	N-16° -W	
235	6D-66	6D-67	1.8	1.9	1.5	1.5	3.05	N-9.4° -W	
236	6D-67	6D-78	1.6	1.6	1.9	1.6	3.31	N-4.6° -W	
237	6D-69	6D-79	2.4	2.3	0.6	1.4	4.15	N-6.5° -W	
238	6E-60	6E-70	-	0.4	1.9	2.0	0.72	N-6.4° -W	
239	6E-60	6E-71	1.7	1.6	1.9	2.1	3.42	N-2.3° -W	
240	6E-61	6E-72	1.6	2.3	2.2	1.8	3.97	N-5.8° -E	
241	6E-63	6E-73	1.3	1.2	0.2	2.3	2.73	N-16° -E	
242	6E-64	6E-74	1.8	1.5	1.6	1.9	3.49	N-14° -E	
243	6D-71	6D-82	21.9	2.0	3.2	3.1	7.48	N-1.1° -E	
244		6D-73	1.4	1.3	2.6	2.6	3.56	N-5.5° -W	
245	6D-74	6D-84	1.7	1.6	2.8	2.6	4.65	N-6.0° -W	
246	6D-75	6D-85	2.4	2.5	2.8	2.7	6.43	N-6.5° -W	
247	6D-76	6D-77	1.9	2.0	2.0	2.1	4.19	N-9.3° -W	
248	6D-77	6D-88	1.8	2.5	2.6	3.5	6.93	N-0.1° -W	
249	6D-78	6D-89	2.5	2.1	1.7	1.8	4.71	N-1.0° -W	
250	6E-70	6E-80	0.6	0.5	1.7	1.6	0.99	N-2.2° -W	
251	6E-70	6E-81	1.6	1.9	1.8	1.7	3.06	N-2.7° -E	
252	6E-71	6E-82	2.4	2.4	1.0	1.3	3.06	N-8.7° -E	
253	6E-73	6E-84	0.3	1.6	1.3	1.1	1.96	N-15° -E	
254		6E-74	1.5	1.4	1.4	1.2	2.08	N-16° -E	
255	6E-65	6E-75	1.1	1.1	2.5	2.6	3.41	N-11° -E	
256	6E-66	6E-76	1.4	1.0	1.8	2.7	3.24	N-5.7° -E	
257	6E-66	6E-76	0.3	0.6	2.7	2.8	1.31	N-4.5° -E	
258		6D-83	0.3	1.3	2.0	1.9	2.54	N-13° -W	
259	6D-84	6D-85	1.6	1.4	2.3	1.9	3.26	N-14° -W	
260	6D-86	6D-87	2.0	2.1	1.7	1.9	3.7	N-1.4° -W	
261		6D-97	1.1	1.3	1.2	1.3	1.65	N-0.4° -W	
262		6D-98	1.0	1.1	1.3	1.3	1.58	N-7.3° -E	
263	6D-98	6D-99	2.4	(2.3)	(1.3)	1.5	(3.47)	N-9.0° -E	
264	6E-90	6E-91	2.5	(2.3)	2.6	(2.7)	(7.10)	N-7.2° -E	
265	6E-91	6E-92	1.2	1.8	2.6	2.6	4.29	N-6.4° -E	
266	6E-82	6E-93	1.1	0.3	2.5	2.5	3.30	N-13° -E	
267	6E-83	6E-94	1.8	1.6	2.5	2.5	4.59	N-16° -E	
268	6E-85	6E-95	1.6	1.4	2.7	2.6	4.11	N-11° -E	
269	6E-85	6E-95	1.1	1.4	2.3	2.3	3.30	N-5.7° -E	
270	6E-86	6E-96	0.9	0.9	2.3	2.2	2.29	N-5.3° -E	

第10表 水田区画計測表 (第7水田面) ⑥

番号	位置 (グリッド)		規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
			北辺	南辺	東辺	西辺			
271	6E-86	6E-97	0.6	0.8	2.3	2.3	1.53	N-10° -E	
272	6D-91	6D-92	2.1	0.7	2.1	2.0	3.96	N-13° -W	
273	6D-92	7D-03	1.5	1.5	2.4	2.2	3.69	N-17° -W	
274	6D-93	7D-04	1.3	1.1	2.6	2.3	2.87	N-17° -W	
275	6D-96	7D-07	2.1	1.4	2.9	2.6	5.3	N-3.9° -W	
276		7D-07	1.4	1.4	2.8	3.2	3.85	N-6.0° -W	
277		7D-08	1.1	1.3	2.5	2.3	3.32	N-2.8° -E	
278	6E-99	7E-00	(2.6)	3.0	(0.4)	3.9	(11.8)	N-2.0° -E	
279	7E-00	7E-10	0.6	0.1	2.4	2.4	2.32	N-5.5° -E	
280	7E-01	7E-11	1.1	1.1	2.7	2.4	3.01	N-8.9° -E	
281	7E-02	7E-12	1.8	2.2	2.0	2.3	4.39	N-11° -E	
282		7E-03	1.3	1.4	2.1	2.1	3.25	N-13° -E	
283		7E-04	1.7	1.7	2.0	2.0	3.65	N-13° -E	
284	6E-95	7E-05	1.3	1.2	1.8	1.8	2.43	N-10° -E	
285	6E-95	7E-06	1.0	1.0	1.9	2.0	2.29	N-7.2° -E	
286	6E-96	7E-07	2.1	2.5	2.1	2.1	5.23	N-12° -E	
287	6D-01	6E-11	1.4	1.4	0.5	1.7	2.45	N-19° -W	
288	6D-02	6D-12	1.4	1.7	1.4	1.7	2.73	N-20° -W	
289	6D-03	6D-13	1.3	(1.4)	(1.4)	(1.2)	(1.82)	N-19° -W	
290	7D-16	7D-26	1.3	1.3	2.8	3.2	4.51	N-3.2° -W	
291		7D-27	1.6	1.3	1.4	1.6	2.29	N-2.9° -W	
292	7D-28	7D-29	1.2	1.2	3.9	2.4	3.39	N-13° -W	
293	7D-28	7E-30	1.4	1.7	2.6	2.7	4.62	N-8.6° -W	
294	7E-20	7E-21	1.4	1.0	2.4	2.6	3.32	N-6.9° -W	
295	7E-11	7E-21	1.1	1.2	1.8	1.5	2.10	N-3.4° -W	
296	7E-12	7E-22	2.1	2.0	2.2	1.8	4.65	N-3.6° -E	
297	7E-13	7E-23	1.4	1.3	2.3	2.1	3.56	N-8.3° -E	
298	7-14	7E-24	1.5	1.4	2.4	2.2	3.56	N-12° -E	南東隅(308)
299		7E-15	1.0	1.1	1.9	1.7	2.21	N-8.2° -E	
300	7E-06	7E-16	1.6	1.6	2.2	2.3	4.14	N-10° -E	
301	7E-07	7E-17	1.4	1.4	2.6	2.1	3.61	N-13° -E	
302	7D-26	7D-46	1.4	1.9	3.6	4.0	6.02	N-3.5° -W	
303	7D-27	7D-38	2.1	2.2	1.9	2.2	7.65	N-3.1° -W	
304	7D-38	7D-49	2.8	2.9	1.5	1.8	7.12	N-0.7° -W	南辺東隅(水路)
305	7E-30	7E-40	1.2	1.3	1.8	1.5	2.33	N-0.3° -W	南辺西隅(水路)
306	7E-21	7-41	1.3	2.1	2.8	3.0	5.24	N-4.1° -E	
307	7E-22	7E-42	2.0	1.8	2.7	2.9	5.49	N-6.7° -E	
308	7E-23	7E-34	1.6	1.9	2.5	2.7	4.79	N-7.4° -E	北東隅(298)
309	7E-24	7E-34	1.2	1.4	2.3	2.5	3.45	N-15° -E	
310	7E-25	7E-35	1.6	1.4	2.4	2.1	3.02	N-16° -E	
311	7E-26	7E-36	1.9	1.9	0.5	2.5	5.04	N-13° -E	
312		7E-27	1.4	1.8	1.8	2.3	3.24	N-12° -E	
313	7D-50	7D-60			2.1			N-1° -W	
314	7D-51	7D-61	1.5	1.2	2.1	2.1	1.27	N-10° -W	
315	7D-53	7D-63	1.5	1.5	2.3	2.4	2.02	N-17° -E	

第10表 水田区画計測表 (第7水田面) ⑦

番号	位置 (グリッド)		規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
			北辺	南辺	東辺	西辺			
316	7D-57	7D-68	1.8	2.0	1.9	1.3	1.43	N-9.0° -E	
317	7D-58	7D-69	1.8	1.9	2.8	2.7	3.88	N-1.8° -W	
318	7D-59	7E-61	1.9	2.0	2.9	2.8	4.05	N-1.0° -E	
319	7E-50	7E-61	3.0	2.8	3.1	2.9	5.81	N-1.3° -E	
320	7E-51	7E-72	1.8	1.8	3.3	3.1	3.91	N-0.3° -W	
321	7E-53	7E-63	2.3	2.2	3.1	2.6	4.35	N-1.3° -W	
322	7E-54	7E-64	1.9	1.8	3.2	3.1	4.40	N-2.3° -W	
323	7E-63	7E-73	2.2	2.3	1.3	1.3	1.76	N-2.5° -W	
324	7E-64	7E-74	1.8	1.9	1.3	1.3	1.71	N-0.3° -W	
325	7D-60	7D-71	1.3	1.3	0.8	1.2	0.65	N-11° -E	
326	7D-62	7D-72	1.1	1.1	1.8	1.8	1.14	N-4.4° -E	
327		7D-73	1.5	1.6	1.8	1.8	1.36	N-5.5° -E	
328	7D-73	7D-74	1.6	1.8	1.5	1.8	1.49	N-2.5° -E	
329	7D-67	7D-87	2.0	1.7	3.6	3.9	5.28	N-4.8° -W	
330	7D-78	7D-79	1.9	2.3	1.5	1.5	2.30	(T.N.)	
331	7D-79	7E-70	2.0	1.9	1.5	1.5	1.74	N-0.5° -E	
332	7E-70	7E-71	2.8	3.2	1.8	1.5	3.24	N-0.3° -E	
333	7E-72	7E-82	1.8	1.5	2.0	1.8	1.83	N-2.3° -E	
334	7E-72	7E-83	2.3	1.9	1.8	2.0	2.48	(T.N.)	
335	7D-82	7D-92	1.7	1.9	2.0	2.2	2.21	N-0.5° -W	
336	7D-83	7D-93	1.6	1.8	1.7	2.0	1.46	N-10° -W	
337	7D-84	7D-95	3.1	2.5	1.9	1.7	3.44	N-10° -W	
338	7D-78	7D-89	2.3	2.4	1.9	2.1	3.19	N-1.5° -E	
339	7D-79	7D-89	1.9	1.6	1.7	1.9	2.19	N-2.5° -E	
340	7E-80	7E-81	3.2	2.7	1.7	1.7	3.29	N-5.5° -E	
341	7E-81	7E-92	2.2	2.6	2.6	1.4	2.64	N-1.8° -E	
342	7D-82	7D-92	1.9	1.8	1.9	1.5	1.93	N-3.3° -E	
343	7D-83	7D-93	1.8	2.5	1.7	1.9	3.33	N-0.5° -W	
344	7D-83	7D-95	2.1	2.2	1.4	1.7	1.83	N-5.3° -W	
345	7D-87	7D-97	1.7	1.9	2.4	2.7	3.01	N-8.0° -E	
346	7D-88	7D-99	2.4	1.9	2.4	2.1	3.57	N-1.0° -E	
347	7D-92	8D-02	1.8	1.9	2.3	2.4	3.30	N-3.8° -W	
348	7D-93	8D-04	2.5	2.3	2.4	2.3	3.45	N-2.0° -E	
349	7D-94	8D-05	2.2	2.1	1.3	1.1	1.66	N-4.8° -W	
350		8D-04	1.5	1.6	1.5	1.4	1.23	N-6.5° -E	
351		8D-05	0.9	1.7	1.6	1.5	1.34	N-5.0° -W	
352	8D-08	8D-09	1.9	1.9	2.1	1.7	2.38	N-4.0° -W	
353	7E-91	8E-11	1.1	1.3	3.6	4.0	3.24	N-4.0° -E	
354	7E-92	8E-13	2.8	3.9	2.6	3.6	6.14	N-2.8° -E	
355		8D-12	1.9	1.2	2.0	1.9	1.93	N-5.5° -W	
356	8D-13	8D-14	2.2	2.3	2.1	2.0	3.33	N-3.5° -W	
357		8D-14	1.6	1.8	1.3	1.5	1.25	N-11° -W	
358		8D-15	1.7	1.7	1.4	1.3	1.62	N-12° -W	
359	8D-14	8D-24	1.8	1.7	2.1	1.8	1.98	N-3.3° -W	
360	8D-15	8D-25	1.7	1.7	2.2	2.1	2.33	N-2.5° -W	

第10表 水田区画計測表 (第7水田面)⑧

番号	位置 (グリッド)		規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
			北辺	南辺	東辺	西辺			
361	8E-11	8E-12	1.7	2.1	1.2	1.0	1.66	N-1.8° -E	
362	8D-23	8D-34	2.3	2.2	2.5	2.7	3.71	N-0.3° -E	
363		8D-34	1.7	1.7	1.9	1.8	1.45	N-8.5° -E	
364	8D-35	8D-36	2.5	2.2	2.0	1.9	3.15	N-8.8° -E	
365	8D-34	8D-54	1.7	1.4	2.8	2.8	2.21	N-15° -E	
366	8D-44	8D-55	1.8	1.9	2.2	2.5	2.79	N-12° -E	
367	8D-55	8D-66	1.9	2.3	2.3	2.4	2.74	N-6.8° -E	
368	7E-48	7E-49	1.7	2.0	2.4	2.4	3.67	N-2.8° -E	
369	7E-49	7F-40	1.4	1.6	2.2	2.4	2.37	N-1.8° -W	
370	7F-40	7F-41	2.0	1.6	1.9	2.2	2.29	N-5.0° -W	
371	7F-41	7F-52	1.6	1.5	1.6	1.9	1.49	N-2.3° -E	
372	7F-42	7F-52	1.3	1.3	1.1	1.3	1.08	N-10° -E	
373	7F-52	7F-63	2.1	1.9	2.2	2.3	3.61	N-11° -E	
374	7E-58	7E-59	2.0	2.0	1.9	2.0	3.09	N-0.8° -E	
375	7E-59	7F-50	1.6	1.5	1.8	1.9	1.72	N-4.3° -E	
376	7F-50	7F-51	1.6	1.6	1.7	1.8	1.60	N-5.0° -E	
377	7F-51	7F-52	2.5	2.5	1.1	1.7	2.52	N-6.0° -E	
378	7E-68	7E-79	1.6	1.6	2.4	2.5	2.47	N-1.3° -W	
379	7E-69	7F-70	1.7	1.5	2.3	2.4	2.10	N-0.8° -W	
380	7F-60	7F-71	1.8	1.7	2.4	2.3	2.64	N-1.5° -E	
381	7F-61	7F-71	2.5	2.2	2.9	2.4	4.38	N-5.3° -E	
382	7F-62	7F-73	1.9	1.9	2.9	2.9	3.81	N-8.8° -E	
383	7E-78	7E-89	1.6	1.7	2.2	2.0	2.08	N-2.8° -W	
384	7E-79	7F-80	1.5	1.3	2.2	2.2	1.63	N-4.3° -W	
385	7F-70	7F-81	1.7	1.6	1.8	2.2	2.04	N-2.0° -W	
386	7F-71	7F-81	1.7	1.8	1.5	1.8	2.03	N-3.0° -E	
387	7F-72	7F-83	2.2	2.3	1.6	1.5	2.39	N-2.0° -E	
388	7F-73	7F-84	2.8	3.0	2.3	1.6	3.86	N-2.0° -W	
389	7E-88	7E-99	1.5	1.4	2.4	2.7	1.88	N-2.8° -W	
390	7E-89	7F-90	1.9	2.0	2.1	2.4	2.84	N-4.0° -W	
391	7F-80	7F-91	1.6	1.4	1.9	2.1	1.90	N-2.3° -W	
392	7F-81	7F-92	1.8	1.7	1.9	1.9	1.84	N-3.8° -E	
393	7F-82	7F-93	2.3	2.3	2.0	1.9	3.20	N-6.3° -E	
394	7F-83	7F-94	3.0	2.8	2.0	2.0	4.05	N-8.0° -E	
395	7E-99	8F-00	2.0	1.8	2.7	2.3	2.90	N-4.8° -W	
396	7F-90	7F-91	1.4	1.4	2.3	1.3	0.58	N-2.5° -W	
397	7F-91	7F-92	1.7	1.6	1.5	1.3	1.40	N-1.0° -E	
398	7F-92	8F-03	2.0	1.9	1.4	1.5	1.65	N-4.8° -E	
399	7F-93	8F-04	2.8	2.5	1.8	1.6	3.06	N-14° -E	
400	8F-04	8F-05	1.5	1.7	1.8	1.8	1.99	N-14° -E	
401	8F-00	8F-01	1.4	1.4	1.7	1.4	1.16	N-2.5° -W	
402	8F-01	8F-02	1.6	1.5	2.0	1.7	2.09	(T.N.)	
403	8F-02	8F-13	1.9	1.9	2.0	2.0	1.68	N-1.0° -W	
404	8F-03	8F-14	2.5	2.2	2.1	2.0	3.32	N-10° -E	
405	8F-14	8F-15	1.7	1.8	2.2	2.1	2.51	N-16° -E	

第10表 水田区画計測表 (第7水田面)⑨

番号	位 置 (グリッド)	規 模 (m)				面積 (㎡)	軸 方 向	水 口
		北 辺	南 辺	東 辺	西 辺			
1	4C	(6.1)	(5.0)	5.5	-	(49.3)	N-(20)° -E	
2	4D	(14.6)	15.8	(10.5)	(10.4)	(151.0)	N-6.5° -E	
3	4E	7.8	6.2	7.3	10.5	(64.9)	N-(5)° -E	
4	4E	(10.5)	(13.5)	-	7.1	(66.6)	N-(4)° -E	
5	4C~5C	(4.5)	(5.5)	12.0	-	(81.8)	N-4.0° -E	
6	4C~5D	7.8	8.5	12.3	11.4	102.5	N-3.9° -E	
7	4D~5D	(8.3)	(7.2)	9.7	9.7	92.2	N-1.0° -E	
8	4D~5E	(11.2)	10.9	11.9	-	128.8	N-2.1° -E	
9	4E~5E	(13.2)	(13.6)	-	12.4	(175.3)	N-(3)° -E	
10	5C	(5.8)	(4.6)	(10.4)	-	(77.7)	N-(11)° -E	
11	5C~5D	8.5	10.0	8.4	10.0	95.7	N-7.1° -E	
12	5D	(8.8)	9.1	12.2	(11.2)	(113.9)	T.N.	
13	5D~5E	9.5	9.6	10.5	10.7	108.8	N-1.5° -E	
14	5E	(13.6)	13.6	-	10.2	(155.9)	N-(3)° -E	
15	6C	(4.9)	(5.0)	6.9	-	(53.4)	N-(10)° -E	
16	6C~6D	9.5	11.1	8.9	6.9	88.5	N-3.8° -E	
17	5D~6D	7.0	6.8	12.4	11.9	94.3	N-3.8° -E	
18	5D~6E	12.6	12.9	14.8	12.6	186.8	N-6.3° -E	
19	5E~6E	13.6	14.0	15.0	15.0	219.0	N-2.0° -E	
20	6F	-	-	-	(15.0)	-	N-(1)° -E	
21	6C~6D	(10.1)	-	10.0	-	(126.0)	N-(8)° -E	
22	6D~7D	(9.6)	(10.5)	(11.1)	10.4	(112.7)	N-7.3° -E	
23	6D~7E	(9.3)	(8.8)	11.7	(1.2)	(113.9)	N-6.0° -E	
24	6E~7E	14.3	13.0	14.0	12.6	197.9	N-6.1° -E	
25	6F~7F	(13.0)	(12.5)	-	14.0	(180.8)	N-(7)° -E	
26	7C~7D	(12.2)	-	(12.7)	-	-	N-(8)° -E	
27	7D	(10.6)	(12.0)	(10.8)	(12.0)	(147.5)	N-5.4° -E	
28	7D~7E	(9.6)	(8.6)	12.3	(11.6)	118.7	N-4.3° -E	
29	7E	13.0	11.8	12.4	11.3	160.4	N-10° -E	
30	7E~8F	(11.0)	9.7	(14.4)	12.8	(142.6)	N-15° -E	
31	7F~8F	-	(14.1)	(14.5)	-	-	N-(17)° -E	
32	7D~8D	(11.8)	(11.5)	8.2	-	(102.3)	N-(11)° -E	
33	7D~8E	10.6	11.5	10.0	9.0	112.9	N-10° -E	
34	8E	10.5	9.5	10.5	9.7	107.6	N-9.1° -E	
35	8E~8F	9.9	9.6	10.0	9.9	105.8	N-11° -E	
36	8F	(14.5)	(13.6)	-	10.4	(153.7)	N-(11)° -E	
37	8D	(11.5)	(10.8)	(10.6)	-	-	N-(15)° -E	
38	8D~8E	11.0	12.7	10.5	10.8	133.3	N-11° -E	
39	8E~9E	10.5	10.1	11.1	10.6	121.4	N-7.3° -E	
40	8E~9F	8.4	8.4	11.3	10.7	100.1	N-8.6° -E	
41	8F~9F	(13.4)	(12.4)	(10.5)	11.2	(150.7)	N-12° -E	
42	9F~9G	(11.6)	(11.2)	(9.6)	(10.5)	(125.2)	N-(15)° -E	
43	9G	-	(9.4)	-	(9.5)	(95.9)		
44	9D~9E	(14.1)	(15.4)	11.0	-	(174.3)	N-(9)° -E	
45	9E	(8.9)	(9.4)	(12.9)	11.3	(119.5)	N-10° -E	

第11表 水田区画計測表 (第6水田面) ①

番号	位置 (グリッド)	規模(m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
		北辺	南辺	東辺	西辺			
46	9E~9F	(8.4)	(8.9)	(13.9)	(12.9)	(120.7)	N-10° - E	
47	9F~10F	(12.2)	(10.5)	(14.9)	(13.9)	(165.0)	N-12° - E	
48	9F~9G	(10.7)	(9.9)	(9.2)	(8.6)	98.2	N-15° - E	
49	9G~10G	(9.6)	(10.3)	8.8	(9.0)	(84.9)	N-16° - E	
50	10F~10G	(9.9)	(9.5)	(8.0)	(5.4)	76.1	N-17° - E	
51	10G	(10.8)	(10.6)	(9.0)	(8.2)	(100.9)	N-21° - E	
52	9D~10E	(15.1)	-	(9.2)	-	(142.9)	N-(20)° - E	
53	9E~10E	(9.7)	-	(8.9)	(9.5)	(95.6)	N-18° - E	
54	10E~10F	(8.7)	-	(8.2)	(8.6)	(82.5)	N-15° - E	
55	10F	(10.4)	-	(7.8)	(8.1)	(84.3)	N-14° - E	
56	10F	(9.0)	-	(6.0)	(7.0)	(61.3)	N-(13)° - E	
57	10G	(10.7)	-	(6.0)	(6.3)	(69.8)		
58	10D	-	-	(8.5)	-	-	N-(9)° - E	
59	10E	-	9.5	(7.7)	(8.3)	(85.6)	N-11° - E	
60	10E~11E	-	6.9	(7.7)	(8.5)	(62.2)	N-16° - E	
61	10F~11F	-	6.6	(7.4)	(8.1)	(46.8)	N-19° - E	
62	10F~11F	-	10.0	(6.9)	(7.8)	(72.9)	N-17° - E	
63	11F~11G	-	11.9	(7.4)	(8.1)	(83.6)	N-7.3° - E	
64	11G	-	(6.2)	(6.5)	(7.5)	(50.6)	N-7.3° - E	
65	11G~11H	-	(6.9)	(8.0)	-	-	N-(10)° - E	
66	11H	-	6.5	-	8.0	-	N-(10)° - E	
67	10D~11D	-	-	8.4	-	-	N-(13)° - E	
68	10E~11E	10.4	9.6	8.3	8.7	85.7	N-15° - E	
69	11E	7.2	7.2	8.5	8.4	61.8	N-17° - E	
70	11E~11F	5.8	(6.8)	(8.7)	8.5	56.3	N-13° - E	
71	11F	10.4	(10.4)	7.3	9.0	95.4	N-10° - E	
72	11F~11G	9.2	8.8	8.1	8.0	76.7	N-11° - E	
73	11G	2.2	4.4	8.0	8.0	29.6	N-2.3° - E	
74	11G~12H	(6.9)	(6.6)	6.9	-	(45.4)	N-(9)° - E	
75	11H~12H	(6.7)	5.3	(6.2)	6.0	(40.9)	N-9.4° - E	
76	12H	-	(4.0)	-	(6.5)	-	N-(9)° - E	
77	11D~12E	-	-	-	-	-		
78	11E~12E	9.5	(9.4)	14.1	(14.9)	148.3	N-(13)° - E	
79	11E~12F	9.5	(9.4)	14.1	(4.9)	95.9	N-9.3° - E	
80	11F~12F	7.2	7.8	11.5	12.5	90.8	N-3.3° - E	
81	11F~12G	9.7	8.3	10.1	10.8	99.6	N-4.8° - E	
82	12G	8.9	10.5	9.7	10.5	88.1	N-11° - E	
83	12G~12H	4.7	(9.3)	(8.7)	9.9	(65.6)	N-(13)° - E	
84	12H	(7.0)	6.5	8.5	-	(69.7)	N-(9)° - E	
85	12H	5.2	5.3	8.2	9.5	47.6	N-9.1° - E	
86	12D~12E	(7.0)	(6.8)	(7.6)	8.5	(62.0)	N-(10)° - E	
87	12E	(9.1)	-	(13.9)	-	-	N-10° - E	
88	12E~12F	8.0	(10.7)	12.5	(13.9)	130.0	N-6.8° - E	
89	12F	8.4	(7.4)	(12.2)	12.5	(103.6)	N-3.4° - E	
90	12F	7.7	(7.7)	11.6	(12.5)	97.8	N-6.6° - E	

第11表 水田区画計測表(第6水田面)②

番号	位置 (グリッド)	規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
		北辺	南辺	東辺	西辺			
91	12G	8.3	8.1	1.0	11.4	93.2	N-9.0° -E	
92	12G~12H	(8.7)	(8.8)	-	10.6	(93.1)	N-(10)° -E	
93	12H	(7.0)	5.2	10.5	(10.5)	(61.8)	N-3.3° -E	
94	12H~13H	5.1	5.1	10.8	10.4	56.4	N-7.7° -E	
95	12H~13I	7.0	6.5	(12.0)	11.0	83.4	N-9.4° -E	
96	13E	-	(11.5)	-	(5.7)	(69.0)	N-(12)° -E	
97	13E	(11.2)	(9.4)	(9.9)	-	(99.2)	N-(16)° -E	
98	13E~13F	(6.6)	8.2	10.8	10.4	78.1	N-13° -E	
99	13F	(7.9)	7.8	11.0	10.9	89.3	N-6.2° -E	
100	13F~13G	8.0	6.9	10.8	11.2	79.8	N-6.4° -E	
101	13G	(9.3)	(9.1)	-	10.9	96.5	N-(10)° -E	
102	13G~13H	5.4	5.3	5.5	5.3	29.7	N-10° -E	
103	13H	5.2	5.3	5.7	5.8	29.9	N-9.1° -E	
104	13H~13I	6.4	6.4	6.3	6.0	42.8	N-9.0° -E	
105	13G	(5.6)	5.3	(6.1)	6.4	(36.1)	N-10° -E	
106	13G~13H	4.9	5.4	6.8	6.8	36.1	N-12° -E	
107	13H	5.5	6.1	6.7	6.9	39.1	N-8.1° -E	
108	13H	6.7	(4.9)	(6.7)	(6.5)	40.9	N-11° -E	
109	13E	5.7	(5.0)	6.2	(6.1)	37.0	N-14° -E	
110	13E	(9.3)	-	(9.8)	-	(94.9)	N-(12)° -E	
111	13F	8.4	(9.3)	8.3	(9.9)	84.1	N-7.1° -E	
112	13F~14F	8.8	8.5	6.5	6.9	61.0	N-4.1° -E	
113	13F~14G	6.1	5.9	8.2	7.6	46.3	N-6.7° -E	
114	13G~14G	(8.9)	(7.5)	-	8.9	(77.6)	N-(8)° -E	
115	13H~14H	-	(4.9)	-	-	-	N-(1)° -W	
116	14H	-	4.4	-	-	-	N-5.5° -E	
117	14E	-	-	-	-	-	N-5.9° -E	
118	14F	(10.3)	(10.0)	5.5	-	(39.5)	(T.N)	
119	14F	7.4	6.7	7.1	5.8	46.6	N-6.0° -E	
120	14F~14G	6.0	6.0	6.3	6.6	40.9	N-13° -E	
121	14G	(8.4)	(8.1)	-	6.3	(59.2)	N-(13)° -E	
122	14G	-	-	(4.4)	-	(21.3)	N-(15)° -E	
123	14G~14H	(5.2)	5.8	5.0	(4.8)	26.9	N-12° -E	
124	14H	4.3	4.5	5.4	5.4	24.9	N-9.3° -E	
125	14E	6.6	8.1	7.9	6.6	-	N-3.1° -E	
126	14F	(9.5)	(7.1)	6.5	-	(54.9)	N-(4)° -E	
127	14F	6.1	5.7	7.6	8.1	48.3	N-6.8° -E	
128	14F	6.0	5.8	7.6	7.6	45.8	N-10° -E	
129	14G	(8.1)	(7.8)	-	6.4	(49.0)	N-(10)° -E	
130	14G	(4.2)	(4.1)	4.5	-	(18.9)	N-(12)° -E	
131	14G~14H	6.0	5.7	4.6	4.6	28.6	N-12° -E	
132	14G	4.0	3.5	5.2	4.9	20.9	N-16° -E	
133	14G~15G	(4.5)	(4.3)	3.1	-	(14.2)	N-(13)° -E	
134	14G~15G	5.4	(5.8)	3.9	3.0	(19.7)	N-12° -E	
135	14E~15E	3.6	2.4	4.0	3.9	12.4	N-17° -E	

第11表 水田区画計測表 (第6水田面) ③

番号	位置 (グリッド)	規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
		北辺	南辺	東辺	西辺			
136	14E~15E	-	-	-	-	-		
137	14F~15F	(6.4)	(6.7)	8.9	(7.5)	(54.0)	N-(9)° -E	
138	14F~15F	5.7	5.2	5.4	7.6	43.5	N-10° -E	
139	14F~15G	5.9	6.0	8.1	8.5	47.7	N-10° -E	
140	15G	(7.9)	(8.1)	-	9.4	(77.3)	N-(10)° -E	
141	15G	(4.5)	(4.5)	7.3	-	(35.4)	N-(10)° -E	
142	15G~15H	(5.9)	(4.8)	(5.1)	(5.4)	(26.8)	N-15° -E	
143	15H	5.3	6.3	4.6	(5.0)	(27.8)	N-12° -E	
144	15H	7.9	6.5	6.1	4.6	38.8	N-9° -E	
145	15H	-	4.2	-	-	-	N-10° -E	
146	15I	-	-	-	-	-	N-13° -E	
147	15G	-	-	-	-	-		
148	15G	(5.7)	(5.6)	(5.3)	-	(31.5)	N-(10)° -E	
149	15G	5.5	5.7	5.5	5.6	31.5	N-10° -E	
150	15H	4.9	5.3	5.6	5.4	28.4	N-9° -E	
151	15H	4.6	5.3	5.7	5.4	29.1	N-5° -E	
152	15H	6.4	5.8	4.7	5.4	33.2	N-8° -E	
153	15I	(5.5)	(5.0)	-	4.8	(25.8)	N-11° -E	
154	15I	-	(4.3)	-	-	-	N-7° -E	
155	15I	-	3.3	-	-	-	N-8° -E	
156	15I	-	5.2	-	-	-	N-16° -E	
157	15G	-	4.4	-	-	-	N-28° -E	
158	15G	(6.2)	(6.1)	6.1	-	(41.7)	N-(11)° -E	
159	15G~16G	5.6	5.5	5.4	6.1	32.6	N-11° -E	
160	15H~16H	5.0	5.5	5.5	5.5	28.4	N-10° -E	
161	15H~16H	5.3	5.1	5.2	5.4	29.1	N-7° -E	
162	15H~16H	5.7	5.0	5.2	5.1	26.6	N-8° -E	
163	15H~16I	(5.5)	(5.4)	-	4.9	(30.5)	N-7° -E	
164	15I~16I	4.7	(3.1)	7.4	7.7	(28.5)	N-10° -E	
165	15I~16I	3.6	(4.7)	(7.9)	7.4	30.6	N-12° -E	
166	15I~16I	5.1	(4.6)	(8.5)	(8.0)	(38.1)	N-8° -E	
167	15I~16J	4.0	(3.8)	(7.7)	(8.0)	(26.8)	N-10° -E	
168	16G	-	-	(5.8)	-	-	N-15° -E	
169	16G	-	-	-	-	-	N-(17)° -E	
170	16G	5.7	-	-	-	-	N-9° -E	
171	16H	5.5	-	-	-	-	N-1° -W	
172	16H	5.6	-	-	-	-	N-3° -W	
173	16H	4.9	-	-	-	-	N-5° -E	

第11表 水田区画計測表 (第6水田面) ④

番号	位置 (グリッド)	規模 (m)				面積 (㎡)	軸方向	水口
		北辺	南辺	東辺	西辺			
1	4C~6D	-	(4.4)	(49.6)	-	(249.0)	N-11° -E	
2	4D~6D	-	12.7	(53.8)	(49.6)	(693.7)	N-11° -E	
3	4D~5E	-	8.4	(21.1)	(21.5)	(85.1)	N- 9° -E	
4	4E~5E	-	12.8	(17.4)	(21.1)	(247.6)	N- 9° -E	
5	5D~6D	-	(7.8)	-	(7.4)	(73.1)	N-11° -E	
6	5E~6E	8.4	10.5	39.5	39.8	343.2	N- 9° -E	
7	5E	12.8	10.3	31.8	31.1	320.7	N-11° -E	
8	6E~7E	(7.8)	(15.4)	-	12.4	(148.7)	N-80° -W	
9	6C~7D	(15.4)	11.9	(56.8)	55.5	(744.2)	N-12° -E	
10	7D~8D	(12.7)	-	(34.9)	-	(140.1)	N- 9° -E	
11	6D~7E	(10.5)	-	(36.8)	15.7	(285.9)	N-10° -E	
12	6F~7F	(10.3)	9.0	26.4	25.9	221.7	N- 8° -E	
13	7F~8F	-	10.5	(45.8)	(61.6)	(469.4)	N-12° -E	
14	8D~8E	-	9.3	(20.5)	(35.9)	(268.1)	N-12° -E	
15	8D~9D	9.0	10.0	15.8	14.7	132.3	N-12° -E	
16	8E~9E	10.0	-	21.6	16.1	(227.3)	N-12° -E	
17	9E~9F	11.9	-	(31.1)	(26.7)	(380.0)	N-10° -E	
18	9E~9F	10.5	-	(27.1)	(26.1)	(258.6)	N-12° -E	
19	8F~9F	9.3	-	(38.7)	(36.3)	(292.0)	N-15° -E	
20	8F~9G	-	-	(26.4)	(47.2)	(688.4)	N-14° -E	
21	9G~10G	-	-	(31.2)	(26.4)	(297.0)	N-16° -E	
22	9G~10G	-	-	-	(31.2)	(163.0)	N-17° -E	
23	11E~12E	-	-	(38.2)	-	(542.2)	N-12° -E	
24	11E~12G	-	19.2	(38.7)	(38.2)	(609.8)	N- 9° -E	
25	11F~12F	-	11.2	(36.5)	(38.7)	(387.8)	N- 8° -E	
26	11F~12F~12G	-	11.0	-	(36.5)	(382.5)	N-10° -E	
27	12E~13E	(21.4)	(6.1)	(38.2)	-	(284.2)	N-12° -E	
28	13F	11.3	(10.2)	24.6	23.9	229.7	N-12° -E	
29	13F~14G	11.1	(12.5)	(25.1)	24.6	254.6	N-11° -E	
30	14E	(6.2)	-	(24.5)	-	-	N-11° -E	
31	14F~15F	10.8	-	(24.1)	(24.5)	(224.8)	N-11° -E	
32	14F~15F	(12.5)	-	-	(24.1)	(202.2)	N-13° -E	
33	14G	-	(2.8)	(4.8)	-	-	N-17° -E	
34	14G~15G	(2.8)	(1.3)	12.4	-	-	N-15° -E	
35	15G	(1.3)	-	10.6	-	-	N-15° -E	
36	15G~16G	-	-	9.6	-	-	N-17° -E	
37	14G~14H	-	(17.3)	-	(4.8)	(121.6)	N-83° -W	
38	14G~15H	(17.3)	(28.3)	-	12.4	(210.3)	N-81° -W	
39	15G~15H	(28.3)	(31.2)	-	10.6	(289.5)	N-81° -W	
40	15G~16H	(31.2)	-	-	(9.6)	(191.4)	N-83° -W	

第12表 水田区画計測表 (第5水田面)

計測表凡例

1. 各計測数値の単位はcm、－は計測不能、()は遺存部分での計測値を示す。
2. 計測値の上段は最大値、下段は最小値を示す。
3. 焼成はA+ (極めて良好)、A (良好)、B+ (比較的良好)、B (普通)、C+ (やや不良)、C (不良)である。
4. 遺物の色調の上段は内面、下段は外面を示す。
5. 胎土の混入物は目立つものや特異なもののみを記載し、一般的に見られるものは割愛した。
6. 「技法」
 - 成形 A (非ロクロ)、B (巻上げロクロ使用)、C (ロクロ使用)、－ (不明)
 - 底部 A (静止ヘラ切り)、B (回転ヘラ切り)、C (静止糸切り)、D (回転糸切り)、－ (不明)
 - 調整 A (底部のみ静止もしくは手持ちヘラケズリ)
 - A' (底部のみ静止もしくは手持ちヘラケズリ)
 - B (底部のみ回転ヘラケズリ)
 - B' (底部周囲と体部下端を回転ヘラケズリ)
 - C (底部および体部下端を静止もしくは手持ちヘラケズリ)
 - C" (体部下端のみ手持ちヘラケズリ)
 - D (底部および体部下端を回転ヘラケズリ)
 - D' (体部下端のみ回転ヘラケズリ)
 - E (体部下端のみ静止もしくは手持ちヘラケズリ)
 - F (ロクロナデ)
 - G (無調整)

挿図	図版	番号	遺構	器種	技法			口径	底部		器高	高台		指数		焼成	
					成形	底部	調整		径	厚さ		径	高さ	口高	底高		
45	19	1	4E-26	杯	A	-	C	13.6 13.8	8.6 9.2	0.5	3.1					C+	
		2	13I	杯	A	-	C	11.4 11.6	7.6 6.3	0.6	3.6			-	-	B	
		3	7E-00	杯	A	-	C	-	10.0 10.0	(0.7) (0.6)		(2.9)			-	-	B
		4	9F-96	杯	B	B	C	-	7.6 6.4	0.5 (0.3)		(2.6)			-	-	A
		5	F区	杯	B	-	C	-	6.5 7.4	(0.7) (0.5)		(2.0)			-	-	C+
		6	10H	杯	B	B	C"	-	8.2 7.6	0.6 (0.5)		(2.5)			-	-	B+
		7	6E-88	杯	B	-	D	-	8.1 7.9	0.6 (0.4)		(1.9)			-	-	A
		8	4D-15・16	高台付杯?	B	-	-	14.0 14.2	-	-		(3.2)	-	-	-	-	B
		9	14G	杯	B	-	C	-	6.0 7.4	0.9 (0.6)		(2.0)			-	-	B
		10	6E-18	杯	B	-	D	-	6.1 6.6	0.8 (0.5)		(2.0)			-	-	B
		11	SD-1	杯	B	-	-	12.8 13.1	-	-		(2.5)			-	-	A
		12	13G-99	杯	B	-	D	-	6.5 7.0	0.7 0.5		(2.2)			-	-	B
		13	4D-03	碗	B	-	C	11.8 12.0	-	-		(4.0)			-	-	A
		14	11H	杯	B	D	B'	-	7.6 7.7	0.5		(1.0)			-	-	A
		15	15H-03	杯	B	-	D	-	8.2 8.0	0.5 (0.4)		(1.4)			-	-	A
		16	11D	杯	B	-	-	12.5 12.8	-	-		(3.5)			-	-	A
		17	7D-46	杯	B	-	D	-	7.2 7.2	0.6 (0.3)		(1.8)			-	-	A
		18	F区	杯	B	-	D?	12.2 12.4	-	-		(3.6)			-	-	B+
		19	F区	杯	B	-	D	11.4 11.6	7.2 8.2	0.5 (0.4)	3.0						C+
		20	6F	杯	B	-	C?	12.0 12.4	-	-		(2.8)			-	-	A
		21	12H-34	杯	B	B	C"	-	5.6 5.4	0.7 (0.5)		(2.3)			-	-	B+
		22	11G-51	杯	B	-	D	-	7.1 6.9	0.6 0.4		(0.8)			-	-	B
		23	11D-05	杯	B	A	D'	-	6.0 6.6	0.7 0.4		(1.2)			-	-	B
		24	8E-14	杯	B	D	D'	-	7.0 6.6	(0.5) (0.4)		(2.2)			-	-	B+
		25	4D-47	杯	B	D	C"	-	6.6 6	0.6		(2.2)			-	-	A
		26	12G-60	杯	B	-	D	-	5.8 6	0.8		(1.3)			-	-	A
46	20	27	11E-89	皿	B	-	D	12.0 12.6	7.6 7.6	0.7	2.7					A	
		28	8E-02・03	杯	B	-	D?	15.2 16.0	-	-		(3.6)			-	-	A
		29	9G	杯	B	-	-	13.6 14.0	-	-		(2.7)			-	-	B
		30	11F-94	杯	B	-	-	13.2 13.4	-	-		(2.5)			-	-	B+
		31	13H-34	杯	B	-	-	13.0 13.2	-	-		(3.0)			-	-	B+
		32	8F	杯	B	-	-	-	8.3 8.4	0.9 0.2		(1.9)			-	-	C+

第13表 遺物計測表(1) 土師器(杯類)①

遺存	色調		胎色調	土混入物	備考
	内面	外面			
全1/8	7.5YR-7/4~7.5YR-7/3	7.5YR-7/4~7.5YR-7/3	2.5Y-5/1	白色粒子、砂粒 雲母微粒、土器粒	
全1/6	2.5Y-5/1~7.5YR-7/6	2.5Y-8/3~7.5YR-8/4	2.5Y-5/1~5YR-7/6	黑色粒子、雲母微粒 土器粒	
底部1/5	7.5YR-7/6	10YR-8/4~7.5YR-7/6	7.5YR-7/6	白色粒子、砂粒 雲母微粒、土器粒	
底部破片	7.5YR-7/4~2.5YR-6/6	7.5YR-7/4~2.5YR-6/6	7.5YR-7/4	白色粒子、砂粒 雲母微粒、土器粒	
底部1/6	7.5YR-8/4~5YR-7/6	7.5YR-8/4~5YR-7/6	5YR-7/6	雲母微粒	
底部破片	5YR-7/8	5YR-7/8	5YR-7/8	白色粒子、砂粒 雲母微粒、白色針狀物質	
底部破片	10YR-6/2~10YR-3/1	10YR-6/1~10YR-4/1	10YR-6/6	白色粒子、砂粒 白色針狀物質、土器粒	
口縁部1/8	5YR-2/1	10YR-8/3~7.5YR-8/4	10YR-8/3~7.5YR-8/4	白色粒子 雲母微粒、白色針狀物質	
底部1/6	10YR-6/2	7.5YR-7/6	7.5YR-7/6	白色粒子、砂粒 石英粒、雲母微粒	
底部1/6	2.5Y-6/2	7.5YR-7/6	10YR-8/3	白色粒子、砂粒 雲母微粒、土器粒	
口縁部1/8	7.5YR-8/4	7.5YR-8/4	7.5YR-8/4	白色粒子、砂粒 雲母微粒、白色針狀物質	
底部1/5	2.5Y-7/3	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	白色粒子、砂粒 石英粒、雲母微粒	
口縁部1/8	5YR-7/6	2.5YR-7/6	5YR-7/6~2.5YR-7/6	白色粒子、砂粒 石英粒、雲母微粒	
底部破片	10YR-8/3	10YR-8/3	10YR-8/3	白色粒子、砂粒 雲母微粒、土器粒	
底部1/5	7.5YR-8/4	10YR-8/3	10YR-8/3	白色粒子、砂粒 石英粒、土器粒	
口縁部破片	7.5YR-8/3~5YR-8/3	7.5YR-8/3~5YR-8/3	5YR-8/3	白色粒子、砂粒 雲母微粒	
底部1/6	5YR-6/6	5YR-6/6	5YR-7/6	白色粒子、砂粒 雲母微粒、土器粒	
口縁部破片	7.5YR-8/4	7.5YR-7/4~2.5YR-6/6	5YR-7/6	白色粒子、砂粒 石英粒、雲母微粒	
全1/8	5YR-7/8	7.5YR-7/4	5YR-7/8~10YR-5/2	白色粒子、砂粒 雲母微粒	
口縁部破片	2.5YR-6/4~7.5YR-7/4	2.5YR-6/4~7.5YR-7/4	7.5YR-7/4	白色粒子、砂粒 雲母微粒	
底部破片	7.5YR-7/6	2.5Y-8/3~5YR-7/6	2.5Y-8/3~5YR-7/6	白色粒子、砂粒 雲母微粒、白色針狀物質	
底部1/3	5YR-7/4~5YR-8/4	5YR-7/4~5YR-8/4	5YR-7/4	白色粒子、砂粒 雲母微粒、土器粒	
底部1/4	7.5YR-8/4~5YR-7/6	7.5YR-8/4~5YR-7/6	7.5YR-8/4~5YR-7/6	白色粒子、砂粒 石英粒、土器粒	
底部1/8	5YR-8/4	5YR-8/4	5YR-8/4	白色粒子、砂粒 石英粒、雲母微粒	
底部1/6	10YR-6/3	10YR-6/3	10YR-6/3	白色粒子、砂粒 雲母微粒	
底部破片	5YR-7/4	5YR-7/4	5YR-7/4	白色粒子、砂粒 雲母微粒、白色針狀物質	
全1/8	7.5YR-7/6	7.5YR-7/6	7.5YR-7/6	白色粒子、砂粒 雲母微粒、土器粒	
口縁部1/4	5YR-7/4~2.5YR-7/6	2.5YR-7/6~2.5YR-6/4	5YR-6/6	白色粒子、砂粒 雲母微粒	
口縁部1/8	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	白色粒子、砂粒 雲母微粒	
口縁部1/8	5Y-2/1	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	白色粒子、砂粒 白色針狀物質、雲母片	内面黑色処理
口縁部破片	10YR-7/3	10YR-7/3	7.5YR-7/6	白色粒子 雲母微粒、土器粒	
底部1/3	10YR-7/4	5YR-6/4	5YR-6/4~10YR-7/3	白色粒子、砂粒 雲母微粒	

第13表 遺物計測表(1) 土師器(杯類)①-2

挿図	図版	番号	遺構	器種	技法			口径	底部		器高	高台		指数		焼成
					成形	底部	調整		径	厚さ		径	高さ	口高	底高	
46	20	33	12H 13H-28	杯	-	-	D	-	6.7 7.0	0.8 0.7	(0.9)	/	/	-	-	A
		34	11G-91	杯	-	-	D	5.4	6.6 0.5	0.6	(1.1)	/	/	-	-	A
		35	13G-08	杯	-	-	D	-	7.0 6.8	0.9 0.5	(0.9)	/	/	-	-	C+
		36	11F-83	碗	C	B	F	-	5.4 -	-	(1.8)	/	/	-	-	A
		37	11F-32	碗	B	-	B?	-	6.0 6.4	1.4 (1.1)	(2.6)	/	/	-	-	B
		38	F区	碗	B	D	F	-	5.4 5.4	1.0 (0.9)	(2.2)	/	/	-	-	A+
		39	4E-33	高台付碗?	C?	-	F	-	6.8 6.4	(0.8) 0.4	(1.8)	6.6 5.8	0.7	-	-	B
		40	11H-93	高台付碗?	C?	-	F	-	7.3 6.0	(0.6) 0.4	(1.4)	7.4 6.4	0.7 0.5	-	-	B
		41	11D	高台付碗?	C?	-	F	-	5.2 -	0.9 0.7	(1.6)	5.6 3.8	0.5 0.4	-	-	B
		42	13F-69	高台付碗?	C?	-	F	-	5.6 -	0.6 0.5	(1.6)	6.8 4.6	1.3 1.0	-	-	A
		43	12H	高台付碗?	C?	-	F	-	6.2 -	0.6 0.5	(1.3)	6.4 4.3	0.7 0.5	-	-	B
		44	12H-11	高台付碗?	C?	-	F	-	7.2 -	0.5	(1.2)	7.6 5.5	0.7 0.4	-	-	B

第13表 遺物計測表(1) 土師器(杯類)②

遺存	色調		胎色調	土混入物	備考
	内面	外面			
底部2/3	10YR-4/3	10YR-4/4~5YR-7/4	10YR-4/4~5YR-7/4	白色粒子、砂粒 雲母微粒、土器粒	
底部1/8	10YR-7/3	7.5YR-8/4	7.5YR-8/4	白色粒子、砂粒 雲母微粒	
底部3/4	2.5YR-6/6	5YR-6/4	2.5YR-7/6	白色粒子、砂粒 石英粒、雲母微粒	
底部破片	10YR-7/3	7.5Y-2/1	10YR-7/3	白色粒子、砂粒 雲母微粒	
底部1/8	5YR-7/6	10YR-6/1~10YR-8/3	10YR-8/3~5YR-7/6	白色粒子、砂粒 雲母微粒、土器粒	
底部1/8	10YR-7/3	10YR-6/3~2.5Y-5/1	10YR-7/3	白色粒子、砂粒 雲母微粒	
底部1/3	5Y-2/1	7.5YR-8/4~5YR-8/4	7.5YR-8/4~5YR-8/4	白色粒子 雲母微粒、白色針狀物質	
底部1/3	5Y-2/1	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	白色粒子、石英粒 雲母微粒、白色針狀物質	
底部1/4	2.5Y-6/2	10YR-7/3	2.5YR-7/6	白色粒子 雲母微粒、白色針狀物質	
底部1/2	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	白色粒子、砂粒 石英粒、雲母片	
底部1/3	2.5Y-6/2	10YR-7/4	10YR-7/4	白色粒子、雲母微粒 白色針狀物質、土器粒	
底部破片	5Y-2/1	10YR-8/3	10YR-8/3	白色粒子、砂粒 雲母微粒、白色針狀物質	

第13表 遺物計測表(1) 土師器(杯類)②-2

挿図	図版	番号	遺構	器種	口径	最大径	底径		器高	立ち上がり		杯高	脚部			焼成
							外面	内面		内径	高さ		裾径	基径	高さ	
44	31	1	3号土坑	碗	15.6	15.8	-	-	(5.0)							B+
		2	3号土坑	碗	16.3	16.5	11.8	12.2	6.9							A
		5	4号土坑	杯	12.6	12.8	7.6	9.4	3.7							B+
48	21	45	5F	杯蓋模倣杯	10.8	12.4	-	-	(2.4)	11.0	0.6	(1.9)				A
		46	15J-82	杯蓋模倣杯	10.6	12.3	-	-	(2.6)	11.0	0.7	(1.7)				B
		47	11D	杯蓋模倣杯	13.6	15.0	-	-	(2.6)	13.4	1.0	(2.0)				B
		48	5E-06	碗	11.2	12.4	-	-	(3.2)							B
		49	14I-91	碗	9.6	10.8	-	-	(2.8)							B
		50	11H-61	杯	10.6	11.0	-	-	(2.8)							B
		51	12H-11	碗	12.6	12.7	4.4	6.0	4.9							B+
		52	4D-42	碗	10.8	10.9	-	-	(3.9)							B
49		1	4C-29・38 4C-48・49	高杯	-	-			(5.8)			(2.0)	8.0	4.2	3.8	B
		2	1.10E-10	高杯	-	-			(5.5)			(1.1)	(9.6)	3.6	4.4	B
		3	4E-00	高杯	-	-			(4.8)			(2.1)	-	5.0	(2.7)	A
		4	13H-43	高杯	-	-			(4.5)			2.0	-	4.6	(2.5)	B
		5	11E-14	高杯	-	-			(6.7)			(1.0)	-	4.6	(5.7)	C+
		6	7E-33	高杯	-	-			(4.3)			(0.7)	-	3.8	(3.6)	C+
		7	13G-19	高杯	-	-			(5.5)			-	14.3	-	(5.5)	B
		8	4C-29	高杯	-	-			(4.6)			-	12.8	-	(4.6)	A
		9	4C-57	高杯	-	-			(2.0)			-	13.2	-	(2.0)	A
		10	5D-61	高杯	-	-			(3.8)			-	11.6	-	(3.8)	A

第13表 遺物計測表(1) 土師器(杯類)③

遺存	色調		胎土		備考
	内面	外面	色調	混入物	
口縁部1/6	10YR-7/3	2.5Y-8/3~2.5Y-7/3	2.5Y-8/4	石英粒、砂粒、雲母粒	内面放射状暗文
全1/6	2.5Y-8/4	10YR-8/3~5YR-7/6	2.5Y-8/4	白色粒子、砂粒 石英粒、雲母微粒	内面放射状暗文
完型	2.5Y-8/3~5Y-8/2	2.5Y-8/3~5Y-8/2	2.5Y-8/3	石英粒、砂粒、雲母粒 破碎土器粒	
口縁部1/8	10YR-7/4	2.5Y-8/4	10YR-7/4	白色粒子、砂粒、土器粒	
口縁部1/8	10YR-8/3~7.5YR-7/6	10YR-8/3~7.5YR-7/6	5YR-6/8	白色粒子、土器粒 白色針状物質	
口縁部破片	2.5Y-2/1~2.5Y-3/1	2.5Y-2/1~2.5Y-3/1	2.5Y-8/3	白色粒子、砂粒	黒色処理?
口縁部破片	2.5Y-8/3	10YR-7/3~5YR-6/4	2.5Y-8/2	白色粒子、砂粒、石英粒	
口縁部破片	2.5Y-6/3~7.5YR-5/6	2.5Y-6/3	7.5YR-5/6	白色粒子、砂粒、石英粒	
口縁部1/8	10R-5/6、2.5Y-8/3	2.5Y-8/3~2.5Y-6/2	2.5Y-8/3~5Y-5/1	石英粒、砂粒、土器粒	内面赤彩
全1/6	2.5YR-6/6	2.5YR-6/6~5YR-7/6	10YR-6/3~2.5YR-6/6	白色粒子、砂粒 白色針状物質	
口縁部1/8	2.5Y-5/2	7.5YR-7/6	2.5Y-5/2~7.5YR-7/6	白色粒子、砂粒、土器粒	
脚部3/4 杯部1/5	2.5Y-8/3	10YR-8/4	10YR-8/4	白色粒子、砂粒、石英粒 白色針状物質、土器粒	
脚部3/4 杯部破片	7.5YR-8/6	7.5YR-7/6	5YR-6/6~2.5Y-5/2	白色粒子、砂粒、石英粒 白色針状物質、土器粒	
接合部1/2	5Y-8/3	2.5Y-8/4~5Y-3/1	5Y-8/3	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母片、土器粒	
接合部1/2	7.5YR-8/4~2.5YR-7/4	7.5YR-8/4~2.5YR-7/4	2.5YR-7/4~10YR-6/1	白色粒子、砂粒 白色針状物質、雲母微粒	
接合部完型 脚部1/4	5Y-4/1~5YR-7/6	10YR-7/4~5YR-7/6	N-4/0	白色粒子、砂粒、土器粒 白色針状物質、雲母微粒	
接合部完型 脚部1/4	10YR-7/6	5Y-8/3	2.5GY-2/1~5Y-8/3	白色粒子、砂粒 白色針状物質、雲母微粒	
脚部1/8	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	5Y-5/1~7.5YR-7/6	白色粒子、土器粒	
脚部1/8	5YR-7/6~5Y-5/1	7.5YR-8/6	5YR-7/6	白色粒子、砂粒、土器粒 雲母微粒	
裾部1/8	5Y-7/1~5Y-6/1	10YR-8/3	5Y-5/1~10YR-8/3	白色粒子、砂粒、土器粒 雲母微粒	
裾部1/8	5YR-8/4	7.5YR-8/6	10YR-6/8~10YR-8/3	白色粒子、砂粒 白色針状物質	

第13表 遺物計測表(1) 土師器(杯類)③-2

挿図	図版	番号	遺構	器種	口縁部		頸部			最大径	底径	器高	脚台部			焼成
					内径	外径	内径	外径	高さ				裾径	基径	高さ	
51	22	1	3号土坑	甕	26.4	26.8	20.9	22.4	3.1	22.8	-	(15.5)				B
		4	3号土坑	甕	-	-	-	-	-	-	5.1	(5.1)				B+
		6	4号土坑	甕	12.6	12.8	10.2	11.2	2.7	-	-	(5.1)				B
		1	13G-88	甕	21.8	22.0	16.2	18.2	2.9	-	-	(3.6)				B
		2	7F	甕	23.0	23.0	14.0	15.6	4.6	-	-	(5.5)				B+
		3	4E-30	甕	19.8	19.9	15.0	17.2	3.4	-	-	(4.8)				B
		4	10D-98 11E-92	甕	22.0	22.1	18.0	19.6	3.1	-	-	(3.2)				B+
		5	4D-03	甕	19.4	19.8	16.4	17.6	3.0	-	-	(3.5)				B
		6	4D-06・16	甕	24.0	24.4	20.6	21.8	3.9	-	-	(6.2)				B
		7	12H-22	甕	-	-	11.2	13.6	(3.3)	-	-	(4.2)				B
		8	4D-13	小型甕	15.6	15.8	12.1	14	2.5	-	-	(3.1)				B
		9	10H	小型甕	24.6	24.8	20.2	21.4	3.0	-	-	(4.2)				B+
		10	12H	小型甕	14.0	14.4	10.5	12	3.1	-	-	(3.8)				C+
		11	12H-10	甕	27.0	27.4	19.8	21.6	3.7	-	-	(4.5)				B+
		12	13F-43	小型甕	15.6	15.8	11.6	13	2.2	-	-	(2.5)				A
		13	F区	小型甕	13.8	13.9	9.2	10.8	3.2	-	-	(4.0)				B+
		14	6E-39	小型甕	16.2	16.6	13.6	14.8	1.5	16.2	-	(4.3)				B+
		15	13G-28	甕	15.0	15.4	11.8	13.8	2.8	-	-	(3.5)				B
		16	6D	小型甕	12.8	13.0	10.6	11.6	2.8	-	-	(4.2)				B
		17	3D-96 4D-29	小型甕	14.4	15.0	11.2	12.0	3.0	-	-	(3.2)				B
18	13I	小型甕	13.4	13.8	11.6	13.0	1.6	-	-	(2.9)				B		
19	3D-97	台付蜂	12.2	12.6	10.4	11.6	1.9	11.6	-	(3.8)	-	-	-	B		
20	7E+00	甕	34.0	34.3	28.6	29.2	3.5	-	-	(4.8)				A		
52	23	21	7F	小型甕	-	-	-	-	-	4.8	(2.2)				A	
		22	5E-58・69	小型甕	-	-	-	-	-	4.2	(1.8)				A	
		23	8D-55・59 8D-86・97	甕	-	-	-	-	-	17.0	7.4	(7.4)				B
		24	4E-11	甕	-	-	-	-	-	-	8.4	(2.9)				A
		25	11D-18	甕/壺	-	-	-	-	-	-	7.6	(3.5)				A
		26	8D	小型甕	-	-	-	-	-	-	6.2	(2.6)				A
		27	4C-29・49 4C-69	甕	-	-	-	-	-	-	6.8	(2.9)				A
		28	4E-79 5E-11	甕	-	-	-	-	-	-	7.2	(4.1)				A
		29	6D	甕	-	-	-	-	-	-	5.6	(2.8)				B

第14表 遺物計測表(2) 土師器(甕類)①

遺 存	色 調		胎 色 調	土 混 入 物	備 考
	内 面	外 面			
口縁部1/3 体部1/6	10YR-8/3~10YR-7/4	2.5Y-7/3~5Y-2/1	2.5Y-8/3	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、土器粒	
底部完型 体部破片	7.5Y-4/1	7.5YR-6/6~2.5Y-8/3	7.5Y-5/1	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、土器粒	
口縁部1/5	5YR-6/6~5YR-7/6	5YR-6/6~5YR-7/6	5YR-6/6	白色粒子、砂粒、石英粒 白色針状物質	
口縁部破片	5YR-5/6~7.5YR-7/4	5Y-2/1~10YR-7/4	5YR-5/6~7.5YR-7/4	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、白色針状物質	
口縁部1/6	10YR-8/3	2.5Y-7/2~5Y-4/1	2.5Y-7/2~10YR-8/3	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	
口縁部破片	10YR-6/3~10YR-3/1	10YR-6/3	10YR-2/1~7.5YR-6/6	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、土器粒	
口縁部破片	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	5Y-4/1	白色粒子、砂粒、石英粒	
口縁部破片	10YR-8/3	2.5Y-8/4	10YR-8/3~5Y-4/1	白色粒子、砂粒、石英粒 破碎土器粒	
口縁部破片	7.5YR-3/4~7.5YR-6/6	2.5Y-8/3	7.5YR-7/6	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、白色針状物質	
頸部1/5	2.5Y-8/3~5YR-7/4	10YR-7/3	2.5Y-8/3~5YR-7/4	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、白色針状物質	
口縁部破片	10YR-7/3	10YR-7/3	10YR-7/3	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、白色針状物質	
口縁部破片	7.5Y-8/3	7.5Y-7/2~7.5Y-6/2	7.5YR-7/6	白色粒子、砂粒、石英粒 白色針状物質	
口縁部破片	10YR-8/4~10YR-7/4	10YR-8/4~10YR-7/4	5Y-4/1~10YR-7/3	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母粒、白色針状物質	
口縁部破片	2.5Y-8/3~2.5Y-6/1	2.5Y-8/3~2.5Y-6/1	5Y-4/1~2.5Y-8/3	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	
口縁部破片	2.5Y-7/3	5Y-6/2	5Y-4/1	白色粒子、砂粒 雲母微粒、白色針状物質	
口縁部破片	7.5YR-5/6	7.5YR-5/6	7.5YR-5/6	白色粒子、砂粒 雲母微粒、白色針状物質	
口縁部破片	7.5YR-5/4~10YR-1.7/1	10YR-2/1~7.5YR-5/4	7.5YR-4/4	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	
口縁部破片	10YR-3/1~10YR-7/4	7.5Y-3/1~5Y-3/1	5YR-6/6	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、白色針状物質	
口縁部破片	2.5YR-6/6~5YR-7/6	10YR-4/2~10YR-8/3	10YR-3/1	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	
口縁部破片	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	5Y-4/1	白色粒子、砂粒、土器粒 雲母微粒、白色針状物質	
口縁部破片	7.5YR-7/6~2.5YR-6/6	2.5YR-7/6	2.5YR-6/6	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、白色針状物質	
口縁部破片	5Y-4/1~7.5YR-6/6	5Y-4/1~7.5YR-6/6	5Y-4/1~5YR-6/6	白色粒子、砂粒、石英粒	
口縁部破片	7.5YR-6/4	7.5YR-6/4	7.5YR-6/4	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、白色針状物質	
底部1/3	10YR-7/4	10YR-8/3~10YR-4/1	10YR-7/4	白色粒子、砂粒、石英粒 白色針状物質	
底部1/2	7.5YR-5/4	7.5YR-6/3~7.5YR-4/2	7.5YR-4/2~7.5YR-4/4	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	
底部完型 体部1/8	5YR-4/1~5YR-2/1	2.5YR-5/8~7.5YR-2/1	10YR-7/4~10YR-6/4	白色粒子、砂粒、石英粒	
底部3/5	2.5Y-8/3~2.5Y-8/2	2.5Y-8/3~2.5Y-8/2	5Y-2/2	白色粒子、石英粒 雲母微粒	
底部1/4	10YR-3/1~10YR-6/3	10YR-4/1~5YR-6/8	7.5YR-6/6~7.5YR-7/3	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	
底部完型	10YR-8/3	10YR-8/2~10YR-3/1	5YR-6/8	白色粒子、砂粒、石英粒	
底部3/5	5YR-7/6	5Y-2/1~7.5YR-7/4	5YR-7/6	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	
底部1/3	7.5YR-8/6	5YR-6/8~7.5YR-7/4	7.5YR-8/3~7.5YR-8/6	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	
底部略完型	10YR-7/2	5YR-6/6~10YR-3/1	10YR-3/1	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	

第14表 遺物計測表(2) 土師器(甕類)①-2

挿図	図版	番号	遺構	器種	口縁部		頸部			最大径	底径	器高	脚台部			焼成
					内径	外径	内径	外径	高さ				裾径	基径	高さ	
52	23	30	3D-94	甕	-	-	-	-	-	-	6.0	(3.7)				A
		31	7D-94	甕/壺	-	-	-	-	-	-	6.4	(2.4)				B
		32	13H-61	台付甕	-	-	-	-	-	-		(2.7)	7.0	5.8	1.0	B
		33	F区	台付甕	-	-	-	-	-	-		(3.2)	8.2	6.0	2.2	B+
		34	11D	台付甕	-	-	-	-	-	-		(4.2)	9.4	8.0	2.2	B

第14表 遺物計測表(2) 土師器(甕類)②

挿図	図版	番号	遺構	種別	器種	技法		口径	最大径	底径	高台		かえり・立上り		つまみ		器高	焼成
						切離	調整				径	高さ	径	高さ	径	高さ		
54	24	1	7D-65	須恵器	杯蓋	B	G	11.4 11.8	-	5.6 6.4	-	-	-	-	-	-	3.9	A+
		2	4D-24・44 6F	須恵器	杯蓋	-	-	11.2 11.8	-	-	-	-	-	-	-	-	(3.6)	B
		3	5C	須恵器	杯蓋	B	G	10.1 10.4	-	5.2 7.6	-	-	-	-	-	-	3.2	A
		4	7D-37	須恵器	杯蓋	-	-	12.0 12.2	-	-	-	-	-	-	-	-	(2.8)	B+
		5	4C-29	須恵器	杯蓋	-	-	12.0 12.4	-	-	-	-	-	-	-	-	(2.4)	B
		6	7D	須恵器	杯蓋	-	B	-	-	4.4 10.6	-	-	-	-	-	-	(2.3)	A+
		7	5F	須恵器	杯蓋	B	G	-	-	8.8 7.0	-	-	-	-	-	-	(2.4)	A+
		8	10H	須恵器	杯蓋	-	B	-	-	7.8 6.4	-	-	-	-	-	-	(2.7)	C+
		9	12E-88	須恵器	杯蓋	-	B	-	-	8.8 7.6	-	-	-	-	-	-	(2.7)	A
		10	5C	須恵器	杯蓋	-	B	10.4 10.8	-	7.2 7.0	-	-	8.6 8.8	0.5 0.3	-	-	2.2	A
		11	4D-18・39 4D-88	須恵器	杯蓋	-	B	-	-	8.8 7.4	-	-	-	-	-	-	(2.6)	A+
		12	13H-50	須恵器	杯蓋	-	-	15.3 14.1	-	-	-	-	-	-	-	-	(2.5)	B
		13	4E-34	須恵器	杯蓋	-	-	14.2 14.4	-	-	-	-	-	-	-	-	(3.3)	B
		14	6F	須恵器	杯蓋	-	-	14.4 15.0	-	-	-	-	-	-	-	-	(2.3)	A
		15	5C	須恵器	杯蓋	-	B	-	-	4.5 5.8	-	-	-	-	-	-	(1.7)	A+
		16	13H-93	須恵器	杯蓋	-	-	15.6 16.2	-	-	-	-	13.6 -	(0.3)	-	-	(2.7)	A+
		17	7F	須恵器	杯蓋	-	-	15.9 16.0	-	-	-	-	14.4 (14.0)	(0.3)	-	-	(2.0)	B
		18	5C	須恵器	杯	-	-	9.8 11.4	-	-	-	-	10.0 -	0.4	-	-	(1.6)	A+
		19	7C	須恵器	杯	-	-	10.4 11.0	-	-	-	-	9.2 -	(0.3)	-	-	(1.9)	A+
		20	4D-18 4E-27	須恵器	杯	B	G	7.9 10.0	-	6.2 5.4	-	-	8.0 -	0.6 0.5	-	-	2.5	A+
		21	7F	須恵器	杯	-	-	14.4 16.2	-	-	-	-	14.0 -	1.9	-	-	(3.8)	A+
		22	3D-96・97 4D-49,SK1	須恵器	杯	-	-	12.0 14.8	-	-	-	-	13.0 -	1.1	-	-	(3.4)	B

第15表 遺物計測表(3) 須恵器(杯類)①

遺 存	色 調		胎 土		備 考
	内 面	外 面	色 調	混 入 物	
底部1/2	5Y-2/1	2.5YR-6/8~7.5YR-4/2	7.5YR-6/6	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒、白色針狀物質	
底部3/5	7.5YR-5/4	2.5YR-6/8	10YR-3/1	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母粒子	
脚台部1/4 底部完型	10YR-5/2~10YR-4/1	10YR-5/3~7.5YR-5/4	10YR-5/2~10YR-5/3	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	
脚台部完型 底部1/3	7.5YR-6/4~7.5YR-4/3	7.5YR-6/4~7.5YR-4/3	5YR-4/6	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母、雲母微粒	
脚台部1/2 底部1/2	2.5YR-7/6~5YR-6/4	2.5YR-6/6	2.5YR-4/1	白色粒子、砂粒、石英粒 雲母微粒	

第14表 遺物計測表(2) 土師器(甕類)②-2

遺 存	色 調		胎 土		備 考
	内 面	外 面	色 調	混 入 物	
全2/5	N-7/0~N-8/0	N-7/0	5P-7/1~N-7/0	石英粒、砂粒、黑色粒子	
口縁部1/8	N-8/0	N-8/0	10YR-7/2	石英粒	
全1/4	N-7/0	N-7/0	N-7/0	石英粒、砂粒、黑色粒子 白色粒子	
口縁部1/8	N-7/0~10YR-4/1	10YR-7/1	N-7/0~10YR-6/2	石英粒、白色粒子	
口縁部1/8	N-7/0~7.5Y-7/1	N-7/0~7.5Y-7/1	7.5Y-6/1	砂粒、灰色粒子	
天井部1/4	2.5GY-7/1	N-6/0~N-5/0	N-6/0~N-5/0	石英粒、黑色粒子	
天井部1/4	N-5/0	N-6/0~N-7/0	N-5/0	石英粒、白色粒子	
天井部1/6	10YR-6/2	2.5Y-6/1~N-5/0	N-5/0~7.5YR-6/3	石英粒、白色粒子	
天井部1/8	N-8/0~N-7/0	N-7/0~N-6/0	N-6/0~N-5/0	石英粒、黑色粒子 白色粒子	
全1/8	N-6/0	N-6/0	N-6/0	石英粒、砂粒、白色粒子	
天井部1/3	N-6/0	N-5/0~N-6/0	N-5/0~N-6/0	石英粒、黑色粒子 白色粒子	
口縁部1/8	N-7/0	2.5GY-2/1	N-7/0~N-5/0	石英粒、黑色粒子	
口縁部1/8	2.5Y-8/1~7.5Y-8/1	2.5Y-8/1~7.5Y-8/1	7.5Y-7/1	石英粒、砂粒	
口縁部1/8	N-5/0	2.5Y-3/1~2.5Y-8/1	N-5/0	石英粒、白色粒子、気泡	
天井部1/6	N-5/0~7.5Y-5/1	N-5/0	N-5/0~7.5Y-5/1	石英粒、砂粒	
口縁部1/8	5PB-5/1	5YR-6/1~N-3/0	5YR-6/2~2.5YR-5/4	石英粒、砂粒、白色粒子	
口縁部1/8	N-8/0	2.5GY-4/1~7.5Y-6/1	N-6/0	石英粒、砂粒、褐色粒子	
口縁部1/8	5Y-4/1	2.5GY-2/1	5Y-4/1	石英粒、白色粒子	
口縁部1/8	7.5Y-4/1~5B-4/1	7.5Y-4/1~5PB-6/1	5PB-4/1	石英粒、砂粒、白色粒子	
口縁部1/4 天井部1/2	N-5/0~N-6/0	N-5/0~N-6/0	N-6/0	石英粒、白色粒子	
口縁部1/6	N-7/0	5Y-5/1~N-7/0	N-7/0	石英粒、砂粒、黑色粒子 白色粒子	
口縁部1/3	N-7/0	N-7/0	N-7/0	石英粒、砂粒、白色粒子	

第15表 遺物計測表(3) 須恵器(杯類)①-2

挿図	図版	番号	遺構	種別	器種	技法		口径	最大径	底径	高台		かえり		つまみ		器高	焼成	
						切離	調整				径	高さ	内径	高さ	径	高さ			
		23	7F	須恵器	杯	-	B	12.0 14.0	14.0	8.2			11.0	1.5 1.1			(3.2)	A+	
		24	5C	須恵器	杯	-	-	11.2 13.4	13.4	-			11.6	0.9 0.7			(1.7)	A	
		25	4D-11	須恵器	杯	-	B	9.2 11.4	11.4	-			9.5	0.7 0.5			(2.3)	A	
		26	4E-27	須恵器	杯蓋	B	G	-	-	5.6 4.1			-	-			(1.4)	A	
		7	5C	須恵器	杯蓋	B	G	-	-	6.2 4.2			-	-			(1.1)	A	
55	25	28	4D-03	須恵器	杯蓋	-	-	-	-	-			-	-	2.4 2.4	1.6	(2.4)	A+	
		29	12F-08	須恵器	杯蓋	-	B	-	-	-			-	-	2.6 2.4	0.8	(1.8)	A+	
		30	4E-10・21 4E-25	須恵器	杯蓋	-	F	-	-	8.4 7.8			-	-	3.2 2.8	0.8	(2.8)	A	
		31	11H	須恵器	杯蓋	-	B	-	-	-			-	-	2.8 2.4	1.2	(2.1)	A+	
		32	4E-21・35	須恵器	杯蓋	B?	B	-	-	4.6 8.8			-	-	3.2 3.2	0.8	(2.1)	A+	
		33	14F-26	須恵器	杯蓋	-	D	-	-	3.8 2.6			-	-	-	-	(1.9)	A	
		34	4E-13	須恵器	杯蓋	B	G	-	-	9.1 8.6			-	-	-	3.6	(1.8)	B	
		35	4C-87	須恵器	杯蓋	-	C	-	-	7.6 6.8			-	-	-	2.2	(2.3)	A	
		36	4E-53	須恵器	杯蓋	-	D	-	-	7.6 6.8			-	-	-	2.2	(1.3)	A	
		37	4D-14	須恵器	杯蓋	-	B	-	-	6.1 10.8			-	-	-	3.2	(1.4)	B	
		38	5C-38	須恵器	杯蓋	-	D	-	-	5.1 5.8			-	-	-	-	(1.9)	A	
		39	4E-14	須恵器	杯蓋	-	B	-	-	7.0 8.0			-	-	-	-	(1.8)	A	
		40	12G-90	須恵器	杯蓋	-	-	13.4 15.0	15.0	-				12.8	0.6	-	-	(1.3)	B
		41	5F	須恵器	杯蓋	-	B	11.8 13.8	13.8	-				11.2	0.4	-	-	(1.2)	B
		42	13G-19	須恵器	杯蓋	-	-	11.3 14.0	14.0	-				10.3	0.4 0.2	-	-	(1.8)	A
		43	13G-09	須恵器	杯蓋	-	-	10.9 14.0	14.0	-				11.0	0.4 0.2	-	-	(1.2)	C+
		44	13F-45	須恵器	杯蓋	-	-	10.8 13.2	13.2	-				10.4	0.4 0.2	-	-	(2.0)	A
		45	10H	須恵器	杯蓋	-	-	15.4 15.8	15.8	-				14.8	0.5	-	-	(1.9)	A
		46	4E-22	須恵器	杯蓋	-	-	16.0 16.4	16.4	-				15.8	0.4	-	-	(2.5)	A+
		47	13H-61	須恵器	杯蓋	-	-	16.4 17.0	17.0	-				16.0	0.5	-	-	(2.0)	A
		48	4D-03	須恵器	杯蓋	-	-	13.6 14.0	14.0	-				13.0	0.4	-	-	(1.6)	A
		49	5E-77	須恵器	杯蓋	-	-	14.2 14.4	14.4	-				13.8	0.6 0.3	-	-	(1.7)	B
		50	4E-62	須恵器	杯蓋	-	-	16.2 16.6	16.6	-				15.6	0.5 0.3	-	-	(1.8)	A
		51	5E-69	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	-		7.4	-					(2.4)	B
		52	4E-65	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	-		-	-					(1.9)	B
		53	13F-81	須恵器	高台付杯	B	B	14.6 14.9	14.9	11.0	9.8	0.7						3.9	B
		54	4E-26	須恵器	高台付杯	-	D	16.2 16.4	16.4	13.4 14.0	12.2 10.4	0.7 0.5						3.8	A

第15表 遺物計測表(3) 須恵器(杯類)②

遺 存	色 調		胎 土		備 考
	内 面	外 面	色 調	混 入 物	
口縁部1/8	N-6/0	7.5Y-6/1~N-5/0	N-3/0	石英粒、砂粒、白色粒子	
口縁部破片	5Y-5/1	5Y-5/1	5Y-4/1	石英粒、白色粒子	
口縁部1/8	5PB-7/1	N-7/0	N-7/0	石英粒、砂粒、白色粒子	
天井部1/6	N-6/0	N-6/0	N-5/0	石英粒、黒色粒子	
天井部1/6	N-8/0	N-5/0~N-6/0	N-8/0	石英粒、黒色粒子 灰色粒子	
天井部破片	10YR-7/1	5Y-7/1 10Y-5/2~10Y-4/2	10YR-7/1	黒色粒子、灰色粒子	外面自然釉、宝珠
天井部1/8	5PB-7/1	5PB-5/1~N-6/0	5PB-7/1	石英粒、黒色粒子 白色粒子	
天井部2/3	2.5Y-8/1	2.5Y-8/1	7.5Y-5/3	砂粒、黒色粒子 白色粒子	外面自然釉、擬宝珠
天井部破片	2.5Y-7/1	2.5Y-7/1 7.5Y-5/2~7.5Y-4/2	2.5Y-7/1	黒色粒子、白色粒子 灰色粒子	外面自然釉、擬宝珠
天井部3/5	5Y-6/1~5Y-7/1	N-3/0~N-8/0	5Y-6/1~5Y-7/1	石英粒、黒色粒子 白色粒子	
天井部1/8	N-7/0	N-7/0~N-6/0	N-7/0~N-6/0	砂粒、黒色粒子 白色微粒	
天井部1/3	7.5Y-7/1	7.5Y-7/1	7.5Y-7/1	石英粒、砂粒、雲母粒子	
天井部1/6	N-7/0~N-6/0	N-7/0~N-6/0	N-8/0~N-7/0	石英粒、黒色粒子 白色粒子	
天井部1/4	N-8/0	N-7/0~N-8/0	N-8/0	石英粒、砂粒、黒色粒子 白色微粒	
天井部3/5	N-8/0	7.5Y-7/1	N-8/0	砂粒、白色粒子 雲母微粒	
天井部1/5	2.5GY-6/1	N-5/0~N-6/0	2.5GY-6/1	石英粒、砂粒	
天井部1/6	N-8/0	N-7/0	N-8/0	石英粒、黒色粒子 白色粒子	
口縁部破片	N-7/0	N-7/0	N-7/0	石英粒、白色粒子	
口縁部1/8	N-6/0	N-6/0	N-6/0	石英粒、砂粒、白色粒子	
口縁部1/8	N-7/0	2.5Y-8/0~7.5Y-7/1	N-7/0	石英粒、砂粒、白色粒子	
口縁部1/8	7.5Y-8/1~N-8/0	7.5Y-8/1~N-8/0	2.5Y-8/3~7.5Y-8/1	石英粒、砂粒、白色粒子	
口縁部1/8	5P-7/3~2.5Y-7/1	7.5Y-3/2~5Y-2/2	2.5Y-7/1	石英粒、砂粒	
口縁部破片	2.5Y-8/1~2.5Y-7/1	2.5Y-8/1~2.5Y-7/1	2.5Y-8/1~2.5Y-7/1	石英粒、黒色粒子 灰色粒子	
口縁部破片	N-5/0~N-7/0	N-8/0~5P-7/1	2.5YR-6/4~N-6/0	石英粒、黒色粒子	
口縁部破片	N-7/0	N-7/0~N-6/0	N-7/0~N-6/0	黒色粒子、白色粒子	
口縁部破片	N-6/0~N-8/0	N-5/0~N-7/0	N-7/0	黒色粒子、白色微粒	
口縁部破片	N-7/0~N-5/0	N-7/0~N-4/0	N-8/0	黒色粒子、白色粒子 灰色粒子	
口縁部破片	N-7/0~N-8/0	N-8/0~N-6/0	N-7/0~N-8/0	黒色粒子、白色粒子	
底部1/4	N-7/0	N-6/0	N-7/0	砂粒、雲母微粒	
底部1/4	5Y-6/1~N-6/0	5Y-6/1~N-6/0	5Y-7/1	黒色粒子、白色粒子 雲母微粒	
全1/8	N-7/0	N-7/0	N-7/0	黒色粒子、灰色粒子 雲母微粒	
全1/8	N-8/0	N-8/0	N-8/0	黒色粒子、白色粒子	

第15表 遺物計測表(3) 須恵器(杯類)②-2

挿図	図版	番号	遺構	種別	器種	技法		口径	最大径	底径	高台		かえり		つまみ		器高	焼成
						切離	調整				径	高さ	内径	高さ	径	高さ		
55	25	55	4E-22	須恵器	高台付杯	B	G	-	-	13.0 14.2	12.0 10.8	0.7 0.6					(1.7)	B
		56	4E-85	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	13.0 12.4	13.4 10.0	0.6 0.4					(2.3)	A+
		57	4D-17	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	13.0 12.6	13.4 11.4	0.6 0.5					(1.5)	A+
		58	5C	須恵器	高台付杯	-	D	-	-	11.0 10.8	10.0 8.4	0.5					(2.4)	A+
56	26	59	14I-00	須恵器	高台付杯	-	-	11.8 12.0	12.0	7.2 7.0	-	-					(3.5)	B
		60	13H-31	須恵器	高台付杯	-	D	-	-	-	10.4 9.0	1.0 0.6					(1.8)	C+
		61	6F	須恵器	高台付杯	-	D	-	-	10.2 10.4	10.0 8.4	0.6 0.5					(1.6)	B+
		62	4E-26	須恵器	高台付杯	B	G	-	-	-	9.0 7.4	0.7 0.5					(1.5)	A
		63	4E-13	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	10.6 -	8.4 7.0	0.6 0.5					(1.5)	C+
		64	4E-62	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	9.4 9.6	8.2 8.2	0.6 0.5					(1.5)	B
		65	12H	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	7.6 -	9.2 7.6	0.6 0.5					(1.2)	B
		66	4E-25	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	10.6 11.4	8.8 7.4	0.8 0.6					(1.9)	B
		67	7D-08	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	11.4 10.0	10.2 8.8	0.6 0.5					(2.0)	A
		68	4E-26	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	10.2 9.8	8.6 7.0	0.6 0.5					(1.6)	A+
		69	11E-61	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	-	11.0 9.4	1.0 0.8					(1.7)	B
		70	4E-04	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	11.0 11.0	11.0 9.4	0.6 0.5					(1.5)	B
		71	13F-30	須恵器	杯?	-	B	-	-	9.4 7.0							(2.1)	A+
		72	15H-03	灰釉陶器	皿	-	B	-	-	7.0 -	7.0 5.6	0.5 0.4					(1.4)	A+
		73	F区	灰釉陶器	皿	-	-	-	-	-	7.0 5.6	0.7 0.5					(1.5)	A
		74	4D-39 4E-20	灰釉陶器	高台付盤	-	B	-	-	15.4 14.4	14.0 12.8	0.9					(2.3)	A+
		75	4E-27	須恵器	鉢?	-	B	-	-	13.6 12.6							(3.1)	B
		76	12H	須恵器	鉢	-	-	11.2 12.4	12.4	-	-	-					(4.1)	A+
		77	F区	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	9.6 9.6	8.6 7.3	0.5 0.2					(1.5)	A
		78	12H	灰釉陶器	高台付杯	-	D	-	-	11.0 10.8	10.8 9.8	0.7 0.6					(2.1)	A+
79	F区	灰釉陶器	皿	-	B	-	-	10.2 8.0	7.5 6.8	0.9 0.8					(1.9)	A		
80	14F-40	灰釉陶器	皿	-	B	-	-	6.8 8.2	7.8 6.0	1.0 0.8					(2.1)	A		
81	4E-13	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	-	8.4 6.8	0.7 0.5					(1.2)	B		
82	F区	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	6.6 8.2	6.8 5.4	0.6 0.5					(1.8)	A		
83	14F-40	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	-	6.4 4.8	0.4 0.2					(1.1)	A		
84	12F-00	須恵器	高台付杯	-	B	-	-	4.6 5.6	8.4 6.8	0.8 0.5					(1.2)	B		

第15表 遺物計測表(3) 須恵器(杯類) ③

遺存	色調		胎色調	土混入物	備考
	内面	外面			
底部1/4	N-8/0	N-8/0	N-6/0	石英粒、黑色粒子 雲母微粒	
底部1/8	N-5/0	5B-5/1	5YR-5/4~N-5/0	石英粒、白色微粒 灰色微粒	
底部破片	5PB-5/1~5PB-4/1	5PB-5/1~5PB-4/1	5PB-5/1~10YR-7/6	砂粒	
底部1/8	N-6/0	N-7/0	N-7/0	砂粒、黑色粒子 雲母微粒	
口縁部1/6	10Y-7/1	10Y-7/1	10Y-7/1	白色粒子、灰色粒子 雲母粒子	
底部1/8	N-8/0	N-7/0~N-5/0	N-7/0~N-5/0	白色粒子、雲母微粒	
底部破片	10YR-7/1	10YR-7/1	10YR-7/1	石英粒、砂粒、白色粒子	
底部1/4	N-6/0	N-6/0	N-6/0	石英粒、白色微粒	
底部1/8	N-8/0	N-8/0	N-8/0	黑色粒子、白色粒子 雲母微粒	
底部1/8	N-6/0	N-6/0	N-6/0	石英粒、黑色微粒	
底部破片	N-7/0~N-8/0	N-7/0~N-8/0	N-7/0	砂粒、黑色粒子 雲母微粒	
底部1/8	N-6/0	N-6/0	N-6/0	砂粒、白色粒子	
底部1/8	2.5Y-8/1	2.5Y-8/1	2.5Y-8/1	砂粒、白色粒子	
底部1/6	5Y-6/1	2.5Y-5/1	10GY-8/1~N-8/0	石英粒、砂粒	
底部破片	7.5Y-8/1	N-6/0~10Y-8/1	7.5Y-8/1	黑色微粒、白色粒子	
底部破片	白色	白色	白色	砂粒、雲母微粒	
底部1/5	N-4/0	N-7/0~5Y-8/1	N-7/0	石英粒、砂粒、灰色粒子	
底部1/8	5Y-8/1 5Y-5/4	5Y-8/1	5Y-8/1	黑色粒子、灰色粒子	
底部破片	2.5Y-7/1 N-7/0~N-6/0	2.5Y-7/1	2.5Y-7/1	黑色微粒、白色粒子	三日月高台
底部1/4	N-7/0~N-6/0 2.5GY-3/1~10Y-8/1	N-7/0~N-6/0 2.5GY-3/1~10Y-8/1	N-7/0	黑色粒子、白色粒子	
底部1/8	N-8/0	N-8/0	N-8/0	砂粒、白色粒子 灰色粒子	
口縁部1/8	N-7/0	N-7/0	N-7/0	石英粒、黑色粒子 白色粒子	
底部完型	5PB-7/1~N-7/0	5PB-7/1~N-7/0	N-7/0	石英粒、黑色微粒 雲母微粒	
底部1/8	N-7/0	N-7/0~2.5GY-4/1 5GY-5/1	10Y-7/1	砂粒、黑色微粒	
底部破片	5Y-8/1 10Y-6/2	5Y-8/1	5Y-8/1	石英粒、砂粒	三日月高台
底部1/8	7.5Y-8/1	7.5Y-8/1	7.5Y-8/1	灰色微粒	三日月高台
底部1/8	N-8/0	N-8/0	N-8/0	白色粒子、灰色微粒	
底部1/8	5PB-7/1	N-7/0	5PB-6/1~N-7/0	砂粒、黑色粒子	
底部破片	10Y-8/1~N-8/0	10Y-8/1~N-8/0	10Y-8/1	黑色粒子、灰色粒子	
底部1/4	7.5Y-6/1	7.5Y-8/1~5Y-8/1	7.5Y-6/1~5Y-8/1	石英粒、砂粒、白色粒子 灰色粒子	

第15表 遺物計測表(3) 須恵器(杯類) ③-2

挿図	図版	番号	遺構	種別	器種	口径	縁帯幅	頸部		最大径	底径	高台			器高	焼成
								径	高さ			径	高さ	幅		
58	27	1	7E+00	灰釉陶器	長頸瓶	13.6 14.6	1.1	-	(4.1)	-	-				(4.1)	A
		2	4E-62	須恵器	長頸瓶	11.4 12.2	1.1	-	(2.9)	-	-				(2.9)	A+
		3	4E-22	須恵器	長頸瓶	11.6 12.4	0.9	-	(3.0)	-	-				(3.0)	A+
		4	7E-31	須恵器	長頸瓶	13.0 14.8	0.5	-	(2.6)	-	-				(2.6)	A+
		5	4D-10	須恵器	長頸瓶	11.8 12.1	1.3	-	(2.8)	-	-				(2.8)	A+
		6	16I-04	灰釉陶器	長頸瓶	11.0 11.4	1.0	-	(2.5)	-	-				(2.5)	A
		7	14F-45	灰釉陶器	長頸瓶	7.8 9.0	0.8	-	(3.0)	-	-				(3.0)	A
		8	11E-90	灰釉陶器	長頸瓶	-	-	4.4 6.0	(3.7)	-	-				(4.2)	A+
		9	F区	灰釉陶器	長頸瓶	-	-	3.6 5.2	(4.5)	-	-				(5.5)	A+
		10	F区	灰釉陶器	長頸瓶	-	-	2.0 4.0	(4.0)	-	-				(4.5)	A+
		11	F区	灰釉陶器	長頸瓶	-	-	4.0 5.0	(3.3)	-	-				(3.7)	A+
		12	12H	須恵器	長頸瓶	-	-	2.8 4.4	(5.8)	-	-				(6.3)	A
		13	7D	灰釉陶器	長頸瓶	-	-	7.0 7.4	(2.6)	-	-				(3.7)	A+
		14	13G-69	須恵器	長頸瓶	-	-	3.6 5.4	(3.0)	-	-				(3.0)	A+
		15	7E-00	灰釉陶器	長頸瓶	-	-	5.4 6.8	(2.4)	-	-				(3.0)	A+
		16	5C	須恵器	提瓶	-	-	3.0 5.0	(2.7)	-	-				(3.4)	A
		17	4D-07・18 4D-39・SK1	須恵器	長頸瓶	-	-	2.8 4.0	(0.4)	12.0	-				(7.2)	A
		18	4D-45	須恵器	長頸瓶	-	-	-	-	11.6	-				(4.0)	A+
		19	7D	須恵器	提瓶	-	-	-	-	-	-				(6.3)	A
		20	13G-76 13H-80	須恵器	提瓶	-	-	-	-	-	-				(5.3)	B
		21	3D-94	須恵器	長頸瓶	-	-	-	-	-	7.4 6.0	7.6 6.0	1.0 0.5	0.9	(2.7)	A
		22	13E-58	須恵器	長頸瓶	-	-	-	-	-	5.4 -	5.5 4.2	0.5	0.7	(3.0)	A
		23	F区	須恵器	長頸瓶	-	-	-	-	-	6.6 7.0	7.0 5.4	0.8 0.4	0.8	(2.5)	A
		24	11E-44	須恵器	瓶子	-	-	-	-	-	7.0 -	7.0 4.6	0.5	0.9	(4.8)	A
		25	F区	須恵器	瓶子	-	-	-	-	-	9.0 -	9.4 7.2	0.6	1.0	(3.8)	A
28	26	26	4E-02	須恵器	瓶子	-	-	-	-	8.8 -	8.4 5.4	0.9 0.5	0.7	(4.5)	A	
		27	11E-00	須恵器	瓶子	-	-	-	-	5.5 -	10.4 7.6	1.0 0.5	1.0	(1.6)	B	
		28	13I	須恵器	瓶子	-	-	-	-	8.0 -	-	-	-	(2.9)	A	
		29	13E-74	須恵器	瓶子	-	-	-	-	7.8 -	8.8 6.0	1.5 0.8	0.8	(3.0)	A	
		30	5C-07	須恵器	瓶子	-	-	-	-	7.8 5.6	8.0 5.0	0.7	1.3	(3.6)	A	
		31	15H-03	須恵器	瓶子	-	-	-	-	6.6 -	7.0 5.0	0.7	1.1	(3.0)	A+	
		32	13I	須恵器	瓶子	-	-	-	-	11.6 10.0	12.0 9.4	1.0	1.1	(3.6)	A	

第16表 遺物計測表(4) 須恵器(甕・瓶子)①

遺 存	色 調		胎 土		備 考
	内 面	外 面	色 調	混 入 物	
口縁部1/8	5Y-8/1 7.5Y-4/3	7.5Y-8/1 10Y-4/2~10Y-5/2	5Y-8/1	石英粒	二次的に被熱
口縁部1/10	5Y-7/1 10Y-5/2(釉)	5Y-6/1	5Y-6/1	砂粒、黒色粒子	内面自然釉
口縁部1/10	5Y-8/1~5Y-4/1 7.5Y-4/3(釉)	10YR-7/1	10Y-8/1	白色粒子、砂粒 黒色粒子	内面自然釉
口縁部1/8	N-6/0	N-6/0	N-6/0	白色粒子、砂粒 黒色粒子、石英粒	
口縁部1/10	5Y-7/1	5Y-7/1~5Y-6/1	5Y-7/1	白色粒子、砂粒	内面自然釉
口縁部1/8	5Y-4/3~5Y-4/1	2.5Y-4/2~2.5Y-5/2	2.5Y-7/2~2.5Y-7/1	砂粒、黒色粒子	
口縁部破片	7.5Y-3/2	2.5Y-5/1	2.5Y-7/1	白色粒子、砂粒 黒色粒子	
頸部1/4	2.5Y-7/1	2.5Y-7/1 7.5Y-5/2(釉)	2.5Y-7/1	砂粒	二次的に被熱?
頸部1/6	2.5Y-5/1 5Y-4/2(釉)	2.5Y-6/1 5Y-4/2(釉)	2.5Y-8/2	白色粒子、砂粒 石英粒	
頸部1/5	5Y-2/1	7.5Y-5/3~5Y-3/2	2.5Y-7/1	白色粒子、砂粒 石英粒	
頸部1/8	5Y-5/1	7.5Y-5/3~5Y-3/2	2.5Y-8/2	砂粒	
頸部1/4	2.5Y-8/1	2.5Y-7/1	5Y-6/1	白色粒子、砂粒 黒色粒子、石英粒	
頸部1/8	2.5Y-8/1	5Y-8/1 10Y-6/2(釉)	10YR-7/2	白色粒子、黒色粒子	釉は透明ガラス質
頸部破片	5Y-6/1	5Y-6/1	2.5Y-8/1	白色粒子、砂粒	
頸部破片	2.5Y-8/1	5Y-8/1 10Y-6/2(釉)	2.5Y-8/1	白色粒子、黒色粒子	釉は透明ガラス質
体部1/8	2.5Y-5/2~2.5Y-5/1	2.5Y-4/1	5Y-7/1	砂粒	外面自然釉
体部1/10	N-7/0	N-7/0	N-7/0	白色粒子、砂粒 黒色粒子	
体部1/6	10Y-7/1	2.5Y-8/1~2.5Y-4/1	10Y-7/1	白色粒子、黒色粒子	外面自然釉
被蓋部破片	N-5/0	N-5/0	10R-5/2~N-6/0	白色粒子、砂粒 石英粒	
被蓋部破片	N-5/0~N-6/0	N-4/0~2.5YR-4/4	5YR-6/2~5Y-5/1	白色粒子、石英粒 灰色粒子	
底部2/3	10YR-7/1 7.5Y-3/2	5PB-7/1~N-7/0	2.5Y-8/1~5Y-8/1	石英粒	内面底部自然釉
底部1/6	5Y-4/1 7.5GY-6/1	5PB-5/1	N-7/0	石英粒、灰白色粘土	
底部2/3	5Y-6/1 10Y-4/2	5Y-6/1	5Y-6/1	石英粒	
底部1/6	2.5Y-7/1 7.5Y-4/3	5PB-7/1~N-6/0	2.5Y-7/1	砂粒、黒色粒子	内面底部自然釉
底部1/6	5Y-7/2 7.5Y-6/2	5Y-7/2 7.5Y-6/2	5Y-8/2	石英粒、雲母微粒	
底部1/8	N-7/0	N-7/0	N-7/0	砂粒、黒色粒子	No.6と酷似
底部1/6	5Y-7/1~5Y-6/1	5Y-7/1~5Y-6/1	2.5Y-7/1~5Y-7/1	雲母微粒	
底部1/4	5Y-5/1~N-5/0	5Y-5/1~N-5/0	10Y-7/1	石英粒	
底部1/4	N-7/0~2.5Y-7/1	N-7/0~2.5Y-7/1	2.5Y-7/1	石英粒、雲母微粒	
底部破片	10YR-7/1 7.5Y-5/3	10YR-7/1	10YR-7/1	石英粒、雲母微粒	内面底部自然釉
底部1/4	2.5Y-7/1	10YR-5/2 7.5Y-5/3	5Y-8/1	石英粒、雲母微粒	
底部1/4	5Y-6/1~5Y-5/1	2.5Y-4/1 7.5Y-4/2~7.5Y-2/2	2.5Y-7/2~N-7/0	石英粒、雲母微粒 赤色粒子	外面自然釉

第16表 遺物計測表(4) 須恵器(甕・瓶子)①-2

挿図	図版	番号	造 構	種 別	器 種	口 径	縁 帯 幅	類 部		最大径	底 径	高 台			器 高	焼 成
								類 径	部 高さ			径	高さ	幅		
58	28	33	4E-02・11	須恵器	瓶子	-	-	-	-	-	13.6	13.6	1.2 11.6	0.8 0.8	(3.3)	C+
		34	13H-63	須恵器	瓶子	-	-	-	-	-	14.4 13.6	14.6 12.4	0.8 0.6	1.2	(4.5)	A
		35	12H	須恵器	瓶子	-	-	-	-	-	15.0	-	(0.5)	-	(4.2)	A
		36	12H-21	須恵器	瓶子	-	-	-	-	-	12.6	13.4 11.2	0.7	1.1	(5.5)	A+
59	30	37	4D-09・28 39・5D-96	須恵器	小壺	6.2 6.4	/	6.2 6.8	2.1	7.6	5.7 4.4	/	/	/	6.1	A+
		38	12H	須恵器	小壺	3.8 3.9	/	3.6 4.0	0.8	5.8	3.2 4.0	/	/	/	3.2	A+
	28	39	15F-17	須恵器	甕	31.6 32.4	1.5	-	(4.0)	-	-	/	/	/	(4.0)	A
		40	5C	須恵器	甕	27.8 29.1	1.4	-	(4.2)	-	-	/	/	/	(4.2)	A+
		41	13F-13	須恵器	甕	28.0 29.8	1.4	-	(3.8)	-	-	/	/	/	(3.8)	A+
		42	15H-03	須恵器	甕	-	1.8	-	(4.1)	-	-	/	/	/	(4.1)	A+
		43	12H	須恵器	甕	-	-	27.2 26.0	(4.3)	-	-	/	/	/	(5.4)	A
		44	7F	須恵器	甕	-	-	17.6 20.2	(5.1)	-	-	/	/	/	(5.6)	A+
		45	5C・5E-00	須恵器	甕	-	-	-	-	21.6	-	/	/	/	(9.7)	B
	29	46	4F-57	須恵器	瓶子	20.2 21.4	1.1	16.2 17.8	4.5	-	-	/	/	/	(5.2)	A+
		47	12E-54	須恵器	甕	20.8 21.2	1.2	-	(4.2)	-	-	/	/	/	(4.2)	B
		48	4D-37	須恵器	甕	18.2 19.2	0.9	11.2 15.0	5.3	-	-	/	/	/	(6.3)	A+
		9	6D・6D-78 7C・7D	須恵器	甕/甌	21.6 22.0	1.2	17.6 18.4	2.0	-	-	/	/	/	(3.6)	C
		50	F区	須恵器	甕/甌	21.6 21.8	1.1	18.6 19.5	2.0	-	-	/	/	/	(3.7)	A+
60	51	11D-49 11E-32	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(14.2)	A+	
	52	4C-87	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(4.8)	B+	
	53	5F	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(4.2)	A	
	54	13G-69	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(6.4)	A	
	55	8D-48	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(8.4)	B	
	56	9E-10	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(4.6)	A+	
	57	11F-76	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(5.8)	A+	
	58	8F-56	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(6.2)	B	
	59	9F-66	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(6.2)	A+	
	60	11H	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(4.3)	A	
	61	13H-21	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(4.4)	C	
	62	13H-42	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(4.0)	B	
	63	5F	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(3.4)	B	
	64	11H	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-	/	/	/	(3.5)	A+	

第16表 遺物計測表(4) 須恵器(甕・瓶子)②

遺 存	色 調		胎 土		備 考
	内 面	外 面	色 調	混 入 物	
底部1/6	N-5/0	2.5GY-6/1~N-5/0	2.5GY-6/1~10YR-6/1	白色粒子、雲母微粒	瓦質
底部1/6	2.5Y-5/2~N-7/0 5Y-6/1	2.5Y-5/2~N-7/0	N-7/0~N-6/0	石英粒	内面自然釉
底部1/6	5Y-6/1	N-6/0~N-3/0	5Y-6/1	白色粒子、砂粒 雲母微粒、赤色粒子	瓦質
底部1/2	2.5Y-8/1 2.5Y-6/2~2.5Y-2/1	5YR-6/4~7.5YR-4/2 2.5Y-6/2~2.5Y-2/1	2.5Y-8/1	石英粒、砂粒	
全1/3	N-7/0~5Y-6/1	7.5Y-2/2~5Y/6/1 10Y-6/2	N-7/0	黒色粒子、灰色粒子	外面自然釉
全1/3	5Y-6/1~5Y-2/1	5Y-6/1 透明	5Y-7/1	石英微粒、灰色粒子	外面自然釉
口縁部1/8	2.5Y-4/1	5Y-2/1	2.5Y-7/1	白色粒子、砂粒	内面自然釉
口縁部破片	2.5Y-5/1	N-8/0	N-6/0	黒色粒子、石英粒	内面自然釉
口縁部破片	2.5Y-6/1	2.5Y-8/1	2.5Y-8/1	灰色粒子	内面外面共に自然釉
頸部1/8	N-6/0~2.5Y-5/1	N-6/0~2.5Y-5/1	N-6/0	白色粒子、石英粒	
頸部破片	5Y-5/1	5Y-4/1	5Y-6/1	白色粒子、砂粒 雲母粒子	内面自然釉
体部破片	10Y-8/1	10Y-8/1	10Y-8/1	白色粒子、黒色粒子 石英粒	
口縁部1/8	2.5GY-5/1	2.5GY-4/1	2.5GY-7/1	白色粒子、砂粒 石英粒	
口縁部1/8	N-6/0	N-6/0	N-7/0	白色粒子、黒色粒子 雲母微粒	
口縁部1/4	5Y-7/1	5Y-7/1	5Y-7/1	砂粒、黒色粒子 石英粒	
口縁部1/4	5YR-3/2	5YR-3/2~2.5YR-5/6	5YR-3/2~2.5YR-5/6	砂粒、石英粒 雲母微粒	
口縁部1/4	2.5Y-8/1	2.5Y-8/1	2.5Y-8/1	砂粒、石英粒 雲母微粒	
口縁部1/4	2.5Y-6/1	2.5Y-6/1	2.5Y-6/1	砂粒、黒色粒子 石英粒	内面自然釉
口縁部1/4	10YR-6/3~2.5Y-6/1	2.5Y-6/1	2.5Y-8/1	白色粒子、石英粒	
口縁部1/4	2.5Y-6/1	2.5Y-7/1	2.5Y-7/1	白色粒子、石英粒	内面自然釉
口縁部1/4	5Y-6/2	10YR-7/1	10YR-7/1	白色微粒、黒色微粒 雲母微粒	内面自然釉
口縁部1/4	5Y-7/1	5Y-7/1	5Y-7/1	砂粒、石英粒	
頸部破片	N-6/0	N-6/0	N-6/0	砂粒、黒色粒子 石英粒	
頸部破片	2.5Y-7/1	2.5Y-7/1	7.5YR-6/1	砂粒、黒色粒子	
頸部破片	5Y-6/1	5Y-7/1~N-6/0	5Y-7/1	砂粒、黒色粒子 石英粒、雲母微粒	
頸部破片	5PB-5/1	5PB-5/1	5PB-5/1	砂粒、黒色粒子	内面自然釉
頸部破片	5Y-2/1	10YR-1.7/1	N-7/0	白色粒子、砂粒 石英粒	内面自然釉
頸部破片	10YR-7/2	10YR-7/2	10YR-7/2	砂粒、黒色粒子	磨耗が著しい
頸部破片	10YR-7/1	10YR-6/1	2.5Y-7/1	砂粒、雲母粒子	
頸部破片	N-6/0	N-5/0	N-7/0	白色粒子、砂粒 石英粒	
頸部破片	5Y-6/1	5Y-4/1	N-8/0~N-7/0	砂粒、黒色粒子	内面自然釉
体部破片	5PB-7/1	N-6/0	5RP-6/1	白色粒子、砂粒 石英粒	内面自然釉

第16表 遺物計測表(4) 須恵器(甕・瓶子)②-2

挿図	図版	番号	遺 構	種 別	器 種	口 径	縁帯幅	頸 部		最大径	底 径	高 台			器高	焼成
								径	高さ			径	高さ	幅		
61	30	65	4C-58・68	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-				(5.5)	A+
		66	4D-02	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-				(6.0)	A+
		67	5C	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-				(6.0)	A+
		68	3D-96 4E-10・27	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-				(11.0)	A+
		69	11H	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-				(4.8)	A+
		70	10D-74	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-				(7.4)	A+
		71	4C-87・88	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-				(14.1)	B+
		72	4E-96・97	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-				(6.2)	C
		73	4D-16 4E-87	須恵器	甕	-	-	-	-	-	-				(10.1)	B+

第16表 遺物計測表(4) 須恵器 (甕・瓶子) ③

遺存	色調		胎土		備考
	内面	外面	色調	混入物	
体部破片	N-6/0~2.5Y-5/1	N-6/0~2.5Y-5/1	N-6/0	白色粒子、砂粒 石英粒	
体部破片	5PB-7/1	N-6/0	5RP-6/1	白色粒子、砂粒 石英粒	外面自然釉
体部破片	5PB-7/1	N-6/0	5RP-6/1	白色粒子、砂粒 石英粒	外面自然釉
体部破片	N-7/0	N-7/0	N-7/0	砂粒	外面自然釉
体部破片	N-5/0	N-2/0	N-5/0	砂粒、黒色粒子	外面光沢あり
肩部破片	10YR-6/1	2.5Y-4/1	10YR-6/1	白色粒子、砂粒 黒色粒子	外面自然釉
体部破片	N-7/0	N-7/0	7.5Y-8/1	砂粒、雲母微粒	
肩部破片	5Y-7/1	7.5Y-7/1	7.5Y-7/1	白色粒子、小石粒 黒色粒子、雲母粒	外面剥落著しい
肩部破片	7.5YR-5/2	2.5Y-5/1	7.5YR-5/2~2.5Y-5/1	白色粒子、砂粒	

第16表 遺物計測表(4) 須恵器(甕・瓶子) ③-2

挿図	図版	番号	遺構	窯	種別	器種	時期	紋様		口径	底部		器高	高台		焼成
								外面	内面		径	厚さ		高さ	幅	
22	12	1	4C-79 4D-25	龍泉?	青磁	碗	14C前葉	-	-	-	13.2 11.2	-	(2.8)	1.2	0.9	A
		2	4D-89	龍泉	青磁	碗	13C中葉	鎬蓮文	-	(24.0) (24.0)	-	-	(3.4)	-	-	A
		3	4E-10	同安?	白磁	碗	12C~13C前葉	-	-	-	6.8 (5.5)	-	(2.2)	-	-	A
		4	5C-05	龍泉	青磁	碗	13C中葉	鎬蓮弁文	-	(26.0) (26.0)	-	-	(3.5)	-	-	A
		5	5D-05	龍泉	青磁	碗	12C後半	-	劃華文	(31.6) (31.6)	-	-	(4.4)	-	-	A
		6	6F-00	景德鎮	青白磁	合子蓋	12C~13C前葉	草花文	-	-	-	-	-	-	-	A
		7	6F-55	龍泉	青磁	碗	13C中葉	鎬蓮弁文	-	15.0 15.0	-	-	(5.2)	-	-	A
		8	7D-32 13I	同安	青磁	碗	12C末~13C前葉	槲描文	槲描文	17.0 17.0	5.0 (5.0)	-	(7.8)	-	-	B+
		9	9D-05	龍泉?	青磁	碗	12C後半	-	-	-	7.4 (6.4)	1.3	(2.8)	-	1.0	A
		10	8F-00	龍泉	青磁	碗	13C中葉	鎬蓮弁文	-	16.0 16.0	-	-	(4.2)	-	-	A
		11	10H-55	同安	白磁	平皿	14C前葉	-	稜花文	-	6.7 6.2	-	(1.2)	-	-	A
		12	11D-55	龍泉?	青磁	碗	14C前葉	蓮弁文	-	(14.0) (14.0)	-	-	(2.4)	-	-	A
		13	11H-00	龍泉	青磁	碗	13C中葉	蓮弁文	-	(14.4)	-	-	(5.0)	-	-	A
		14	12E-53	龍泉	青磁	碗	14C前葉	蓮弁文	-	-	-	-	(3.8)	-	-	A
		15	12H-55	同安	白磁	玉緑碗	12C代	-	-	15.8 16.7	-	-	(2.5)	-	-	A
		16	12H-91	龍泉	青磁	碗	12C後半	-	劃花文	(14.0) (14.0)	-	-	(4.1)	-	-	A
		17	13F-02	龍泉	青磁	碗	14C前葉	蓮弁文	-	(12.6) (12.6)	-	-	(3.4)	-	-	A+
		18	14F-34	同安	白磁	小皿?	12C末~13C前葉	-	-	-	3.2 4.6	0.9	(1.5)	0.8	0.7	A
		19	14I	龍泉?	青磁	皿	12C末~13C前葉	-	槲描文	-	5.0 5.6	0.7	(1.2)	0.3	0.3	A
		20	14I	同安?	青磁	平皿	12C末~13C前葉	-	槲描文	-	8.2 5.6	0.9	(1.5)	-	-	A
		21	14I	龍泉	青磁	平皿	12C後半	-	劃花文	-	8.2 4.6	-	(1.4)	-	-	A
		22	14I	龍泉	青磁	碗	12C後半	-	劃花文	-	5.6 4.0	1.2	(2.3)	0.8	0.8	A
		23	15F-37	龍泉	青磁	碗	13C中葉	蓮弁文	-	12.4 13.9	-	-	(3.3)	-	-	A
		24	15F-28	同安	青磁	平皿	12C末~13C前葉	-	槲描文	-	7.5 5.6	-	(1.2)	-	-	A
		25	15G-50	龍泉	青磁	碗	13C中葉	蓮弁文	-	(18.0) (18.0)	-	-	(2.4)	-	-	A
		26	16I-00	龍泉	青磁	碗	12C末~13C前葉	蓮弁文?	-	-	-	0.8	(2.5)	1.2	0.7	-A
		27	16I-04	同安?	白磁	口禿皿	14C前葉	-	-	9.6 (10.4)	-	-	(2.9)	-	-	A
		28	G区	龍泉	青磁	碗	12C後半	-	劃花文?	(23.0) (23.0)	-	-	(2.6)	-	-	A
		29	10H	龍泉	青磁	碗	12C後半	-	劃花文	-	-	-	(4.9)	-	-	A
		30	12H-10	同安	白磁	小皿	15C前葉	-	-	9.3 4.8	4.2	-	2.3	0.6	0.7	A
		31	13F-05	龍泉	青磁	碗	14C代	-	-	-	6.4 6.0	1.1	(2.7)	1.0	1.1	B+

第17表 遺物計測表(5) 輸入陶磁器

遺存	釉		釉厚			無釉部 色調	胎土		底部	高台	備考
	色調	釉質	気泡	平均	最大		色調	混入物			
底部破片	10Y-5/2	不透明ガラス質	++	0.6	1.0	5Y-8/2	2.5Y-8/3 5Y-8/1	なし	A	A	調整は施文後
口縁破片	10Y-5/2	半透明ガラス質	+	0.4	1.0	-	7.5Y-8/1	微細な気泡微量	-	-	
体部破片	2.5GY-7/1	不透明乳状	+	0.4	0.4	-	5Y-8/1	微細な気泡微量	-	-	
口縁破片	7.5GY-7/1	半透明ガラス質	*	0.2	0.4	-	7.5Y-6/1	微細な気泡微量	-	-	
口縁破片	7.5GY-6/2	透明ガラス質	-	0.2	0.4	-	7.5Y-7/1	微細な気泡少量	-	-	
肩部破片	10GY-8/1	半透明ガラス質	-	0.8	1.0	7.5Y-8/1	7.5Y-8/1	微細な気泡微量	-	-	内面ロクロナデ
口縁破片	7.5GY-5/3	透明ガラス質	+	0.4	0.8	-	2.5Y-7/1	微細な気泡微量	-	-	施文方向は左→右
口縁破片 体部破片	5Y-6/3	透明ガラス質	-	0.4	0.8	5Y-7/1	5Y-8/1	なし	-	A?	体部下半ヘラケズリ
底部1/2	7.5Y-8/1	透明ガラス質	+	0.1	0.4	7.5Y-7/2	7.5Y-8/1	微細な気泡少量	A	A?	高台外面ヘラケズリ
口縁破片	5GY-6/1	半透明ガラス質	+	0.4	0.6	-	7.5Y-6/1	微細な気泡少量	-	-	施文方向は左→右
底部1/4	2.5GY-7/1	不透明乳状	+	0.2	1.0	-	10Y-8/1	なし	B	-	内底面外面に沈線1条
口縁破片	5G-7/1	不透明ガラス質	++	0.4	0.6	-	10Y-7/1	なし	-	-	文様はやや不明瞭
口縁破片	7.5GY-6/1	半透明ガラス質	+	0.5	0.8	-	7.5Y-7/1	微細な気泡少量	-	-	口唇外面に細沈線3条
口縁破片	(5G-7/1)	不透明ガラス質	++	0.8	1.0	-	10Y-7/1	なし	-	-	
口縁破片	10Y-7/1	不透明乳状	++	0.1	0.6	-	10Y-8/1	微細な気泡少量	-	-	玉縁外周に浅沈線1条
口縁破片	7.5Y-6/2	透明ガラス質	--	0.2	0.4	-	7.5Y-8/1	微細な気泡少量	-	-	口唇部内面に沈線2条
口縁破片	(5G-7/1)	不透明ガラス質	++	0.7	1.0	-	5Y-7/1	なし	-	-	
底部1/4	10Y-7/1	不透明乳状	--	0.5	0.8	5Y-7/2	N-8/0	なし	A	A	ロクロは時計回り
底部1/3	10GY-8/1	不透明乳状	++	0.1	0.3	10Y-8/1	7.5Y-8/1	なし	B	B	糸底に釉付着部あり
底部1/4	7.5Y-6/1	透明ガラス質	+	0.2	0.8	2.5Y-7/2	5Y-8/1	なし	A	-	体部外面下半は無釉
底部破片	7.5Y-6/1	透明ガラス質	-	0.3	1.0	10Y-7/1	10Y-8/1	気泡少量	A	-	底部外面釉剥
底部1/4	7.5Y-5/2	透明ガラス質	-	0.3	0.6	2.5GY-7/1	2.5GY-7/1 N-7/1	気泡微量	A	A	高台外面釉垂れ
口縁破片	10GY-7/1 10GY-6/1	半透明ガラス質	+	0.4	0.8	-	7.5Y-7/1	気泡中量	-	-	施文方向は左→右
底部2/5	7.5Y-7/2	透明ガラス質	+	0.2	1.0	7.5Y-7/1	7.5Y-8/1	微細な気泡微量	A	-	
口縁破片	10GY-7/1	不透明ガラス質	+	0.5	0.8	-	7.5Y-7/1 7.5Y-6/1	なし	-	-	施文方向は左→右
底部1/4	(5G-7/1)	不透明ガラス質	++	0.8	1.3	7.5Y-8/1	7.5Y-8/1	なし	-	A	
口縁破片	2.5GY-7/1	不透明ガラス質	+	0.2	0.3	5Y-7/3 5Y-7/2	7.5Y-8/1	なし	-	-	
口縁破片	7.5GY-7/1	透明ガラス質	+	0.2	0.6	-	7.5Y-7/1	微細な気泡微量	-	-	口唇部内面に沈線2条
口縁破片	5Y-6/3	半透明ガラス質	*	0.2	0.4	-	2.5Y-7/1	微細な気泡微量	-	-	口唇両面に沈線各1条
全1/4	5Y-8/1	半透明乳状	+	0.1	0.1	7.5Y-8/1 2.5Y-7/1	5Y-8/1	微細な気泡微量	B	A	割高台
底部1/4	5Y-6/4	透明ガラス質	--	0.1	1.2	7.5Y-6/1	7.5Y-7/1	微細な気泡微量	B	A	内底面外周釉剥

第17表 遺物計測表(5) 輸入陶磁器 - 2

挿図	図版	番号	遺構	窯	種別	器種	時期	口径	最大径	底部		器高	高台		焼成	底部	高台
										径	厚さ		高さ	幅			
25	13	1	7 F	瀬戸	灰釉	碗	15c中葉	-	-	4.8 4.0	0.8	(1.8)	0.5	0.5	A	C	B
		2	5C-44	瀬戸	灰釉	碗	15c中葉	-	-	4.5 4.2	0.9	(1.9)	0.5	0.5	B+	C	B
		3	16H-08	瀬戸	灰釉	卸皿	15c代	-	-	6.8 10.6	1.4	(1.4)	-	-	A	B	-
		4	6D-90	瀬戸	灰釉	小皿	15c代	9.2	9.6	5.4 6.8	0.6	2.0	0.2	0.2	C+	C	C
		5	9 D	瀬戸	灰釉	皿	15c代	11.4	11.6	6.8 8	0.9	2.6	-	0.2	A	?	B
		6	12F-74	瀬戸	灰釉	皿	15c中葉	12.2	12.2	5.2 8.0	0.9	2.7	-	-	A	B	-
		7	12F-60	志戸呂	灰釉	縁釉皿	15c代	11.0	11.2	6.4 6.9	0.6	2.1	-	-	A	B	-
		8	6 F	瀬戸	灰釉	皿	15c中葉	10.8	11.0	-	-	(1.6)	-	-	B	-	-
		9	4E-48	瀬戸	灰釉	縁釉皿	15c中葉	10.4	10.6	-	-	(2.0)	-	-	B	-	-
		10	15F-26	瀬戸	灰釉	縁釉小皿	15c代	7.6	8.6	-	-	(1.8)	-	-	B	-	-
		11	6 F	瀬戸	灰釉	縁釉皿	15c中葉	11.3	11.6	-	-	(2.8)	-	-	B	-	-
		12	13E-67	瀬戸	灰釉	縁釉小皿	15c中葉	9.4	9.6	-	-	(1.7)	-	-	B	-	-
		13	5 C	瀬戸	灰釉	縁釉卸皿	15c中葉	-	-	9.4 10.0	-	(1.0)	-	-	A	B	-
		14	5 F	瀬戸	灰釉	縁釉皿	15c中葉	12.4	12.5	-	-	(1.8)	-	-	A	-	-
		15	7E-31	瀬戸	灰釉	縁釉皿	15c中葉	10.8	11.0	-	-	(1.9)	-	-	A+	-	-
		16	6C-37	瀬戸	錆釉	天目碗	15c代	11.2	11.4	-	-	(3.0)	-	-	A	-	-
		17	一括	瀬戸	錆釉	縁釉皿	15c代	12.4	12.6	-	-	(1.7)	-	-	B	-	-
		18	8 D	瀬戸	灰釉	碗	15c中葉	15.2	15.3	-	-	(6.8)	-	-	B	-	-
		19	14F-43	瀬戸	灰釉	碗	15c中葉	11	11.2	-	-	(1.8)	-	-	A	-	-
		20	8 F	瀬戸	灰釉	縁釉皿	15c中葉	14.3	14.8	-	-	(6.4)	-	-	B	-	-
26		21	5 F	瀬戸	灰釉	折縁皿	15c中葉	12.8	13.1	-	-	(2.9)	-	-	A	-	-
		22	6 F	瀬戸	灰釉	折縁深皿	15c中葉	18.3	21.8	-	-	(4.8)	-	-	A	-	-
		23	13F-08	瀬戸	灰釉	折縁深皿	15c中葉	25.0	28.8	-	-	(4.4)	-	-	B	-	-
		24	14F-50	瀬戸	灰釉	折縁深皿	15c中葉	20.8	24.8	-	-	(4.8)	-	-	A	-	-
		25	14F-50	瀬戸	灰釉	折縁深皿	15c中葉	14.4	16.2	-	-	(2.2)	-	-	B	-	-
		26	14F-43	瀬戸	灰釉	玉縁碗	15c代	22.3	26.0	-	-	(2.3)	-	-	B	-	-
		27	14F-45	瀬戸	錆釉	碗	15c代	-	-	6.4 -	1.3	(2.5)	-	-	A+	A?	-
		28	14F-19	瀬戸	灰釉	縁釉皿	15c代	-	-	5.2 6.2	0.8	(1.1)	-	-	B	B	A
		29	7F-08	瀬戸	灰釉	縁釉皿	15c代	11.0	11.0	-	-	(2.0)	-	-	B	-	-
		30	4D-55	瀬戸	灰釉	袴腰形香炉	15c中葉	-	(13.6)	9.4 12.4	-	(2.4)	1	-	B	C	A

第18表 遺物計測表(6) 国産陶器 (皿・碗)

遺存	色調		胎土		備考
	施釉部	無釉部	色調	混入物	
底部3/5	7.5Y-6/3~7/3	5Y-8/2	5Y-8/2	灰色砂粒、石英粒	
底部2/3	5Y-6/4~7.5Y-8/1	5Y-8/2	5Y-8/2	黒色砂粒、白色砂粒 石英粒、雲母微粒	
底部1/3	7.5Y-6/3	5YR-6/4~2.5Y-7/3	2.5Y-8/1	なし	
底部1/5 口縁1/4	5Y-6/4~6/6	-	5Y-8/2	なし	
底部1/5 口縁1/3	5Y-8/1	-	5Y-7/1	黒色粒子、石英粒	
底部1/5	7.5Y-5/3~7/2	5Y-8/1~7/1	5Y-7/1	黒色微粒、灰色微粒 気泡	
底部1/5 口縁1/3	2.5Y-6/4	5YR-6/4~10YR-4/1	5YR-6/4	石英粒、砂粒 雲母微粒	
口縁破片	5Y-8/2	-	5Y-8/2	石英微粒、灰色微粒	
口縁破片	7.5Y-5/3~2.5Y-4/4	2.5Y-8/2	2.5Y-7/3	黒色微粒、白色微粒	
口縁破片	2.5Y-5/6~5Y-5/6	5Y-7/1~8/1	10Y-8/1	砂粒、石英粒	
口縁破片	7.5Y-5/3~5Y-7/3	2.5Y-8/2~5YR-6/6	10Y-8/1	砂粒、灰色粒子	
底部破片	7.5Y-5/3	5Y-6/1	7.5Y-8/1	雲母微粒、黒色粒子 気泡	
口縁破片	7.5Y-6/1	10YR-7/4~2.5Y-7/2	7.5Y-6/1~2.5Y-8/3	黒色粒子、石英粒	
口縁破片	7.5Y-5/3	5Y-8/1	5Y-8/1	黒色微粒、灰色微粒	
口縁破片	7.5Y-5/3	7.5Y-6/1	7.5Y-6/1	微細な気泡	
口縁破片	7.5YR-2/1~4/4	2.5Y-7/3	2.5Y-8/1	白色粒子、雲母微粒	
口縁破片	10YR-2/3~7.5YR-4/6	2.5Y-8/3~7/2	2.5Y-8/4	石英粒、砂粒	
口縁破片 体部破片	5Y-6/3	2.5Y-8/3	5Y-7/1~8/2	石英粒、砂粒	
口縁破片	5Y-4/3	5Y-8/1~6/3	5Y-7/1	黒色微粒、灰色微粒	
口縁1/4 体部1/4	7.5Y-7/2~6/3	10YR-7/4~5Y-8/1	5Y-8/1	赤褐色微粒、灰色粒子 石英粒	
口縁破片	5Y-7/3~5/4	-	5Y-8/1~2.5Y-8/1	石英粒、気泡	
口縁破片	5Y-7/2	10YR-8/1~2.5Y-8/1	5Y-8/2	石英粒	
口縁破片	7.5Y-7/2~6/2	2.5Y-8/1	5Y-8/1	灰色砂粒	
口縁破片	7.5Y-7/3~6/3	-	5Y-8/1	石英粒	
口縁破片	7.5Y-6/1~6/2	-	5Y-6/1	石英粒、灰色砂粒	
口縁破片	7.5Y-8/2	-	5Y-8/2	石英粒	
底部破片	5YR-4/3	7.5Y-5/1~7.5YR-5/3	10YR-6/2	白色微粒、雲母微粒	
底部1/6	5Y-5/3	2.5Y-8/1	2.5Y-8/1	なし	
底部破片	7.5Y-7/3	7.5Y-8/1	7.5Y-8/1	石英粒	
口縁破片	7.5YR-4/6~5B-7/1	5Y-8/2	5Y-8/2	なし	

第18表 遺物計測表(6) 国産陶器(皿・碗) - 2

挿図	図版	番号	遺構	窯	器種	時期	口径	類部		縁帯幅	最大径	底径	器高	焼成	
								径	高さ						
27	14	1	8 F	常滑	甕	15c 後半	38.6 40.4	35.8 38.0	5.0	4.2	-	-	(10.6)	A+	
		2	13 F	常滑	甕	13c 中葉	33.0 36.0	31.6 33.4	3.6	1.3	-	-	(6.3)	A	
		3	14F-81	常滑	甕	14c 中葉	44.0 47.0	41.0 44.0	3.9	2.3	-	-	(5.3)	A	
		4	16H-65	常滑	甕	14c代?	-	-	-	-	-	-	-	(7.0)	A
		5	12F-56	常滑	甕	14c代?	-	-	-	-	-	-	-	(5.5)	A
		6	14F-79	常滑	甕	14c代?	-	-	-	-	-	-	-	(6.8)	A
		7	F区	常滑	甕	14c代?	-	-	-	-	-	-	-	(7.8)	A
		8	7 C	渥美	甕	14c代?	-	-	-	-	-	-	-	(5.0)	A
		9	5 F	常滑	甕	14c代?	-	-	-	-	-	-	-	(4.0)	A
		10	12F-85	渥美	甕	14c代?	-	-	-	-	-	-	-	(4.6)	A
		11	8 F	常滑?	甕	15c前半~中葉	-	-	-	4.3	-	-	-	(10.1)	A
		12	12H-50	常滑?	甕	15c前半~中葉	-	-	-	2.4	-	-	-	(4.5)	A
		13	13H-10	常滑	甕	15c代	-	-	-	3.5	-	-	-	(5.3)	A
		14	8 D	常滑	甕	14c 中葉	-	-	-	4.7	-	-	-	(4.0)	A
		15	15H	瀬戸	灰釉瓶子	13c 中葉~14c 前半	-	10.0 11.2	(0.5)	-	(20.0)	-	-	(5.1)	A
		16	13E-88	瀬戸	灰釉瓶子	13c 中葉~14c 前半	-	-	-	-	-	-	-	(4.8)	A
		17	14H-06	瀬戸	灰釉瓶子	13c 中葉~14c 前半	-	-	-	-	-	-	11.4 9.4	(8.5)	A

第19表 遺物計測表(7) 国産陶器(甕・瓶子)

遺存	色調		胎土		備考
	施釉部	無釉部	色調	混入物	
口縁破片	5YR-3/2 10Y-8/1~10BG-2/1	7.5Y-5/1 7.5Y-4/3~7.5YR-3/3	7.5Y-5/1/1	白色粒子、石英粒 黒色粒子、灰色粒子	
口縁破片	10YR-4/4~2.5Y-4/6	10Y-4/2~5B-2/1	N-6/0	白色粒子、石英粒 黒色粒子、灰色粒子	
口縁破片	10YR-5/4~10YR-5/1 10YR-2/2~10YR-5/4	10YR-5/4~10YR-5/1 10YR-2/2~10YR-5/4	10Y-8/1~7.5Y-7/1	石英粒、黒色砂粒	
体部破片	5PB-6/1	N-3/0	2.5GY-7/1~N-5/0	石英粒、黒色砂粒 灰色粒子	素焼
体部破片	10YR-3/1	10YR-3/1	5Y-6/1	白色粒子、石英粒 黒色砂粒、雲母微粒	素焼
体部破片	10YR-6/3	10YR-2/2 10Y-5/2	7.5Y-8/1~7.5Y-7/1	白色粒子、石英粒 黒色砂粒、雲母微粒	
体部破片	N-6/0	2.5GY-2/1 7.5Y-4/2	5GY-5/1~N-5/0	白色微粒、石英粒 黒色微粒	
体部破片	5Y-5/1	N-2/0 7.5Y-4/3~7.5YR-8/1	5Y-8/1	白色微粒、石英粒 黒色粒子	
体部破片	N-6/0	N-6/0	N-6/0	石英粒、黒色粒子 灰色砂粒	
体部破片	5PB-7/1	N-5/0 5Y-3/1	2.5GY-6/1	白色微粒、黒色微粒	
口縁破片	7.5Y-4/1~N-6/0	7.5Y-4/1~N-6/0	N-7/0	石英粒、黒色粒子 雲母微粒	素焼
口縁破片	N-2/0	5Y-3/1	N-5/0	石英粒、白色砂粒 灰色砂粒	素焼
口縁破片	5Y-5/1	5Y-5/1	5Y-7/1	石英粒、黒色粒子 長石粒	素焼
口縁破片	5Y-3/1	7.5Y-2/1 5Y-6/3~5Y-5/3	5Y-6/1	石英粒、黒色砂粒 灰色砂粒	
肩部1/6	2.5Y-6/3	7.5Y-4/3	7.5Y-6/1	黒色砂粒、雲母微粒	
体部1/6	N-7/0	2.5Y-2/1~2.5Y-3/3	5Y-7/1	石英粒	二次焼成により釉が発泡
底部1/6	5Y-8/1	7.5Y-5/3	5Y-8/1		

第19表 遺物計測表(7) 国産陶器(甕・瓶子) - 2

挿図	図版	番号	遺 構	窯	器種	時 期	技 法		口 径	底 径		口唇幅	器 高	焼成
							内面	外面		内 径	外 径			
28	15	1	13 I	常滑	捏鉢	14 c代?	撫	撫	-	-	-	0.7	(3.8)	A
		2	16I-04	常滑?	捏鉢	14 c中葉	撫	削	32.2 33.2	-	-	1.2	(6.8)	A
		3	4D-72	常滑	捏鉢	15 c中葉	撫	撫	-	-	-	1.8	(4.0)	A
		4	12G-60	常滑	捏鉢	14 c代?	撫	撫	-	-	-	0.7	(3.7)	A
		5	14F-48	常滑	捏鉢	15 c中葉	撫	撫?	-	-	-	1.8	(3.6)	A
		6	13G-99 13H-10・40	常滑	片口鉢?	14 c中葉	撫	削	26.8 28.8	10.4	13.8	0.8	12.5	A
		7	7F-00	備前	擂鉢	14 c前葉	撫	撫	-	-	-	1.5	(6.4)	A+
		8	12F-63	常滑	捏鉢	14 c代?	押捺	押捺	28.8 30.8	-	-	0.9	(4.8)	A
		9	7D-41	常滑	捏鉢?	15 c中葉	撫	削	-	-	-	1.0	(4.7)	A
		10	14G-10	常滑	捏鉢	15 c中葉	撫	押捺 撫	-	-	-	1.5	(4.2)	A
		11	12E	常滑	捏鉢	14 c中葉	押捺	押捺 撫	23.2 24.4	-	-	0.7	(8.6)	A
		12	5 C	常滑	捏鉢	14 c中葉	撫	削	-	-	-	1.8	(4.5)	A
		13	6D-13	瀬戸	擂鉢?	15 c中葉	撫?	撫?	-	-	-	0.9	(2.0)	A
		14	5D-05	在地系?	擂鉢	15 c中葉	撫	削	-	-	-	1.3	(3.2)	B+
		15	5 F	常滑	擂鉢	15 c中葉	撫	撫 叩	-	-	-	1.3	(4.3)	A
		16	12H	常滑	擂鉢	15 c中葉	撫	叩	22.0 24.3	-	-	1.2	(4.4)	A
		17	14H-85	常滑	擂鉢	14 c中葉	撫	撫	-	-	-	-	(3.8)	A+
		18	F区	常滑?	擂鉢	15 c中葉	撫	削	25 27.6	-	-	1.7	(4.1)	C+
		19	4E-58 4E-94	瀬戸	擂鉢	15 c中葉	撫	撫	-	-	-	-	(4.4)	A
		20	4C-59	備前?	擂鉢	15 c中葉	撫	撫	-	-	-	-	(6.7)	A+
		21	6E-88	備前?	擂鉢	15 c中葉	撫	撫	-	-	-	-	(5.3)	A+
		22	12H-51	常滑	擂鉢	15 c代?	撫	撫	39.4 42.0	-	-	1.7	(5.1)	A

第20表 遺物計測表(8) 国産陶器(鉢類)

遺 存	色 調		胎 土		備 考
	施 釉 部	無 釉 部	色 調	混 入 物	
口縁破片	5YR-5/2	5YR-6/6	5YR-6/6	石英粒、黒色砂粒 長石粒、白色砂粒	素焼
口縁破片	10Y-4/2~7.5Y-8/1	5YR-4/1~5YR-7/3	5Y-7/1~N-7/1	石英粒、砂粒	内面全面釉
口縁破片	5YR-5/6~5YR-5/2	5YR-7/6	10YR-6/2~5YR-7/6	石英粒、白色砂粒 黒色砂粒	素焼
口縁破片	5YR-6/4~5YR-5/1	5YR-6/4~5YR-5/1 7.5Y-8/1	10YR-4/1~5YR-6/4	白色砂粒、灰色砂粒	口唇部自然釉
口縁破片	7.5YR-4/2	7.5YR-5/1	5YR-7/6	石英粒、灰色砂粒 長石粒	素焼
全1/8	5Y-6/1~7.5YR-7/4 10YR-3/3~5Y-8/3	2.5YR-4/1~7.5YR-7/4	5Y-6/1~7.5YR-7/4	砂粒、橙色粘土粒	内面自然釉
口縁破片	2.5YR-3/1 5Y-8/2	5RP-3/1	5RP-5/1~5RB-6/1	白色粒子、灰色砂粒	内面自然釉
口縁破片	7.5YR-3/4 7.5Y-8/1	5YR-4/1~5YR-6/8	5PB-6/1~5P-6/1	白色砂粒、黒色砂粒	内面自然釉
口縁破片	5YR-6/6~5YR-4/1	5YR-7/6~N-2/1	2.5Y-4/1	石英粒、灰色砂粒 長石粒、白色砂粒	素焼
口縁破片	7.5YR-4/1	7.5YR-4/1	7.5YR-7/4	石英粒、灰色砂粒 長石粒	素焼
口縁破片	7.5YR-3/3 10Y-8/1	10YR-3/3~7.5YR-6/1	5Y-4/1	石英粒、灰色砂粒	内面自然釉
口縁破片	5YR-5/6	5YR-3/3	2.5YR-6/6~5YR-5/4	石英粒、黒色砂粒	素焼
口縁破片	7.5R-2/3~10R-3/4	7.5R-2/3~10R-3/4	2.5Y-8/3	石英粒、灰色砂粒 白色砂粒、褐色砂粒	全面鉄釉
口縁破片	10YR-8/4	10YR-8/4	10YR-8/4	石英粒、砂粒	土師質
口縁破片	7.5YR-6/6~10YR-2/1	7.5YR-3/1	2.5YR-7/6~7.5YR-3/1	石英粒、灰色砂粒 長石粒、白色砂粒	素焼
口縁破片	2.5Y-6/1	5YR-6/1~7.5YR-6/6	7.5YR-6/6~N-4/0	石英粒、灰色砂粒 長石粒	素焼
底部破片	5Y-4/1 7.5YR-5/4	5Y-4/1 7.5YR-5/4	N-7/0	石英粒、黒色砂粒 灰色砂粒、雲母微粒	全面鉄釉
口縁破片	2.5Y-7/2	2.5Y-8/4	5Y-8/2~5Y-7/1	石英粒、灰色砂粒 長石粒、赤色砂粒	素焼
体部破片	2.5YR-2/1~5YR-4/3	2.5YR-2/1~5YR-4/3	10YR-8/4	石英粒、黒色砂粒 灰色砂粒、褐色砂粒	全面鉄釉
体部破片	10R-4/1~7.5GY-6/1	10R-4/1~7.5GY-6/1	10YR-7/4~7.5Y-8/1	石英粒、黒色砂粒 灰色砂粒	全面釉、金属光沢を持つ 21と同一個体
体部破片	10R-4/1~7.5GY-6/1	10R-4/1~7.5GY-6/1	10YR-7/4~7.5Y-8/1	石英粒、黒色砂粒 灰色砂粒	全面釉、金属光沢を持つ 20と同一個体
口縁1/6	10YR-3/1~2.5YR-5/4	2.5Y-3/1~5YR-7/8	5Y-4/1~5YR-7/8	石英粒、灰色砂粒 長石粒	素焼

第20表 遺物計測表(8) 国産陶器(鉢類) - 2

挿図	図版	番号	遺構	器種	底部技法	調整		口徑	最大徑	底徑		器高	高台高	底部最大厚	指數		焼成	
						体部	底部			外面	内面				口高	底高		
29	16	1	4B・4C 5B・5C	小皿	D	F	G	7.3	7.3	4.5	4.6	1.5	-	0.7	20.6	33.3	B	
		2	4D-94	皿	D	F	G	-	-	5.4	6.0	-	-	0.9	-	-	B	
		3	5C	小皿	D	F	G	7.2	7.2	5.4	5.0	1.6	-	1.0	22.2	29.6	A	
		4	5F	小皿	(D)	F	G	6.0	6.0	5.2	4.3	1.1	-	0.7	18.3	21.2	B	
		5	6D-40	杯	(D)	F	G	8.4	8.4	5.6	5.7	2.4	-	-	28.6	42.9	B	
		6	6F	小皿	(D)	F	G	7.4	7.4	6.4	6.0	1.9	-	1.2	25.7	29.7	B	
		7	7C	皿	-	F	-	9.0	9.0	-	4.8	-	-	-	-	-	-	B+
		8	7F	小皿	(D)	F	G	7.4	7.4	5.1	5.8	1.6	-	-	21.6	31.4	C+	
		9	7F	杯	-	F	-	-	-	5.9	6.0	-	-	0.8	-	-	-	B
		10	8F	小皿	D	F	G	7.4	7.4	4.6	6.2	1.3	-	0.8	17.6	28.3	A	
		11	9G	碗	D	F	G	-	-	5.4	7.0	-	0.4	1.2	-	-	-	B
		12	9G	皿	D	F	G	9.8	9.8	6.8	6.0	1.7	-	-	17.3	25.0	A	
		13	10D	小皿	D	F	G	7.9	7.9	5.7	5.8	1.8	-	1.0	25.9	31.6	B	
		14	10H	小皿	(D)	F	G	8.2	8.2	5.6	6.0	1.8	-	0.9	22.0	32.1	C+	
		15	10E-02	杯	-	F	-	10.6	11	-	-	-	-	-	-	-	-	A
		16	13F-30 14G-30	小皿	D	F	G	7.7	8.0	5.6	6.0	1.4	-	-	18.2	25.0	C+	
		17	12E-54	杯	?	F	-	-	-	5.2	7.0	-	0.3	1.2	-	-	-	B
		18	12E-76	小皿	?	F	-	8.4	9.0	4.6	6.2	2.4	0.5	-	28.6	52.2	B	
		19	12F-58	小皿	?	F	-	8.2	8.6	6.7	6.4	1.3	-	-	15.2	18.7	B+	
		20	12G-03	杯	D	F	G	12.1	12.1	4.8	4.3	4.0	-	-	33.1	83.3	A	
		21	12G-90	小皿	?	F	-	7.6	7.6	6.6	4.0	1.4	-	-	18.4	21.2	B	
		22	12H-01	小皿?	(D)	F	G	-	-	6.0	-	-	-	-	-	-	-	C+
		23	12H	小皿	C	F	G	7.4	7.4	4.8	3.7	1.8	-	-	24.3	37.5	B	
		24	13F-16	小皿	D	F	G	-	-	4.0	4.0	-	-	0.9	-	-	-	B
		25	13H-17	小皿	?	F	-	7.0	7.0	4.5	4.4	1.4	-	0.7	20.0	31.1	C+	
		26	13I-90	小皿	?	F	-	7.6	7.6	4.0	3.5	1.4	-	-	18.4	35.0	B	
		27	13I	杯	(D)	F	G	8.9	8.9	5.8	5.0	2.5	0.5	-	28.1	43.1	B	
		28	14I-00	小皿	?	F	-	7.0	7.0	5.6	5.0	1.3	-	-	18.6	23.2	B	
		29	15F-37	小皿	(D)	F	G	6.8	6.8	4.6	4.2	1.7	-	-	25.0	37.0	B	
		30	F区	杯	D	F	G	7.6	7.6	5.0	5.4	2.2	0.4	0.9	28.9	44.0	B	
		31	13H-33	小皿	?	F	-	9.4	9.4	5.0	6.8	2.0	0.2	1.2	21.3	25.0	B	
		32	13I	小皿	?	F	-	7.2	7.6	4.6	4.8	1.5	-	1.2	20.8	32.6	B	

第21表 遺物計測表(9) 土師質土器

遺存	色調		胎土		備考
	内面	外面	色調	混入物	
底部1/3	10YR-7/3	10YR-7/3	10YR-7/3	白色砂	
底部2/3	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	灰色砂	
口縁部破片	7.5YR-5/4	7.5YR-5/4	7.5YR-5/4	黒色砂・白色砂	
底部1/4	10YR-7/4	10YR-7/4	10YR-7/4	なし	
口縁部破片	10YR-7/4~2.5Y-5/2	2.5Y-7/2~3/1	10YR-7/4	黒色砂・白色砂	
底部2/5	7.5YR-6/6	7.5YR-6/6	7.5YR-6/6	黒色砂・白色微粒	
口縁部破片	10YR-6/4	10YR-6/4	10YR-6/4	白色微粒・灰色微粒	
底部1/4	10YR-7/4	10YR-7/4	10YR-7/4	白色微粒・破碎土器 雲母様微粒子	
底部1/3	7.5YR-7/4	10YR-6/3	7.5YR-7/4	白色微粒・灰色砂	
全体2/5	10YR-7/3	10YR-7/3	10YR-4/6	白色砂・灰色微粒 雲母様微粒子	
底部破片	2.5Y-4/1	2.5Y-4/1	2.5Y-7/3	白色砂・灰色砂 雲母様微粒子	
口縁部破片	2.5Y-7/3~5/1	2.5Y-7/3~5/1	N-1.5/0~2.5Y-8/4	白色砂・灰色砂	灯明具:油脂状炭化物・ 煤付着、二次焼成
口縁部破片	10YR-7/4	10YR-7/4	10YR-7/4	黒色砂・白色砂・雲母粒 破碎土器粒	
底部1/2	7.5Y-6/6	7.5Y-6/6~2.5YR-6/6	7.5Y-6/6	なし	
口縁部破片	2.5Y-7/3~5YR-6/6	2.5Y-7/3~5YR-6/6	2.5Y-7/3~5YR-6/6	黒色砂・白色微粒 破碎土器粒	
全体2/5	5YR-6/6~2.5Y-4/2	5YR-6/6~2.5Y-4/2	5Y-4/1~5YR-6/6	灰色微粒	灯明具:油脂状炭化物・ 煤付着、二次焼成
底部破片	10YR-7/3	2.5Y-8/3	10YR-7/3	黒色微粒	
底部破片	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3~5YR-7/6	2.5Y-8/3	黒色微粒・破碎土器粒	
口縁部破片	10YR-8/4	10YR-8/4~1.7/1	10YR-8/6	白色微粒・灰色砂	灯明具?:内面煤付着
口縁部破片	7.5YR-7/6~10YR-7/3	7.5YR-7/6~10YR-7/3	7.5YR-7/6	白色砂・灰色微粒 雲母微粒子	
口縁部破片	7.5YR-7/4	2.5YR-7/6~5/4	7.5YR-7/4	白色砂・灰色微粒 雲母微粒子	
底部破片	2.5Y-8/2	2.5Y-8/2	2.5Y-8/2	白色砂・灰色砂	
口縁部破片	2.5Y-8/3~7.5YR-7/6	2.5Y-8/3~7.5YR-7/6	7.5YR-7/6	白色砂・黒色砂・灰色砂 雲母微粒	
底部4/5	2.5Y-7/3	2.5Y-7/3	2.5Y-7/3	灰色微粒・雲母微粒 破碎土器粒	
口縁部破片	2.5Y-5/2	2.5Y-5/2	2.5Y-5/2	黒色砂・灰色砂 雲母微粒	灯明具:油脂状炭化物・ 煤付着、二次焼成
口縁部破片	5YR-7/6	5YR-7/6	5YR-7/6	白色砂・黒色砂・灰色砂	
口縁部破片	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	2.5Y-8/3	黒色砂・灰色砂・雲母粒 破碎土器粒	
口縁部破片	2.5Y-7/2	2.5Y-7/2	2.5Y-7/2	黒色砂・白色砂・灰色砂 破碎土器粒	
口縁部2/5	5YR-5/6	5YR-5/6	5YR-5/6	白色砂・黒色砂 雲母微粒	灯明具:油脂状炭化物・ 煤付着、二次焼成
底部2/5	10YR-7/3	10YR-7/3	10YR-7/3	白色砂・灰色砂 雲母微粒	
全体4/5	5YR-6/8~7.5Y-6/4	5YR-6/8~7.5Y-6/4	5YR-6/8	破碎土器粒・雲母微粒 白色砂	
略完型	7.5Y-6/6~5YR-5/4	7.5YR-6/6	7.5YR-6/6	灰色砂・白色砂 破碎土器粒	

第21表 遺物計測表(9) 土師質土器-2

挿図	図版	No	遺構	層位	銭種	書体	読み	初鑄年	材質	外縁外径		至輪径		内郭外長	
										A	A'	B	B'	C	C'
31	17	1	4D-17	3層	熙寧元寶	真書	順読	1068	銅	25.00	25.08	20.53	20.33	7.71	7.88
		2	4D-90	3e層	皇宋通寶	真書	対読	1038	銅	24.21	-	20.48	-	8.41	-
		3	4D-95	3層	元祐通寶	行書	順読	1086	銅	24.82	24.14	18.50	18.39	8.19	7.89
		4	6C-99	3層	熙寧元寶	真書	順読	1068	銅	25.00	24.48	21.15	20.28	9.14	8.59
		5	7F	4層	開元通寶	真書	対読	621	銅	23.38	23.69	19.38	19.38	8.48	8.10
		6	9G	3層	開元通寶	真書	対読	621	銅	25.00	25.00	21.25	21.24	8.20	8.05
		7	10E-70	3e層	至道元寶	真書	順読	995	銅	21.65	22.24	18.86	18.91	6.60	6.68
		8	11E-01	3e下層	聖宋元寶	篆書	順読	1101	銅	-	-	(16.0)	(16.62)	8.49	8.80
		9	11E-04	3e下	皇宋通寶	真書	対読	1038	銅	(23.82)	(23.82)	(19.78)	(19.78)	8.41	-
		10	11E-11	3e層	開元通寶	真書	対読	621	銅	24.01	23.85	19.78	19.35	8.00	7.56
		11	11E-54	3層	聖宋元寶	篆書	順読	1101	銅	24.60	24.81	18.97	18.82	7.34	7.20
		12	11E-85	3e下層	紹聖元寶	真書	順読	1094	銅	25.05	-	21.90	-	8.50	8.92
32		13	11H	3e層	天禧通寶	真書	順読	1017	銅	24.41	25.4	20.92	20.87	8.61	8.31
		14	12E-26	3層	元祐通寶	行書	順読	1086	銅	24.24	23.97	20.25	19.86	8.24	8.77
		15	12E-87	3e層	天聖元寶	真書	順読	1023	銅	-	25.2	-	20.99	8.41	8.20
		16	12G-62	3e層	至和通寶	真書	順読	1054	銅	-	(23.8)	-	19.30	-	8.50
		17	12H-57	3e層	天禧通寶	真書	順読	1017	銅	24.41	24.23	19.70	19.70	7.72	7.90
		18	13E-45	3層	皇宋通寶	篆書	対読	1038	銅	24.51	24.31	19.45	19.68	8.20	8.20
		19	13E-48	3e層	至道元寶	行書	順読	995	銅	(24.24)	24.45	16.99	17.70	7.28	7.66
		20	13F-36	3層	嘉祐通寶	篆書	順読	1056	銅	23.40	23.30	20.11	20.10	9.35	9.18
		21	13G-58	3e層	紹聖元寶	行書	順読	1094	銅	21.70	21.98	17.92	17.79	7.76	7.91
		22	13H-75	3e層	天聖元寶	篆書	順読	1023	銅	24.68	24.83	20.34	20.34	8.89	8.07
		23	14E-88	3e層	太平通寶	真書	対読	976	銅	24.07	24.54	19.20	19.65	7.50	7.38
		24	14F-01	3層	嘉祐通寶	篆書	対読	1056	銅	24.20	24.40	20.00	19.91	8.05	8.08
33		25	14F-57	3e層	祥符通寶	真書	順読	1009	銅	25.11	25.07	19.76	19.53	7.72	7.51
		26	14F-82	3e層	聖宋元寶	篆書	順読	1101	銅	23.65	23.78	19.70	19.32	8.18	7.77
		27	14F-88	3e層	宣和通寶	篆書	対読	1119	銅	22.80	22.90	19.85	20.34	7.41	7.62
		28	15E-12	3e層	熙寧元寶	篆書	順読	1068	銅	23.17	23.31	18.97	18.80	8.08	7.22
		29	16I-00	3層	開元通寶	真書	対読	621	銅	25.30	25.28	21.50	20.60	7.90	7.30
		30	道路南	3e下層	永樂通寶	真書	対読	1408	銅	25.40	24.70	20.77	20.77	6.63	6.63
		31	表土	-	元豐通寶	行書	順読	1078	銅	24.53	24.47	18.50	18.92	7.58	7.59
		32	表土	-	政和通寶	篆書	対読	1111	銅	24.70	24.60	20.74	21.00	8.42	8.43

第22表 遺物計測表(10) 銭貨

孔 幅		外 帯 厚				文 字 面 厚				量 目 (g)	備 考
D	D'	A	B	C	D	A	B	C	D		
6.22	6.16	1.30	1.19	1.14	1.16	0.94	0.89	0.95	0.88	2.25	
7.21	-	1.04	-	-	1.04	0.56	-	0.54	0.61	(0.94)	粗悪銭。私鑄銭の可能性あり
5.75	5.86	0.74	0.95	0.94	0.86	0.31	0.26	-	-	(1.42)	
7.24	7.10	0.85	0.96	1.28	0.94	0.76	0.81	0.71	0.59	2.46	
6.72	6.65	1.01	0.86	0.98	1.17	0.73	0.53	0.68	0.81	2.01	銭写による私鑄銭の可能性あり
6.8	7.10	1.08	1.04	1.06	1.10	0.43	0.39	0.38	0.44	2.54	連点通・背上月
5.68	5.72	0.95	1.10	0.90	0.95	0.56	0.52	0.40	0.42	1.92	
7.58	6.52	-	-	-	-	0.88	0.88	0.90	0.76	1.16	磨輪銭。私鑄銭の可能性あり
6.41	-	-	-	0.95	0.87	-	0.51	0.45	0.62	(1.22)	
6.70	6.59	0.94	0.79	0.66	0.70	0.50	0.25	0.16	0.38	1.62	
5.68	5.68	1.00	0.97	0.86	0.91	0.56	0.44	0.49	0.54	2.47	私鑄銭の可能性あり
(6.65)	7.20	0.66	-	0.97	0.73	-	0.53	0.56	0.26	(1.46)	
6.24	6.15	0.86	0.84	0.84	0.83	0.57	0.44	0.46	0.46	1.93	
6.80	6.99	1.28	1.12	1.00	1.24	0.68	0.73	0.61	0.67	2.3	粗悪銭
7.09	7.01	0.77	1.04	-	0.85	0.38	-	-	0.35	(1.28)	粗悪銭
-	7.34	1.00	0.88	-	0.90	0.64	0.49	0.52	0.56	(1.58)	
6.18	5.89	1.26	1.24	1.14	1.24	0.47	0.46	0.41	0.54	2.02	銭写による私鑄銭の可能性あり
6.23	6.15	1.15	1.10	0.96	1.14	0.67	0.70	0.79	0.74	(2.22)	
6.23	6.21	0.91	0.88	0.92	0.96	0.53	0.50	0.47	0.52	1.86	
7.80	7.49	1.02	0.98	1.09	1.19	0.74	0.79	0.98	0.92	2.23	
6.39	6.54	1.25	0.92	0.80	1.07	0.50	0.46	0.56	0.84	2.34	打平め。私鑄銭の可能性あり
7.20	7.25	1.12	1.09	1.16	1.16	0.57	0.59	0.62	0.56	1.96	
5.48	5.75	1.00	1.00	0.95	0.96	0.25	0.46	0.41	0.58	2.72	
5.89	6.30	1.38	1.46	1.46	1.45	1.20	1.03	1.06	1.19	2.33	
6.95	6.70	0.91	1.02	1.09	0.96	0.59	0.74	0.65	0.59	2.43	銭写による私鑄銭の可能性あり
6.48	6.55	1.21	1.41	1.30	1.33	0.90	0.85	0.79	0.81	2.87	短点通・背上月
5.88	5.80	0.94	0.89	0.82	0.66	0.52	0.54	0.48	0.53	2.48	銭写による私鑄銭の可能性あり
5.97	6.10	1.04	1.18	1.44	1.36	0.52	0.72	0.81	0.72	(2.36)	新規母銭による模鑄銭？
6.54	6.22	1.32	1.47	1.48	1.49	0.70	0.70	0.71	0.21	(2.29)	
5.30	5.41	1.39	1.33	1.45	1.47	0.72	0.75	0.72	0.72	3.41	
6.69	6.44	0.89	0.90	0.84	0.89	0.46	0.48	0.46	0.51	2.13	
6.99	6.91	1.14	1.11	0.96	1.04	0.54	0.46	0.56	0.65	2.77	

第22表 遺物計測表(10) 銭貨-2

写 真 图 版



周辺地形航空写真（昭和42年撮影）



調査前遠景（北西から）



調査区全景（南から）



調査前遠景（西北西から）



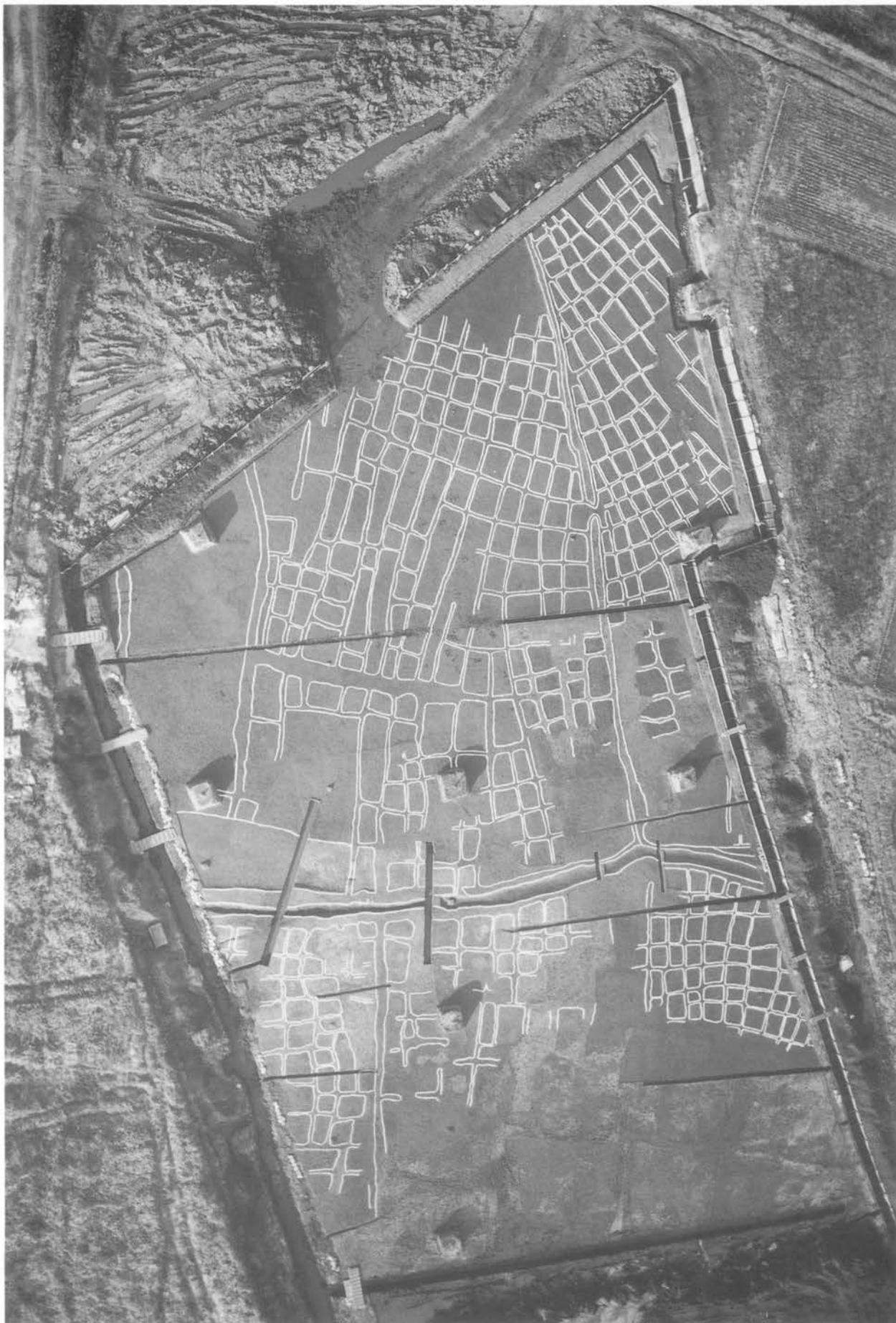
調査前遠景（北東から）



A区第8水田面（弥生時代下層）全景（北北西から）



B区第7水田面全景（南西から）



B区弥生時代～古墳時代前期水田面全景



A区第7水田面
(東南東から)



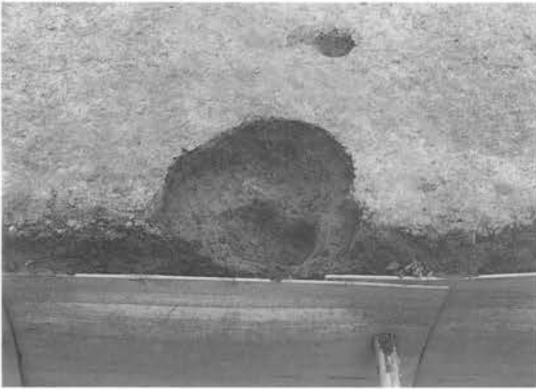
A区第7水田面
(西北西から)



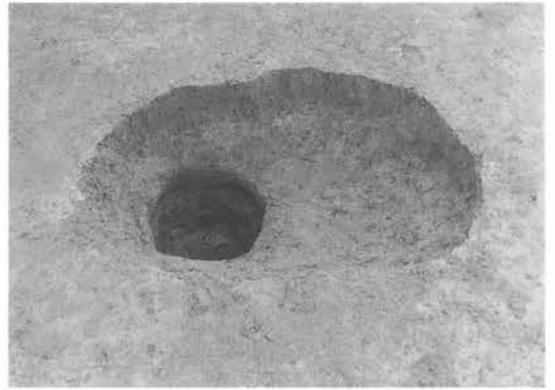
A区第7水田面
中畦畔完堀



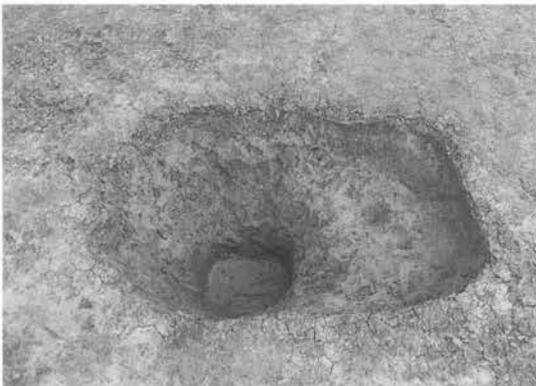
1号土坑



2号土坑



5号土坑



9号土坑



10号土坑



▲B区

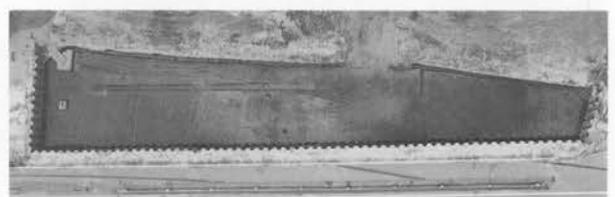


▲C区・D区

▼E区



▼A区 ▼▼F区 ▼▼▼G区



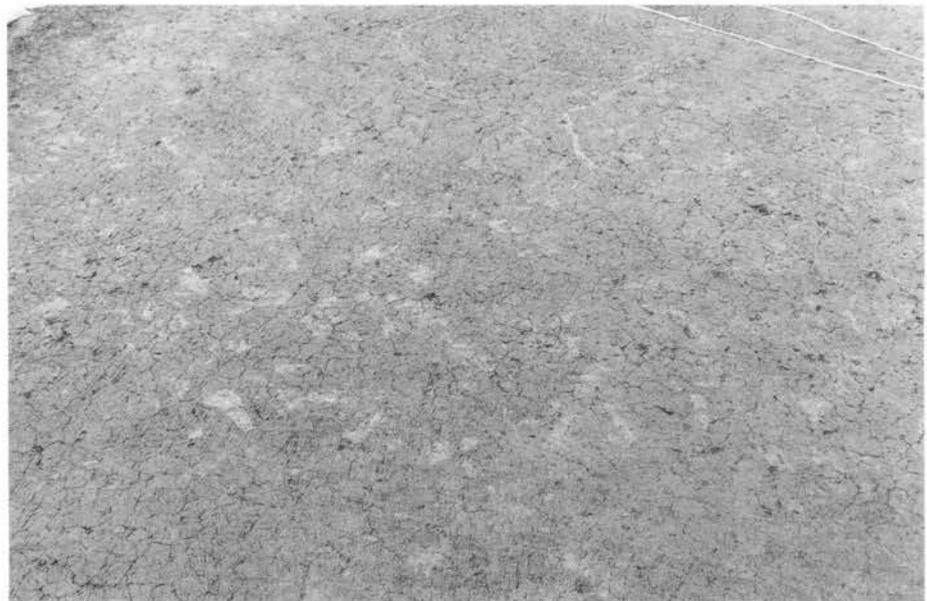
古代～古墳時代中期水田面 (第6水田面)



B区ウシ足跡
(第5水田面)



G区鋤の痕跡
(第6水田面)



B区ヒト足跡
(第6水田面)



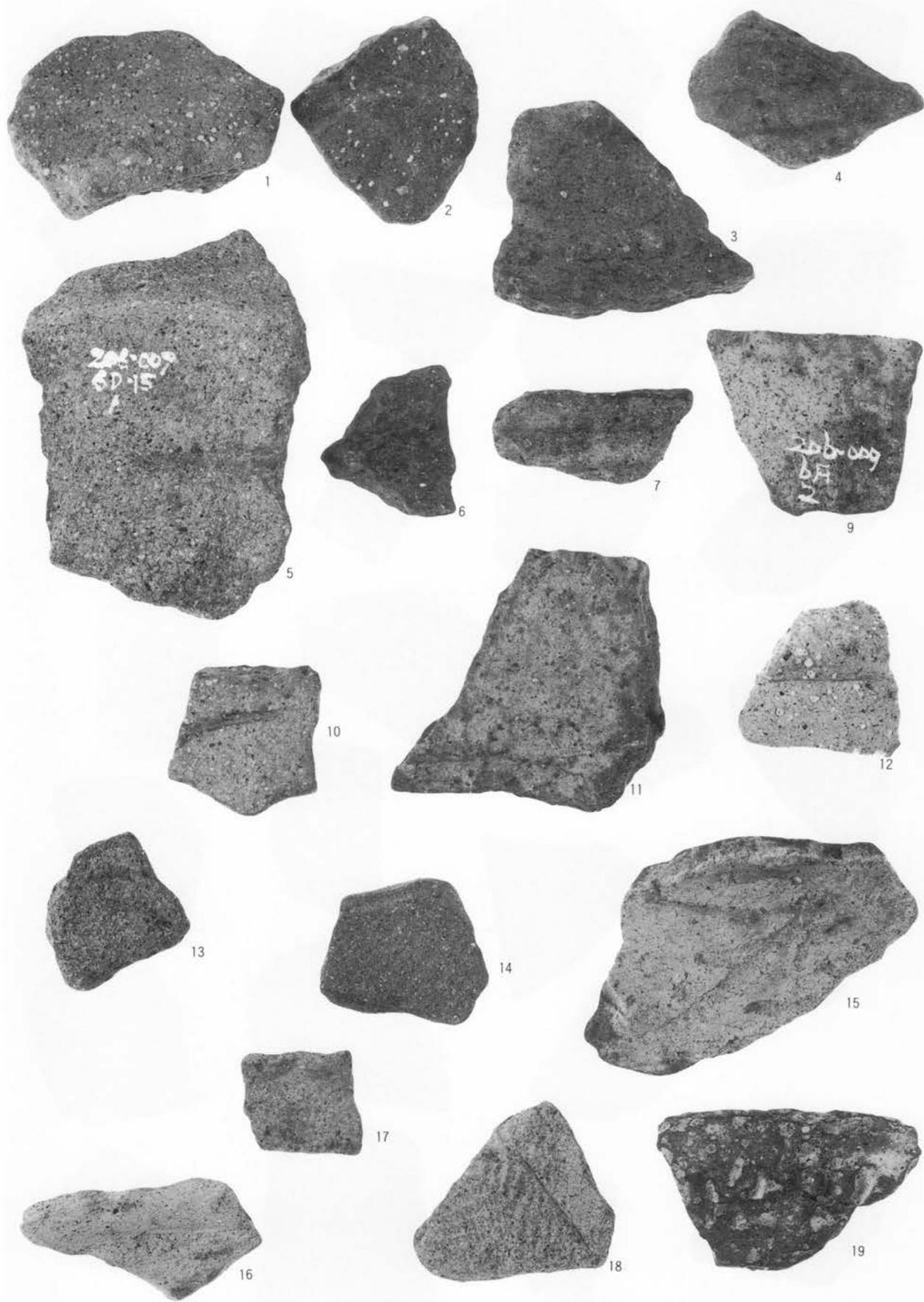
E区古代ピット群



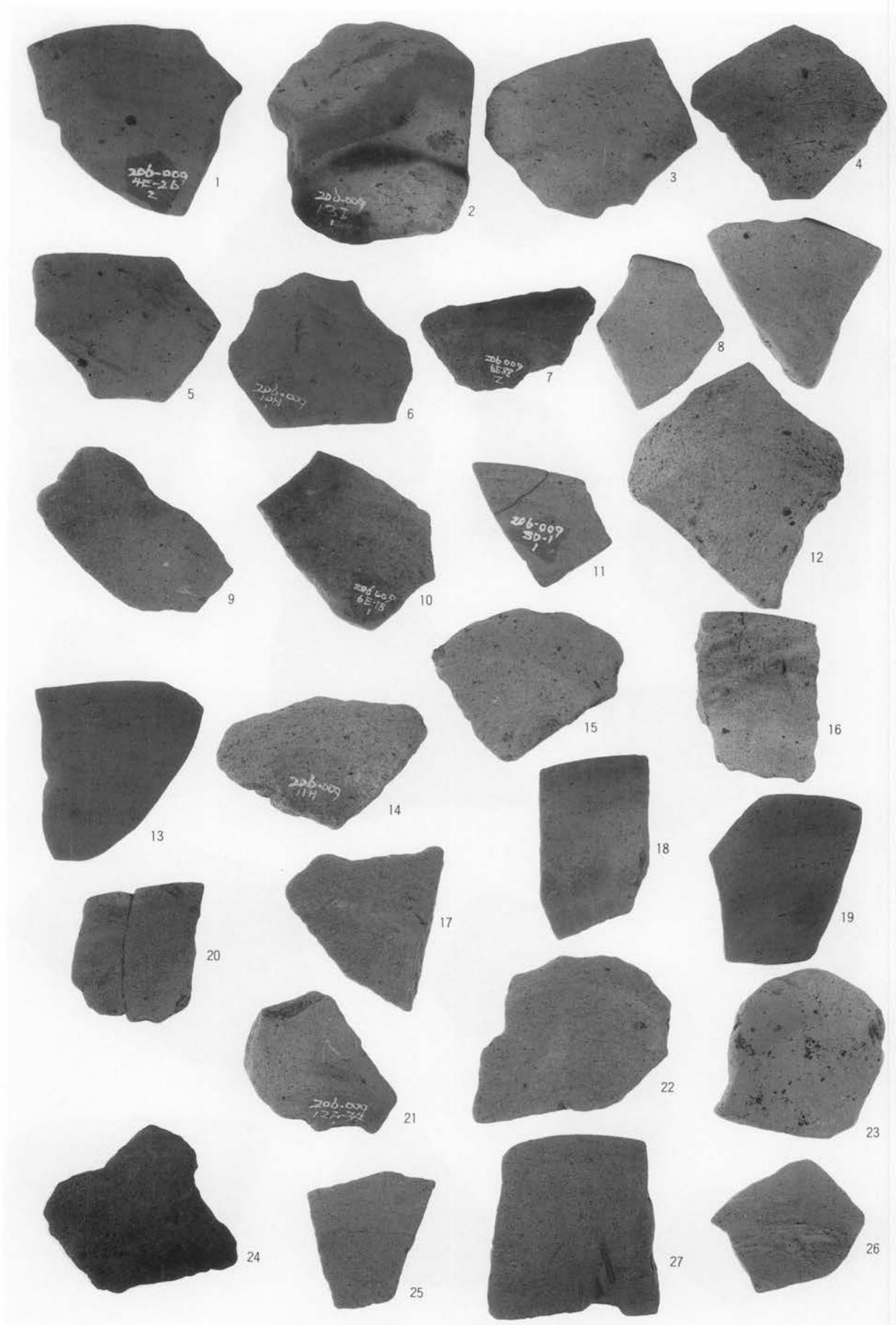
A西区中世溝状遺構



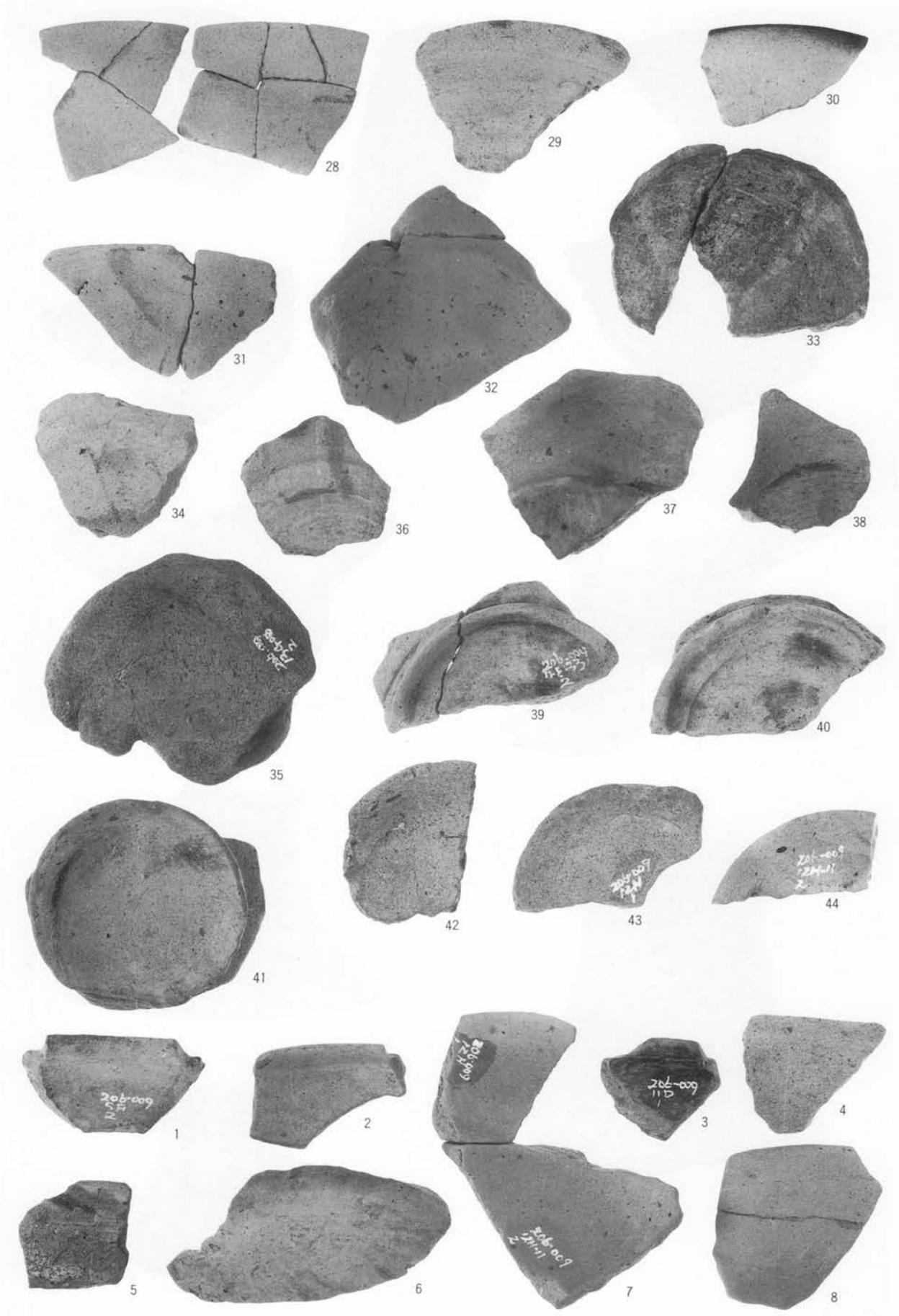
A西区中世溝状遺構



菅生遺跡出土遺物1 (弥生土器)



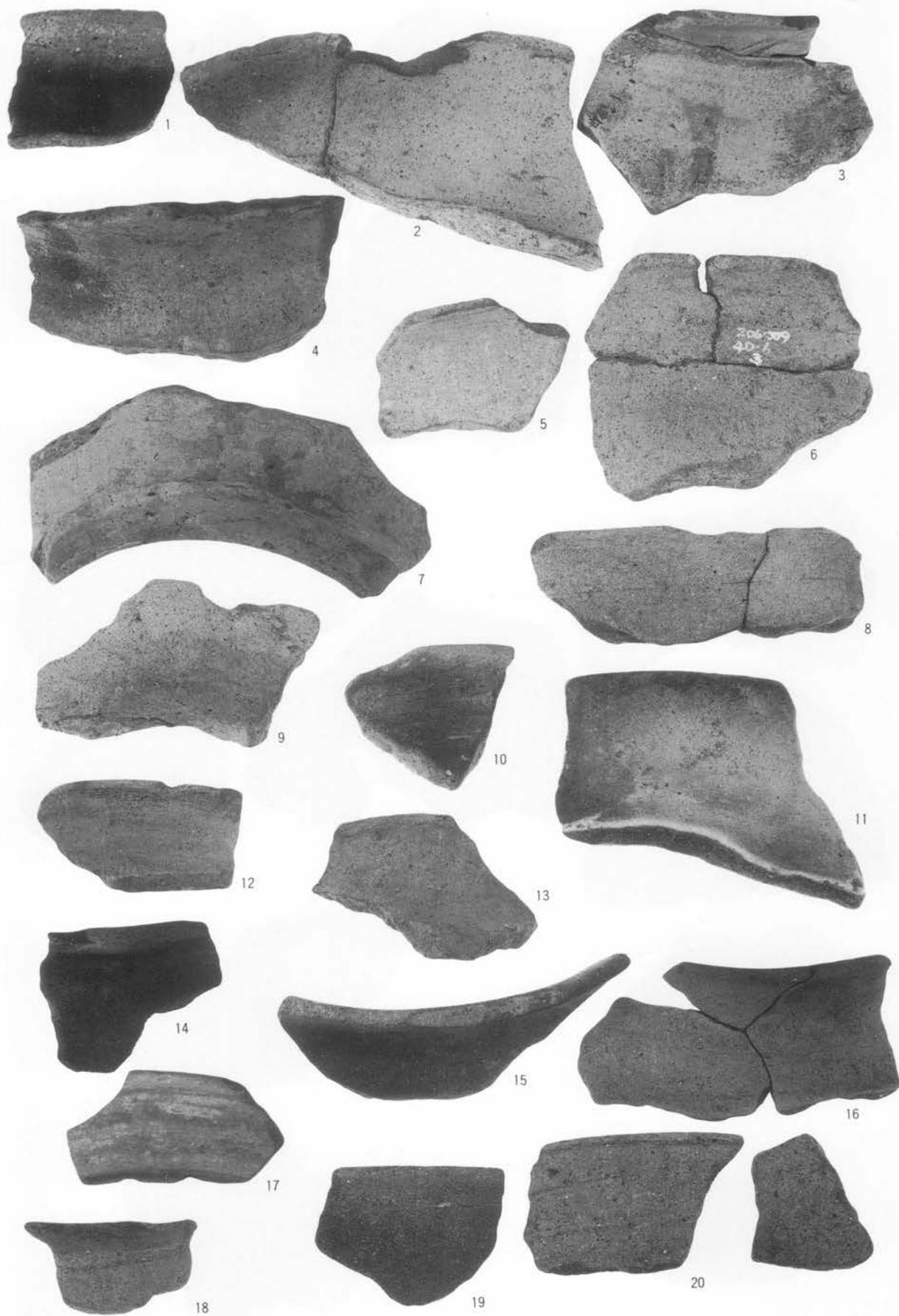
菅生遺跡出土遺物2 (土師器：杯類) ①



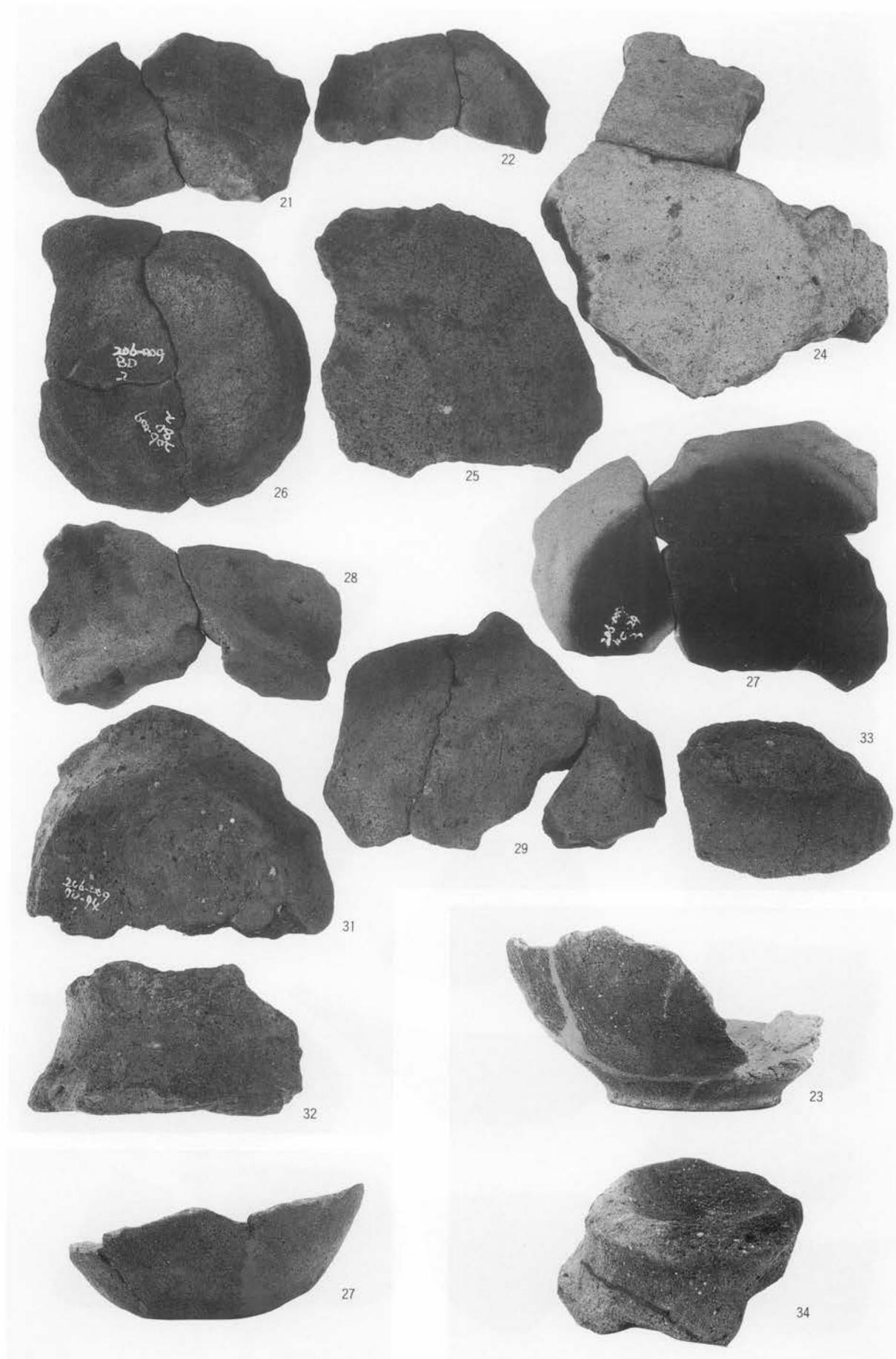
菅生遺跡出土遺物 3 (土師器：杯類) ②



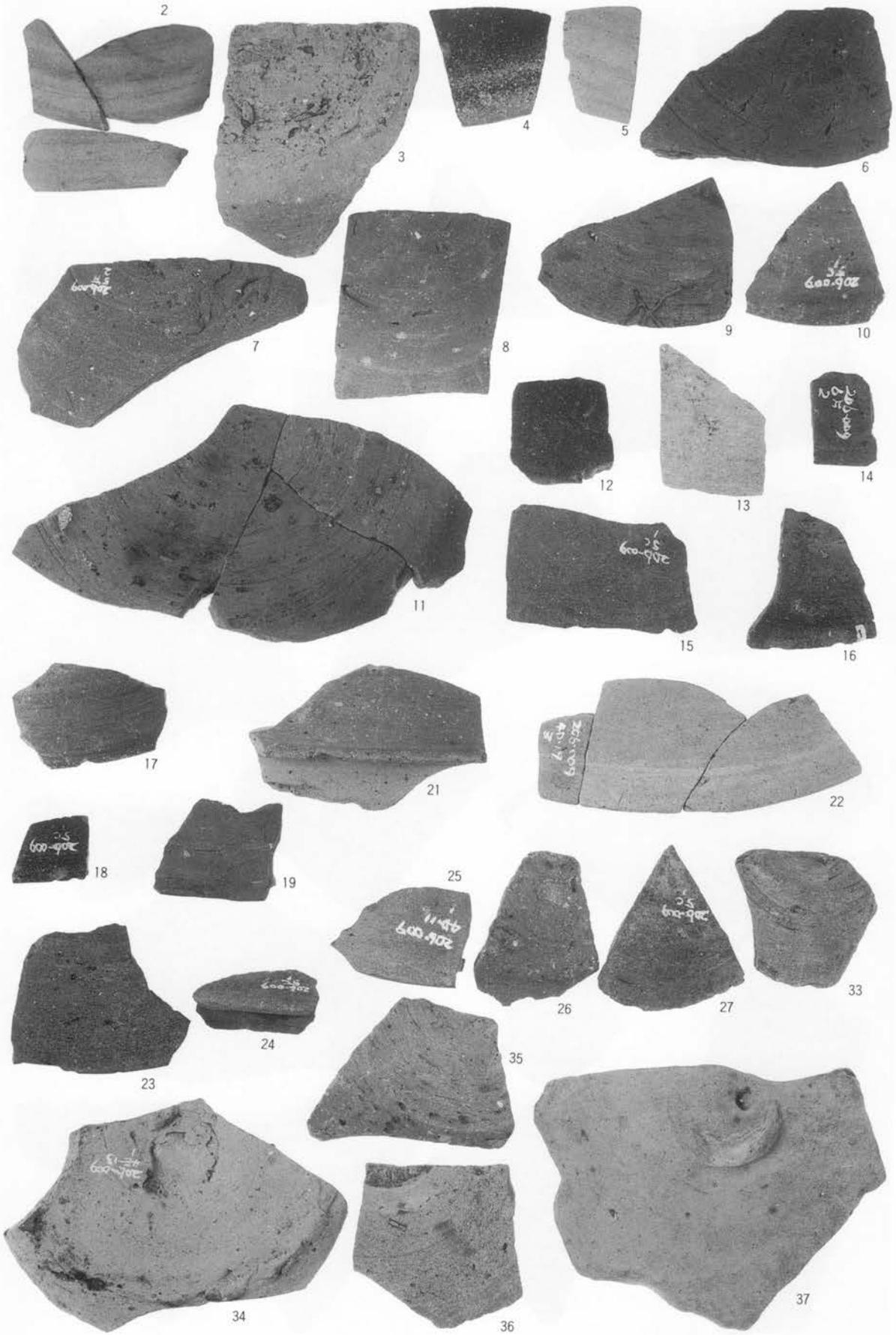
菅生遺跡出土遺物4 (土師器：杯類) ③



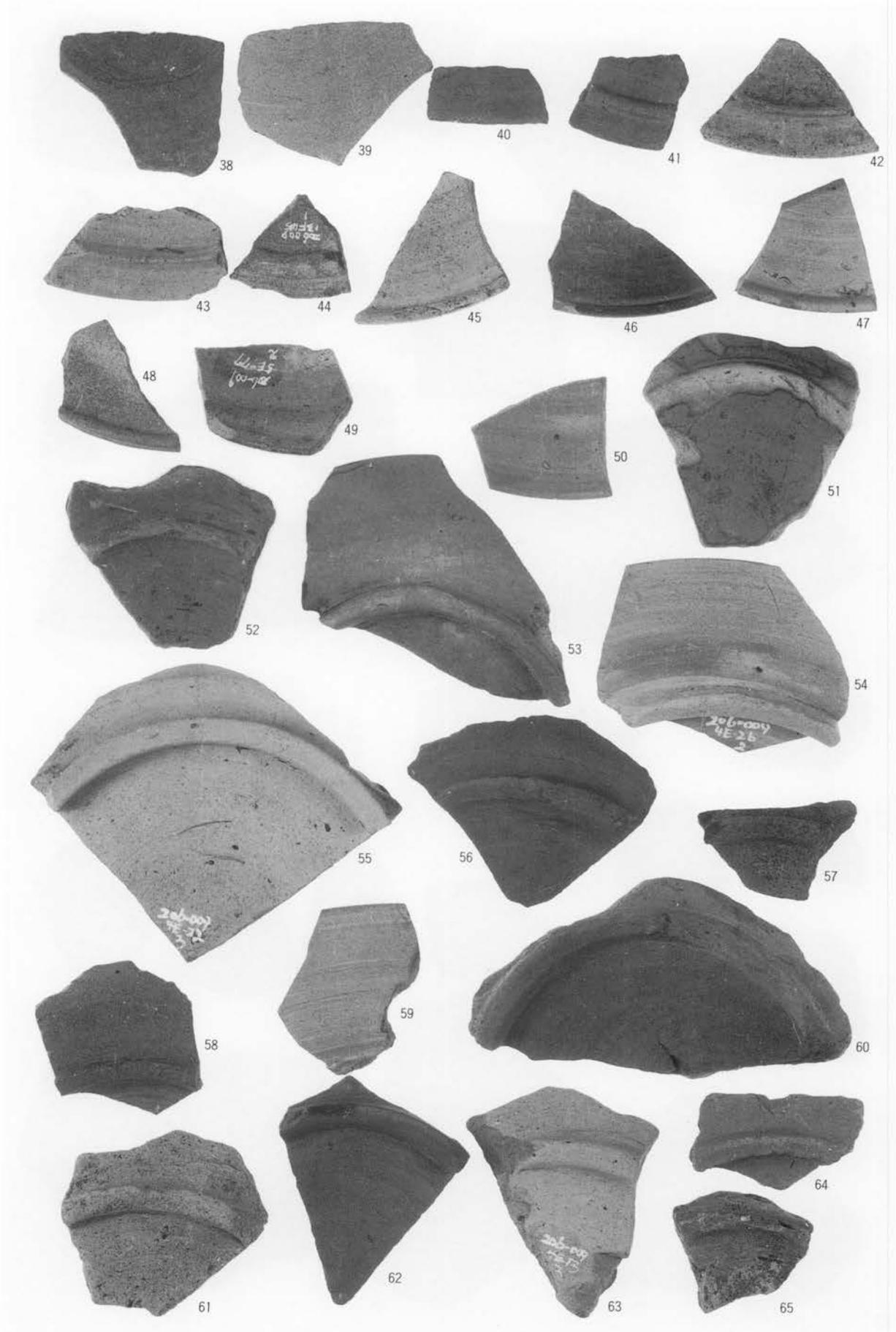
菅生遺跡出土遺物5 (土師器：甕類) ①



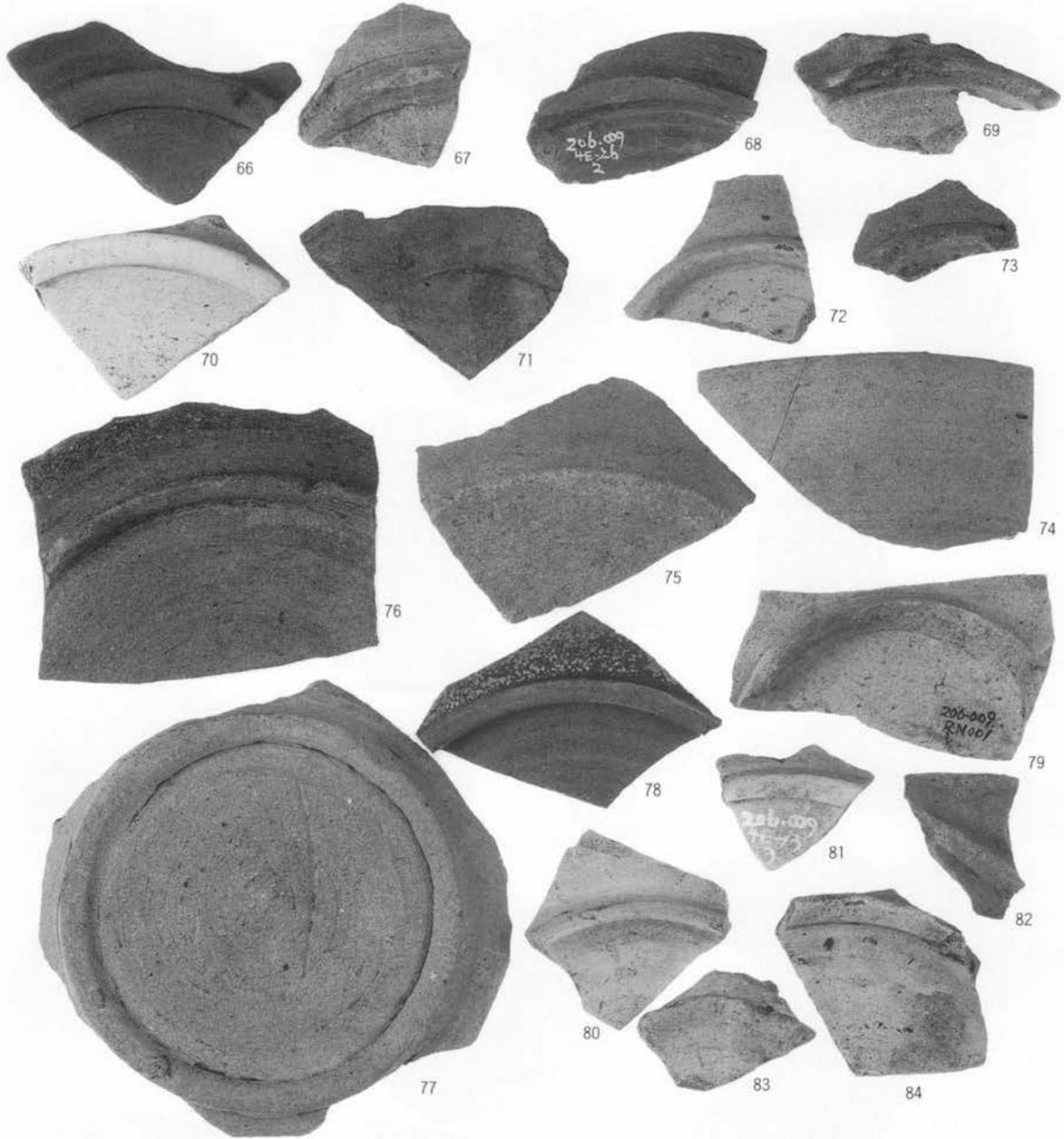
菅生遺跡出土遺物 6 (土師器：甕類) ②



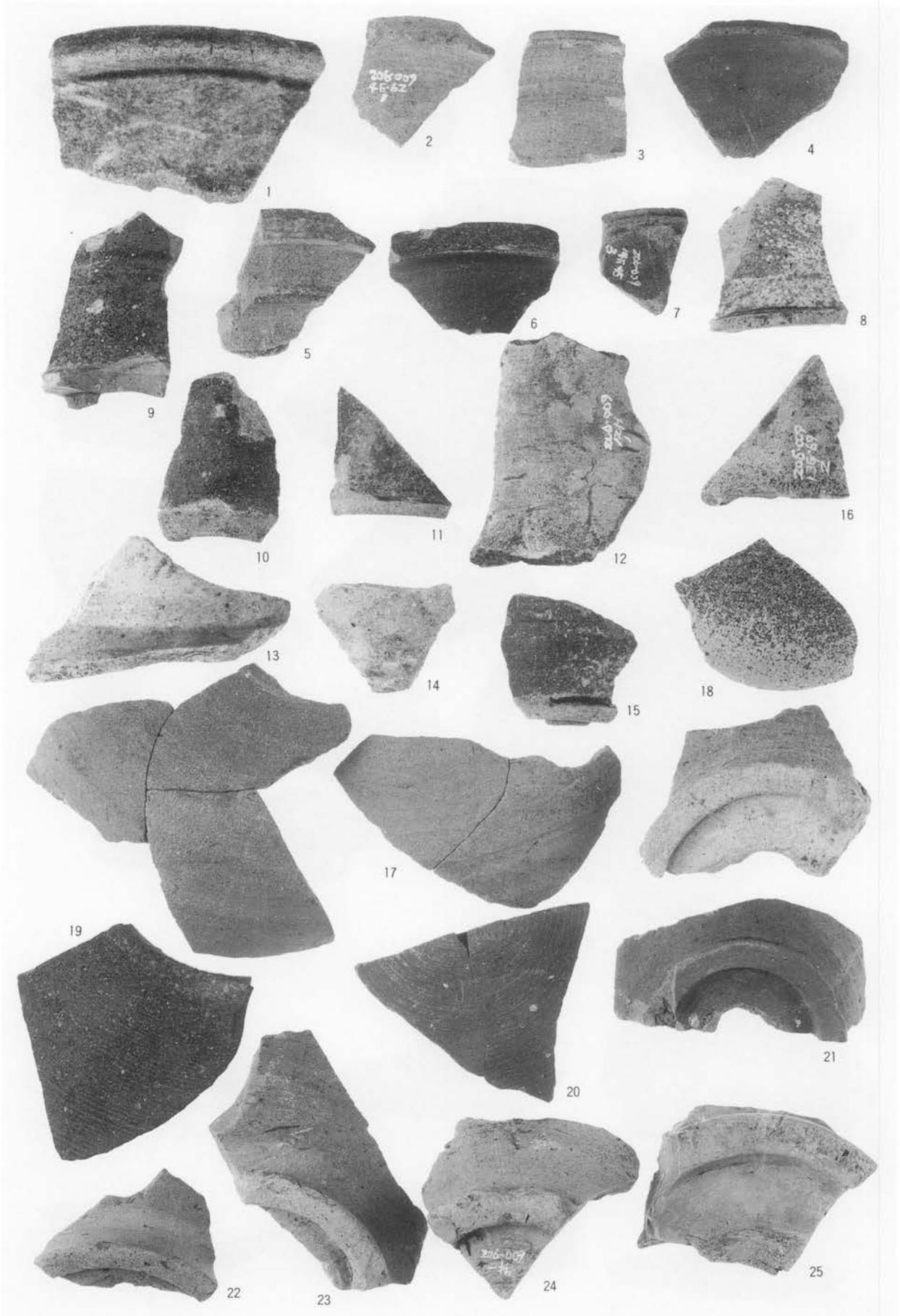
菅生遺跡出土遺物 7 (須恵器：杯類) ①



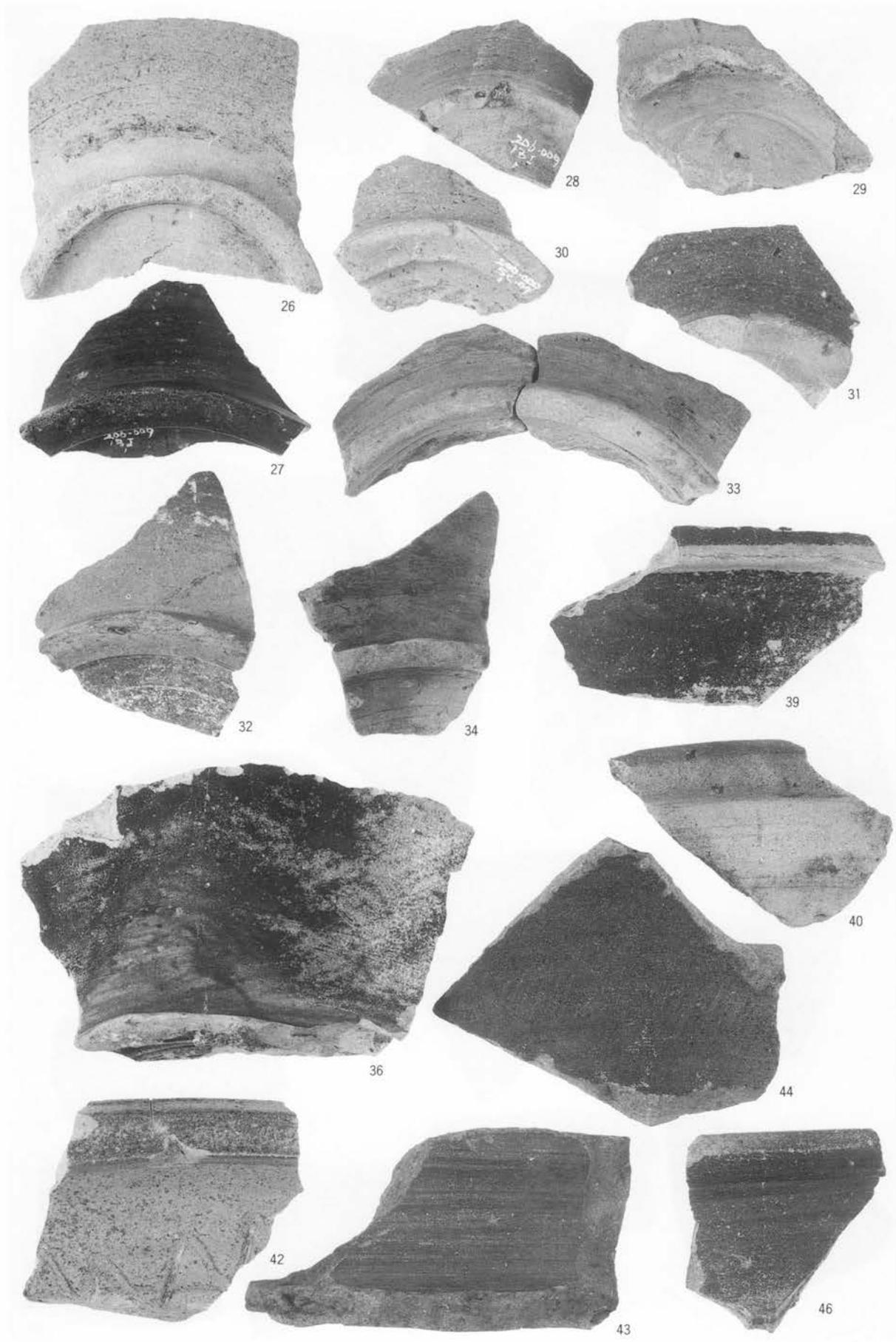
菅生遺跡出土遺物 8 (須恵器：杯類) ②



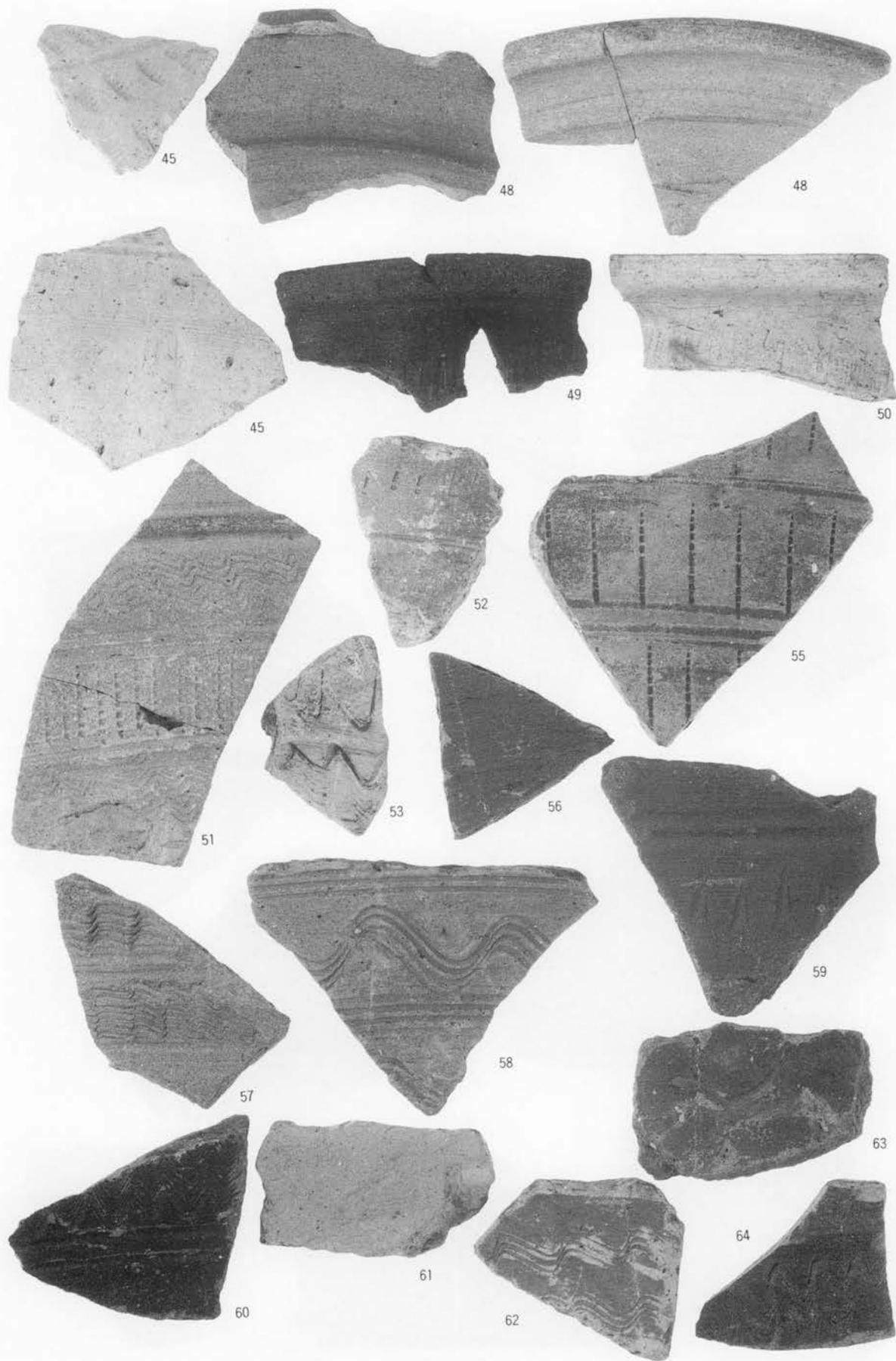
菅生遺跡出土遺物 9 (須恵器：杯類) ③



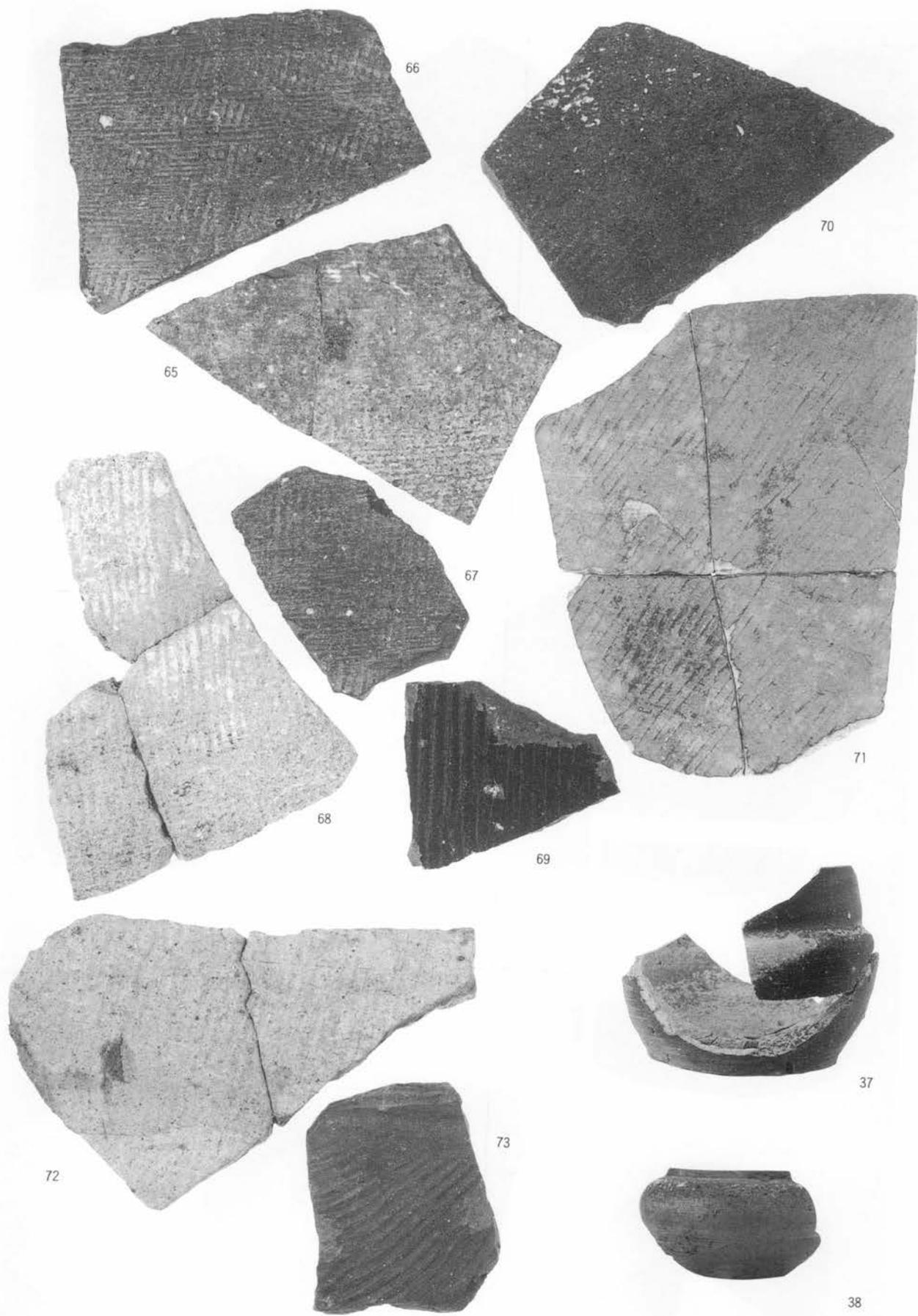
菅生遺跡出土遺物 10 (須恵器: 甕・瓶子) ①



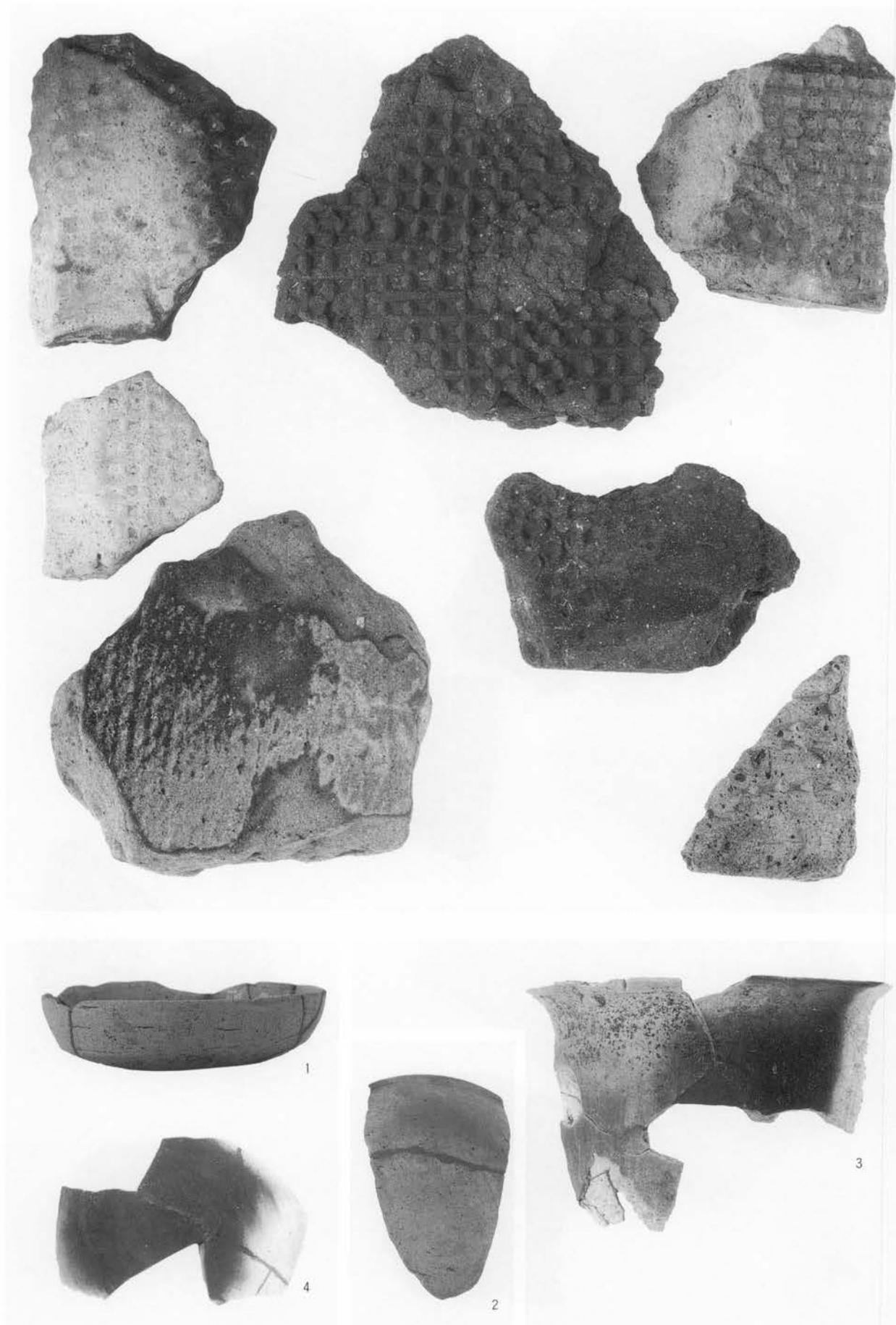
菅生遺跡出土遺物 11 (須恵器：甕・瓶子) ②



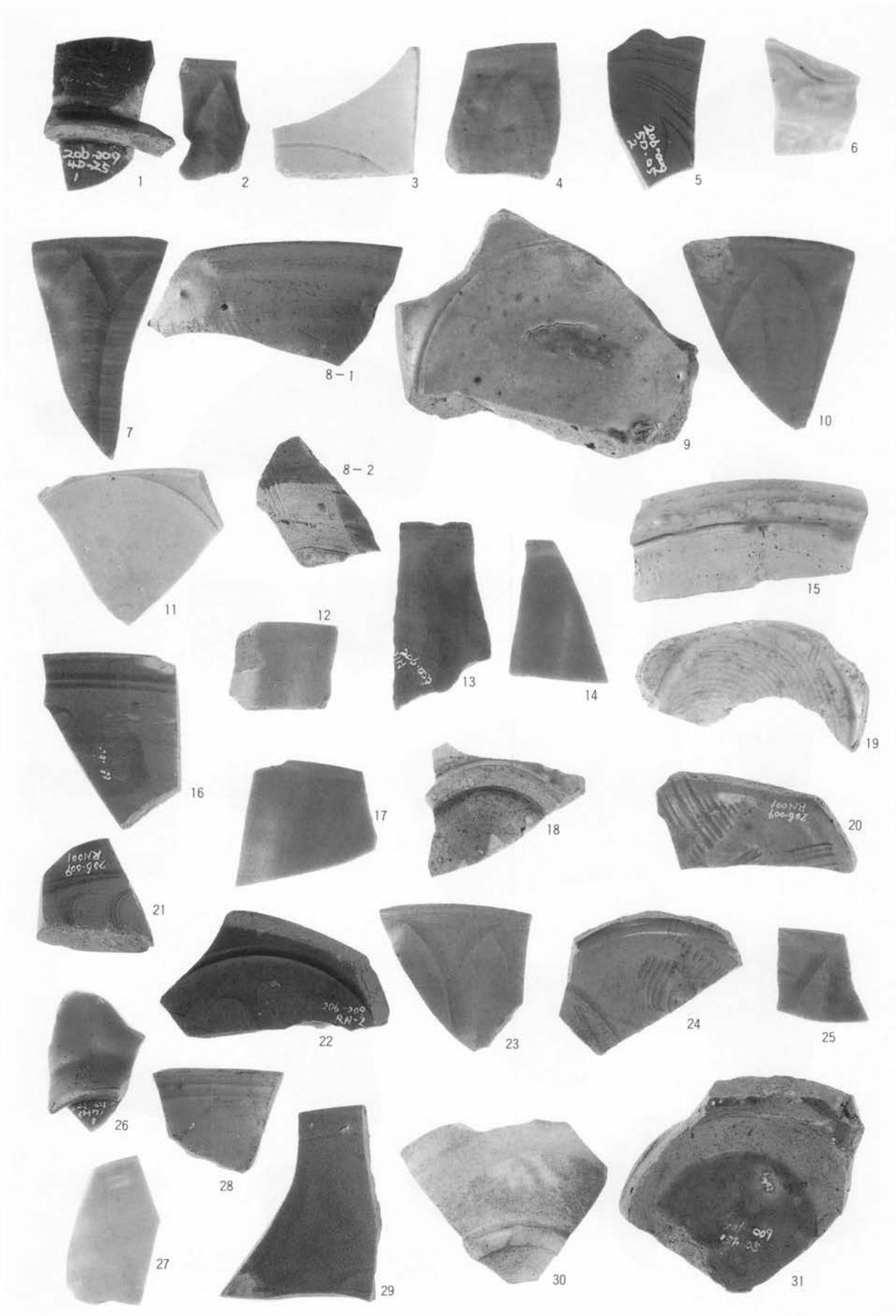
菅生遺跡出土遺物 12 (須恵器：甕・瓶子) ③



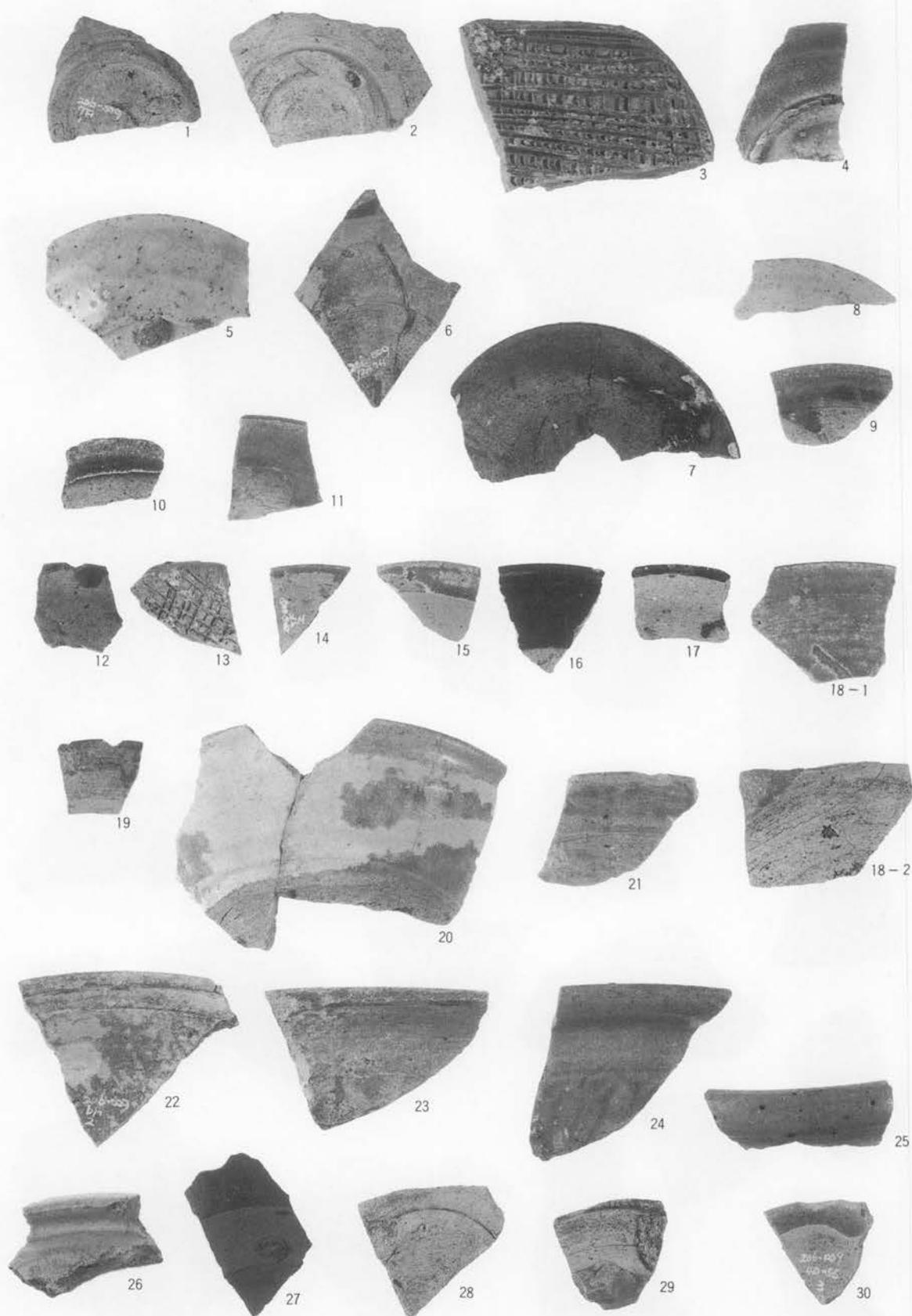
菅生遺跡出土遺物 13 (須惠器：甕・瓶子) ④



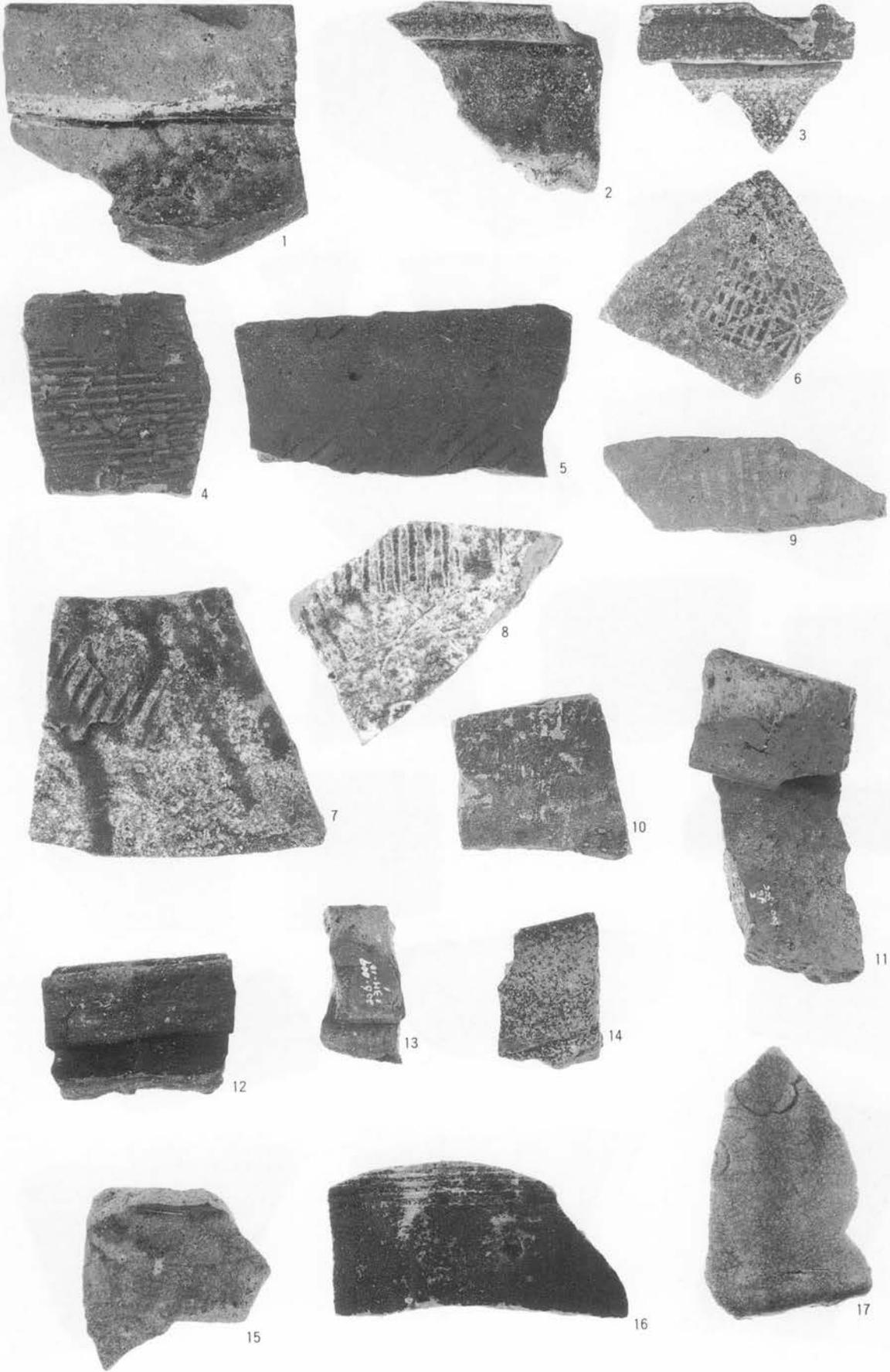
菅生遺跡出土遺物 14 (瓦、遺構出土遺物)



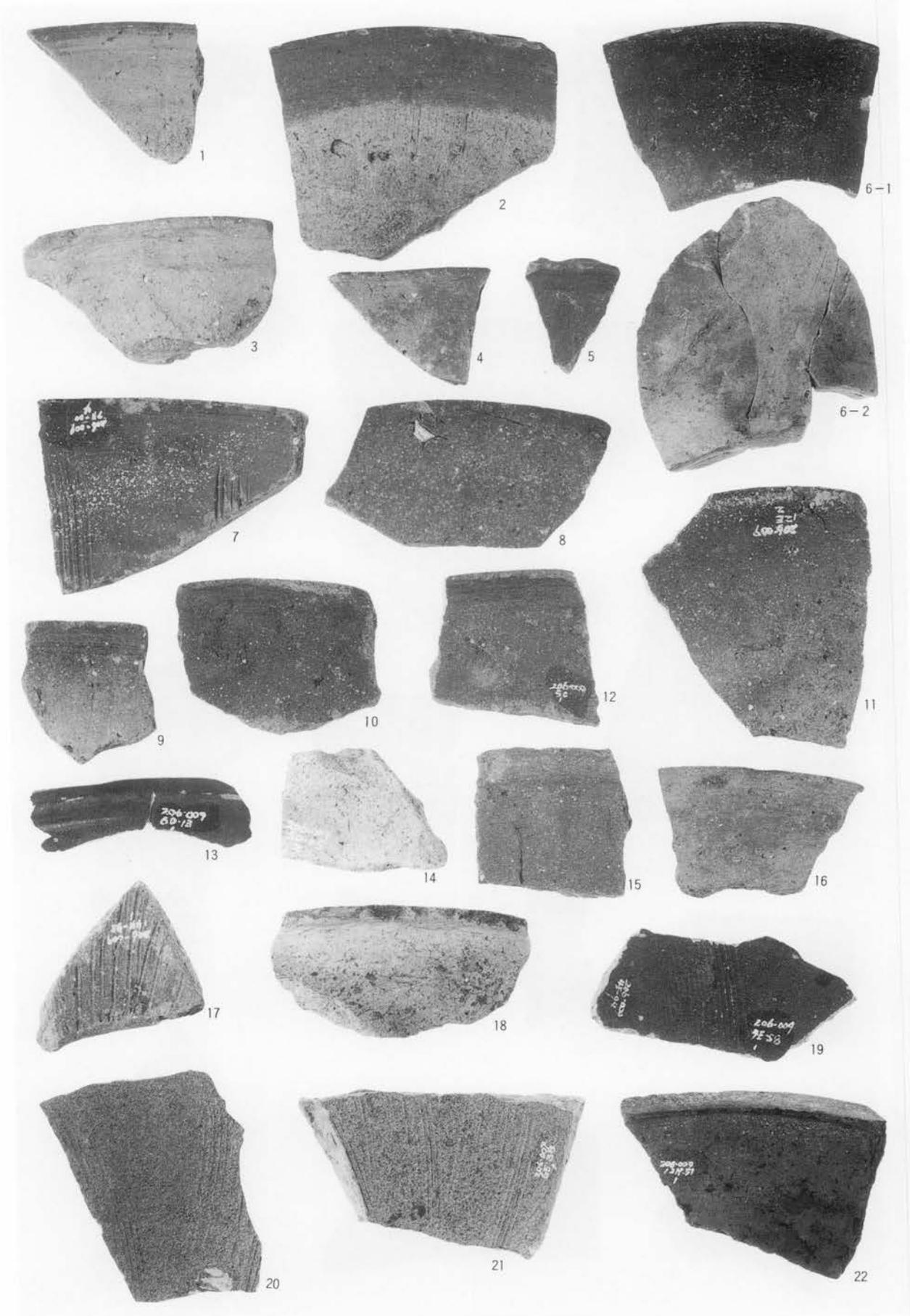
菅生遺跡出土遺物 15 (輸入陶磁器)



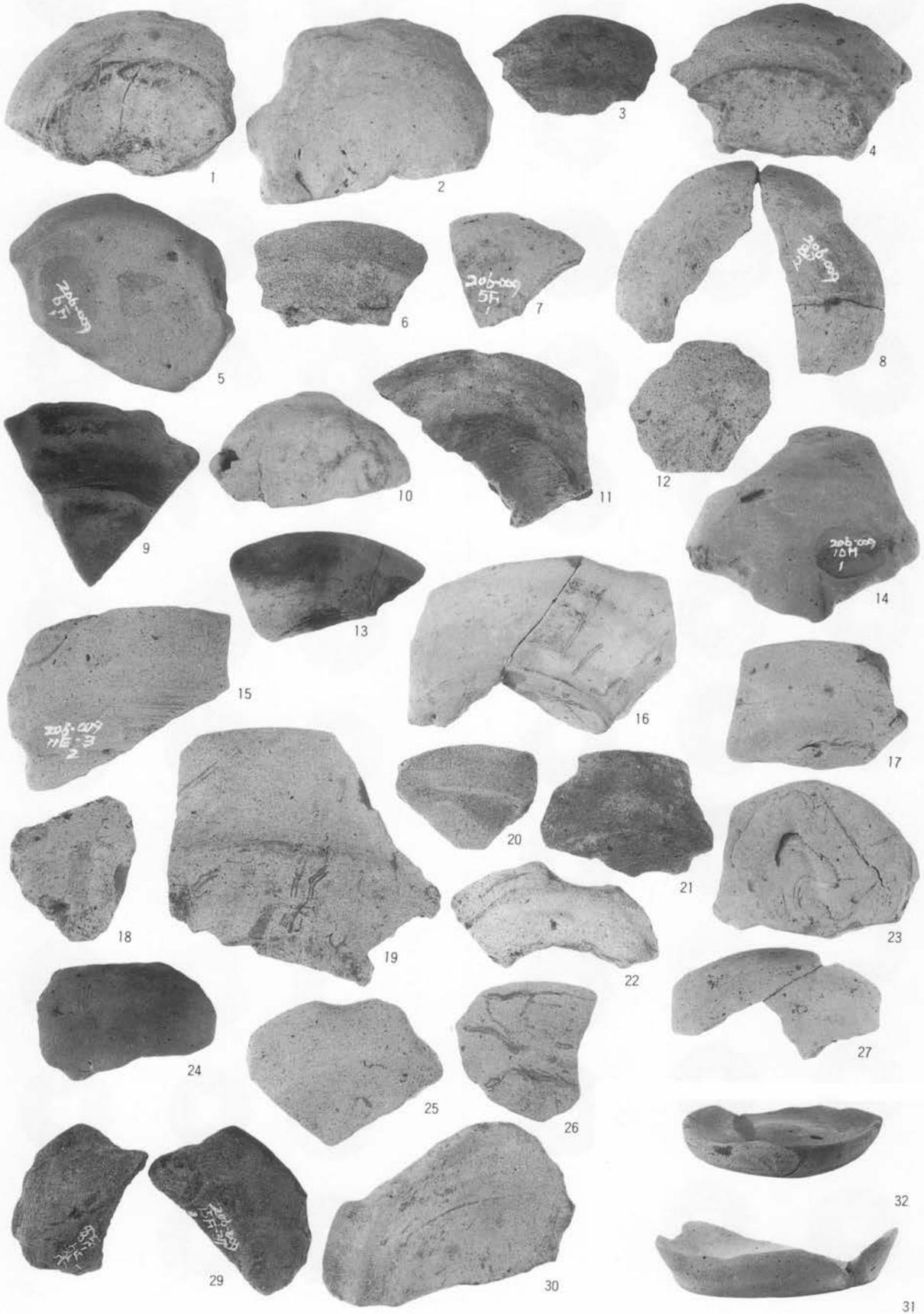
管生遺跡出土遺物 16 (國産陶器) ①



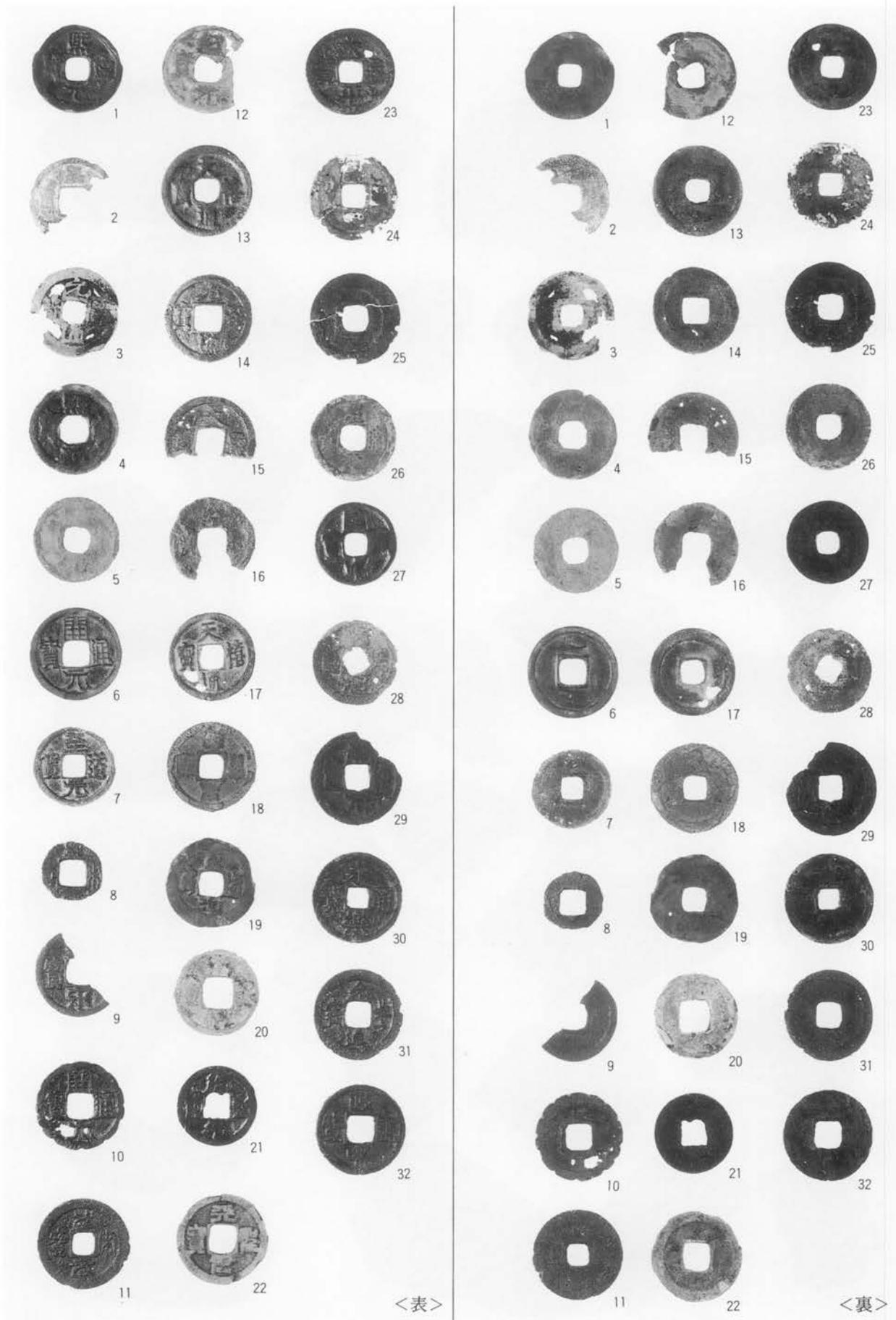
菅生遺跡出土遺物 17 (国産陶器) ②



菅生遺跡出土遺物 18 (国産陶器) ③



菅生遺跡出土遺物 19 (土師器質土器)



菅生遺跡出土遺物 20 (銀貨)



菅生遺跡出土遺物 21 (砥石)



遺跡遠景（南から）



遺跡遠景



遺跡遠景



調査前空中写真



調査後空中写真



4号墳調査前全景（北から）



4号墳調査前全景（南から）



4号墳調査後全景（北から）



4号墳調査後空中写真



4号墳南側周溝断面



4号墳東側覆土断面



4号墳北側覆土断面



4号墳西側覆土断面



4号墳刀子出土状況



4号墳盛土除去後全景



1号竪穴住居跡全景



塚調査前全景 (手前から1、2、3)



1号塚調査前全景



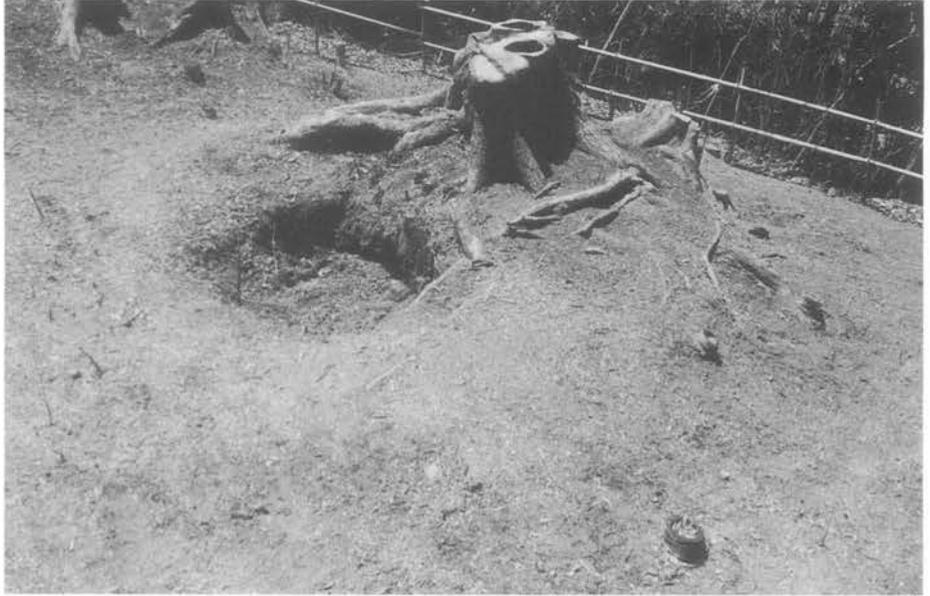
1号塚調査後全景



1号塚南北断面



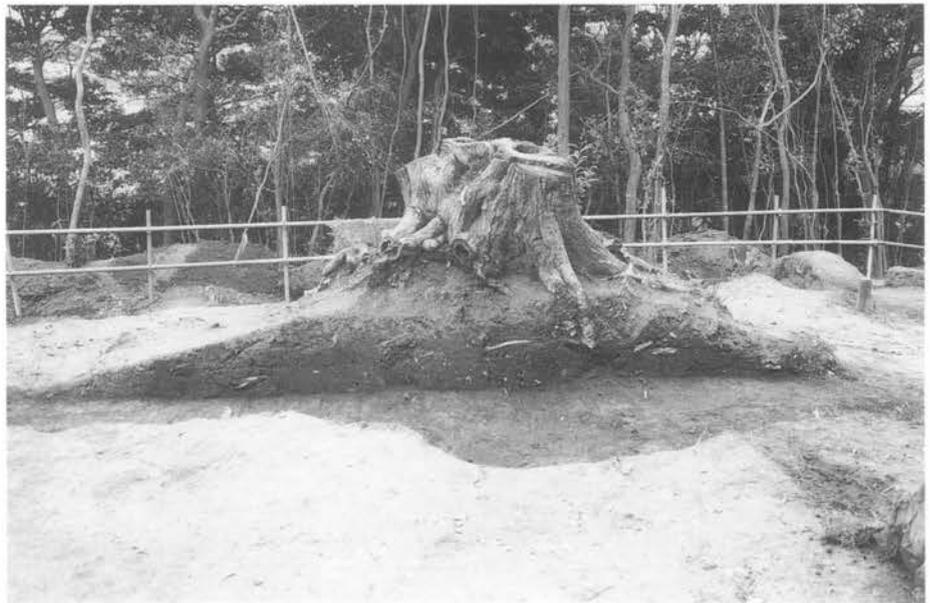
1号塚石検出状況



2号塚調査前全景



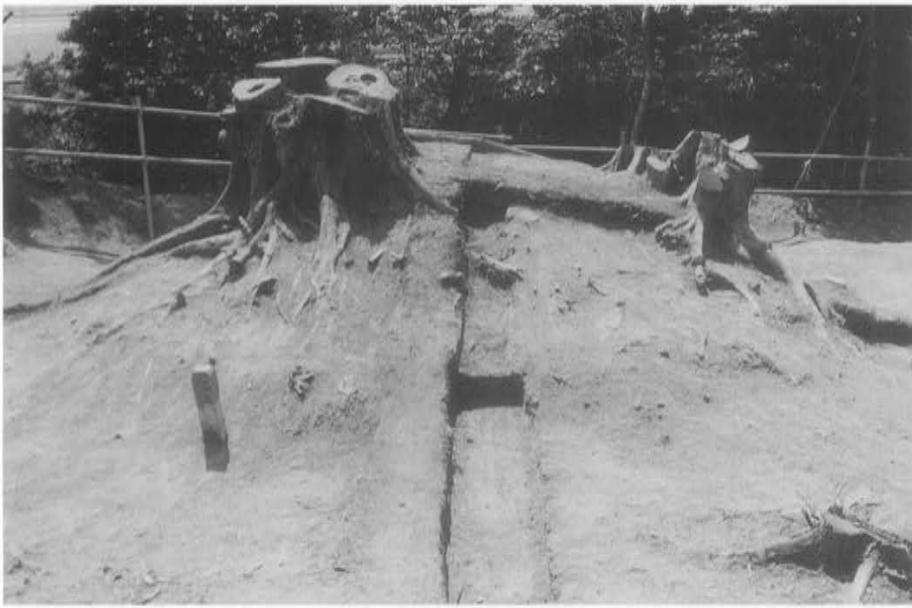
2号塚調査後全景



2号塚南北断面



3号塚調査前全景



3号塚調査後全景



3号塚東西断面



4墳-2 (1/2)



4墳-3 (1/2)



1塚-2 (1/2)



4墳 (1/2)



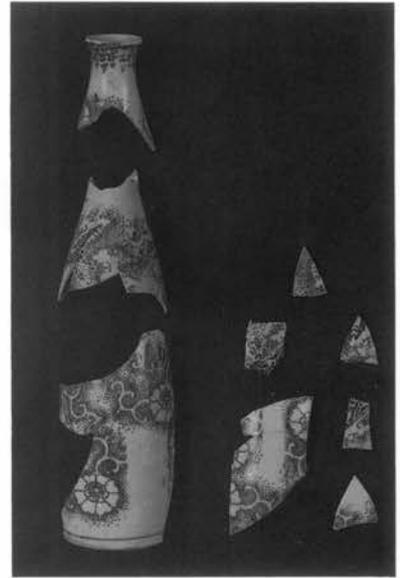
外9 (1/2)



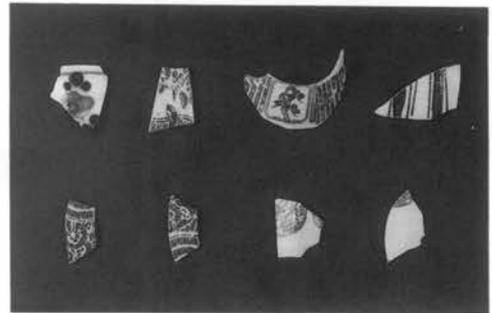
外-10 (1/2)



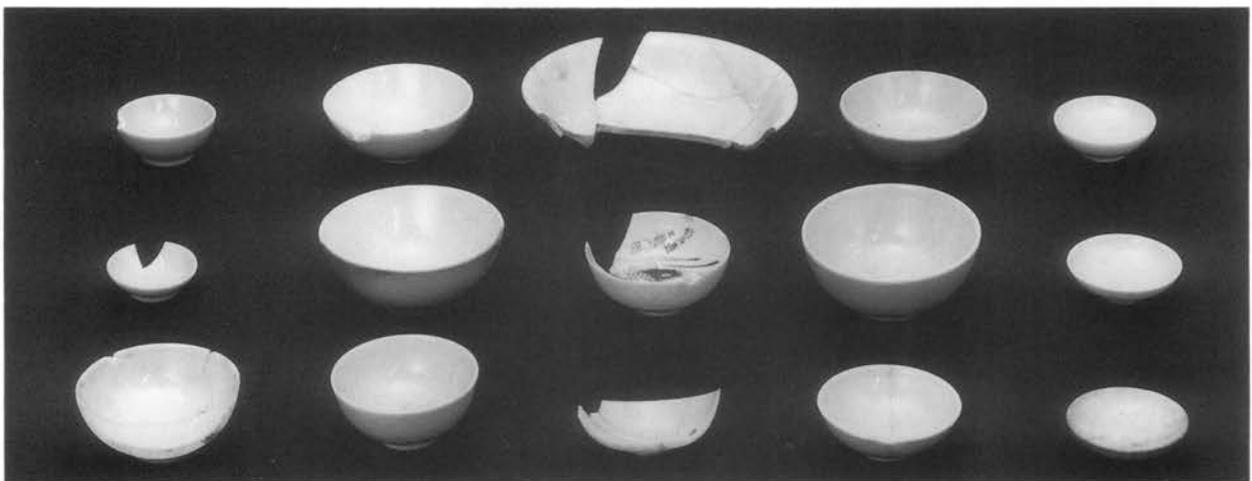
外-11 (1/2)



1号塚 (1/3)

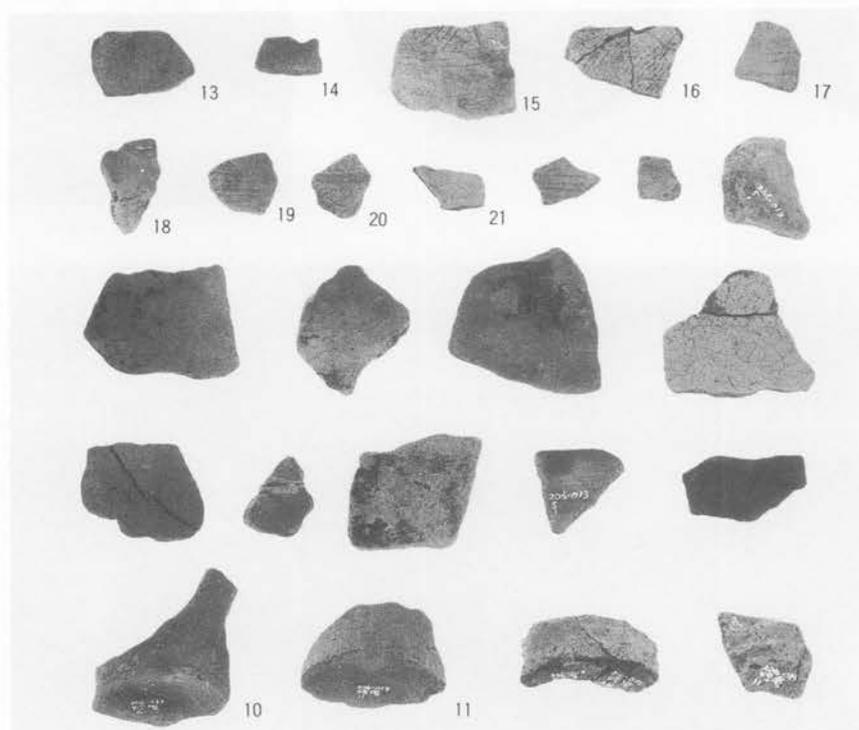
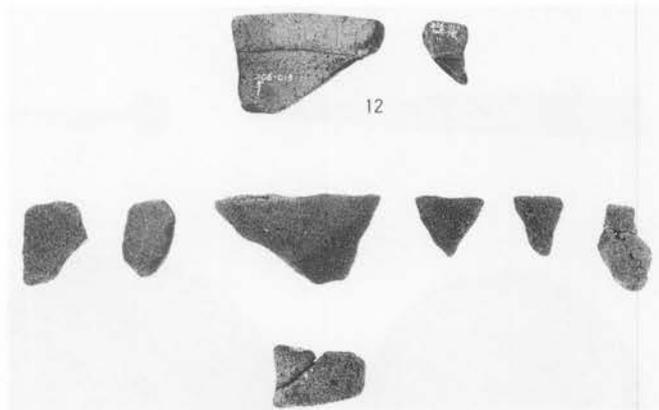
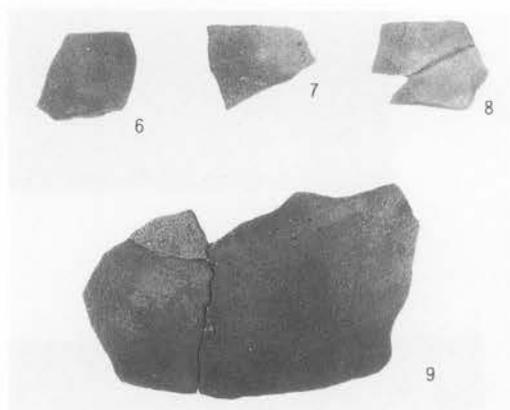
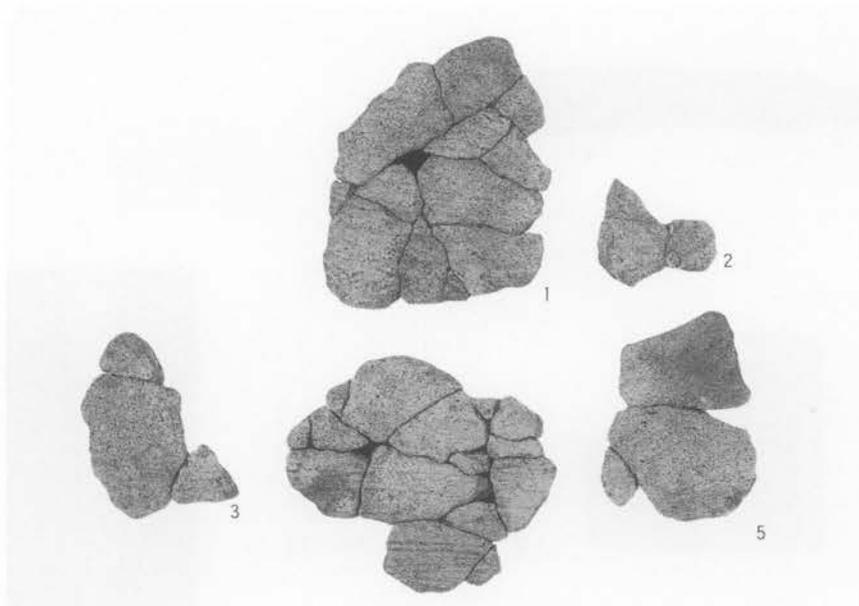


2号塚 (1/3)



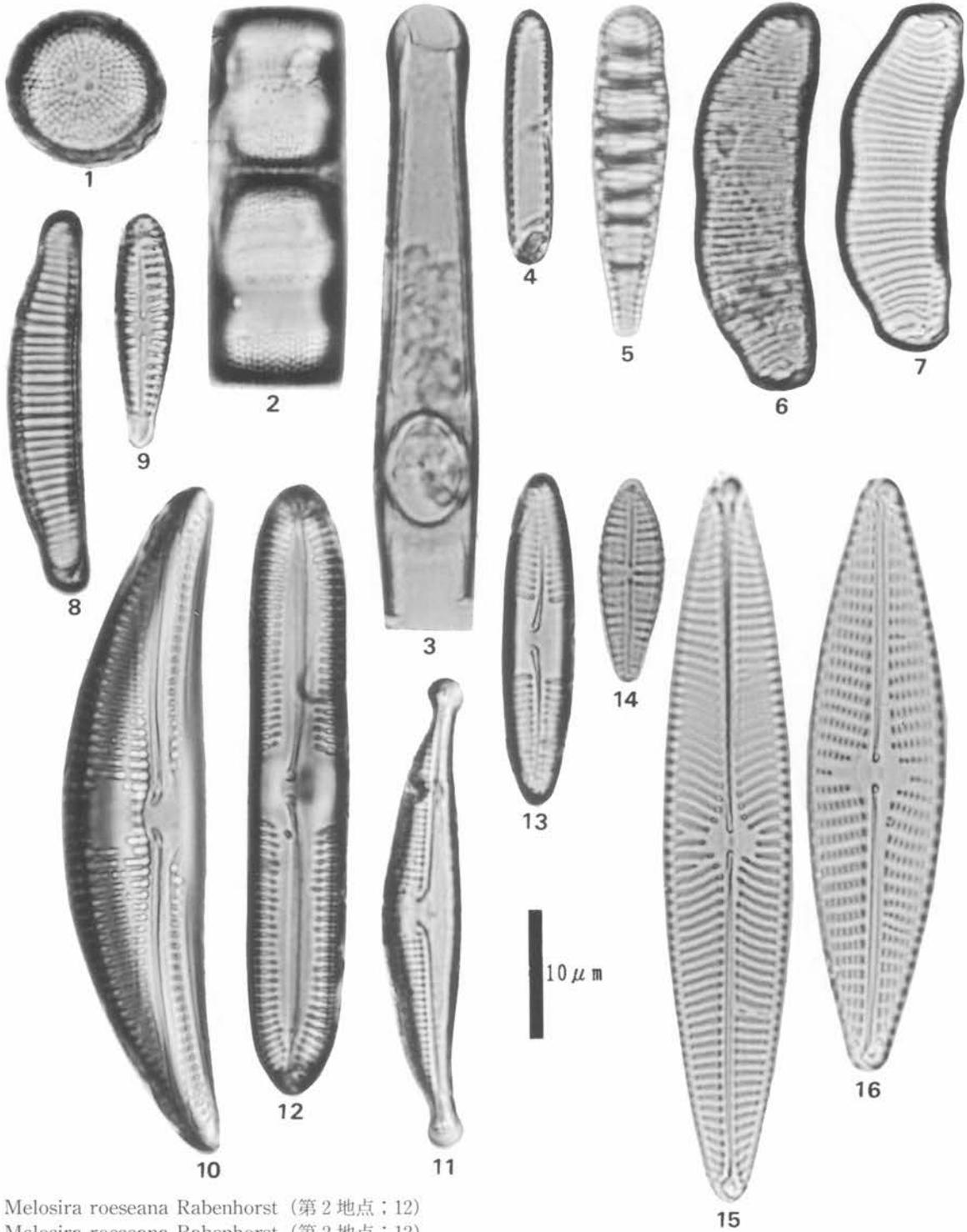
出土遺物

1、2、3号塚、4号墳 (1/3)



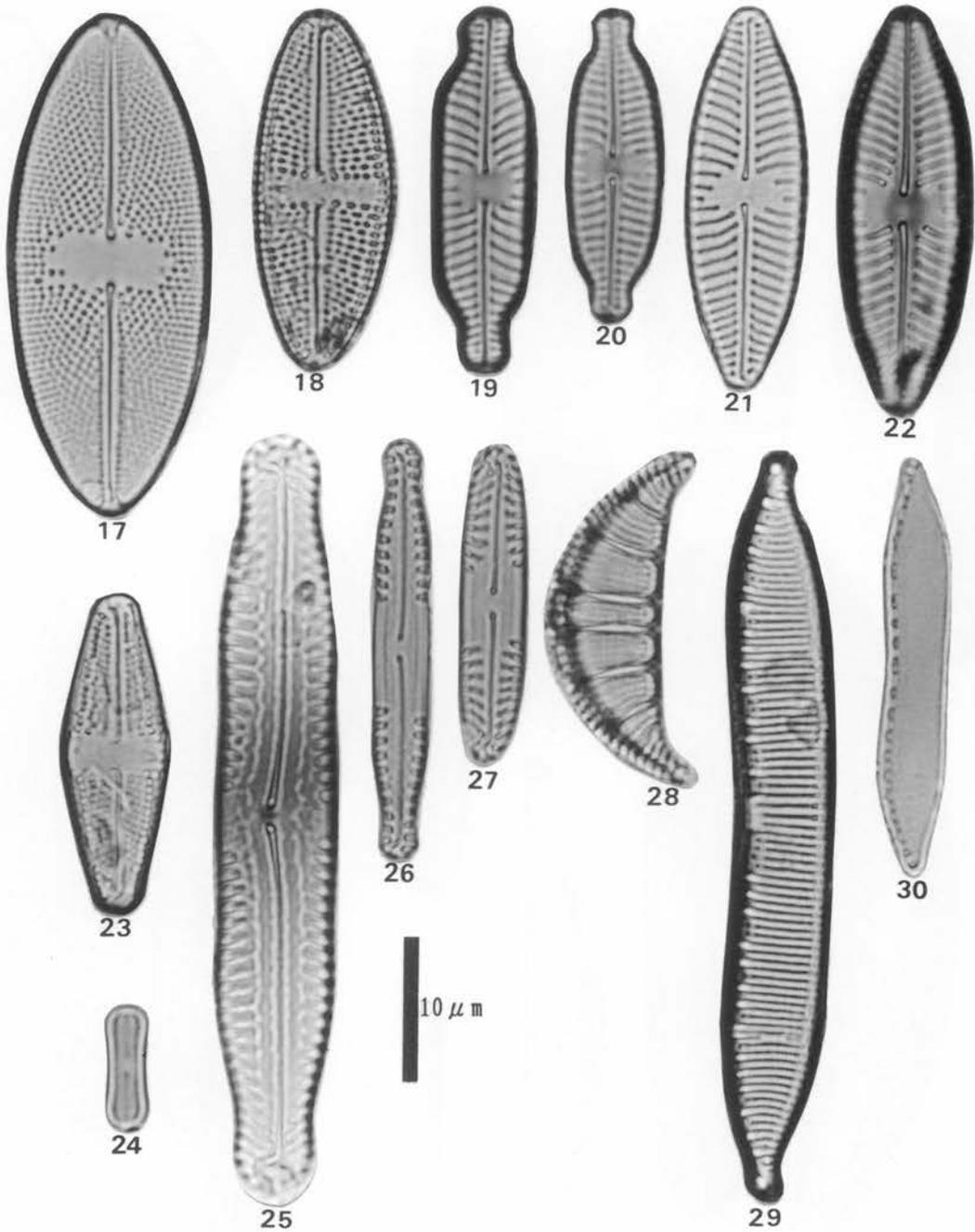
1号竖穴住居跡出土遺物（1/3）

珪藻化石



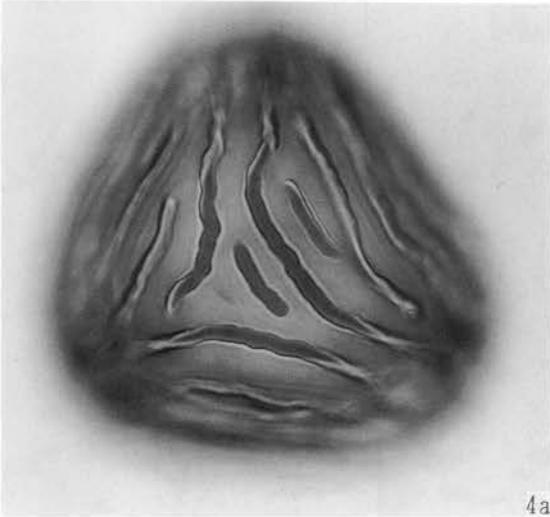
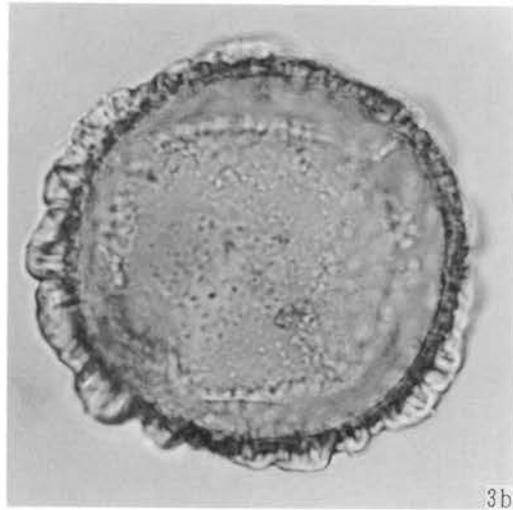
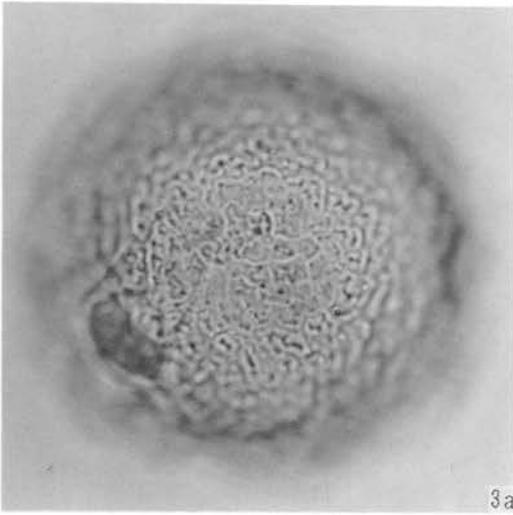
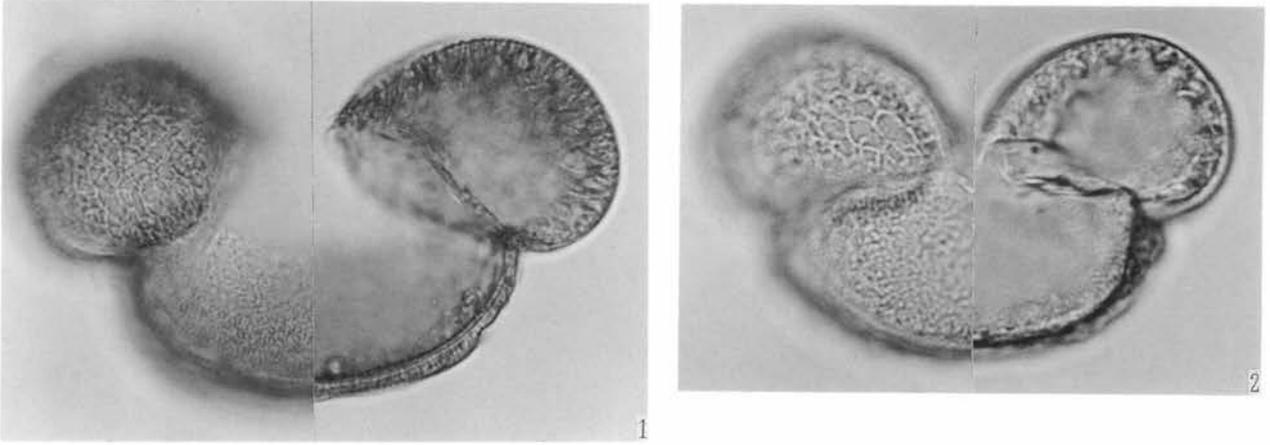
1. *Melosira roeseana* Rabenhorst (第2地点; 12)
2. *Melosira roeseana* Rabenhorst (第2地点; 12)
3. *Grammatophora macilenta* W. Smith (第1地点; 15)
4. *Thalassioema mitschioides* Grunow (第1地点; 2)
5. *Meridion circularae* var. *constrictum* (Ralfs) V. Heurck (第2地点; 12)
6. *Eunotia praerupta* var. *bidens* Grunow (第1地点; 15)
7. *Eunotia praerupta* var. *bidens* Grunow (第2地点; 12)
8. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (Kuetz.) Rebenhorst (第1地点; 12)
9. *Rhoicosphenia abbreviata* (Ag.) Lange-Bertalot (第2地点; 10)
10. *Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) V. Heurck (第2地点; 12)
11. *Amphora normanii* Rabenhorst (第2地点; 10)
12. *Pinnularia schroederii* (Hust.) Krammer (第1地点; 3)
13. *Caloneis Leptosoma* Krammer & Lange-Bertalot (第1地点; 12)
14. *Gomphonema parvulum* Kuetzing (第1地点; 12)
15. *Navicula radiosa* Kuetzing (第2地点; 12)
16. *Navicula rhychocephala* Kuetzing (第2地点; 12)

珪藻化石



- 17. *Navicula tokyoensis* H. Kobayasi (第2地点; 13)
- 18. *Navicula plausibilis* Hustedt (第1地点; 15)
- 19. *Navicula elginensis* (Greg.) Ralfs (第1地点; 12)
- 20. *Navicula elginensis* (Greg.) Ralfs (第1地点; 12)
- 21. *Navicula elginensis* var. *cuneata* H. Kobayasi (第2地点; 12)
- 22. *Navicula elginensis* var. *cuneata* H. Kobayasi (第2地点; 12)
- 23. *Navicula mutica* Kuetzing (第1地点; 12)
- 24. *Navicula contenta* Grunow (第1地点; 12)
- 25. *Pinnularia nodosa* Ehrenberg (第2地点; 12)
- 26. *Pinnularia subcapitata* Gregory (第1地点; 12)
- 27. *Pinnularia obscura* Krasske (第1地点; 12)
- 28. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) O. Muller (第2地点; 12)
- 29. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (第1地点; 12)
- 30. *Nitzschia brevissima* Grunow (第1地点; 12)

花粉化石

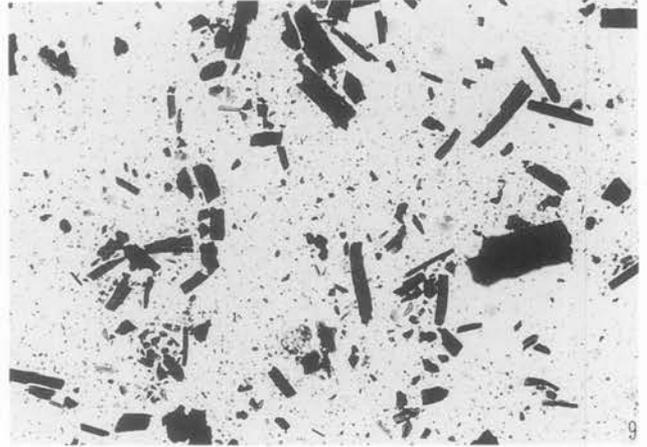
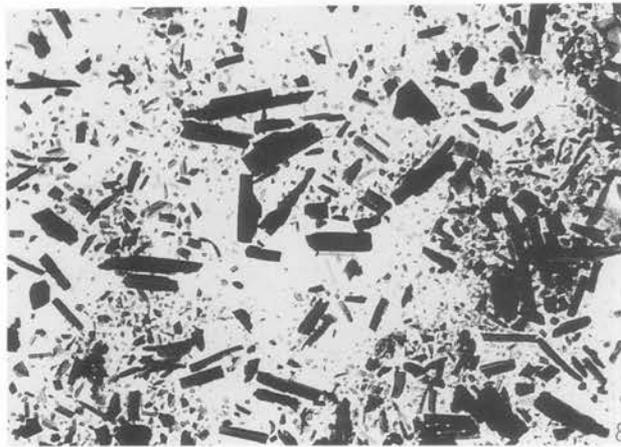
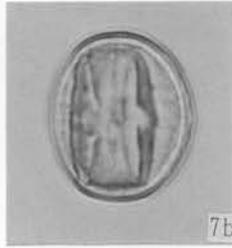
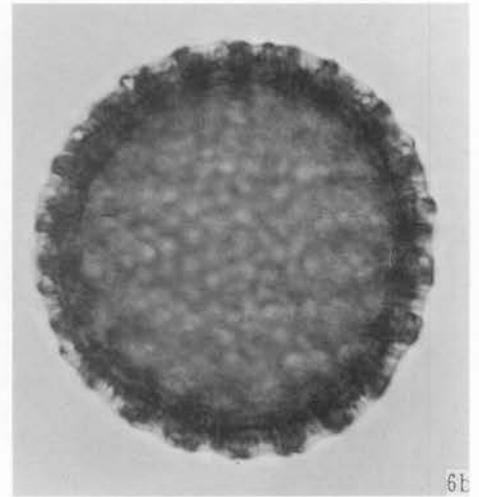
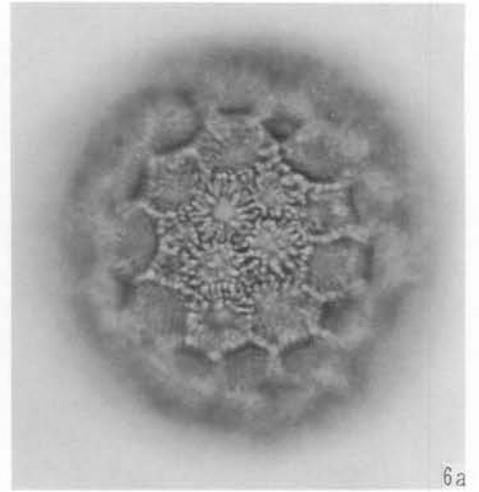
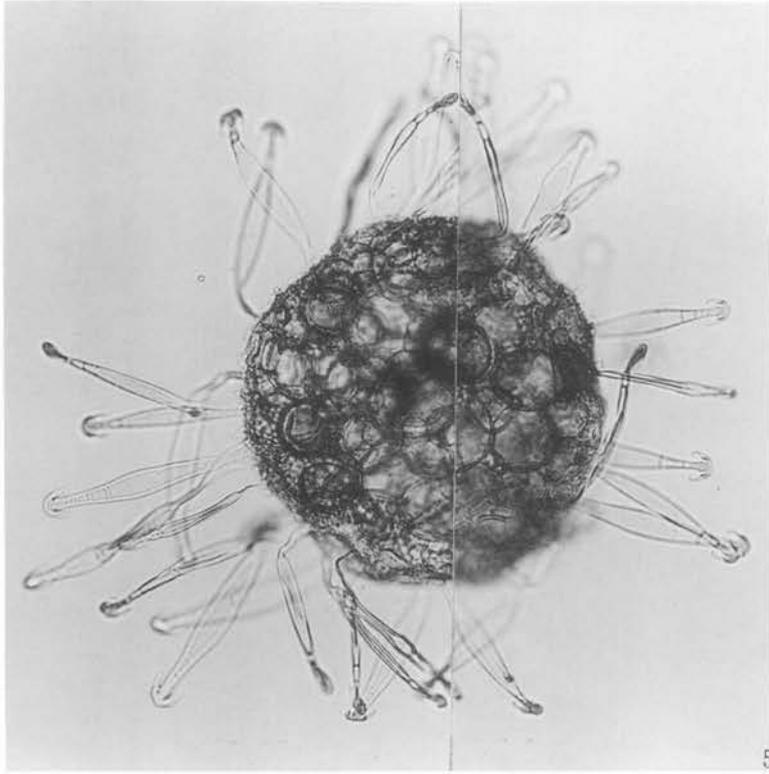


50 μ m
(1, 4)

50 μ m
(2, 3)

1. モミ属 (弥生時代溝) 2. マツ属 (第1地点: 5)
 3. ツガ属 (第1地点: 5) 4. ミズワラビ属 (弥生時代溝)

花粉化石



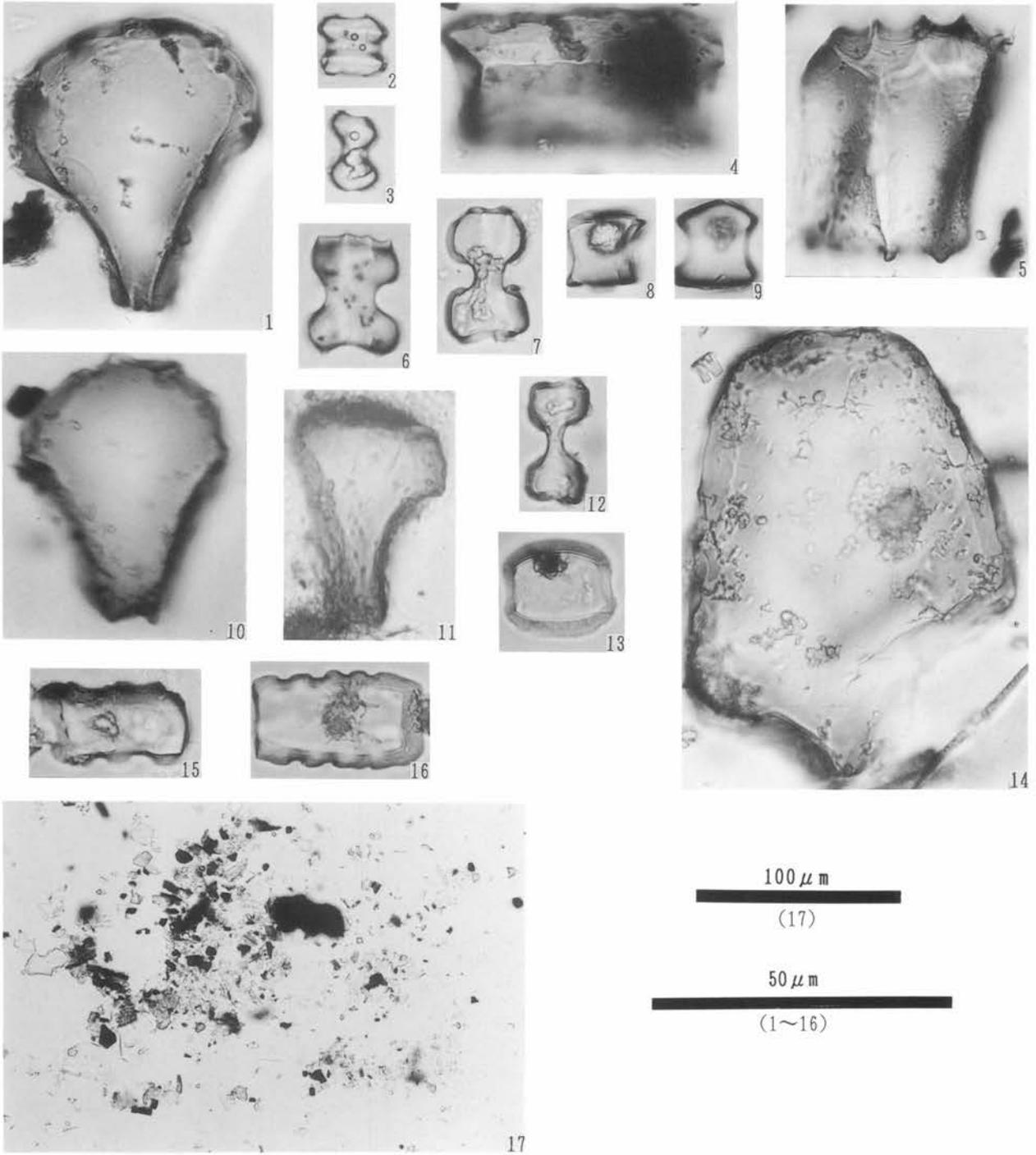
100 μm
(5)

50 μm
(6, 7)

100 μm
(8, 9)

- 5. オオアカウキクサ (弥生時代溝)
- 6. サナエタデ節-ウナギツカミ節 (弥生時代溝)
- 7. コナラ属アカガシ亜属 (弥生時代溝)
- 8. 状況写真 (第1地点; 11)
- 9. 状況写真 (第1地点; 15)

植物珪酸体



- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1. イネ属：機動細胞珪酸体（第1地点；3） | 2. イネ属：短細胞珪酸体（第1地点；3） |
| 3. イネ属：短細胞珪酸体（第1地点；3） | 4. キビ族：機動細胞珪酸体（第1地点；5） |
| 5. ネザサ節：機動細胞珪酸体（第2地点；7） | 6. キビ属：短細胞珪酸体（第2地点；15） |
| 7. キビ族：短細胞珪酸体（第1地点；2） | 8. ネザサ節：短細胞珪酸体（第1地点；2） |
| 9. タケ亜科：短細胞珪酸体（第2地点；10） | 10. タケ亜科：機動細胞珪酸体（第1地点；7） |
| 11. ウシクサ族：機動細胞珪酸体（第2地点；13） | 12. ススキ属：短細胞珪酸体（第2地点；13） |
| 13. ヨシ属：短細胞珪酸体（第1地点；2） | 14. ヨシ属：機動細胞珪酸体（第2地点；13） |
| 15. イチゴツナギ亜科：短細胞珪酸体（第1地点；12） | 16. イチゴツナギ亜科：短細胞珪酸体（第1地点；3） |
| 17. 状況写真（第1地点；8） | |

報告書抄録

ふりがな	いっばんこくどう409ごう(きさらづこうく)まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	一般国道409号(木更津工区)埋蔵文化財調査報告書
副書名	木更津市菅生遺跡・祝崎古墳群
シリーズ名	財団法人千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第377集
編著者名	土屋治雄・城田義友
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL 043-422-8811
発行年月日	西暦 1998年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積		調査原因
		市町村	遺跡				㎡		
菅生遺跡	千葉県木更津市 菅生字長町 510-7他	206	009	35度 23分 23秒	139度 58分 25秒	19920601～ 19930329 19940201～ 19940328 19940401～ 19940428 19950109～ 19950328	20,200㎡	道路改築工事に伴う事前調査	
祝崎古墳群	千葉県木更津市 菅生字咲美 472他	206	013	35度 23分 13秒	138度 30分 00秒	19960701～ 19960930	古墳 1基 塚 3基	道路改築工事に伴う事前調査	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
菅生遺跡	生産遺跡	弥生時代	水田跡 1面	弥生土器(後期)	
		古墳時代	水田跡 1面 水路跡 1条	土師器・須恵器	
		奈良・平安時代	水田跡 1面 土坑 11基 ピット 14基	土師器・須恵器、灰釉陶器、鉄製品、鉄滓、羽口、瓦	
		中世	水田跡 1面 溝状遺構 7条	輸入磁器類、国産陶器類、かわらけ、砥石、石製品、銭貨、鉄製品	
祝崎古墳群	集落	弥生時代	竪穴住居跡 1基	弥生土器(中期中葉)	
	墓跡	古墳時代	円墳 1基	須恵器、鉄製刀子、鉄鏃	
	散布地	奈良時代	なし	須恵器	
		近世	塚 3基	銭貨、砥石、火打石、陶磁器、煙管、簞	

千葉県文化財センター調査報告第337集

一般国道409号（木更津工区）埋蔵文化財調査報告書

－木更津市菅生遺跡・祝崎古墳群－

平成10年3月31日発行

編	集	財団法人	千葉県文化財センター
行	行	千葉県	土木部
		財団法人	千葉県文化財センター
			四街道市鹿渡809-2
印	刷	株式会社	弘報社印刷
			千葉県緑区古市場町474-268
